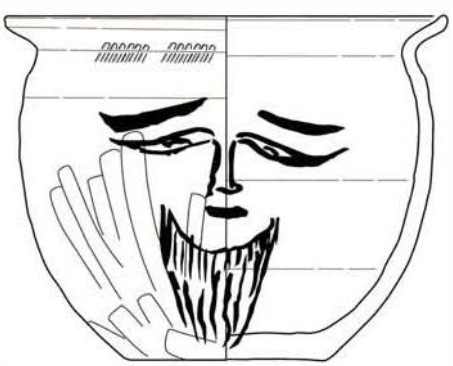
多賀城市文化財調査報告書第75集

市川橋遺跡

— 城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅲ —

第一分冊



平成16年3月

多賀城市教育委員会
多賀城市城南土地区画整理組合

白磁椀・皿

青磁香炉・椀

黄釉褐彩水注

緑釉陶器椀・皿

序　　文

本市では、平成10年度に城南土地区画整理事業に係る発掘調査に着手し、以来現地における発掘調査、および出土資料の整理を進めてまいりました。それらの成果は、平成12年度に北東ブロック、平成14年度に南東ブロックの調査報告書として刊行しておりますが、このたび北西・南西ブロックの成果を併せて収録した第３冊目の報告書を刊行する運びとなりました。

北西ブロックでは、南北・東西大路の交差点や大路に架かる橋など城外における幹線道路の実態に迫る発見があり、南西ブロックでは格の高い四面廂付建物を中心とした区画の様子が明らかになりました。出土資料についても、地方行政に関わる木簡や漆紙文書、祭祀に用いられた人面墨書土器や形代など重要な資料が多量に出土しており、多賀城南面に建設された「まち並み」の性格を考える上で大きな成果を提供できたと自負するものであります。城南地区の調査では、毎回新聞等で取り上げられるような大きな発見が相次ぎ、全国の研究者からも大いに注目されていると聞き及んでおりますが、これらの調査成果が、古代史・考古学など各方面の研究の進展に資することを切に願うものであります。

城南土地区画整理事業に係る調査は、６年間にわたって取り組んできたところでありますが、本書の刊行を以って終了となります。しかし、調査で得られた膨大な資料の詳細な調査・研究は今後も継続し、歴史資料として積極的に活用していく所存であります。関係各位によるご指導・ご鞭撻をお願いする次第です。

最後になりましたが、発掘調査から報告書の作成に至るまで多くの方々にご支援・ご協力いただきました。特に、多賀城市城南土地区画整理組合には発掘調査の趣旨をご理解いただき、度々ご高配を賜りました。厚く御礼申し上げ、ごあいさつといたします。

平成16年３月

多賀城市教育委員会

教育長　櫻　井　茂　男

例　　言

1　本書は、平成10～14年度にかけて実施した城南土地区画整理事業に係る市川橋遺跡発掘調査報告書である。同事業に係る第25・26・27・28・29次調査のうち、北西ブロック（A区）と南東ブロック（D区）の成果を収録した。

2　本書は、遺構の事実記載を中心とした内容で編集した。

3　本書は、三分冊で構成し、第一分冊に本文・遺構詳細図、第二分冊に遺構・遺物図版、遺構・遺物写真図版、第三分冊に資料分析報告および出土文字資料についての附章を収録した。

4　本書は、『市川橋遺跡―城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅰ―』（2001）の続編であり、「遺跡の位置と環境」「調査に至る経緯」「調査方法」等については同書を参照されたい。

5　本書は、調査員高倉敏明、千葉孝弥、島田敬、相澤清利、鈴木孝行、武田健市、村松稔、菊池豊、相澤正信、文屋亮、廣瀬真理子が協議の上作成し、編集は千葉、鈴木が担当した。

おおよその分担を示すと次のとおりである。

Ⅰ　千葉

Ⅱ　千葉

Ⅲ　千葉

Ⅳ　鈴木

Ⅴ　千葉　27・65・66・100区、鈴木　2・4・5・44・85区、武田　12・48区

Ⅵ　千葉　43・97区、鈴木　42・81区、武田　1・11区、相澤（正）9・99区、菊池　8・82・98区

Ⅶ　千葉　101・105区、島田　30区、鈴木　30・104・107・111区、相澤（正）27・83・88・102・105区

菊池　92・93・103・106区

Ⅷ　相澤（清）91区、鈴木　108・109区、武田　92・94・95区、相澤（正）113区

遺構図版作成	相澤（正）、武田、鈴木、文屋
遺構写真図版作成	相澤（清）、菊池
遺物図版作成	鈴木
遺物実測図作成	千葉、島田、相澤（清）、鈴木、菊池、相澤（正）
遺物写真撮影・図版作成	村松［土器］、廣瀬［文字資料］、鈴木［木・金属製品］

6　資料整理、図版作成に際し、臨時職員熊谷純子、浦風志恵子、伊藤美恵子、鹿野智子、村上和恵、小野寺雪子、渡辺奈緒、中村千恵子、坂本英美、内海由美子、遠藤友美、横山香織、澤田博江（退職）、今野妙子、渡辺陽子・武田　優（東北芸術工科大学）の協力を得た。

7　発掘調査から本書の作成に至まで、下記の方々及び機関からご指導・ご協力を賜った。

桑原滋郎（宮城県考古学会）　平川　南（国立歴史民俗博物館）　三上喜孝（山形大学）　北野博司　松井敏也・村木志伸（東北芸術工科大学）　石田明夫（会津若松市教育委員会）　石崎高臣（岩手県文

化振興事業団埋蔵文化財センター）　渡辺　誠（山梨県立考古博物館）　太田昭夫　渡邊泰伸（仙台育英学園高等学校）　丹羽　茂（東北歴史博物館）　古川一明（宮城県多賀城跡調査研究所）　村田晃一（宮城県教育委員会）　大友　透・鴇崎哲也（名取市教育委員会）　古川雅清（創宇舎）　菅原弘樹（鳴瀬町教育委員会）　百々幸雄・澤田純明・川久保善智（東北大学医学部人体構造学）　鈴木三男・大山幹成・小川とみ（東北大学理学研究科付属植物園）　新井重行（東京大学史料編纂所）　大木建設株式会社

8　今回収録した北西ブロックと南西ブロックの成果については、以下の報告書で概要を述べているが、それらと本書で見解が異なる場合は、本書の記載内容が優先するものである。

多賀城市文化財調査報告書第55集『市川橋遺跡―第23・24次調査報告書―』1999

多賀城市文化財調査報告書第57集『市川橋遺跡に伴う発掘調査略報―』1999

多賀城市文化財調査報告書第59集
『市川橋遺跡―城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報２―』2000

多賀城市文化財調査報告書第64集
『市川橋遺跡―城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報３―』2001

多賀城市文化財調査報告書第67集
『市川橋遺跡―城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報４―』2002

多賀城市文化財調査報告書第68集
『市川橋遺跡―城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報５―』2003

目　　次

(第一分冊)
序　文
例　言
目　次
調査要項
調査体制
Ⅰ　調査区の位置 …… 3
Ⅱ　調査区の配置 …… 4
Ⅲ　調査経過 …… 4
Ⅳ　層　序 …… 9
Ⅴ　A区東半部・D区北西部で発見した遺構 …… 10
1　道路跡 …… 10
2　掘立柱建物跡 …… 18
3　柱列跡 …… 22
4　竪穴住居跡 …… 22
5　井戸跡 …… 24
6　溝　跡 …… 24
7　河川跡 …… 25
8　土壙・その他 …… 28
Ⅵ　A区西半部で発見した遺構 …… 29
1　道路跡 …… 29
2　掘立柱建物跡 …… 32
3　柱列跡 …… 40
4　竪穴住居跡 …… 40
5　井戸跡 …… 41
6　溝　跡 …… 46
7　河川跡 …… 49
8　土壙・その他 …… 50
Ⅶ　D区北半部で発見した遺構 …… 51
1　道路跡 …… 51
2　掘立柱建物跡 …… 58
3　柱列跡 …… 71
4　竪穴住居跡 …… 72

5　井戸跡 …… 76
6　溝　跡 …… 81
7　河川跡 …… 83
8　土壙・その他 …… 85
Ⅷ　D区南半部で発見した遺構 …… 88
1　掘立柱建物跡 …… 88
2　竪穴住居跡 …… 89
3　溝　跡 …… 89
4　河川跡 …… 92
5　土壙・その他 …… 95
遺構図版（詳細図・断面図） …… 97

調　査　要　項

1　遺 跡 名　　市川橋遺跡（宮城県遺跡登録番号　18008）

2　所 在 地　　多賀城市市川・高崎・浮島

3　調査期間　　(1) 平成10年度　11月２日～12月21日

(2) 平成11年度　４月12日～２月８日

(3) 平成12年度　４月10日～３月30日

(4) 平成13年度　４月３日～12月21日

(5) 平成14年度　４月８日～５月30日、７月29～10月29日

4　調査面積　　33,630㎡

A区　14,950㎡

D区　18,680㎡

5　調査主体　　多賀城市教育委員会　　教育長　櫻井茂男

6　調査担当　　多賀城市埋蔵文化財調査センター

調査体制

平成10年度（第25次調査）

所　長　　長田　幹

調査員　　石川俊英　千葉孝弥　石本　敬　鈴木孝行　武田健市　高橋圭藏　三浦幸子　車田　敦
堀口和代　菊池　豊　佐藤恵子　文屋　亮

平成11年度（第26次調査）

所　長　　長田　幹

調査員　　石川俊英　千葉孝弥　相澤清利　鈴木孝行　武田健市　高橋圭藏　齋藤　稔　車田　敦
堀口和代　菊池　豊　佐藤恵子　文屋　亮　相澤正信

平成12年度（第27次調査）

所　長　　長田　幹

調査員　　石川俊英　千葉孝弥　石本　敬　相澤清利　鈴木孝行　武田健市　高橋圭藏　齋藤　稔
車田　敦　菊池　豊　佐藤恵子　文屋　亮　相澤正信　若松啓文

平成13年度（第28次調査）

所　長　　高倉敏明

調査員　　千葉孝弥　石本　敬　相澤清利　鈴木孝行　高橋圭藏　齋藤　稔　車田　敦　菊池　豊
佐藤恵子　文屋　亮　相澤正信　若松啓文　生田和宏

平成14年度（第29次調査）

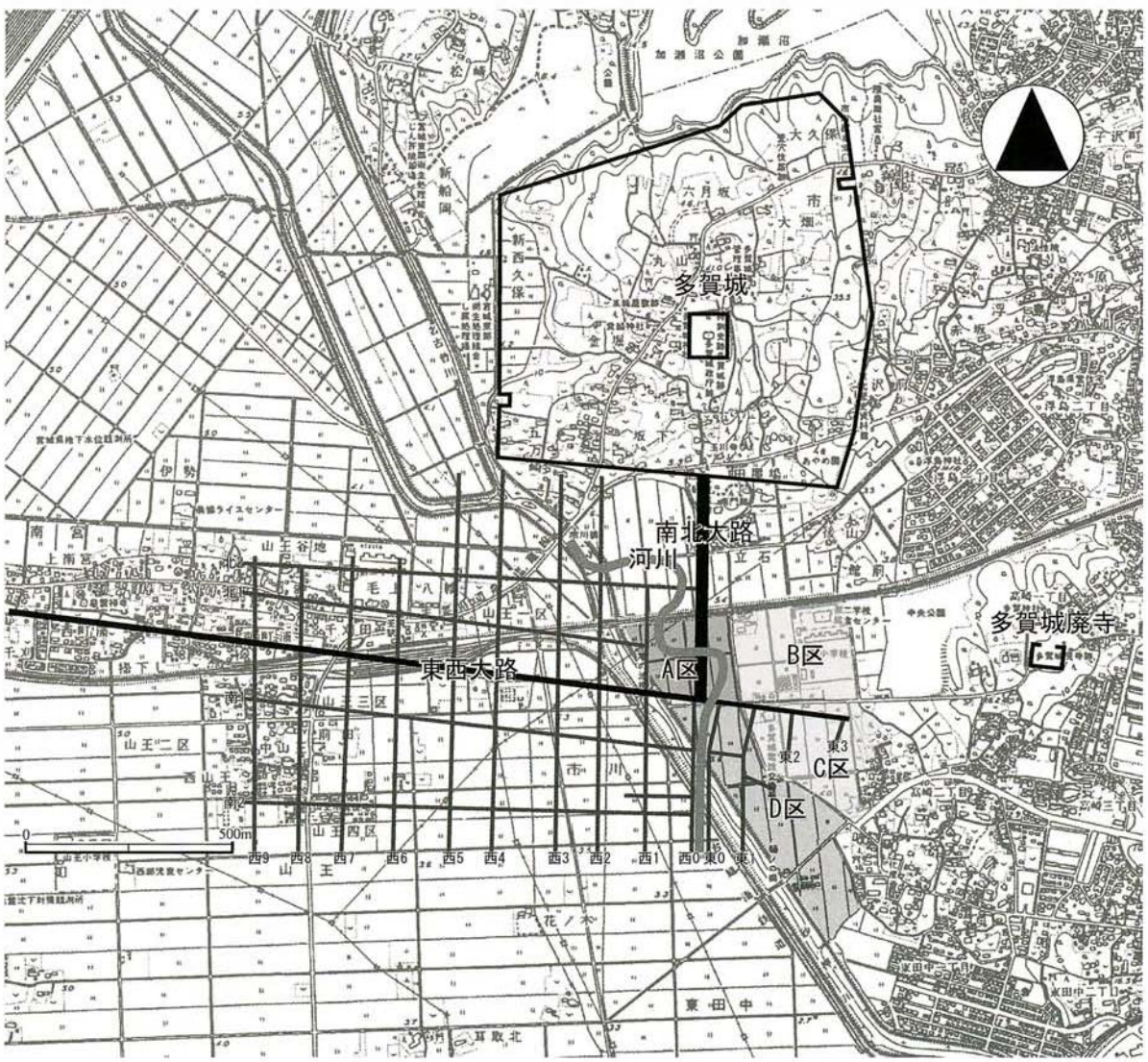
所　長　　高倉敏明

調査員　　千葉孝弥　島田　敬　相澤清利　鈴木孝行　高橋圭藏　齋藤　稔　菊池　豊　佐藤恵子
文屋　亮　相澤正信　若松啓文

Ⅰ　調査地の位置

本書における調査対象地区は、北西ブロック（A区）と南西ブロック（D区）である。両ブロック併せて南北約900m、東西150～250mの調査区である。

北西ブロックは多賀城の南正面に位置しており、その北端部から多賀城南辺築地までの距離は約350mである。多賀城城外の幹線道路である南北大路・東西大路やその交差点を中心とした地区にあたり、地割名で示すと「北１・西１」「北２・西１」の区画となる。一方、南西ブロックは「南１・東１」「南２・東１」および「地割外の地区」ということになり、その南端部は市川橋遺跡の南端部でもある（第１図）。



第１図 城外の方格地割りと調査区の位置

Ⅱ　調査区の配置

Ａ・Ｄ区の各調査区は、①住宅用地内の区画街路、②都市計画道路―清水沢・多賀城線―、③中央公園への地下通路、④公共下水道雨水工事に係る仮設切廻し水路、⑤防火水槽などの各種工事に係る事前調査地区、および⑥重要遺構を対象とした確認調査地区に区分される。

①③～⑤については、地下遺構に確実に影響がおよぶことから全面調査を実施した。ただし、古代の遺構面より下に存在が推定される古墳時代の遺構については、調査区の幅がおおよそ6mという制約から掘り下げることによって調査時の安全性が確保できないこと、下水・ガス等の埋設管設置の際にその面まで影響が及ばないなどの理由から調査は行わなかった。

②については、これまでの周辺の調査成果をふまえ、低湿地部分は調査の対象から除外し、丘陵裾部と河川跡を対象とした。

⑥については、特に重要と判断した遺構を対象とした確認調査区である。南北大路と橋については2・44・85区を、東西大路については66区を拡張した。また、①の調査で発見した大型建物の規模の把握を目的として97・98・99区を、四面廂付建物を中心とした建物群の構成を確認するために111区を設定した。また、東０道路の河川の関係を確認するために105区を西側に拡張した。

Ⅲ　調　査　経　過

北西ブロック（Ａ区）については平成10年度から平成12年度にかけて、南西ブロック（Ｄ区）については平成12年度から平成14年度にかけてそれぞれ調査を実施した。各調査の概要については以下のとおりである。

第25次調査（平成10年度）

区画整理事業関連調査として、初年度は北東ブロック（Ｂ区）を中心に調査を進め、北西ブロック（Ａ区）では１区の調査のみ実施した。１区は東側３分の２が古代から近代に至る複数の河川跡であり、その西側で小規模な掘立柱建物や溝跡などを発見した。

第26次調査（平成11年度）

北西ブロックでは南北大路・東西大路の確認調査に着手した。南北大路については、その規模・構造を解明する数少ない機会と考え、広い調査区を設定して幅23mの南北大路を南北90mにわたって調査した。また、調査区南端部において大路を横切る近代の河川を掘り下げたところ古代の河川が現れ、その下層から大路に架かる橋跡の橋脚を検出するという大きな成果を挙げることができた。橋脚の周辺からは多量の土器類とともに壺鐙、刀など貴重な遺物が多数出土した。橋脚の構造や大路との取り付き部の精査は、翌年まで持ち越して確認調査を終了させた。66区は北側に東西方向の街路が計画されているが、南北・東西大路交差点が存在することから広い調査区を設定した。大路の交差点は10世紀以降の河川に

N240
W180
W120
W60
W-0-E
E60
E120
E180
E240
E300
E360
E420
N150
N120
N60
N-0-S
S60
S120
S180
S240
S300
S360
S420
S480
S540
1区
2区(W)
2区(E)
85区
62区
第15次
81区
4区
44区
5区
第14次
42区
64区
82区
13区(N)
119区
98区
97区
47区
63区
49区
8区
43区
9区
45区
10区
59区
15区
50区
13区(S)
14区(E)
99区
65区
51区
52区
56区
14区(W)
第7次
高平遺跡
S48多賀城跡調査研究所
11区
12区
53区
第9次
46区
66区
48区
54区
第5次
第12次
水入遺跡
S57宮城県教育委員会
第6次
15区
79区
19区
第17次
第4次
第8次
100区
27区
88区
116区
120区
25区
90区(N)
69区
16区
105区(N)
83区
41区
78区
101区
68区
84区
89区
28区
20区
22区
102区
105区(S)
23区
90区(S)
103区
76区
106区
71区
111区
第19次
110区
73区
104区
70区
72区
107区
117区
74区
29区
93区(E)
第19次
30区
93区(W)
92区(E)
94区(N)
112区
108区
92区(W)
36区
31区(W)
31区(E)
94区(S)
高崎遺跡
第8次
38区(E)
38区(W)
第21次
39区
113区
34区
95区
118区
第18次
109区
91区
87区
40区
86区
0
100
200m
S=1/4000

第２図　調査区配置図

よって大きく破壊されており、全容を検出するには至らなかったが、この調査区では下層に古い段階の大路が確実に存在することが明らかとなり、詳しい調査は次年度に行うことにした。5区から2区東半部にかけては掘立柱建物を構成する小柱穴を多数発見し、第14次調査区で発見した建物群との関わりが注目された。5区南半部から10区にかけては古代以降の河川の流路となっており、大路を横断した後南側に向かって南下する様子を確認することができた。47(65)区では第24次調査で発見した大型建物の本調査を実施した。精査の結果、3時期の重複があることが判明し、B区で発見した大型建物群との関係に問題を提起する結果となった。

第27次調査(平成12年度)

北西ブロックと南西ブロックにおいて調査を行った。北西ブロックでは2区とその北側に設定した85区において南北大路の調査を実施し、側溝の精査によってその規模・変遷等を確認することができた。66区では南北大路西側溝の調査を行い、10時期の変遷を確認した。東側溝はほとんどが新しい時期の河川によって破壊されていたが、最も古い遺構のみがかろうじて残存していた。東西大路についても古い段階の側溝を部分的に調査し、交差点付近では北側溝に架かる小規模な橋跡を発見した。今回の調査によって、南北・東西大路ともに10世紀前葉以前に大きな被害を受けている状況が確認され、貞観11年の陸奥国大地震によって発生した津波との関わりが注目を集めた。44区北西部から4区北半部、2区西端部にかけては竪穴住居跡を発見し、その中には鍛冶工房も存在することが判明した。9区の調査では井戸跡や区画溝を発見した。43区の調査では西半部全体で小溝跡群を発見したが、東端部で大型建物の一部を発見したことから9区にかけて拡張し、南北に並ぶ2棟の建物跡を発見した。82区でも大型建物の南妻を発見し、対になる建物の存在を確認するためその南側に98区を設定したところ、同様な建物を発見した。これらの建物は側柱の内側にも柱穴が並ぶ特異なもので、その性格をめぐって論議をよんだ。この建物の南側に99区を設定したが、同様の建物は発見できなかった。11区は年内遅くに着手したため作業は翌年に持ち越し、8区・43区西端部の調査とともに3月末日に至ってようやく終了にこぎつけることができた。

南西ブロック(D区)では南端部の91区の調査を行い、古墳時代前期の河川と水路を発見した。水路は矢板を打ち込んで護岸した精巧な構造で、当時の土木技術の高さが窺われるとともに、周辺に同時代の居住域の存在を推定させた。

第28次調査(平成13年度)

本年よりD区の本格的な調査に着手した。調査区が広範囲に及ぶことから北半部と南半部に分かれて調査を行った。100区は東西大路の南側における南北大路の存在を確認するため広い調査区を設定した。調査区東半部は奈良時代から近代に至る河川の流路となっており、南北大路は発見することができなかったが、調査区西半部では南北0道路の西側溝を発見し、7時期の変遷を確認した。側溝からは漆紙文書をはじめ多数の木簡が出土し、この地区の性格を考える上できわめて重要な発見となった。27区は西側4分の3が古代から近代に至る河川となっており、各時代の流路の変遷を確認することができた。9～10世紀の河川の調査では川底から人面墨書土器を含む多量の土器が出土し、古代における河川のあり方について示唆を得た。83・103・104・93・30区にかけて東1道路を検出した。東1道路については第23次調査の際に存在を確認していたが、今回の調査によって南1道路の北側では東西大路東道路と直

第3図　市川橋遺跡A・D区遺構全体図

交し、南側では政庁中軸線と平行する方位を採っていることが判明し、城外の地割りの実態を窺うことができた。102区では南１道路の調査を行った。この道路についても第23次調査で存在を確認していたが、今回の調査によって105区の東０道路との交差点を発見することができた。30・104区の調査で発見した掘立柱建物は格の高い四面廂付建物と考えられたことから、その北側に111区を設定した。その結果、103区で発見した４棟の掘立柱建物を副屋とし、その間に大型の井戸を伴う建物群の主屋である可能性が高まった。10世紀前葉頃の中心的な区画として、にわかに注目される存在となった。

第29次調査（平成14年度）

昨年度の調査で終了できなかった30・103・104・105区の調査を行った。30区ではその北半部で10世紀前葉以前の掘立柱建物、105区南半部では東・南面に廂が付く10世紀前葉頃の掘立柱建物の調査を行った。103区では111区の四面廂付建物に伴う建物群の精査を行い、その東側において竪穴住居跡の調査を行った。105区の中央部では東０道路の東側に位置する掘立柱建物跡の調査を行い、しばし中断の後東０道路東側溝の調査を行い、８月はじめに調査を終了した。10月下旬、防火水槽予定地の調査を行い、区画整理事業に係るすべての調査が終了した。

Ⅳ　層　　序

Ａ区からＤ区北半部にかけては西から東にかけて緩やかに傾斜する比較的平坦な微高地となっており、遺構が多数分布している。Ｄ区南半部では北から南にむかって傾斜しており、遺構の密度も希薄になっている。全体的には北から南、西から東に緩やかに傾斜していることが判明している。また、旧河道が確認され、微高地上においても堆積層や整地層が複雑に分布していた。これらのことを踏まえて、灰白色火山灰層との関係や各層の新旧関係を整理することによって、第Ⅰ層～第Ⅴ層として大きく把握することができた。各層の概要は以下のとおりである。

第Ⅰ層　表土。現代の水田層。

第Ⅱ層　古代の遺構を覆う黒色粘質土層。自然の窪みや、道路跡、河川跡上など低い場所のみに残存している。古代の遺構の中でも最後まで開口しているものに堆積している。

第Ⅲ層　灰白色火山灰降下以降の古代の堆積層。２区東半部、11区、83区、105区、30区などで確認した。黒褐色、灰黄褐色、褐灰色などがあり、低い場所では粘性がある土層である。

第Ⅳ層　灰白色火山灰降下以前の堆積層。Ａ区からＤ区にかけて広範囲に分布している。特に河道に近い部分で顕著に認められる。黒褐色、褐灰色土であり、層厚は厚い場所で20cm前後である。なお、この層の下では、11区、102区、83区において整地層を確認している。

第Ⅴ層　古代の遺構の基盤層である黄褐色砂質土、黄褐色砂・粘質土。古代以前の河川堆積層もここに含めている。

Ⅴ　A区東半部・D区北西部で発見した遺構

1　道路跡

【SX1800南北大路跡】（1－第6・7図、2－第1・2・3図）

A2区、A44区、A85区にかけて発見した東西に素掘りの側溝を伴う南北道路跡である。44区南端部ではSX1812河川跡が横断し、SX1777橋跡が架けられていたことが判明した。SX1812河川跡の北側では5時期の整地（第1→5次整地）があることを確認した。道路全体としては側溝の重複関係から大きく6時期の変遷（A→F期）があると判断した。

A期：東・西側溝（SD1767a・SD1768a）を確認した。東側溝はC期以降の側溝によって大きく壊され、西側溝についてはB期以降西に拡幅されるため良好に残存していた。路面は南半部で河川跡の窪みを整地して（第1次整地）路面としている。規模は側溝心々間で17.58m、側溝間で15.27mである。方向は北で0度36分東に偏している。東側溝については、上幅1.98m以上、深さ78～82cmである。西側溝については上幅2.19m、下幅0.88m、深さ66～76cmである。側溝埋土は両側溝とも1層が多量の地山ブロックを含む人為的に埋めた土であり、2層が側溝機能時に堆積した黒褐色粘質土である。土器類のほか、東側溝の2層から木簡（第22・37・101・102・103号木簡）、馬形、斎串などが出土し、西側溝の1層から被熱した刻印瓦（丸瓦Ⅱ B類）が出土している。なお、SX1777A～C期橋跡がこの時期に伴う。

B期：東・西側溝（SD1767b・1768b）を確認したが85区において部分的に検出したにすぎないため詳細は不明である。A期側溝を整地して（第2次整地）拡幅している。

C期：東・西側溝（SD1767c・1768c）を確認した。最も側溝の規模が大きい時期である。SX1779によって路面及び東側溝が破壊されている。この時期に伴う遺構としては、SD1772・1773・1782、SX1785、SX1777D～F期がある。規模は側溝心々間で25.11m、側溝間で21.48mである。東側溝については上幅3.04～4.08m、下幅1.28～1.74m、深さ120cmである。西側溝については、上幅2.8m以上、下幅0.64～0.82m、深さ128cmである。側溝埋土は上方が暗灰黄色粘質土、下方がオリーブ黒色粘質土である。土器類のほか、東側溝から木簡（第23・24号木簡）人面墨書土器、墨書土器、鉄製品（鉄鋌）、西側溝から墨書土器が出土している。

D期：東・西側溝（SD1767d・1768d）を確認した。SD1778がこの時期に伴う。SX1779と重複しており、それよりも新しい。規模は側溝心々間で23.69m、側溝間で22.10mである。東側溝については、上幅2.73～2.95m、下幅0.92～1.12m、深さ101cmである。西側溝については、上幅1.75m、下幅0.50～0.79m、深さ70cmである。側溝埋土は黒褐色粘質土であり、上方に灰白色火山灰が自然堆積している。この時期に伴う橋跡は確認していない。

E期：西側溝（SD1768e）のみ確認した。F期の側溝に大きく壊されているため、東壁を検出したにすぎない。

F期：東・西側溝（SD1767e・1768f）を確認した。SD1769・1770・1780・1781がこの時期に伴う。方向は、北で1度0分東に偏している。規模は側溝心々間で23.50m、側溝間で20.26mである。東側

溝については、上幅2.48～2.62m、下幅0.45～0.55m、深さ74cmである。西側溝については、上幅2.12～2.22m、下幅0.38～0.58m、深さ88～108cmである。側溝埋土は上方が亜泥炭化した粘質土で植物遺存体が多く残存する土であり、下方は褐灰色の粘質土である。遺物は土器類として、東西両側溝から須恵系土器が出土し、特に東側溝から小皿、高台付小皿、柱状高台皿など小型の器形が多く出土している。

南北大路	規模（側溝心々）	整　地	SX1777 橋跡	付属施設または伴う遺構	備　考
		1 次整地			
A 期	17.58m				
		2 次整地	A→C 期		拡幅
B 期	約23m か				
		3 次整地			
C 期	25.11m		D 期	SD1772・1773 SD1782 SX1775	
			E 期		
			F 期		
		4 次整地			
		5 次整地			
				SX1779	
D 期	23.69m			SD1780A SX1778	
				SX1771	
E・F 期	23.50m			SX1778 SD1769・1770・1780・1781	

表　SX1800南北大路、SX1777橋跡の変遷

【SX1777橋跡】（1－第5図、2－第1・3図）

A44区の南端部のSX1812 河川跡上で発見したSX1800南北大路に架かる桁行5 間以上、梁行2 間の橋跡である。64本の橋脚を発見した。中には倒れて検出しているものもある。道路上の親柱のみ掘立式であり、河川内の橋脚はすべて打ち込み式である。親柱の重複関係から5 時期の変遷を確認した（A→E 期）。規模については、打ち込み式であることから正確な数値は出すことは難しいが、親柱の柱あたり痕跡から、梁行は約7.0mである。桁行については橋脚が集中しているところの中心でみると、E 期で17.0m 以上であり、柱間は約3.0m、約2.0m、約4.5m、約4.0m、約4.0m である。橋脚の太さは、直径20cm～40cmである。橋脚付近からは橋の梁材や桁材と考えられる木材が多数出土している。橋脚の樹種については、クリ、ケヤキがあり、クリが多数を占める。

A～C 期：第1 次整地上に親柱が構築され、第3 次整地よりは古い。掘り方は、長辺1.50m、短辺1.21mの長方形であり、深さは20cmである。

D・E期：第3次整地上に親柱が構築され、第4次整地よりは古い。掘り方は、D期で長辺1.70m、短辺1.25mの長方形であり、深さは5cmである。E期は、長軸1.50m、短軸1.18mの楕円形であり、深さは40cmである。底面には礎板石が敷かれている。

【SX1812河川跡】（1－第5図、2－第1・3図）

A44区南端部から南西部にかけて発見した。南北大路の北西から南東にかけて検出した。大路を横断する部分ではほぼ直交している。数時期の変遷があると考えられるが、橋跡を確認するための調査であったため1番新しい層を掘り下げたにすぎない。最も新しい層（1～3層）は幅7.2～10.0mで広がっており、SX1777橋跡の南から2間目柱列を覆っている。埋土は1～7層・灰白色火山灰下層に分けられ、1・2層が黒褐色粘質土、3層が植物遺存体・貝を含む黒色粘質土、4層が青灰色砂、5層が緑灰色砂、6・7層が緑灰色粗砂である。4～6層については、河川跡中央部付近の部分的な堆積土である。遺物は各層から多量の土器類をはじめ、墨書土器、人面墨書土器、灰釉陶器、須恵系土器、木簡（第36号木簡）、木製品（人形、挽物）、金属製品（寛平大宝、釘、鉄鏃、刀子、鉄刀、壺鐙）、卜骨、人骨、獣骨など多種多様なものが出土している。

【SX1778】（2－第1・2・3図）

A44区南東部のSX1800南北大路東側で発見した。SD1767eが合流する。規模は南北24m、東西12m以上である。底面は平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。1層は基本層の第1層に対応する土であり、2層が基本層の第Ⅱ層に対応する黒色粘土、3層は植物遺存体が亜泥炭化した黒褐色粘質土、4層は灰白色火山灰の自然堆積土、5層は緑灰色砂である。3層から須恵系土器杯・高台付杯・小皿・高台付小皿が出土している。

【SX1779】（1－第7図、2－第1・2・3図）

A44・85区の東半部で発見した。SD1767a～eと重複しており、SD1767a～cより新しいが、SD1767d・eよりも古い。SX1800C期の東半部を大きく破壊している。規模は上幅18m以上、深さ44cmであり、埋土は暗灰黄色の砂と粗砂の互層である。

【SD1769溝跡】（2－第1・2図）

A85区中央部のSX1800南北大路上で発見した東西溝である。南北大路を横断するように約19m検出した。SD1767a・1768a・1768eと重複しており、それらよりも新しい。方向は西で約1度南に偏している。規模は、上幅0.70～1.21m、下幅0.42～0.60m、深さ34cmである。埋土は、最上層が第Ⅱ層対応の黒色粘質土、下層は暗灰黄色粘質土である。なお、本溝跡は埋土の状況からSX1800F期に伴うものと考えられる。

【SD1770溝跡】（2－第1・2図）

A85区中央部のSX1800南北大路上で発見した東西溝である。1768aと重複しており、それよりも新しい。方向は、SD1769とほぼ並行している。規模は、上幅0.58～0.80m、下幅0.26～0.43m、深さ21cmである。埋土は、SD1769と同様に、最上層が第Ⅱ層対応の黒色粘質土、下層が暗灰黄色粘質土である。なお、本溝跡についても、SD1769と同様にSX1800F期に伴うものと考えられる。

【SD1772・1773溝跡】（2－第1・2図）

A85区のSX1800南北大路の路面上で発見した「コ」の字状の溝跡である。SX1800南北大路路面の

東西端に対になって検出した。SD1767a・1768a・eと重複しており、SD1767a・1768aより新しく、SD1768eよりも古い。規模は一辺約4.0m、上幅0.35mである。なお、本溝跡は重複関係、埋土の状況からSX1800C期に伴うものと考えられる。

【SX2400南北大路跡】（1－第9・10図、2－第4図）

A66区で発見した南北大路跡である。調査区南半部では東西大路と交差しており、その交差点から約32mにわたって検出した。素掘りの側溝を伴っており、西側溝では10時期の変遷を確認した。一方、東側溝は調査区東側を南北方向に延びるSX2349によって大きく破壊されており、確認できたのは1時期の遺構のみである。また、4時期（a～e期）の路面を確認しているが、側溝との関係を把握できなかったものが多い。

西側溝は第Ⅳ層の上面で確認できるものが4時期（g～j期）、それに覆われるものが6時期（a～f期）である。a～f期側溝については、「北トレンチ」「中トレンチ」「南トレンチ」を設定して第Ⅳ層を掘り下げ、部分的に確認したものである。側溝は西側から東側に漸次移動しているが、第Ⅳ層を介在してa～f期とg～j期の間には特に大きな変化が認められる。また、東西大路北側溝への取り付き等、構造的な変化も見出すことができる。以下、古い順に説明する（註1）。

SX2400A：西側溝SD2342aと東側溝SD2343を第Ⅴ層上面で検出した。西側溝SD2342aは第Ⅳ層に、東側溝SD2343は第Ⅲ層によって覆われている（註2）。東西両側溝を確認できたのはこの時期のみである。路面に関しては、西側溝SD2342aはB期以降の側溝によって分断されているため、東側溝SD2343は全体的に大きく削平されているために詳細は不明であるが、規模は、側溝残存部分（N10.2－8.4ライン）からその心々間距離を求めると、16.85m以上である。方向は、西側溝でみると北で約6度東に偏している。西側溝の底面は南側に傾斜しており、北トレンチ南壁地点と東西大路北側溝と重複する付近とでは約20cmの比高がある。西側溝SD2342aは最も広い中トレンチ部分で上幅2.8m以上、深さ55cmである。埋土は、地山ブロックを多く含む黒褐色土である。東側溝SD2343は上幅1.3m以上、深さは20cmである。埋土は、底面から15cmまで灰オリーブ砂、その上に黒褐色砂質土の堆積がみられるが、それより上は地山ブロックを多く含む黒褐色土である。両側溝とも人為的な埋め戻しと見られる。

SX2400B：西側溝SD2342bを検出した。SD2342aの東壁を切って掘削されている。方向は、北で約3度東に偏している。底面は、中トレンチ部分が最も低いが、おおよそ北から南側に向かって傾斜しており、北トレンチと南トレンチの南壁部分で約10cmの比高となっている。規模は、北トレンチでは上幅1.9m以上、下幅0.9m、深さ75cmであるが、南トレンチで上幅4.6m以上、下幅3.7m、深さ65cmと大規模になっている。埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色粘質土であり、人為的な埋め戻しと見られる。

SX2400C：西側溝SD2342cを検出した。SD2342bの東壁を切って掘削されている。方向は、北で約5度東に偏している。底面は、南トレンチ南壁部分が最も高く、北トレンチとの比高は約10cmである。規模は、中トレンチでみると上幅3.9m以上、下幅0.6m（南トレンチでは1.7m）である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色砂質土である。

（註1）側溝の方向、底面の傾斜について記述する際、特に断らない場合は「北トレンチ」南　壁「南トレンチ」南壁間によって計測した数値である。

（註2）第10図N07ラインの断面図からは第Ⅱ層との関係しか窺えないが、第Ⅲ層によって直接覆われている状況を平面的に確認している。

SX2400D：西側溝SD2342dを検出した。北・中トレンチではSD2342cの東壁を切って掘削されているが、南トレンチでは約３ｍその東側に移動している（底面の中心で計測）。東西大路と重複する部分では厚い粗砂層によって覆われている。方向は、北で約３度西に偏している。底面は南側に傾斜しており、北トレンチ南壁部分と南トレンチ南壁部分との比高は約20㎝である。規模は上幅1.6m、下幅1.2mである。埋土は黒褐色砂質土を主体とし、下層には地山ブロックが多く含まれるが、中ほどには厚い粗砂の堆積も確認できる。木簡が４点出土している（第51・52・54・104号）。

SX2400E：西側溝SD2342eを検出した。路面ｂによって覆われている。SD2342dの約１ｍ東側にある（底面の中心で計測）。方向は、北で約４度西に偏している。底面は南側に大きく傾斜しており、北トレンチ南壁部分と南トレンチ南壁部分との比高は約30㎝である。側溝はこの段階から小型化し、中トレンチで上幅1.3m、下幅0.6mであるが、北トレンチで上幅0.4m、下幅0.2mである。埋土は、北トレンチでみると、下層は地山小ブロックや小粒を含む黒褐色・暗灰黄色砂質土、上層は砂を多く含む灰黄褐砂質土であり、それらの間に中砂の自然堆積層がある。

SX2400F：路面ｂ上面で西側溝SD2342fを検出した。位置的にはSD2342eの約２ｍ西側に掘削されている（底面の中心で計測）。方向は、北で約２度西に偏している。底面は南側に傾斜しており、北トレンチ南壁部分と南トレンチ南壁部分との比高は約20㎝である。規模は、北トレンチで上幅1.4m、下幅0.4m、中トレンチで上幅0.8m、下幅0.4mである。埋土は炭化物や地山ブロックを含む黒褐色砂質土である。路面ｂは砂を多く含む灰黄褐色砂質土や炭化物を含む黒褐色砂質土（第９図N27ライン14～20層）によって構成されている。

SX2400G：路面ｃ上面で西側溝SD2342gを検出した。路面ｄに覆われている。規模は、上幅0.6m、深さ20㎝である。埋土は灰色砂質土である。

SX2400H：西側溝SD2342hを北トレンチから調査区北壁にかけて、および東西大路との交差点付近において第Ⅳ層上面で検出した。規模は、北トレンチ周辺で上幅0.5～0.9m、深さ約25㎝である。

SX2400I：西側溝SD2342iを北トレンチから調査区北壁にかけて、および東西大路との交差点付近において第Ⅳ層上面で検出した。規模は、北トレンチ周辺で上幅0.5m以上である。西壁にSD2362東西溝が合流している。

SX2400J：路面ｅおよび第Ⅳ層上面で西側溝SD2342jを検出した。第Ⅱ層によって覆われている。東西大路北側溝とはそのままＬ字状に接続している。底面は南側に大きく傾斜しており、北トレンチ南壁部分と交差点付近とでは比高が35㎝である。規模は、上幅2.1～2.5m、下幅1.2m、深さは0.7～0.8mである。埋土は黒褐色粘土であり、最上部のくぼみには第Ⅱ層が落ち込んでいる。

【SX2000東西大路跡】（１－第11・12図、２－第５図）

A66区南半部で発見した東西大路跡である。調査区南東部においてSX2400南北大路と交差している。両側に素掘りの側溝を伴っており、交差点付近では北側溝に架かるSX2452橋跡を発見した。東側は10世紀前葉以降のSX2349によって破壊されており、その西側もSX2351小河川によって路面が広範囲に浸食されているなど残存状況は悪い。南側溝は調査区南西隅において部分的にしか検出できなかったが、北側溝は東西約30mにわたって確認することができた。南側溝では３時期、北側溝では５時期、路面では３時期の重複を確認しており、全体として５時期の変遷を想定している。以下、古い

順に説明する。

SX2000A：W09ラインの断ち割り調査で北側溝SD2344aを発見した。第Ⅴ層上面で検出し、路面整地層ａ（第12図W09ライン16～19層、同W13.5ライン15～18層）によって覆われている。規模は、上幅2.3m 以上、深さ0.6m である。埋土は黒褐色土を主体としている。おおよそ中央部でSX2452A橋跡の橋脚を一本発見した。

SX2000B：W09ラインの断ち割り調査で北側溝SD2344bを発見した。整地層ａによって覆われている。規模は上幅約2.0m、深さ25cmである。埋土は黒褐色砂質土を主体とし、最上部は粗砂層がある。やや北壁寄りでSX2452B橋跡の橋脚を一本発見した。

SX2000C：北側溝SD2344cと南側溝SD2345a第Ⅴ層上面で発見した。北側溝はSD2344dの約２m南側にあり（底面の中心で計測）、南側溝はSD2345bの北側にある。いずれもＤ期の路面によって覆われている。規模は、両側溝の心々間が約10.7m、側溝間が8.8m である。北側溝の底面は交差点付近に向かってわずかに傾斜しており、比高は約10cmである。北側溝はW21ライン付近で南北大路西側溝に向かって屈曲している。北側溝SD2344c が上幅1.9以上、深さ約0.7mであり、埋土は中ほどに灰白色火山灰が自然堆積しており、その上層が炭化物や焼土を含む黄灰色粘土、下層は砂流や植物遺存体を含む黒色砂質土やオリーブ黒色砂である。南側溝SD2345aは上幅1.6m 以上、深さ0.4m であり、埋土は、上層に灰白色火山灰が自然堆積しており、その下層は粗砂を含む黒褐色砂質土である。

SX2000D：北側溝SD2344dと南側溝SD2345bを発見した。北側溝はSD2344eとほとんど同位置で重複しており、南側溝はその北壁よりにある。いずれもＥ期の路面によって完全に覆われている。規模は、両側溝の心々間が約13.0m、路面幅が11.5m である。北側溝の底面はおおよそ平坦であり、比高はほとんどない。北側溝SD2344が上幅1.7m、深さ0.3m であり、埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色粘質土である。南側溝SD2345は上幅0.9m 以上、深さ約0.4m であり、埋土は上層が黒褐色粘質土、下層が黒褐色砂質土である。

SX2000E：北側溝SD2344eと南側溝SD2345cを発見した。SX2351によって直接覆われており、さらにその上には第Ⅱ層が厚く堆積している。この時期には路面と両側溝の関係を平面的に確認することができた。南北大路との取り付きは、北側溝が交差点を東に直進することなく、南北大路西側溝とＬ字形に連続する形態である。規模は、両側溝の心々間が13.8m、側溝間が11.4mである。北側溝の底面は交差点付近に向かって傾斜しており、調査区西壁付近と交差点付近での比高は24cmである。北側溝SD2344が上幅2.3m、深さ0.7m であり、埋土は植物遺存体を含む黒褐色粘土である。南側溝SD2345は上幅1.5m 以上、深さ約0.5m であり、埋土は炭化物や木片を含む黒褐色粘質土である。

【SX2452橋跡】（２－第４・７図）

A66区南東部で発見した東西大路北側溝に架かる橋跡である。SD2344aとSD2344bの底面において打ち込み杭をそれぞれ１本検出しており、２時期の変遷が考えられる（A → B 期）。SD2344a の北壁際で検出した杭列はＡ期の護岸と考えられる。

SX2452A：SD2344a の底面のおおよそ中央部において礎石に据えられた橋脚を１本検出した。橋脚の断面形はおおよそ方形であり、一辺約14cmである。51cm残存しており、頭部はSD2344aの確認面よりやや上で確認できる。礎石は、南北方向の幅が18cm、高さ約10cmで、上面は平坦である。

SX2452B：SD2344bの底面において打ち込み式の橋脚を1本検出した。位置的にはA期の杭の1.3m南側にある。橋脚は一辺15cmの角柱であり、先端は鋭く尖っている。確認できる長さは57cmであり、そのうち底面から上には37cm出ており、残存する頭部はSD2344bの確認面より約15cm上で確認できる。

【SX2473】（1－第12図K－K'）

A66区南東部において、東西大路路面整地層a上面に見られる落ち込みである。W13.5ラインの土層断面観察用畔で確認した。規模は南北5.3m以上であり、底面よりやや上に灰白色火山灰が自然堆積している。この落ち込みは、砂や灰白色火山灰ブロックを多く含む暗オリーブ褐色土、黒褐色土、灰黄褐色土などによって埋められている（路面整地層b）。

【SX2451】（1－第12図）

A66区南端部で発見した東西大路の路面を大きく抉る河川跡である。第Ⅴ層上面で発見し、整地層aによって覆われている。規模は、東西8m以上であり、南北9mにわたって確認した。深さは0.8mであるが、確認できた埋土の厚さは0.4mで、それより上は整地層aによって埋められている。埋土は灰オリーブ、暗オリーブ灰色砂を主体とし、腐植土の薄層が入る部分もある。遺物は、畿内系緑釉陶器などとともに木簡が1点出土している（第59号）。

【SX2528】

A66区の南北・東西大路交差点周辺で発見した河川の浸食による落ち込みである。地山面で検出し、第Ⅳ層によって覆われている。その広がりは東西約6m、南北約4mにおよんでいる。この落ち込みは交差点北西部から交差点に向かって地盤が緩やかに傾斜している。粗砂が厚く堆積しており、F期以前の西側溝を覆っている。SX2451と一連の遺構である可能性が高い。遺物は木簡が1点出土している（第105号）。

【SX2351】（1－第11・12図、2－第7図）

A66区南半部で発見した東西大路廃絶後の小河川跡である。東西大路を広範囲にわたって浸食しており、第Ⅱ層によって覆われている。調査区西壁でみると、埋土は、上層が黒褐色粘質土であり、下層は砂を多く含む黒褐色砂質土である。下層には古代の土器の小破片を多量に含んでいる。

【SX2385西0道路跡】（1－第13・14図、2－第8図）

D100区西半部で発見した西0道路跡である。西側に素掘りの側溝を伴っており、7時期の側溝を確認した（a→g期）。これらは新しくなるにしたがって東側に移動している。路面はSX2363旧砂押川によって削平され、全く残存していない。以下、古い順に説明する。

SX2385A：第Ⅴ層上面で西側溝SD2386aを検出した。平面的に確認したのは調査区北壁から約5mであり、S39.5ラインに設定したトレンチでは確認できなかった。規模は、幅2.9m以上あり、深さは約1.0mである。調査区北壁の断面観察によると、西壁は中ほどから底面にかけて急な角度で掘り込まれており、底面も平坦である。底面埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色土を主体とし、西側から東側に傾斜して堆積している。自然堆積層は確認できず、人為的に埋められたような状況である。

SX2385B：SD2386aの東壁を切って掘削されたSD2386bを検出した。第Ⅳb4層によって覆われている。平面的には調査区北壁より約18m確認した。調査区北壁でみると、上幅4.6m以上であり、深さ

は約1.4mである。断面の形状についてみると、上半部は西壁が緩やかな傾斜をもって立ち上がっており、下半部はやや急に掘り込まれている。埋土上層は、腐食した植物からなる薄層を多く含む自然堆積層であり、西側から東側へ流れ込んだような状況を呈している。下層は黒褐色粘土である。上層からは木簡が15点出土している（第64・66・68～71・73・75・78・79・81・83・86・87・113号）。また、丸木弓など多くの木製遺物も出土した。

SX2385C：SD2386bの東壁を切って掘削されたSD2386cを検出した。第Ⅳb4層によって覆われている。平面的には調査区北壁より約18m確認した。調査区北壁でみると、上幅4.7m以上であり、深さは約1.0mである。断面の形状はSD2386bと同様である。埋土は、上層が灰黄褐色砂質土であり、植物遺存体を含んでいる。下層は砂を含む黒褐色砂質土である。木簡が3点出土している（第62・74・84号）。

SX2385D：SD2386cと東壁がおおよそ一致するような位置でSD2386dを検出した。SD2386cの埋土上面で検出し、第Ⅳb4層によって覆われている。平面的には調査区北壁より約18m確認した。調査区北壁でみると、上幅1.7m以上、深さ0.4mであり、西壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は上層が黒褐色砂質土であり、下層は砂を多量に含むオリーブ褐色砂質土である。

SX2385E：SD2386dの東壁を切って掘削されたSD2386eを検出した。第Ⅳb4層によって覆われている。平面的には調査区北壁より約18m確認した。調査区北壁でみると、上幅1.6m以上、深さ0.6mである。断面の形状はいわゆる「船底状」を呈している。埋土は黒褐色砂質土を主体とし、粗砂を多く含んだ自然堆積層である。木簡が5点出土している（第63・72・76・80・82号）。

SX2385F：SD2386を発見した。SD2386gとほぼ同位置で重複している。平面的に確認できたのは約7mであり、底面付近でわずかに6cm残存している。幅は0.7m以上である。

SX2385G：SD2386fの東壁を切って掘削されたSD2386gを発見した。SX2363によって著しく削平されており、検出面はSX2378上面となっている。SD2386fとはおおよそ同位置で重複しているが、S41ラインより南側ではSD2386fの東壁を切るような状況で検出することができた。平面的には調査区北壁より約26m確認した。調査区北壁でみると、上幅2.1m、深さ0.7mである。埋土は黒褐色砂質土であり、粗砂や炭化物を含んでいる。木簡（第77・85号）、漆紙文書（第3・11号）など多くの遺物が出土している。

【SX2378整地層】（1－第14・33図）

D100区中央部で発見した整地層である。その分布範囲は東西14m以上、南北約24mに及んでいる。SX2379がおおよそ埋没した後、そのくぼみを埋めて整地したものであり、全体的に締まっている。整地土は淡黄色（グライ化部分では灰色）砂質土であり、灰オリーブ色土の小ブロックを少量含んでいる。特に互層にはなっていないが、断面でみると灰オリーブ色土の小ブロックが横方向に分布している状況が確認できることから一定量の土を入れて均しながら整地した状況が窺われる。最も厚い部分で0.7mある。この淡黄色土は多くの地点において泥炭化しない植物遺存体層上に直接堆積している状況が確認できる。この層はアシ・ヨシなどイネ科の多年草によって形成されたものであり、河川埋没時に自然堆積した可能性もあるが、ここでは整地の基礎事業とみておきたい。

【SD2381溝跡】（1－第15・30図、2－第8図）

D100区南半部のSX2378整地層上面で発見した東西大溝である。SX2380橋状遺構を伴っている。東

側はSX2479、西側は第Ⅳ層によって完全に覆われており、平面的にはSX2363の埋土除去後、その底面を中心に東西約3.5mの範囲で確認したのみである。規模は、上幅7.5～8.5mであり、深さは西側が深くて約1.6m（底面の標高0.05m）、東側は一段高くなっており0.9m（底面の標高0.50m）である。埋土は砂の自然堆積層である。本溝跡は、西側はW16.3ラインまで確認しているが、SK2374の底面に試掘坑を設定し、そこから0.6m下（標高1.10m）まで掘り下げたが本溝跡の埋土を確認することはできなかった。SK2374の東側で止まっている可能性が高い。遺物は少ないが、完形の須恵器杯とともに木簡が3点出土している（第103・108・110号）。

【SX2380橋状遺構】（1－第15・30図、2－第8図）

D100区南半部の多賀城政庁中軸線上で発見した橋状遺構である。SD2381内に構築され、その埋土に覆われた状態で検出した。SD2381の両壁際のそれぞれ対称の位置に打ち込まれた桁行3間、梁行1間の打ち込み式の柱によって構成されている。方向は、北側の柱列でみると東で0度11分、南側の柱列でみると東で0度38分南に偏しており、おおよそ東西発掘基準線と一致している。規模は、北側の柱列が総長6.53m、柱間は西より1.89m、1.73m、2.93mであり、南側の柱列が総長6.30m、柱間は西より2.06m、1.54m、2.75mである。両柱列間は東側で4.23m、西側で4.18mである。柱は直径26～32cm、長さは最も長いもの（南側の柱列で西より2間目）で339cmある。SD2381底面より立ち上がっている部分の長さは1.5～1.8mである。

2　掘立柱建物跡

【SB1759建物跡】（2－第12図）

A5区北端部の第Ⅳ層上面で発見した桁行5間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。SD1780、SK1752と重複しており、それらよりも新しい。柱穴は南西隅柱穴以外の13基を発見した。南東隅柱穴、東側柱列北から1間目柱穴で抜取り穴、それ以外では柱痕跡を確認した。方向は西側柱列でみると、北で5度58分西に偏している。桁行については東側柱列で10.19m、柱間は南より、1.85m、1.86m、2.30m、2.14m、2.03mである。梁行については、北妻で4.45m、柱間は西より、2.13m、2.32mである。柱穴の平面形は不整方形であり、規模は一辺40～50cmである。埋土は、灰白色火山灰ブロックを含む褐灰色粘質土である。

【SB1760建物跡】（2－第11図）

A5区北半部の第Ⅴ層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。SK1752と重複しており、それよりも新しい。すべての柱穴を確認した。北西隅柱穴、北妻棟通り下柱穴で抜取り穴を検出し、それ以外では柱痕跡を確認した。方向は東側柱列でみると、北で5度40分西に偏している。桁行については、東側柱列で6.06m、柱間は南より1.62m、2.11m、2.32mである。梁行については、南妻で3.75m、柱間は西より1.86m、1.89mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は一辺30～40cmである。柱痕跡は直径12～20cmの円形である。

【SB1020建物跡】（1－第18・19・20図、2－第20図）

A65区で発見した桁行5間以上、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。北妻は旧砂押川によって大きく破壊されており、東側柱列は5間分、西側柱列は3間分検出したにとどまった。3時期の重複を確

認した（A→B→C期）。SD930溝跡や南北方向の小溝跡と重複しており、それらより古い。本建物の西側ではSD1021雨落溝を検出した。

A期：検出したすべての柱穴で確認した。柱穴の平面形はおおよそ方形を基調としており、規模は、最も大きい東側柱列の南から4間目柱穴（P1）でみると、長辺1.7m、短辺1.5mであり、最も小さい南妻棟通柱穴（P6）でみると、長辺1.6m、短辺1.3mである。柱は多くがB期の建て替えの際に抜き取られているが、東側柱列の南から1間目柱穴（P4）には柱材が残存しており、太さは直径26cmである。すべての柱穴には礎板が残存しており、いずれも直径40cm以上の柱材を半裁して転用していた。柱穴埋土は黒褐色粘質土、オリーブ褐色砂質土、黄褐色砂質土などが互層になっている。

B期：A期の柱の抜取り穴を利用し、その礎板の上に柱を据え直したものである。したがって、柱位置はA期とほぼ同様と考えられる。この段階の掘り方の平面形はほとんどが不整形である。柱は多くがC期の建て替えの際に抜き取られているが、東側柱列の南から4間目柱穴（P1）には切取り穴の下で柱痕跡を確認しており、太さは直径28cmである。

C期：A・B期とは柱位置をずらして建て替えている。多くの柱穴で柱材および柱痕跡を確認しており、方向は、東側柱列でみると北で0度24分東に偏している。桁行柱間は、東側柱列で南より6.56m（2間分）、6.37m（2間分）である。梁行については、南から2間目でみると6.45mであり、柱間は南妻の東から1間分が3.23mである。柱穴はおおむね方形を基調としており、最も大きい南東隅柱穴（P5）でみると、長辺1.5m、短辺1.3mであり、最も小さい東側柱列南より4間目柱穴（P1）でみると、長辺1.1m、短辺0.9mである。東側柱列の多くの柱穴や南妻棟通柱穴には柱材が残存しており、太さは直径30cmである。いずれも掘り方底面よりやや浮いた状態で柱を据えている。なお、B期との柱の位置関係については、東側柱列南より4間目柱穴でみるとそれよりも東に0.9m、北に1.2mと大きくずれている。遺物は、西側柱列南から3間目のA・B期柱穴の抜取り穴よりロクロ調整を施した厚手の土師器杯（BⅡ類）が1点出土している。

【SD1021雨落溝】（1－第18図、2－第20図）

SB1020の西側で発見した雨落溝である。ほぼ同位置で2時期の重複がある。旧砂押川によって大きく破壊されており、南西隅の柱穴の西側で途切れているなど残存状況は悪い。検出できたのは6.7mである。SD1021bと西側柱列との間隔は0.6～0.8mである（溝の中心で計測）。規模は、SD1021aが上幅0.9m、SD1021bが上幅0.8～0.9mである。

【SB1815建物跡】（1－第21図・2－第21図）

A12区中央部のSX1816上面で発見した桁行2間以上、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。柱穴は4基検出しており、すべての柱穴で柱抜取り穴を確認している。方向は北妻でみると、西で約2度南に偏している。梁行は北妻で約4.7mであり、柱間は西より約2.3m、約2.4mである。柱穴は概ね方形であり、規模は長辺55～65cm、短辺45～55cm、深さ40～60cmである。埋土は灰白色火山灰、炭化物、地山が混入する灰黄色土、にぶい黄色土である。

【SB919建物跡】（1－第22図・2－第22図）

A48区南半部の第Ⅴ層上面で発見した桁行5間、梁行2間以上の南北棟掘立柱建物跡である。同位置で4時期の変遷を確認している（A→D期）。

A期：計8基の柱穴を検出した。西側柱列の南から3間目柱穴（P7）で柱材が残存する以外は、すべて柱が抜取られており、抜取り穴には灰白色火山灰と炭化物が混入している。方向は西側柱列でみると、北で約9度西に偏している。桁行は約14.0mであり、柱間は南より約2.7m、約5.5m（2間分）、約2.9m、約2.9mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺35～55cm、短辺35～40cm、深さ34～57cmである。埋土は地山小ブロック、炭化物が混入する黒褐色及び黄褐色粘土である。柱材は直径18cmの円形である。

遺物は、柱穴埋土や柱抜取り穴から土器類が出土しており、いずれにも須恵系土器が含まれている。

B期：大部分がC期の柱穴に破壊されており、5基の柱穴を確認したのみである。規模・方向については、概ねC期と同様である。掘り方は方形であり、東側柱列の南より2間目柱穴（P6）では、長辺60cm、短辺55cmである。埋土は地山小ブロック、灰白色火山灰が混入する黒褐色及び黄褐色粘土である。

遺物は、柱穴埋土や柱抜取り穴から、土器類や製塩土器が出土している。土器類では須恵系土器杯が圧倒的に多く、土師器、須恵器は少ない。

C期：計8基の柱穴を検出した。柱はすべて抜き取られており、抜取り穴には炭化物や地山粒が混入している。方向は東側柱列でみると、北で約9度西に偏している。桁行は約14.0mであり、柱間は南より約2.8m、約2.7m、約5.8m（2間分）、約2.7mである。柱穴の平面形は方形であり、B期柱穴の抜取り穴を利用したものと考えられる。規模は長辺45～55cm、短辺35～50cm、深さ46～60cmである。埋土は地山小ブロック、灰白色火山灰が混入する黒褐色及び黄灰色粘土である。

遺物は、柱穴埋土や柱抜取り穴から、土器類や製塩土器が出土している。このうち、土師器、須恵器は比較的少なく、須恵系土器杯の出土が圧倒的に多い。また、A・B期のものに比べると、小型のものが多く出土している。

D期：計8基の柱穴を検出した。柱はすべて抜き取られており、抜取り穴には地山粒や炭化物が混入している。方向は東側柱列でみると、北で約10度西に偏している。桁行は約13.6mであり、柱間は南より約2.6m、約2.7m、約2.8m、約3.1m、約2.4mである。柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は長辺25～40cm、短辺20～30cm、深さ36～74cmである。埋土は黒褐色粘土、褐灰色粘土、地山粒、炭化物が混入する黄灰色粘土である。出土した土器類は須恵系土器杯が圧倒的に多い。また、A・B期のものに比べると、小型のものが多く出土している。

【SB1795建物跡】（1－第23図、2－第19図）

A4区中央部のSX1853上で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。SI1801、SD1781と重複しており、SI1801よりも新しく、SD1781よりも古い。すべての柱穴を確認した。柱痕跡は北東隅柱穴以外で検出している。方向は、西側柱列でみると北で7度13分東に偏している。桁行については、西側柱列で5.33m、柱間は南より1.59m、1.91m、1.84mである。梁行については、南妻でみると4.04m、柱間は西より2.01m、2.05mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は一辺0.52～0.86cm、深さ45cmである。柱痕跡は直径16～23cmである。

【SB2336建物跡】（2－第4・5図）

A66区北西部で発見した東面に廂が付く桁行5間、梁行3間の南北棟掘立柱建物跡である。整地層上面で検出した。SI2361、SB2337と重複しており、前者より新しいが後者との新旧関係は不明である。

北面と西面に目隠塀と見られるSA2340・2341柱列跡がある。

柱穴はすべて検出し、多くの柱穴で柱痕跡を確認した。方向は、西側柱列でみると北で3度9分西に、東入側柱列でみると北で3度14分西に偏している。桁行については、西側柱列で総長9.62m、柱間は、南より5.53m（3間分）、1.82m、2.27m、東入側柱列で総長9.60m、柱間は、南より1.87m、3.78m（2間分）、3.95m（2間分）、東側柱列で総長約9.6m、柱間は、南より約2.0m、約1.9m、1.90m、1.93m、1.94mである。梁行については、北妻で総長6.51m、柱間は、西より2.17m、2.29m、2.05m（廂）である。柱穴の平面形は円形および楕円形であり、身舎部分の柱穴に対し廂の柱は比較的小規模である。身舎部分で最も大きな柱穴（P12）は長軸45cm、短軸40cmであり、最も小さな柱穴（P1）は直径約40cmである。廂部分で最も大きな柱穴（P16）は長軸35cm、短軸30cmであり、最も小さな柱穴（P14）は直径約30cmである。柱穴の埋土は黒褐色土を主体としており、西側柱列の南から2間目の抜取り穴（P11）には灰白色火山灰ブロックが混入している。柱痕跡は直径20cmである。

【SB2337建物跡】（1－第25図、2－第4・5図）

A66区北西部の整地層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である(註)。SB2336と重複しているが新旧関係は不明である。東側柱列については南から2間目の柱穴は検出することができず、他の柱も抜き取られているため柱位置は明らかにしえないが、西側柱列と棟通柱穴では柱痕跡を確認した。方向は、西側柱列でみると、北で3度52分西に偏している。桁行については、西側柱列で総長6.22m、柱間は南より2.15m、約2.0m、約2.0mである。梁行については北妻で約5.2m、柱間は、南妻1間分が2.34m、北妻1間分が2.44mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は、最も大きな北西隅柱穴（P1）で一辺約55cm、最も小さな南妻棟通柱穴（P6）で長辺45cm、短辺35cmである。柱穴の埋土は黒褐色土と黄褐色土であり、それらが互層になっているものもある。柱痕跡は直径14～20cmである。

【SB2339建物跡】（2－第4・5図）

A66区北西部の整地層上面で発見した桁行4間以上、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。調査区北側にさらに延びている。SD2362、SX2352と重複しており、それらより古い。検出したのは南妻と東側柱列の3間分である。南西隅、棟通、東側柱列の南から1間目と3間目の柱穴で柱痕跡を確認した。方向は、東側柱列の南から1間目と3間目の柱穴でみると、北でわずかに0度17分西に偏しており、おおよそ南北発掘基準線と一致している。桁行柱間は、柱間は南より約1.7m、2.16m、1.79mである。南妻の梁行については約4.3m、柱間は西より1間分が2.06mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は、最も大きな南妻棟通柱穴で長辺60cm、短辺55cm、最も小さな柱穴で長辺50cm、短辺45cmである。柱痕跡は直径約20cmである。

【SB2375建物跡】（2－第8図）

D100区北西部の第Ⅴ層上で発見した桁行3間以上、梁行2間の東西棟掘立柱建物である。SD2386aと重複しており、それより新しい。方向は、南側柱列でみると東で4度34分南に偏している。梁行につ

（註）その他の柱穴についてはいずれも抜取り穴としたものによって存在を想定するなど不明な点が多い。西側柱列を西妻とし、第Ⅳ層やSX2451に覆われる東西棟を想定すべきかもしれないが、本書では一応調査中の見解に従って南北棟としておきたい。

いては東妻が3.56mであり、桁行柱間は南側柱列で西より1.92m、1.85mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、大きいもので長辺60cm、短辺50cm、小さいもので一辺45cmである。掘り方埋土は地山小ブロックを少量含む黒褐色土である。柱痕跡は直径14～17cmである。

【SB2376建物跡】（2－第8図）

D100区南半部の第Ⅳ層上で発見した総柱建物であり、桁行2間、梁行2間の南北棟掘立柱建物である。SK2374と重複しており、それによって西側柱列中央の柱穴は完全に破壊されており、南西隅の柱穴も掘り方の一部を残すのみである。方向は、東側柱列でみると北で4度28分東に、北妻でみると東で5度54分南に偏している。桁行については、東側柱列で総長4.36m、柱間は南より2.27m、2.10mである。梁行については北妻で総長3.89m、柱間は西より2.12m、1.80mである。柱穴の平面形はおおよそ方形を基調としており、大きいもので一辺90cm、小さいもので一辺55cmである。柱痕跡は直径22～32cmである。截ち割りを行ったのは北西隅の柱穴のみであるが、掘り方埋土はオリーブ黒色・黒褐色砂質土が互層になっている。

3　柱列跡

【SA2340】（2－第4・5図）

A66区SB2336北側にある東西4間の目隠塀である。方向は、東で2度26分北に偏している。総長8.47m、柱間は、西より約1.7m、約1.7m、約2.8m、約2.3mである。

【SA2341】（2－第4・5図）

A66区SB2336西側にある南北4間の目隠塀である。方向は、北で0度43分東に偏している。総長約11.1m、柱間は、南より約3.4m、3.89m、1.76m、約2.1mである。抜取り穴の埋土に灰白色火山灰粒が含まれている。

【SA2338柱列跡】（2－第4・5図）

A66区北西部の整地層上面で発見した南北方向に延びる4間の柱列跡である。調査区西側に展開する掘立柱建物跡の可能性もある。SK2350などと重複しており、いずれのものよりも新しい。すべての柱穴で柱痕跡を確認しており、方向は、北で約4度東に偏している。4間分で総長約9.0m、柱間は南より2.04m、2.27m、2.30m、約2.4mである。柱穴の平面形は円形、楕円形、方形であり、一定ではない。最も大きい北端部の柱穴が長径45cm、短径30cmの楕円形であり、最も小さい南端部の柱穴が一辺約35cmの方形である。柱痕跡は直径14～20cmである。

4　竪穴住居跡

【SI1776竪穴住居跡】（2－第1・2・3図）

A44区西壁付近の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。西壁は調査区外であるが、平面形は方形である。方向は東辺でみると、おおよそ発掘基準線と一致している。規模は南北3.78m、東西2.68m以上であり、壁高は5cmである。床全面に貼床を施しており、カマド、煙道を検出した。カマドは北辺につくり出しで構築されている。カマドの側壁は平瓦を入れて補強されている。煙道は長さ0.78m、幅0.20mであり、炭化物、焼土が堆積している。

【SI1783竪穴住居】（1 －第26図、2 －第16図）

A２区西端部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SD1782、SK1784と重複しており、それらよりも古い。平面形は方形であり、北辺と西辺は調査区外である。方向は東辺でみると、北で約５度西に偏している。規模は南北3.2m以上、東西3.3m以上である。後世の削平を受けており、床面が露出した状態で検出した。３時期の変遷（A→C期）を確認した。柱穴はいずれの時期でも確認できなかった。

A期：地山を床面としている。床面上でカマド、土壙（K９）、炉跡４基を検出した。カマドは地山をつくり出して構築されている。カマド前面には炭化物が広がっている。

B期：全面に貼床を施し床面としている。土壙（K４）、炉跡２箇所を検出し、カマドはA期のものを踏襲している。

C期：B期床面に部分的な貼床を施し床面としている。炉跡を１基検出した。カマドはA期のものを踏襲している。土壙、溝を検出したが、床面が露出した状態での検出のため、竪穴住居跡に伴うものと判断できなかった。

【SI1799竪穴住居跡】（1 －第27図、2 －第16図）

A４区北端部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SD1782と重複しており、それよりも古い。平面形は方形であり、北辺は溝跡により、西辺は撹乱により破壊されている。規模は南北2.4m以上、東西3.6m以上、壁高は17cmである。部分的に貼床が認められる。カマドは南東隅付近の東壁に構築されている。カマドの規模は、前端幅70cm、奥行50cmであり、煙道は長さ1.13m、幅0.30mである。煙道の先端部では直径34cmの煙出しピットを確認している。埋土はにぶい黄褐色土である。

【SI1801竪穴住居跡】（1 －第28図、2 －第19図）

A４区中央部のSX1853上で発見した竪穴住居跡である。第Ⅳ層に覆われる。SB1795、SD1781と重複しており、それらよりも古い。方向は東辺で約１度東に偏している。平面形は方形であり、規模は南北5.05m、東西3.2m以上であり、壁は立ち上がらない。床面上では炉跡を４基検出し、北辺のすぐ外側においては、鍛造剥片と粒状滓の詰まったピットを２基検出している。さらに床面上では、鍛造剥片が多数出土している。このことから、本住居跡は鍛冶工房であると考えられる。

【SI1797竪穴住居跡】（1 －第29図、2 －第18図）

A４区北半部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SK1791・1792と重複しており、これらよりも古い。平面形は北東隅が張り出した不整方形である。規模は東辺で3.8mである。ほぼ全面で貼床が認められ、東辺の北半部と南辺においては周溝を確認し、炉跡も３基検出している。鍛冶に関わる遺物は出土していない。

【SI1818竪穴住居跡】（2 －第21図）

A12区中央部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。南半部は調査区外に延びている。上面での削平が著しく、床の一部と周溝が露出していた。SD1819と重複し、それよりも古い。平面形は方形であり、規模は、東西2.1m以上、南北1.8m以上である。方向は、北辺でみると西で約４度北に偏している。周溝は北辺・南辺で確認しており、規模は上幅12～25cmである。

【SI2361竪穴住居跡】（2 －第４・５図）

A66区北西部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。平面形は方形である。SB2336や灰白色火

山灰ブロックを埋土に含む小柱穴と重複しており、それらより古い。残存状況は悪く、確認した時点ですでに床面まで削平されていた。南西隅付近において、南壁の周溝が約2.8m、西壁の周溝は約2.1m残存していた。また、掘り方埋土の広がりから、規模は東西4.9m、南北3.6m以上である。周溝は、南壁の周溝でみると上幅25cm、深さは最も深い南西隅付近で17cmである。

5 井戸跡

【SE2367井戸跡】（2－第4・5図）

A66区中央部で発見した井戸跡である。第Ⅳ層を除去し、整地層上面で検出した。SD2357と重複しており、それより新しい。抜取り穴の埋土を掘り下げた段階で、西・南・東側の各辺に立ち並ぶ縦板組の側板が現れた。井戸は平面形が方形で、内法は一辺約70cmと推定される。掘り方は平面形が歪んだ円形であり、規模は長軸で1.5m、短軸で1.3mである。細部の調査は実施しなかったため詳細は不明である。

【SE2372井戸跡】

D100区南西部の第Ⅳ層上面で発見した井戸跡である。SE2373と重複しており、それより新しい。掘り方のおおよそ中央部において東西1.4m、南北1.2mの抜取り穴を掘り下げたところ、一辺約80cmの横板組の井戸側を検出した。側板の方向はおおよそ発掘基準線と一致している。掘り方は平面形がおおよそ円形であり、規模は直径約2.3mである。平面的な調査にとどめたため詳細は不明である。

【SE2373井戸跡】

D100区南西部の第Ⅳ層上面で発見した井戸跡である。SE2372と重複しており、それより古い。掘り方のおおよそ中央部において東西1.0m、南北1.1mの抜取り穴を掘り下げたところ、一辺約80cmの縦板組の井戸側を検出した。側の東辺は残存していたが、北・南辺の西側から西辺にかけては検出できなかった。板材は幅17～21cm、厚さ1.5cmである。側板の方向は、東辺でみると北で約40度東に偏している。掘り方は平面形が楕円形であり、規模は長軸約2.1m、短軸約1.7mである。平面的な調査にとどめたため詳細は不明である。

6 溝　跡

【SD1757溝跡】（2－第11・12・13図）

A5区北半部の第Ⅳ層上面で発見した南北溝跡である。SB1761と重複しており、それよりも古い。方向は北で約2度西に偏する。規模は上幅1.28m、下幅0.78mである。埋土の最上層に灰白色火山灰が自然堆積している。

【SD1758溝跡】（2－第13図）

A5区北半部の第Ⅴ層上面で発見した東西溝跡である。SB1761と重複しており、それよりも古い。方向は西で約4度北に偏している。規模は上幅0.94～1.64m、下幅0.80～1.50m、深さ10cmである。

【SD1782溝跡】（1－第16・17図）

A2区西端部から44区西部にかけての第Ⅴ層上面で発見した東西溝跡である。約34mにわたって検出した。SI1799・1783、SK1784と重複しており、SI1799・1783より新しく、SKI784よりも古い。SD1768cに接続する。方向は、西で約3度北に偏している。上幅1.70～1.98m、下幅0.50m、深さ52

cmである。埋土は、黒褐色砂質土と灰黄褐色砂質土が交互に堆積している。

【SD931溝跡】（1－第21図・2－第21図）

A12区中央部の第Ⅴ層上面で発見した南北方向の溝跡で、長さ約3.8mにわたって検出した。方向は、北で10度23分西に偏している。規模は上幅1.6～1.8m、下幅40～60cm、深さ40～60cmである。断面形は擂鉢状を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は概ね平坦であり、本調査区内での比高はほとんどない。埋土は8層に細分できる（1－第21図）。いずれも黒褐色、灰黄褐色、暗灰黄色の粘質土が主体であり、5層に灰白色火山灰が混入している。遺物は、土師器類をはじめ、灰釉陶器、製塩土器、竈形土器が出土している。土器類には、須恵系土器があり、5層上面から出土したものが圧倒的に多い。

【SD2362溝跡】（2－第4・5図）

A66区北半部で発見した東西溝跡であり、SX2400I期の西側溝SD2342iとT字形に合流している。SX2400の西側溝SD2342a～fを破壊して西へ延びており、22.5mまで確認した。SB2339、SX2352と重複しており、前者より新しく、後者より古い。方向は、東で約6度南に偏しており、SD2342iとの合流地点では北側に大きく屈曲している。規模は、上幅1.2～1.5m、下幅0.5～0.6m、深さ45cmである。埋土には灰白色火山灰を含んでおり、遺物は須恵系土器杯などが出土している。

【SD2357溝跡】（2－第4・5図）

A66区中央部で発見したL字形に屈曲する溝跡である。第Ⅳ層を除去し、整地層上面で確認した。検出したのは東西約4m、南北約2mであるが、それぞれさらに延びている。SE2367と重複しており、それより古い。規模は、東西方向の部分で上幅0.3～0.6m、深さ23cm、南北方向の部分で上幅0.4m、深さ26cmである。コーナー付近は浅くなっており、深さ約10cmである。埋土上層より製塩土器の破片が多量に出土した。

【SD930溝跡】（2－第20図）

A65区の第Ⅴ層上面で発見した東西・南北溝跡である。調査区東壁から東西方向にのび、おおよそ直角に屈曲して南北方向に直線的に延びている。SB1020と重複しており、それより古い。検出できたのは、東西方向が約6m、南北方向が約12mであり、それぞれ調査区外にさらに延びている。方向は、東西部分は東で8～15度北に偏しており、南北部分は発掘基準線とおおよそ一致している。規模は、東西部分で上幅1.1～1.6m、深さ14cmであり、南北部分で上幅0.8～1.4m、深さ11cmである。断面形は箱型を呈しており、底面は東西方向のものが約20cm深くなっている。埋土は地山ブロックを多く含むオリーブ黒色の粘質土である。

7　河川跡

【SX1853河川跡】

A4区南半部で発見した河川跡である。6時期の変遷（A→F期）を確認した。以下、古い順に記述する。

A期：C期の下層で確認した。埋土は粗砂と砂の互層である。深さは3.40mであり、底面レベルは－0.26mである。古墳時代の土器や弥生土器が出土している。

B期：最も北側で発見した。埋土は黒褐色粘質土と暗緑灰色砂の互層である。深さは2.66mであり、底面レベルは0.54mである。遺物は、土器類のほか、人面墨書土器、墨書土器、人形などが出土している。

C期：A期の上方で確認した。埋土はオリーブ黒色と砂の互層である。深さは2.52m、底面レベルは0.69mである。

D期：B期の上方で確認した。埋土はオリーブ灰色の砂層である。深さは2.28m、底面レベルは0.92mである。

E期：C期の南側で確認した。埋土はオリーブ黒色と砂の互層であり、上方に灰白色火山灰が堆積している。深さは2.42m、底面レベルは0.76mである。

F期：最も南側で確認した。埋土は貝や植物遺存体を多く含むオリーブ黒色粘質土である。深さは2.80mであり、底面レベルは0.40mである。

【SX2377】（2－第8図）

D100区北半部で発見した南北方向の河川跡である。SX2378上面で検出し、SX2479によって覆われている。検出したのは南北8.5mの範囲であり、詳細は不明である。

【SX2459】（1－第14図、2－第8図）

D100区西側中央部の断ち割り調査で発見した河川跡である。SX2379と重複しており、それより古く、D100においては最も古い遺構である。規模は、幅7m以上、深さ1.8mである。埋土は、オリーブ黒色・暗オリーブ褐色砂質土を主体としており、最も低い部分には灰色砂が厚く堆積している。砂層からはおおよそ原形を保った大型の槽、木簡2点が出土している（第65・67号）。

【SX2363河川跡】（1－第31図、2－第8図）

D100区北壁から南壁にかけて第1層除去後に発見した近代の砂押川跡である(註)。重複するすべての遺構より新しく、SX2385西0道路跡の西側溝SD2386f・g、SX2380・2479などを大きく破壊している。位置をずらして2時期の重複がある（A→B期）。

SX2363A：規模は、上幅6.5m以上、深さ約2.0mである。

SX2363B：A期の東壁寄りにある。規模は、上幅4.7m、深さ約1.7mであり、黄褐色砂によって埋められている。遺物は近代の陶磁器、レンガをはじめ古代の土器類、白磁などが出土している。本来下層の遺構に帰するものと考えられるが木簡も1点出土している（第111号）。

【SX2369河川跡】（1－第31図、2－第8図）

D27区西半部で発見した南北方向の河川跡である。27区で発見した河川跡の中では最も古い。SX2479・2364・2379によって覆われており、確認できた埋土の範囲も東西約8.2mである。埋土はすべて砂であり、東側から西側へ強く傾斜して堆積している。底面レベルはおおよそ0mである。遺物は、摩滅してはいるものの古墳時代前・中期の土師器がややまとまって出土している。本河川跡の年代がそれらの土器の年代までさかのぼる可能性もある。

(註) 昭和34～37年にかけて砂押川を現在の流路に改修した。発見した河川はそれ以前の旧砂押川であろう。

【SX2379河川跡】（1－第14・31図、2－第8図）

D100区中央部から27区西半部で発見した南北方向の河川跡である。D27区ではSX2369・2479・2463と重複しており、前者より新しいが、後二者より古い。D100区ではSX2459や西0道路西側溝と重複しており、前者より新しいが、後者より古い。確認できた埋土の範囲は東西約17mであり、深さは約2.5m、底面レベルは－0.1mである。D27区の河川跡の中では最も深い。埋土は、最上層に粘土および粘質土の堆積がみられるが、それより下層は砂が主体となって厚く堆積している。出土遺物は多くはないが、上層より木簡が2点出土しており（第96・100号）、第96号は天平寶字3年（759）のものである。その他、柄杓、須恵器杯の完形品が数点出土している。

【SX2364河川跡】（1－第31図、2－第8図）

D27区西半部で発見した南北方向の河川跡である。SX2369・2479・2365・2478と重複しており、SX2369より新しいが、ほかのすべてのものより古い。確認できた埋土の範囲は東西約13.2mであり、深さは約2.3m、底面のレベルは0.05mである。埋土は細砂・中砂・粗砂などを主体とし、黒褐色砂質土層の間層がある。底面には粗砂が厚く堆積している。遺物は、底面付近より人面墨書土器、多数の墨書土器をはじめ土師器や須恵器の杯・甕が多く出土している。

【SX2479河川跡】（1－第30・31図、2－第8図）

D100区中央部から27区西半部で発見した南北方向の河川跡である。SX2476・2463・2379・2369・2364と重複しており、SX2463より古いがそのほかのものより新しい。確認できた埋土の範囲は東西約22.6mであり、深さは約1.8m、底面レベルは1.5mである。埋土最上層には灰白色火山灰が自然堆積しており、厚いところでは15cmある。中ほどから底面までは均質な砂層となっている。遺物は、木簡（第90号）、人面墨書土器などが出土している。

【SX2365河川跡】（1－第31図、2－第8図）

D27区中央部で発見した南北方向の河川跡である。SX2364・2368・2477・2476・2478と重複しており、SX2364よりは新しいが、ほかのすべてのものより古い。平面的にはSX2476・2478によって完全に覆われている。確認できた埋土の範囲は東西約14.6mであり、深さは約2.5m、底面のレベルは0.2mである。本河川跡は、中央部が約5mの幅で一段くぼんでおり、その西側には打ち込みによる杭列がある。そのくぼみから杭列にかけては粗砂や小石が厚く堆積しており、それらの間から土師器・須恵器の杯・甕類、ウマ・ウシなどの動物遺存体が多量に出土した（図版22）。土師器・須恵器の杯類には墨書土器が多く含まれ、土師器甕には人面墨書土器も数点含まれている。木簡（第93号）も1点出土した。

【SX2478河川跡】（1－第31図、2－第8図）

D27区中央部で発見した南北方向の河川跡である。埋土の状況により、2時期の流路に区分できる。SX2476・2365・2364・2479と重複しており、SX2476より古いがそのほかのものより新しい。灰白色火山灰が自然堆積するSX2479とは直接的な重複関係があり、火山灰降下以降の河川跡であることが明らかである。確認できた埋土の範囲は、A期が東西約5.0m、B期が東西約8.9mであり、深さはA期が約1.7、B期が約1.6mであり、底面のレベルはA期が1.7m、B期が1.9mである。埋土は全体に砂を多く含んでおり、特に下層には中砂・粗砂の堆積が確認できる。遺物は、赤色漆を施した漆器椀がA期

埋土より出土している程度である。

【SX2476河川跡】（1－第31図、2－第8図）

D27区中央部で発見した南北方向の河川跡である。SX2477・2478・2365と重複しており、そのいずれよりも新しい。確認できた埋土の範囲は東西約20.7mであり、深さは約1.5m、底面のレベルは1.0mである。埋土は西側から東側に傾斜して堆積しており、東壁側に残った溝状のくぼみは砂等によって埋まっている。埋没が進み、最終的には人為的に埋め戻されたような状況が見受けられる。遺物はほとんど出土していない。

【SX2477河川跡】（1－第31図、2－第8図）

D27区中央部で発見した南北方向の河川跡である。SX2476・2366・2368と重複しており、前者より古く、後二者より新しい。平面的には大半をSX2476によって覆われている。確認できた埋土の範囲は東西約12.6mであり、深さは約1.4m、底面のレベルは0.8mである。底面付近から、角材が数点出土した。内1点は一辺18cm、長さ3.7m以上で欠き取りがあり、1点は一辺12cm、長さ3.1m以上で枘孔がある。いずれも建築部材とみられる。埋土は黒褐色粘質土である。遺物は須恵器・土師器の破片が少量出土している。

【SX2368河川跡】（1－第31図、2－第8図）

D27区中央部で発見した南北方向の河川跡である。SX2365・2366・2477と重複しており、前者より新しく、後二者より古い。平面的にはSX2477によってほぼ完全に覆われている。確認できた埋土の範囲は東西約6.3mであり、深さは約2.0m、底面のレベルは0.4mである。東壁際において灰白色火山灰ブロックを確認した。埋土は暗緑灰色の粗砂が主体であり、オリーブ黒色の粘土粒を多く含んでいる。底面付近の砂層より土師器、須恵器、須恵系土器の杯類が多数出土した。

【SX2366河川跡】（1－第31図、2－第8図）

D27区中央部で発見した南北方向の河川跡である。D27区で確認した河川跡のなかでは最も東寄りに位置しており、その西側は多数の河川跡が複雑に重なり合う河川敷であるが、東側は建物跡等とともに第Ⅴ層上面で検出した。SX2368・2477と重複しており、前者より新しく、後者より古い。確認できた埋土の範囲は東西約17.4mであり、深さは約1.5m、底面のレベルは0.9mである。底面で多数の打ち込み杭を発見した。埋土は暗褐色・オリーブ褐色砂質土を主体としており、砂層が間層として入っている。底面の粗砂層より土師器・須恵器の杯類や骨針などが出土した。

8　土壙・その他

【SK2360土壙】（2－第4図）

A66区の南北大路H期の路面で発見した土壙である。灰白色火山灰層によって覆われている。SX2349によって東側を破壊されているが、残存部から推定して平面形はおおよそ円形である。規模は、南北1.3m、東西1.1m以上、深さ0.4mであり、埋土はしまりのない暗灰黄色土である。

【SK2374土壙】（2－第8図）

D100区南西部の第Ⅳ層上面で発見した土壙である。SB2376と重複しており、それより新しい。平面形はおおよそ長方形であり、規模は長辺2.2～2.6m、短辺1.5～1.7m、深さ0.6mである。埋土は上下2

層に区分でき、下層は黒褐色粘土であり、上層には焼土、灰、炭化物を多く含んでいる。

【SX2352】（2－第4図）

A66区北西部で発見した溝状の落ち込みである。第Ⅱ層に覆われ、第Ⅴ層上面で検出した。SD2362、SK2350、SA2338、SX2352などと重複しており、SD2362よりは新しいが、ほかのものよりは古い。規模は幅6m以上であり、底面付近で2.7～4.0mとなっている。壁は緩やかに立ち上がっており、底面はさらに細い溝状に落ち込む部分や比較的平坦な部分もあるなど一様ではない。埋土は黒褐色粘質土を主体とし、炭化物を多く含んでいる。土師器・須恵器の杯・甕や瓦などの破片が多数出土している。

【SX2353・2354・2355・2356土器埋設遺構】（2－第4図）

SX2353・2354はA66区北西部のSX2352の埋土上面で発見した土器埋設遺構である。SX2353は直径35cm、SX2354は直径30cmの円形の掘り方の中にそれぞれ正位で土師器甕を埋設したものである。SX2355・2356はA66区南半部の南北・東西大路の最終段階の交差点に隣接して第Ⅲ層上面で検出した土器埋設遺構である。SX2355は直径35cmの円形の掘り方の中に、SX2356は一辺35cmの方形の掘り方の中それぞれ正位で土師器甕を埋設しており、両者は25mの間隔をおいて東西に並んでいる。

Ⅵ　A区西半部で発見した遺構

1　道路跡

【SX1665道路跡】（1－第34図、2－第27図）

A42区西半部で発見した素掘りの側溝を伴う東西道路跡である。多賀城南面に広がる道路網の北1道路にあたる。南側溝の西半部は、旧砂押川によって破壊されている。路面で2時期、北側溝（SD1666）で5時期の変遷（a→e期）、南側溝（SD1701）で2時期（a→b期）を確認した。全体としては5時期の変遷があると考えられる。なお、A～D期の北側溝は東端で北に屈曲していることから、西1道路との交差点になると考えられる。以下、両側溝が明らかなE期について説明する。

E期：南・北両側溝（SD1701b・1666e）を確認した。路面は灰白色火山灰ブロックを含む黄褐色土で盛土されている。規模は側溝心々間で3.40m、側溝間で2.25mである。方向は西で約8度北に偏している。北側溝については、上幅0.9～1.1m、下幅0.5m、深さ44cmであり、埋土は1層が黒褐色粘質土、2層が黒色粘質土である。南側溝については、上幅0.8～1.2m、下幅0.7m、深さ60cmであり、埋土は1層が黒褐色粘質土、2層が黒色粘質土である。遺物は土器類として、須恵系土器、墨書土器が出土している。

【SX2334道路跡】（1－第34図、2－第30図）

A82区中央部、第Ⅴ層上面で発見した南北道路跡である。南北大路、東西大路を基準にとした西1道路にあたる道路跡である。7.45m検出した。西側溝（SD2318）はSI2315と重複がありそれより古い。方向は北で約3度東に偏している。路幅については最も新しい時期でみると、側溝心々で6.70m、側溝間で4.50mである。東西側溝とも東に中心を移しながら作り替えられている。東側溝（SD2317）で5

時期（a→D期）、西側溝（SD2318）は2時期（a→b期）の重複がある。そのうち東側溝ではa期とb期で、西側溝ではa～c期とd～e期で方向を異にする。以下、側溝について説明する。

SD2317a：b期以降の側溝に大きく壊されている。方向は、北で約1度東に偏する。規模は上幅1.95m以上、下幅0.60m以上、深さ62cmである。断面形は開いたU字形である。壁は緩やかに立ちあがる。底面は平坦である。埋土は黄褐色砂ブロックを含む黒褐色土である（1－第34図8層）。

SD2317b：a期とほぼ同位置で作り替えられている。方向は、北で約1度西に偏する。規模は上幅1.05m以上、下幅0.12～0.35m、深さ66cmである。断面形は開いたU字形をしている。壁は緩やかに立ちあがる。底面は平坦である。埋土は黒褐色粘土である（7層）。遺物は、製塩土器が出土している。

SD2317c：b期の側溝の東側を壊すように東に中心を移して作り替えられている。方向は、北で約5度西に偏する。規模は上幅0.86～0.98cm、下幅0.15～0.36m以上、深さ65cmである。断面形は片側が開いたU字形をしている。壁は路面側が緩やかに立ち上がり、外側が急に立ち上がり、底面は平坦である。埋土は黒褐色粘土である（6層）。

SD2317d：c期までとは異なり東側に方向を変えて作り替えられている。方向は、北で約8度東に偏する。規模は上幅0.85m以上、下幅約0.70m、深さ約40cmである。断面形は逆台形をしている。壁は急に立ちあがり、底面は平坦である。埋土は、1層が多量の炭化物粒・焼土粒少量含む黒褐色土、2層が多量の地山砂ブロックを含む黒褐色粘土である（3～5層）。出土した土器類には、須恵系土器杯・鉢がある。

SD2317e：c期より西側に方向を変えて作り替えられている。方向は、北で約7度東に偏する。規模は上幅0.65～0.80m、下幅0.12～0.33m以上、深さ37cmである。断面形は開いたU字形をしている。壁は急に立ちあがり、底面はまるみを帯び、南にやや傾斜する。埋土は、1層が黒褐色粘質土、2層が砂を含む黒褐色粘質土、3層が多量の黄褐色砂を含む黒褐色粘質土である（1～2層）。出土した土器類には　須恵系土器高台付杯や製塩土器がある。

SD2318a：東側溝a～c期とほぼ方向を同じくしており、北で約1度東に偏している。規模は上幅1.95～2.50m、下幅0.35～0.80m、深さ約60cmである。断面形は逆台形をしている。壁は直線的に緩やかに立ちあがり、底面は平坦である。埋土は1層が少量の炭化物粒を含む黒褐色粘質土、2層が炭化物粒、砂粒を含む黒褐色粘質土、3層が黄褐色砂を層状に含む黒褐色粘土である（11～13層）。

SD2318b：東側溝d～e期とほぼ方向を同じくしており、北で約8度東に偏している。規模は上幅1.95～2.50m、下幅0.20m、深さ約32cmである。断面形は逆台形をしている。壁は直線的に緩やかに立ちあがり、底面は平坦である。埋土は地山粒を含む黒褐色粘土である。（9～10層）

【SX1700道路跡】（1－第35図、2－第38図）

A8区南部、第Ⅴ層上面で発見した素掘りの側溝を伴う南北道路跡である。南北大路、東西大路を基準とした西1道路にあたる道路跡である。約20m検出した。SD2295と重複がありそれより古い。方向は、北で約3度東に偏している。路幅については、最も新しい時期でみると、側溝心々間で5.7m、側溝間では5.0mである。路面は地山面で1時期、東側溝（SD1704）は3時期、西側溝（SD1703）は6時期、それぞれ東に位置を移しながら作り替えられている。以下、側溝について説明する。

SD1703a：6時期の確認した溝のうち最も西に位置している。方向は南北発掘基準線とおおよそ一致

している。規模は上幅1.55～1.85m、下幅0.90～1.20m、深さ34～50cmである。断面形は逆台形である。壁は路面側で緩やかに立ちあがり、外側で急に立ち上がる。底面は平坦である。埋土は上層が黒褐色粘土ブロックを含む灰黄褐色粘質土、下層が黄褐色砂である（北16～18層）。

SD1703b：a期より東に中心を移して作り替えられている。南側においては、平面的に検出したが、北側では断面のみの確認である。規模は上幅0.95m以上、深さ約26cmである。断面形は浅い皿状である。壁は緩やかに立ち上がる。底面は北側にやや傾斜し、比高は6cmである。埋土は、炭化物粒を含む黒褐色粘土である（南10層、北15層）。出土した土器類のうち、土師器杯にはヘラガキ土器や漆付着土器、油煙付着土器がある。

SD1703c：東壁をd期側溝に壊され、b期より東に作り替えられている。方向は北で約3度西に偏している。規模は上幅1.80～1.30m、下幅0.35～0.70m以上、深さ約20～50cmである。断面形は上部で開いた箱形をしている。壁は急に立ちあがり、底面は平坦である。埋土は、上層が炭化物粒を含む黒褐色粘質土、中層が地山粒を含む黒褐色土、下層が黒褐色粘土ブロックを含む暗灰黄色粘質土である（南8～9層、北12～14層）。出土した土器類には、須恵器瓶、墨書土器などがある。

SD1703d：c期東壁を大きく壊し、c期より東に作り替えられている。方向は、北で約11度西に偏している。規模は上幅0.55～1.00m、下幅0.20～0.30m、深さ約22～36cmである。断面形は開いたU字形である。壁は急に立ち上がり上部でやや開いている。底面は丸みを帯び、やや南へ傾斜する。比高は6cmある。埋土は、上層が砂粒を含む黒褐色粘土、下層が黒褐色粘土ブロックを含むにぶい黄褐色砂質土である（南5～7層、北10～11層）。出土した土器類には、土師器杯に墨書土器や漆付着土器がある。

SD1703e：d期東壁を大きく壊し、その東に作り替えられている。方向は、北で約3度西に偏している。規模は上幅0.70～0.95m、下幅0.18～0.48m、深さ約55～100cmである。断面形は開いたU字形である。壁は緩やかに立ち上がり、底面はやや南へ傾斜し、比高は6cmある。埋土は、上層が灰白色火山灰ブロックや炭化物粒を含む黒褐色土、下層が炭化物粒を含む黒褐色粘土である（南3～4層、北9層）。c期とは灰白色火山灰を介して対応関係が明らかになっている。

SD1703f：e期東壁を大きく壊し、その東に作り替えられている。方向は、北で約3度西に偏している。規模は上幅0.77～1.25m、下幅0.16～0.47m、深さ30～46cmである。断面形は上部で開いたU字形である。壁は急に立ち上がり、上部で開いている。底面は丸みを帯び平坦である。埋土は、上層が灰白色粒、炭化物粒、地山粒を含む暗灰黄色粘質土、下層が地山ブロックを含む褐灰色粘土である（南1～2層、北7～8層）。遺物は、須恵系土器や灰釉陶器椀が出土している。また、木簡では「精好」と書かれた題箋軸（第38号木簡）が出土している。

SD1704a：3時期のうち最も西に位置している。両側をb期以降の側溝に壊された状態で発見した。方向は、南北発掘基準線とおおよそ一致している。規模は上幅約1.8m、下幅0.57～0.90m、深さ63cm以上である。断面形は上部で開いたU字形をしている。壁は急に立ち上がり、上部で開いている。底面は南へ傾斜しており、比高は9cmである。埋土は、1層が暗灰黄色砂、2層が暗灰黄色砂質土、3層が炭化物を含む黒褐色粘質土、4層が砂を含む黒褐色粘質土である（北3～6層）。出土した土器類のうち、須恵系土器で墨書されたものが確認できる。

SD1704b：a期より東に中心を移して作り替えられ、c期に大きく壊されている。方向は北で約1度

西に偏する。規模は上幅0.38～0.54m、下幅0.27～0.40m、深さ11～18cmである。断面形はU字形をしている。壁は垂直に立ちあがる。底面は、南へ傾斜しており、比高は8cmである。埋土は砂粒を含む黄灰色粘土である（北2層）。

SD1704c：b期の側溝を壊すようにほぼ同位置で作り変えられている。方向は北で約1度西に偏する。規模は上幅1.3～1.6m、下幅0.40～0.63m、深さ17～20cmである。断面形はU字形をしている。壁は丸みを帯び、内湾気味に立ち上がる。底面は南へ傾斜し、比高は8cmである。埋土は灰白色火山灰ブロックを含む黒褐色粘土である（北1層）。SD1703e期と灰白色火山灰を介して対応関係が明らかになっている。

【SX2200東0道路跡】（1－第16図、2－第71図）

D105区北部から中央部付近にかけて発見した素掘りの東側溝を伴う南北道路跡である。約27mにわたって検出した。SB2181・2182・2183・2184、SX2188、SX2202小溝群と重複しており、SB2183より新しく、それ以外のものより古い。ほぼ同位置で3時期の側溝の変遷を確認した。以下に個別に説明する。

A期：側溝の規模は上幅3.2～3.4m、下幅1.1～1.4m、深さ0.62～1.02mである。断面形は浅い逆台形であり、壁はやや急角度で立ち上がっている。底面はおおよそ平坦である。埋土は6層に細分され、1層は暗オリーブ褐色砂質土、2層は明黄褐色の粗砂層、3層は砂粒を少量含むオリーブ黒色粘土、4層はオリーブ黒色粘質土、5層は灰オリーブ砂層、6層はにぶい黄色粘質土ブロックを少量含む灰色粘土である。遺物は土器類をはじめ、製塩土器、竈形土器、甑、双耳瓶、骨角製品では骨鏃、木製品では木簡（第62号）・槽・斎串などが出土している。

B期：A期のものとほぼ同位置で作り替えられたものである。長さ17.7mにわたり検出した。c期側溝によって西半分を大きく破壊されている。規模は上幅30cm以上、下幅24～34cm、深さ33～44cmである。壁は東壁でみると、やや急角度に立ち上がる。底面は南へ傾斜しており、比高は12cmである。埋土は単層であり、炭化物、砂ブロック、植物遺存体を含む黒色粘土である。遺物土器類をはじめ、製塩土器、須恵系土器鉢、木製品では円形の曲物が出土している。

C期：A・B期のものとほぼ同位置で作り替えられている。長さ28.5m検出した。規模は上幅0.58～1.1m、下幅0.19～0.57cm、深さ21～40cmである。壁は底面付近から急角度に立ち上がっている。底面は中央部付近がやや窪み、北へ傾斜して比高が6cmある。埋土は炭化物、植物遺存体をやや含む黒色粘土である。遺物は土器類をはじめ、灰釉陶器椀、須恵系土器台付鉢、竈形土器、製塩土器、土錘、木製品では円形の曲物が出土している。

2　掘立柱建物跡

【SB889建物跡】（1－第36図、2－第23・24図）

A1区西半部の第Ⅴ層上面で発見した東西3間、南北2間以上の掘立柱建物跡である。SI894、SD1856と重複し、それらより新しい。柱穴は6基検出しており、このうち南東隅柱穴（P2）と南側柱列の西から2間目柱穴（P3）で柱痕跡を確認した。それ以外の柱穴には柱抜取り穴があり、いずれも埋土中に炭化物が多量に含まれていた。方向は南側柱列でみると、西で5度17分北に偏している。建物

の規模は南側柱列で約6.3mであり、柱間は西より約2.0m、約2.2m、2.15mである。柱穴の平面形はおおよそ方形であり、規模は1辺50～68cm、深さ35～52cmである。埋土は暗灰黄色砂質土が混入する黒褐色粘質土であり、南西隅柱穴では互層状になっている。柱痕跡は直径20～22cmであり、埋土は黒褐色粘土である。遺物は、柱穴埋土や抜取穴から、製塩土器をはじめ少量の土器類が出土している。

【SB890建物跡】（1－第37図、2－第23・24図）

A1区西半部のV層上面で発見した桁行3間以上、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。SB891と重複し、それより新しい。柱穴は6基検出しており、このうち南東隅柱穴（P3）と西側柱列の南から1間目柱穴（P6）で柱痕跡、それ以外の柱穴で柱抜取り穴を確認した。方向は南妻でみると、西で約2度北に偏している。梁行は南妻で約4.0mであり、柱間は西より約2.0m、約2.0mである。柱穴の平面形はおおよそ方形であり、規模は1辺40～54cm、深さ52～60cmである。埋土は炭化物を含む暗灰黄色粘土、褐灰色粘質土である。柱痕跡は直径18cmであり、埋土は炭化物が混入する黒褐色粘土、黄褐色粘土である。

【SB891建物跡】（1－第38図、2－第23・24図）

A1区西半部の第V層上面で発見した桁行2間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。SB890と重複し、それより古い。柱穴は8基すべて検出しており、このうち北東隅柱穴（P3）と西妻棟通り柱穴（P8）で柱痕跡、それ以外の柱穴で抜取り穴を確認した。方向は北側柱列でみると、西で約1度北に偏している。桁行は北側柱列で約4.5mであり、柱間は西より約2.3m、約2.2mである。梁行は西妻で約3.4mであり、柱間は南より約1.6m、約1.8mである。柱穴の平面形はおおよそ方形であり、規模は長辺35～40cm、短辺30～35cm、深さ10～48cmである。埋土は黒褐色粘土や黄褐色粘土が混入する暗灰黄色粘質土である。柱痕跡は直径10～14cmであり、埋土は黒褐色粘土である。

【SB1660建物跡】（1－第39図、2－第26図）

A81区の第V層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。SX1663と重複し、それよりも新しい。東側柱列と北妻棟通下柱穴を発見し、北東隅柱穴のみ抜取られている。方向は、東側柱列でみると、北で約3度東に偏する。桁行については、東側柱列で約5.2m、柱間は南より1.62m、1.74m、約1.8mである。梁行柱間は、北妻1間分が約2.1mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は一辺80～102cm、深さ50～70cmである。埋土はにぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色土である。柱痕跡は直径16～20cmの円形である。南東隅柱穴（第39図P5）の切取り穴から完形品の土師器杯・高台付皿、須恵器杯がまとまって出土している。

【SB1661建物跡】（1－第39図、2－第26図）

A81区の第V層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。SX1663と重複し、それよりも新しい。柱穴は南西隅柱穴以外の9基を発見し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。方向は東側柱列でみると、北で8度東に偏する。桁行については、東側柱列で6.20m、柱間は南より2.03m、2.00m、2.17mである。梁行については、北妻で4.78m、柱間は西より3.10m、1.68mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は一辺40～60cm、深さ50～70cmである。埋土は黄色粘質土ブロックを含む黒褐色粘質土である。柱痕跡は直径20cmの円形である。

【SB1662建物跡】（1－第40図、2－第25図）

A81区の第Ⅴ層上面で発見した桁行2間、梁行2間と考えられる南北棟総柱式掘立柱建物跡である。SK1651、SX1663と重複し、SX1663より新しく、SK1651より古い。柱穴は7基発見し、北東隅柱穴南から1間目のみ抜取られており、それ以外では柱痕跡を確認した。方向は、東側柱列でみると北で8度42分東に偏している。桁行については、東側柱列で3.18m、柱間は南より1.62m、1.56mである。梁行については、南妻で2.69m、柱間は西より1.34m、1.36mである。柱穴の平面形は長方形であり、規模は長辺80～90cm、短辺50～60cmである。埋土は、地山ブロックを多く含む暗灰黄色粘質土である。柱痕跡は直径20cm、深さ46cmである。

【SB2300建物跡】（1－第41図、2－第34図）

A8区北部、第Ⅴ層上面で発見した桁行4間以、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。SB2307・2309、SI2421と重複があり、それらより古い。方向は東側柱列で、北で約4度東に偏している。桁行は東側柱列で約6.9m、柱間が北より約1.2m、約1.5m、約2.7m、約1.8mである。梁行柱間は南妻1間分が約2.0mである。柱穴は11基発見した。平面形は方形である。規模は長辺50～80cm、短辺18～70m、深さは8～35cmである。調査区外にかかる2基以外全てを完掘した。埋土は、黒褐色土ブロックを含むオリーブ褐色砂質土である。柱痕跡は南東隅柱と東側柱列柱南から1間目、2間目、西側柱列の北から2間目の4基で確認した。直径8～14cmの円形である。埋土は均質な黒褐色土である。切り取り穴を伴っている。埋土は暗灰黄色砂質土ブロックを少量含む黒褐色土である。他の7基は抜き取られ柱痕跡は確認できなかった。埋土は北辺と東辺の6基では均質な黒褐色土で、ほかは暗灰黄色砂質土ブロックを少量含む黒褐色土である。東側柱列北から2間目で幅10cm、長さ26cmの礎板を確認している。

【SB2307建物跡】（1－第42図、2－第34図）

A8区北部の第Ⅴ層上面で発見した東西2間、南北2間の総柱式の掘立柱建物跡である。SB2300、SI2310と重複があり、それより新しい。2時期の重複がある（A→B期）。

A期：方向は東側柱列で、北で約7度東に偏している。梁行は北妻で約2.9m、柱間が西より約1.5m、約1.4mである。桁行は東側柱列で約3.7m、柱間は北から約2.0m、約1.7mである。柱穴は9基発見した。平面形は方形である。規模は長辺33～52cm、短辺26～50m、深さは14～49cmである。全てを完掘した。埋土は黄褐色砂質土ブロックを含む黒褐色粘質土である。柱痕跡は南東隅柱、南妻棟通で確認した。直径18～20cmの円形である。埋土はオリーブ褐色砂を含む黒褐色土である。ほかはすべて抜き取られ確認できなかった。埋土は黒褐色土ブロックを含む黄褐色砂質土である。南西隅柱で柱材を確認している。直径14cm、長さ20cmである。

B期：A期とほぼ同位置で建て替えたものである。方向は東側柱列で、北で約7度東に偏している。桁行は東側柱列で3.44m、柱間は北から1.69m、1.71mである。梁行は北妻で2.86m、柱間は西から1.47m、1.40mである。柱穴は9基発見した。平面形は不整形である。規模は長軸27～57cm、短軸26～38cm、深さ16～43cmである。全てを完掘した。埋土は黒褐色土ブロックを含む黄褐色砂質土である。柱痕跡は9基すべてで確認した。直径14～24cmの円形である。柱材を残すものもあり、北西隅柱穴で確認している。直径8cmの円形で、長さ8cmである。埋土は黄褐色砂質土ブロックを含む黒褐色粘質土である。中央の柱で礎板を確認している。

【SB2290建物跡】（1－第43図、2－第36図）

A8区中央部、第Ⅴ層上面で発見した東西2間以上、南北2間以上の掘立柱建物跡である。ここでは東西棟と見ておく。SB2316と重複があり、それより新しい。方向は西妻で、北で9度23分東に偏している。桁行柱間は西より2.32m、2.52mである。梁行は西妻で4.17mであり、柱間は北から2.09m、2.08mである。柱穴は5基発見した。平面形は方形である。規模は長辺52～78cm、短辺33～68cm、深さは28～41cmである。全てを完掘した。埋土は黄褐色砂質土ブロックを含む黒褐色粘質土である。柱痕跡は5基すべてで確認した。直径14～18cmの円形である。埋土は黒褐色粘質土である。南西隅柱で柱材を確認している。直径14cm、長さ20cmである。西妻の南から1間目、2間目、南側柱列の西から1間目の3基で礎板を確認している。

【SB2316建物跡】（1－第44図、2－第36図）

A8区中央部、第Ⅴ層上面で発見した桁行5間以上、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。SB2290、SI2231、SK2293・2308、SD2296と重複があり、SI2231より新しくほかより古い。方向は西側柱列でみると、北で約2度西に偏している。桁行は西側柱列で8.3m以上、柱間は北より約2.1m、約2.0m、約1.9m、約2.3mである。梁行柱間は南妻1間分が約2.5mである。柱穴は8基発見した。平面形は方形である。規模は長辺72～105cm、短辺62～93m、深さは29～60cmである。全てを完掘した。埋土は灰白色土、灰黄色土、オリーブ褐色砂質土や暗灰色砂質土、黒褐色粘質土、黄褐色砂質土などの互層である。柱痕跡は南東隅柱穴と東側柱列柱南から1間目柱穴で確認した。直径12～23cmの円形である。埋土は砂粒を含む黒褐色粘質土である。他の6基は全て抜取られて柱痕跡は確認できなかった。抜取り穴の埋土は黒褐色粘質土、褐灰色粘質土，黄灰色粘質土、および暗灰黄色砂質土である。

【SB2309建物跡】（2－第34図）

A8区北部の第Ⅴ層上面で発見した東西1間以上、南北2間の掘立柱建物跡である。ここでは東西棟と見ておく。SB2300と重複があり、それより新しい。方向は、西妻みると、北で9度2分東に偏している。桁行柱間は南側柱列の1間分が1.84mである。梁行は、西妻1間分が1.78mである。柱穴は4基発見した。平面形は方形である。規模は長辺40～63cm、短辺36～51m、深さは18～32cmである。調査区外にかかる1基を除いて全てを完掘した。埋土は黒褐色土ブロックを含む黄褐色砂質土である。柱痕跡は3基で確認した。直径15～20cmの円形である。埋土は黄褐色砂質土ブロックを含む黒褐色粘質土である。南西隅柱穴で礎板を確認している。

【SB2313建物跡】（2－第35図）

A8区北部の第Ⅴ層上面で発見した東西2間以上、南北1間以上の掘立柱建物跡である。ここでは東西棟と見ておく。SD2296と重複があり、それより古い。方向は南側柱列で、東で6度1分北に偏している。桁行は南側柱列で5.16m以上、柱間は、西より約2.8m、約2.3mである。梁行柱間は西妻1間分が2.32mである。柱穴は5基発見した。平面形は方形を基調としている。規模は長辺45～74cm、短辺28～55m、深さは26～34cmである。調査区外にかかる1基を除いて全てを完掘した。埋土は灰黄色粘質土ブロックを多く含む褐灰色粘質土である。柱痕跡は4基で確認した。直径16～18cmの円形である。埋土は褐灰色粘質土である。南側柱列西から1間目の1基だけが抜取られていた。埋土は、褐灰色粘土ブロックを含む灰黄褐色砂質土である。

【SB2330建物跡】（1－第53図、2－第45図）

A98区中央部の第Ⅴ層上面で発見した桁行7間、梁行3間の南北棟掘立柱建物跡である。側柱に平行する「側柱内の柱列」を2条伴っている。SD2329と重複があり、それより古い。側柱はすべて検出し、南妻中央の2基をのぞいて柱痕跡も確認している。方向は、東側柱列でみると北で0度21分西に偏している。桁行については、東側柱列で17.74m、柱間は北から3.68m、2.05m、2.08m、2.09m、2.08m、2.02m、3.74mである。梁行については、北妻で6.40m、柱間は西より2.08m、2.23m、2.09mである。「側柱内柱列」についてみると、東列は棟通り下よりやや西側にあり、その両端はそれぞれ北妻・西妻に接する位置までのびている。一方、西列は西側柱列と東列のおおよそ中間にあり、北妻とそれより1間目の柱穴との間から、南妻とそれより1間目の柱穴の間までのびている。東列の柱穴は南妻の柱穴を切っており、工程差を示している。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺92～175cm、短辺78～126cm、深さ72～120cmである。埋土はにぶい黄褐色土と黒褐色粘土の互層である。柱痕跡は直径26～42cmの円形であり、半截した5基のうち4基では柱材が残存していた。規模は、直径26～34cm、長さ34～95cmであり、掘り方底面より6～40cm沈み込んでいた。埋土は、黒褐色粘土もしくは灰黄褐色粘土である。南妻の西より1間目・2間目の柱穴で抜取り穴を確認した。2基とも掘り方の南側から掘り込まれている。埋土には、炭化物粒、焼土粒、黄褐色土粒を含んでいる。「側柱内の柱列」の柱穴は平面形が方形であり、規模は長辺55～120cm、短辺50～85cm、深さ16～56cmである。埋土は黄褐色砂質土ブロックを含む灰黄褐色土、黒褐色粘土である。柱痕跡はすべて抜き取られており、中には柱痕跡状のあたりを残しているものも確認できる。埋土は炭化物粒・黄褐色砂質土粒を含む黒褐色粘土である。

【SB2312建物跡】（1－第52図、2－第31図）

A82区中央部、第Ⅴ層上面で発見した桁行2間以上、梁行3間の南北棟掘立柱建物跡である。側柱に平行する「側柱内柱列」を2条伴っており、SB2330と同様の構造をもつ建物跡である。SX2453と重複があり、それより古い。方向は、南妻でみると東で1度15分南に偏している。梁行は南妻で6.45mであり、桁行柱間は、西側柱列で北より2.14m、3.50mである。側柱の平面形は方形を基調としており、規模は長辺114～210cm、短辺90～150cm、深さは58～104cmである。全てを完掘した。埋土はにぶい黄褐色土と黒褐色粘土の互層である。すべての柱穴で柱材が残存しており、規模は、直径24～38cm、長さ45～79cmである。いずれも掘り方底面より35～70cm沈み込んでいる状況を確認することができた。柱痕跡埋土はわずかに炭化物粒を含む黒褐色粘土である。南西隅、西側柱列南から1間目、東側柱列南から1間目の各柱穴で切取り穴を確認した。埋土は、いずれも上層に炭化物粒・焼土粒・灰を含んでおり、特に後者において顕著である。「側柱内柱列」の柱穴においては、平面形は方形であり、規模は長辺70～108cm、短辺70～77cm、深さ15～43cmである。東列の方向は、北で約5度東に偏している。埋土は、黒褐色土ブロックを含む黄褐色土である。柱は柱痕跡状にあたりを残してすべて抜き取られていた。抜取り穴埋土は灰黄褐色土、黄褐色土粒を含む黒褐色土である。

【SX2331】（1－第54図、2－第45図）

A区98区西半部の第Ⅴ層上面で発見した溝状のくぼみである。SD2329と重複しており、それより古い。SB2330をはさんでSX2332とはおおよそ対象の位置にあることから、SB2330に関わる施設とみられる。いく層にもわたる部分的な堆積層によって構成される。平面形は溝状で、断面形は浅い皿状であ

る。規模は、上幅1.25～3.60m、長さ19.0m、深さ28cmである。埋土は、a層が黄色土ブロックを含む黒色粘土、b層の上層が灰を含む灰黄褐色粘土（1－第54図北1層、南1層）、下層が黒褐色砂質土をわずかに含む灰黄褐色粘質土（北2層）、c層が黒褐色粘土（南2層）、d層の上層が黄褐色砂質土ブロックを黒褐色粘土（南3層）、下層が黒褐色粘土ブロックを含む黄褐色砂質土（北3層、南4層）、e層が炭化物粒や少量の黄色砂質土ブロックを含む灰黄褐色粘質土、f層の上層が炭化物粒や黄色砂質土ブロックを含む灰黄褐色粘質土（北4層）、下層が炭化物粒や黄色砂質土ブロックを大きく多量に含む灰黄褐色粘質土（北5層）、g層が黒褐色土である。遺物は、竈形土器が出土している。

【SX2332】（1－第54図、2－第45図）

A98区東部の第Ⅴ層上面で発見したくぼみである。SD2329と重複がありそれより古い。SX2331とSB2330をはさんで平行に位置していることからSX2331とともにSB2330の施設と見られる。A82区SB2312とSX2327、2328でも同じ関係と見られる。平面形は、西辺が直線的、東辺が緩やかな弧を描いている。断面形は浅い皿状であり、規模は長軸8.7m、短軸2.7m、深さ12cmである。埋土は、1層が黄褐色砂質土をわずかに含む灰黄褐色粘質土、2層が黒褐色粘質土ブロック黄褐色砂質土ブロックを含む灰黄褐色粘質土である。

【SB2390建物跡】

A97区で発見した桁行6間以上、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。第Ⅳ層に覆われており、第Ⅴ層上面で検出した。北妻は旧砂押川によって大きく破壊されており、確認できたのは、両側柱列とも5間分である（註）。北辺を除く各辺では雨落溝も発見した。SD2393、第Ⅳ層上から掘り込まれた南北に長い土壙状の落ち込みやSI2399と重複しており、前二者より古く、後者より新しい。南西隅柱穴、南妻棟通柱穴、西側柱列の南より1間目柱穴では一度柱を据えなおしている状況を確認している。検出したすべての柱穴で柱あるいは柱痕跡を確認しており、方向は東側柱列でみると北で0度28分東に偏しており、おおむね南北発掘基準線と一致している。桁行柱間は、東側柱列で南より3.00m、2.94m、2.94m、2.98m、2.91m、西側柱列で南より6.04m、3.02m、2.92m、3.00m（2間分）である。梁行については、南妻で6.11mである。軒の出は、東西両側柱とそれぞれの雨落溝中心との間隔から約1.9mと推定される。柱穴の平面形は方形を基調にするものと円形に近いものとがある。前者は、大きなもので長辺1.9m、短辺1.6m、小さなもので一辺1.4mである。後者は大きなもので直径約2.0m、小さなもので直径約1.6mである。本建物については、南妻、東側柱列の南から1・2間目柱穴、西側柱列の南から1間目柱穴について截ち割り調査を実施したところ、南東隅柱穴とそれより1・2間目の柱穴では柱材が良好に残存していた。規模は直径32cmであり、手斧痕が明瞭に残っている。いずれの柱も掘り方底面より沈み込んでおり、南東隅柱穴では約30cm、南妻より1間目の柱穴では45cm、2間目の柱穴では20cmと大きく沈み込んだ状態が確認できた（図版42）。一方、南西隅柱穴、南妻棟通柱穴、西側柱列の南より1間目柱穴など一度柱を据え直している柱穴では柱材は残存していなかったが、礎板の上に据えられた状態を確認することができた。

（註）本建物跡と柱筋を揃えてその北側に位置するSB2389との間隔を、Bブロックの SB1●●0とSB1010の間隔と同様に約5mと想定すると、本建物跡は桁行7間の可能性がある（多賀城市教育委員会『市川橋遺跡―第23・24次調査報告書―』多賀城市文化財調査報告書第55集 1999）。

【SB2389建物跡】

A97区の第Ⅴ層上面で発見した南北棟掘立柱建物跡である。旧砂押川によって大きく破壊されており、検出できたのは南妻の南東隅と棟通下柱穴、南妻より１間目の両側柱列の柱穴である。棟通下柱穴は抜き取られていたが、他の柱穴では柱痕跡を確認した。両側柱列の柱穴は、その南側にあるSB2390両側柱列の柱筋上にあり、方向はSB2390と同様とみられる。桁行柱間は、東側柱列の１間分が2.96m、梁行は南妻より１間目でみると6.07mである。柱穴の平面形は丸みを帯びた方形を呈しており、大きなもので長軸2.2m、短軸2.0m、小さなもので長軸0.8m、短軸0.7m である。柱痕跡は直径15～20cmである。

【SD2391雨落溝】

A97区のSB2390の南辺を巡る雨落溝である。第Ⅴ層上面で検出し、SB2390構築後、南東隅柱穴の埋土の一部を切って掘削されている。SB2390棟通柱穴の南側から９区の東壁付近まで延びており、SD2398南北溝と交差している。方向はおおむねSB2390の南妻と一致しており、規模は上幅約0.4m、深さは５cmである。

【SD2392 雨落溝】

A97区のSB2390の西辺を巡る雨落溝である。第Ⅳ層に覆われており、第Ⅴ層上面で確認した。検出できたのは、第Ⅳ層に直接覆われるところから南側へ約11.6m である。方向は、おおむねSB2390の西側柱列の方向と一致している。規模は、上幅約0.9m、深さ約25cmである。埋土は黒褐色砂質土で、上層には壁材（砌入り粘土）を含む多量の焼土ブロックが堆積している。

【SB2161建物跡】（１－第57図、２－第40・44図）

A９区中央部の第Ⅴ層上面で発見した桁行３間、梁行２間の掘立柱建物跡である。西側柱列が調査区西壁にかかっている。SX2162整地層と重複しており、それらより新しい。ほぼ同位置で２時期の変遷が確認された。以下に個別に説明する。

A期：B期柱穴に大きく壊されているため、柱位置がわかるものはない。柱穴の平面形は概ね方形であり、柱穴の規模は残存しているもので、長辺40～74cm、短辺36～62cm、検出面からの深さは12～36cmである。埋土はにぶい黄色粘質土ブロックを含む暗灰黄色粘質土である。

B期：方向は東側柱列の北で約１度東へ偏している。桁行は東側柱列で総長約5.35m、柱間は南より1.40m、約2.1m、1.85mである。梁行は北妻で総長約4.4m、柱間は西より約2.3m、2.10mである。柱穴は調査区内で６基、調査区西壁で４基発見した。柱穴の平面形は方形である。規模は長辺40～70cm、短辺32～68cm、検出面からの深さは26～50cmである。掘り方埋土は、にぶい黄色粘質土を多量に含む黒褐色粘質土である。柱痕跡は西側柱列、南東隅柱から北へ１間目をのぞく全ての柱穴で確認した。直径12～18cmの円形であり、埋土は黒色～黒褐色粘土である。なお、北東隅柱穴（Ｐ５）では柱材が残存しており、その長さは28cmである。柱痕跡の無い柱穴では柱の抜取り穴を確認した。埋土はにぶい黄色粘質土を多量に含む暗灰黄色粘質土である。

【SB1668建物跡】（１－第58図・２－第52図）

A11区東半部のSX1715上面で発見した東西３間、南北２間以上の掘立柱建物跡である。柱穴は６基検出しており、柱はすべて抜き取られていた。方向は東西方向の柱列でみると、西で約２度北に偏している。建物の規模は東西方向の柱列で約7.5m であり、柱間は西より約2.6m、約2.5m、2.4mである。柱

穴の平面形はおおよそ方形であり、規模は長辺60～75cm、短辺54～70cm、深さ42～58cmである。埋土は暗灰黄色砂質土が混入する黒褐色粘質土である。柱痕跡は直径20～22cmであり、埋土は黒褐色粘土である。また、東西方向の柱列の西から1間目柱穴（P4）と2間目柱穴（P3）で礎板を確認した。遺物は、柱穴埋土や抜取り穴から、製塩土器をはじめ少量の土器類が出土している。

【SB1669建物跡】（1－第59図・2－第54図）

A11区中央部のSX1716上面で発見した桁行2間以上、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。柱穴は5基検出しており、柱はすべて抜き取られていた。方向は南妻でみると、西で約3度北に偏している。梁行は南妻で約5.5mであり、柱間は西より約2.8m、約2.7mである。柱穴の平面形は方形あるいは楕円形であり、規模は方形のものが長辺70～90cm、短辺68～75cm、楕円形のものが長径107cm、短径95cm、深さ32～60cmである。埋土は、いずれも炭化物、にぶい黄色土が多量に混入する黒褐色粘土・暗灰黄色粘土である。また、南東隅柱穴（P2）と南妻棟通り柱穴（P3）で礎板を確認した。遺物は、柱穴埋土や抜取り穴から多くの土器類が出土している。このうち、抜取り穴から須恵系土器杯が出土しているほか、須恵器杯にはヘラガキ土器「ー」や、油煙付着土器もある。また、少量の製塩土器も出土している

【SB1670建物跡】（1－第59図・2－第54図）

A11区西半部のSX1716上面で発見した桁行2間以上、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。柱穴は6基検出しており、このうち南東隅柱穴（P7）、南妻棟通り柱穴（P8）、西側柱列南より1間目柱穴（P10）で柱痕跡を確認した。それ以外の柱穴には柱抜取り穴があり、いずれも埋土中に焼土や地山ブロックが混入している。方向は南妻でみると、西で約5度北に偏している。梁行は南妻で約5.5mであり、柱間は西より約2.8m、2.70mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺42～62cm、短辺38～50cm、深さ28～32cmである。埋土は炭化物、にぶい黄色土が多量に混入する暗灰黄色粘質土、黒褐色粘質土である。遺物は、柱穴埋土や抜取り穴から、少量の土器類や緑釉陶器椀（或いは皿）、製塩土器が出土している。

【SB1857建物跡】（2－第55図）

A11区西半部のSX1716上面で発見した桁行3間以上、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。SK1698と重複し、それらより古い。同位置で2時期の変遷を確認している（A→B期）。

A期：南妻がB期の柱穴によって大きく破壊されているものの、計6基の柱穴を検出した。このうち東側柱列南から1間目の柱穴と西側柱列南から1間目・2間目の柱穴で柱抜取り穴を確認した。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺60～80cm、短辺55～70cm、深さ18～30cmである。埋土は炭化物、にぶい黄色土が混入するにぶい黄褐色土、黒褐色粘質土である。

B期：A期とほぼ同位置で建替えたものである。柱穴は8基検出しており、このうち南妻で柱痕跡、東側柱列南から1間目・2間目の柱穴と西側柱列南から1間目の柱穴で柱抜取り穴を確認した。方向は東側柱列でみると、北で約14度北に偏している。桁行は東側柱列で3.7m以上であり、柱間は南より約1.7m、約2.0mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺60～75cm、短辺50～70cm、深さ24～45cmである。埋土は炭化物、にぶい黄色土ブロックが混入するにぶい黄褐色土、黒褐色粘質土である。遺物は、柱穴埋土や抜取り穴から、少量の土器類が出土している。このうち、須恵器杯にはヘラガキ土器「－」がある。

3 柱列跡

【SA897柱列跡】（1－第37図、2－第23・24図）

A1区西端部の第Ⅴ層上面で発見した東西方向の柱列跡で、長さ約5.9mにわたって検出した。柱痕跡は確認できなかったが、人為的に埋め戻された埋土とそれよりも新しい溝跡が同位置で重複することから、前者を掘り方埋土、後者を柱抜取り穴と考え、柱列跡と推定した。SI894と重複し、それよりも古い。方向は、北で約1度東に偏している。掘り方の規模は上幅約0.9m、下幅約0.7m、深さ0.3mである。断面形は逆台形を呈しており、壁は垂直に上がっている。埋土はにぶい黄橙色が小ブロック状に多量に混入する黒褐色粘土である。柱抜取り穴は埋土は2層に大別できる。1層は褐灰色粘土が斑状に混入する浅黄色砂質土、2層は浅黄色砂質土、にぶい黄橙色粘土が斑状に混入する黒褐色粘土である。

4 竪穴住居跡

【SI894竪穴住居跡】（2－第23・24図）

A1区西端部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡であり、北半部は調査区外に延びている。上面での削平が著しく、検出した段階で床面が露出していた。SA897、SB889と重複し、前者よりも新しく、後者よりも古い。平面形は方形であり、規模は、東西3.6m、南北2.4m以上である。方向は、南辺でみると西で約9度北に偏している。床面は、黒褐色粘土が混入するにぶい黄色粘質土の貼床である。残存する床面の厚さは2～14cmである。カマド・周溝・柱穴については確認できなかった。

【SI1664竪穴住居跡】（1－第45図、2－第28図）

A42区東半部のSX1667河川跡埋土上で発見した竪穴住居跡である。第Ⅳ層に覆われる。平面形は方形である。方向は、南辺でみると西で約7度北に偏している。ほぼ全面に貼床を確認し、床面上ではカマドを検出した。カマドは前端幅50cm、奥行き50cmであり、燃焼部は床面より5cm窪んでいる。煙道は長さ0.94m、幅22cmであり、煙出し付近は崩落により大きく窪んでいる。埋土は、炭化物を含むオリーブ褐色砂質土である。

【SI2291竪穴住居跡】（2－第37図）

A8区中央部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SB2316、SK2293・2308と重複があり、それらより古い。平面形は方形である。東、北辺は後世の削平で失われている。周溝と床の一部を残すのみである。2時期の重複がある（A→B期）。

A期：方向は、西辺でみると、北で約2度西に偏している。規模は、南北1.8m、東西0.6m以上である。床面は、地山面である。周溝は西辺で確認した。上幅16～24cm、深さ2～3cm。埋土は褐色土ブロックを含む灰白色土である。

B期：方向は、西辺でみると、北で約1度西に偏している。規模は、南北4.7m、東西4m以上である。床面は、ほとんどが地山面まで削平されているが一部貼り床を確認した。周溝は西辺と南辺で確認しており、上幅12～40cm、深さ3～10cm、埋土は褐灰色土である。遺物は、B期周溝より製塩土器が出土している。

【SI2292竪穴住居跡】（2－第36図）

A8区中央部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SB2316と重複があり、それより古い。平面

形は方形である。西辺は調査区外に延びている。方向は、東辺で、北で約４度西に偏している。規模は、南北5.4m、東西4.4m 以上である。床面は全面が褐色土ブロックを含む灰黄色土の貼床である。床面上で周溝、柱穴、カマドを確認した。周溝は東辺と北辺で確認した。そのうち東辺の周溝は一部途切れている。規模は上幅15～25cm、深さ４～９cmである。柱穴は１基確認した。主柱穴と見られ、３時期の重複を確認した。平面形は円形と方形であり、規模は、Ａ期で直径33cm、Ｂ期は長辺50cm、短辺48cm、Ｃ期は長辺62cm、短辺40cmである。カマドは、東辺南寄りに敷設されている。周溝の途切れた間に焼面とその外側に煙出しと見られる小穴を確認したのみである。焼面は周溝ラインより30cm東側に張り出している。長辺60cm、短辺36cm、深さ３cmである。埋土は、炭化物・焼土ブロックを含む褐灰色土である。煙道は不明であるが、煙出しは、カマド焼面から70cm外側で確認した。規模は、長軸49cm、短軸28cm、深さ12cmである。埋土は、１層が炭化物粒を含む褐灰色土、２層が炭化物粒を少量に含む灰オリーブ色土、３層が焼土ブロックや黄褐色土ブロックを含む褐色土である。

【SI2310竪穴住居跡】（２－第35図）

Ａ８区中央部、第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SB2300・2307と重複があり、それらより古い。平面形は方形である。北辺は削平されている。方向は、南辺でみるとおおよそ発掘基準線と一致している。規模は、南北3.64m 以上、東西4.26m である。床面は壁際に沿って60～100cm幅を残すのみである。周溝は東・西・南辺の床面上で確認した。規模は上幅12～28cmである。柱穴、カマドなどの施設は確認していない。

【SI2419竪穴住居跡】（２－第39図）

Ａ８区南半部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。平面形は方形である。東辺と北辺の一部は調査区外に延びている。方向は、西辺でみると北で約２度東に偏している。規模は、南北4.4m、東西4.25m である。床面は西辺と南辺の壁際で幅1.3～2.4m の範囲で残存していた。床面上で周溝、柱穴、カマドを確認した。周溝は西辺のみで検出し、規模は上幅約15cmである。柱穴は２基確認した。平面形は方形であり、規模は、長辺55～58cm、短辺42～52cmである。柱は２基とも抜き取られていた。カマドは、北辺西寄りに敷設されたと見られ、幅40cm、長さ150cmの焼面を確認した。

【SI2420竪穴住居跡】（２－第29図）

A82区西半部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。平面形は方形である。北辺以外はほとんどが調査区外に延びている。方向は、北辺でみると東で約１度北に偏している。規模は、南北1.55m以上、東西4.35mである。床面は貼床であり、その上面で周溝を確認した。規模は上幅約10～12cm、深さ10cmである。柱穴、カマドその他の施設は確認していない。

5 井戸跡

【SE2315井戸跡】（１－第46図、２－第30図）

Ａ82区中央部、第Ⅴ層上面で発見した井戸跡である。SD2318と重複があり、それより新しい。井戸側は掘り方の中央に配され、内法は、東西78～85cm、南北82cmのほぼ正方形である。構造は、掘り方内に縦板を据え、内側で横木をはめ込んで背面の縦板を支えている縦板組である。側板の規模は長さ65～90cm、幅約30～50cm、厚さ約５～８cm、横木は長さ80cm以上、幅６～12cmである。埋土は６層が

少量の灰白色火山灰ブロックと多量の木屑を含む暗青灰色粘土、7層が少量の灰白色火山灰ブロックと多量の木屑を含む青灰色砂質土である。8層は多量の灰白色火山灰ブロックと少量の淡黄色粘土を含む黄灰色粘土、9層が多量の灰白色火山灰ブロックと少量の淡黄色粘土を含む褐灰色粘質土である。掘り方の平面形は隅丸方形で、壁は垂直に立ちあがる。規模は、検出面で東西1.73m、南北1.55m、深さ1.37mである。切取り穴は掘り方よりも大きく東に張り出し、側板を切取っている。埋土は1層が炭化物粒を含む黒褐色粘土、2層が灰白色火山灰ブロックと少量の淡黄色粘土を含む灰黄褐色粘土、3層が少量の灰白色火山灰ブロック、多量の黄灰色土ブロックを含む淡黄色粘土である。遺物は、切取り穴より須恵系土器杯が出土している。

【SE2421井戸跡】（1－第47図、2－第23・34図）

A8区北部の第V層上面で発見した井戸跡である。SB2300、小溝群と重複があり、それらより新しい。井戸側は掘り方の中央に配され、内法は東西80cm、南北80cmの正方形である。構造は、掘り方内に4本の支柱を立て、それぞれに横木をわたし、各辺背面の縦板を支えている縦板組である。側板は長さ118～150cm、幅約30cm、厚さ約2.5cm、支柱は長さ140～180cm、直径8～18cm、横木は直径6cmである。埋土は少量の炭化物粒・少量の焼土粒を含む黒褐色粘土で、中ほどに多量の石を含んでいる（4層）。掘り方の平面形は方形で、検出面では長辺3.0m、短辺2.7mであるが、一段下がった部分では、中段上幅で東西140cm、南北140cmの正方形である。壁はおおむね垂直に立ちあがっており、深さ2.06mである。埋土は上層が黄褐色粘土ブロックを多量に含む浅黄色粘土（5～6、8～9層）、下層が黄褐色粘土大ブロックを多量に含む浅黄色粘土や植物遺存体を多量に含む暗青灰色粘土である（7、10層）。井戸側周辺において切取り穴を確認した。埋土は1層が灰黄褐色粘質土、2層が灰白色火山灰、3層が少量の炭化物粒少量の焼土粒を含む黒褐色粘土である。遺物は、切取り穴より須恵系土器台付鉢が、井戸側内埋土より斎串が出土している。

【SE2299井戸跡】（1－第48図、2－第37図）

A8区中央部の第V層上面で発見した井戸跡である。SD2298、SX2308、と重複があり、それらより新しい。井戸側は掘り方の中央に配され、内法は上端で、東西60～62cm、南北66cmのほぼ正方形である。井戸側の構造は、横板を組んで積み上げた井篭組である。側板は、長さ約90cm、幅約15～35cm、厚さ約2.5cmである。南面では1本だけ丸太材が使われており、直径12cm、長さ82cm以上である。埋土は灰白色火山灰、地山ブロックを含む灰褐色粘質土である。掘り方の平面形は方形で、規模は、東西2m以上、南北2.2m、埋土は地山ブロックを多量に含む黒褐色粘質土である。井戸側周辺に切取り穴があり、側板を切取っている。埋土は灰白色火山灰、地山ブロックを含む灰褐色粘質土であり、側内部とともに一度に埋め戻されたものと見られる。遺物は、切取り穴や側内埋土より須恵系土器杯、灰釉陶器椀、製塩土器が出土している。

【SE2314井戸跡】（1－第49図、2－第39図）

A8区南半部の第V層上面で発見した井戸跡である。南西部が調査区外に延びるためほぼ半分検出したにとどまった。井戸側は掘り方の中央に配され、内法は上端で、東西50cm以上、南北70cm以上である。井戸側の構造は、掘り方内に縦板を据え、杭で支えた縦板組である。埋土は少量の灰色砂を含む黒褐色砂、および黒褐色粘質土である（5層）。掘り方の平面形は不整形で、規模は、東西2.2m以上、南北

2.2m以上、埋土は灰黄褐色粘土ブロックを含む黒色砂質土である（6～9層）。井戸側周辺に切取り穴を確認した。埋土は1層が灰白色火山灰ブロックを含む黒褐色粘土、2層が多量の炭化物粒を含む黒色土、3層が灰白色火山灰ブロックや炭化物粒を含む黒褐色土、4層が灰オリーブ粘土ブロックを含む黒色砂質土である。遺物は、切取り穴より須恵系土器台付鉢、掘り方より製塩土器が出土している。

【SE2148井戸跡】（1－第62図、2－第40・42図）

A9区北部の第Ⅳ層上面で発見した井戸跡である。他の遺構との重複はない。縦板組みの井戸側を備えている。井戸側の上部は抜取り穴によって壊されている。抜取り穴の平面形は南北にやや長い円形である。規模は長径1.06m、短辺1.0m、深さ0.72mである。抜取り穴の埋土は2層に細分され、1層は灰白色火山灰粒を含む黒褐色砂質土、2層は灰白色火山灰をブロック状に含む黒色砂質土である。掘り方の平面形は南北にやや長い方形であり、規模は長辺1.92m、短辺1.82m、検出面からの深さは1.62mである。壁は上端部がやや開くが底面へ急角度に下がっている。掘り方埋土は黒褐色砂質土である。井戸側は、四隅に丸杭の支柱を立て、縦板を各辺に2～3枚並べ、直径6cmの丸材を横桟として支柱に渡し、縦板をおさえる構造となっている。縦板の規模は、長さ0.8～1.1m、幅20～42cmである。井戸側の内法は南北0.6m、東西0.86mである。遺物は土器類をはじめ、緑釉陶器椀、灰釉陶器瓶、須恵系土器杯、製塩土器、木製品では挽物合子、下駄、円形の曲物などが出土している。

【SE2149井戸跡】（1－第64図、2－第40・43図）

A9区中央部の第Ⅳ層上面で発見した井戸跡である。他の遺構との重複はない。ほぼ同位置で2時期の変遷がある。（A→B期）

A期：B期に大きく壊されており、掘り方の一部を確認した。残存する掘り方の規模は東西1.6m以上、深さ0.6m以上である。埋土はにぶい黄色粘質土をブロック状に含む黒褐色砂質土である。

B期：A期とほぼ同位置に作られており、横板組みの井戸側を備えている。井戸側の上部は抜取り穴によって大きく壊されている。抜取り穴の平面形は東西にやや長い円形であり、規模は長径1.85m、短辺1.6m、深さ0.9mである。抜取り穴の埋土は2層に細分され、1層は灰白色火山灰をブロック状に含む灰色砂質土、2層は炭化物を含む黄灰色粘質土である。掘り方の平面形は東西にやや長い方形であり、規模は長辺2.39m、短辺2.14m、検出面からの深さは1.63mである。断面形は漏斗状を呈しており、上部はやや開くが、底面へ急角度に下がっている。掘り方埋土はにぶい黄色粘質土ブロックを少量含む黒色砂質土である。井戸側は各辺4～6枚の横板を組み合わせた横板組みであり、内法は東西0.7m、南北0.6mである。底面には方形の曲物が据えられており、その規模は長辺42cm、短辺32cm、高さ8cmである。井戸側内埋土は炭化物、植物遺存体を多量に含む黒褐色粘土である。遺物は土器類をはじめ、須恵系土器杯・鉢、製塩土器、木製品では横櫛、斎串、円形の曲物などが出土している。

【SE2165井戸跡】（2－第40・44図）

A9区南半部の第Ⅳ層上面で発見した素掘りの井戸跡である。他の遺構との重複はない。平面形は円形であり、規模は直径0.86m、深さ0.83mである。壁はやや急角度で立ち上がっている。遺物は土器類をはじめ、製塩土器などが出土している。

【SE2150井戸跡】（1－第63図、2－第40・42図）

A9区北部の第Ⅳ層上面で発見した井戸跡である。SD2151と重複しており、それより古い。井戸側の

構造は横板組みである。井戸側の上部は抜取り穴によって壊されている。抜取り穴の平面形は東西にやや長い楕円形である。規模は長径2.2m、短径2.1m、深さ1.1mである。抜取り穴の埋土は4層に細分され、1層は炭化物を少量含む黒褐色砂質土、2層は灰白色火山灰をブロック状に含む黒褐色砂質土、3層は炭化物、焼土を含む黒褐色砂質土、4層は炭化物を少量含む黒褐色粘土である。掘り方の平面形は東西にやや長い方形であり、規模は長辺2.89m、短辺2.03m、検出面からの深さは1.92mである。壁は上端部がやや開いており、断面形は漏斗状である。掘り方埋土は3層に細分され、1層はにぶい黄色粘質土をブロック状に含む黒褐色粘質土、2層は黒色粘土、3層はにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黒色粘質土である。井戸側の構造は横板組みであり、各辺2～3枚の横板を組み合わせて並べている。井戸側の内法は南北38～54cm、東西64cmである。底面には方形の曲物が据えられており、その規模は、長辺38cm、短辺34cm、高さ36～48cmである。井戸側埋土は黒色粘土である。遺物は土器類をはじめ、須恵系土器高台付杯・杯、製塩土器、竈形土器、木製品では斎串・挽物椀、挽物漆器皿・下駄・方形の曲物などが出土している。

【SE1671井戸跡】（1－第65図・2－第54図）

A11区中央部のSX1716下層で発見した井戸跡である。外側に縦板を立て並べ、内側に横板を並べた井戸側を備えている。SX1724と重複し、それよりも新しい。井戸側は、掘り方中央で確認した。側板上部は抜き取られているが、下部は良好に残存していた。側板の組み立てについては、①幅65～80cm、長さ1.5mの横板を各辺に設置する。②設置した横板が内傾するのを防ぐため、各横板が接する内側4隅に支柱を打ち込む。③横板の外側に2～4枚の縦板を立て並べ補強するという工程であったと考えられる。規模は、内法で東西60cm、南北62cmである。掘り方の平面形は方形であり、規模は長辺3.1m、短辺2.8m、深さ0.8mで、井戸側を設置した部分のみ一段深く掘り下げられている。断面形は概ね逆台形であり、壁は垂直気味に立ち上がっている。埋土は6層に大別することができる（1－第65図：6～11層）。6層は褐灰色粘土や明黄褐色砂が混入するにぶい黄色砂、7層はにぶい黄色砂が混入する灰黄褐色砂、8層はにぶい黄色粘土が混入するにぶい黄色砂、9層は暗灰黄色粘土が混入する黄褐色砂質土、10層は黒褐色粘土が多量に混入する黄褐色砂質土、11層は緑灰色砂質土が混入する黒褐色粘土である。遺物は、掘り方埋土や井戸側内埋土、抜取り穴埋土から、多くの土器類をはじめ、製塩土器、竈形土器、紡錘車（土製品）が出土している。土器類のうち、須恵器杯や土師器杯には墨書土器「厨」・「中」・「大」・「○」や、ヘラガキ土器「－」、漆付着土器、油煙付着土器がある。

【SE1672井戸跡】（1－第67図・2－第52図）

A11区東端部のSX1715上面で発見した井戸跡である。外側に縦板を立て並べ、内側に横板を積み上げた井戸側を備えている。SD1858と重複し、それよりも新しい。井戸側は、掘り方のやや南よりで確認した。側板上部は抜取られているが、下部は良好に残存していた。側板の組み立てについては、①掘り方底面に幅20cm、長さ80cmの板を井桁状に組む。②その上に、両端に溝状の切り込みを入れた幅20～35cm、長90cmの横板を各辺交互に積み重ねる。③積み重ねた横板の外側4隅に支柱をたて横桟をわたす。④縦板を立て並べ補強するという工程であったと考えられる。規模は、内法で東西70cm、南北68cmであり、井戸側の下部は、側板下端より約80cm深くなっている。掘り方の平面形は方形であり、規模は長辺2.87m、短辺2.55m、深さ1.4mである。断面形は漏斗状を呈している。検出面から約70cm下がっ

た箇所に段が形成されて一辺1.2mの方形に窄まり、底面では長径50cm、短径40cmとなる。埋土は３層に大別することができる（１－第67図：７～９層)。７層が黒褐色砂質土、８層がにぶい黄色土を含む黒色砂質土、９層が黒色粘土である。遺物は、掘り方埋土や側内埋土、抜取り穴から、多くの土器類をはじめ、漆紙文書（第４号)、坩堝、灰釉陶器、製塩土器、竈形土器、土錘などが出土している。土器類の出土状況を見ると、掘方では出土した須恵器杯のほとんどがⅢ類で占められるのに対し、抜取り穴からは須恵系土器杯が多く出土している。また、須恵器杯や土師器杯には、墨書土器「石」・「仲」・「田坏」やヘラガキ土器「－」、油煙付着土器がある。

【SE1673建物跡】（１－第66図・２－第54図）

A11区中央部のSX1716上面で発見した井戸跡であり、横板組みの井戸側を備えている。井戸側は、掘り方北よりで確認した。側板上部は抜き取られているが、下部は良好に残存していた。側板の組み立てについては、①掘り方底面に幅15cm、長さ1.3～1.5mの板を井桁状に組む。●その上に、両端に溝状の切り込みを入れた幅25～40cm、長1.3～1.4mの横板を各辺交互に積み重ねる。③積み重ねた横板が交差する外側四隅に支柱を立て、補強するという工程であったと考えられる。規模は、内法で東西１m、南北１m である。埋土は３層に大別できる。１層が黒褐色粘土、２層が褐灰色粘土を多く混入する黒色粘土、３層が直径３～10cmの礫を含む黒褐色粗砂である。また、井戸側の下は約60cm掘り下げられており、幅10cm、長さ65cmの板材が井桁状に据えられている。その最下層には直径１～３cmの礫が多量に詰められ、その上層には砂と木炭とが互層に埋められていることから、井戸水の浄化施設であると考えられる。掘り方の平面形は概ね方形であり、規模は長辺2.4m、短辺2.2mである。断面形は箱型であり、壁は垂直に立ち上がっている。埋土は４層に大別することができる（１－第66図：７～10層)。上から７・８層が炭化物・にぶい黄色土が多量に混入する黒褐色砂質土、９層が直径１～1.5cmの礫が混入するオリーブ黒色粘土、10層がオリーブ黒色粘土である。遺物は、掘り方埋土や側内埋土から、多くの土器類をはじめ、緑釉陶器や畿内系土師器が出土している。土器類の出土状況を見ると、須恵器杯では完形品が多く、そのほとんどがⅢ類で占めらている。また、須恵器杯や土師器杯には、墨書土器「奈」・「王」・「嶋」・「勝」・「縣」やヘラガキ土器「－」があり、特に墨書土器では側内埋土から「奈」７点、「勝」２点をはじめ24点が出土している。

【SE2394井戸跡】

A43区の第Ⅴ層上で発見した井戸跡である。SD2393と重複しており、それより古い。平面形が円形の掘り方のおおよそ中央に井戸側がある。その構造は、四隅に支柱を立ててその内側に縦板を立て並べ、さらにその内側に接して円形曲物を二段に重ねたものである。その規模は、縦板部分の内法が一辺60～65cm、円形曲物は上段が直径48cm、深さ12cm、下段が直径46cm、深さ19cmである。井戸側東面には直径51cmの円形曲物の底板を転用していた（図版48)。掘り方の規模は直径約2.4m、深さ約1.3mであり、掘り方埋土は暗青灰色粘質土を主体としている。なお、本井戸跡のやや東側において、それより古く、長軸約3.5m の楕円形の落ち込みを検出した。本井戸の古い段階の遺構である可能性もあるが、確定するには至らなかった。

6 溝　跡

【SD1653溝跡】（1 －第50図、2 －第25図）

A81区北半部の第Ⅴ層上面で発見した南北溝跡である。SX1663と重複し、それよりも新しい。方向は北で約８度東に偏している。規模は上幅1.03～1.53m、下幅0.52～0.68m、深さ40cmである。埋土は、1層が黄灰色粘質土、2層が地山ブロックを多量に含む黄褐色粘質土である。

【SD1652溝跡】（1 －第50図、2 －第26図）

A81区北半部の第Ⅴ層上面で発見した東西溝跡である。SX1663と重複し、それよりも新しい。方向は西で約10度北に偏している。規模は上幅1.20～1.50m、下幅0.92m、深さ42cmである。埋土は1層が炭化物を含む黒褐色粘質土、2層が地山ブロックを多く含む黒褐色粘質土である。遺物は1層から土器類が完形品で多数出土しているほか、墨書土器も出土している。

【SD2151溝跡】（1 －第63図、2 －第40・42図）

A９区北半部の第Ⅳ層上面で発見した東西方向の溝跡である。長さ7.23mにわたって検出した。方向は東西両端部で計測すると、東で約14度北に偏している。SE2150と重複しており、それより新しい。規模は上幅47～60cm、下幅15～39cm、深さ22～31cmである。壁は断面形が「U」字状を呈しており、やや急角度で立ち上がっている。底面には起伏があり、東へ緩やかに傾斜している。その比高は約４cmである。埋土は４層に細分され、いずれも灰白色火山灰の二次堆積を含む黒褐色粘質土である。

【SD2163溝跡】（1 －第69図、2 －第40・44図）

A９区西半部の第Ⅴ層上面で発見した東西方向の溝跡である。ほぼ同位置で４時期の変遷を確認した（A→D期）。SK2164、SX2162整地層と重複しており、SX2162整地層より新しく、SK2164より古い。以下に個別に説明する。

A期：規模は長さ６m以上、上幅1.22～1.53m、下幅0.75～1.2m、深さ18～72cmである。方向は東で約11度南に偏する。底面は概ね平坦で、断面形は浅い皿状を呈して緩やかに立ち上がっている。埋土は２層に分けられ、1層はにぶい黄色粘質土粒を含む黒褐色粘土、2層は少量の植物遺存体を含む暗オリーブ褐色粘土である。

B期：規模は長さ６m以上、上幅0.88～1.23m、下幅0.35～0.65m、深さ40～68cmである。方向は東で約10度南に偏する。壁は西側では緩やかに立ち上がるが、東側ではやや急角度に立ち上がる。底面の傾斜は西側から東側へ向かって緩やかに低くなり、その比高は約10cmである。埋土は２層に分けられ、1層はにぶい黄色粘質土を少量ブロック状に含む暗灰黄色粘質土、2層は植物遺存体を多量に含む黒褐色粘土である。遺物は土器類をはじめ、木製品では木簡（第106号）、挽物高台付皿、円形の曲物などが出土している。

C期：南側の壁をD期に壊されている。残存している部分では長さ６m以上、上幅0.6～0.8m以上、下幅0.48m以上、深さ40～44cmである。方向は東で約11度南に偏する。底面は概ね平坦である。壁は、西半部をD期に壊されており詳細は不明であるが、東側ではやや急角度に立ち上がり、断面形が逆台形を呈している。底面は西から東へ緩やかに傾斜し、その比高は30cmである。埋土はにぶい黄色粘質土をブロック状に多量に含む黄灰色粘質土であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

D期：長さ６m以上、上幅1.52m以上、下幅0.56～0.9m、深さ30～42cmである。方向は東で約10

度南に偏する。壁は西側では比較的緩やかであるが、東側では断面形が逆台形を呈する。底面は西から東へ緩やかに傾斜し、その比高は８cmである。埋土は２層に細分され、１層は黒褐色粘質土、２層は中量の炭化物を含む黒褐色粘質土である。

【SD1694溝跡】（２－第52図）

A11区東端部のSX1711上面で発見した東西方向の溝跡で、長さ約3.6mにわたって検出した。方向は、西で約６度北に偏している。規模は上幅1.3～1.8m、下幅0.9～1.0m、深さ12～17cmである。断面形は皿状を呈しており、壁は非常に緩やかに上がっている。底面は概ね平坦であり、本調査区内での比高はほとんどない。埋土は黄褐色粘質土である。遺物は、底面付近から須恵器杯Ⅲ類がまとまって出土しているほか、上層から延暦９年の漆紙文書（第５号）が出土している。

【SD1679溝跡】（１－第70図・２－第53図）

A11区東半部のSX1715下層で発見した南北方向の溝跡で、長さ約6.5m にわたって検出した。SD1680・1688・1860と重複し、SD1680・1860よりも新しく、SD1688よりも古い。方向は、北で約17度東に偏している。規模は上幅3.9～4.7m、下幅3.2～4.3m、深さは北壁付近で50cmである。断面形は、皿状を呈しており、壁は非常に緩やかに立ち上がっている。底面は、南から北側に向かって傾斜しており、比高は北端部と南端部で13cmである。埋土は２層に大別できる（１－第70図：５・６層）。上層は、にぶい黄色土が混入する黒褐色土、下層は黄灰色土であり、いずれも炭化物が混入している。遺物は、多くの土器類をはじめ、畿内系土師器、製塩土器、竈形土器、紡錘車が出土している。土器類の出土状況を見ると、須恵器や土師器の杯類には完形品が多く、須恵器杯ではⅢ類の占める割合が圧倒的である。また、墨書土器やヘラガキ土器、漆付着土器、油煙付着土器が多数出土しており、特に墨書土器、ヘラガキ土器は計60点確認している。ほとんどが杯類に書かれており、中でも須恵器に書かれたものが47点と多い。墨書は「奈」12点をはじめ、「本」・「井」・「田」・「中」・「十」など、ヘラガキは「－」、「×」などがある。

【SD1680溝跡】（１－第70図・２－第53図）

A11区東半部のSD1679下層で発見した南北方向の溝跡で、長さ約6.5m にわたって検出した。方向は、北で約14度東に偏している。規模は上幅0.8～1.3m、下幅0.4～0.7m、深さ16～20cmである。断面形は皿状を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は概ね平坦であり、本調査区内での比高はほとんどない。埋土はにぶい黄色土が多量に混入する黒褐色粘質土である（１－第70図：７層）。遺物は、多くの土器類をはじめ、製塩土器や土錘が出土している。土器類の出土状況を見ると、須恵器杯では完形品が多く、そのほとんどがⅢ類で占められている。また、須恵器杯には墨書土器「申口」・「内」・「ノ」やヘラガキ土器「－」・「×」、油煙付着土器がある。なお、須恵器長頸瓶には平城宮分類の壺Ｇがある。

【SD1678溝跡】（１－第70図・２－第54図）

A11区中央部のSX1716上面で発見した南北方向の溝跡で、長さ約5.7mにわたって検出した。SK1691と重複し、それよりも古い。方向は、北で約１度東に偏している。規模は上幅1.3～1.4m、下幅70～90cm、深さ20～40cmである。断面形は椀形を呈しており、壁は東辺がやや急に、西辺は緩やかに立ち上がっている。底面は、南から北側に向かって傾斜しているおり、比高は約10cmである。埋土は２層に大別できる（１－第70図：１・２層）。１層は暗灰黄色粘質土、２層はにぶい黄褐色粘質土であり、

いずれも炭化物が混入している。遺物は、少量の土器類や製塩土器が出土している。

【SD1676溝跡】（1 －第70図・ 2 －第54図）

A11区中央部SX1720下層で発見した南北方向の溝跡で、長さ約3.7m にわたって検出した。SD1675と重複し、それよりも新しい。方向は、北で約 3 度東に偏している。規模は上幅50～70cm、下幅20～40cm、深さ 8 ～26cmである。断面形は、上端部が広がる U 字形を呈しており、壁の立ち上がりは急である。底面は概ね平坦であり、本調査区内での比高はほとんどない。埋土は 3 層に大別できる（1 －第70図：8 ～10層）。8 層は炭化物が僅かに混入するにぶい黄褐色砂質土、9 層は炭化物が混入する暗灰黄色粘質土、10層は地山が混入する暗灰黄色粘土である。出土した土器類には、ヘラガキ土器「×」、「－」や油煙付着土器がある

【SD1675溝跡】（1 －第70図・ 2 －第54図）

A11区中央部の第Ⅴ層上面で発見した南北方向の溝跡で、長さ約6.1m にわたって検出した。SD1676と重複し、それよりも古い。また、SX1716・1720整地層を介在し、SD1678・1677と重複している。方向は、発掘基準線と一致している。規模は上幅1.3～1.6m、下幅0.8～ 1 m、深さ20～40cmである。断面形は逆台形を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は、南から北側に向かって傾斜しており、比高は13cmである。埋土は 2 層に大別できる（1 －第70図：11・12層）。11層は黄灰色粘質土、12層は地山が多量に混入するにぶい黄褐色粘土である。　遺物は、灰釉陶器片が出土している。

【SD1677溝跡】（1 －第70図・ 2 －第54図）

A11区中央部SX1720上面で発見した南北方向の溝跡で、長さ約6.1m にわたって検出した。北側でSD1719東西溝と接続している。方向は、北で約 1 度西に偏している。規模は残存状況のよい北端部でみると、上幅80cm、下幅60cm、深さ30cmである。断面形は逆台形を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は、南側から北側に向かって傾斜しており、比高は 10cmである。埋土は炭化物が混入する黒褐色粘質土であるが、下層では黄褐色砂も多く混入している（1 －第70図：5 層）。

【SD1674溝跡】（2 －第55図）

A11区西半部のSX1716上面で発見した南北方向の溝跡で、長さ約6.7mにわたって検出した。方向は、北で約 7 度東に偏している。規模は上幅 1 ～ 1.3m、下幅50～60cm、深さ10～20cmである。断面形は皿状を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は概ね平坦であり、本調査区内での比高はほとんどない。埋土は地山が多量に混入する黒褐色土である。

【SD1699溝跡】（2 －第55図）

A11区西半部の第Ⅴ層上面で発見した南北方向の溝跡で、長さ約5.2mにわたって検出した。SD1727と重複し、それよりも古い。方向は、北で約 9 度東に偏している。ほぼ同位置で 2 時期（A → B 期）の変遷を確認している。

A 期：規模は上幅50～90cm、下幅40～60cm、深さ20～40cmである。断面形は U 字形の箇所と皿状の箇所があり一様でない。底面は、北側から南側に向かって傾斜しており、比高は10cmである。北半部では凹凸が見られる。埋土は 2 層に大別できる。上層はオリーブ褐色粘質土、下層は地山が混入する灰黄褐色粘質土である。

B 期：規模は上幅0.8～1.3m、下幅50～80cm、深さ20～30cmである。断面形は皿状を呈しており、

壁は緩やかに立ち上がる。底面は、北側から南側に向かって傾斜しており、比高は12cmである。埋土は3層に大別できる。1層は炭化物が混入する黒褐色粘質土、2層は炭化物が混入するオリーブ黒色土、3層は暗オリーブ褐色粘質土である。遺物は、土器類をはじめ、灰釉陶器椀、製塩土器、竈形土器が出土している。

【SD2145溝跡】（1－第68図、2－第50図）

A99区の第Ⅴ層上面で発見した東西方向の溝跡である。長さ2.89m以上、上幅1.05～1.27m、下幅0.97～1.03m、深さ30～65cmである。方向は東で約17度南に偏している。壁は断面形が逆台形を呈する。底面は概ね平坦である。埋土は2層に細分され、1層は若干の炭化物を含む黒褐色砂質土、2層はにぶい黄色粘質土をブロック状に含む黒褐色粘質土であり、人為的に埋められたものと考えられる。

【SD2146溝跡】（1－第68図、2－第50図）

A99区で発見した東西方向の溝跡である。長さ2.1m以上、上幅0.46m以上、深さ70cmである。方向は東で約13度南に偏している。断面形は逆台形を呈しており、壁はやや急角度で立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は4層まで確認でき、1層は灰黄褐色砂質土、2層は黒褐色砂質土でにぶい黄色粘質土をブロック状に多量に含む。3層は黒褐色粘質土を若干含む灰黄褐色砂質土、4層は黒褐色粘質土、にぶい黄色粘質土をブロック状に多量に含む灰黄褐色砂質土であり、いずれも人為的に埋められたものと考えられる。

【SD2393溝跡】（第1－第55・63図、2－第42・46図）

A9・97・43区の第Ⅳ層上で発見した東西溝跡である。検出したのは35mであり、さらに調査区外へ延びている。SB2390、SE2394・SE2150と重複しており、それらのすべての遺構より新しい。規模は、上幅約0.6m、深さ約20cmである。埋土は黒褐色粘質土の単層であり、その上層から須恵系土器小型杯が完全な形で1点出土している。

【SD2395溝跡】（1－第68図、2－第47図）

A43区東半部の第Ⅴ層上面で発見した南北溝跡である。やや位置をずらして2時期の重複がある（A→B期）。埋没後にその埋土上層から掘り込まれた小ピットが少数確認できる。

A期：方向は、南北発掘基準線とおおよそ一致している。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。規模は、上幅約1.3m、深さ約0.4mである。埋土は、黒褐色粘質土やにぶい黄色砂が東側から傾斜して堆積しており、人為的に埋め戻された様相を呈している。

B期：A期より東へ約2.3m（底面心々間距離）ずらして掘削されたものである。方向は、北で約9度東に偏している。断面形は逆台形を呈しており、西側の壁はやや急である。規模は、上幅1.9～2.1m、深さ約0.7mである。埋土は、底面の東壁際に自然堆積土もみられるが、全体に黒褐色土やにぶい黄色のブロックを多く含んでおり、A期と同様最終的には人為的に埋め戻されたと見られる。

7　河川跡

【SX1667河川跡】（1－第51図）

A42区東半部で発見した。6時期の変遷（A→F期）を確認した。44区で検出したSX1812に続くものと考えられる。以下、古い順に記述する。

A期：最も深い場所で検出した。埋土は、粗砂と砂利である。深さは3.0mであり、底面レベルは0.2mである。遺物は弥生土器や古墳時代の土師器が出土している。

B期：A期の上で確認した。埋土は粗砂と砂の互層である。深さは2.2mであり、底面レベルは0.9mである。底面付近から完形の土器類をはじめ、多量の人面墨書土器、墨書土器が出土し、木製品として挽物皿、横櫛、骨製品として卜骨が出土している。

C期：B期の西側で発見した。埋土は砂と亜泥炭層の互層である。深さは2.1mであり、底面レベルは1.1mである。底面付近から古代の土器が多数出土し、人面墨書土器、墨書土器なども多数出土している。

D期：C期の西側で検出した。埋土は上方が灰黄褐色粘質土であり、下層が砂と亜泥炭層の互層である。底面付近に灰白色火山灰が堆積している。深さは2.2mであり、底面レベルは0.9mである。

E期：最も西側で確認した。SX1665道路跡よりも新しい。埋土はオリーブ黒色粘質土であり、植物遺存体を多く含む。SX1665道路跡を覆う第Ⅱ層と同様の埋土である。深さは2.6mであり、底面レベルは0.5mである。

F期：E期の東側で確認した。埋土はオリーブ灰色粘質土である。深さは2.2mであり、底面レベルは0.9mである。

8　土壙・その他

【SK1651土壙】（1－第50図）

81区北端部の第Ⅴ層上面で発見した。SB1662、SX1663と重複しており、それらよりも新しい。規模は、長軸1.94m、短軸1.02m、深さ20cmである。埋土は、1層が炭化物を多量に含む黒褐色粘質土、2層が暗灰黄色粘質土である。遺物は土器類のほか、墨書土器、灰釉陶器、緑釉陶器（緑釉緑彩輪花皿）が出土している。

【SX2162整地層】（1－第69図、2－第40・44図）

9区南部の第Ⅴ層上面で発見した整地層である。SD2163、SB2161と重複があり、それらより古い。規模は、南北2.5m以上、東西6m以上である。埋土は、にぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む褐色粘質土である。

【SK1697土壙】（1－第70図・2－第53図）

A11区中央部の第Ⅴ層上面で発見した土壙である。平面形は不整形であり、規模は東西3.6m、深さ12～24cmである。断面形は皿状を呈しており、壁は東側が急に立ち上がる以外は、非常に緩やかである。底面は、西側が若干窪むものの概ね平坦である。埋土は3層に大別できる（1－第70図：5～7層）。1層はにぶい黄色土と炭化物が多量に混入する暗灰黄色粘質土、2層は炭化物が多量に混入する黒褐色粘質土、3層が暗オリーブ色とにぶい黄色を主体とする粘質土である。出土した土器類のうち、須恵器杯には墨書土器「本」がある。

【SX2327】（2－第31図）

A82区中央部の第Ⅴ層上面で発見したくぼみである。SB2312西側に位置している。A98区SB2330とSX2332との位置関係から同じ関係が想定される。SX2328と重複し、それより新しい。平面形は不整形で、断面形は浅い皿状である。規模は長軸3.7m、短軸2.4m、深さ8cmである。埋土は、1層が多量の灰

を含む灰黄褐色土、2層が多量の灰と黒褐色粘土ブロックを含む灰黄褐色土である。

【SX2328】（2－第31図）

A82区中央部の第Ⅴ層上面で発見したくぼみである。SB2312の西側に位置している。A98区SB2330とSX2332との位置関係から同じ関係が想定される。SX2227と重複し、それより古い。平面形は不整形で、断面形は浅い皿状である。規模は、一辺2.50mであり、深さ10cmである。埋土は、黒褐色粘土ブロックを含むにぶい黄色土である。

Ⅶ　D区北半部で発見した遺構

1　道路跡

【SX830東1道路跡】（1－第71図、2－第57・65図）

D102区接続部の北側から83区南部にわたって発見した素掘りの側溝を伴う南北道路跡（東1道路）である。本調査区では約18m検出した。SB2110、SX2174整地層、SX2112不明遺構と重複しており、それらより新しい。路面は2時期、東西両側溝では5時期の変遷（a→e期）があることが判明した。以下、A～E期まで古い順に説明する。

A期：東・西側溝、路面を確認した。東側溝では上半部を、西側溝では東壁の一部をB期以降の側溝によって壊されている。残存している路面は炭化物や汚れた砂をブロック状に含む暗灰黄色砂質土である。規模は、残存する側溝間で約2.7mであり、側溝心々間では6.2mである。東側溝についてみると、規模は上幅1.3m以上、下幅0.4m、深さ0.6mである。断面形は逆台形であり、壁はやや急に立ち上がっている。底面は北側へ約30cm傾斜している。西側溝についてみると、規模は上幅1.5m以上、下幅0.45～0.75m、深さ0.5～0.6mである。壁はやや急角度で立ち上がっており、断面形は逆台形を呈している。底面は北側へ傾斜し、比高は約10cmである。埋土は両側溝とも単層であり、炭化物やにぶい黄色粘質土ブロックを少量含む黒褐色粘質土である。

B期：A期のものより東側溝では約0.3m、西側溝では約2.0m東側に作り替えられたもので、東・西側溝、路面を確認した。東西両側溝はC期以降の側溝によって大きく壊されている。残存している路面は黄褐色の砂質土である。規模は、残存している側溝間で3.1mであり、側溝心々間で4.9～5.0mである。東側溝についてみると、規模は上幅1.8m以上、下幅0.5～0.8m、深さ0.5～0.6mである。壁はやや急に立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は3層に細分され、1層はオリーブ黒色粘質土、2層は灰白色火山灰が自然堆積する灰色粘質土である。3層はにぶい黄色粘質土をブロック状に含む黒・オリーブ黒色粘質土である。西側溝についてみると、規模は上幅1.4m以上、下幅0.7m、深さ0.3～0.5mである。壁はやや急に立ち上がっている。底面は北側へ傾斜し、比高は24cmである。埋土は2層に細分され、1層は灰白色火山灰が自然堆積するオリーブ黒色粘質土、2層は多量のにぶい黄色粘質土をブロック状に含むオリーブ褐色粘質土である。遺物は土器類をはじめ、灰釉陶器瓶、須恵系土器高台付杯、製塩土器が出土している。

C期：東側溝ではB期とほぼ同位置に、西側溝では約1.0m西側に作り替えられたもので、東・西側溝を確認した。路面は側溝心々間で5.0～5.7mである。東側溝についてみると、規模は上幅0.9m以上、下幅0.3～0.6m、深さ0.3～0.4mである。壁はやや急に立ち上がっている。底面は北側へ傾斜し、比高は10cmである。埋土は炭化物・砂粒を含む黄灰色粘質土である。西側溝についてみると、規模は上幅1.0m以上、下幅0.6m以上、深さ0.5～0.75mである。壁はやや急に立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は灰白色火山灰の二次堆積を少量含む黒褐色・黄灰色粘質土である。遺物は土器類をはじめ、製塩土器などが出土している。

D期：東側溝ではC期とほぼ同位置に、西側溝では約0.6m東側に作り替えられたもので、東・西側溝を確認した。路面は側溝心々間で4.85～4.95mである。東側溝についてみると、規模は上幅0.6m以上、下幅0.2～0.3m、深さ20～30cmである。壁はやや急に立ち上がっている。底面は0.3m北側へ傾斜している。埋土は単層であり、暗灰黄色粘質土である。西側溝についてみると、規模は上幅1.7m以上、下幅0.3～0.5m、深さ0.25～0.65mである。壁はやや急に立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は単層であり、炭化物を含む黒褐色粘質土である。遺物は土器類をはじめ、灰釉陶器椀（皿）、須恵系土器高台付杯、製塩土器、竈形土器などが出土している。

E期：両側溝ともにD期のものとほぼ同位置で作り替えられたもので、東・西側溝を確認した。路面は側溝心々間で4.8～5.0mである。東側溝についてみると、規模は上幅0.8m以上、下幅0.2～0.45m、深さ0.2～0.3mである。壁はやや急に立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は単層であり、砂をブロック状に含む黒褐色粘質土である。西側溝についてみると、規模は上幅1.4m以上、下幅0.4～0.8m、深さ0.2～0.4mである。壁はやや急に立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は単層であり、炭化物を少量含む黒褐色粘質土である。遺物は土器類をはじめ、竈形土器などが、木製品では挽物漆器椀が出土している。

【SX920南1道路跡】（1－第72・73図、2－第69・70図）

D102区西部から105区中央部付近で発見した素掘りの側溝を伴う東西道路跡（南1道路）である。SX2139・2412整地層上で確認し、本調査区では約27mにわたって検出した。SK2141、SD2138、SX2140河川跡と重複しており、それらより新しい。調査区内では3時期の変遷を確認したが、第23次調査区で設置した南北サブトレンチの断面観察によって両側溝に5時期の変遷（a→e期）があることが判明した。A・B期は断面の観察によるものとなるが、以下、A～E期までの5時期の変遷を説明する。

A期：南側溝SD921a、北側溝SD922a、路面を確認した。南側溝は北半部を、北側溝は一部をB期以降の側溝によって壊されている。路幅は残存部で1.8m以上である。路面は整地地形SX2139・2412上に構築されており、路面堆積層は少量の炭化物を含む黒褐色砂質土である。北側溝についてみると、規模は上幅70cm以上、下幅36cm、深さ56cmである。断面形は逆台形であり、壁はやや急に立ち上がっている。底面はおおよそ平坦である。南側溝についてみると、規模は上幅96cm以上、下幅54cm以上、深さ52cmである。壁はやや急角度に立ち上がっており、断面形は逆台形を呈している。埋土は両側溝とも炭化物を少量含む黒褐色粘質土である。

B期：A期のものより約0.6m北側に作り替えられたもので、南側溝SD921b、北側溝SD922b、路面を確認した。南側溝はC期のものによって大きく破壊されている。路幅は残存部で2.5m以上であり、埋

土は少量の炭化物を均質に含む黒褐色砂質土である。北側溝についてみると、規模は上幅40cm以上、下幅48cm以上、深さ40cmである。壁は急角度で立ち上がっている。底面は概ね平坦である。南側溝についてみると、規模は上幅40cm以上、下幅26cm以上、深さ50cmである。壁は急角度で立ち上がっている。埋土は両側溝とも少量のにぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色粘質土である。

C 期：調査区内で北側溝を長さ3.7m検出した。路面と南側溝SD921cは断面の観察によって確認した。B 期のものより約0.6m北側へ作り替えられている。路幅は残存部で2.8m以上である。埋土は A・B 期と同様に黒褐色砂質土である。北側溝については、上部を新しい段階の南側溝SD921d・eによって大きく壊されている。規模は上幅78～94cm、下幅48～66cm、深さ37～40cmである。壁は底面付近から急角度に立ち上がっている。底面は東へ傾斜しており、その比高は36cmである。埋土は灰白色火山灰を少量含む黒褐色粘土である。南側溝については、規模は上幅1.8m、下幅74cm、深さ73cmである。壁は底面付近から急角度に立ち上がるが上端部では緩やかに立ち上がっている。埋土は 2 層で 1 層は灰白色火山灰の自然堆積層、2 層は若干の炭化物を含む黒褐色粘質土である。

D 期：路面と南側溝SD921d、北側溝SD922d を確認した。A ～ C 期のものより約 4m北側へ大きく位置を変えて作り替えられている。A ～ C 期の側溝を覆って灰白色火山灰の二次堆積を含む第Ⅲa層が 4～17cmの厚さで堆積しており、その上面から側溝が掘りこまれている。路幅は3.3～3.4mであり、埋土は少量の炭化物を含む黒褐色砂質土である。方向については、北側溝でみると東で約 2 度南に偏している。南側溝は A ～ C 期の北側溝とほぼ同位置で作り替えられている。長さ3.4mにわたり検出した。規模は上幅60～66cm、下幅27～48cm、深さ26～62cmである。壁は底面付近からやや急角度に立ち上がっている。底面はやや東へ傾斜しており、比高は約24cmである。埋土は少量の灰白色火山灰の二次堆積を少量含む黒褐色粘質土である。北側溝は大部分を E 期に壊されている。長さ23.4m検出した。C 期より約 4 m 北側に作り替えられている。規模は上幅38～42cm、下幅28～32cm、深さ 6 ～22cmである。壁は底面付近から急角度で立ち上がっている。底面は西側に傾斜しており、比高は 6 cmである。埋土は多量のにぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色粘質土であり、人為的に埋め戻されたものと思われる。遺物は土器類をはじめ、製塩土器、竈形土器などが出土している。

E 期：路面と南側溝SD921e、北側溝SD922eを確認した。D 期とほぼ同位置に作り替えられている。路幅は側溝心々間で3.0～3.1mであり、埋土は少量の炭化物を含む黒褐色砂質土である。路面上で波板状圧痕を 9 箇所確認した。規模は長径0.38～1.6m、短径0.32～0.78m、深さ 3 ～11cmである。埋土は土器小片、炭化物粒を含む黒褐色砂質土である。方向については、北側溝でみると東で約 2 南に偏している。南側溝は長さ7.8mにわたり検出した。規模は上幅1.1～1.2m、下幅0.3～0.47m、深さ34～46cmである。壁は底面付近からやや急角度に立ち上がっている。底面はやや東へ傾斜しており、その比高は約 6 cmである。埋土は少量の炭化物を含む黒褐色粘質土である。北側溝は長さ 27m にわたり検出した。規模は上幅0.8m～1.4m、下幅0.5～0.6m、深さ30～40cmである。壁は底面付近から比較的緩やかに立ち上がっている。底面は西側に傾斜しており、比高は約10cmである。埋土は 2 層に細分され、1 層は少量の炭化物を含む黒褐色粘質土、2 層は灰白色火山灰の二次堆積を少量含む黒褐色粘質土である。遺物は土器類をはじめ、須恵系土器杯、灰釉陶器椀・瓶、竈形土器、製塩土器などが出土している。

【SX2280東１道路跡】（１－第102図、２－第75図）

D103区東部の第Ⅵ層上面で発見した南北道路跡である。6.2m検出した。東側溝（SD2231）はSD2252と重複してそれより新しく、西側溝（SD2232）にはSD2240が接続している。両側溝ともほぼ同位置で５時期（a→e期）、路面は４時期（a→d期）の重複がある。以下側溝、路面を時期ごとに説明する。

SD2231西側溝

SD2231a：東半部と北半部をb期以降の側溝に大きく壊されている。方向は、北で９度38分東へ偏している。規模は上幅1.4m以上、下幅80cm以上、深さ40cmである。断面形は開いたU字形である。壁は垂直に立ちあがる。底面は平坦で北へ傾斜する。比高は13cmである。埋土は黄褐色砂ブロックと少量の炭化物粒を含む灰黄褐色粘質土である（北壁６層、南壁６層）。

SD2231b：a期より東に中心を移して作り替えられている。南壁際の一部で確認したのみである。路面c期に覆われる（南５層）。

SD2231c：b期より西に中心を移して作り替えられている。上下２層に分けられ、上層は南壁から北壁まで達するが下層は途中で止まっている。時期差とも見られるが、上層埋土が下層ブラン内に入り込んでいることから、ここでは１時期と見ておく。方向は、北で４度26分東に偏している。規模は上幅1.75m以上、下幅0.50～0.70m、深さ70～85cmである。断面形は開いたU字形をしている。壁は下層が垂直に立ちあがり上層は緩やかに立ち上がる。底面は平坦で南へ傾斜する。比高は25cmである。埋土は、上層が植物遺存体と炭化物粒、砂粒を含む黒褐色粘土、下層が砂ブロックを含む黒褐色粘土である（北壁４層、南壁３～４層）。

SD2231d：大きくe期側溝に壊され3.9mのみ発見した。a期の側溝を壊すように、c期より西に作り替えられている。方向は、北で５度27分東に偏している。規模は上幅60cm以上、下幅40cm以上、深さ約30cmである。断面形は開いたU字形をしている。壁は緩やかに立ちあがり、底面は平坦である。埋土は灰白色火山灰ブロックを含む黒褐色粘質土である。上部では炭化物粒、下部では砂粒・植物遺存体を含んでいる（北壁３層）。遺物は土器類や灰釉陶器椀が出土している。

SD2231e：d期側溝を大きくこわし、d期より東に作り変えられている。方向は、北で４度02分東へ偏している。規模は上幅1.5～2.7m、下幅0.20～0.65m以上、深さ約80cmである。断面形は開いたU字形と思われる。壁は緩やかに大きく開き、底面は丸みをおび南へ傾斜する。比高は５cmである。埋土は１層が少量の炭化物粒・少量の灰白色火山灰を含む黒褐色粘土、２層が多量の砂粒と炭化物粒を含む黒褐色粘土である（北壁１～２層、南壁１～２層）。出土した遺物には、土器類や灰釉陶器椀がある。このうち土器類では、各層から須恵系土器杯が出土している。

東側溝（SD2232）

SD2232a：西半と北半を期以降の側溝に大きく壊されている。南半で5.3m発見した。方向は、北で１度18分東へ偏する。規模は上幅0.80cm以上、下幅30cm、深さ70cm以上である。断面形は上部で開いたU字形をしている。壁は急に立ち上がっている。底面は平坦でほとんど傾斜していない。埋土は灰色砂ブロックを多量に含む黒褐色粘土である（南壁14層）。出土した土器類のうち、須恵器杯には墨書土器がある。

SD2232b：a期より西に中心を移して作り替えられている。方向は、北で４度58分東に偏する。規

模は上幅0.70～1.24m、下幅0.35～0.70m、深さ45～70cmである。断面形は開いたU字形をしている。壁は垂直に立ち上がっている。底面は北で起伏があるものの南では平坦であり、やや北へ傾斜している。比高は10cmである。埋土は砂と植物遺存体を含む黒褐色粘土である（北壁10層、南壁13層）。遺物には、土器類のほか斎串が出土している。

SD2232c：西半分をe期側溝に壊され、a期の側溝を壊すように作り替えられている。方向は北で2度11分東に偏する。規模は上幅1m以上、下幅0.7m以上、深さ50～55cmである。断面形は開いたU字形をしている。壁は丸みを帯び、内湾気味に立ち上がる。底面は起伏がありやや北へ傾斜する。比高は16cmである。埋土は上層が灰白色火山灰ブロックと砂を含む黒褐色粘土、中層が灰白色火山灰を流れるように含み、砂粒を含む黒褐色粘土、下層が黄褐色砂を流れるように含む黒褐色粘土である（北壁8～9層、南壁10～12層）。出土した土器類には、須恵系土器杯や甕形土器、製塩土器がある。また、須恵器杯では墨書土器「加」が出土している。

SD2232D（第102図）：東側を大きくe期に壊されc期より西に中心を移して作り替えられている。c期が分断されたものとも見られるがここでは時期差と捉えた。方向は、北で2度35分東に偏している。規模は、上幅30cm以上、深さ65cmである。断面形は、開いたU字形をしている。埋土は灰白色火山灰粒・炭化物粒・砂粒を含む灰黄褐色粘質土である（南壁10層）。

SD2232e：d期より東側に位置を移して作り替えられている。方向は北で3度55分東に偏する。規模は上幅1.30～1.90m、下幅0.40～0.75m、深さ約55cmである。断面形は開いたU字形をしている。壁は緩やかに立ちあがり、底面は起伏がありやや南へ傾斜する。比高は10cmである。埋土は1層が炭化物粒少量・植物遺存体少量・砂粒を含む黒褐色粘土、2層がわずかに砂粒を含む黒褐色粘土である（北壁6～7層、南壁7～9層）。出土した土器類には、須恵系土器杯や製塩土器がある。、また、下層から出土した土師器杯には墨書土器「新」がある。

路　面

SX2280a（第102図）：地山面を10～30cm掘りくぼめ路面としている。それと直行するように掘られた小溝、波板状圧痕を7条検出している。路幅は約2.8m、方向は北で2度47分東に偏する。波板状圧痕は最長2.35m、最大幅50cm、最深15cmである。埋土は木片を多く含むオリーブ褐色粗砂である（南壁19層）。出土した遺物は、土器類をはじめ灰釉陶器椀、羽口、竈形土器がある。

SX2280b：西側溝c期埋没後その上面と、a期路面を整地して作られている。灰白色火山灰層下面で検出した。地山を掘り込んで整地した路面である。規模は、路幅約2.7m以上、整地層の厚さ24cmである。路面整地土は砂ブロックと植物遺存体を含む黒褐色土である（北壁13～23層、南壁18層）。西側溝b期を覆うことからそれ以降の時期と対応することを確認した。

SX2280c：b期の路面に灰白色火山灰が堆積したのちの2次堆積層を路面としている。灰白色火山灰はb期路面のくぼみに、約2mの幅で2ヶ所に自然堆積し、その上面の汚れた堆積層を路面としている。規模は、路幅、約3.0m以上、西側溝b・c期を覆うことからそれ以降の時期と対応することを確認した。埋土は灰白色火山灰を混入する暗灰黄色砂質土である（北壁11～12層、南壁17層）。

SX2280D：c期の路面上面を整地して路面としている。表面は起伏があり15個のくぼみがある。主に下層に灰白色火山灰の堆積がある上部にこの整地が見られた。規模は、路幅、約2.8mである。路面く

ぼみの埋土は炭化物粒、植物遺存体を含む黒褐色粘土、路面整地層は植物遺存体含むにぶいオリーブ褐色砂である（南壁15～16層）。東西側溝ｅ期の堆積土に覆われることからｅ期と対応することを確認した。

【SX1920道路跡】（1－第113図・2－第92図）

D30区のほぼ中央、93W区との交差部付近の第Ⅴ層上面で発見した東1南北道路跡である。両側に素掘りの側溝を伴っている。東側溝の北半部は、93W区内での検出になるがここで一括して記述する。西側溝（SD1918）は約19m、東側溝（SD1919）は約20mにわたって検出した。路面は2時期、両側溝については、西側溝で5時期（a→e期）、東側溝で4時期（a→d期）の変遷が確認できた。これらの新旧関係や規模・形態、さらに埋土の状況等を検討した結果、道路跡としては5時期の変遷（A→E期）があり、B期に相当する時期のものが東側溝においては確認できないと判断した。

A期：東・西両側溝を確認した。このうち、西側溝については後続するB期以降の側溝によって大きく壊されており、東端部のみの確認である。一方、東側溝は検出できた範囲の南半部では、後続する各時期の側溝に対し西側に位置して検出された。しかし、北半部においては現代の堀跡に壊されていると考えられ、確認することはできなかった。規模は、側溝心心間では約2.3mで、路幅は1.5～1.8mである。また、路面には南側の一部で波板状の凹凸が認められる。方向は、残存状況の良好な東側溝でみると磁北にほぼ一致する。この東側溝の規模は上幅50～75cm、下幅15～30cm、深さは30～35cmである。断面形は、南半部では逆台形状を呈する。西側溝についても残存部の状況からみて同様の形態であると推定されるが、北半部では壁の上部が氾濫等による削平のような様相で外側に張り出す状況がみられる。底面レベルについては、南側が北側に比べ若干低い。これはA～E期に共通している。埋土は、両側溝とも黒褐色粘質土が主体を占め、植物遺存体を含んでいる。

B期：西側溝のみを確認した。さらに、後続するC期以降の側溝によって大きく壊され、底面付近が残存しているだけである。路幅等は不明であるが、先行するA期に対してやや西側に位置し、後続するC期とはほぼ同位置で重複する。規模は、下幅が約40cm、深さはC期に比べ3～10cm深い。底面は凹凸が多い。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は、砂を含む黒色粘質土である。

C期：東・西両側溝を確認した。西側溝はSD1918c期、東側溝はSD1919b期がこの時期に伴う。西側溝は、一番新しいE期の側溝によって西側が大きく壊されている。一方東側溝は、E期の側溝によって北半部では西側を、南半部では東側を大きく壊されている。東側溝については、本区と交差する東西方向の93W区の南壁近くで、東側に東西方向の溝を派生させるような様相をみせる。しかし、南側が調査区外にかかるため詳細は不明である。なお、後続するD期とE期についても同様に東側への延びが確認できる。路面については、先行するA期の両側溝を覆って土器片や木片を含む暗灰黄色砂質土が15～20cmの厚さで堆積しており、その上面が本期及び後続するD・E期の路面となっている。規模は、側溝心心間では約3.3mで、側溝間では2.5～2.6mである。方向は、西側溝でみると北で約2度東に偏している。側溝断面形は、西側溝が舟底状を呈している。また、両側溝とも底面には凹凸がみられる。埋土は2～3層に細分され、いずれも褐色土及び黒褐色土が主体を占める。下層は粘性が強く、植物遺存体を含んでいる。また、確認面近くの埋土中には灰白色火山灰粒がわずかに含まれる箇所もある。なお、火山灰が含まれる土層中からは、土師器や須恵器に混じって須恵系土器が若干出土している。須恵系土器については、本期及びD・E期では出土しているが、A・B期では出土していない。

D期：東・西両側溝を確認した。西側溝はSD1918D期、東側溝はSD1919c期がこの時期に伴う。両側溝とも後続するE期とほぼ同位置で重複するため、上部が壊され底面近くを確認したのみである。路幅は側溝心心間で4.6～5.0mを計る。方向は、両側溝とも南北発掘基準線にほぼ一致している。側溝の規模は、西側溝が下幅40～70cmで、深さはE期よりも5～10cm深い。東側溝は下幅40～80cmで、深さはE期よりも10～20cm深い。底面は平坦に近く、壁の立ち上がりは緩やかであるが、北半部ではやや急である。埋土下層は、植物遺存体を含む黒褐色粘質土である。全域で灰白色火山灰粒が含まれる。

E期：東・西両側溝を確認した。西側溝はSD1918e期、東側溝はSD1919d期がこの時期に伴う。西側溝がSD1911、SI1912と重複し、それらより新しい。規模は、側溝心心間では4.8～5.0m、側溝間で3.0～3.2mである。また、路面には波板状圧痕が認められる。方向は、両側溝とも南北発掘基準線にほぼ一致している。側溝の規模は、西側溝が上幅1.8～2.4m、下幅0.4～0.5m、深さ0.55～0.8mである。一方東側溝は上幅1.6～2.1m、下幅0.4～0.6m、深さ0.45～0.75mである。断面形は舟底状を呈し、壁の立ち上がりは北半部でやや急になっている。埋土は、両側溝とも大きく2層に分けられ、黒褐色土が主体を占める。下層は粘性を帯び、植物遺存体を含んでいる。遺物は、主体を占める土師器、須恵器のほか、須恵系土器、灰釉陶器、製塩土器、土錘、羽口等が出土している。また、墨書のある土師器・須恵器の杯・高台付杯も出土している。

【SX1940道路跡】（1－第114図）

D104区中央部の第Ⅳ・Ⅴ層上面で発見した東西に素掘りの側溝を伴う南北道路跡である。路面で5時期、東側溝（SD1942）で5時期（a→e期）、西側溝（SD1941）で4時期（a→d期）の重複を確認し、道路跡全体では5時期の変遷（A→E期）があると判断した。

A期：東・西両側溝（SD1942a・1941a）を確認した。側溝は第Ⅳ層に覆われる。路幅は新しい時期の側溝に壊されるため不明である。

B期：東・西両側溝（SD1942b・1941b）を確認した。A期路面の上にさらに盛土して路面を構築している。路幅は側溝心々で4.44m、側溝間では2.94mである。路面上では灰白色火山灰の自然堆積を確認した。

C期：東側溝（SD1942c）のみの確認である。路面はB期路面上に盛土して構築している。路面上において、波板状の凹凸を検出している。

D期：東・西両側溝（SD1042D・1941c）を確認した。路面はC期路面上に盛土して構築している。路幅は側溝心々で4.32m、側溝間では2.64mである。路面上において、波板状の凹凸を検出している。

E期：東・西両側溝（SD1042e・1941d）を確認した。路面はD期路面上に盛土して構築している。両側溝、路面とも第Ⅱ層に覆われる。方向は北で約7度東に偏している。路幅は側溝心々で5.10m、側溝間では3.50mである。なお、路面から木簡（第28号）が出土している。

以下、各側溝について説明する。

SD1942a：新しい時期の側溝にほとんど壊されているため規模等は不明であるが、第Ⅳ層に覆われることだけ確認している。

SD1942b：上幅1.13～1.44m、下幅0.30～0.45m、深さ82cmである。埋土は暗オリーブ灰色粘質土で上方に灰白色火山灰が自然堆積している。

SD1942c：上幅1.29～1.60m、下幅0.34～0.48m、深さ62cmである。埋土は褐灰色粘質土である。

SD1942d：上幅1.30～1.50m、下幅0.33～0.53m、深さ46cmである。埋土は褐灰色粘質土である。

SD1942e：上幅1.60m、下幅0.23～0.35m、深さ25cmである。方向は北で約5度東に偏している。断面は皿状を呈しており、埋土は黄灰色粘質土である。

SD1941a：SD1942aと同様に新しい時期の側溝に壊されているため規模等は不明である。第Ⅳ層に覆われることを確認している。

SD1941b：上幅1.78m、下幅0.45m、深さ80cmである。この時期の側溝が最も深くなっている。断面は逆台形状を呈しており、埋土は黒褐色粘質土である。

SD1941c：上幅1.82～2.37m、下幅0.32～0.41m、深さ55cmである。埋土は黒褐色粘質土である。

SD1941d：上幅1.54～2.52m、下幅0.40～0.52m、深さ42cmである。方向は北で約7度東に偏している。底面には凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は黒褐色粘質土である。

【SX1960道路跡】（1－第139図、2－第83図）

D104区東端部、D106区南端部、D107区北端部の第Ⅳ・Ⅴ層上面で発見した東西方向の道路跡である。路面・南側溝（SD1961）は1時期あるが、北側溝（SD1962）は2時期（a→b期）の重複があり、道路全体としては2時期の変遷があると判断した。

A期：北側溝（SD1962a）のみの確認であり、道路全体としての規模は不明である。側溝は埋められて整地されていることを確認している。

B期：北側溝（SD1962b）と南側溝（SD1961）を確認した。北側溝は直線的であるが、南側溝は東側では南に広がっている。路幅は側溝心々で4.25～5.80m、側溝間で3.55～4.78mである。方向は西で約34度北に偏している。埋土は黒褐色の粘質土であり、上方には灰白色火山灰が自然堆積している。なお、本道路跡は方向が違うものの、南1道路の延長と考えられる。

2　掘立柱建物跡

【SB2081建物跡】（1－第74図、2－第8・58図）

D27区東半部の第Ⅳ層上面で発見した桁行4間、梁行2間の東西棟掘立柱建物である。SB2082・2083・2084・2085、SI2087、SE874、SK2086と重複し、SE874・SI2087より新しく、SB2082・2083・2084より古い。SB2085・SK2086との関係は不明である。方向は、北側柱列が東西発掘基準線とおおよそ一致している。桁行については、北側柱列で総長約6.5m、柱間は西より約1.2m、約2.0m、約1.5m、約1.8mである。梁行については、西妻で総長約4.0mであり、柱間は南より約1.8m、約2.2mである。柱穴は8基発見した。平面形は概ね方形を基調としており、規模は長辺で32～52cm、短辺34～44cm、検出面からの深さは20～32cmである。掘り方埋土はにぶい黄色粘質土ブロック、炭化物、焼土を含む黒褐色粘質土である。全ての柱穴で抜取り穴を確認した。埋土は焼土・炭化物を含む黒褐色砂質土である。

【SB2082建物跡】（1－第75図、2－第8・58図）

D27区東端部の第Ⅳ層上面で発見した東西2間の柱列であるが、ここでは北側へ展開する建物跡と想定しておく。SB2081、SI2087、SB2083・2084と重複し、SB2081・SI2087より新しく、SB2084よ

り古い。SB2083との関係は不明である。方向は東で約4度北へ偏している。規模は、2間分で約4.8m、柱間は西より約2.3m、約2.4mである。発見した3基の柱穴は抜取り穴によって大きく壊されているため平面形は不明である。柱穴の規模は残存しているもので長辺24～40cm、短辺48cm、検出面からの深さは22～40cmである。掘り方埋土は、にぶい黄色粘質土をブロック状に含む暗オリーブ褐色土である。抜取り穴の埋土は焼土、炭化物を多量に含む黒色粘質土である。

【SB2083建物跡】（1－第76図、2－第8・58図）

D27区東半部の第Ⅳ層上面で発見した東西2間、南北2間以上で調査区外へ延びる掘立柱建物跡である。SI2087、SB2081・2082・2084と重複し、SB2081・SI2087より新しく、SB2082・2084との関係は不明である。方向は、東西の柱列でみると東で約3度北に偏している。東西の柱列は総長約4.0m、柱間は西より約2.3m、約1.7mである。南北の柱列の柱間は1間分が約1.8mである。柱穴は5基発見した。平面形は概ね方形を基調としており、規模は長辺で38～44cm、短辺30～36cm、検出面からの深さは28～32cmである。掘り方埋土はにぶい黄色粘質土ブロックを含む暗オリーブ褐色粘質土である。柱痕跡は東側柱列の北へ1間目の柱穴（P1）で確認した。規模は直径12cmの円形である。柱痕跡のない他の柱穴では抜取り穴を確認した。埋土は、焼土・炭化物を多量に含む黒色粘質土である。

【SB2084建物跡】（1－第77図、2－第8・58図）

D27区東端部の第Ⅳ層上面で発見した桁行3間以上、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。SB2081・2082・2083、SK875・2086と重複しており、SK875・2086より新しくSB2082より古い。SB2081・2083との関係は不明である。方向は、南妻でみると東で約10度南へ偏している。桁行については、東側柱列で3.8m以上、柱間は南より約1.9m、約1.8mである。梁行については、南妻で約3.8m、柱間は西より約1.8m、約2.0mである。柱穴は7基発見した。平面形は概ね方形を基調としており、規模は長辺で18～46cm、短辺16～36cm、検出面からの深さは24～28cmである。掘り方埋土は、にぶい黄色粘質土、炭化物を多量に含むオリーブ褐色粘質土である。柱痕跡は南東隅柱穴（P3）で確認した。直径14cmの円形である。柱痕跡を確認できなかった柱穴では、抜取り穴を確認した。埋土は炭化物、焼土を含む黒褐色粘質土である。

【SB2085建物跡】（1－第78図、2－第8・58図）

D27区東端部の第Ⅳ層上面で発見した桁行2間以上、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。SB2081、SE874と重複しており、SB874より新しい。SB2081との関係は不明である。方向は、北側柱列でみると東で約12度南へ偏している。梁行については北妻で約3.6m、柱間は西より1.82m、約1.8mである。桁行柱間は、西側柱列の1間分が約2.2mである。柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は長辺30～41cm、短辺26～32cm、検出面からの深さは22～34cmである。掘り方埋土は、にぶい黄色粘質土をブロック状に含む黄褐色土である。柱痕跡は北側柱列の北西隅柱穴（P1）、東へ1間目（P2）で確認した。直径12～14cmの円形である。柱痕跡を確認できなかった柱穴では、抜取り穴を確認した。埋土は炭化物を少量含む黒褐色粘質土である。

【SB2117建物跡】（1－第79図、2－第57・59図）

D88区中央部のSX2122河川跡埋土上面で発見した南北棟掘立柱建物跡である。桁行2間以上、梁行2間で北側が調査区外へ延びている。SB2118、SE2119、SX2122と重複し、それらより新しい。方向

は、南妻でみると東で４度39分北へ偏している。梁行については、南妻で4.30m、柱間は西より2.25m、2.05mである。桁行柱間は東側柱列の１間分が2.15mである。柱穴は４基発見した。平面形は概ね方形を基調としており、規模は長辺で27～29cm、短辺23～27cm、検出面からの深さは17～20cmである。掘り方埋土は灰白色火山灰の二次堆積ブロックを少量含む黒褐色粘質土である。全ての柱穴で柱痕跡を確認した。直径10～12cmの円形であり、埋土は黒褐色粘質土である。

【SB2118建物跡】（１－第80図、２－第57・59図）

D88区中央部のSX2122河川跡埋土上面で発見した南北棟掘立柱建物跡である。桁行２間以上、梁行２間で南側が調査区外へ延びている。SD2171、SE2119、SX2122と重複しており、SE2119より古く、SD2171、SX2122より新しい。方向は、北妻でみると東で約５度北へ偏している。梁行については、北妻で約3.0m、柱間は西より約1.5m、約1.6mである。桁行柱間は西側柱列の１間分が約2.2mである。柱穴は４基発見した。平面形は概ね方形を基調としており、規模は長辺で52～60cm、短辺30～50cm、検出面からの深さは36～46cmである。掘り方埋土はにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黒褐色粘質土である。すべての柱穴で抜取り穴を確認した。抜取り穴の埋土は、炭化物、にぶい黄色粘質土ブロックを少量含む黒褐色・暗オリーブ褐色の粘質土である。

【SB2106建物跡】（１－第81図、２－第57・62図）

D83区中央部の第Ⅴ層上面で発見した南北棟掘立柱建物跡である。桁行３間以上、梁行２間以上で北側と西側が調査区外へ延びている。他の遺構との重複関係はない。方向は東側柱列でみると北で約５度東へ偏している。桁行については、東側柱列が5.8m以上、柱間は南より約2.0m、約1.8m、約2.0mである。梁行柱間は、南妻の１間分が約2.4mである。柱穴は５基発見した。平面形は方形を基調としており、規模は長辺32～70cm、短辺34～64cm、検出面からの深さは22～32cmである。掘り方埋土は、にぶい黄色土ブロックを多量に含む黒色粘質土である。発見した全ての柱穴で抜取り穴を確認した。抜取り穴埋土は、にぶい黄色土ブロックを少量含む黒色粘質土である。

【SB2107建物跡】（２－第57・63図）

D83区中央部の第Ⅴ層上面で発見した掘立柱建物跡である。南北３間、東西２間以上で東側が調査区外に延びている。SI2108と重複しており、それより新しい。方向は、南北の柱列でみると北で約８度東へ偏している。南北の柱列の総長は約3.8m、柱間は南より約1.4m、約1.2m、約1.2mである。東西の柱列の柱間は西より約1.8m、約1.4mである。柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は長辺30～47cm、短辺27～34cmである。全ての柱穴で抜取り穴を確認した。柱穴の截ち割り調査は行っていない。

【SB2109建物跡】（１－第82図、２－第57・64図）

D83区中央部の第Ⅴ層・SX21784整地層上面で発見した桁行３間、梁行２間の東西棟掘立柱建物跡である。SB2111・2110と重複しており、それらより新しい。方向は、北側柱列でみると東で約14度南へ偏している。桁行については、北側柱列で総長約5.8m、柱間は西より約2.2m、約2.0m、約1.7mである。梁行については、東妻で約3.0m、柱間は南より約1.2m、約1.7mである。柱穴は調査区外へ延びる南西隅と、西妻棟通下を除いた８基を発見した。平面形は概ね方形を基調としており、規模は長辺36～55cm、短辺34～50cm、検出面からの深さは18～39cmである。掘り方埋土は、にぶい黄色粘質土をブロック状に多量に含む黒褐色粘質土である。発見した全ての柱穴で抜取り穴を確認した。埋土は、

にぶい黄色粘質土をブロック状に少量含む暗灰黄色粘質土である。

【SB2110建物跡】（1－第83図、2－第57・64図）

D83区中央部の第Ⅴ層上面で発見した桁行3間以上、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。SX2174整地層によって覆われている。SB2109・2111、SD831aと重複しており、それらより古い。方向は、北側柱列でみると東で約6度南へ偏している。北側柱列の桁行については、約5.8m以上、柱間は西より約1.9m、約2.2m、約1.7mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺60～80cm、短辺56～70cm、検出面からの深さは12～24cmである。掘り方埋土は、にぶい黄色ブロックを多量に含むオリーブ黒色粘質土である。全ての柱穴で抜取り穴を確認した。抜取り穴の埋土は、にぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黒色粘質土である。

【SB2111建物跡】（2－第57・64図）

D83区中央部の第Ⅴ層上面で発見した東西2間以上、南北3間以上で南側と西側が調査区外に延びる掘立柱建物跡である。SB2109・2110と重複しており、SB2109より古く、SB2110より新しい。方向は南北の柱列でみると北で約3度東へ偏している。東西の柱列は1間分が約2.2mである。南北の柱列は4.2m以上であり、柱間は南より約2.0m、約2.2mである。柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は長辺45～56cm、短辺36～50cmである。柱痕跡は北東隅柱穴と北東隅柱穴から西へ1間目以外の柱穴で確認した。直径14～17cmの円形である。柱穴の截割り調査は行っていない。

【SB2116建物跡】（2－第57・66図）

D83区南端部で発見した桁行2間、梁行2間の東西棟で総柱式掘立柱建物跡である。第Ⅴ層上面で検出した。北東、南西隅柱穴は調査区外にあるため確認できなかった。SI2115と重複しており、それより新しい。方向は、棟通りでみると東で約20度南に偏している。桁行については棟通りより推定して総長約4.8m、柱間は西より約2.4m、約2.4mである。柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は長辺38～54cm、短辺29～49cmである。柱痕跡は確認できなかった。北西隅柱穴、南東隅柱穴、南東隅柱穴より北へ1間目で抜取り穴を確認した。柱穴の截割り調査は行っていない。

【SB2282建物跡】（2－第80図）

D83区南部の第Ⅴ層上面で発見した桁行2間以上、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。SD2286、SX2287・2417・2004と重複しており、SX2287より古くSD2286、SX2417・2004より新しい。方向は、北側柱列でみると東で約10度南に偏している。梁行については、東妻で約3.9m、柱間は、北から約1.9m、約2.0mである。桁行柱間は北側柱列で西より約1.8m、約1.7mである。柱穴は6基発見した。平面形は方形を基調とし、規模は長辺36～54cm、短辺33～52cm、深さ20～53cmである。埋土は炭化物粒・黄色土粒を含む暗灰黄色砂質土および黒褐色土である。柱はすべて抜き取られており、確認できなかった。抜取り穴の埋土は、炭化物粒・黄色土粒を含む黒褐色粘質土である。

【SB2182建物跡】（1－第86図、2－第71図）

D105区北部の第Ⅴ層上面で発見した東西2間以上、南北2間の掘立柱建物跡である。ここでは桁行2間以上、梁行2間の東西棟建物と考えておきたい。SB2183・2184、SX2189小溝群、SK2204と重複しておりSB2183、SX2189小溝群より新しく、SK2204、SB2184より古い。方向は、西妻でみると北で約12度東へ偏している。梁行については、西妻で約4.4m、柱間は南より約2.3m、約2.1mである。桁

行柱間は南側柱列の１間分が約2.3ｍである。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺40～50㎝、短辺34～44㎝、検出面からの深さは16～24㎝である。掘り方埋土は炭化物、にぶい黄色ブロックを多量に含む灰黄褐色粘質土である。柱痕跡は南西隅柱穴（Ｐ３）でのみ確認した。直径12㎝の円形で、柱材が約22㎝残存していた。その他の全ての柱穴で抜取り穴を確認した。抜取り穴の埋土は、にぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黒色粘質土である。

【SB2183建物跡】（１－第87図、２－第71図）

D105区北部の第Ⅴ層上面で発見した桁行３間以上、梁行２間の東西棟掘立柱建物跡である。ほぼ同位置で２時期の変遷がある（Ａ→Ｂ期）。SB2182・2184、SX2189小溝群、SD2190・SD2201a～cと重複しており、SX2189小溝群より新しく、SB2182・SB2184・SD2190、SD2201a～ｃ期より古い。以下に古い順に説明する。

Ａ期：Ｂ期柱穴に大きく壊されているため、北側柱列で２基、南側柱列では１基の計３基の柱穴を確認した。平面形は概ね方形を基調としており、規模は、残存しているもので長辺24～64㎝、短辺18～46㎝、検出面からの深さ26～40㎝である。掘り方埋土は、にぶい黄色砂質土ブロックを多量に含む黒褐色砂質土である。

Ｂ期：北側柱列で３基、南側柱列で３基の計６基の柱穴を確認した。方向は、南側柱列でみると東で約５度南へ偏している。桁行柱間は西より約2.4ｍ、約1.6ｍである。梁行については、両側柱列中央の柱間より約4.2ｍである。柱穴の平面形は概ね方形を基調としており、規模は長辺56～80㎝、短辺52～58㎝、検出面からの深さは25～46㎝である。掘り方埋土は、多量のにぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色砂質土である。発見した全ての柱穴で抜取り穴を確認した。埋土は、炭化物を含む黒褐色粘質土である。

【SB2184建物跡】（１－第88図、２－第71図）

D105区北部の第Ⅳ層上面で発見した桁行７間、梁行３間以上の南北棟掘立柱建物跡である。調査区外にある東側をのぞき、南・北・西面に廂が付いている。SB2182・2183、SD2201Ａ～Ｃ・SX2189小溝群・SD2190、SX2188・SX21887と重複しており、それらより新しい。ほぼ同位置で２時期の変遷を確認した（Ａ→Ｂ期）。以下、古い順に説明する。

Ａ期：西側柱列で８基、西入側柱列で２基の計10基の柱穴を確認した。Ｂ期柱穴に大きく壊されているため、柱位置がわかるものはない。柱穴の平面形は概ね方形であり、柱穴の規模は残存しているもので、長辺34～45㎝、短辺26～42㎝、検出面からの深さは６～50㎝である。埋土は炭化物を少量含む黒褐色粘質土である。

Ｂ期：方向は、西側柱列でみると北で約９度東へ偏している。桁行については、西側柱列で総長約12.7ｍ、柱間は南より約1.4ｍ、約2.2ｍ、約1.9ｍ、約1.9ｍ、約2.0ｍ、約2.1ｍ、1.41ｍである。梁行については、南妻で3.8ｍ以上、柱間は西より1.3ｍ、約2.5ｍである。柱穴は西側柱列と北妻・南妻で10基、西入側柱列と南入妻で７基発見した。柱穴の平面形は方形である。規模は、西入側柱と南入妻が長辺39～51㎝、短辺36～42㎝、検出面からの深さは28～52㎝であり、西側柱は32～50㎝、短辺28～33㎝、検出面からの深さは14～40㎝である。埋土は、いずれもにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黒褐色砂質土である。北西隅柱穴、南へ１間目・３間目の柱穴で柱痕跡を確認した。直径11～14㎝の円形であり、埋土は黒色粘土である。それ以外の柱穴では柱の抜取り穴を確認した。埋土は炭化物、焼土を含む

黒色・黒褐色粘質土である。遺物は西側柱列北より２間目（Ｐ７）、４間目の柱穴（Ｐ５）の抜取り穴から須恵系土器高台付皿が出土している。

【SB2185建物跡】（１－第89図、２－第71図）

D105区北半部のSX2180・2203整地層上面で発見した桁行２間、梁行２間の東西棟で総柱式掘立柱建物跡である。SB2186、SX2180、SX2202小溝群と重複しており、SX2180、SB2186より新しく、SX2202小溝群より古い。方向は北側柱列でみると東で約８度南へ偏している。桁行については北側柱列で総長約4.4m、柱間は西より約2.3m、約2.1mである。梁行については西妻で総長約3.4mである。柱間は南より約1.6m、約1.8mである。柱穴は９基発見した。平面形は円形、楕円形であり、規模は楕円形のもので、長径22～32cm、短径17～28cm、検出面からの深さは12～29cmである。掘り方埋土は、黄灰色砂質土ブロック、炭化物、灰白色火山灰を少量含む黒褐色粘質土である。北西隅柱穴（Ｐ１）で直径11cm、長さ22cmの柱が残存しており、他の柱穴では抜取り穴を確認した。抜取り穴の埋土は、灰白色火山灰、炭化物、黄褐色砂質土をブロック状に含む黒褐色粘質土である。

【SB2186建物跡】（１－第90図、２－第71図）

D105区北半部のSX2180上面で発見した桁行２間、梁行２間の東西棟掘立柱建物跡である。SX2203整地層に覆われている。SB2185、SX2180、SX2202小溝群と重複しており、それより古い。方向は、西妻でみると北で約16度東へ偏している。桁行は北側柱列で総長約4.5m、柱間は西より約2.1m、約2.3mである。梁行は東妻で総長約3.4mであり、柱間は南より約1.7m、約1.7mである。柱穴は８基発見した。平面形は概ね方形を基調としており、規模は長辺52～80cm、短辺40～50cm、検出面からの深さは27～52cmである。掘り方埋土は、黄灰色粘質土ブロック、炭化物を少量含む黄褐色砂質土である。発見した全ての柱穴で抜取り穴を確認した。埋土は黄褐色砂質土をブロック状に含む暗灰黄色粘質土である。

【SB2410建物跡】（１－第91図）

D105区南半部で発見した東・南二面に廂が付く桁行４間、梁行３間の東西棟掘立柱建物跡である。第Ⅴ層上面で検出し、調査区外にある南西隅柱穴および南側柱列の西から１間目の柱穴以外はすべて検出した。SI2411と重複しており、それよりも新しい。柱は抜取られているものもあるが多くの柱穴で柱痕跡を確認しており、柱材が残存しているものもある（Ｐ３・10）。方向は、北側柱列でみると東で４度48分南に偏しており、東妻でみると北で５度２分東に偏している。桁行については北側柱列で総長8.61m、柱間は西より4.32m（２間分）、2.03m、2.26m（廂）である。梁行については、東妻で総長6.84m、柱間は南より2.24m、2.35m、2.24mであり、東入妻でみると総長6.82m、柱間は南より2.17m、4.65m（２間分）である。柱穴の平面形は方形を基調としており、身舎の柱穴が廂のそれより一回り大きい。規模は前者が長辺80cm、短辺70cm、後者は一辺50cmである。柱痕跡は直径15cmであり、北側柱列中央の柱穴（Ｐ３）では直径17cmの柱材が残存していた。掘り方の埋土は黒褐色砂質土である。

【SB2246建物跡】（１－第103図、２－第74図）

D103区東端部の第Ⅳ層上面で発見した東西２間、南北２間以上の掘立柱建物跡である。ここでは南北棟とみておく。SX2003と重複がありそれより新しい。方向は、西側柱列でみると北で約23度東に偏している。梁行については、北妻で約3.7m、柱間は西より約1.9m、約1.8mである。桁行柱間は西側柱列で北から約1.7m、1.60mである。柱穴は北妻棟通下、西側柱列で３基、東側柱列で２基の合計６基を

発見した。平面形は方形を基調としている。規模は長辺35～52cm、短辺28～39cm、深さ45～81cmである。全てを完掘した。埋土は多量の黄褐色砂質土ブロックと炭化物粒を含んだ黒褐色粘土である。柱痕跡は北東・北西隅柱穴を除く4基で確認した。直径12～24cmの円形である。全て柱材が残存しており、底面より5～16cm沈み込んでいる。埋土は黒褐色粘土および炭化物粒・黄褐色砂質土粒を含む黒褐色粘土である。ほかの2基は柱抜取り柱穴があり、埋土は少量の炭化物粒・黄褐色砂質土ブロックを含む黒褐色粘土である。遺物は、抜取り穴より須恵系土器杯が出土している。

【SB2253建物跡】（1－第104図、2－第76図）

D103区東半部の第Ⅴ層上面で発見した桁行3間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。SI2242、SD2247・2248と重複があり、それらより新しい。方向は、西妻でみると北で10度40分東に偏している。桁行については、北側柱列で約4.5m、柱間は西より約1.6m、約1.4m、約1.5mである。梁行については、西妻で3.56m、柱間は北より1.76m、1.80mである。柱穴は7基発見した。平面形は方形を基調とし、規模は長辺32～43cm、短辺32～37cm、深さ29～61cmである。7基全てを完掘した。埋土はにぶい黄色砂質土・黒褐色土ブロックを含む黄灰色土である。柱痕跡は西妻と東妻棟通下柱穴で確認した。直径12～14cmの円形である。全て柱材が残存しており、底面より10～25cmの沈み込んでいた。埋土は黒褐色粘質土である。他の3基には抜取り穴があり、埋土はにぶい黄褐色砂質土ブロックを含む黒褐色土である。遺物は、柱穴埋土から礫材が出土している。

【SB2245建物跡】（1－第105図、2－第76図）

D103区の第Ⅴ層上面で発見した桁行2間以上、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。SI2242と重複があり、それより新しい。方向は、南側柱列でみると東で約2度南へ偏している。梁行については、東妻で約3.6m、柱間は北より約1.8m、約1.8mである。桁行柱間は西より約1.6m、約1.8mである。柱穴は7基発見した。平面形は方形を基調としている。規模は長辺36～58cm、短辺25～52cm、深さは24～50cmである。7基すべてを完掘した。埋土はにぶい黄褐色砂質土ブロックを含む黒褐色粘土である。柱痕跡は北側柱列の東から1間目で確認しており、直径約15cmの円形である。埋土は黄灰色粘質土であり、柱材の外側のみが残存している。その他は抜取り穴があり、埋土は黒褐色粘質土である。南側柱列東から2間目で礎板を確認している。遺物は、抜き穴より礫材が出土している。

【SB2441建物跡】（2－第78図）

D103区中央部の第Ⅴ層上面で発見した東西2間以上、南北1間以上の東西棟掘立柱建物跡である。北側は調査区外へのびている。SI2266、SD2238・2269と重複があり、それらより新しい。方向は、東西の柱列でみると東で約8度南に偏している。柱間は東西の柱列が西より1.93m、約1.9mであり、南北の柱列が約1.8mである。柱穴は4基を発見した。平面形は方形である。規模は長辺58～68cm、短辺20～54cm、深さ38～70cmである。北壁際の1基を除き3基を完掘した。埋土はにぶい黄色砂質土ブロックを含む黒褐色土である。柱痕跡は東西の柱列2基で確認しており、直径14cmの円形である。埋土は黄褐色土ブロックを含む黒褐色土である。他の2基には抜取り穴があり、埋土はにぶい黄色土ブロックを含む黒褐色土および黄灰色土である。

【SB2266建物跡】（1－第106図、2－第77図）

D103区中央部の第Ⅴ層上面で発見した掘立柱建物跡である。北側が調査区外にあるが桁行3間、梁行

3間の南面廂付きの東西棟掘立柱建物跡と想定しておきたい。SB2273・2441、SI2274と重複があり、SB2273、SI2274より古く、SB2441より新しい。方向は東妻でみると、北で4度45分東に偏している。桁行については南側柱列で6.21m、柱間は西より2.00m、2.01m、2.15m、梁行については、東妻で4.10m以上、柱間は南より約1.8m、約2.3mである。柱穴は9基発見した。平面形は方形を基調とし、規模は長辺45～68cm、短辺42～68cm、深さ34～56cmである。東妻北端の柱穴を除き完掘した。埋土はにぶい黄色砂質土ブロックを多量に含む黒褐色粘土である。柱痕跡は東妻の南より1間目と西妻の南より1間目を除く6基の柱穴で確認した。直径12～18cmの円形であり、埋土は黒褐色土である。そのうち南側柱列東より1間目の柱穴で柱材を確認した。直径14cm、長さ14cmである。

【SB2272建物跡】（1－第107図、2－第78・79図）

D103区西半部、第Ⅴ層上面の部分的な堆積層の上面で発見した掘立柱建物跡である。東西2間、南北2間以上であり、北側は調査区外にのびている。SB2267・2281、SI2277と重複があり、SI2277より新しくほかより古い。方向は、東西の柱列でみると、東で約7度南に偏している。柱間は、東西の柱列で総長約4.5m、柱間は西から約2.3m、約2.3mであり、南北の柱列では1間分で約1.7mである。柱穴は5基発見した。平面形は方形を基調とし、規模は、長辺72～106cm以上、短辺59～91cm、深さ60～74cmである。埋土は灰黄褐色粘質土・暗灰黄色粘土ブロックを含む黄褐色土、にぶい黄色土を含む黒褐色粘土である。柱はすべて抜き取られていた。抜取り穴埋土は黄褐色・にぶい黄褐色土粒、炭化物粒を含む、灰黄褐色・暗黄褐色粘土である。

【SB2279建物跡】（1－第107図、2－第78・79図）

D103区西半部の第Ⅴ層上面で発見した掘立柱建物跡である。東西2間、南北1間以上で北側は調査区外にのびている。SB2272、SI2277と重複があり、SB2277より古く、SI2277より新しい。方向は、東西の柱列でみると東で約10度南に偏している。柱間は東西の柱列で総長約3.5m、柱間は西より約1.6m、約1.9mであり、東側の南北の柱列では1間分が約1.7mである。柱穴は4基発見した。平面形は方形を基調とし、規模は、長辺43～54cm、短辺34～37cm、深さ40～48cmである。壁にかかる1基を除き3基完掘した。埋土は暗灰黄色粘質土、およびにぶい黄色砂質土、黒褐色粘質土である。いずれにも炭化物粒が含まれている。南北の柱列の一つ（P6）で柱痕跡を確認した。直径16cmの円形であり、埋土はにぶい黄褐色土粒、暗灰黄色砂質土粒を含む黒褐色粘質土である。柱材と礎板も残存しており、柱材は直径11cm、長さ25cmである。そのほかの柱穴にはすべて抜取り穴があり、埋土は黄褐色土や暗灰黄色砂質土粒を含む黒褐色粘質土である。

【SB2281建物跡】（1－第107図、2－第78・79図）

D103区西半部の第Ⅴ層上面の部分的な堆積層の上面で発見した掘立柱建物跡である。東西2間、南北1間以上で北側は調査区外へのびている。SB2272と重複があり、それより新しい。方向は、東西の柱列でみると東で約11度南に偏している。柱間は東西の柱列で総長約4.2m、柱間は西より約2.2m、約2.0mであり、南北の柱列は東側の1間分が約2.1mである。柱穴は5基発見しており、柱はほとんど抜取られている。平面形は円形を基調とし、規模は、長辺22～36cm、短辺19～33cmである。壁にかかる1基を残し4基を完掘した。

【SB2267建物跡】（1－第108図、2－第78・79図）

D103区西半部の第Ⅴ層上面で発見した桁行3間、梁行3間の掘立柱建物跡であり、東面に廂の付く南北棟である。SB2272、SI2277・2278、SK2217・2275、SD2271と重複があり、SK2217より古くほかより新しい。方向は、西側柱列でみると北で約10度東に偏している。桁行については、西側柱列で約5.4m、柱間は北から約1.8m、約1.8m、約1.8m、梁行については、南妻で約6.8m、柱間は西から約2.5m、約2.2m、約1.9mである。柱穴は14基発見した。平面形は方形を基調としており、規模は身舎の柱穴が長辺69～94cm、短辺58～74cm、深さ29～67cm、廂の柱穴が長辺52～65cm、短辺38～53cm、深さ38～55cmである。すべて完掘した。埋土は黒褐色粘土質土・炭化物粒を含むオリーブ褐色砂および黄褐色砂である。柱痕跡は東側柱列で検出しており、直径8～15cmの円形である。埋土は黒褐色粘質土である。南から1間目を除く3基の柱穴では柱材も確認しており、直径9～15cm、長さ20～38cmである。ほかの柱穴では柱抜取り穴があり、埋土は黄褐色およびオリーブ褐色砂質土を含む黒褐色粘土である。遺物は、抜取り穴より製塩土器、竈材、鉄椀が出土している。

【SB2273建物跡】（2－第77図）

D103区中央部の第Ⅴ層上面で発見した掘立柱建物跡である。東西3間、南北1間以上で調査区北側にのびている。SB2266と重複がありそれより古い。方向は、東西の柱列でみると東で約9度南に偏している。柱間は、東西の柱列で総長約5.6m、柱間は、西より約2.0m、約2.1m、約1.6mである。南北の柱列は東側の1間分が約2.3mである。柱穴は5基発見した。平面形は方形を基調とし、規模は長辺55～68cm、短辺38～56cmである。深さ38～55cmである。埋土は黒褐色ブロックを含むにぶい黄色砂質土である。柱痕跡は南東隅柱で確認した。直径10cmの円形であり、埋土は黒褐色粘質土である。柱材も残存しており、直径10cm、長さ16cmである。他の柱穴にはすべて抜取り穴があり、埋土はにぶい黄褐色砂質土ブロックを含む黒褐色土である。南東隅柱穴では長さ25cm、幅6cmの棒状の材木が柱材を挟んでおり、東妻南から1間目では長さ20cm以上、幅3～5cmの材木を4本敷き並べて礎板としていた。

【SB2335建物跡】（2－第76図）

D103区東半部の第Ⅳ層上面で発見した桁行3間、梁行1間以上の東西棟掘立柱建物跡である。SX2003と重複しており、それより新しい。北側柱列と西妻棟通下柱穴を検出した。方向は、北側柱列でみると東で約11度南に偏している。桁行については、北側柱列で約5.3m、柱間は西より約1.7m、約1.7m、約1.9mである。梁行柱間は、西妻1間分が約2.2mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺34～52cm、短辺32～43cm、深さ42～53cmである。埋土は黒褐色粘土を含むにぶい黄褐色砂質土、あるいは暗黄灰色粘土粒を含む黄褐色砂質土である。柱痕跡は西妻棟通下柱穴で確認した。直径12cmの円形である。他の柱穴には全て抜取り穴があり、埋土は炭化物粒・黄褐色砂質土粒を含む黒褐色粘土、あるいは炭化物粒・オリーブ褐色ブロックを含む黒褐色粘質土である。

【SB1987建物跡】（2－第82図）

D106区北半部の第Ⅳ層上面で発見した掘立柱建物跡である。東西2間以上、南北1間以上で北側は調査区外へのびている。SX2003と重複があり、それより新しい。方向は東西の柱列でみると、東で約9度南に偏している。柱間は、東西の柱列が西より約1.9m、約1.9m、南北の柱列1間分が約2.1mである。柱穴は4基発見した。平面形は円形を基調としている。規模は、長辺28～48cm、短辺26～44cm、深さ

19～42cmである。４基すべて完掘した。埋土は黒褐色粘質土である。すべての柱穴に抜取り穴があり、埋土は灰白色火山灰・炭化物粒を含む黒褐色粘質土である。

【SB1994建物跡】（1 －第109図、2 －第81図）

D106区北半部、第Ⅳ層上面で発見した桁行３間、梁行２間の南北棟掘立柱建物跡である。SD1996、SK1991と重複があり、SD1996より新しく、SK1991より古い。ほぼ同位置で２時期の変遷を確認した（A → B 期）。

A 期：東側柱列の北から１間目、北西隅柱穴、西側柱列北から１間目の柱穴の３基を検出した。規模は長辺20cm以上、短辺20cm、深さ24～55cmである。埋土は、黄褐色土ブロック・炭化物粒を含む黒褐色粘土である。

B 期：柱穴は10基すべて発見した。方向は、東側柱列でみると北で約19度東に偏している。桁行については東側柱列で約5.3m、柱間は北より約1.7m、約2.3m、約1.7m であり、梁行は北妻で約4.1m、柱間は、西より約2.1m、約1.9mである。平面形は方形を基調とし、規模は長辺38～58cm、短辺32～56cm、深さ34～75cmである。すべて完掘した。埋土は黄褐色土粒、炭化物粒を含む黒褐色粘土、および黄褐色砂質土である。柱穴には抜取り穴があり、埋土は炭化物粒を含む黒褐色粘土である。北妻、西側柱列の北から１間目、南西隅の５基の柱穴で礎板を確認している。長辺18～27cm、短辺12～19cmである。

【SB1988建物跡】（2 －第81図）

D106区北半部の第Ⅳ層上面で発見した掘立柱建物跡である。東西２間以上、南北１間以上で北側が調査区外へのびている。SX2003と重複がありそれより新しい。南北の柱穴に重複があり、２時期の変遷を想定しておく（A → B 期）。

A 期：いずれの柱穴もB 期の柱の直下で確認している。規模は長辺36～22cm、短辺18～22cm、深さ47～58cmである。埋土は、黄褐色ブロックを含む黒褐色粘土である。

B 期：柱穴は４基発見した。方向は、東西の柱列でみると、東で約19度南に偏している。柱間は東西の柱列が総長約4.8m、柱間は西より約2.1m、約2.6mであり、南北の柱列は１間分が約2.4mである。柱穴は４基発見した。平面形は方形を基調とし、規模は長辺45～55cm、短辺38～48cm、深さ32～46cmである。５基すべて完掘した。埋土は黄褐色土、炭化物粒を含む黒褐色粘土、および黒褐色土ブロックを含む黄褐色砂質土である。南西隅より北へ１間目の柱穴で柱痕跡を確認した。直径14cmの円形であり、直径14cm、長さ12cmの柱材と長辺20cm、短辺16cmの礎板も残存していた。ほかの柱穴にはすべて抜取り穴があり、埋土は炭化物粒・黄褐色土ブロックを含む黒褐色粘土である。

【SB1913建物跡】（第１－第115図・２－第91図）

D30区ほぼ中央部の第Ⅴ層上面で発見した掘立柱建物跡である。桁行４間以上、梁行２間で、北側が調査区外にかかる。SD1911、SI1912と重複し、前者より新しく、後者より古い。検出した８基の柱穴のうち、６基で柱痕跡を確認した。このうちの３基に柱材が残存している。また、２基で礎板を確認した。そのほかの２基には抜取り穴がある。方向は、西側柱列でみると北で５度東へ偏している。桁行柱間は、西側柱列で南より2.15m、2.10m、2.00mである。梁行は南妻で総長4.10m、柱間は西より2.10m、2.00mである。柱穴の平面形は概ね長方形で、規模は長辺44～54cm、短辺32～42cm、深さは30～42cmである。埋土は、にぶい黄色土のブロックを多量に含む黒褐色土である。柱痕跡は直径12～15cmであ

り、埋土は黒色粘質土である。また、残存する柱材は直径12～15cm、長さ16～20cmである。

【SB2218建物跡】（1－第116図、2－第102図）

D92区中央部の第Ⅴ層上面で発見した桁行3間、梁行1間以上の東西棟掘立柱建物跡である。SI2228と重複があり、それより新しい。方向は、南側柱列でみると東で約4度南に偏している。桁行については、南側柱列で約5.3m、柱間は、西より約2.0m、約1.5m、約1.9mであり、梁行柱間は東妻の1間分が約2.0mである。柱穴は6基発見した。平面形は方形を基調とし、規模は長辺46～60cm、短辺36～56cm、深さ22～44cmである。すべて完掘した。埋土は、黄褐色土や砂を大量に含む。暗灰黄色砂質土、黒褐色粘質土、黄色土である。柱はすべて抜取られており、抜取り穴の埋土は炭化物粒・黄色土粒を含む暗灰黄色砂質土・黒褐色粘土である。

【SB2219建物跡】（1－第117図、2－第103図）

D92区中央部の第Ⅴ層上面で発見した桁行2間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。方向は、南側柱列でみると東で約9度南に偏している。桁行については、南側柱列でみると約3.6m、柱間は西より約1.8m、約1.8mである。柱穴は8基確認した。平面形は方形を基調とし、規模は長辺23～52cm、短辺22～47cm、深さ25～49cmである。すべて完掘した。埋土は黄褐色土ブロックを含む黒褐色粘質土である。柱痕跡は北東隅柱穴で確認しており、直径14cmの円形である。柱材が残存しており、直径14cm、長さ24cmである。ほかの柱穴はすべて抜取られており、抜取り穴の埋土は黄色土・砂ブロック・炭化物粒を含む黒褐色粘質土である。

【SB2222建物跡】（1－第118図、2－第94図）

D92区西半部の第Ⅴ層上面で発見した桁行2間、梁行2間の東西棟で総柱式の掘立柱建物跡である。方向は、北側柱列でみると東で約6度南に偏している。桁行については、北側柱列で約4.1m、柱間は西より、約2.2m、約1.9mであり、梁行は西妻で約4.0m、柱間は北より約2.1m、約2.0mである。柱穴は7基確認した。平面形は方形を基調とし、規模は長辺18～50cm、短辺12～40cm、深さ21～40cmである。すべて完掘した。埋土は、黄褐色土粒を多く含む黒褐色土である。柱はすべて抜取られており、抜取り穴埋土は炭化物や黄色土粒を含む黒褐色土である。遺物は、抜取り穴から須恵系土器杯、製塩土器、掘り方から製塩土器が出土している。

【SB2221建物跡】（1－第119図、2－第94図）

D92区西半部の第Ⅴ層上面で発見した。桁行6間、梁行4間の掘立柱建物跡である。北側が調査区外にあるが、南・西・東の3面に廂が付く東西棟である。方向は、南側柱列でみると東で約11度南に偏している。桁行については、おおよそ14.0mであり、柱間は、南入側柱列で西より（1間分不明）、2.44m、2.70m、約2.4m、約2.5m、約1.7mである。柱穴は15基発見した。平面形は方形を基調とし、規模は長辺22～68cm、短辺16～60cm、深さ11～57cmである。すべて完掘した。埋土は炭化物粒、黄褐色土ブロックを含む黒褐色土である。柱痕跡は8基で確認しており、直径16～20cmの円形である。埋土はわずかに焼土粒・黄色土粒を含む黒褐色粘土である。ほかの柱穴に抜取り穴があり、埋土は灰白色火山灰粒・炭化物粒・黄色土粒を含む黒褐色土および粘土である。南東隅と南側柱列の東から1間目・2間目の柱穴、南入側柱列の東から1間目の柱穴で礎板を確認している。

【SB2220建物跡】（1－第120図、2－第94図）

D92区西半部の第Ⅴ層上面で発見した桁行3間、梁行2間以上の東西棟で、南面に廂の付く掘立柱建物跡である。2時期の重複がある（A→B期）。

A期：南入側柱列の両端を除く各柱穴を確認した。B期に大きく壊されていて全容は不明である。柱穴の埋土は、黒褐色土粘質土ブロックを含む黄褐色土であり、灰白色火山灰粒をわずかに含むものもある。柱はすべて抜取られており、抜取り穴埋土は黄色土粒を多く含む黒褐色粘土である。

B期：A期とほぼ同位置で建て替えられている。方向は、南入側柱列でみると東で約5度南に偏している。桁行については、南入側柱列で約5.3m、柱間は西から約1.8m、2.04m、1.78mであり、梁行柱間は身舎西妻の1間分が約2.5mである。柱穴は8基確認した。平面形は方形を基調とし、規模は長辺60～83cm、短辺52～78cm、深さ29～51cmである。すべて完掘した。埋土は、黄褐色土ブロックを含む黒褐色土や灰白色火山灰粒・炭化物粒・黄褐色ブロックを含む暗灰黄色土である。柱痕跡は、身舎南西隅柱穴と南側柱列東より2間目柱穴を除く6基の柱穴で確認した。直径14～20cmの円形であり、埋土は炭化物粒・黄褐色砂質土粒を含む黒褐色粘質土である。南東隅柱穴とそれより2間目柱穴、入側柱列の西より2間目の柱穴で柱材を検出した。直径16～18cm、長さ16～36cmである。南側柱列の東より2間目の柱穴には抜取り穴があり、埋土は炭化物粒・黄褐色土粒を含む黒褐色土である。

【SB2223建物跡】（1－第121図、2－第94図）

D92区西半部の第Ⅴ層上面で発見した。桁行2間、梁行2間の総柱式の掘立柱建物跡である。方向は、北側柱列でみると東で9度23分南に偏している。桁行については、北側柱列で4.78m、柱間は西より2.40m、2.40mであり、柱穴は6基発見した。平面形は方形を基調とし、規模は長辺25～54cm、短辺25～44cm、深さ22～45cmである。埋土は、黄褐色土粒を含む黒褐色土である。柱痕跡は北側柱列、西妻棟通下の柱穴で確認した。直径14～16cmの円形であり、埋土は炭化物粒、黄色土粒を含む黒褐色土である。ほかの2基には抜取り穴があり、埋土は少量の炭化物粒を含む黒褐色土である。遺物は、埋土から須恵系土器杯が出土している。

【SB2208建物跡】（2－第100図）

D93区東半部の第Ⅲ層上面で発見した桁行3間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。方向は、北側柱列でみると東で約18度北に偏している。桁行については、北側柱列で約5.0m、柱間は、西より約1.6m、約1.8m、約1.9mである。梁行は、東妻で約3.0m、柱間は北より約1.5m、約1.5mである。柱穴は10基発見した。平面形は方形を基調とし、規模は長辺12～60cm、短辺12～50cm、深さ1～9cmである。柱穴の埋土は暗オリーブ褐色粘土である。柱痕跡は東妻棟通下の柱穴で確認しており、埋土は黄色土粒を含む黒褐色粘土である。

【SB1880建物跡】（1－第122・123・124図、2－第88・98図）

D30区中央部、111区南端部、104区西端部にかけての第Ⅳ層上面で発見した桁行5間、梁行4間の南北棟四面廂付掘立柱建物跡である。柱穴は28基すべて発見した。柱痕跡は側柱においてはすべて確認し、身舎では、南入妻棟通り下柱穴でのみ確認した。柱痕跡を確認したほとんどの柱穴では柱材が良好に残存していた。方向は、西側柱列でみると北で15度8分東に偏している。桁行については、西側柱列で10.04m、柱間は南より2.36m、1.82m、2.07m、1.90m、1.99mである。梁行については、南妻で

8.60m、柱間は西より2.19m、2.12m、2.31m、1.98mである。柱穴の平面形は方形を基調とし、規模は一辺66～114cm、深さは70～75cmである。埋土は灰白色火山灰ブロックを含む黄灰色粘質土と砂質土が混じり合った土であり、版築した状況も確認できた。柱材は廂部分が直径18～22cm、身舎では直径28cmであり、礎板のない柱穴においては掘り方底面から20～30cm沈み込んでいる。本建物は、抜取り穴や切取り穴に炭化物や焼土が多量に含まれており、焼失した可能性が考えられる。遺物は、抜取り穴より完形の須恵系土器杯が出土している。

【SB1881建物跡】（1－第122・124図、2－第88・98図）

D30区中央部、111区南端部、104区西端部にかけての第Ⅳ層上面で発見した桁行7間、梁行4間の南北棟四面廂付掘立柱建物跡である。柱穴は30基発見し、北西隅柱穴、西側柱列北から1間目・2間目柱穴は確認できなかった。北妻棟通り下柱穴と東から3間目柱穴、西入側柱南から2間目・4間目柱穴、東入側柱南から2間目柱穴、東側柱北から1間目・3間目柱穴において抜取り穴を確認し、それ以外では柱痕跡を確認している。SB1880・1882と重複し、SB1882よりも新しい。SB1880との新旧関係は不明である。方向は、東側柱列でみると北で10度40分東に偏している。桁行については、東側柱列で17.27m、柱間は南より、2.04m、3.03m、2.35m、約2.7m、約2.7m、2.43m、2.05mである。梁行については、東西側柱の南から2間目でみると5.53mであり、柱間は南妻の棟通りより東が2.40m、1.76mである。柱穴は方形を基調としており、規模は廂部分が20～50cm、身舎部分が40～60cmである。埋土は、灰白色火山灰と炭化物を含む黒褐色土である。柱痕跡は直径16～20cmの円形である。

【SB1871建物跡】（1－第125図、2－第79図）

D30区北端部の第Ⅴ層上面で発見した桁行3間、梁行3間の南北棟掘立柱建物跡である。西側には廂が付いている。SD1862、SK1869と重複があり、それよりも新しい。柱穴はすべて検出しており、柱痕跡は南西隅、西入側柱列の南・北、南東隅、東側柱列南より1間目の各柱穴で確認しており、そのほかの柱穴では抜取り穴を確認した。方向は、西入側柱列でみると、北で7度22分東に偏している。桁行については、東側柱列で約6.5m、柱間は南より2.1m、2.3m、2.3mである。梁行については、南妻で約6.6m、柱間は西より2.16m、2.3m、2.1mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は一辺50～80cm、深さは40～50cmである。埋土はにぶい黄褐色粘質土ブロックと砂質土ブロックを含む黒褐色粘質土である。柱痕跡は直径10～16cmであり、埋土は黒褐色粘質土である。本建物は抜取り穴に多量の炭化物、焼土が混入しており、焼失した可能性が考えられる。

【SB1876建物跡】（1－第126図、2－第87図）

D30区北半部の第Ⅳ層上面で発見した桁行2間、梁行2間の総柱式掘立柱建物跡である。SK1873と重複しており、それよりも古い。柱穴は9基すべて発見し、北東隅柱穴以外で柱痕跡を確認した。方向は、西側柱列でみると北で0度53分西に偏している。桁行については西側柱列で3.89m、柱間は南より1.94m、1.95mである。梁行については、南妻で3.66m、柱間は西より1.81m、1.86mである。柱穴の平面形は方形を基調とし、規模は一辺66～88cm、深さは60cmである。埋土は灰黄褐色粘質土である。柱痕跡は直径20cmであり、埋土は褐灰色粘質土である。

【SB1882建物跡】（1－第127図、2－第88・98図）

D30区中央部の第Ⅴ層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。柱穴は8基

発見した。部分的にしか検出できなかった南妻棟通り下柱穴以外で柱痕跡を確認した。SI1887、SB1881、SD1885・1886、SK1888と重複しており、SI1887、SK1888よりも新しく、SB1881、SD1885・1886よりも古い。方向は、東側柱列でみると北で5度44分東に偏している。桁行については、東側柱列で5.60m、柱間は南より1.44m、1.49m、1.68mである。梁行については、北妻で3.39m、柱間は西より1.63m、1.77mである。柱穴は方形を基調としており、規模は一辺51～88cmであり、埋土はにぶい黄褐色粘質土である。柱痕跡は直径14～19cmの円形である。

【SB1902建物跡】（1－第128図、2－第90図）

D30区中央部の第IV層上面で発見した掘立柱建物跡である。柱穴は5基発見し、すべて柱痕跡を確認している。SB1902、SD1930、SX1900と重複しており、それらよりも新しい。方向は、南北の柱列でみると北で14度21分東に偏しており、柱間は南より2.58m、2.62mである。東西の柱列の柱間は西より2.56m、2.35mである。柱穴は方形を基調としており、一辺30～52cm、深さは39cmである。埋土は灰白色火山灰ブロックを含む灰黄褐色粘質土である。柱痕跡は直径14～18cmの円形であり埋土は褐灰色粘質土である。

【SB1933建物跡】（1－第129図）

D104区西端部の第IV層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。6基の柱穴を確認した。発見したすべての柱穴で柱痕跡を確認している。SI1935、SD1893、SK2007と重複しており、SI1935、SK2007よりも新しく、SD1893よりも古い。方向は、西側柱列でみると北で15度14分東に偏している。桁行については、西側柱列で6.37m、柱間は南より1.97m、2.29m、2.11mである。梁行については、北妻で4.31m、柱間は西より2.08m、2.23mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は一辺50～60cmであり、深さは20～40cmである。柱痕跡は直径18cmの円形であり、埋土は黒色粘質土である。

【SB1947建物跡】

D104区中央部の第V層上面で発見した桁行3間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。すべての柱穴を検出したが、南側柱列については掘り方の一部を検出したのみである。SX1958と重複しており、これよりも新しい。方向は北側柱列でみると、西で0度26分北に偏している。桁行については、北側柱列で約5.1m、柱間は西より1.78m、約1.7m、1.6mである。梁行については、西妻で3.8m、柱間は南より2.0m、1.84mである。掘り方の平面形は方形を基調としており、規模は一辺35～50cm、深さは40cmである。埋土は暗灰黄色土を主体としている。柱痕跡は直径14～16cmの円形である。

3　柱列跡

【SA2181建物跡】（1－第85図、2－第71図）

D105区北部のSD2201上面で発見した南北3間以上の柱列である。SD2201a～c期と重複しており、それらより新しい。方向は、柱列の北で約5度東へ偏している。柱間は南より約1.8m、約2.2m、約2.2mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺46～58cm、短辺46～54cm、検出面からの深さは24～40cmである。掘り方埋土は灰白色火山灰のブロック含む黒色粘質土である。全ての柱穴で抜取り穴を確認しており、埋土は多量の炭化物、灰白色火山灰を含む黒褐色粘質土である。遺物は北端の柱穴

（Ｐ１）掘り方から緑釉陶器椀が出土している。

【SA2088柱列跡】（１－第101図、２－第57・61図）

D83区北端部の第Ⅵ層上面で発見した南北方向に延びる柱列跡である。布掘りによる掘り方と柱の抜取り穴より想定したもので、方向は北で約13度東へ偏している。検出したのは約1.6mであり、掘り方の規模は上幅38～52cm、下幅18～24cm、検出面からの深さは28～50cmである。掘り方埋土は暗オリーブ灰色砂をブロック状に含む暗黄灰色粘質土である。抜取り穴の埋土は炭化物を含む黒褐色粘質土である。抜取り穴の底面には直径18～20cmの柱当たり痕跡を２間分確認した。柱間はおおよそ0.6～0.8mである。

4　竪穴住居跡

【SI2087竪穴状遺構】（１－第92図、２－第８・58図）

D27区東端部の第Ⅳ層上面で発見した竪穴状遺構である。SB2081・2082・2083と重複しており、それらより古い。平面形は概ね方形であり、規模は東辺が2.8m、北辺が2.4mである。方向は、北辺でみると東で約１度南に偏している。埋土は３層に細分され、１層は炭化物を多量に含む黒色砂質土、２層はにぶい黄色粘質土をブロック状に多量に含む灰オリーブ粘質土、３層はにぶい黄色粘質土をブロック状に含むオリーブ黒色粘質土である。主柱穴は４基発見し、それら全てに２時期の変遷を確認した。Ａ期の柱穴はＢ期のものに大きく壊されているが、残存部の平面形は概ね方形であり、規模は長辺30～68cm、短辺30～40cm、検出面からの深さは30～44cmである。Ｂ期の柱穴の平面形はおおよそ方形であり、規模は長辺28～37cm、短辺26～34cm、検出面からの深さは30～44cmである。Ｂ期の柱穴の全てで柱痕跡を確認した。柱痕跡は直径10～14cmの円形である。埋土は黒色粘質土である。なお、カマド、周溝等は確認できなかった。遺物は土器類をはじめ、製塩土器などが出土している。

【SI2108竪穴住居跡】（１－第93図、２－第57・63図）

D83区中央部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SB2107と重複しており、それより古い。平面形は方形であり、規模は西辺が3.0m、南辺が3.9mである。方向は南辺でみると東で約10度南に偏している。床面は、にぶい黄色粘質土ブロックを多量に含むオリーブ黒色砂質土による貼床である。北辺東側の調査区壁際に40×76cmの範囲で焼土を確認しており、カマドの可能性がある。周溝、柱穴等は確認できなかった。

【SI2115竪穴住居跡】（２－第57・66図）

D83区南端部の第Ⅴ上面で発見した竪穴住居跡である。SB2116と重複しており、それより古い。検出した段階で、既に東辺付近では床面が、南辺付近では掘り方が露出していた。平面形はおおよそ方形であり、規模は東辺が約3.4m以上、南辺が2.3m以上である。方向は、南辺でみると東で約38度南に偏している。床面は、炭化物を多量に含む黒色砂質土による貼床である。周溝、柱穴、カマド等は確認できなかった。

【SI2105竪穴状遺構】（２－第57・62図）

D83区北半部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。削平と後世の溝による撹乱が著しく、検出した段階で既に掘り方、床面が露出していた。SK2104、小柱穴と重複しており、それらより古い。平面形は方形であり、規模は南辺が3.0m以上、西辺が2.82mである。方向は、西辺でみると北で約14度東

に偏している。貼床は、にぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黒色粘質土である。周溝、柱穴、カマド等は確認できなかった。

【SI2127竪穴住居跡】（1－第94図、2－第57・67図）

D102区東半部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SI2126と重複しており、それより新しい。平面形は方形である。規模は西辺が2.6m、南辺が3.3mである。方向は、北辺でみると東で約6度南に偏している。壁高は東辺付近で16cmである。床面全面には、にぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黄灰色砂質土の貼床がある。床面上でカマド、周溝を検出した。周溝はカマド直下を除き各辺で確認した。規模は上幅12～30cm、下幅7～16cm、深さ3～14cmであり、断面形は浅い「U」字状を呈している。埋土は黄灰色粘質土である。カマドは西辺に設置されており、にぶい黄橙色粘質土の側壁崩壊土が確認された。煙道は残存状況からカマド奥壁から70cmほどで立ち上がるものと思われる。カマド前面には東西0.46m、南北0.66mの範囲で焼面が確認された。主柱穴は確認できなかったが、周溝内埋土を掘り下げた段階で壁柱穴を各辺で確認した。直径12～22cmの円形である。埋土はにぶい黄色粘質土ブロックと砂が混じる黄灰色粘質土である。住居内埋土は3層あり、1層は多量のにぶい黄色粘質土ブロックを含む黄灰色粘質土、2層は少量の炭化物を含む黒褐色粘質土、3層は多量の炭化物を含む灰黄褐色粘質土である。

【SI2128竪穴住居跡】（1－第95図、2－第68図）

D102区東半部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。西側を近・現代の溝によって大きく壊されており、南半部は調査区外へ延びている。ほぼ同位置で2時期の変遷を確認した（A→B期）。SE2131、SE2123と重複しており、それらより古い。

A期：西側を近・現代の溝に、南側をB期のものに大きく壊されている。平面形はおおよそ方形で、規模は北辺が2.9m以上、東辺が0.5m以上である。方向は、北辺でみると東で約9度南に偏している。床面全面には、少量のにぶい黄色粘質土ブロックや炭化物を含む暗灰黄色砂質土の貼床がある。床面上で周溝を検出した。規模は上幅18～26cm、下幅8～12cm、深さ11～17cmであり、断面形は浅い「U」字状を呈している。埋土は若干の炭化物を含む黒褐色砂質土である。カマド、柱穴は確認できなかった。住居内埋土は1層で、多量の炭化物を含む黒褐色粘質土である。

B期：A期と同様に西側を後世の溝に大きく壊されている。平面形はおおよそ方形で、規模は北辺が2.9m以上、東辺が2.3m以上である。方向は、北辺でみると東で約10度南に偏している。床面は全面がにぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色粘質土の貼床である。床面上で周溝を検出した。規模は上幅14～22cm、下幅6～12cm、深さ10～13cmであり、断面形は浅い「U」字状を呈している。埋土はにぶい黄色粘質土を少量含む黄灰色砂質土である。主柱穴は北辺に平行して2基検出し、各柱穴で抜取り穴を確認した。抜取り穴の埋土は炭化物を多量に含む黒色粘質土である。掘り方の平面形は概ね方形であり、規模は長辺32cm以上、短辺28cm以上、検出面からの深さは40cmである。住居内埋土は炭化物を多量に含む黒褐色粘質土である。カマドは確認できなかった。遺物は土器類をはじめ、竈形土器、などが出土している。

【SI2411竪穴住居跡】

D105区南半部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SB2410などと重複しており、それより古

い。床面まで著しく削平されており、残存状況は悪い。南東隅付近において東辺と南辺の周溝の一部を検出し、掘り方埋土の分布をかろうじて確認したのみである。東辺でみると、方向は北でわずかに東に偏しており、規模は4.0m以上である。周溝は上幅が約30cmである。

【SI2242竪穴住居跡】（1－第110図、2－第76図）

D103区東半部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SB2245、SK2241、SX2004と重複がありSX2004より新しく、ほかより古い。平面形は方形である。方向は、西辺でみると北で約4度東に偏している。規模は東西3.6m、南北3.0m以上であり、壁高は約30cmである。床面は全面が黒褐色粘土ブロックを含む黄褐色細砂の貼床である（19層）。床面上で周溝とカマドの一部を発見した。周溝はカマド下を除き各辺で確認した。規模は、上幅25～48cm、深さ約30cmである。埋土は暗灰黄色土を含む黄褐色砂質土である（17層）。その上面で小溝状の壁材の痕跡を確認した。規模は上幅4～8cm、深さ約30cm、埋土は、黄褐色土粒を含む暗灰黄色土である（16層）。柱穴は確認できなかった。カマドは、東辺南寄りに敷設されている。黄褐色土を貼り付けて構築しており、側壁の一部が幅40cm、長さ60cmにわたって残存している。その前面には東西約38cm、南北25cmの焼け面と焼土、炭化物の分布が見られた。カマド内埋土は、炭化物・焼土粒を含む灰である（13層）。煙道と煙出しも確認している。規模は、長さ138cm、深さ35cmである。煙道内埋土は、炭化物粒と黄褐色砂質土粒を含む暗灰黄色土（14層）、炭化物粒を多量に含む暗灰黄色土である（15層）。住居内埋土は、薄い炭化物層を含む暗灰黄色粘質土が床面直上にあり（11～12層）、機能時の堆積層とみられる。それより上層は、炭化物粒・黄褐色土ブロックを含む暗灰黄色粘質土で人為的に埋め戻されたものである（1～10層）。遺物は、住居内埋土より製塩土器が出土している。

【SI2265竪穴住居跡】（1－第111図、2－第78図）

D103区西半部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SK2262・2264・2268・2271と重複があり、そのいずれよりも古い。平面形は方形である。方向は、東辺でみると北で約1度西に偏している。規模は、東西4.6m、南北3.9m以上であり、壁高は約10cmである。床面は全面が黒色土・浅黄色土ブロックを含むにぶい黄褐色の貼床である（6層）。床面上で周溝と柱穴と土壙2基を発見した。周溝は南辺と東・西辺の一部で確認した。規模は、上幅約20cm、深さ5～10cm、埋土はにぶい黄色土ブロックを含む黒色砂質土である（3層）。柱穴は各辺に平行するように4基確認した。平面形は円形を基調とし、規模は長径48～56cm、短径42～48cm、深さ46～56cmである。埋土は黒褐色土とにぶい黄褐色土ブロックを含むにぶい黄色砂質土である。柱はすべて抜取られ、確認できなかった。抜取り穴の埋土はにぶい黄褐色砂質土ブロックを含む黒褐色土である。土壙は2基確認した。土壙1は北側の柱穴と柱穴の間に位置している。平面形は楕円形で、規模は長径64cm、短径58cm、深さ10cmである。埋土は炭化物粒・焼土粒を多く含み、にぶい黄色砂質土ブロックを含む黒褐色土である（4層）。土壙2は西側の柱穴間に位置している。平面形は楕円形である。規模は長径40cm、短径28cm、深さ5cmである。埋土は黄色砂質土ブロックを含む黒褐色土である（5層）。住居内埋土はにぶい黄褐色土ブロックを含む黒色土である（1～2層）。遺物は、住居内埋土より製塩土器が出土している。

【SI2274竪穴住居跡】（2－第77図）

D103区西半部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SB2266と重複があり、それより古い。平

面形は方形である。方向は、西辺でみると北で約２度東に偏している。規模は東西3.3m、南北3.3m以上である。床面は、全面が黒褐色土、にぶい黄色砂質土を多量に含むにぶい黄色土の貼床である。床面上で土壙を発見した。規模は、上幅60～75cm、深さ12cmである。埋土は１層が焼土粒・焼土塊、炭化物粒、にぶい黄褐色砂質土を含む黒褐色土である。２層は木炭層を含む黒色土である。カマド、柱穴、その他の施設は全く検出できなかった。遺物は、住居内埋土より製塩土器が出土している。

【SI2277竪穴住居跡】（２－第78図）

D103区西半部の第Ⅴ層上面で検出した竪穴住居跡である。SB2272・2279、SI2265、SK2247・2264・2275・2276と重複があり、それより古い。平面形は方形である。方向は、西辺でみると北で約７度東に偏している。規模は東西5.5m、南北4.9m以上である。床面は全面がにぶい黄色土ブロックを含む暗黄褐色粘質土の貼床である。カマド、柱穴その他の施設は全く検出できなかった。遺物は、住居内埋土より製塩土器が出土している。

【SI2278竪穴住居跡】（１－第112図、２－第79図）

D103区西半部の第Ⅴ層上面で検出した竪穴住居跡である。SK2217、SD2217、SB2267、SX2004と重複があり、SX2004より新しく、ほかのものより古い。平面形は方形である。方向は、東辺でみると北で約３度東に偏している。規模は東西4.4m、南北4.2mであり、床面まで削平されて、わずかに貼床が残存していた。床面上で周溝と柱穴を発見した。周溝は各辺を廻り、規模は上幅17～45cm、深さ５～10cmである。埋土は黄褐色土粒を含む黒褐色砂質土である。柱穴は各辺に平行するように４基確認した。平面形は円形を基調とし、規模は直径32～54cm、深さ40～55cmである。埋土は黒褐色粘土ブロックや黄褐色土ブロックを含むオリーブ褐色土である。柱痕跡は北側の２基で確認した。直径10cmの円形である。埋土は、黄褐色土ブロック・オリーブ褐色砂を含む黒褐色粘質土である。

【SI1887竪穴住居】（２－第88・98図）

D30区中央部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SB1881・1882、SD1886・1892、SK1893・1894と重複しており、SK1894よりも新しく、SB1881・1882、SD1886・1892、SK1893よりも古い。平面形は方形である。方向は、東辺でみると北で約９度東に偏している。規模は、南北3.42m、東西3.88mであり、壁高は削平されているため不明である。床面には部分的に貼床が認められる。床面上では東辺の南半で上幅約20cmの周溝を約1.0m確認した。

【SI1922竪穴住居跡】（１－第130図・２－第96図）

D30区南半部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。西辺は調査区外にかかっている。SD1923と重複しており、それより古い。削平が著しく、壁沿いに掘り方を残すのみである。平面形は方形であり、規模は東西約4.4m、南北約4.0mである。方向は、東辺でみると北で約５度東に偏している。柱穴は、南西部を除いて検出した。いずれもほぼ同位置で重複しており、１度建て替えがあったと考えられる。古い時期の各柱穴は、平面形は概ね円形であり、規模は直径38～64cm、深さ26～44cmである。掘り方埋土は、にぶい黄色土のブロックを多量に含む黄灰色土である。また、南東部柱穴と北東部柱穴で抜取り穴を確認した。一方、新しい時期の各柱穴は平面形が円形であり、直径32～42cm、深さ30～36cmである。掘り方埋土は、にぶい黄色土のブロックを多量に含む黄灰色・黒褐色土である。北東部柱穴では直径14cmの柱痕跡を確認しており、北西部の柱穴では直径12cm、長さ15cmの柱材が残存していた。

また、南東部の柱穴では抜取り穴を確認している。

【SI2227竪穴住居跡】（1－第131図、2－第102図）

D92区中央部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SI2228、SD2226と重複があり、SD2226より古く、SI2228より新しい。平面形は方形である。東辺は後世の削平で失われている。周溝と主柱穴を残すのみである。方向は西辺でみると北で約13度東に偏している。規模は、南北4.5m、東西3.6m以上である。地山をそのまま床面としている。周溝は3辺で確認した。上幅10～40cm、深さ13cm、壁柱穴と見られる小穴を27個確認している。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺25～56cm、短辺18～37cm、深さ20～40cmである。埋土は、黄褐色土・砂ブロックを含む黒褐色粘質土である。柱はすべて抜取られており、抜取り穴の埋土は、炭化物粒、黄褐色砂粒を含む黒褐色粘質土である。南西部以外の柱穴で礎板を確認している。

【SI2228竪穴住居跡】（2－第102図）

D92区中央部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。SB2218、SI2227と重複があり、いずれよりも古い。平面形は方形である。東辺は後世の削平で失われており、掘り方を残すのみである。方向は、西辺でみると北で約8度東に偏している。規模は、南北3.8m、東西3.2m以上である。地山を直接床面としている。壁に沿うように掘り方があり、規模は上幅10～40cm、深さ3～8cmである。幅10～15cmの三日月形の工具痕を確認している。

5　井戸跡

【SE874井戸跡】（1－第96図、2－第8・58図）

D27区東端部の第Ⅳ層上面で発見した井戸跡である。SB2081と重複しており、SB2081より古い。ほぼ同位置で2時期の変遷がある（A→B期）。

A期：B期によって大きく壊されているため、掘り方の一部を確認したのみである。平面形はおおよそ方形であり、長辺2.0m、短辺1.8m、深さ0.8m以上である。壁はやや急角度に掘り込まれている。埋土は3層に細分され、1層はにぶい黄色粘質土をブロック状に少量含む灰色砂質土、2層はにぶい黄色粘質土をブロック状に中量含むオリーブ黒色砂質土、3層はにぶい黄色粘質土をブロック状に少量含む灰色砂質土である。

B期：A期とほぼ同位置で作り替えられている。底面に方形の曲物を据え、その周囲に縦板を二重に立て並べた井戸側を備えたもので、内法は東西65cm、南北70cmとなっている。井戸側の内側の板は長さ70～90cm、幅28～65cmであり、東面は1枚、その他の面は2枚立て並べている。外側の板は長さ50～70cm、幅19cm～34cmであり、各辺2～3枚立て並べている。これらの内側には横桟を渡して縦板を押さえている。横桟は直径4～12cm、長さ65～70cmの丸材であり、その両端を、東西壁面側では凸形に、南北壁面側では凹形に整形して、組み合わせている。底面の方形曲物は、長辺50cm、短辺36cm、高さ30cmである。井戸側内埋土は1層で、多量の植物遺存体を含む黒色粘土である。井戸側の上部は抜取り穴によって壊されている。抜取り穴の平面形は南北にやや長い円形であり、規模は長径1.3m、短辺1.2m、深さ0.6mである。埋土は2層に細分され、1層は多量の炭化物やにぶい黄色粘質土をレンズ状に少量含む黒色粘質土、2層は少量の炭化物を含む黒色砂質土である。掘り方の平面形は南北にやや長い方形で

あり、規模は長辺2.0m、短辺1.8m、検出面からの深さは1.8mである。断面形は漏斗状となっており、検出面から約1.0m下がったところに段がついている。掘り方埋土は3層に細分され、1層は少量の炭化物、にぶい黄色粘質土をブロック状に多量に含む黒褐色砂質土、2層は少量のにぶい黄色粘質土ブロックを少量含むオリーブ黒色砂質土、3層は小木片、にぶい黄色粘質土ブロックを中量含む黒色砂質土である。遺物は土器類をはじめ、円面硯、須恵器長頸瓶（壺G）、木製品では、挽物皿・挽物高台付皿・漆器皿・斎串・錘、雲母などが出土している。

【SE2132井戸跡】（1－第98図、2－第69図）

D102区西部のSX2135整地層上面で発見した井戸跡である。刳り貫き材を組み合わせた井戸側を備えている。SK2175、小柱穴と重複しており、SK2175より新しく、小柱穴より古い。井戸側は直径1.0mの半截した刳り貫き材を掘り方中央に据え、その南に幅0.5mの刳り抜き材2枚を一方は内側を向け、もう一方は外側を向けて密接して据えたものである。井戸側の上部は抜取り穴に壊されており、平面形は東西にやや長い楕円形である。規模は長径1.3m、短辺1.1m、深さ0.4mである。抜取り穴の埋土は2層に細分され、1層は少量の炭化物を含む黒褐色粘質土、2層はにぶい黄色粘質土を少量含む黒褐色粘質土である。掘り方の平面形は方形であり、規模は長辺2.0m、短辺1.8m、検出面からの深さは1.0mである。壁はほぼ垂直であるが、西壁は検出面から約70cm下がったところで段が付き、そこから底面に向かって急角度に下がっている。掘り方埋土は3層に細分され、1層はにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黒褐色砂質土、2層は中量のにぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色粘質土、3層はにぶい黄色粘質土ブロックを含むオリーブ黒色粘土である。井戸側内埋土は単層で、オリーブ黒色粘土である。遺物は土器類をはじめ、円形の曲物、竈形土器などが出土している。

【SE2123井戸跡】（1－第99図、2－第57・68図）

D102区東部の第Ⅲ層上面で発見した素掘りの井戸跡である。SI2128、SE2131と重複関係があり、それらより新しい。平面形は東西にやや長い楕円形を呈している。断面形は浅い皿状を呈しており、底面付近のみ急角度に掘り下げられている。底面は概ね平坦である。規模は、長径6m、短径4.9m、検出面からの深さは1.3mである。埋土は3層に細分され、1層は多量の植物遺存体を含む黒色粘土、2層は植物遺存体、骨片を含む黒褐色粘土層、3層は砂粒や粗砂を含む黒褐色砂質土層である。遺物は土器類をはじめ、灰釉陶器椀、須恵系土器杯・小皿・高台付皿、製塩土器、木製品ではヘラ状製品・円形の曲物などが出土している。

【SE2129井戸跡】（1－第99図、2－第57・67図）

D102区東端部の第Ⅳ層上面で発見した井戸跡である。北西部は調査区外にあり、抜取り穴と掘り方の一部を検出した。SK2172と重複しており、それより古い。井戸側は全て抜き取られているため形態は不明であるが、底面には方形曲物が据えられている。掘り方の平面形は概ね円形である。抜取り穴は東西1.8m以上、南北1.9m以上であり、断面形は皿状で壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は2層に細分され、1層は炭化物を多量に含む黒色粘質土、2層は少量のにぶい黄色粘質土ブロックを少量含む黒色粘質土である。掘り方の規模は長径2.0m、短径0.8m以上、深さは0.9mである。埋土は2層に細分され、1層は炭化物、にぶい黄色粘質土ブロックを少量含む黒褐色砂質土、2層はオリーブ黒色砂である。掘り方底面付近に据えられた方形曲物は、長辺52cm、短辺48cm、高さ10cmである。

【SE2130井戸跡】（1－第99図、2－第57・67図）

D102区東部の第Ⅳ層上面で発見した井戸跡である。北半分は調査区外にあり、掘り方と抜取り穴の一部を検出した。SI2126、SX2124と重複しており、それらより新しい。掘り方の平面形は東側にやや膨らむ方形である。壁の立ち上がりはやや緩やかである。規模は東西2.0m、南北1.9m以上である。埋土は2層に細分され、1層が灰黄褐色粘質土、2層がにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む灰黄褐色粘質土である。抜取り穴は掘り方のほぼ中央付近に掘り込まれており、上方が大きく開き、下部はやや窄まりながら落ち込んでいる。規模は東西1.0m、南北1.0mである。埋土は2層に細分され、1層はにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む灰黄褐色粘質土、2層はオリーブ黒色粘質土である。

【SE2131井戸跡】（1－第99図、2－第68図）

D102区中央部の第Ⅴ層上面で発見した井戸跡である。南半分は調査区外にあり、掘り方および抜取り穴の一部を検出した。SX2205小溝群、SE2123、SK2176と重複しており、SX2205小溝群より新しく、SE2123、SK2176より古い。掘り方の平面形はおおよそ方形であり、壁は急角度に掘り込まれている。規模は、東西2.5m、南北1.5m以上である。埋土は2層に細分され、1層が少量の炭化物を含む黒褐色砂質土、2層がにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含むオリーブ黒色砂質土である。抜取り穴は掘り方のほぼ中央付近に掘り込まれ、上方が大きく開き、下部は急角度に落ち込んでいる。規模は東西1.8m、南北1.1m以上である。埋土は3層に細分され、1層は炭化物を中量含む黒褐色砂質土、2層はにぶい黄色粘質土ブロックを少量含む黒褐色粘質土、3層はにぶい黄色粘質土をブロック状に中量含む黒褐色粘質土である。遺物は抜取り穴の底面から小型の長頸瓶、「厨」と墨書された土師器杯が出土している。

【SE2133井戸跡】（1－第99図、2－第70図）

D102区西部の第Ⅴ層上面で発見した井戸跡である。大部分は調査区外にあり、掘り方の一部を検出したのみである、SD2177と重複しており、それより新しい。掘り方の平面形はおおよそ円形であり、壁は垂直に掘り込まれている。規模は東西1.7m、南北0.9m以上である。埋土は2層まで確認でき、1層が黒褐色砂質土、2層がにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黒褐色粘質土である。詳細な調査は行っておらず、井戸側等については不明である。

【SE2119井戸跡】（1－第97図、2－第57・59図）

D88区中央部のSX2122河川跡埋土上面で発見した井戸跡である。SB2117・2118、SX2122、SK2173と重複しており、SB2118、SX2122より新しく、SB21117、SK2173より古い。ほぼ同位置で2時期の変遷がある（A→B期）。

A期：B期によって大きく壊されているため、掘り方と抜取り穴の一部を確認したのみである。抜取り穴は長辺1.6m、短辺1.3m、深さ0.4m以上であり、埋土は多量の炭化物を含む黒褐色砂質土である。掘り方の平面形は概ね方形であり、規模は長辺2.3m、短辺2.1m、深さは1.0mである。壁はほぼ垂直に立ち上がっており、底面は概ね平坦である。埋土はにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黒色粘質土である。遺物は、抜取り穴から甕形土器が出土している。

B期：A期とほぼ同位置で作り替えられたもので、縦板組の井戸側を備えている。井戸側の構造は、縦板を二重に重ねたものであり、四隅に丸材・角材の支柱を立て、横桟を渡して縦板を押さえている。縦板は長さ35～92cm、幅22～70cmであり、枘穴を持つ転用材である。各辺とも2～3枚立て並べられ

ている。横桟は直径４～５㎝、長さ62～75㎝の丸材の両端を凸形と凹形に整形して、組み合わせている。井戸側の内法は56～60㎝である。井戸側の上部は抜取り穴に壊されている。その平面形は北側にやや膨らむ方形であり、規模は長辺1.0m、短辺0.9m、深さ0.3mである。掘り方の平面形は方形で、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。底面は概ね平坦である。規模は長辺1.7m、短辺1.6m、深さは1.1mである。埋土は３層に細分され、１層はにぶい黄色粘質土をブロック状に含む黒褐色砂質土、２層は少量の炭化物を含む黒色粘質土、３層は小木片、炭化物を少量含む黒色粘質土である。井戸側内埋土は３層に分けられ、１層は多量の植物遺存体を含む黒色粘土、２層は灰オリーブ粘質土、３層は炭化物を中量含むオリーブ黒色粘土である。遺物は土器類をはじめ、製塩土器、甑、ヘラ状木製品・下駄などが出土している。

【SE1976井戸跡】（2－第82図）

D106区南半部の第Ⅴ層上面で発見した素掘りの井戸跡である。SK1977と重複しており、それよりも古い。平面形は楕円形であり、規模は長軸2.65m、短軸2.13m、深さ1.29mである。断面形はＵ字形を呈しており、埋土は１層が黒褐色粘質土、２層がオリーブ褐色粘質土である。遺物は土器類のほか、墨書土器、木製品挽物椀・皿が出土している。

【SE1929井戸跡】（1－第132図、2－第87・88図）

D30区北半部の第Ⅴ層上面で発見した縦板組みの井戸側を備えた井戸跡である。SB1876と重複しており、それよりも古い。井戸側の内法は東西80㎝、南北88㎝の方形であり、掘り方のほぼ中央に据えられている。掘り方の平面形は円形であり、規模は直径3.04mである。埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色砂質土である。

【SE2010井戸跡】（1－第133図、2－第98図）

D111区中央部の第Ⅳ層上面で発見した横板組みの井戸側を備えた井戸跡である。抜取り穴も確認している。井戸側の内法は、南北0.98m、東西0.85mであり、深さは1.8mである。埋土は、抜取り穴が多量の炭化物を含む黒色粘質土、井戸側内が炭化物を含む黒褐色土、掘り方は地山ブロックを含む黒褐色土である。遺物は土器類のほか、青磁香炉（越州窯系）、墨書土器、刀子などが出土し、土器類の中には須恵系土器が含まれている。

【SE1912井戸跡】（1－第134図・2－第91図）

D30区ほぼ中央の第Ⅴ層上面で発見した井戸跡である。掘り方の北側一部が調査区外にかかっている。SB1913、SX1920E期と重複しており、前者より新しく、後者より古い。縦板組みの井戸側を備えたもので、掘り方のほぼ中央に据えられている。井戸側は四辺とも１枚の側板で構成されている。東辺と西辺では、側板の中程両端近くに、それぞれ２個の方孔をうがち、ここに粗く成形した２本の角材による横桟を通している。また、南辺のみ外側にもう１枚の縦板を立て、これを押さえるように細長い丸太材をさらに外側に打ち込んでいる。井戸側の内法は、東西55㎝、南北45㎝の長方形である。また、各側板は残存長92～95㎝、幅27～32㎝である。掘り方の平面形は円形であり、規模は、直径約2.0m、深さ約1.4mである。壁は底面から若干開き気味に立ち上がり、中頃で段を有する。埋土は２層に分けられ、上層は黒褐色土、下層は黒褐色粘質土である。いずれもにぶい黄色土の粒やブロックで含んでいる。

【SE1924井戸跡】（1－第135図・2－第97図）

D30区南端近くの第Ⅴ層上面で発見した井戸跡である。板材による井戸側を備えたもので、掘り方の

やや南寄りに据えられている。各辺とも大きさ、厚さが不揃いの板材４～７枚を井戸側として、縦方向に並べている。その内側中頃に、丸太材による横桟を井桁状に渡している。これらは、両端が掘り方埋土内に埋め込まれている。さらに、東辺と西辺では底面近くに大型の板材を横方向に渡して、内側からの井戸側の押さえとしている。また、四隅のうち北東隅を除いた３箇所に支柱と考えられる丸太材が打ち込まれているが、横桟とは連結していない。規模は、井戸側の内法が一辺約95cmである。掘り方の平面形はおおよそ円形であり、その規模は直径約1.5m、深さ約0.9mである。底面は平坦であり、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。埋土上層部には、大小様々な板材や角材、及び10cm大の石が含まれており、人為的に埋めれたような状況である。遺物は、主体を占める土師器、須恵器のほか、須恵系土器、製塩土器等が出土している。また、墨書のある土師器杯が掘り方・井戸側内埋土から出土している。

【SE1926井戸跡】（１－第136図・２－第97図）

D30区南端近くの第Ⅴ層上面で発見した井戸跡である。SK1925と重複し、それより古い。刳り貫き材と板材による井戸側を備えたもので、掘り方の北寄りに設置されしている。このうち、刳り貫き材は西辺に据えられている。直径約40cmの丸太材を半截して刳り貫いたものと推定される。残存長は約1.05mである。一方、他の三辺は大きさ、厚さとも不揃いの板材数枚を縦方向に並べているように見られるが、判然としない。掘り方については、平面形はほぼ円形であるが、北側で掘り足したような張り出し箇所がみられる。底面は平坦であり、壁はやや開き気味に立ち上がっており、南壁付近では中頃から上がほぼ垂直になっている。規模は、直径約2.1m、深さ約0.9mであり、北側の張り出し部の深さは約0.5mである。遺物は、主体を占める土師器、須恵器のほか、製塩土器、土錘が出土している。また、墨書のある土師器・須恵器の杯が掘り方・井戸側内埋土から出土している。

【SE1927井戸跡】（１－第137図・２－第97図）

D30区南端近くの第Ⅴ層上面で発見した井戸跡である。４枚の刳り貫き材による井戸側を備えたもので、掘り方の南壁際に据えられている。井戸側に用いられた刳り貫き材は、それぞれ両端を接して据えられているが、西辺のものは土圧により内側に倒れ込んでいた。これらは、丸太材を４分割以上にし、内側を刳り貫いたもので、寸法は、残存長67～83cm、幅37～45cm、厚さ４～９cmである。掘り方の平面形はおおよそ円形であり、その規模は直径約1.3m、深さ約0.8mである。また、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。掘り方埋土は２層に分けられ、上層は暗灰黄色ブロックを多く含む黒褐色粘質土で、下層は灰色粘質土ブロック等を多く含むオリーブ灰色砂質土である。一方、井戸側内埋土も２層に分けられる。上層は黒褐色粘質土で特に上部に木片を多く含む。下層は底面上に４～９cmの厚さで堆積した黒褐色粘質土で植物遺存体を多く含む。また、下層の上面には貝殻辺が敷き詰められており、その直上からは上半部を半分ほど欠損しただけの須恵器甕と３個の石が１箇所にまとまって出土している。石については、大きさは一様ではない。さらに、甕の内部には径25cmほどの石が重しのように入れられている。遺物は、文字が刻書された細長い筒形の竹製品が井戸側内埋土下層から出土している。これには、片側の端部寄りに直径約0.5cmの小孔が穿たれ、もう一方の端部近くに節がかかるが、ここが抜かれているか否かは土圧により潰れているため判然としない。このほか、土錘が出土している。

6 溝　跡

【SD2098溝跡】（1－第101図、2－第57・61図）

D83区北部のSX2101上面で発見した東西方向の溝跡である。長さ5mにわたって検出した。方向は東西両端部で計測すると、東で約8度北に偏している。SD2099、SX2100・2101と重複しており、それらより新しい。規模は上幅2.2～2.6m、下幅0.7～1.0m、深さ0.6mである。壁面は断面形が浅い逆台形を呈しており、緩やかに立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は3層に細分され、1層は砂粒を含む褐灰色粘土、2層は炭化物を多量に含む黒色粘土、3層は植物遺存体を含む暗オリーブ褐色と黄灰色砂の互層である。

【SD2099溝跡】（1－第101図、2－第57・61図）

D83区北部のSX2101上面で発見した東西方向の溝跡である。長さ5mにわたって検出した。方向は東西両端部で計測すると、東で約8度北に偏している。SD2098、SX2100・2101と重複しており、SX2100・2101より新しく、SD2098より古い。規模は上幅2.6～2.8m、下幅1.0～1.1m、深さ0.8mである。壁面は断面形が浅い皿状を呈しており、緩やかに立ち上がっている。底面は東へ緩やかに傾斜しており、比高は10～13cmである。埋土は3層に細分され、1層は炭化物を少量含む黒褐色粘質土、2層は灰白色火山灰の自然堆積層、3層は植物遺存体を含む黒色粘質土である。

【SD2100溝跡】（1－第101図、2－第57・61図）

D83区北部のSX2101河川跡埋土上面で発見した東西方向の溝跡である。長さ6mにわたって検出した。方向は東西両端部で計測すると、東で約12度南に偏している。SD2098・2099、SX2101と重複しており、SX2101より新しく、SD2098・2099より古い。規模は上幅3.2～3.7m、下幅2.2～2.3m、深さ0.6～0.7mである。壁面は南側がやや急角度で、北側は緩やかに立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は3層に細分され、1層は植物遺存体を多量に含む褐灰色粘土、2層は黄灰色砂と黒褐色粘土の互層、3層はオリーブ灰色の粗砂と褐色粘質土の互層である。遺物は土器類をはじめ、緑釉陶器椀（皿）、灰釉陶器椀（皿）、甕形土器、甑、製塩土器、須恵器双耳瓶などが、木製品では、木簡（第109号）、斎串、人形、ヘラ状製品、挽物、漆器皿などが出土している。

【SD2113溝跡】（2－第57・65図）

D83区南部の第Ⅴ層上面で発見した東西方向の溝跡である。長さ5mにわたって検出した。SD832bと「T」字状に接続している。方向はおおよそ東西発掘基準線と一致している。SD2114と重複しており、約2.6m東側で扇形に広がっている。規模は上幅0.9～5.9m以上、下幅0.7～4.8m以上、深さ0.5m以上である。断面形は浅い逆台形を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は単層であり、上部に灰白色火山灰が堆積する暗灰黄色粘質土である。

【SD2114溝跡】（2－第57、65図）

D83区南部の第Ⅴ層上面で発見した東西方向の溝跡である。長さ5mにわたって検出した。SD832bと「T」字状に接続している。方向は東西両端部で計測すると、東で約5度南に偏している。SD2113と重複しており、それらより古い。規模は上幅1.0～1.2m、下幅0.6～0.7m、深さ25cmである。断面形は浅い逆台形を呈しており、壁はやや急角度で立ち上がっている。底面は緩やかに西側に傾斜しており、比高は約9cmである。埋土は単層であり、植物遺存体を多量に含む黒褐色粘質土である。

【SD2138溝跡】（2－第69図）

D102区西部のSX2139整地層（整地b）上面で発見した「コ」字状を呈する溝跡である。長さは東西方向で5.2m、南北方向では西側で2.1m、東側で1.2mにわたって検出した。方向は、東西方向のものは東で約12度南へ、南北方向（西側）のものは、北で約26度東に偏している。SK2137・2136、SD922eと重複しており、それらより古い。規模は上幅30～90cm、下幅16～26cm、深さ8～22cmである。壁面は、底面付近ではやや急角度で立ち上がっているが、上部は緩やかに立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は2層に細分され、1層は黒褐色砂質土、2層は暗灰黄色砂質土である。

【SD2142溝跡】（1－第73図、2－第70図）

D102区西部のSX2140河川跡埋土・SX2412整地層上面で発見した溝跡である。「L」字状に大きく屈曲し、調査区外へ延びている。本調査区西側のD105区では検出できなかったことから、D105区との接続部付近で北に屈曲するものと考えられる。長さは、東西方向を14.5m、南北方向を3mにわたって検出した。方向は、東西方向のものは、東で約10度南へ偏しており、南北方向のものは、北で約24度東に偏している。SD922d・e、SK2141、SX2143小溝群と重複しており、それらより古い。規模は上幅0.8～1.4m、下幅0.4～0.7m、深さ0.6mである。断面形は逆台形を呈しており、壁はやや急角度に立ち上がって、上端部分のみ緩やかになっている。底面は西へ向かって緩やかに傾斜しており、比高は約16cmである。埋土は2層に細分され、1層はにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黄灰色粘質土、2層はにぶい黄色粘質土を多量に含む黒褐色粘質土であり、いずれも人為的に埋められたものと考えられる。

【SD2134溝跡】（2－第69図）

D102区西部の第Ⅴ層上面で発見した南北方向の溝跡である。SX2135整地層によって覆われている。長さは5.0mにわたって検出した。方向は北で約40度西へ偏している。SE2132、小柱穴と重複しており、それらより古い。規模は上幅0.7～0.8m、下幅0.2～0.4m、深さ21～25cmである。断面形は逆台形を呈しており、壁はやや急角度で立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は少量のにぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色粘質土である。

【SD2409溝跡】

D105区北半部で発見した溝跡である。SX2406・2408と重複しており、それらによって大きく破壊されている。部分的に検出したのみであるが、おおよそ南北方向の溝跡である。埋土上層に灰白色火山灰が自然堆積している。

【SD1862溝跡】（2－第79・86・98図）

D30区北端部から103区西端部にかけての第Ⅴ層上面で発見した南北溝跡である。SB1871と重複しており、それよりも古い。方向は北で約12度東に偏している。規模は上幅1.1～1.4m、下幅0.2～0.4m、深さ36～45cmである。埋土は1層が炭化物を含む黒褐色粘質土、2層が炭化物を含むオリーブ褐色粘質土、3層が黄褐色砂質土ブロックを黒褐色粘質土である。

【SD1895溝跡】（2－第89図）

D30区中央部の第Ⅴ層上面で発見した東西溝跡である。SD1892・1931・1932、SK1894と重複しており、SD1931・1932、SK1894より新しく、SD1892よりも古い。方向は西で約7度北に偏している。規模は上幅1.3～1.8m、下幅0.3m、深さ42cmである。断面形は逆台形を呈している。埋土は1層が

褐灰色粘質土、2・3層が黒褐色粘質土である。

【SD1896溝跡】（1－第139図、2－第89・90図）

D30区中央部の第Ⅳ層上面で発見した東西溝跡である。SX1900と重複しており、それよりも新しい。同位置で重複しており、2時期の変遷を確認した（A→B期）。

A期：B期によって大きく壊されており、検出できたのは北壁と底面のみである。断面形は逆台形を呈しており、底面は平坦である。規模は上幅2.6m以上、下幅0.9m、深さ86cmである。埋土は1層（1－第139図4層）が黒褐色粘質土、2層（同5層）が灰白色火山灰の自然堆積土、3層（同6層）が黒褐色粘質土である。

B期：断面はV字形を呈している。方向は西で約14度北に偏している。埋土は1層（第139図1層）が基本層の第Ⅱ層が溝内に入り込んだ黒色粘質土、2・3層（同2・3層）が砂粒を含む黒褐色粘質土である。

【SD1897溝跡】（1－第139図、2－第89・90図）

D30区中央部の第Ⅳ層上面で発見した南北溝跡である。SX1900、SD1896Bと重複しており、SX1900より新しく、SD1896Bよりも古い。規模は上幅2.6m以上である。埋土は1層（第139図7層）が灰白色火山灰の自然堆積土、2層（同8～10層）が黒褐色粘質土である。本溝跡は、灰白色火山灰が自然堆積していることや位置関係からSD1896Aと接続するものと考えられる。

【SD1930溝跡】（2－第90図）

D30区中央部の第Ⅴ層上面で発見した東西溝跡である。SB1901・1902と重複しており、それらよりも古い。方向は西で約20度北に偏している。規模は上幅0.7～1.4m、下幅0.2～0.4m、深さ38cmである。埋土は1層が黒褐色粘質土、2層が黒色粘質土である。

【SD1892溝跡】（1－第139図、2－第90図）

D30区中央部の第Ⅳ層上面で発見した南北溝跡である。SI1887、SD1895、SK1889・1893・1894・1898と重複しており、それらよりも新しい。方向は北で約18度東に偏している。規模は上幅0.7～1.0m、下幅0.6～0.9m、深さ20～43cmである。断面形はⅢ状を呈している。埋土は1層が炭化物を多く含む黒褐色粘質土、2層が炭化物を含む黄灰色粘質土である。1層から須恵系土器が多量に出土している。

【SD1964溝跡】（2－第82図）

D104区東端部、D107区北端部の第Ⅴ層上面で発見した溝跡である。方向は西で約43度北に偏している。規模は上幅0.38m、下幅0.17m、深さ24cmであり、断面はU字形を呈する。埋土は1層が暗灰黄色粘質土、2層が地山ブロック主体の黄褐色砂質土である。

7 河川跡

【SX2140河川跡】（1－第72・73図、2－第70図）

D102区の西部の第Ⅴ層上面で発見した北西から南東方向へのびる河川跡である。周辺で発見した全ての遺構より古い。確認できた長さは17mであり、規模は上幅12.4m以上、下幅11.5m以上、深さ0.6m以上である。壁は緩やかに立ち上がっており、断面形は浅いⅢ状を呈している。底面には若干の起伏が見

られる。埋土は少量の炭化物、植物遺存体を含む黒色粘土層である。

【SX2122河川跡】（1 －第100図、2 －第57図）

D88区西端部から東端にかけての第Ⅴ層上面で発見した東西方向の河川跡である。調査区東側で大きく南側へ屈曲している。検出した長さは 14m であり、上幅 3.2m 以上、深さ 0.6m 以上である。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は 4 層まで確認でき、1 層は砂粒、炭化物を少量含む灰黄褐色粘質土、2 層はにぶい黄色粘質土ブロックを少量含むオリーブ褐色砂、3 層はにぶい黄色粘質土ブロックを少量含む暗オリーブ褐色砂質土、4 層は黒褐色粘土である。

【SX2167河川跡】（1 －第100図、2 －第57図）

D89区の第Ⅴ層上面で発見した東西方向の河川跡である。調査区西側で大きく南側へ屈曲している。4 時期の流路を確認しており、このうち最も新しいものは、上幅10m以上、下幅 6 m 以上、深さ1.7m以上である。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は 4 層まで確認でき、1 層はオリーブ黒色砂質土、2 層は砂、炭化物を含む黒褐色粘質土、3 層は黄白色粘質土ブロックを斑状に含む黒色粘土、4 層は粗砂を帯状に含む黒色粘土である。遺物は土器類をはじめ、木製の錘が出土している。

【SX2101河川跡】（1 －第101図、2 －第57・60・61図）

D83区の第Ⅴ層上面で発見した東西方向の河川跡である。SD2098・2099・2100・2096・2097と重複関係があり、それらより古い。4 時期の変遷（A → D 期）を確認した。以下に新しい順に記載する。

D 期：規模は上幅4.0m以上、下幅3.3m以上、深さ0.8mである。壁は緩やかに立ち上がっており、断面形は逆台形を呈している。埋土は帯状に細砂を含む黒褐色粘質土である。

C 期：流路の大部分が D 期と重複している。規模は上幅1.8m以上、下幅1 .0m 以上、深さ0.9mである。埋土は 2 層あり、1 層は植物遺存体を含む黒色粘質土である。2 層は帯状に亜泥炭層を含む暗灰黄色砂層である。

B 期：規模は上幅14.8m、下幅8.6m、深さ2.5m である。壁は緩やかに立ち上がっており、断面形は逆台形を呈している。埋土は 3 層に分けられ、1 層は帯状に砂を含む黒色粘土、2 層は黒褐色粘土と細砂の互層、3 層は黒褐色粘土と粗砂の互層である。遺物は土器類をはじめ、須恵器双耳瓶、壁材、骨角製品では、骨鏃、卜骨、木製品では、木簡（第92・102号）、刀形、斎串、絵馬、人形などが出土している。

A 期：規模は上幅3.0m以上、下幅4.0m以上、深さ2.6m以上である。壁は比較的緩やかに立ち上がっており、底面は概ね平坦である。埋土は 3 層に分けられ、1 層は上部に帯状に細砂を帯状に含み、下部に植物遺存体を多量に含む黒色粘土、2 層は砂を斑状に含む黒褐色砂質土、3 層は上部に粗砂を多量に含み、下部は黒褐色粘土と砂の互層である。遺物は土器類をはじめ、木製品では、木簡（第95・101号）、馬形・挽物高台付皿などが出土している。

【SX2406河川跡】

D105区北半部で発見した南北方向の河川跡である。SX2460・2408・2407や灰白色火山灰が堆積するSD2409と重複しており、それらより新しい。規模は、上幅約7.0m、深さ約1.4mである。方向は、北で約28度東に偏している。D27区のSX2476 と同一の可能性がある。

【SX2405河川跡】

D105区北半部で発見した東西方向の河川跡である。SX2407と重複しており、それより新しい。規模

は、上幅8.9m以上、深さ1.1m以上である。

【SX2402河川跡】

D101区の西半部で発見した河川跡である。SX2401と重複しており、それより古い。

【SX2401河川跡】

D101区の西半部で発見した東西方向の河川跡である。SX2402・2403と重複しており、前者より新しく、後者より古い。東西20.4m以上にわたって検出した。規模は、上幅5.0m以上、深さ約1.7mである。

【SX2403河川跡】

D101区の中央部で発見した東西方向の河川跡である。東西約18mにわたって検出し、南壁の一部を確認した。深さは約2.0mである。

【SX2214河川跡】（1－第138図）

D93区東半部の第Ⅴ層上面で発見した南北方向の河川跡である。SX1900・C110区SX1600河川跡と連続すると見られる。平面的にみると、東壁側は整っているが、西壁側は大きく乱れている。規模は、上幅5.0～7.8m、下幅1.0～2.4m、深さ1.3mである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。方向は、北で約27度東に偏している。埋土は、黄褐色ブロックを含む黒褐色粘土（北壁1～5層、中央1～2層）、植物遺存体・腐植土を層状に含む黒褐色粘土（北壁6～8層、中央3～4層）、灰色土の細かいブロックを含むオリーブ黒褐色粘質土、およびオリーブ黒褐色粘質土・灰色粘土・黒褐色粘土の細かい互層（北壁9～10、中央5～8層）、植物遺存体を含む黒褐色粘土、および黒褐色粘土と灰色土の細かい互層である（北壁11～16層、中央9～12層）。

【SX1900河川跡】（1－第139図、2－第90図）

D30区中央部からD93区西端部にかけての第Ⅴ層上面で発見した東西方向の河川跡である。SD1896・1897、SB1901・1902と重複しており、それらよりも古い。規模は上幅10.2m、下幅8.1m、深さ94cmである。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。埋土は1層（第139図11・12層）が黒褐色粘質土、2層（第139図13・14層）がオリーブ黒色土、3層（第139図15層）は植物遺存体が亜泥炭化した黒褐色粘質土である。遺物は、墨書土器などが出土している。なお、本河川跡は埋土の特徴から、D93区東端で発見したSX2214と同一の河川跡と考えられる。

8　土壙・その他

【SK2141土壙】（2－第70図）

D102区西部の第Ⅲ層上面で発見した。SD2142・2177、SX2143小溝群と重複関係があり、SD2142・2177より新しく、SX2143小溝群より古い。平面形は不整形である。壁は緩やかに立ち上がっており、底面は中央部に向かって深くくぼんでいる。規模は、長軸2.8m、短軸2.2mである。埋土は、灰白色火山灰の二次堆積を含む黒色砂質土、黒褐色砂、黒褐色粘質土である。

【SK2137土壙】（2－第70図）

D102区西部のSX2139整地層上面で発見した。SD2138、SX2143小溝群と重複関係があり、SX2143小溝群より古く、SD2138より新しい。平面形は歪んだ楕円形である。壁は緩やかに立ち上がっており、底面には若干の起伏が見られる。規模は、長径4.9m、短径0.9～1.3m、検出面からの深さは6

～26cmである。埋土は単層で炭化物を多量に含む黒色粘質土である。遺物は土器類をはじめ、竈形土器が出土している。

【SK2120土壙】（1－第100図、2－第57・59図）

D88区東端の第Ⅴ層上面で発見した土壙である。SD2121と重複関係があり、それより古い。平面形は南北に長い楕円形である。壁は緩やかに立ち上がっており、底面はおおむね平坦である。規模は、長径2.4m、短径1.35m、深さ63cmである。埋土は6層に分けられ、1層はにぶい黄色粘質土ブロック、炭化物を少量含む黒褐色砂質土、2層は炭化物を少量含む黒褐色粘質土、3層はにぶい黄色粘質土ブロック、炭化物を少量含む黒褐色粘質土、4層は炭化物、骨片を含む黒色粘質土、5層はにぶい黄色粘質土、黒色粘土を中量含む黒色粘質土、6層はにぶい黄色粘質土、炭化物を多量に含む灰色粘質土である。遺物は土器類をはじめ、製塩土器、骨角製の刀子の柄などが出土している。

【SX2124】（2－第67図）

D102区東部の第Ⅴ層上面で発見した南北に長い楕円形の落ち込みである。北側は調査区外へ延びている。方向は、北で約4度東に偏している。SE2130と重複しており、それより古い。規模は長さ2.3m以上、上幅1.5m、下幅0.6m、検出面からの深さは23～38cmである。断面形は浅い逆台形を呈しており、緩やかに立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は3層に細分され、1層は水性堆積による暗灰黄色砂層、2層は黒色粘土層、3層は多量のにぶい黄色粘質土ブロックを含む黄灰色粘質土である。

【SX2135整地層】（2－第69図）

D102区西部の第Ⅴ層上面で発見した整地層である。SD2134、SE2132、SK2175、SX2143と重複があり、SD2134より新しく、それ以外では古い。検出した範囲は、東西8.2m以上、南北5.0m以上であり、にぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黒褐色粘質土である。

【SX2139整地層】（1－第73図、2－第69図）

D102区西部のSX2140河川跡上面で発見した整地層である。SX2140河川跡の黒色粘土層上面をにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黒褐色粘質土で人為的に埋めたものであり、SD922d・e期、SD2138、SK2137・2178・2179・2136より古い。規模は、東西4.7m以上、南北4.2m以上である。

【SX2187】（2－第71図）

D105区北半部の第Ⅴ層上面で発見した不整形の落ち込みである。東側は調査区外へ延びている。SB2184と重複しており、それより古い。規模は南北3.0m以上、東西1.6m以上あり、検出面からの深さは19～36cmである。断面形は浅い皿状を呈しており、中央部が最も深くなっている。埋土は3層に細分され、1層は炭化物を少量含む黒色粘質土、2層は炭化物を少量含む暗灰黄色粘質土、3層は炭化物を少量含むオリーブ褐色砂質土である。

【SX2180】（1－第16図、2－第71図）

D105区北半部の第Ⅴ層・SX2203整地層上面で発見した不整形の落ち込みである。西側は調査区外へ延びている。SB2185・2186、SD2201a～cと重複しており、それらより新しい。規模は南北12m以上、東西12m以上であり、検出面からの深さは28～34cmである。壁は緩やかに立ち上がっており、底面には若干の起伏が認められる。埋土は3層に細分され、1層は灰白色火山灰の二次堆積や炭化物を多量に含む暗オリーブ褐色粘質土、2層は灰白色火山灰のブロックや炭化物を多量に含む黒褐色粘質土、3

層はにぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色粘土である。遺物は土器類をはじめ、須恵系土器杯・高台付杯・鉢・台付鉢、灰釉陶器瓶・椀、製塩土器、土錘、竈形土器などが出土している。

【SX2188】（2－第71図）

D105区北部の第Ⅴ層上面で発見した不整形の落ち込みである。SD2201a～cと直交するように接している。SB2184、SX2189小溝群と重複しており、SX2189小溝群より新しく、SB2184より古い。規模は東西7.6m以上、南北4.8m以上であり、検出面からの深さは35cmである。断面形は浅い皿状を呈しており、緩やかに立ち上がっている。底面は若干の起伏があり、南側がやや深い。埋土は3層に細分され、1層は暗灰黄色粘質土、2層は炭化物を多量に含む黒褐色粘質土、3層はにぶい黄色粘質土ブロックを少量含む黒褐色粘質土である。遺物は土器類をはじめ、甑、骨角製品では円盤状製品が出土している。

【SX2089】（1－第60図、2－第101図）

D83区北端部の第Ⅳ層上面で発見した。平面形は東西に長い溝状を呈している。壁は断面が「U」字状を呈しており、底面付近から急角度で立ちあがっている。底面は東西の両端から中央部に向かって深くなっており、17～23cmの比高がある。長さ3.4mであり、上幅0.4～0.7m、下幅0.2～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.5mである。埋土は4層に細分され、1層は少量の炭化物を含む灰色砂質土、2層は灰オリーブ砂質土、3層は炭化物を少量含むオリーブ黄色砂、4層は多量の炭化物、少量の焼土を含む黒色粘土である。遺物は土器類をはじめ、竈形土器などが出土している。

【SX2143小溝群】（1－第73図、2－第70図）

D102区西半部の第Ⅲ層上面で発見した東西方向の小溝群である。SK2141・2137、D2138・2142・2134と重複しており、それらより新しい。SD922eに平行するものを5条確認した。方向は、最も長いものでみると東で約2度南に偏しており、その長さは26.8m、上幅12～40cm、下幅4～18cm、深さ3～8cmである。断面形は浅い「U」字状を呈しており、壁はやや急に立ち上がっている。底面は東側に傾斜しており、比高は約11cmである。埋土は少量の炭化物を含む黒褐色砂質土である。

【SX2189小溝群】（2－第71図）

D105区北部の第Ⅴ層上面で発見した小溝群である。南北方向にのびるものを3条確認した。SB2182・2183・2184、SD2190、SX2188と重複しており、それらより古い。方向は最も長いもので計測すると、北で約11度東に偏しており、その長さは16.8m、上幅26～40cm、下幅13～20cm、深さ12～20cmである。壁はやや急角度で立ち上がっており、断面形は「U」字状を呈している。底面は概ね平坦である。埋土は黄灰色粘質土である。遺物は土器類をはじめ、竈形土器が出土している。

【SX1958小溝群】

D104区東半部の第Ⅴ層上面で発見した南北方向の小溝群である。南北方向にのびる上幅20～40cmの小溝が幅8.5mの間隔をおいて東西方向に広がっている。それらの南・北両側には東西方向の小溝があり、南北方向の小溝を区画している。方向は、北側の東西溝でみると西で約20度北に偏している。

【SX2003小溝群】（2－第80・81図）

D106区からD103区・D83区にかけての第Ⅳ層上面で発見した小溝群である。方向は、南北方向の溝でみると北で約33度東に偏している。規模は、上幅約25cm、下幅約15cm、深さ約10cmである。埋土に灰白色火山灰を含むものもある。

【SX2004小溝群】（2－第74図）

D106区からD103区にかけての第Ⅴ層上面で発見した南北方向にのびる小溝群である。方向は、北約34度東に偏している。規模は、上幅約20cm、下幅約10cmのものが多い。重複しているものもあり、D106区で発見した最も古い6条の小溝は、幅が広く整然と並んでいる。規模は上幅約50cm、下幅約45cm、深さ約10cmである。D103区東1道路の西側で発見しているものは、方向が北で約5度東に偏しており、規模は上幅約30～45cm、下幅約15～35cm、深さ約10cmである。

【SK1974土壙】（2－第83図）

D106区南端部の第Ⅴ層上面で発見した。SK1973と重複しており、それよりも新しい。平面形は楕円形であり、断面形は逆台形状である。規模は、長径6.6m以上、短径2.1m以上、深さ33cmである。埋土は炭化物を含む黒褐色粘質土である。遺物は土器類のほか、墨書土器が出土している。

【SK1973土壙】（2－第83図）

D106区南端部の第Ⅴ層上面で発見した。SK1974と重複しており、それよりも古い。平面形は楕円形であり、壁は緩やかに立ち上がっている。規模は長径7.6m、短径2.9m以上、深さ19cmである。埋土は炭化物を少量含む黒褐色粘質土である。

Ⅷ　D区南半部で発見した遺構

1　掘立柱建物跡

【SB2074建物跡】（1－第140図、2－第104図）

D108区北端部で発見した桁行4間以上、梁行2間以上の南北棟掘立柱建物跡である。東側に小柱穴よる廂がある。他の遺構との重複はない。柱穴は9基発見し、入側柱列の北から2・3間目柱穴、北東隅柱穴、東側柱列の北から2間目柱穴以外で柱痕跡を確認した。方向は、東側柱列でみると北で約19度東に偏している。桁行については、東側柱列で5.8m以上、柱間は南より1.91m、2.00m、1.89mである。梁行については、北妻で4.1m以上、柱間は西より2.08m、約2.0mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は身舎部分が一辺70～111cm、深さ20cmであり、廂部分が一辺35～46cm、深さ10cmである。埋土は地山ブロックや灰白色火山灰ブロックを含む黒褐色粘質土である。柱痕跡は直径26cmの円形である。

【SB1823建物跡】（2－第104・105図）

D92E区西半部の第Ⅴ層上面で発見した桁行3間以上、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。柱穴は4基検出しており、東側柱列の南より1間目柱穴で柱が抜き取られているほかは、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。方向は東側柱列でみると、北で約23度東に偏している。規模は東側柱列の1間分が2.33mである。柱穴は方形であり、規模は長辺30～40cm、短辺25～30cm、深さ35～43cmである。埋土は暗褐色土が混入する黄褐色砂質土である。

【SB1827建物跡】（1－第141図・2－第104・107図）

D94区北半部の第Ⅴ層上面で発見した桁行2間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。柱穴は7基

検出しており、このうち棟通下柱穴（Ｐ２・５）と南東隅柱穴（Ｐ４）で柱痕跡を確認した。それ以外の柱穴で抜取り穴を確認した。方向は、南妻でみると西で約24度北に偏している。桁行については、西側柱列で約4.2m、柱間は南より約1.9m、2.3mである。梁行については、南妻で約3.5mであり、柱間は西より約1.9m、1.61mである。柱穴の平面形はおおむね方形であり、規模は長辺30～50cm、短辺30～45cm、深さ16～25cmである。埋土はにぶい黄色砂質土、黒褐色粘質土である。

【SB1843建物跡】（１－第142図・２－第104・109図）

D94区南半部の第Ⅴ層上面で発見した桁行３間、梁行２間の掘立柱建物跡である。SD1849・1850・1851と重複しており、それらよりも新しい。同位置で２時期の変遷を確認している（Ａ→Ｂ期）。

Ａ期：南妻がＢ期の柱穴によって大きく破壊されているものの、計６基の柱穴を検出した。このうち東側柱列の南から１間目柱穴（Ｐ５）と西側柱列の南から１間目（Ｐ８）・２間目柱穴（Ｐ９）で柱抜取り穴を確認した。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺60～80cm、短辺55～70cm、深さ10～28cmである。埋土は炭化物や地山ブロックが混入するにぶい黄褐色土、黒褐色粘質土である。

Ｂ期：Ａ期とほぼ同位置で建て替えたものである。柱穴は８基検出しており、柱はすべて抜き取られていた。方向は、東側柱列でみると北で14度北に偏している。桁行は東側柱列で3.7m以上であり、柱間は南より約1.7m、約2.0mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺60～75cm、短辺50～70cm、深さ23～38cmである。埋土は炭化物や地山ブロックを含むにぶい黄褐色土および黒褐色粘質土である。

2　竪穴住居跡

【SI1828竪穴住居跡】（２－第104・108図）

D94区北半部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。上面での削平が著しく、周溝のみ残存していた。SD1826・1829、SK2058と重複し、それらよりも古い。平面形は方形であり、規模は、東西2.8m以上、南北4.0mである。方向は、東辺でみると北で約15度西に偏している。周溝は、南・北・東辺で確認している。規模は上幅14～35cm、深さ４～７cmである。

【SI1830竪穴住居跡】（１－第143図・２－第104・108図）

D94区北半部の第Ⅴ層上面で発見した竪穴住居跡である。西半部は調査区外に延びている。平面形は方形であり、規模は、南北3.0mである。方向は、東辺でみると北で約10度西に偏している。壁は南辺で僅かに残存するのみである。住居内埋土は焼土が僅かに混入する黒褐色土である。床面は、黒褐色粘土が多量に混入する黄褐色土であり、掘り方埋土をそのまま利用している。周溝は、南・北・東辺で確認している。規模は上幅18～25cm、深さ８～12cmであり、埋土は底面付近にオリーブ褐色粘土が混入する黒褐色土である。カマド、柱穴は確認できなかった。

3　溝　　跡

【SD1820溝跡】（２－第104・105図）

D92E区西端部の第Ⅴ層上面で発見した円形に巡る溝跡である。その範囲は、東西約６m、南北2.6m以上に及んでいる。規模は上幅0.6～1.1m、下幅40～90cm、深さ20～40cmである。断面形は逆台形を呈しており、壁は西半部が垂直に、東半部が緩やかに立ち上がっている。底面は凹凸が著しい。埋土は

灰黄褐色土である。

【SD1822溝跡】（1－第143図・2－第104・105図）

D92E区西半部の第Ⅴ層上面で発見した東西方向の溝跡である。長さ約13mにわたって検出した。SB1823、SD1824、SK1821・1825と重複し、SB1823、SD1824よりも新しく、SK1821・1825よりも古い。方向は、西で約18度北に偏している。ほぼ同位置で、2時期の変遷を確認している（A→B期）

A期：規模は上幅40～70cm、下幅40～50cm、深さ20～30cmである。断面形は逆台形を呈しており、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は3層に大別できる（1－第143図：3～5層）。上層より黒褐色土、オリーブ黒色土、黒色土であり、いずれの層にも地山ブロックが多く混入している。

B期：調査区中央部でSD1861南北溝と接続している。規模は上幅40～90cm、下幅20～40cm、深さ30cmである。断面形はU字状を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は2層に大別できる（1－第143図：1・2層）。1層は暗灰黄色土、2層が黒褐色土であり、いずれの層にも炭化物が混入している。遺物は、少量の土器類や製塩土器がある。

【SD1824溝跡】（1－第143図・2－第104・106図）

D92E区中央部の第Ⅴ層上面で発見した南北方向の溝跡である。長さ約6mにわたって検出した。SD1822、SK1825と重複し、それらよりも古い。方向は、北で約35度西に偏している。規模は上幅0.9～1.1m、下幅70～90cm、深さ20～30cmである。断面形は逆台形を呈しており、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。底面は、南から北側に向かって10cm傾斜している。埋土は3層に大別できる（1－第143図：1～3層）。1層は炭化物が多く混入する黒褐色土、2層が炭化物や地山ブロックが若干混入する黒褐色土、3層が地山ブロックを多量に含む黒色土である。

【SD1826溝跡】（2－第104・107図）

D94区北半部の第Ⅴ層上面で発見した方形に巡る溝跡である。その範囲は、東西7.2m、南北6.3mである。SI1828と重複し、それよりも新しい。規模は上幅0.6～1.2m、下幅30～60cm、深さ20～40cmである。断面形は上半部が皿状、下半部が逆台形を呈している。底面は概ね平坦である。埋土はにぶい黄褐色土が混入する黒褐色土である。出土した土器類には、須恵系土器が含まれている。

【SD1829溝跡】（2－第104・108図）

D94区北半部の第Ⅴ層上面で発見した東西方向の溝跡である。長さ約4.8mにわたって検出した。SI1830と重複し、それよりも新しい。方向は、西で約8度北に偏している。規模は上幅60～80cm、下幅30～50cm、深さ40cmである。断面形は、U字状をなす部分と逆台形を呈する部分がある。底面は概ね平坦である。埋土は2層に大別できる。1・2層とも黒褐色土であるが、下層にはオリーブ褐色砂が混入している。遺物は、少量の土器類のほか製塩土器が出土している。

【SD2060溝跡】（2－第111図）

D95区南端部の第Ⅴ層上面で発見した東西方向の溝跡である。長さ約21mにわたって検出した。SK2059と重複し、それよりも古い。方向は、西で約8度北に偏している。規模は上幅2.2～2.8m、下幅1～1.5m、深さ40cmである。断面形は逆台形を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。底面

にはやや凹凸があり、西側から東側に向かって傾斜している。比高は14cmである。埋土は4層に大別できる。1・2層は黒褐色粘土、3層は黒褐色粘土が斑状に混入するオリーブ褐色砂質土、4層は黒褐色土が斑状に混入するにぶい黄色砂質土である。出土した土器類では、土師器甕に墨書が確認できる。

【SD2077溝跡】（2－第113図）

D109区北端部の第Ⅴ層上面で発見した東西方向の溝跡である。SD2078と重複しそれよりも新しい。方向は西で約7度北に偏している。規模は上幅2.82m、下幅1.58m、深さ44cmであり、断面は逆台形を呈する。埋土は4層に分けられ、1層が暗灰黄色土、2層が黄灰色粘質土、3層が褐灰色粘質土、4層が灰黄褐色粘質土である。なお、本溝跡はSD2060・2144と同一の溝と考えられる。

【SD2144溝跡】（1－第144図、2－第107・108図）

D113区南部の第Ⅴ層上面で発見した東西方向の溝跡である。同位置で2時期の重複を確認した（A→B期）。

A期：長さ5.5mにわたって検出した。他の遺構との重複はない。SD2144Bによって上半部を大きく壊されている。規模は上幅2.2～2.3m、下幅2.1～2.2m、深さ0.54mである。壁面はやや急角度で立ち上がっており、断面形は逆台形を呈している。底面には若干の起伏が見られる。埋土は1層で多量のにぶい黄色粘質土を含む黒褐色粘質土である。

B期：長さ5.5mにわたって検出した。方向は東で約7度東に偏している。他の遺構との重複はない。規模は上幅2.7～2.8m、下幅2.2m、深さ40cmである。壁面はやや急角度で立ち上がっており、断面が逆台形を呈している。底面は概ね平坦である。埋土は3層に分けられ、1層はにぶい黄色粘質土を少量含む黒褐色粘質土、2層は少量の炭化物を含む黒褐色粘土、3層は少量のにぶい黄色粘質土をブロック状に含むオリーブ黒粘質土である。遺物は土器類をはじめ、斎串などが出土している。

【SD1750溝跡】（1－第147図、2－第117図）

D91区中央部（下層調査区）の地山（岩盤）面で発見した南北溝である。長さ約12mまで確認した。SD1748溝跡と重複しており、これよりも古い。方向はほぼSD17480と並行している。規模は上幅1.4m以上、深さ60cmである。岩盤面を掘り込んでいるため、壁・底面は礫が露出して凹凸がある。埋土は5層に分けられ、灰オリーブ色粘土と黒褐色土の互層である。

【SD1748溝跡】（1－第146・147図、2－第113・117図）

D91区中央部（下層調査区）において、これより古い河川の堆積土上面で発見した護岸施設を伴う南北溝である。南壁から北壁にかけて約22m確認し、さらに調査区外にのびている。SD1750溝跡、1751河川跡と重複しており、これらよりも新しい。方向は北で約1度東に偏している。規模は上幅2.6m、下幅1.0m、深さ60cmである。断面形は逆台形を呈する。西壁全体には矢板が打ち込まれており、その角度は約50度である。地山面には深さ10cmほど打ち込まれていた。矢板は173枚を数え、いずれもみかん割りした分割材（長さ1m前後、幅10cm前後）を使用している。底面は北側から南側へと緩やかに傾斜しており、比高は約20cmである。底面上には大小の礫がみられ、特に大きなものは完全に流路をふさいでしまっているものもある。埋土はレンズ状の自然堆積で、黄褐色粘質土が主体となり、層離面には植物遺存体が厚さ1cm前後に堆積している。矢板列を構築する手順は以下のとおりである。①溝本体とその西側に矢板を設置するための掘り方を掘削する（掘り方部分はやや深く）。②掘り方壁面の傾斜角度を整

え１ｍ～２ｍの間隔で支杭（長さ1.3m、直径15cm）の先端を地山面に打ち込む。西側の浅いテラス状の掘り込み面には木枝を敷き詰める。③横木（長さ6.7m、直径20cm）を設置し掘り方を埋め戻す。横木の下層には特に礫を入れ込み、沈下防止を行なう。●溝壁面の角度を東壁の傾斜角にあわせて整形し、矢板先端を地山面に打ち込む。遺物は、古墳時代前期の土師器鉢・高杯・壷・甕が出土している。

4　河川跡

【SX2076河川跡】（２－第113図）

D109区中央部と南端部で発見した河川跡である。第Ⅲ層によって覆われている。規模は上幅13.5mであり、埋土は黒褐色粘質土と暗緑灰色砂の互層である。本河川跡は91区で発見された河川跡と同一のものと考えられる。

【SX1735河川跡】（１－第145・146図、２－第113・114・116図）

D91区北半部で発見した南北方向の河川跡である。これより古い河川の堆積土上面で検出した。SX1739、1740河川跡、SD1741溝跡と重複しており、これらより新しい。その北端部ではSX1738河川跡と合流し、SX1736とは小溝を介して接続している。西側では東西方向に１条分岐している。２時期の変遷を確認した（A→B期）。

A期：長さ約50mにわたって検出した。上幅1.5～4.5m、深さ60cmを測る。埋土は黒色および黒褐色粘土を主体とするが、間に砂が混じるところもあり、壁をオーバーフローして堆積している。埋土中には灰白色火山灰層および同ブロックが堆積している。遺物は、挽物皿・高台付皿・漆器・曲物・下駄・人形が出土している。

B期：長さ約26m以上にわたって検出した。上幅1.0～3.0m、深さ50cmを測る。埋土は黒褐色粘質土を主体としている。底面は、南側から北側へ緩やかに傾斜している。遺物は、木簡（第25・26・39・100号）、挽物皿・高台付皿・蓋・箱（側板）・漆器・曲物・下駄・横櫛・鍬・斎串・人形・刀形が出土している。

【SX1736】（２－第113・114図）

D91区北半部の東壁際において、古墳時代の河川堆積土上面で発見した落ち込みである。SX1735河川跡と小溝を介して接続している。SX1735河川跡と同様に新旧２時期確認した（A→B期）。規模は、新しいB期で南北6.2m、東西2.0m以上、深さ30cmである。埋土はSX1735河川跡埋土に近似している。遺物は、人面墨書土器、曲物が出土している。

【SX1738河川跡】（１－第145図、２－第113・114図）

D91区北半部の北側において、これより古い河川の堆積土上面で発見した中世以降の河川跡である。北東から南西方向へ向かってのびている。SX1740・1746河川跡と重複しており、これらより新しい。南側でSX1735河川跡と合流し、新旧２時期の変遷を確認した（A→B期）。規模は、南北方向で幅35m以上を測る。深さは場所によって一様ではないが、SX1735河川との合流点付近では、A期が50cm、B期が30cm、中央部付近では、A期が1.2m、B期が50cmである。埋土は、A期が灰色粘質土主体として灰白色火山灰ブロックを含んでいる（14層）。B期は灰褐色土と橙色砂が互層をなし、多量の礫を包含している。遺物は、B期埋土より開元通宝・宋通元宝・聖宋元宝・嘉祐通宝・ほか不明２点の銭貨が出

土している。

【SX1737】（1－第145図、2－第113・114・115図）

杭列、横木、植物遺存体の敷物で構成される遺構である。SX1738河川跡B期に伴っている。SX1738河川A期埋土（6～7層）上面に構築されており、2ヶ所でまとまりが見られた。南側のものをa列、北側のものをb列とする。a列は南側が調査区外へ延びるため全容は明らかでないが、長さ約9.0mまで検出した。方向は北で約50度西に偏している。本遺構の構造は、3重ないし4重に杭（先端を加工した丸木材および分割材で径5～10cmのものを使用）を深さ50cm～1.3mまで打ち込み、その東側に横木を1本渡し、その前面（東側）に草木の枝茎をやや乱雑に敷き、その上に笹の茎を丁寧に敷き詰めたものである。なお、背面にはこのような敷物は確認できなかった。b列は長さ約4.5mまで検出した。a列ほど杭は密に打ち込まれておらず、明瞭な列状は呈していない。また、植物遺存体の敷設も見られなかった。

【SX1739河川跡】（1－第146・147図、2－第113・114・116図）

D91区中央付近においてこれより古い河川の堆積土上面で発見した河川跡である。SX1735・1740・1741河川跡と重複しておりにおいて、SX1735より古く、SX1740、1741より新しい。検出したのは西側に屈曲する部分にあたり、その東側には東西方向の小河川と合流している。規模は上幅6.0m以上、下幅2.0m、深さ1.1mである。底面はやや凹凸があり壁は内湾気味に立ち上がっている。埋土は3層に大別され、上層（1～3層）が灰色粘質土、中層（4～11層）が灰色粘質土と青灰色砂の互層、下層（12層）が青灰色粘質土である。遺物は、絵馬、挽物高台付皿、曲物、横櫛が出土している。

【SX1740河川跡】（1－第145・146図、2－第113・114・116図）

D91区中央付近においてこれより古い河川の堆積土上面で発見した河川跡である。SX1735・1739・1746・1748河川跡と重複しており、SX1735・1739より古く、SX1746・1748より新しい。検出したのは西側に屈曲する部分と考えられる。規模は上幅約12.0m、深さ0.6～1.0mである。断面形は浅い皿状を呈する。埋土は黒色粘土とにぶい黄橙色砂の互層である。遺物は、挽物皿、高台付皿、曲物、刀形が出土している。

【SD1741溝跡】（1－第147図、2－第113・116図）

D91区南半部の第Ⅴ層上面で発見した南北溝である。長さ34.5mまで確認した。SX1735A・1739河川跡と重複しており、これらよりも古い。方向は北で約29度西に偏している。規模は上幅2.3～3.0m、下幅1.0～1.4m、深さ70cmである。断面形は逆台形を呈し、底面はやや凹凸がある。埋土は3層に分けられ、黒色粘質土が主体で下層ほど粘性が強い。遺物は、図示できたものはないが、土師器杯（AⅡ類）・甕（A類）、須恵器杯（Ⅲ類）・瓶の破片が若干出土している。

【SX1742】（1－第148図、2－第113・116図）

D91区南端部の西壁付近において第Ⅲ層上面で発見した落ち込みである。小ピットと重複しており、これよりも古い。規模は長軸9.7m以上、短軸6.9m、深さ1.2mである。底面は南から北に向かって緩やかに傾斜している。埋土は南側の浅いところから順次堆積しており、最上層（1～2層）は人為的に埋め戻されている。3～13層は黒褐色粘土が主体でにぶい黄色砂が互層になっている。遺物は、手づくね土器1点が出土している。

【SX1743】（1－第148図、2－第113・116図）

D91区南端部の東壁付近において第Ⅲ層上面で発見した落ち込みである。規模は南北約6.5m、東西2.5m以上、深さ1.3mである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は、大別すると3層に分けられ、いずれの層もオリーブ色砂質土と黒色粘質土が互層になっている。最下層には植物遺存体が厚く堆積している。本遺構に伴う施設として、北半部の縁辺に杭列を検出した。杭は長さ70cm～1.0m、直径5～10cmであり、ばらつきがみられる部分もあるが、概ね25～50cmの間隔で打ち込まれている。遺物は、中世の無釉陶器甕の破片、漆器椀が出土している。

【SX1746河川跡】（1－第145図、2－第113・114図）

D91区北半部の西壁寄りにおいて、これより古い河川の堆積土上面で発見した河川跡である。SX1735・1740河川跡と重複しており、これらより古い。東岸の一部を検出したにとどまる。規模は上幅3.5m以上、深さ0.9m以上である。埋土は暗緑灰色粘土が主体で、間層として植物遺存体･砂の層が入る。

【SX1744】（1－第149図、2－第113・116図）

D91区南半部の中央付近において第Ⅴ層上面で発見した落ち込みである。調査区西側にのびている。規模は南北約10.0m、東西3.0m以上、深さ40cmである。断面形は南側が浅い皿状を呈するが、北側の立ち上がりは明瞭でない。埋土は6層に分けられ、黄灰色粘質土と黒褐色粘土が交互に堆積している。遺物は、古墳時代中期の土師器杯が出土している。

【SX1745】（1－第149図、2－第113・116図）

D91区南半部の中央付近において第Ⅴ層上面で発見した落ち込みである。L字状に屈曲し、調査区外にのびている。SD1741溝跡と重複しており、これよりも古い。規模は、南北約10.6m、東西5.0m以上、深さ20cmである。断面形は浅い皿状を呈している。埋土は2層に分けられ、1層が暗灰黄色砂質～粘質土、2層が黒色粘土である。遺物は、古墳時代中期の土師器杯・鉢・甕、須恵器高杯・器台、黒曜石製石器（スクレイパー）が出土している。

【SX1747】（1－第146図、2－第117図）

D91区中央部の東壁際においてSD1748埋土上面で発見した南北方向の矢板列である。一部検出したのみであり、全容は明らかでないが、緩やかに東側に傾斜する面で約3mに渡って検出しており、確認できた矢板は20枚である。埋土は灰色粘土と植物遺存体の互層である。

【SX1749河川跡】（1－第146図、2－第117図）

D91区中央部（下層調査区）においてこれより古い河川の堆積土上面で発見した南北方向の河川跡である。南壁から北壁にかけて約21m確認し、さらに調査区外にのびている。SX1751河川跡と重複しており、これより新しい。規模は幅約6.1m、深さ1.0mである。埋土は砂質土と砂の互層である。東岸の傾斜面には、ほぼ並行して2列の杭列が確認された（西側をA列、東側をB列とする）B列は狭いところでは0.6～1.0m、広いところでは2.0m間隔で、A列は1.5m前後の間隔で打ち込まれている。このうち4ヶ所では並列する部分もあり、護岸施設の基礎部分とみられる。

【SX1751河川跡】（1－第146図、2－第117図）

D91区部中央部（下層調査区）においてこれより古い河川の堆積土上面で発見した河川跡である。調査区北東部から西壁にかけてのびている。長さ約25mまで確認し、さらに調査区外にのびている。

SX1748・1751河川跡と重複しており、これらより古い。規模は幅約5.0～10.0m（岩盤面を東岸とした場合）、深さ1.3mである。埋土は浅黄色の細・粗砂が縞状に堆積している。遺物は、木製品の梯子が出土している。

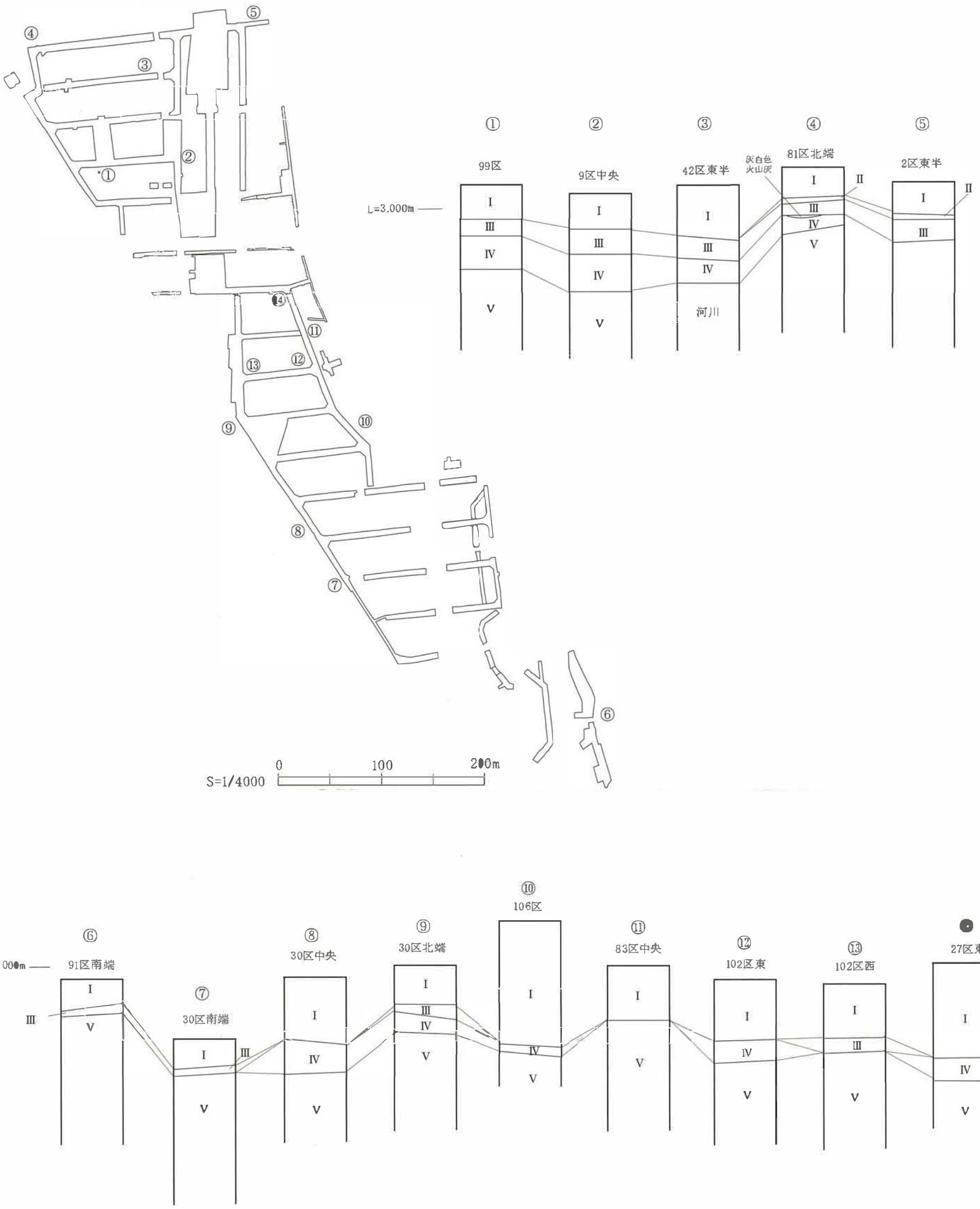
5　土壙・その他

【SK1821土壙】（2－第104・105・106図）

D92E区西半部の第Ⅴ層上面で発見した土壙である。平面形はおおよそ楕円形であり、規模は東西9.9m以上、深さ20cmである。断面形は概ね皿状を呈しているが、西側から北側には、検出面から10cm下がった箇所に、幅20～40cmの平坦面を作っている。埋土は3層に大別できる。1層は黒色土、2層が灰黄褐色土、3層がオリーブ褐色砂質土である。出土した土器類には、須恵系土器がある。

【SK1825土壙】（1－第143図・2－第104・106図）

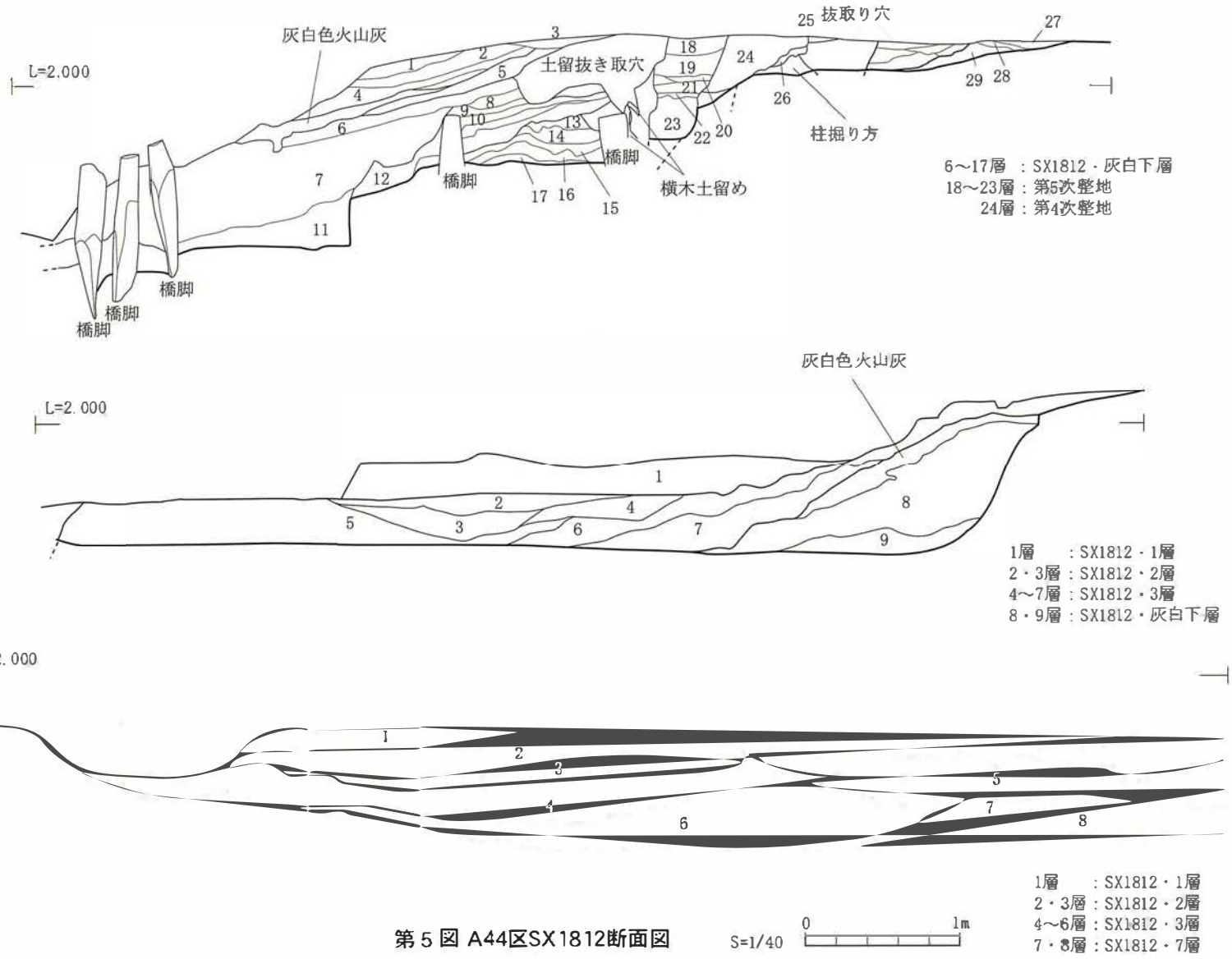
D92区（E）西半部の第Ⅴ層上面で発見した土壙である。平面形は方形であり、規模は東西2.4m、南北1.8m以上、深さ30cmである。断面形は逆台形を呈しており、底面は、東側から西側に向かって緩やかに傾斜している。埋土は4層に大別できる（1－第143図）。1層は褐色土の薄層を含む黒色土、2層は灰白色火山灰が混入する暗褐色土、3・4層が黒褐色土である。遺物は、土器類のほかに製塩土器がある。このうち土器類では、土師器・須恵器に比べ須恵系土器が圧倒的に多く出土している。



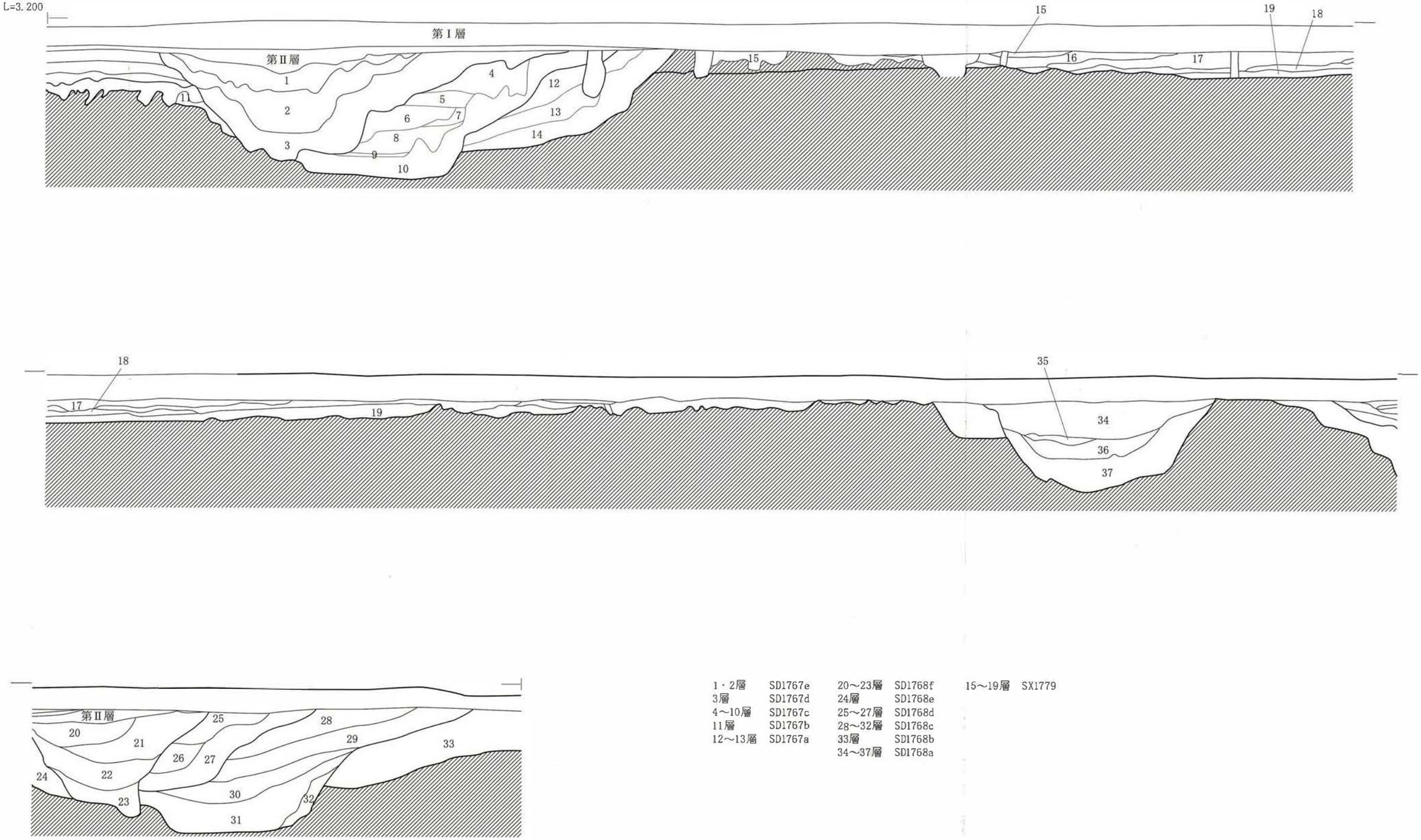
第４図　A・D調査区層序模式柱状図

遺　構　図　版

（詳細図・断面図）



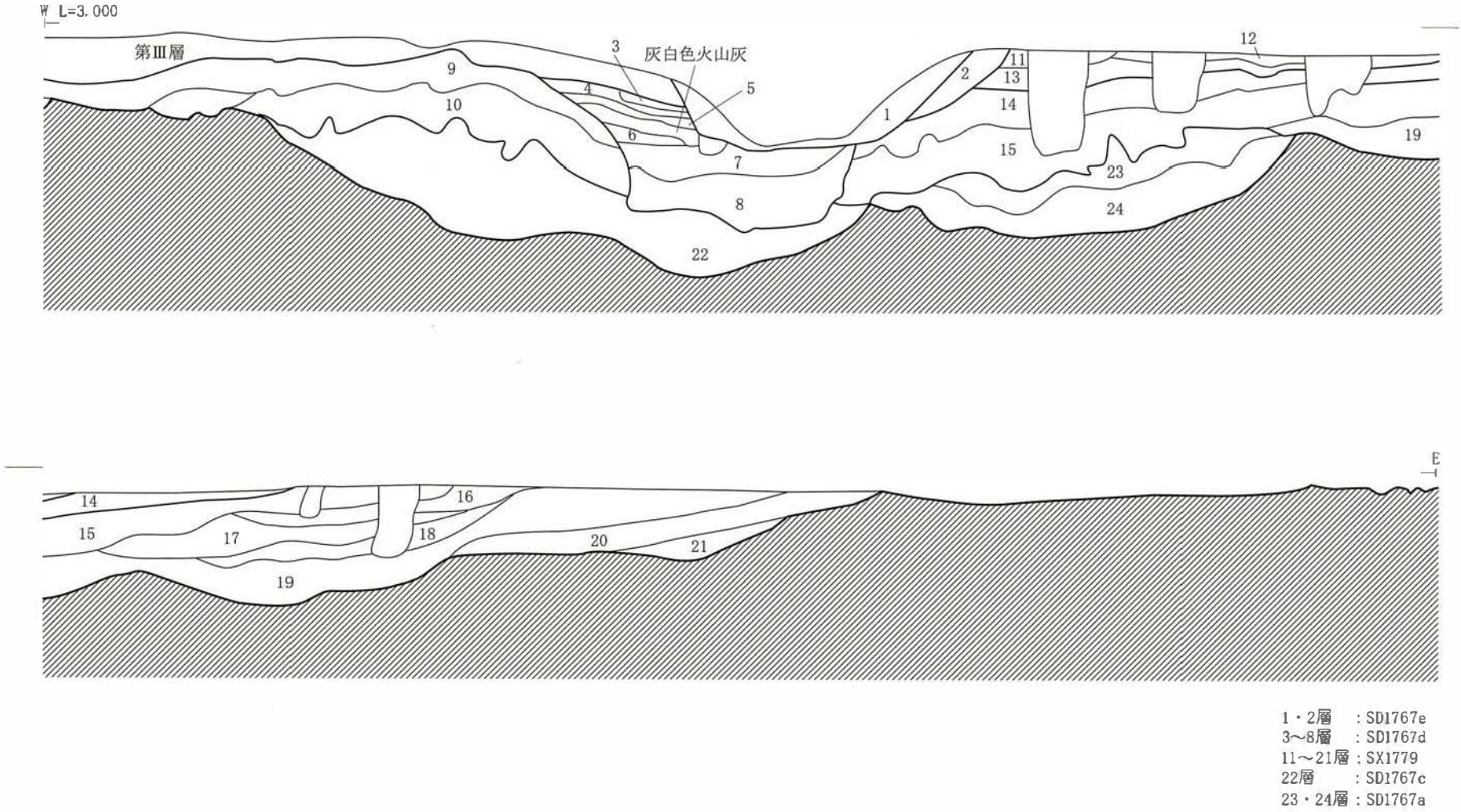
第５図 A44区SX1812断面図 S=1/40



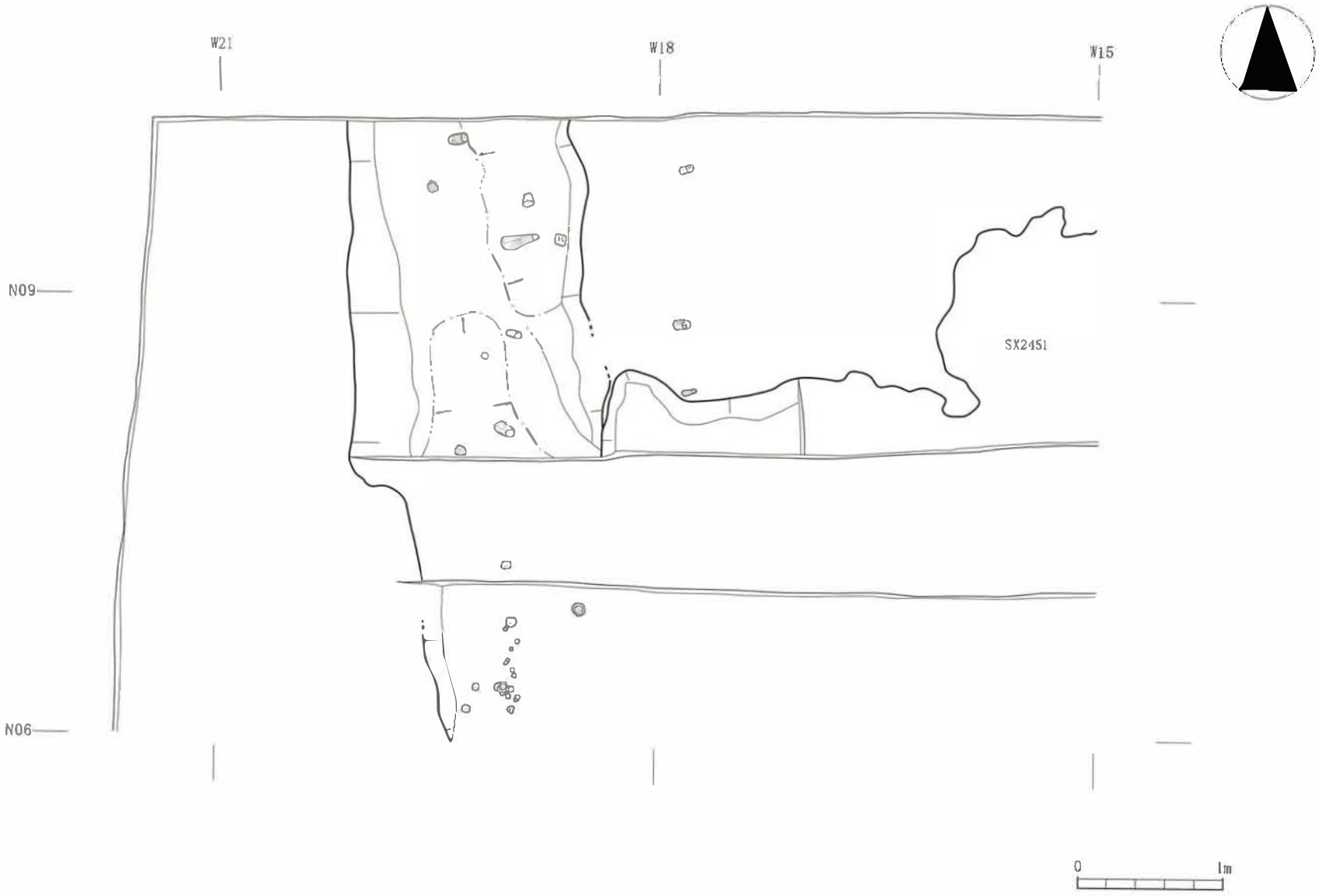
1・2層	SD1767e	20～23層	SD1768f	15～19層	SX1779
3層	SD1767d	24層	SD1768e		
4～10層	SD1767c	25～27層	SD1768d		
11層	SD1767b	28～32層	SD1768c		
12～13層	SD1767a	33層	SD1768b		
		34～37層	SD1768a		

第6図　A44・85区SX1800南北大路断面図

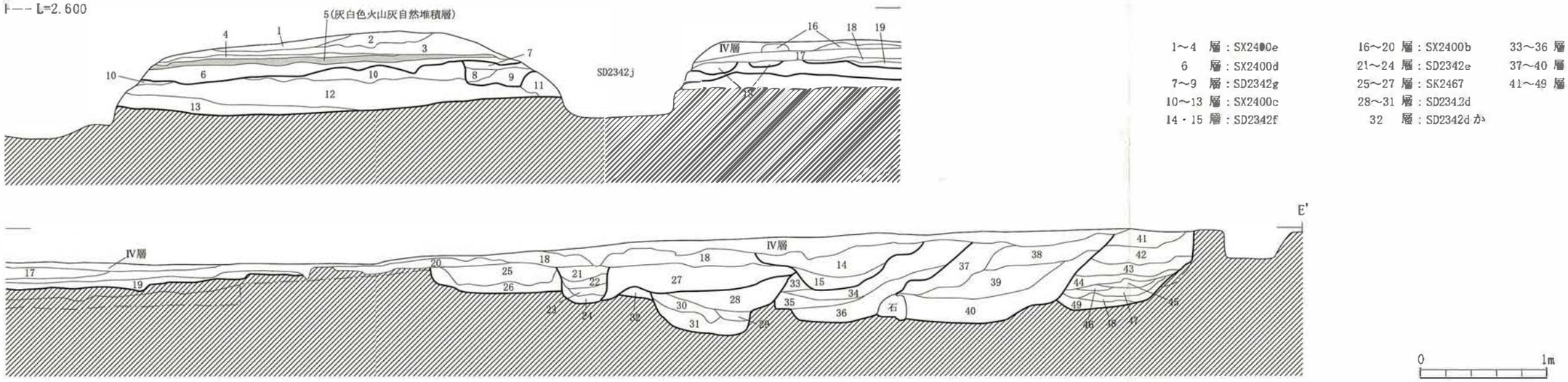
S=1/40　0　1m



第７図　A44区SX1800南北大路断面図(2)

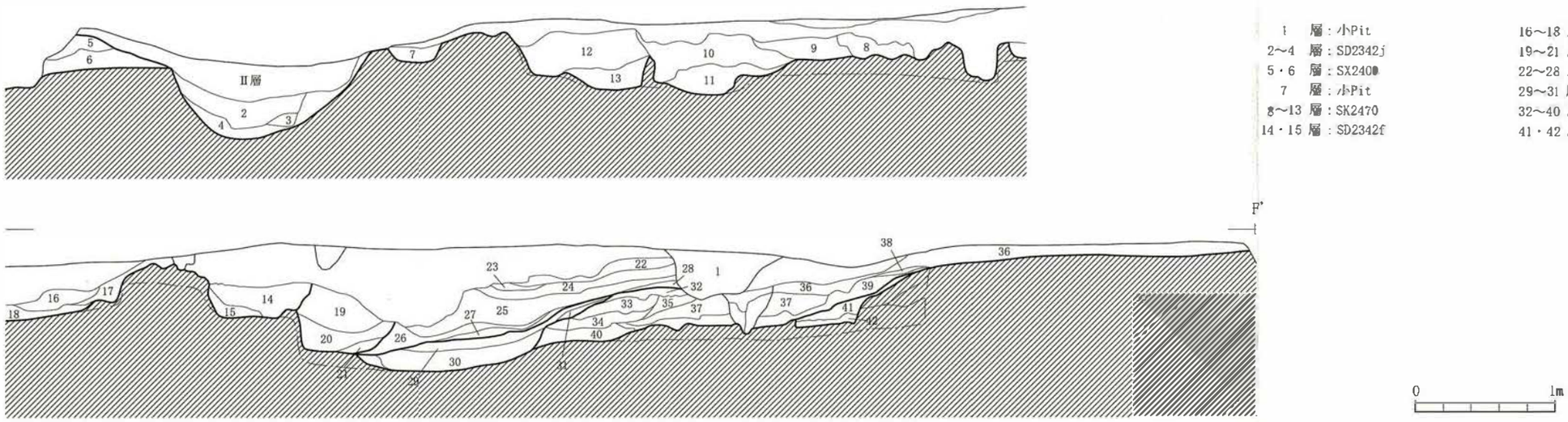


第８図　A66区SD2342d期平面図



1～4 層：SX2400e
6 層：SX2400d
7～9 層：SD2342g
10～13 層：SX2400c
14・15 層：SD2342f
16～20 層：SX2400b
21～24 層：SD2342e
25～27 層：SK2467
28～31 層：SD2342d
32 層：SD2342d か
33～36 層：SD2342c
37～40 層：SD2342b
41～49 層：SD2342a

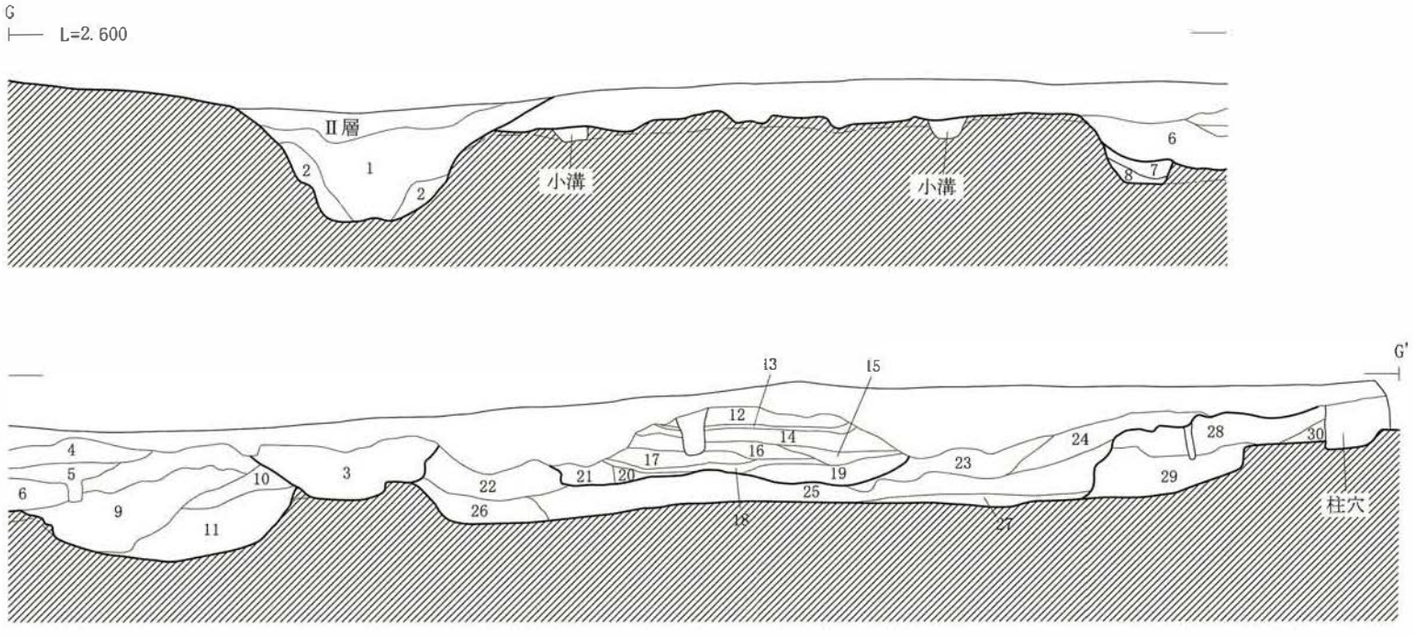
N27ライン(北トレンチ南壁)



1 層：小Pit
2～4 層：SD2342j
5・6 層：SX2400
7 層：小Pit
8～13 層：SK2470
14・15 層：SD2342f
16～18 層：SD2342e
19～21 層：SD2342d
22～28 層：SD2342c
29～31 層：SD2342b
32～40 層：SD2342a
41・42 層：溝か

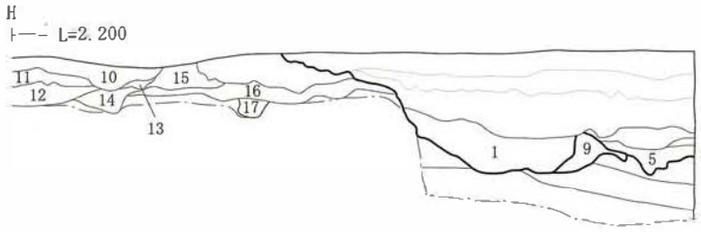
N21ライン(中トレンチ南壁)

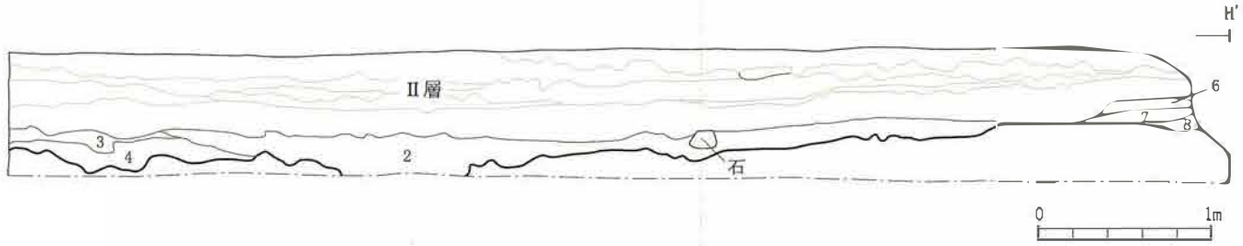
第9図　A66区SX2400南北大路断面図(1)



1・2 層：SD2342j　9～11 層：SD2342d
3 層：SD2342f　12～21 層：SD2342c
4～6 層：SK2472　22～27 層：SD2342b
7・8 層：SD2342e　28～30 層：SD2342a

N11・5ライン（南トレンチ南壁）

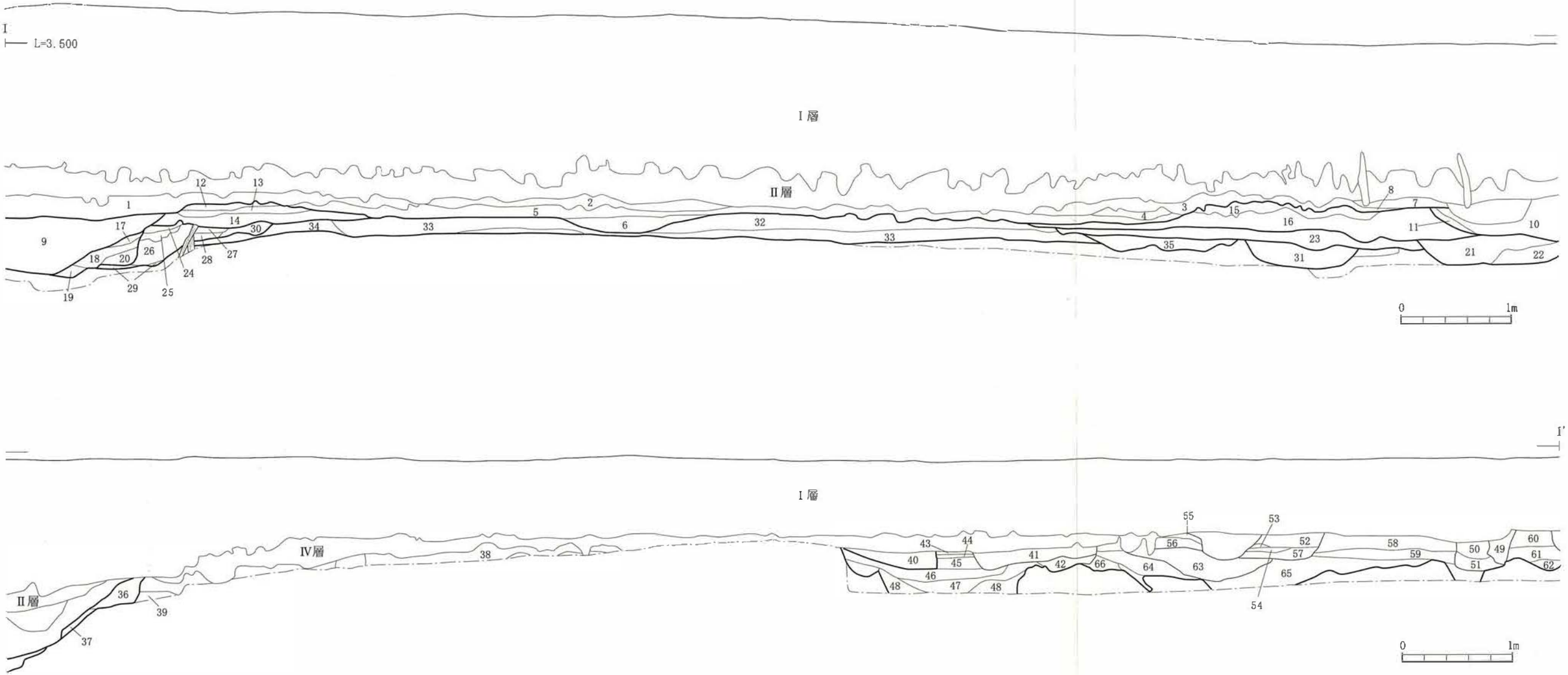




N07ライン

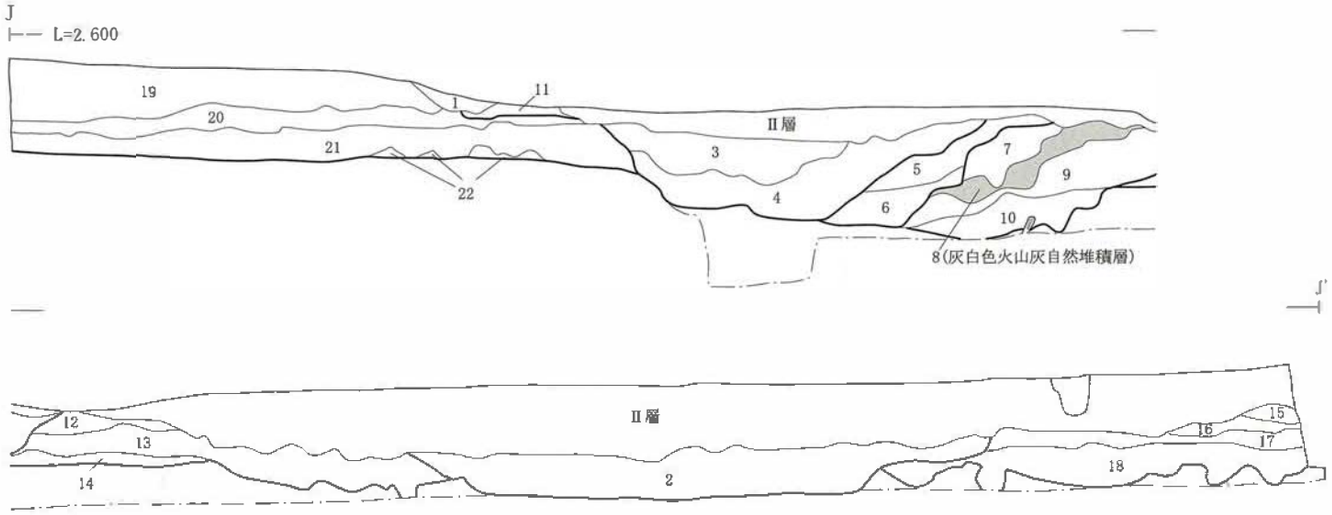
1 層：SD2342j　10～12 層：落ち込み
2～5 層：SX2000　13・14 層：溝
6～8 層：SD2343a　15・16 層：SD2342i
9 層：側溝か　17 層：溝

第10図　A66区SX2400南北大路断面図(2)



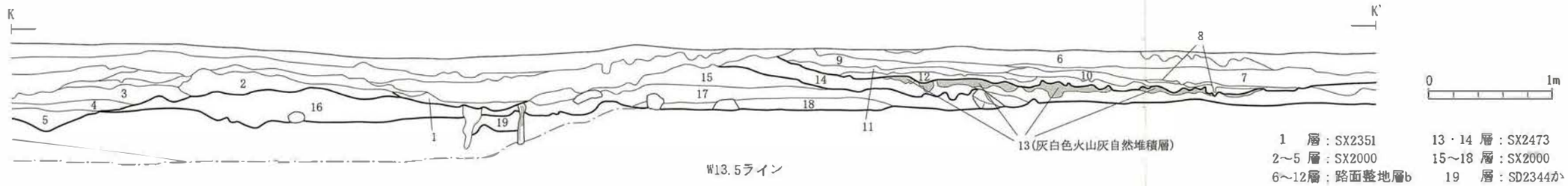
1～8　層：SX2351
9　層：SD2345e
10・11 層：SD2344e
12～16 層：SX2000c
17～20 層：SD2345d
21・22 層：SD2344d
23　層：SX2000b
24～30 層：SD2345c
31　層：SD2344c
32～34 層：SX2000a
35　層：SX2345a・bか
36・37 層：SD2344dか
38・39 層：整地層
40　層：SK2461
41・42 層：SK2462
43～48 層：SK2463
49　層：柱穴抜取り穴
50・51 層：柱穴掘り方
52～57 層：SK2464
58～62 層：SK2465
63～66 層：SX2466

第11図　A66区西壁断面図



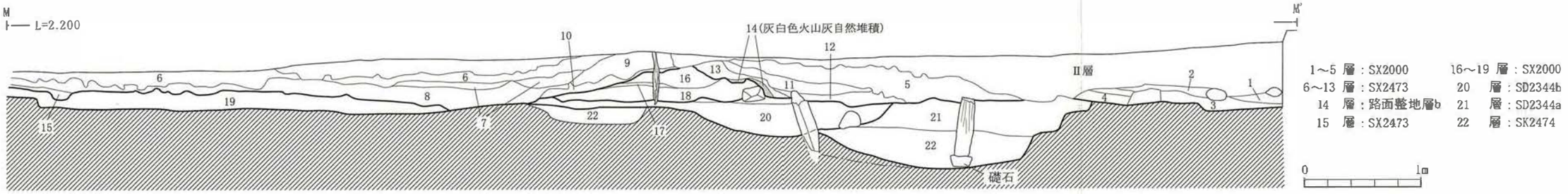
1 層：小Pit
2 層：SX2351
3・4 層：SD2344e
5・6 層：SD2344d
7～10 層：SD2344c
11～14 層：SX2451
15～18 層：SX2000
19～22 層：SD2342a

W22.5～23.7ライン



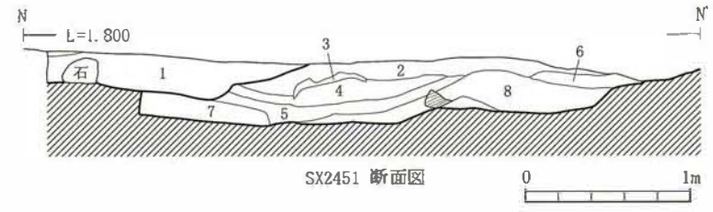
1 層：SX2351
2～5 層：SX2000
6～12層：路面整地層b
13・14 層：SX2473
15～18 層：SX2000
19 層：SD2344か

W13.5ライン



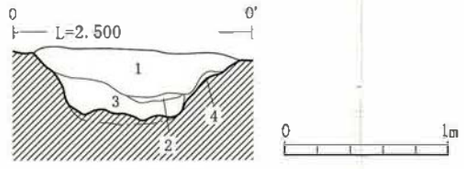
1～5 層：SX2000
6～13 層：SX2473
14 層：路面整地層b
15 層：SX2473
16～19 層：SX2000
20 層：SD2344b
21 層：SD2344a
22 層：SK2474

W09ライン



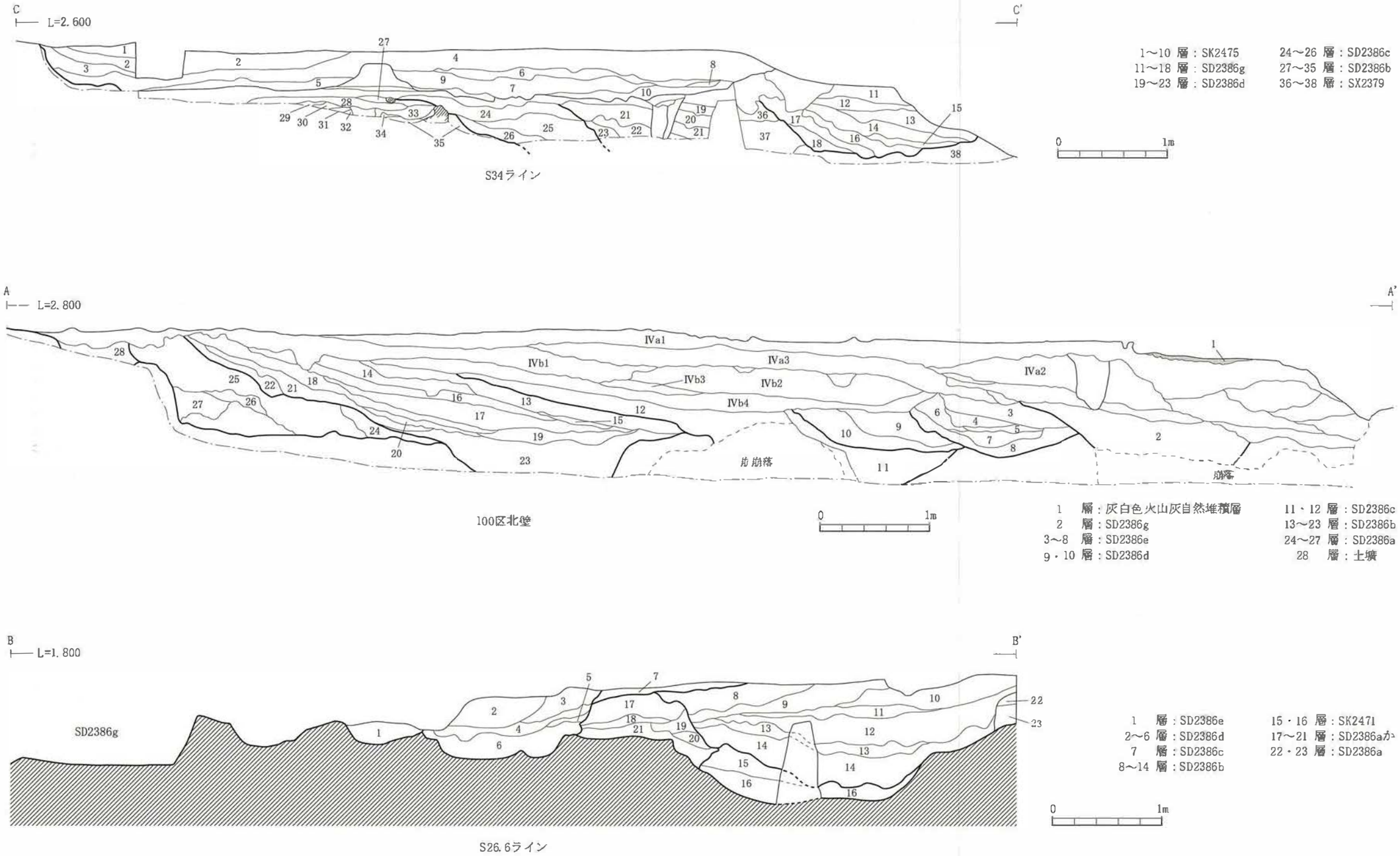
1 層：SX2000
2～8 層：SX2451

SX2451 断面図

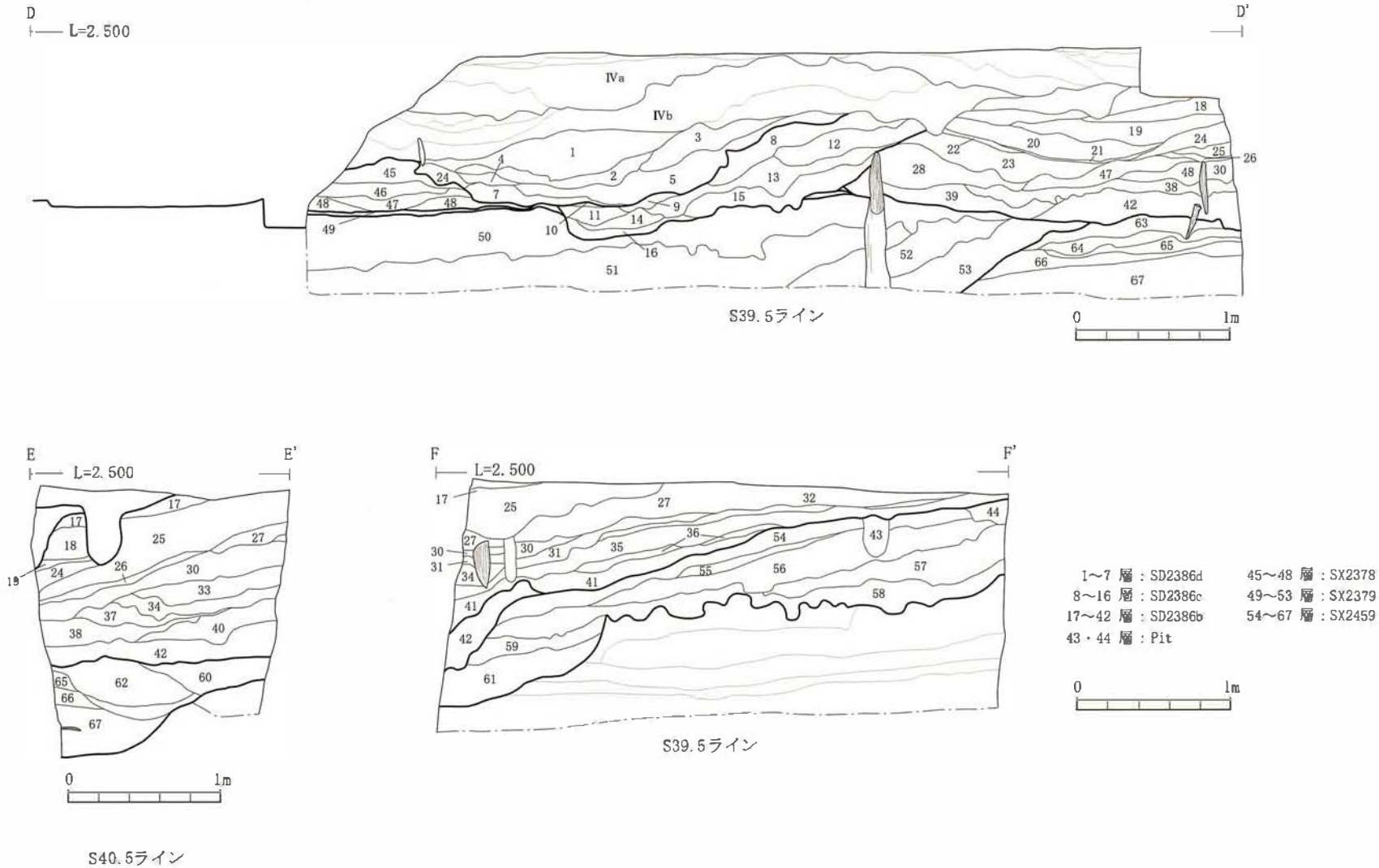


SD2362 断面図

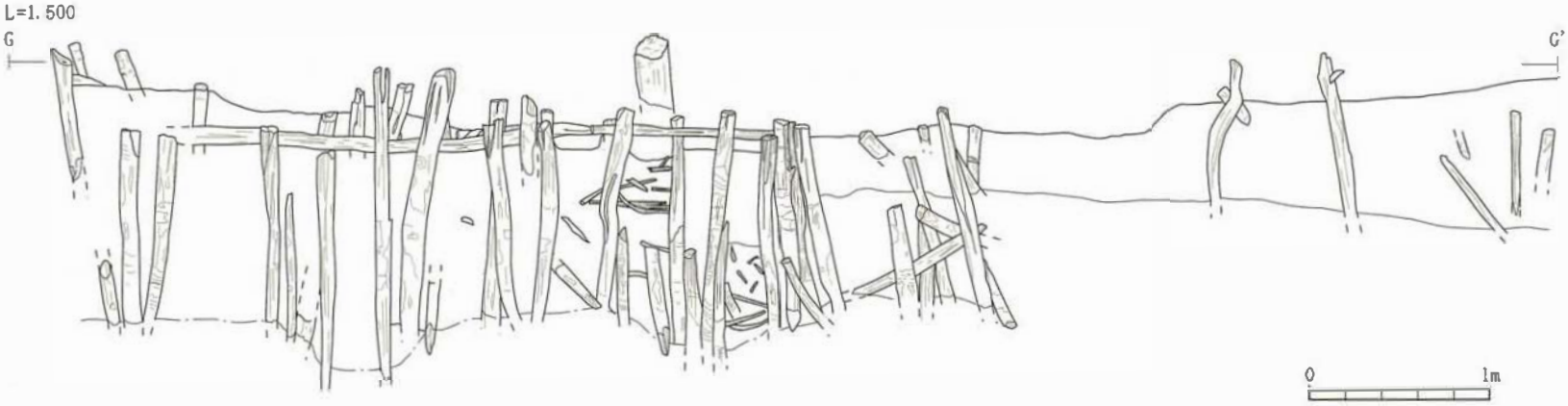
第12図　A66区SX2000東西大路ほか断面図



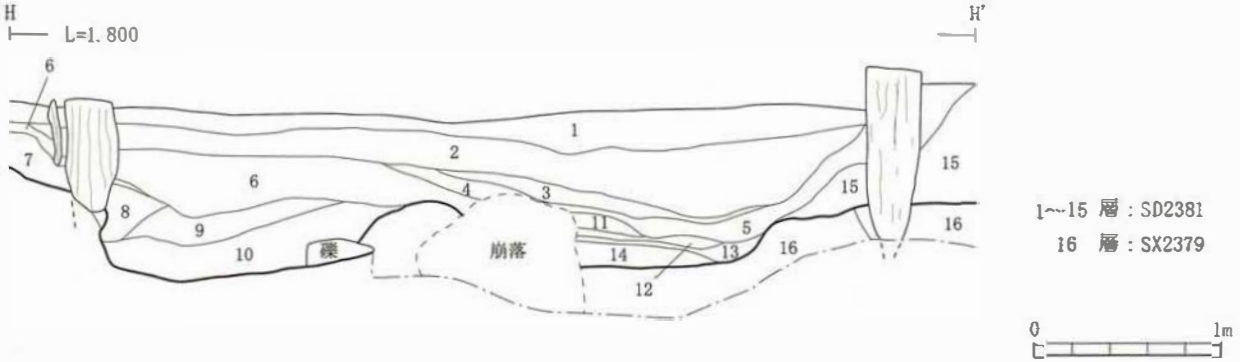
第13図　D100区SX2385西０道路西側溝断面図



第14図　D100区SD2386西０道路西側溝ほか断面図

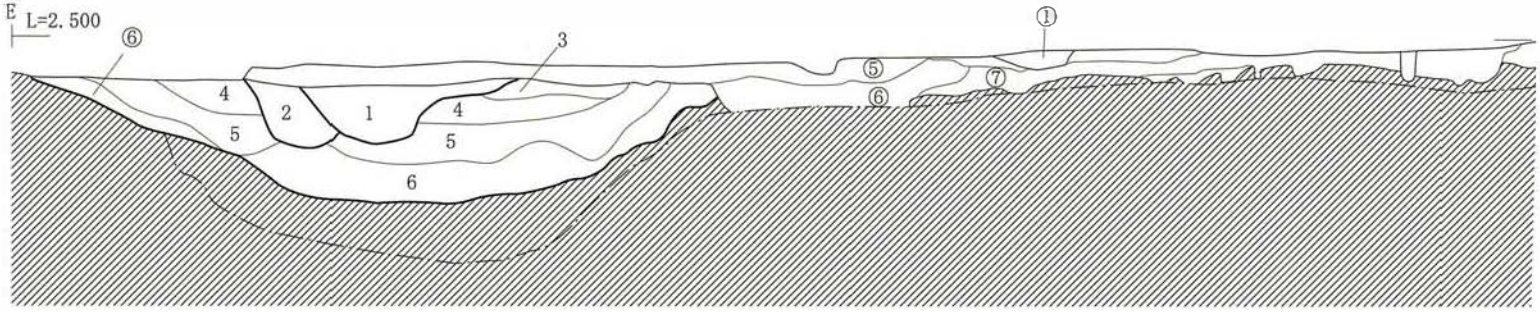


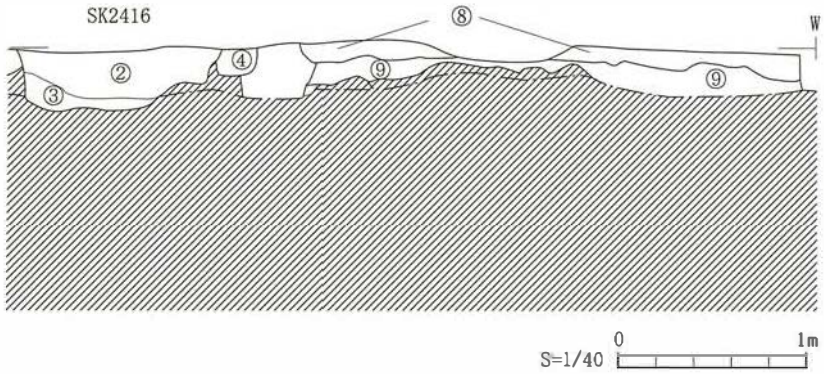
SX2380立面図



SD2381断面図

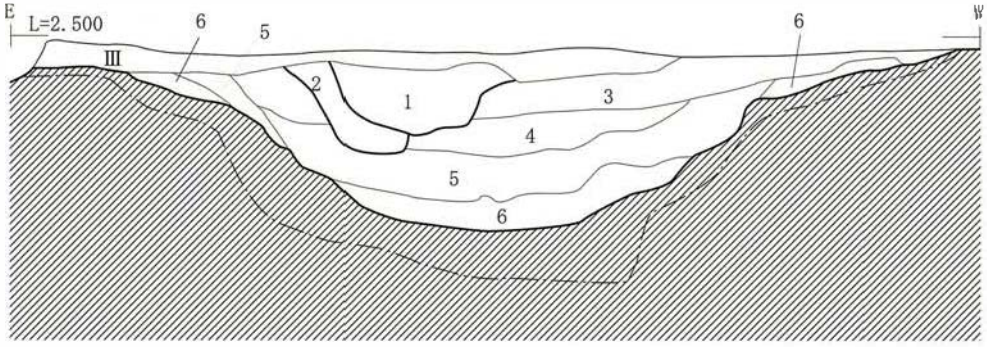
第15図　D100区SX2380立面図、SD2381断面図

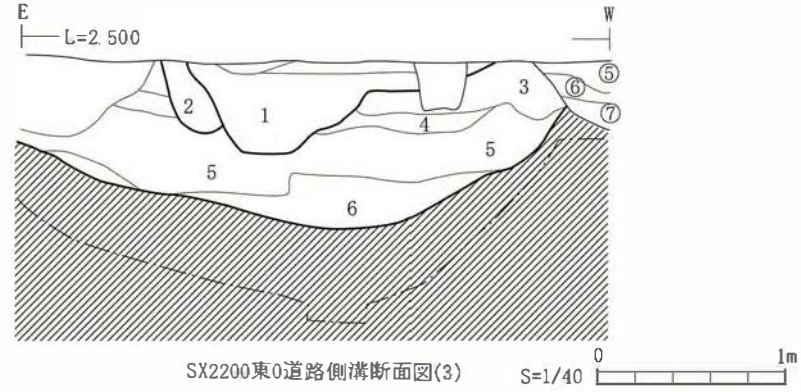




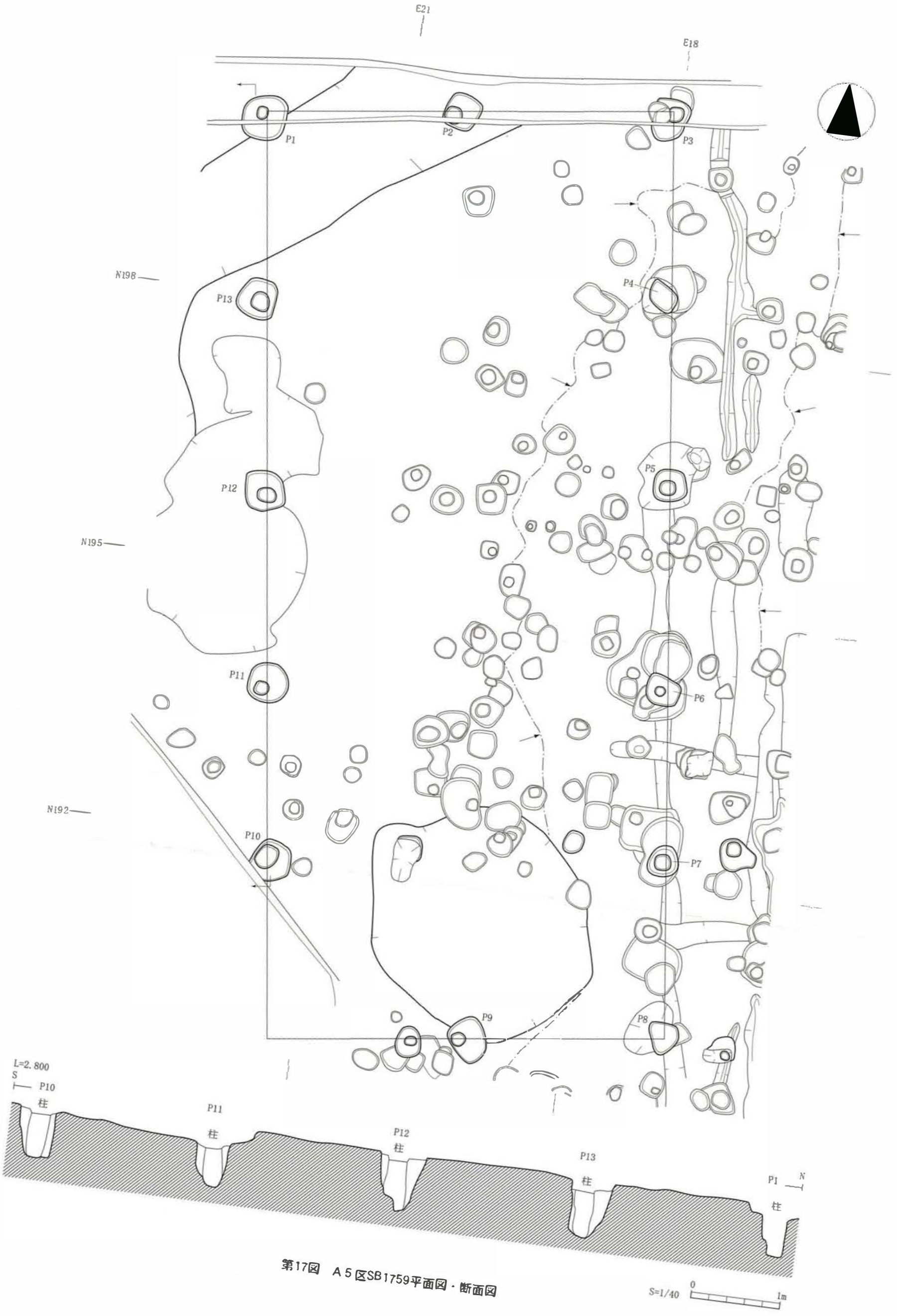
1層：SD2201(C) 埋土
2層：SD2201(B) 埋土
3～6層：SD2201(A) 埋土

①層：小溝　埋土
②～③層：SK2416 埋土
④層：小溝　埋土
⑤～⑧層：SX2180 埋土
⑨層：SX2203 整地層

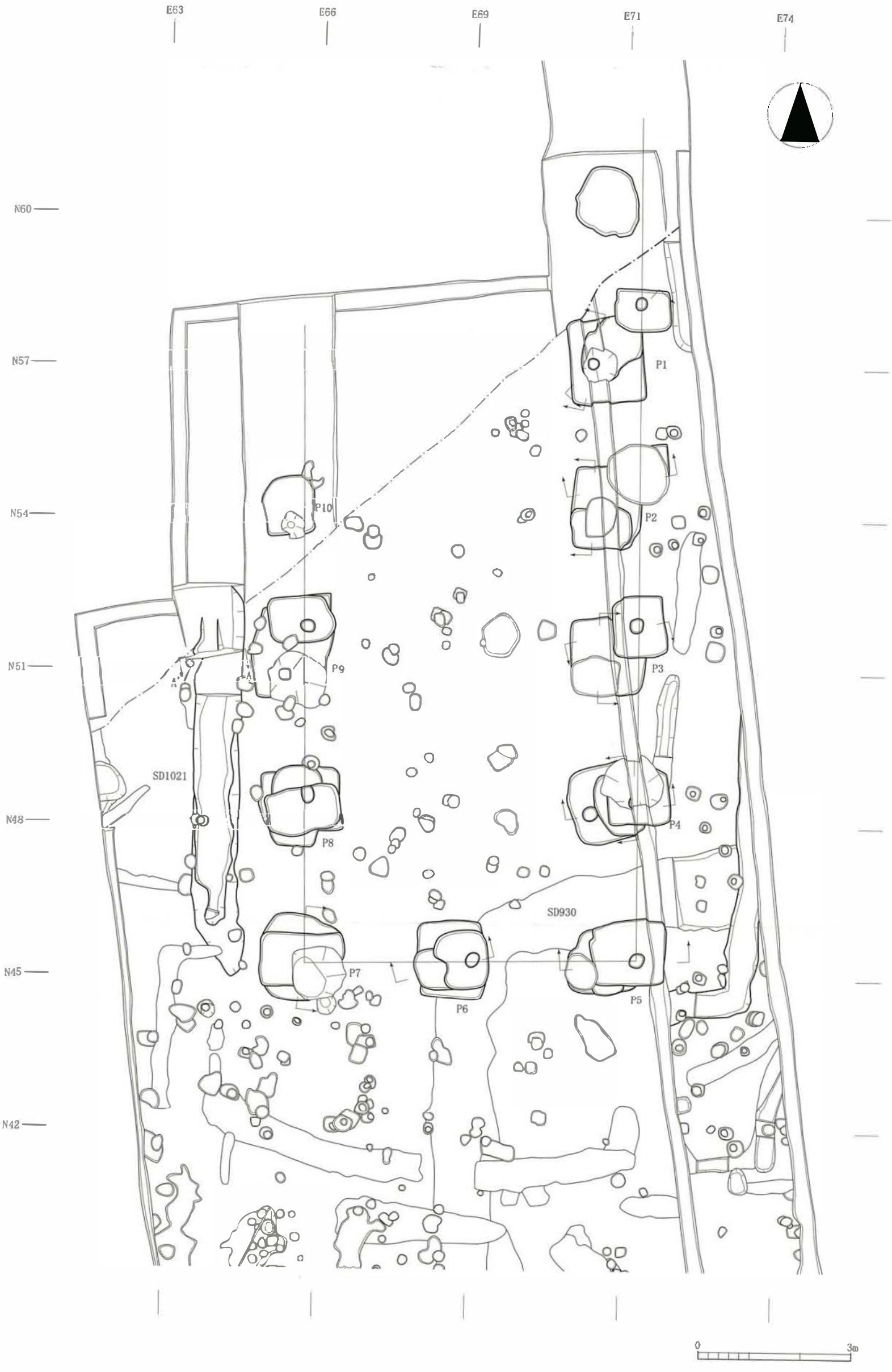




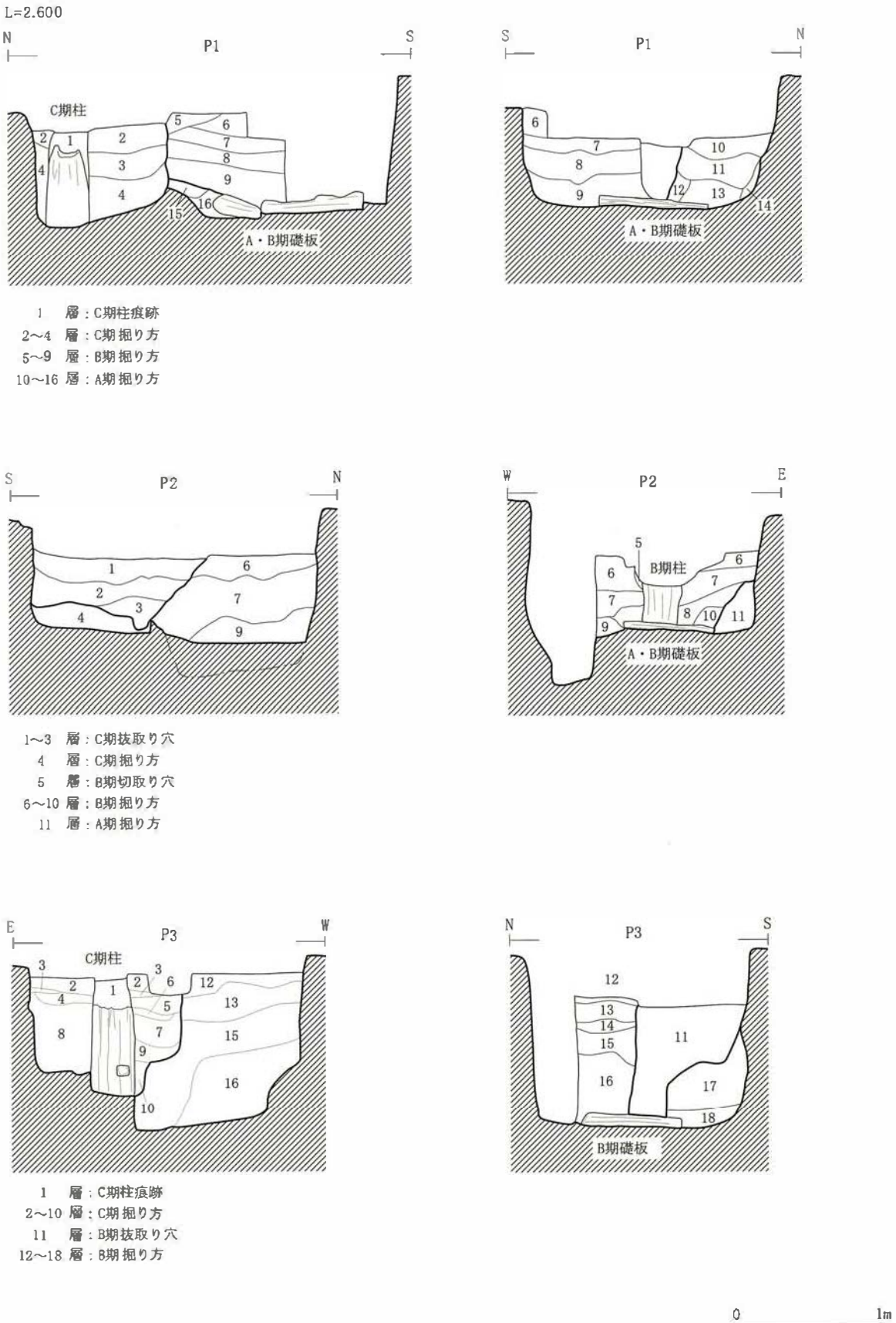
第16図　105区SX2200東０道路側溝断面図



第17図　A5区SB1759平面図・断面図



第18図　A65区SB1020、SD1021平面図

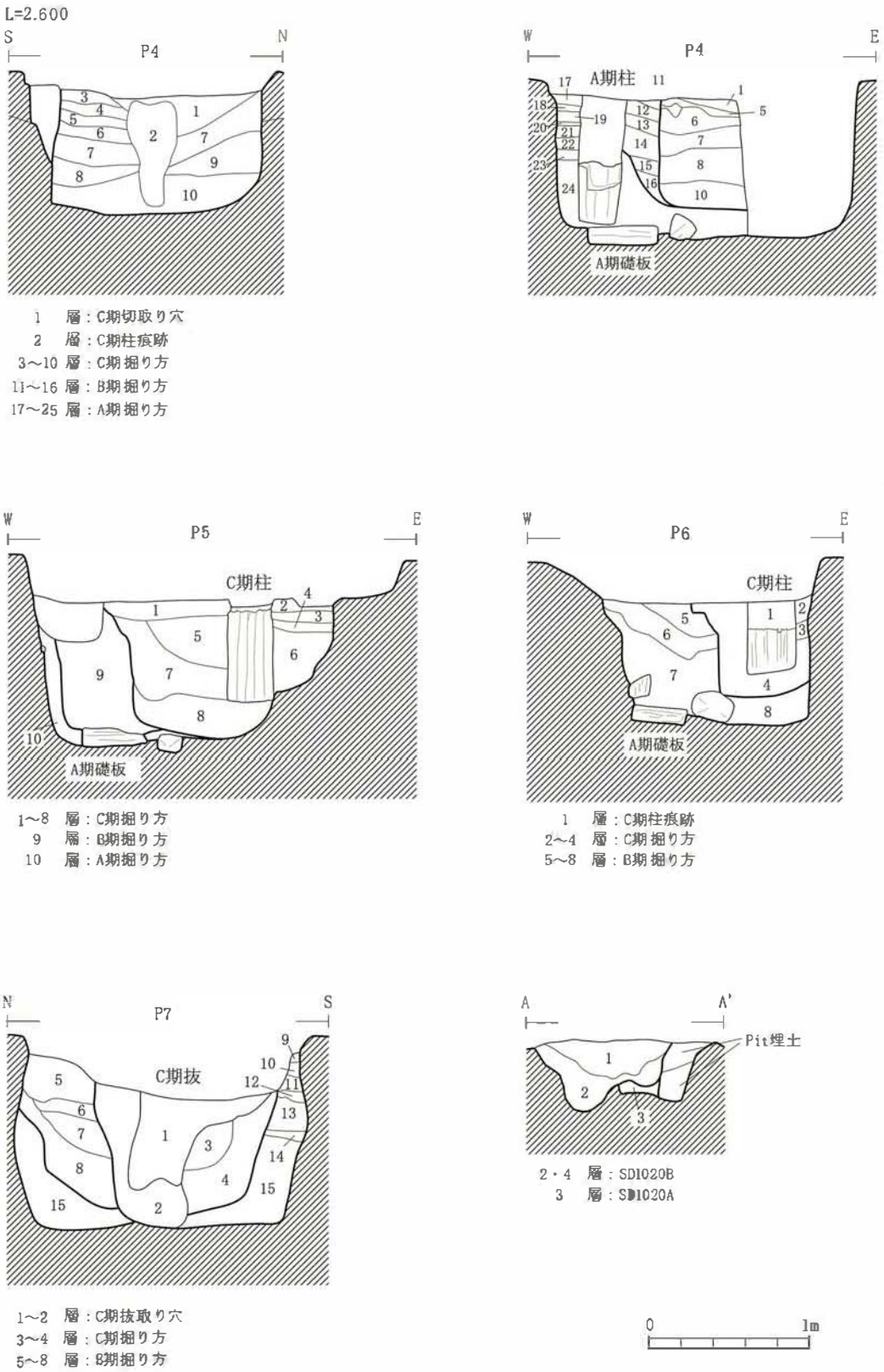


1　層：C期柱痕跡
2～4　層：C期掘り方
5～9　層：B期掘り方
10～16　層：A期掘り方

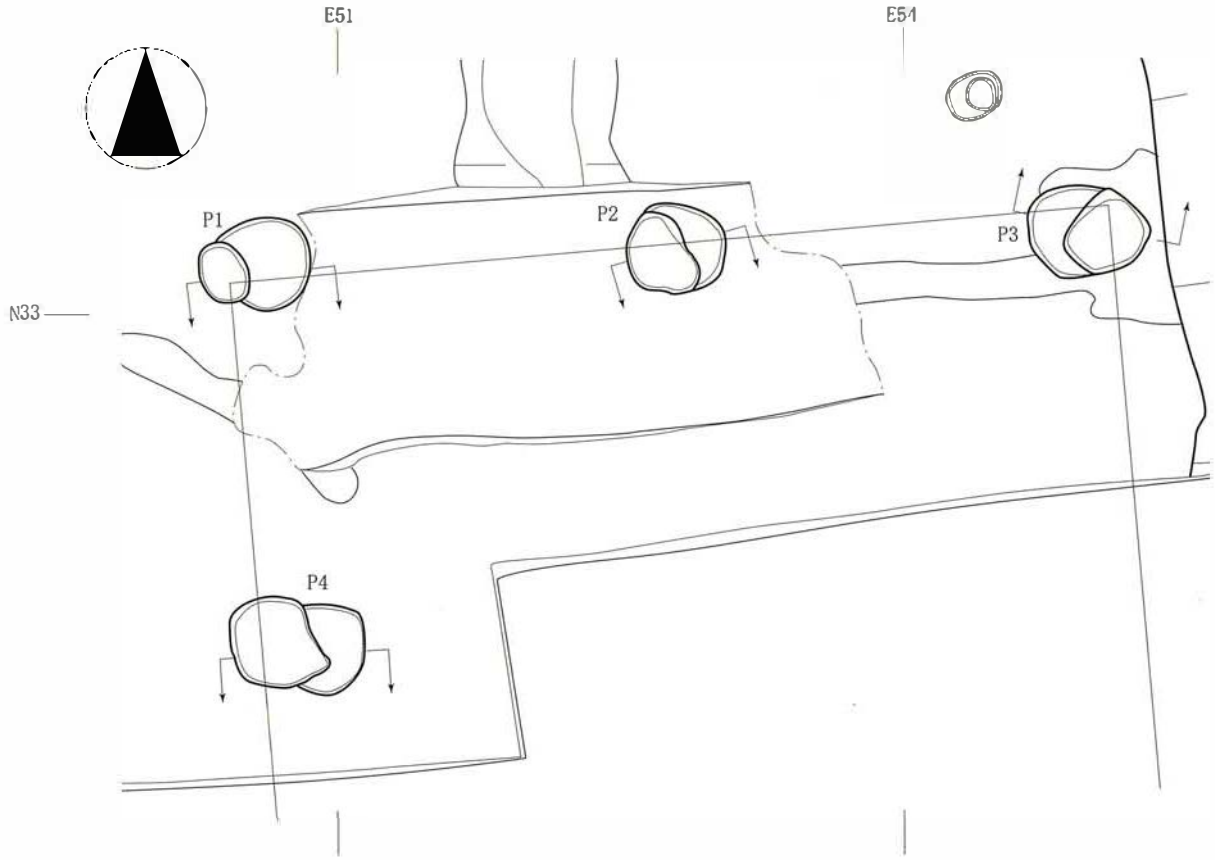
1～3　層：C期抜取り穴
4　層：C期掘り方
5　層：B期切取り穴
6～10　層：B期掘り方
11　層：A期掘り方

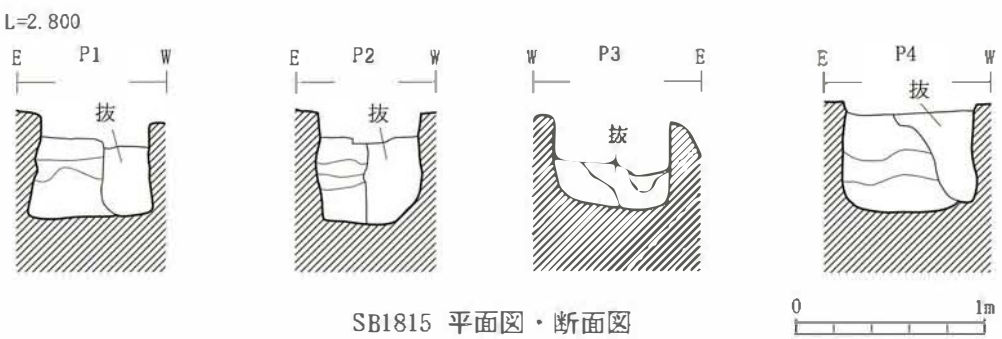
1　層：C期柱痕跡
2～10　層：C期掘り方
11　層：B期抜取り穴
12～18　層：B期掘り方

第19図　A65区SB1020断面図(1)

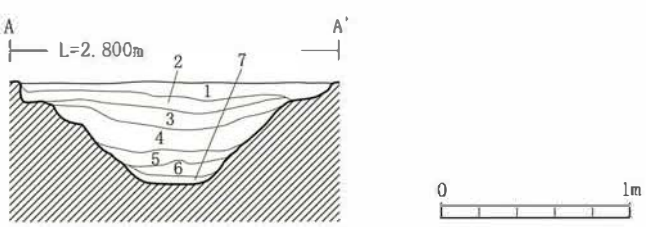


第20図　A65区SB1020、SD1021断面図(2)



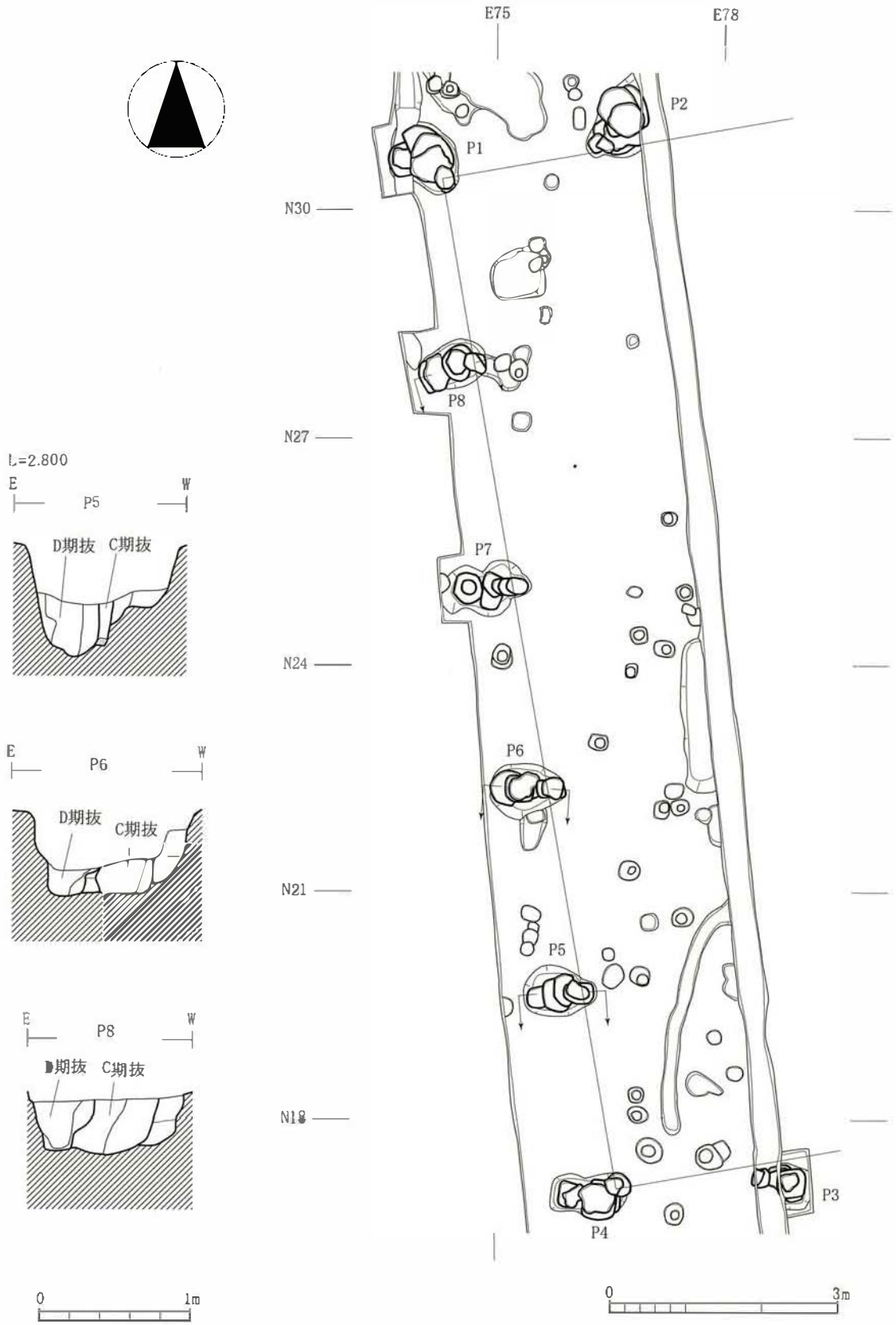


SB1815 平面図・断面図

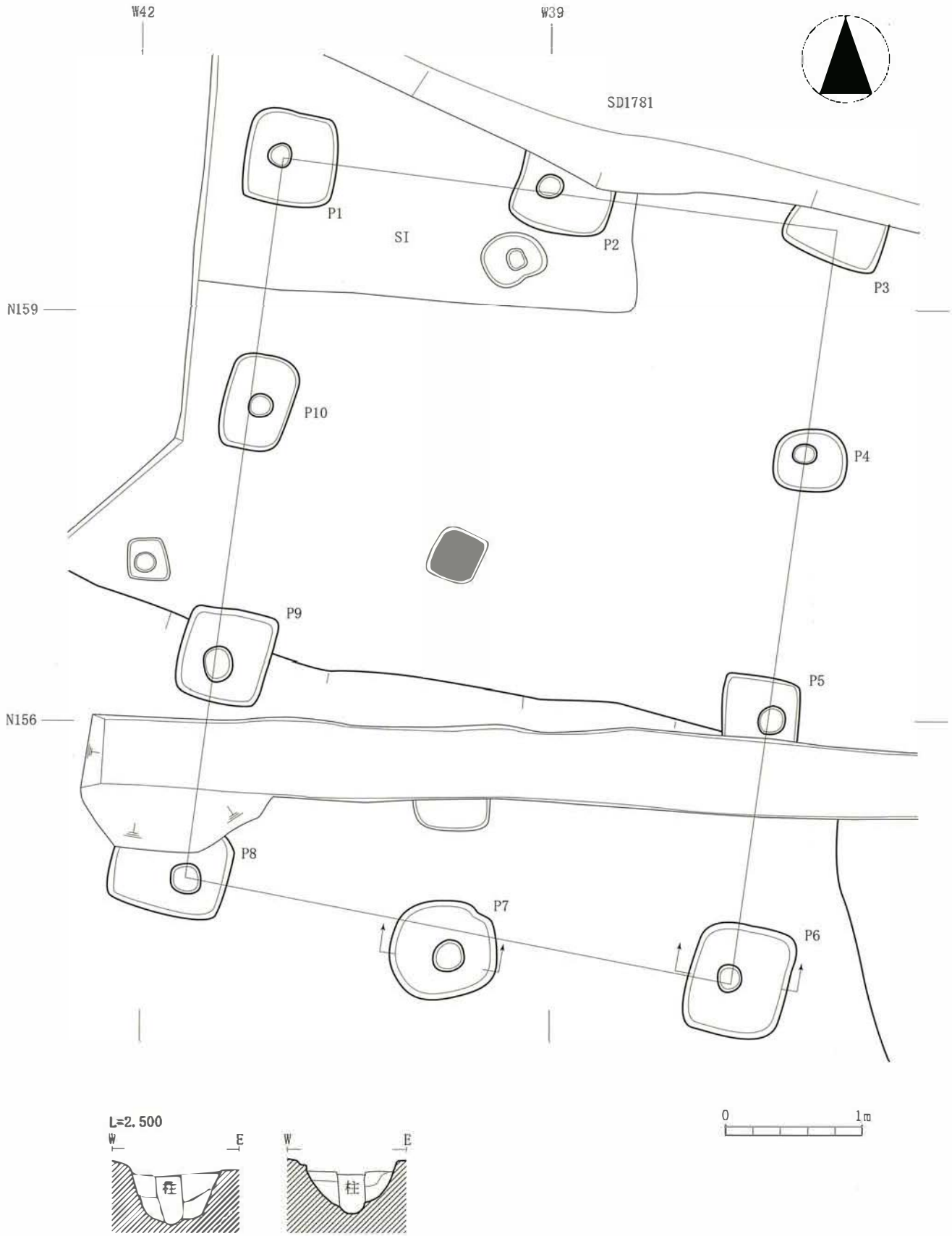


SD931断面図

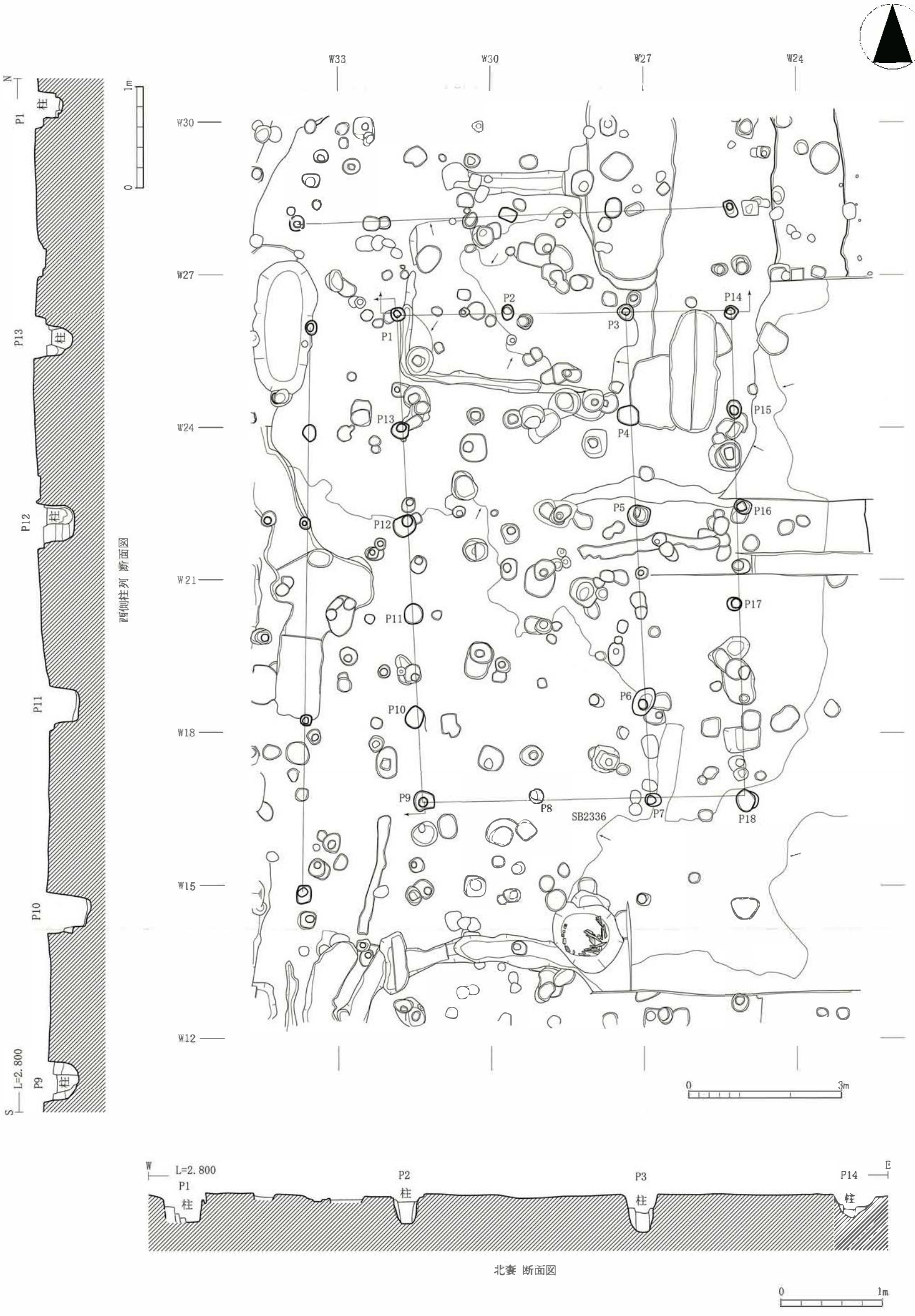
第21図　A12区SB1815平面図・断面図、SD931断面図



第22図　A48区SB919平面図・断面図



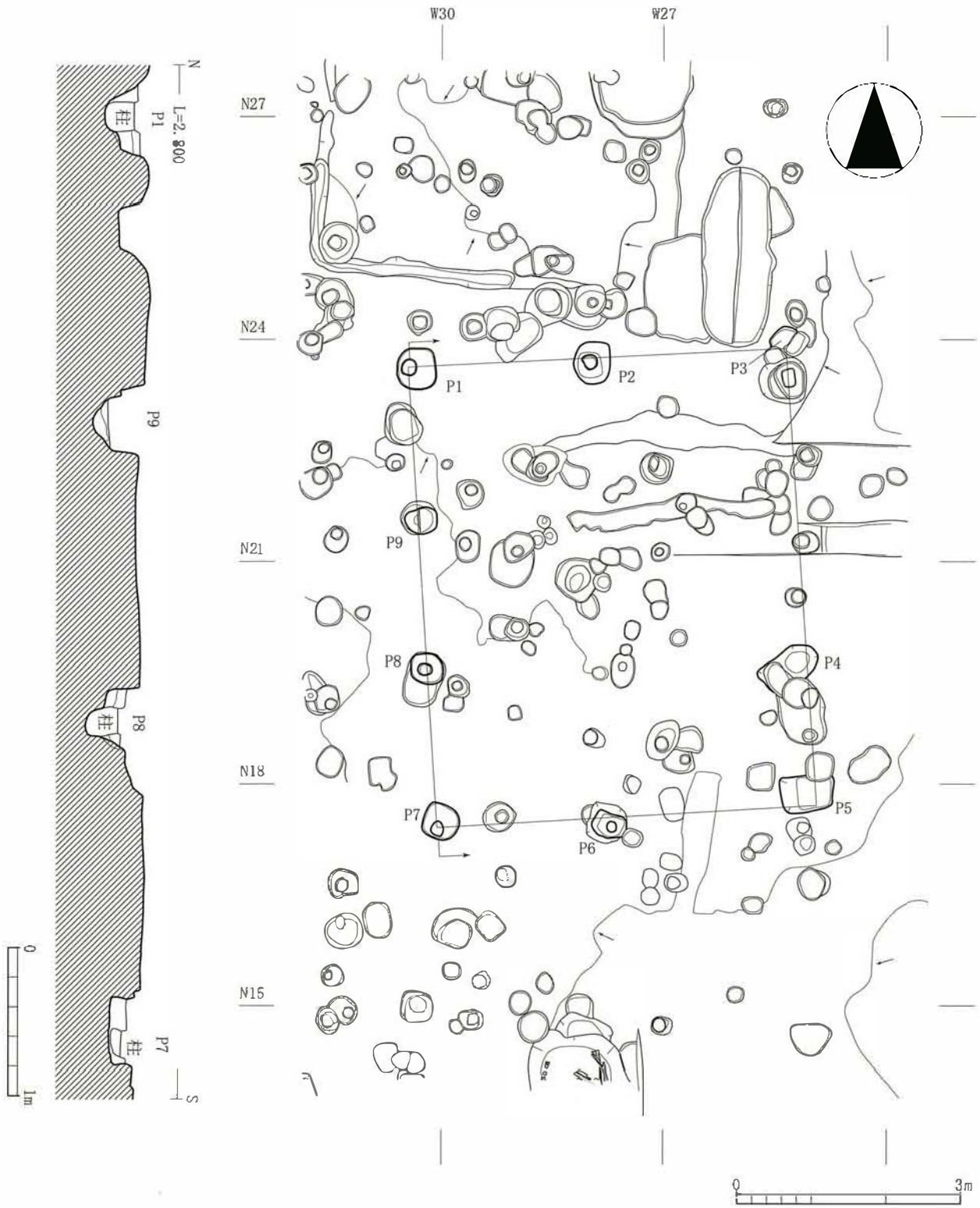
第23図　A４区SB1795平面図・断面図



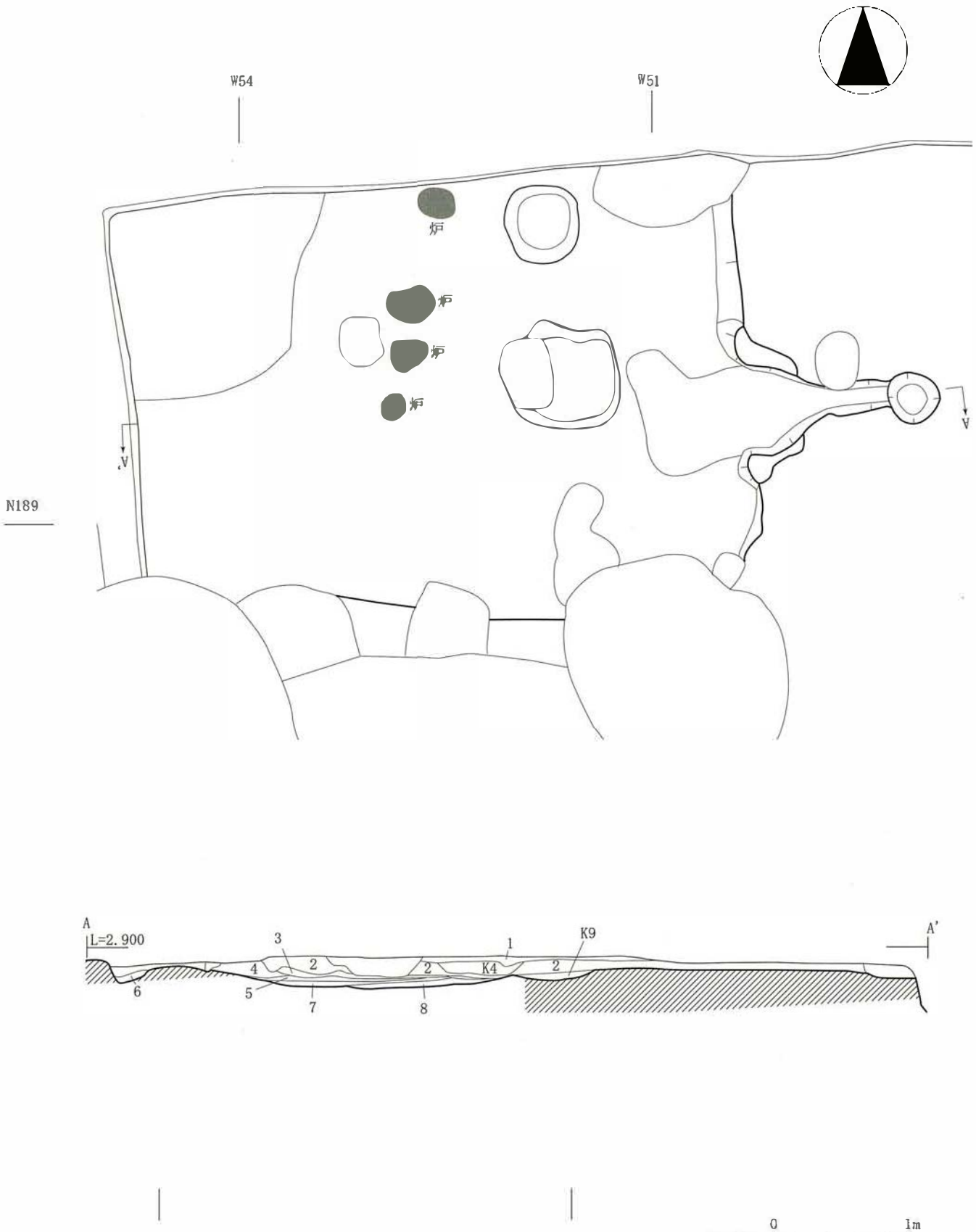
西側柱列 断面図

北妻 断面図

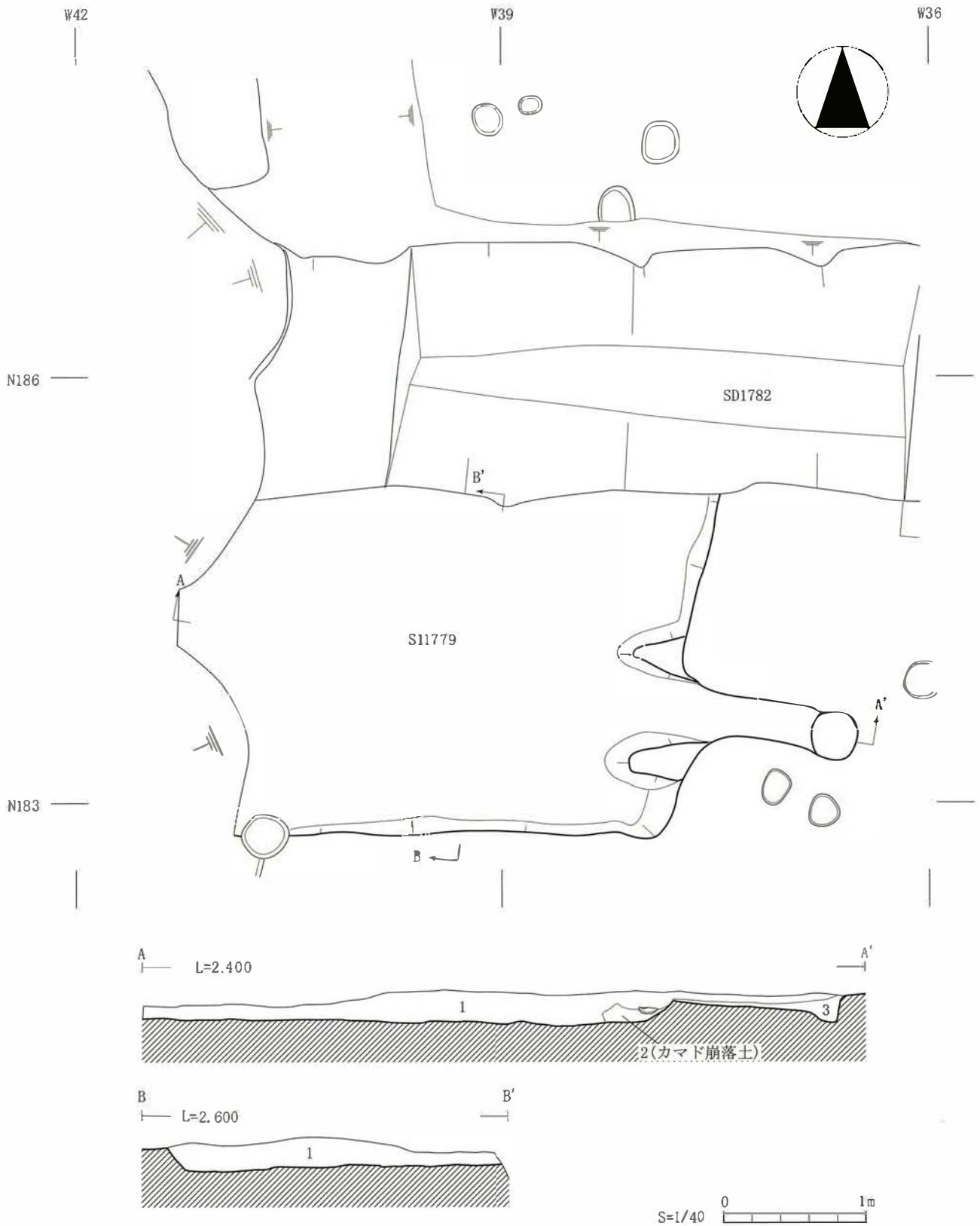
第24図　A66区SB2336平面図・断面図



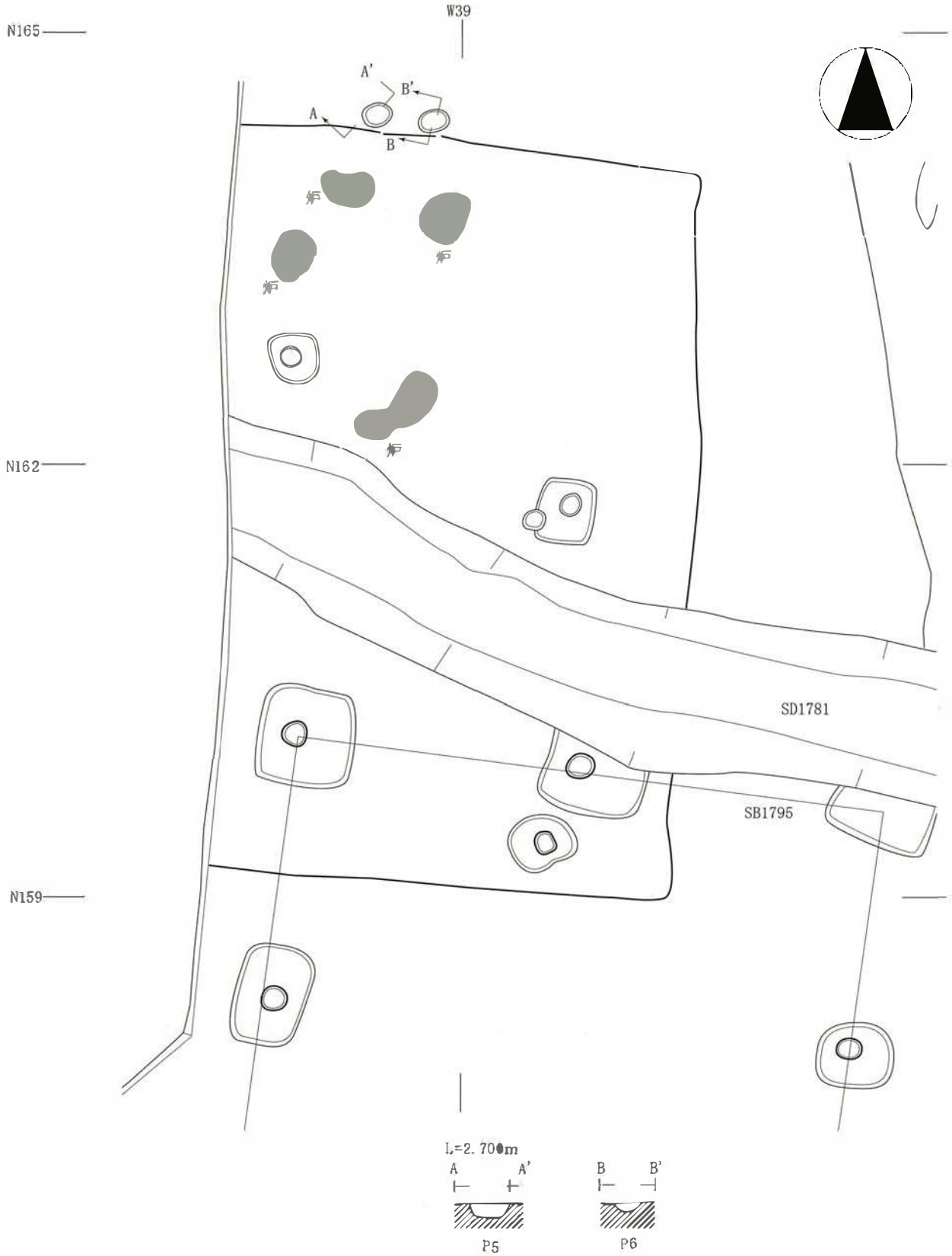
第25図　A66区SB2337平面図・断面図



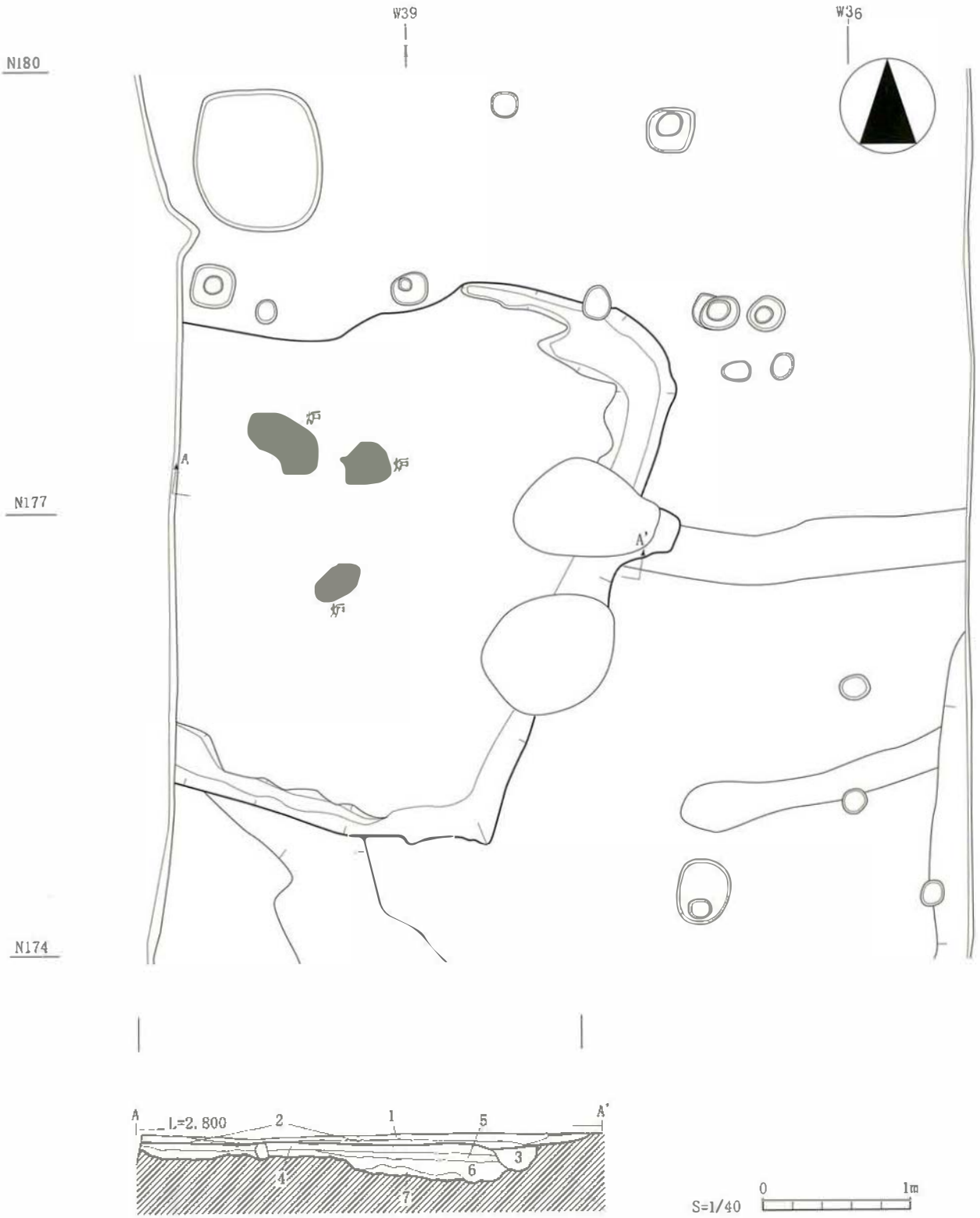
第26図　A２区SI1783B平面図・断面図



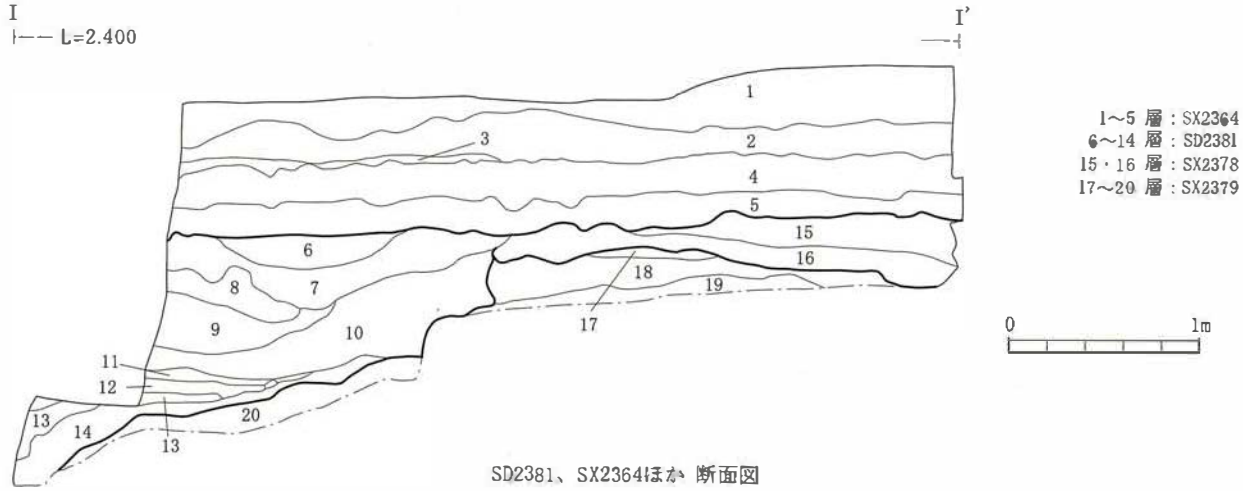
第27図　A４区SI1779平面図・断面図



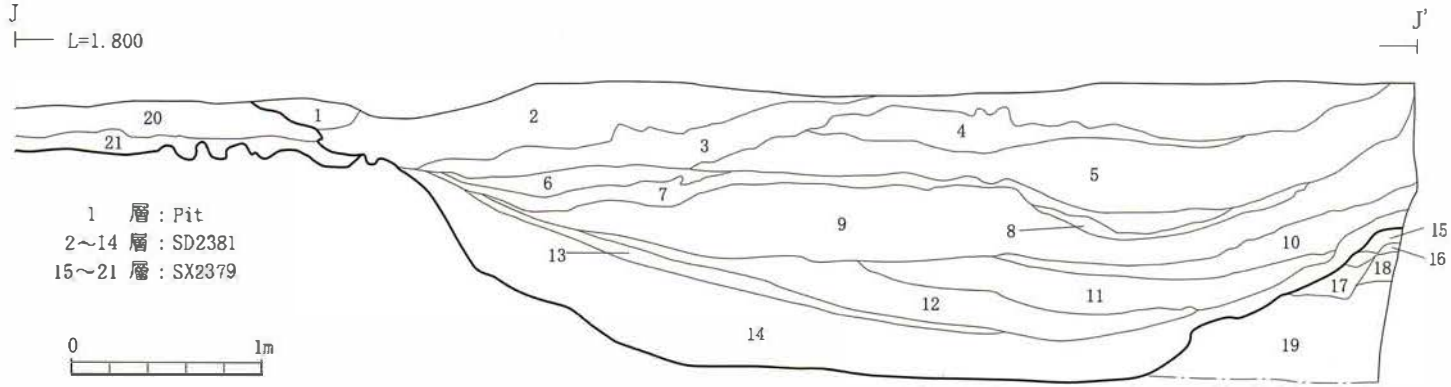
第28図　A４区SI1801平面図・断面図



第29図　A４区SI1797平面図・断面図

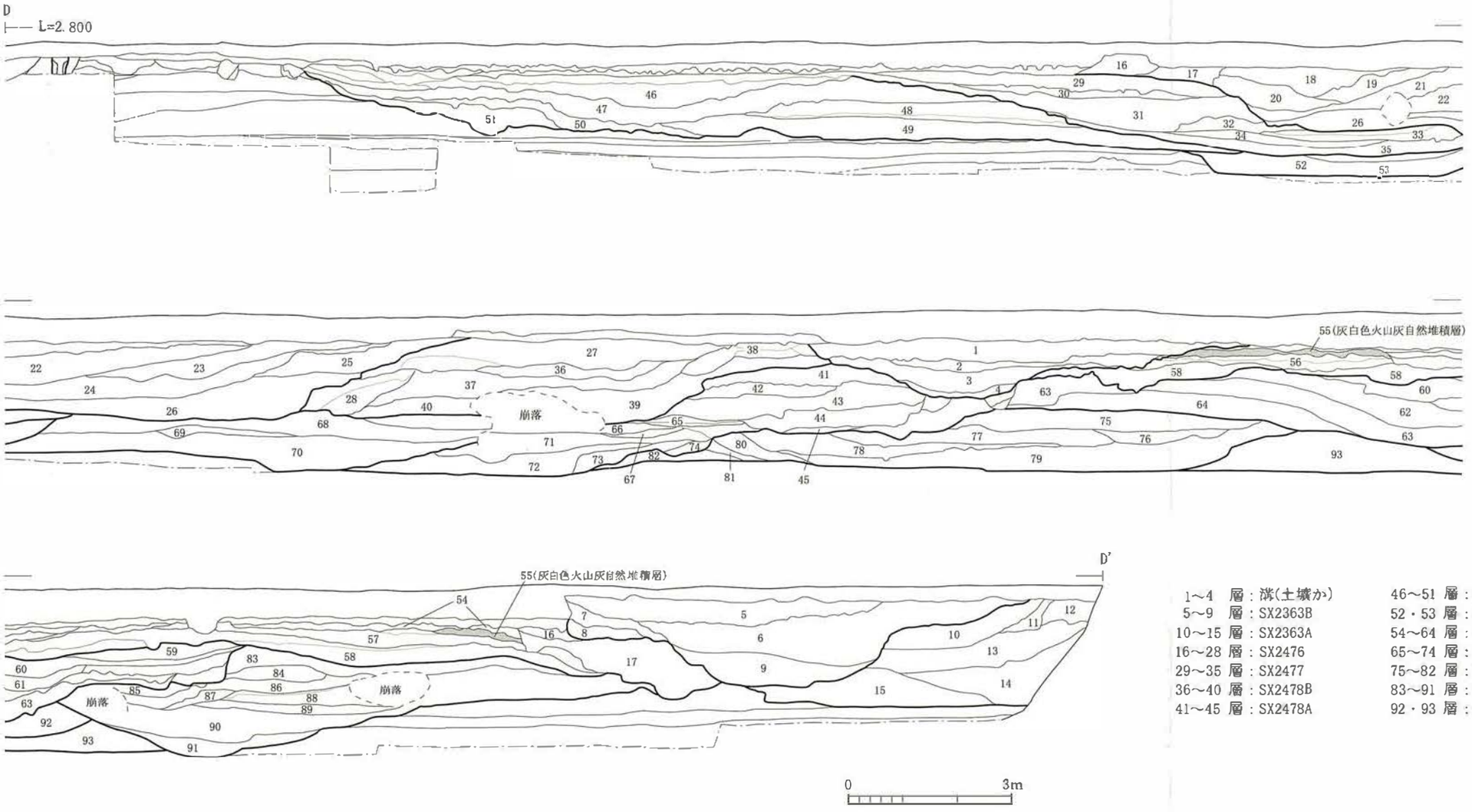


SD2381、SX2364ほか 断面図



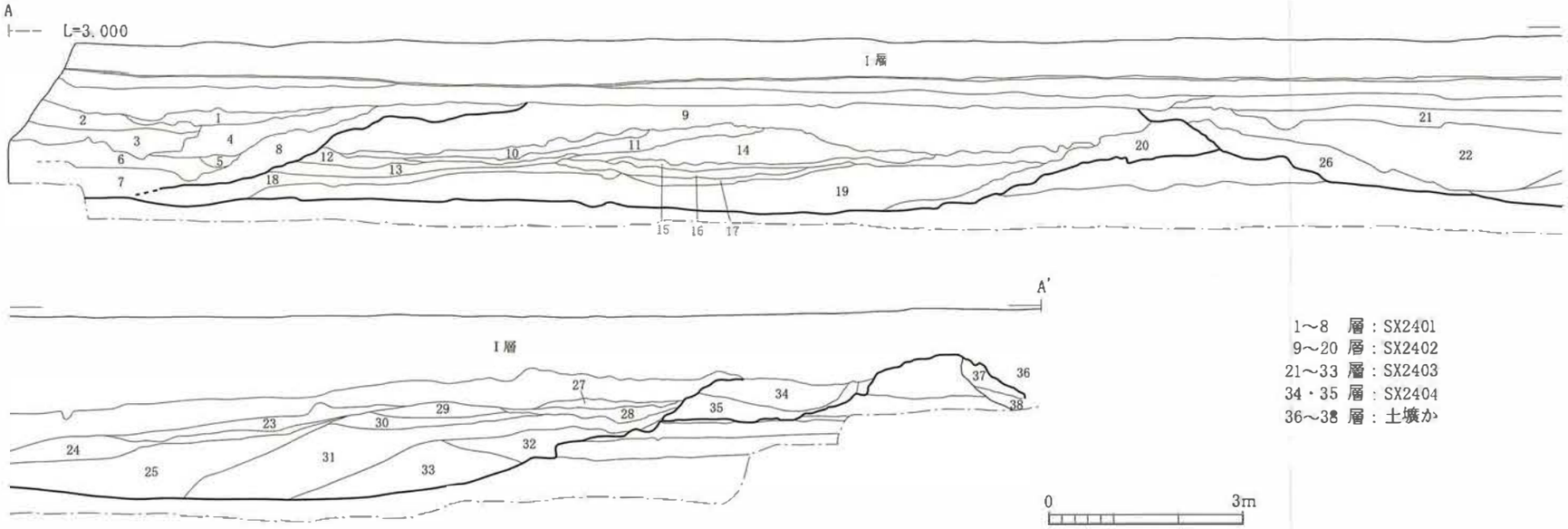
SD2381 断面図

第30図　D100区SD2381ほか断面図

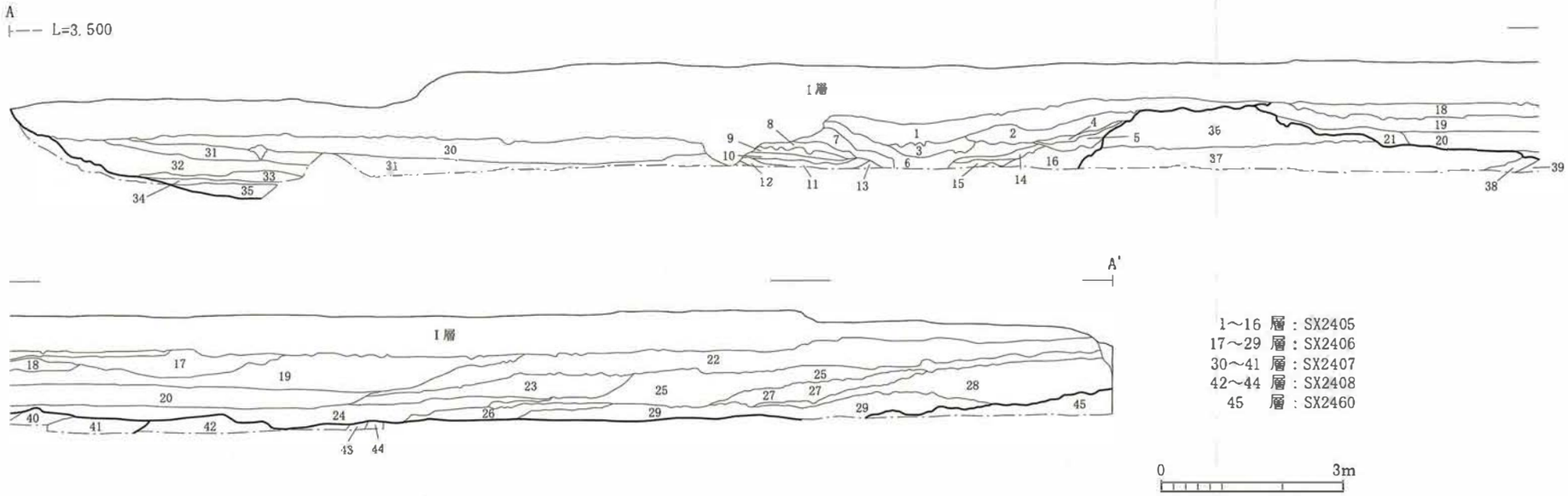


1～4 層：溝(土壙か)
5～9 層：SX2363B
10～15 層：SX2363A
16～28 層：SX2476
29～35 層：SX2477
36～40 層：SX2478B
41～45 層：SX2478A
46～51 層：SX2366
52・53 層：SX2368
54～64 層：SX2479
65～74 層：SX2365
75～82 層：SX2364
83～91 層：SX2379
92・93 層：SX2369

第31図　D27区河川跡断面図

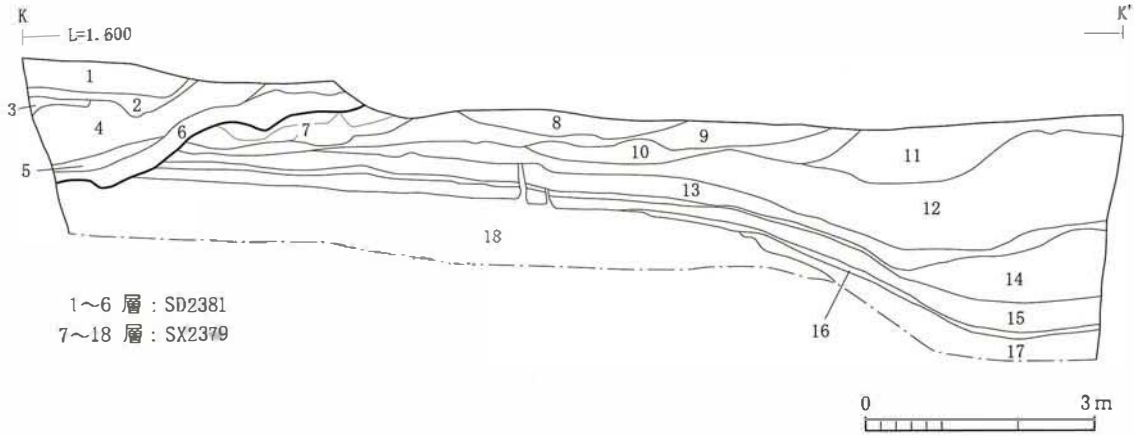


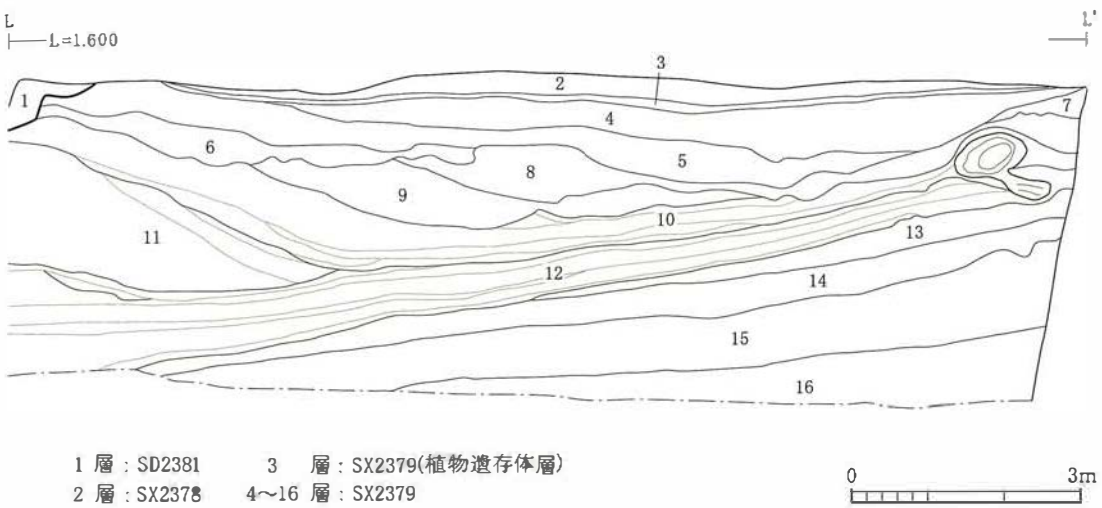
101区河川跡 断面図

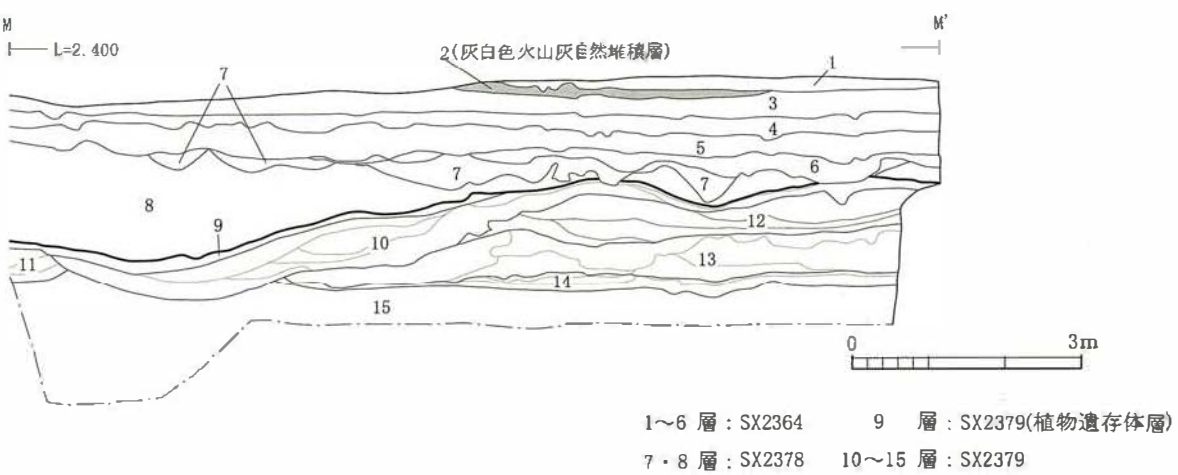


105区河川跡 断面図

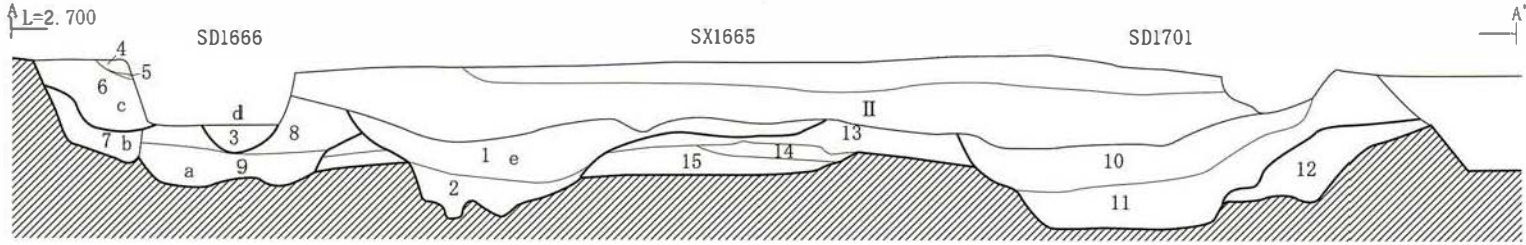
第32図　D101・105(N)区河川跡断面図





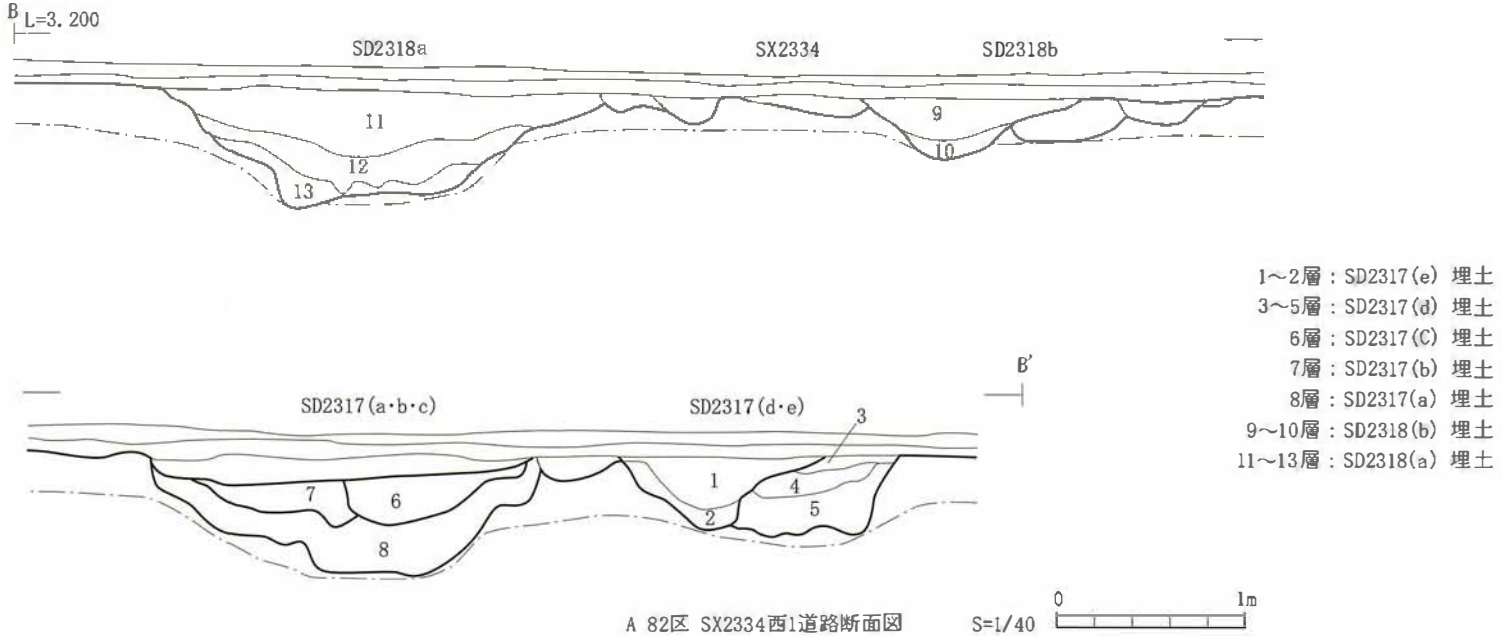


第33図　D100区SX2378ほか断面図



A 42区 SX1665北1道路断面図

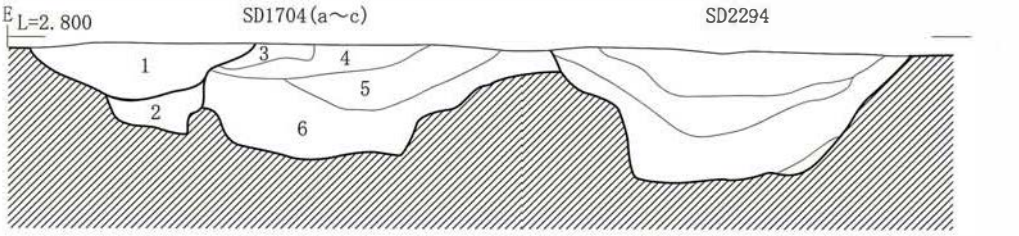
1～2層：SD1666(e) 埋土
3層：SD1666(d) 埋土
4～6層：SD1666(C) 埋土
7層：SD1666(b) 埋土
8～9層：SD1666(a) 埋土
10～11層：SD1701(b) 埋土
12層：SD1701(a) 埋土
13～15層：SX1665 路面

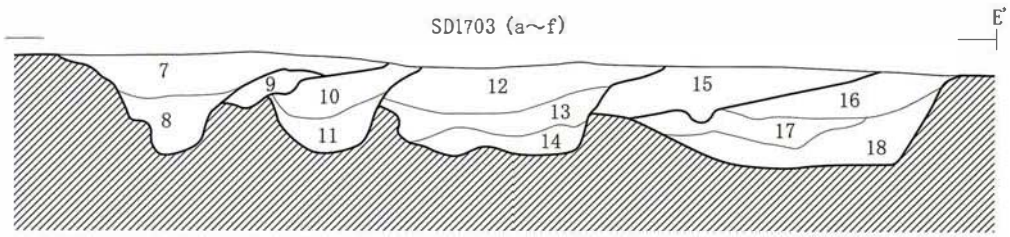


A 82区 SX2334西1道路断面図 S=1/40

1～2層：SD2317(e) 埋土
3～5層：SD2317(d) 埋土
6層：SD2317(C) 埋土
7層：SD2317(b) 埋土
8層：SD2317(a) 埋土
9～10層：SD2318(b) 埋土
11～13層：SD2318(a) 埋土

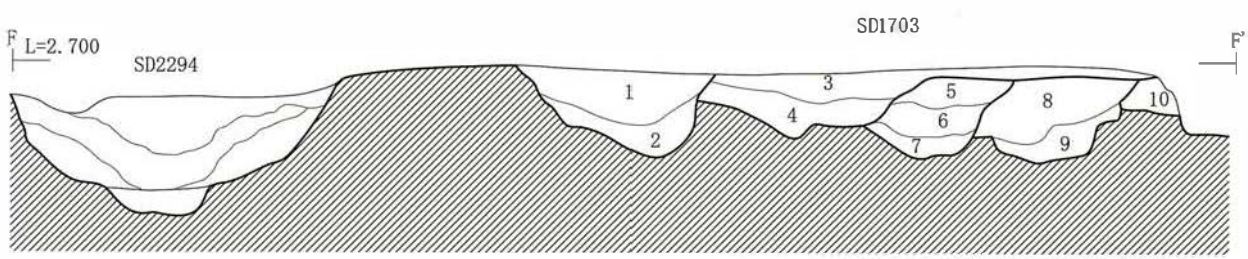
第34図　A42・82区SX1665・2334道路断面図





A 8区　SX1700西1道路跡北ベルト断面図　S=1/40　0　1m

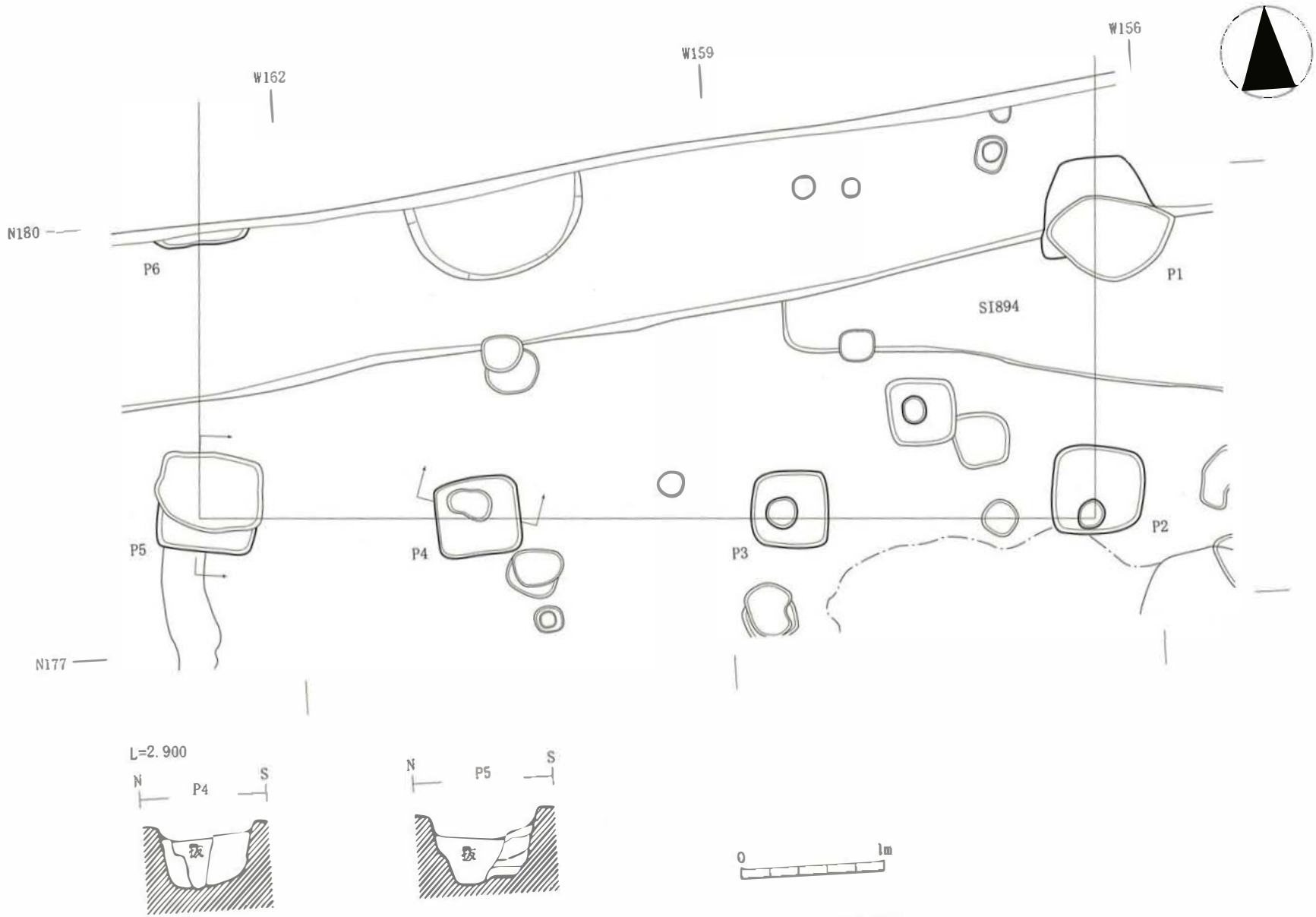
1層：SD1704(c) 埋土
2層：SD1704(b) 埋土
3～6層：SD1704(a) 埋土
7～8層：SD1703(f) 埋土
9層：SD1703(e) 埋土
10～11層：SD1703(d) 埋土
12～14層：SD1703(c) 埋土
15層：SD1703(b) 埋土
16～18層：SD1703(a) 埋土



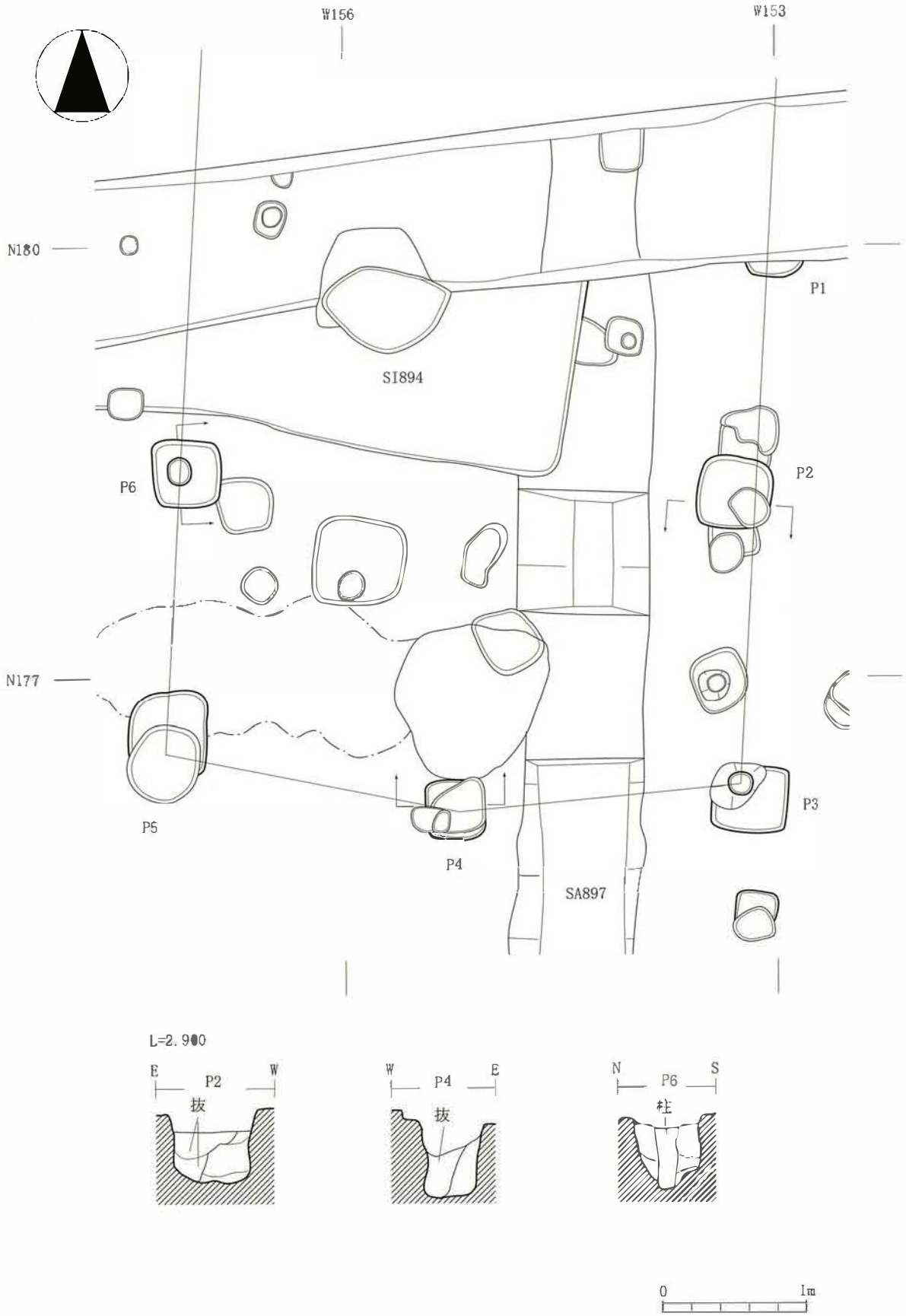
A 8区　SX1700西1道路跡南ベルト断面図　S=1/40　0　1m

1～2層：SD1703(f) 埋土
3～4層：SD1703(e) 埋土
5～7層：SD1703(d) 埋土
8～9層：SD1703(c) 埋土
10層：SD1703(b) 埋土

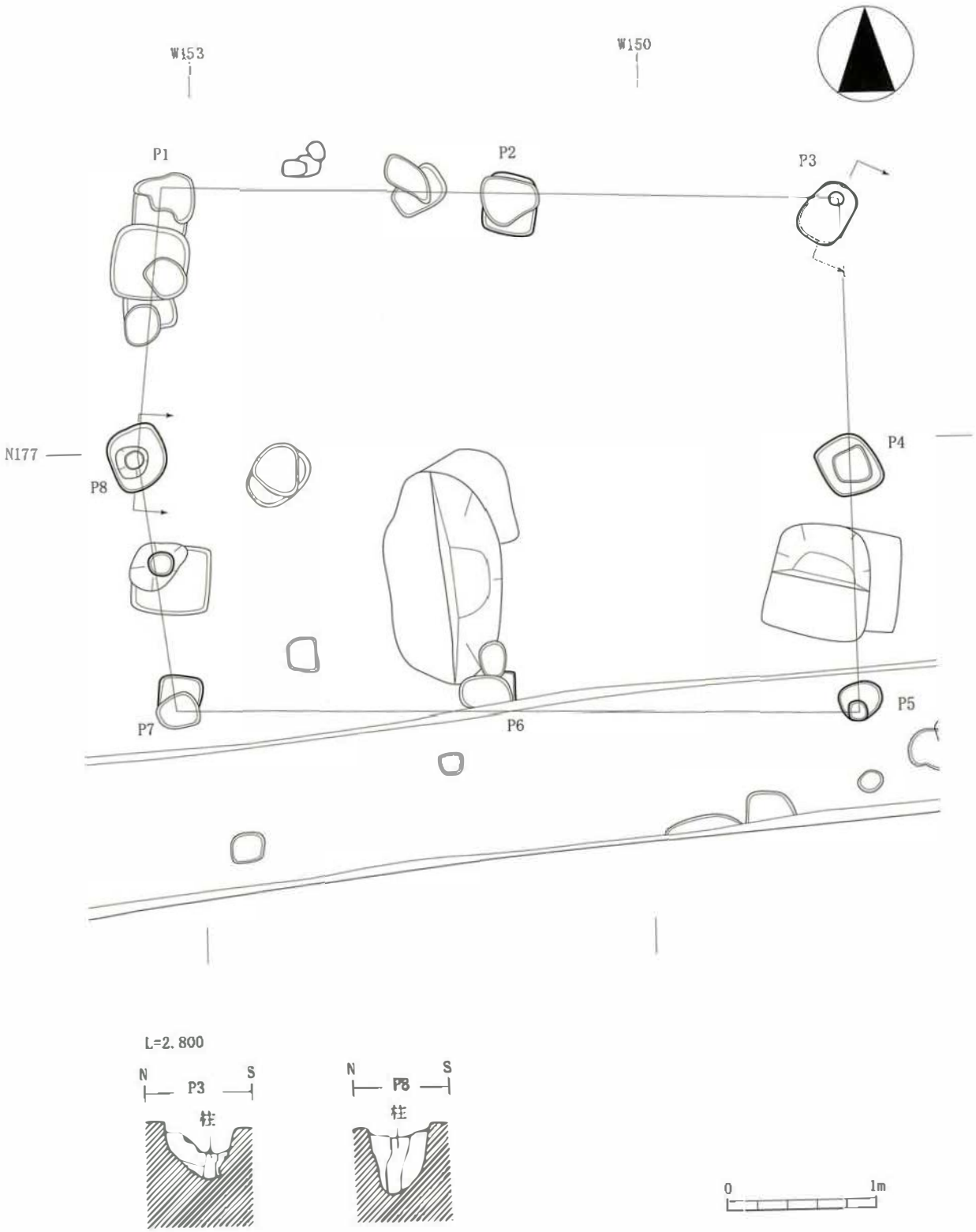
第35図　A８区西１道路断面図



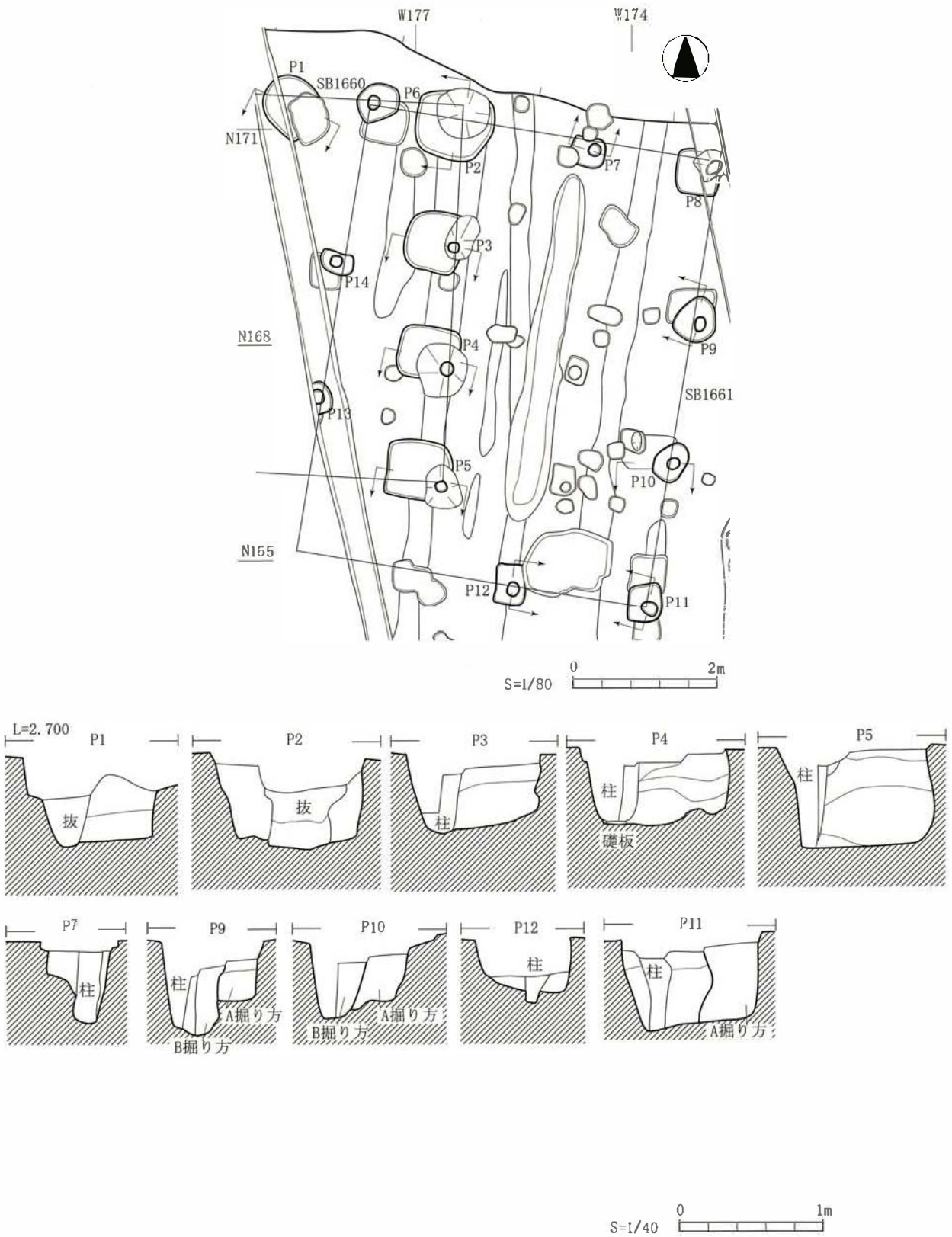
第36図　A１区SB889平面図・断面図



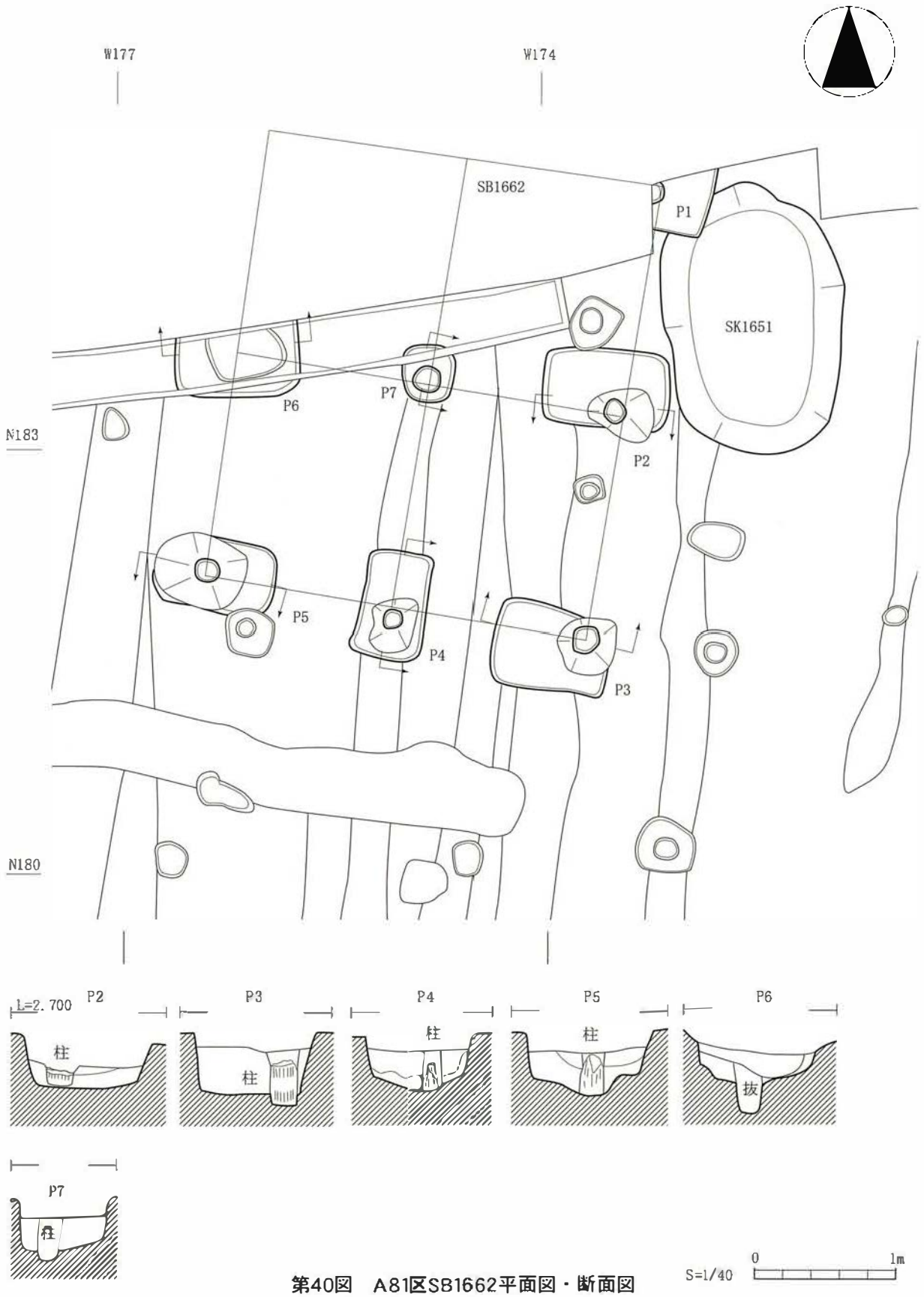
第37図　A１区SB890平面図・断面図



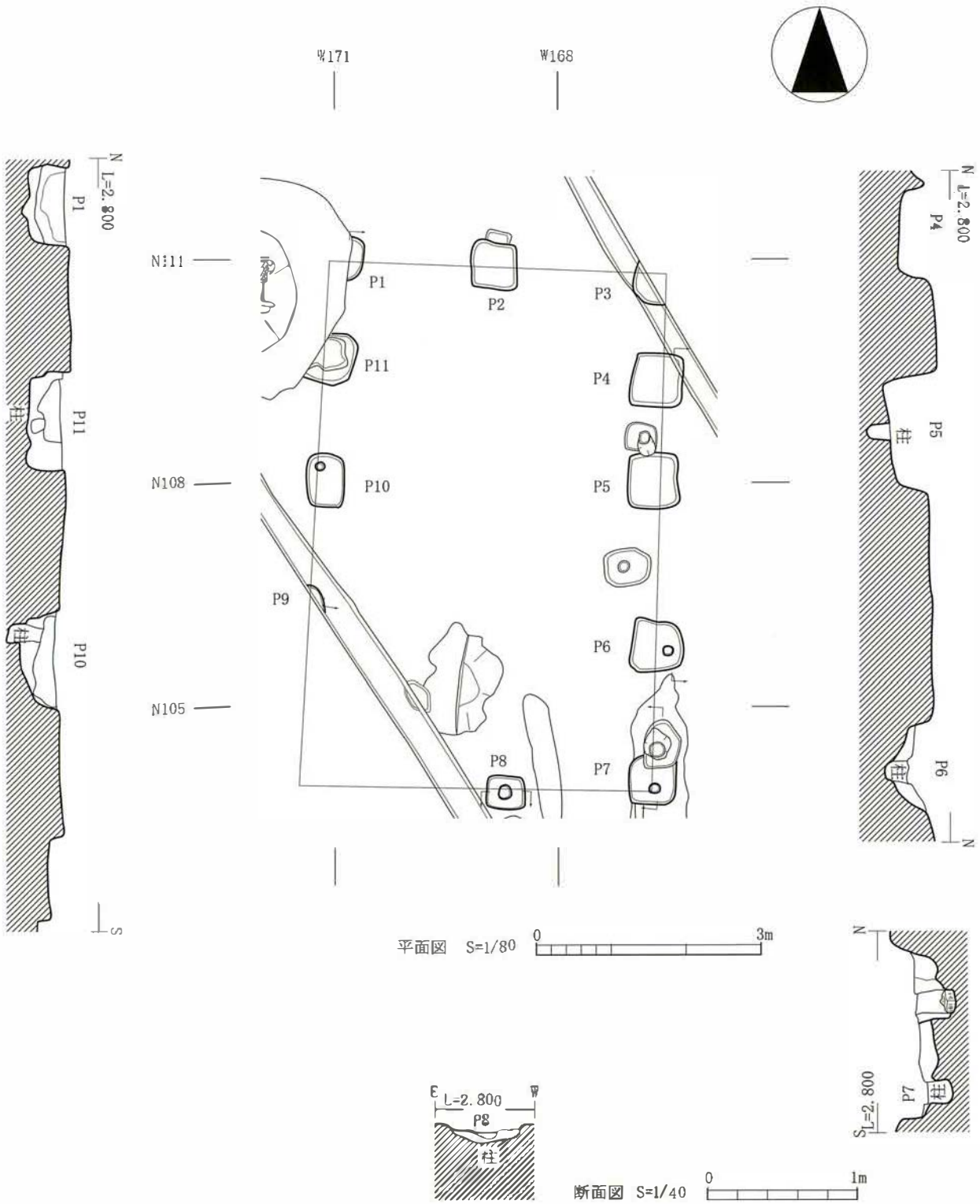
第38図　A１区SB891平面図・断面図



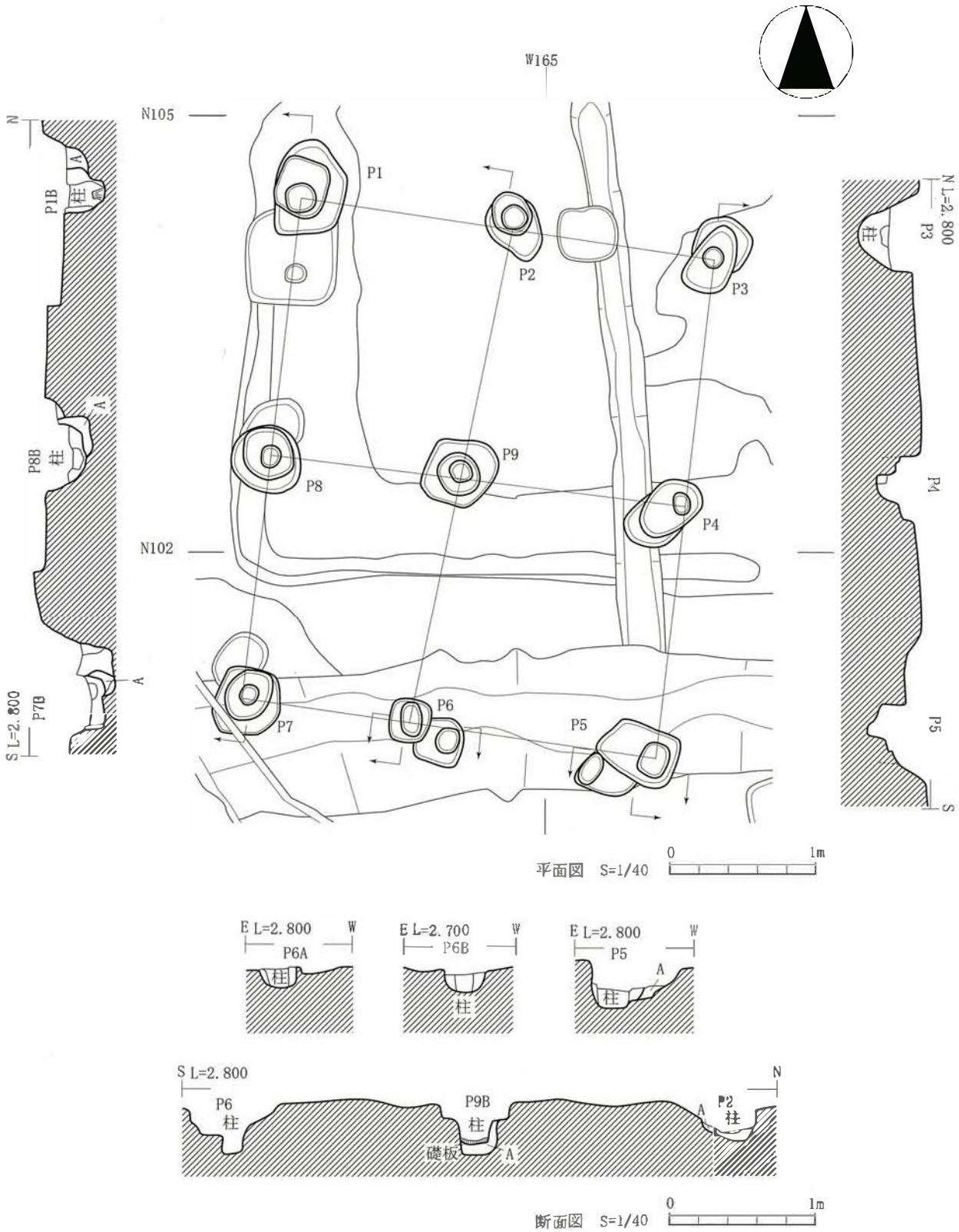
第39図　A81区SB1660・1661平面図・断面図



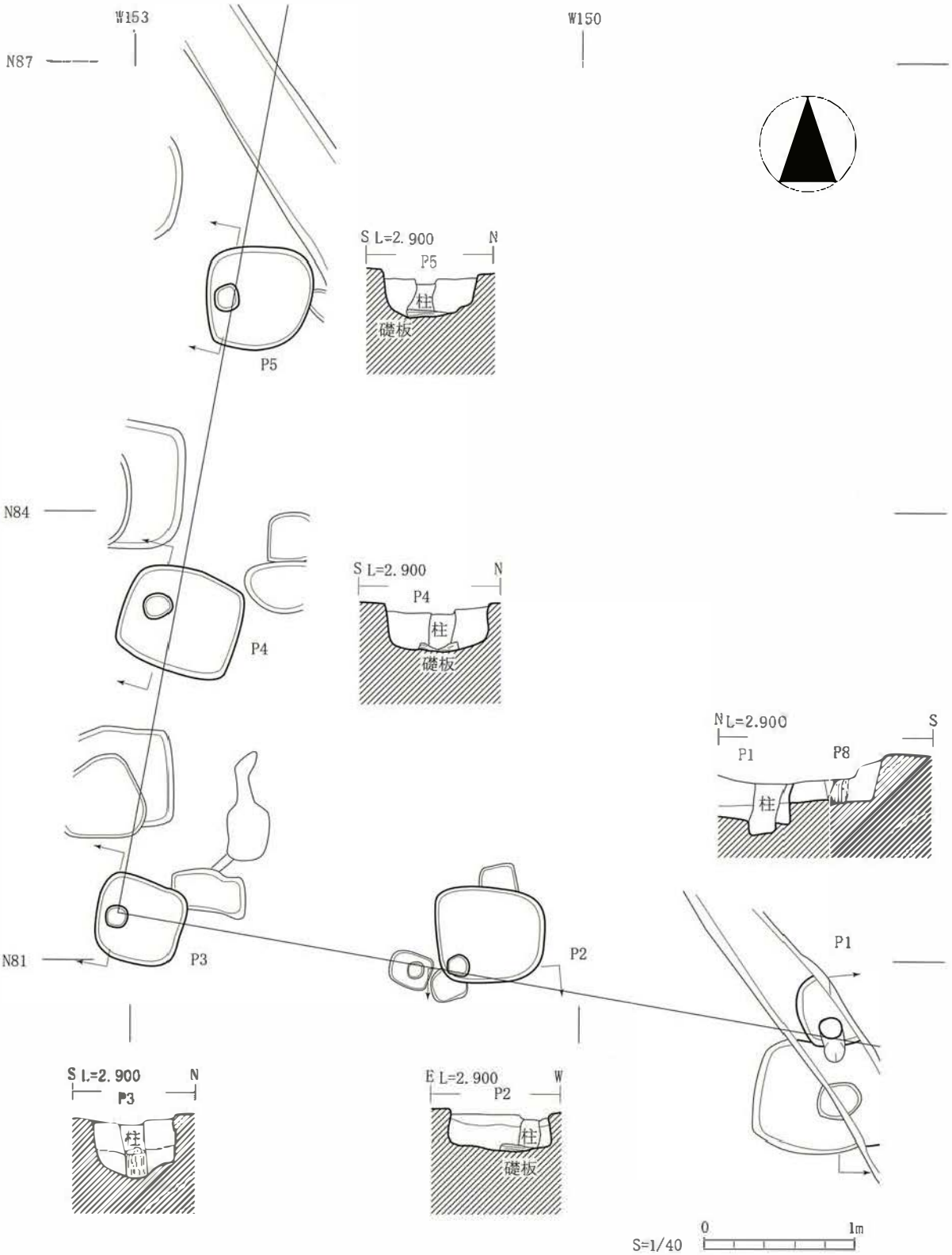
第40図　A81区SB1662平面図・断面図



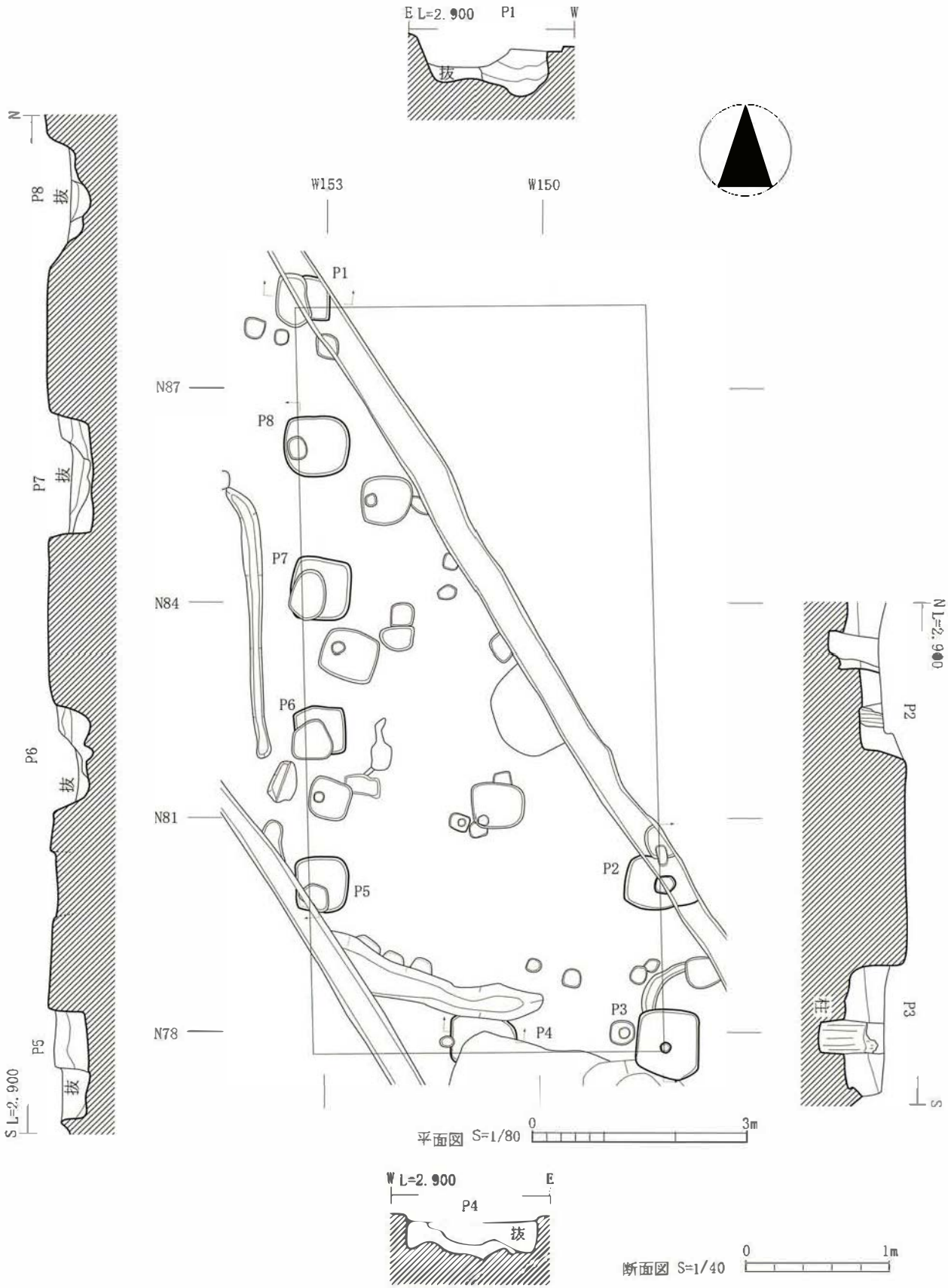
第41図　A８区SB2300平面図・断面図



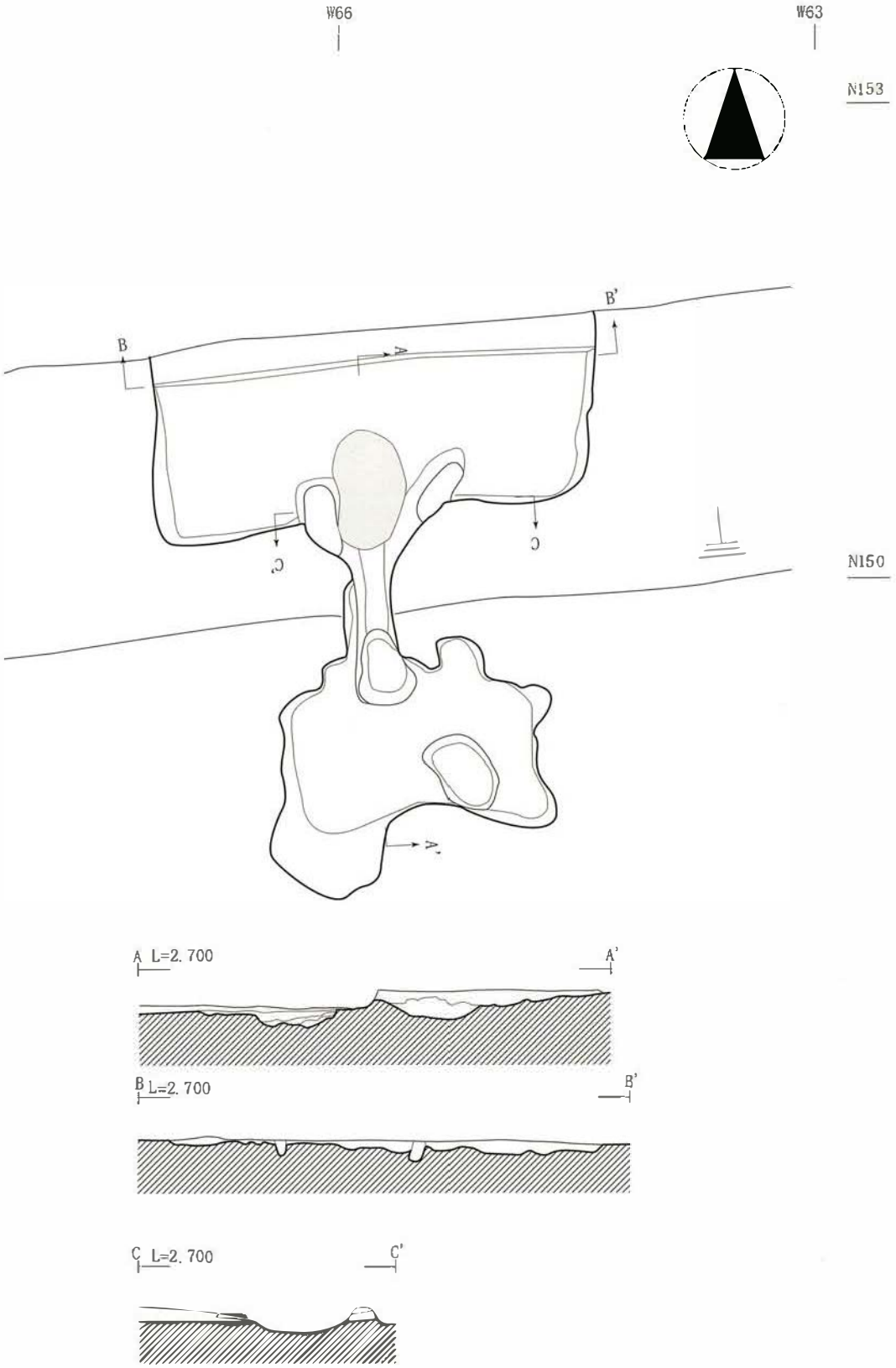
第42図　A８区SB2307A・B 平面図・断面図



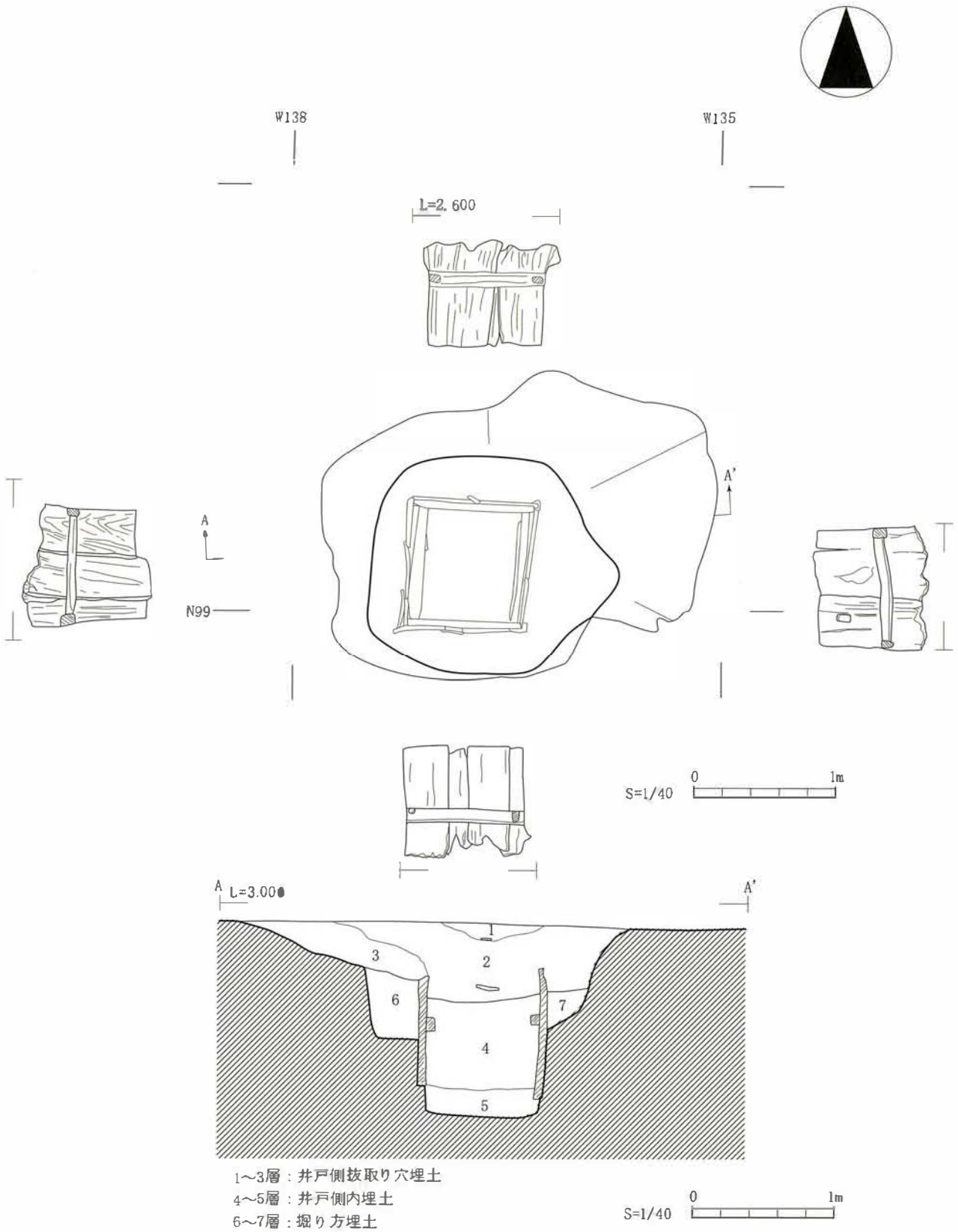
第43図　A８区SB2290平面図・断面図



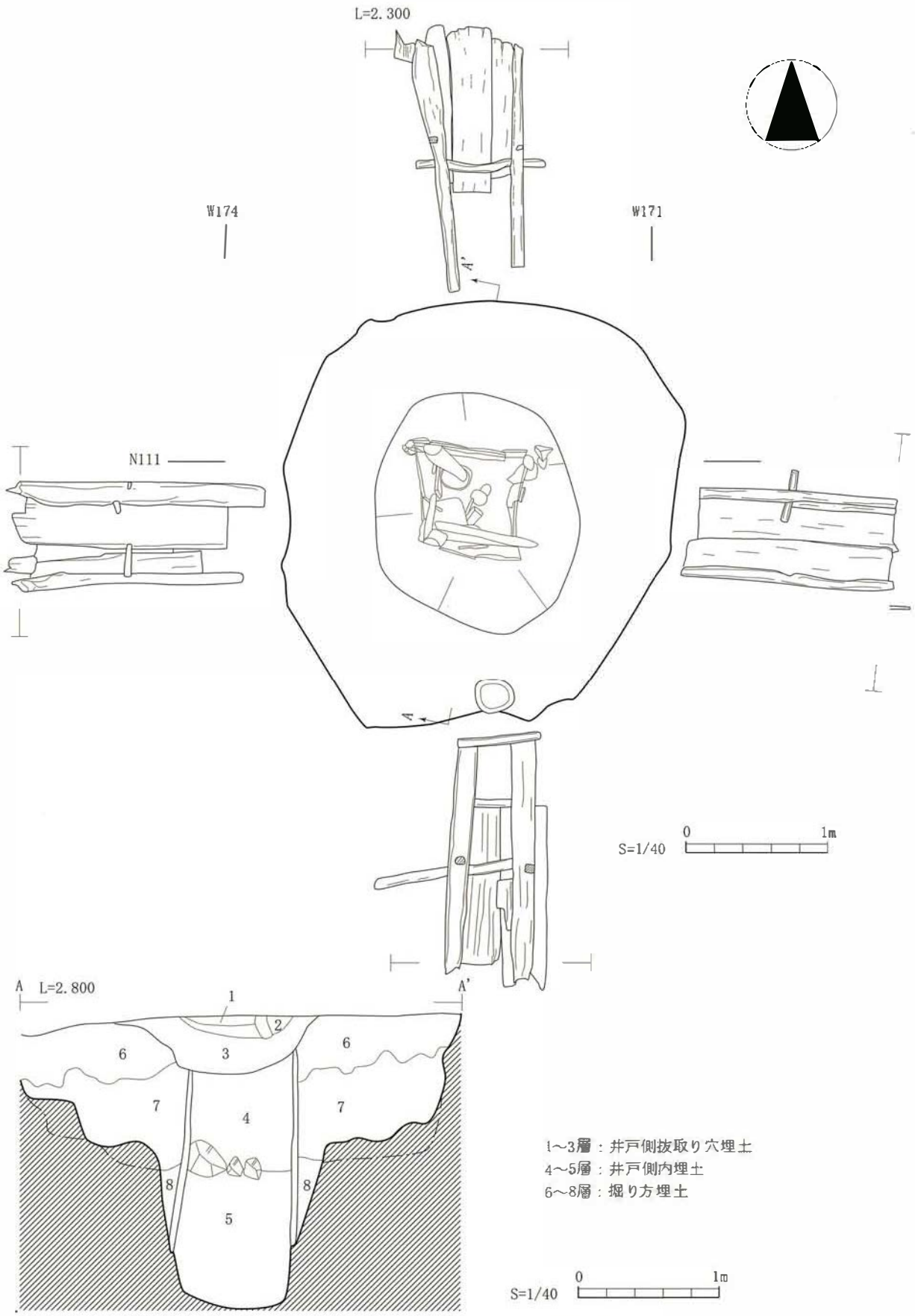
第44図　A8区SB2316平面図・断面図



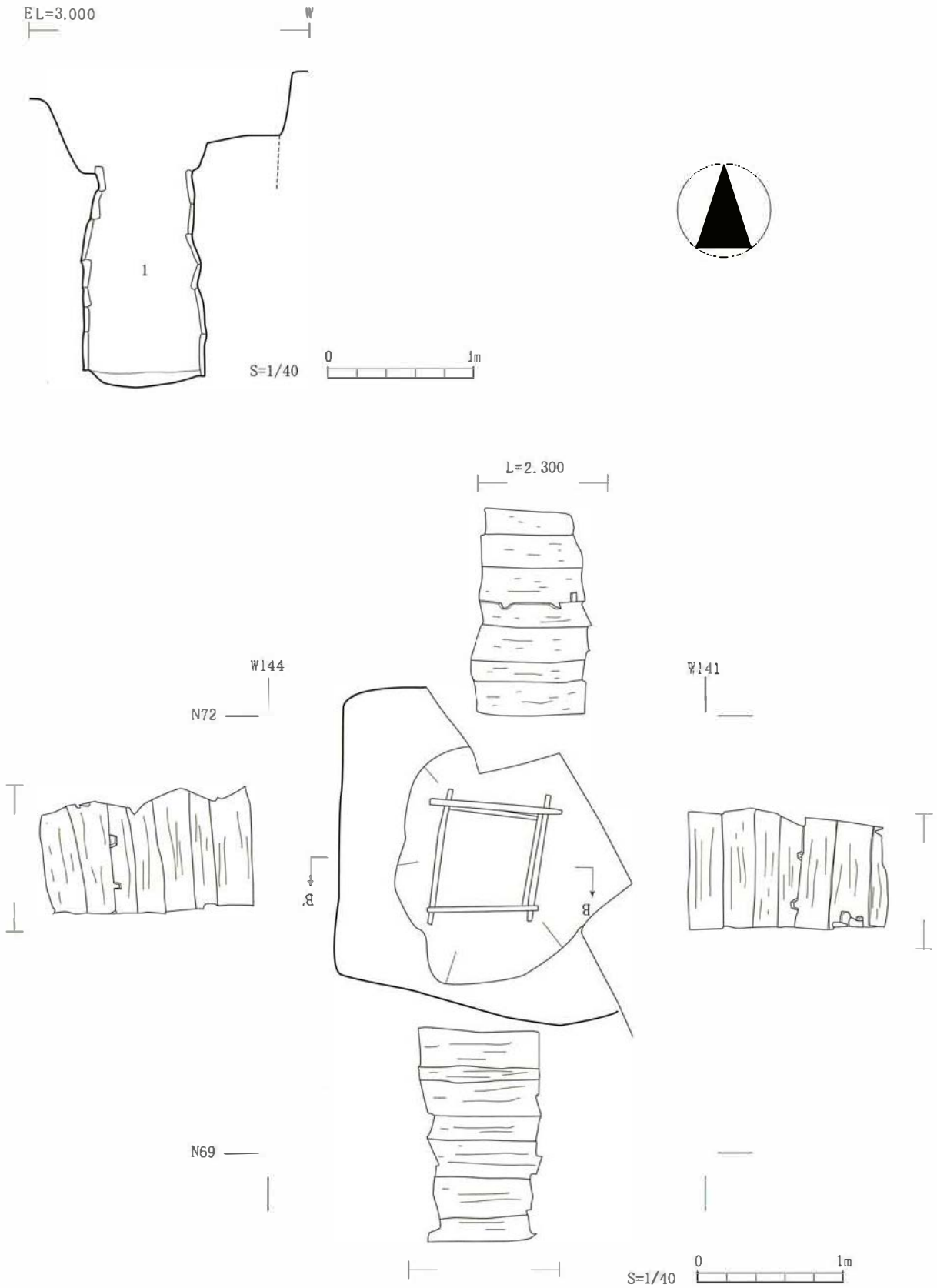
第45図　A42区SI1664平面図・断面図



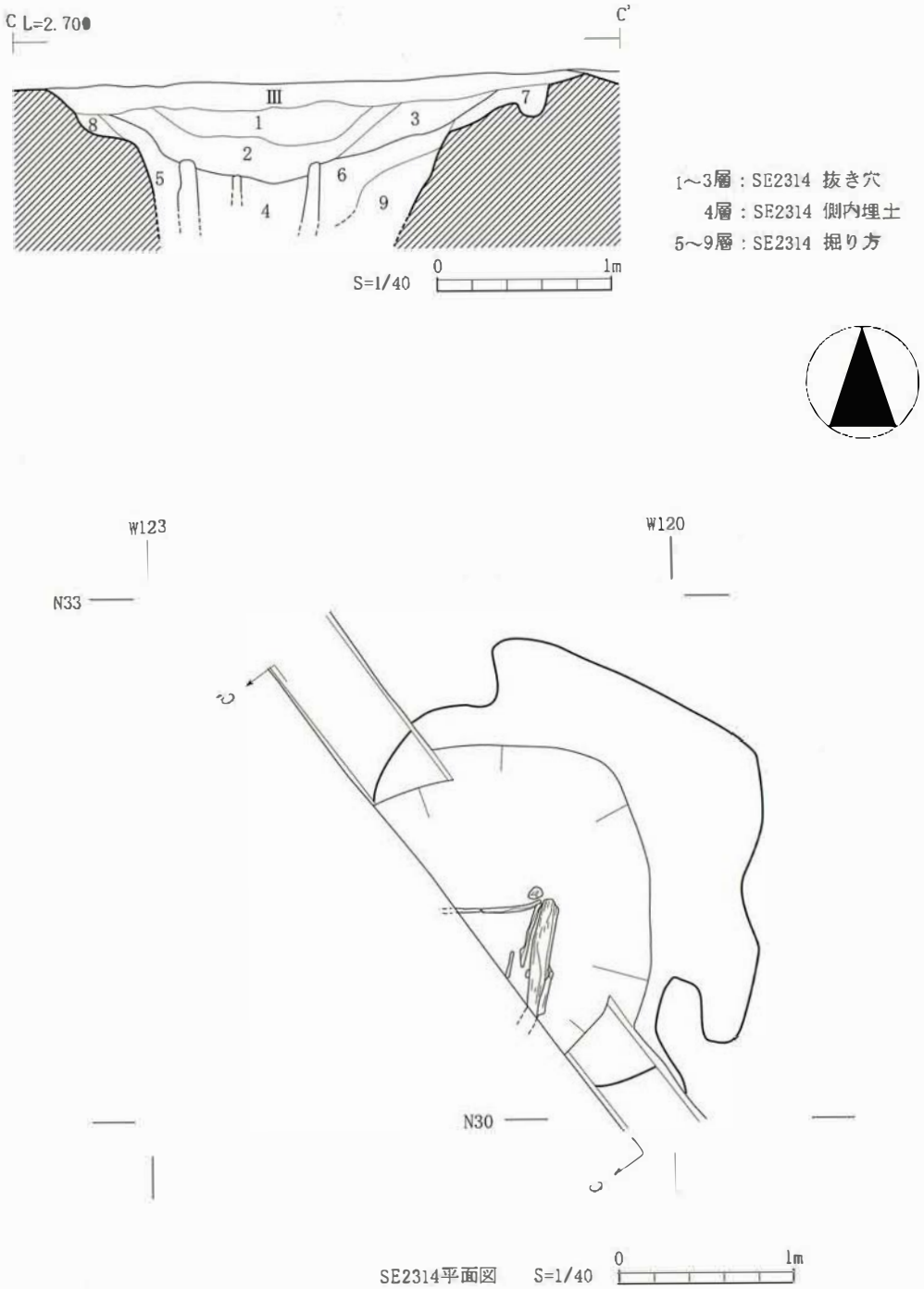
第46図　A82区SE2315平面図・立面図・断面図



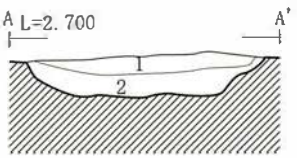
第47図　A８区SE2421平面図・立面図・断面図



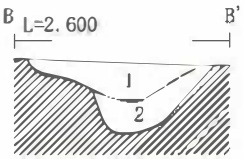
第48図　A８区SE2299平面図・立面図・断面図



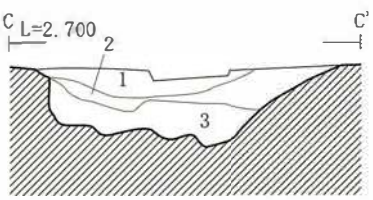
第49図　A８区SE2314平面図・断面図



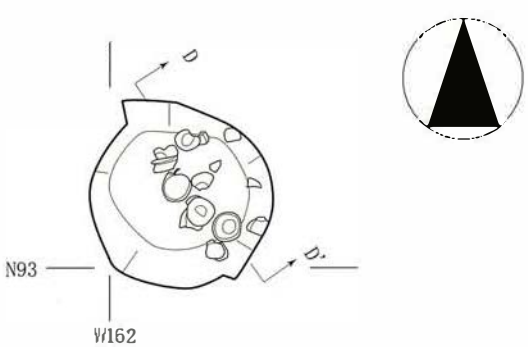
A 81区 SK1651



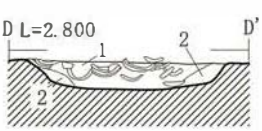
A 81区 SD1653



A 81区 SD1652

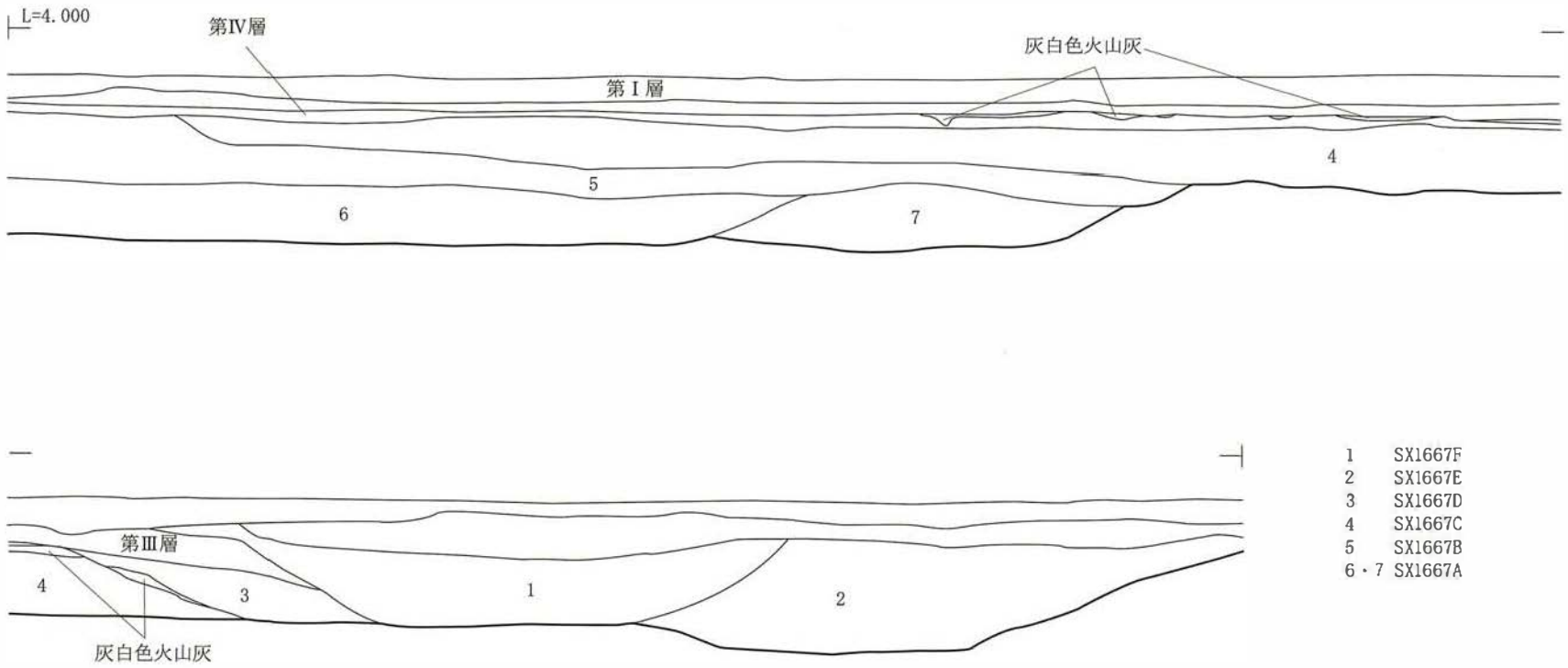


SK2304 平面図

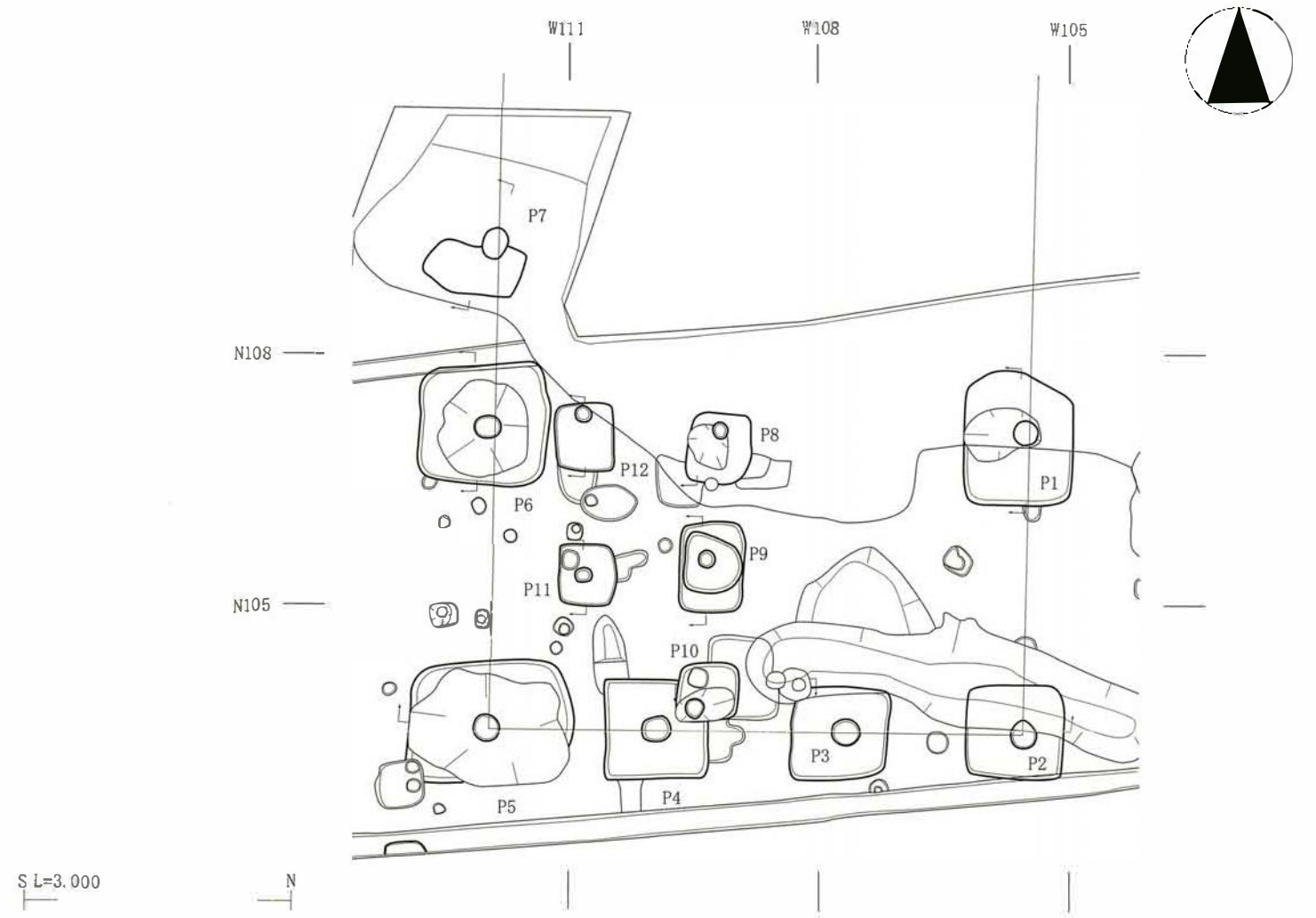


SK2304 断面図

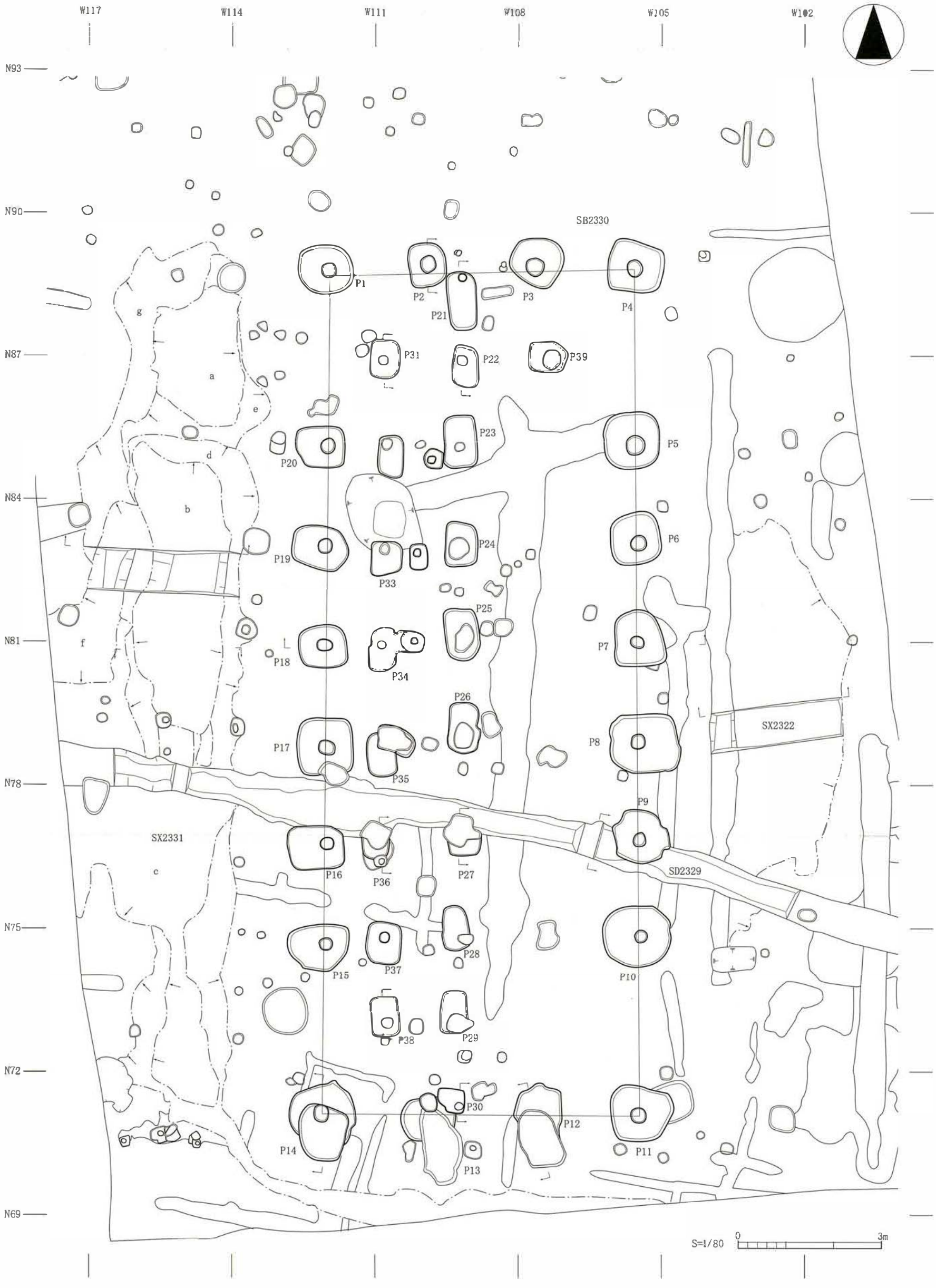
第50図　A81・8区SK2304平面図・断面図



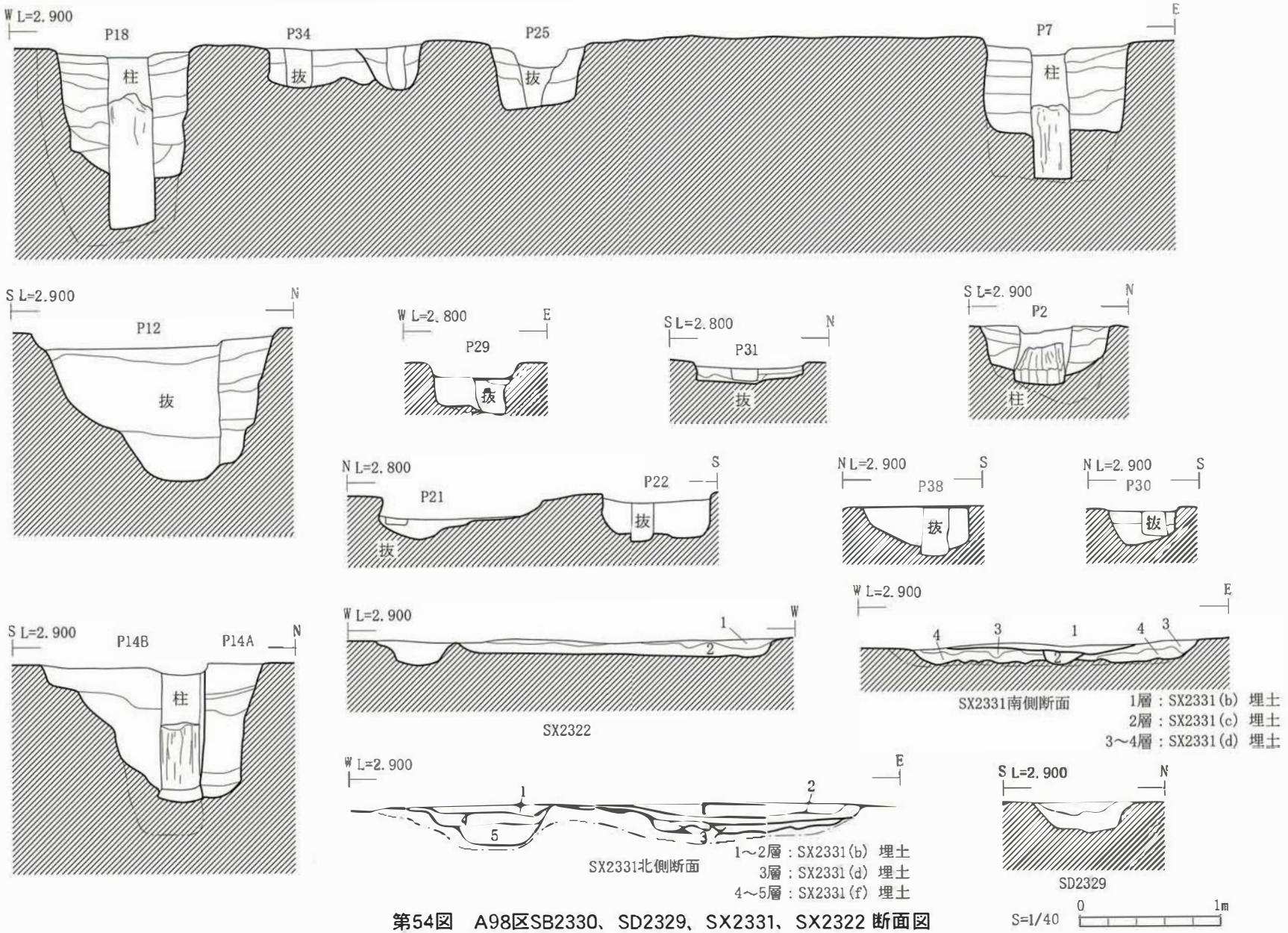
第51図　A42区SX1667断面図



第52図　A82区SB2312平面図・断面図

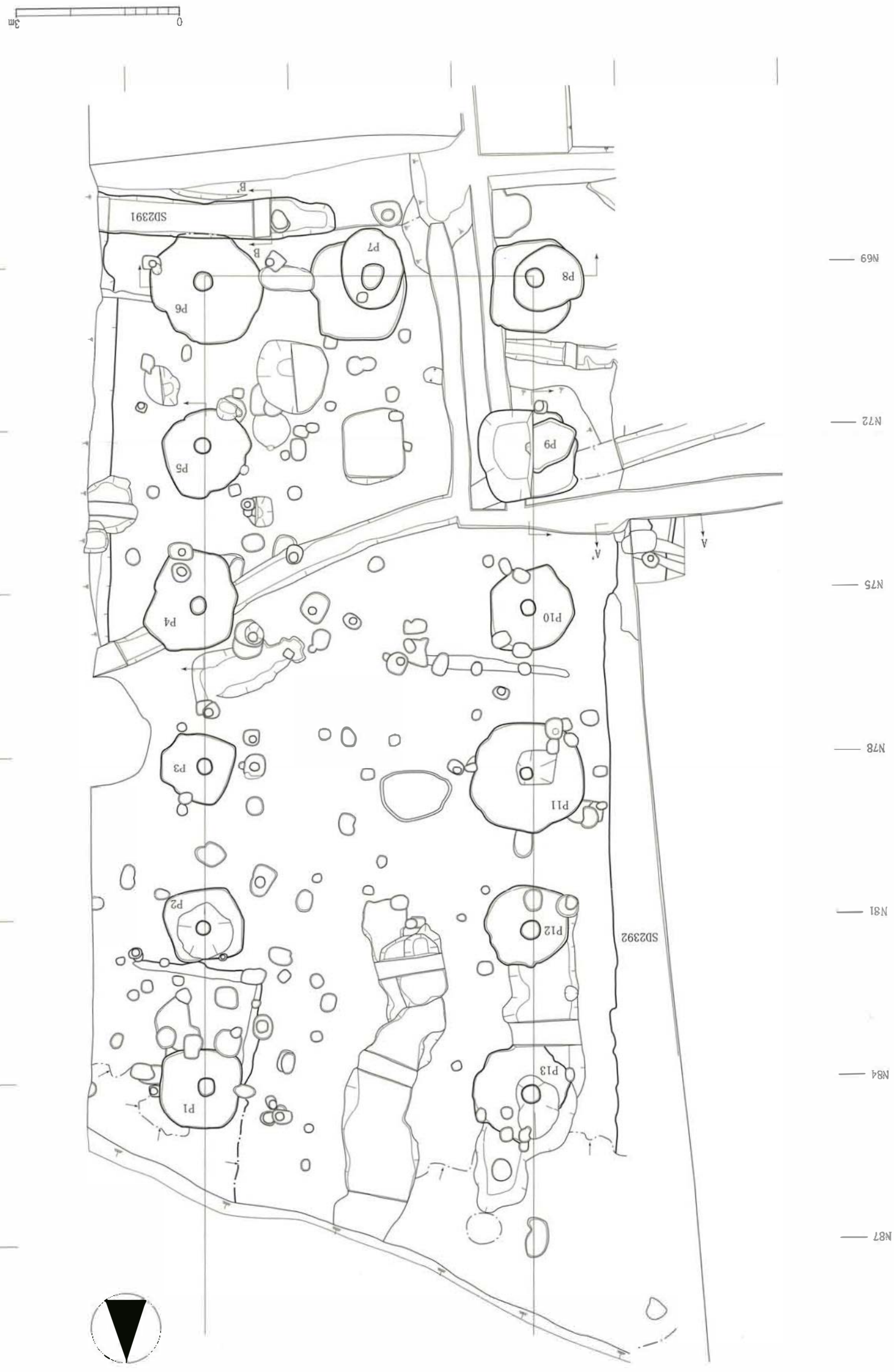


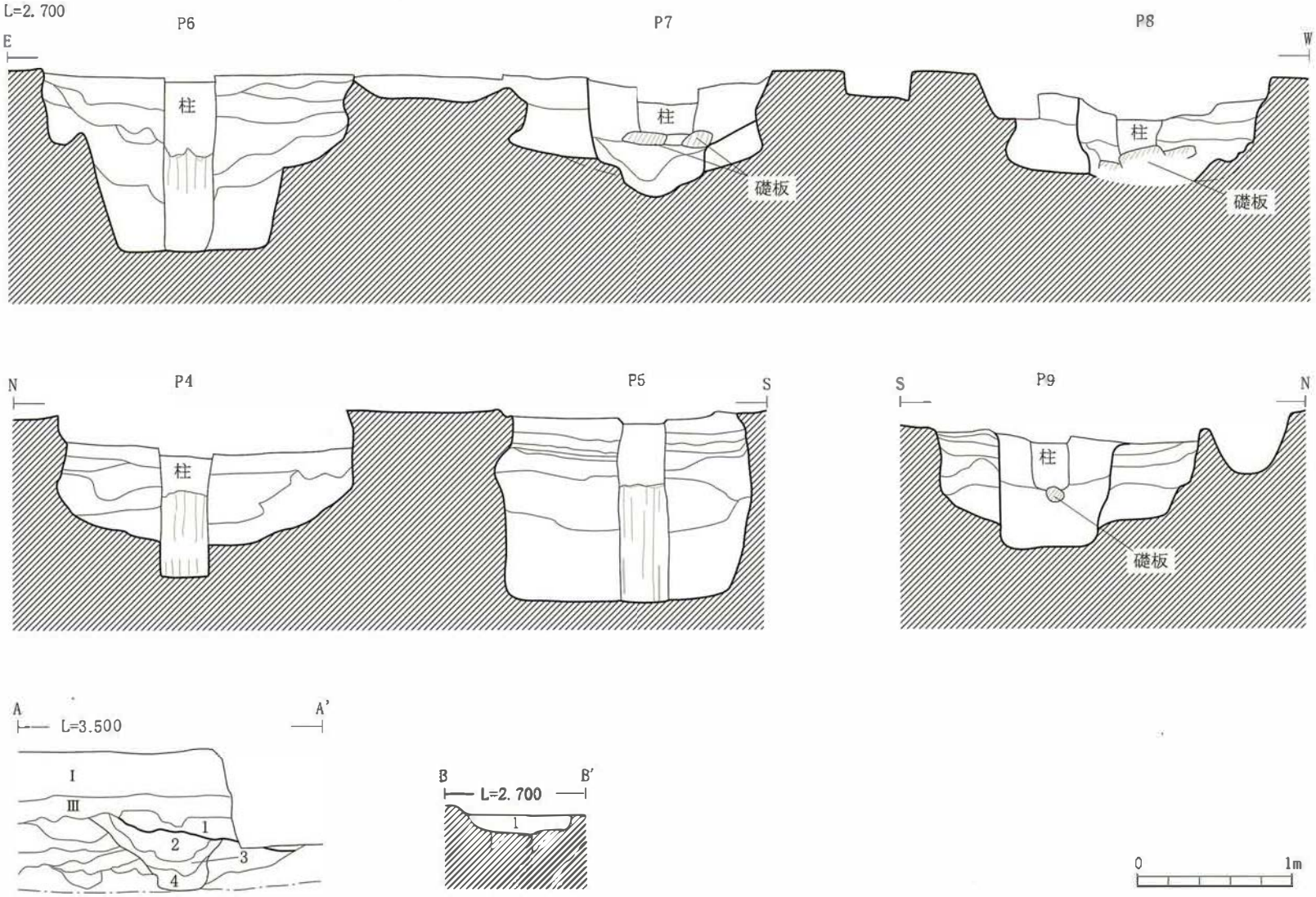
第53図　A98区SB2330・SX2329・2331・2322平面図



第54図　A98区SB2330、SD2329、SX2331、SX2322 断面図

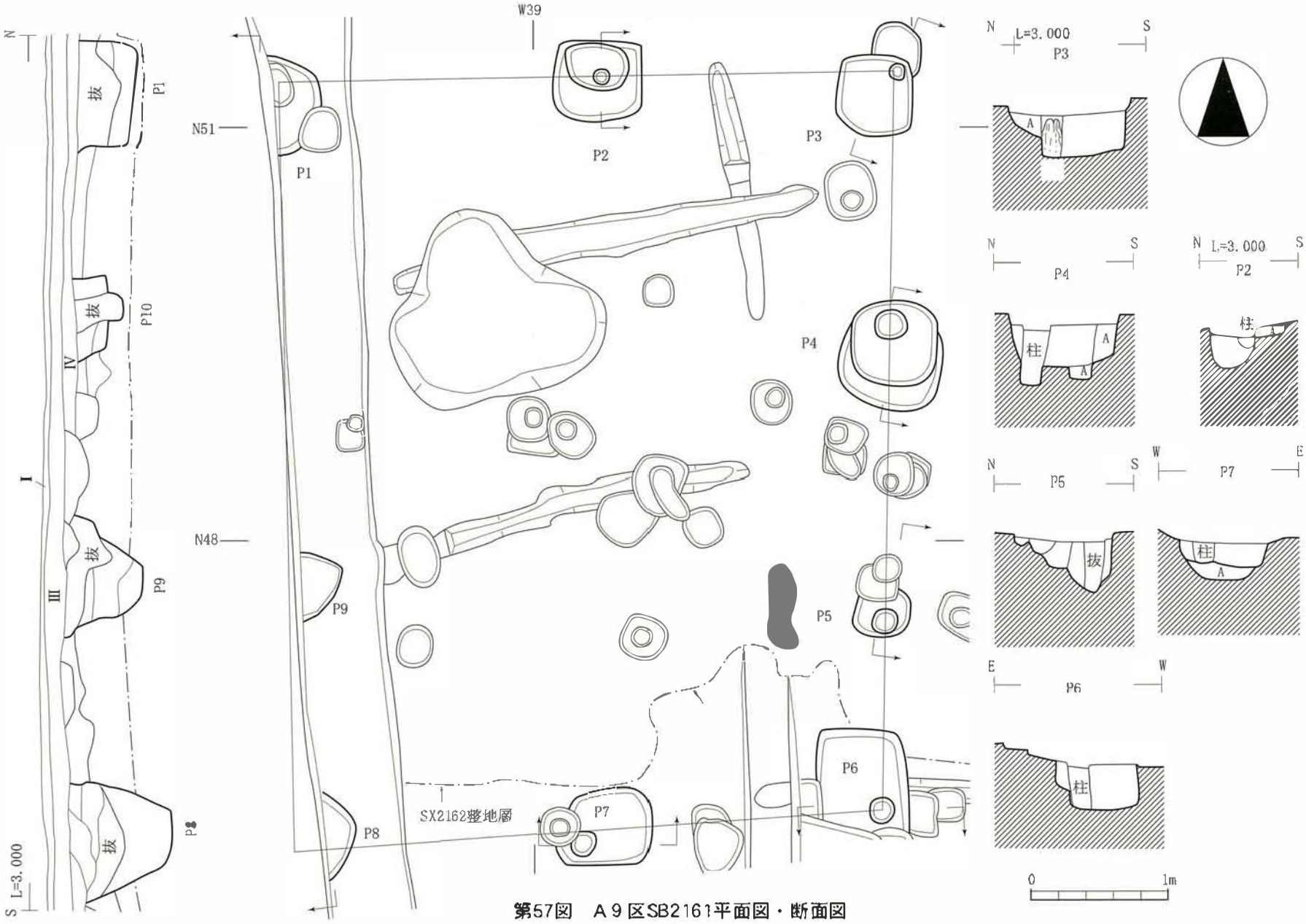
第55図　A97区SB2390平面図



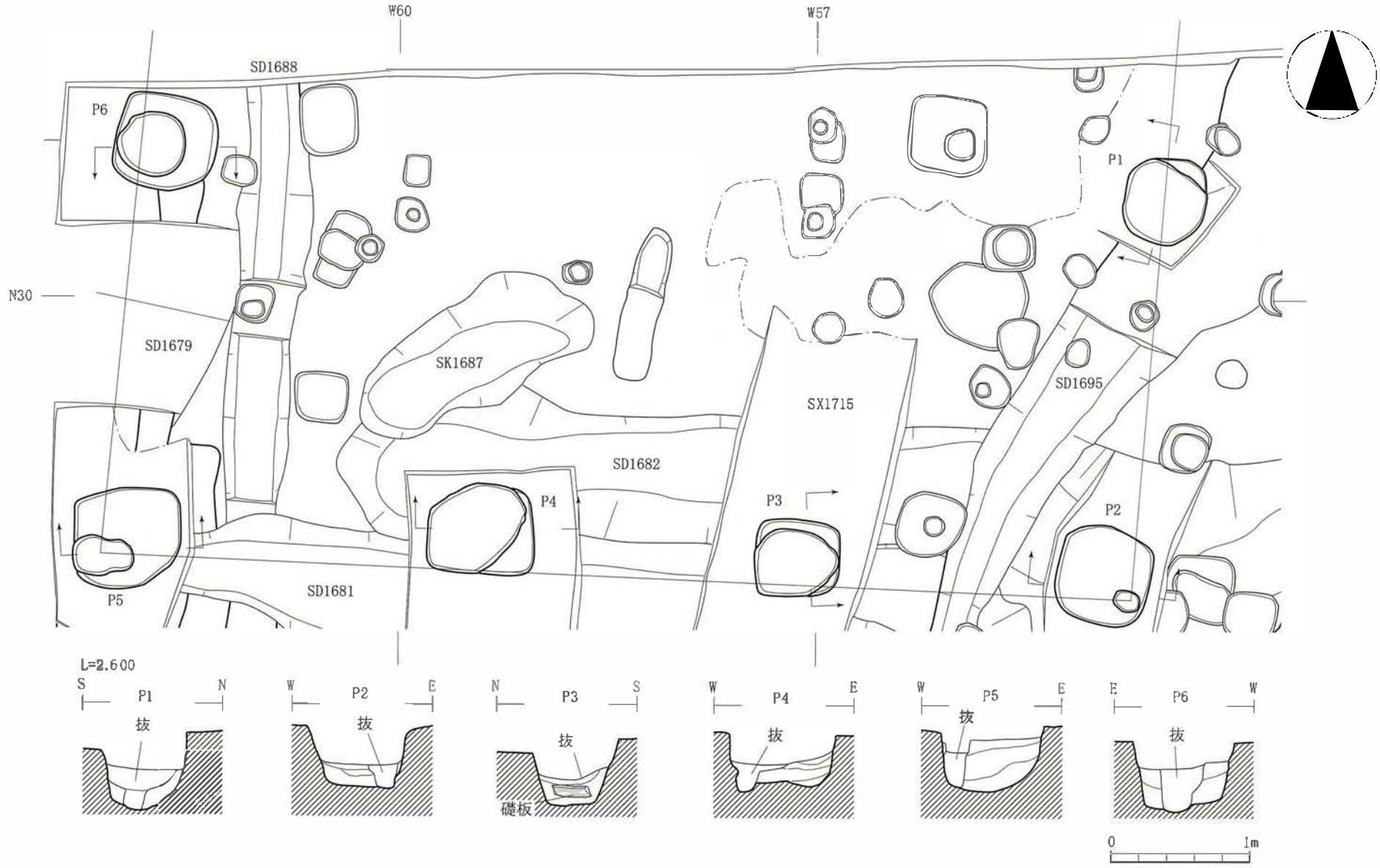


1 層：SD2392　焼土が多量に混入
2～4層：SK2428

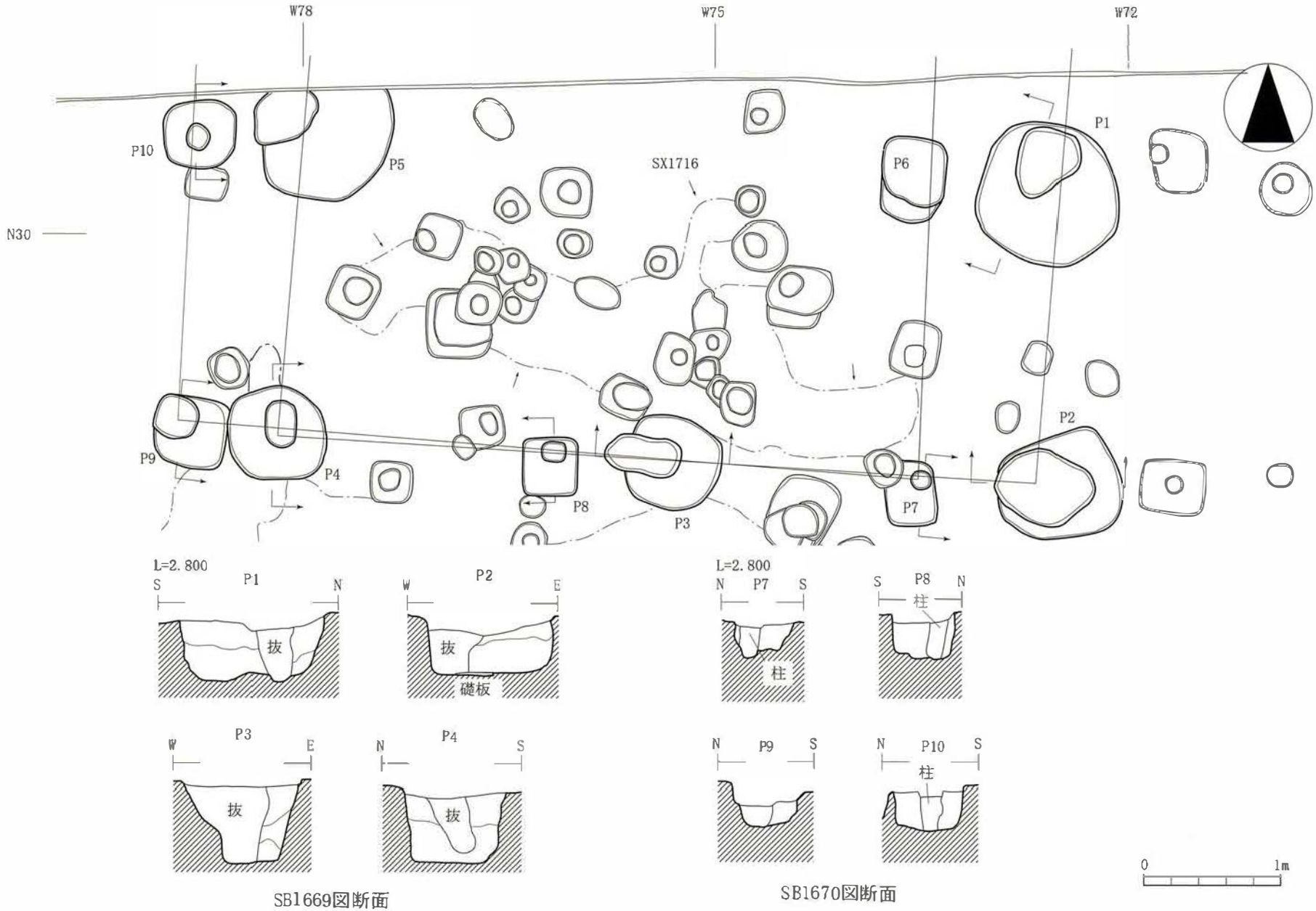
第56図　A97区SB2390、SD2391・2392断面図



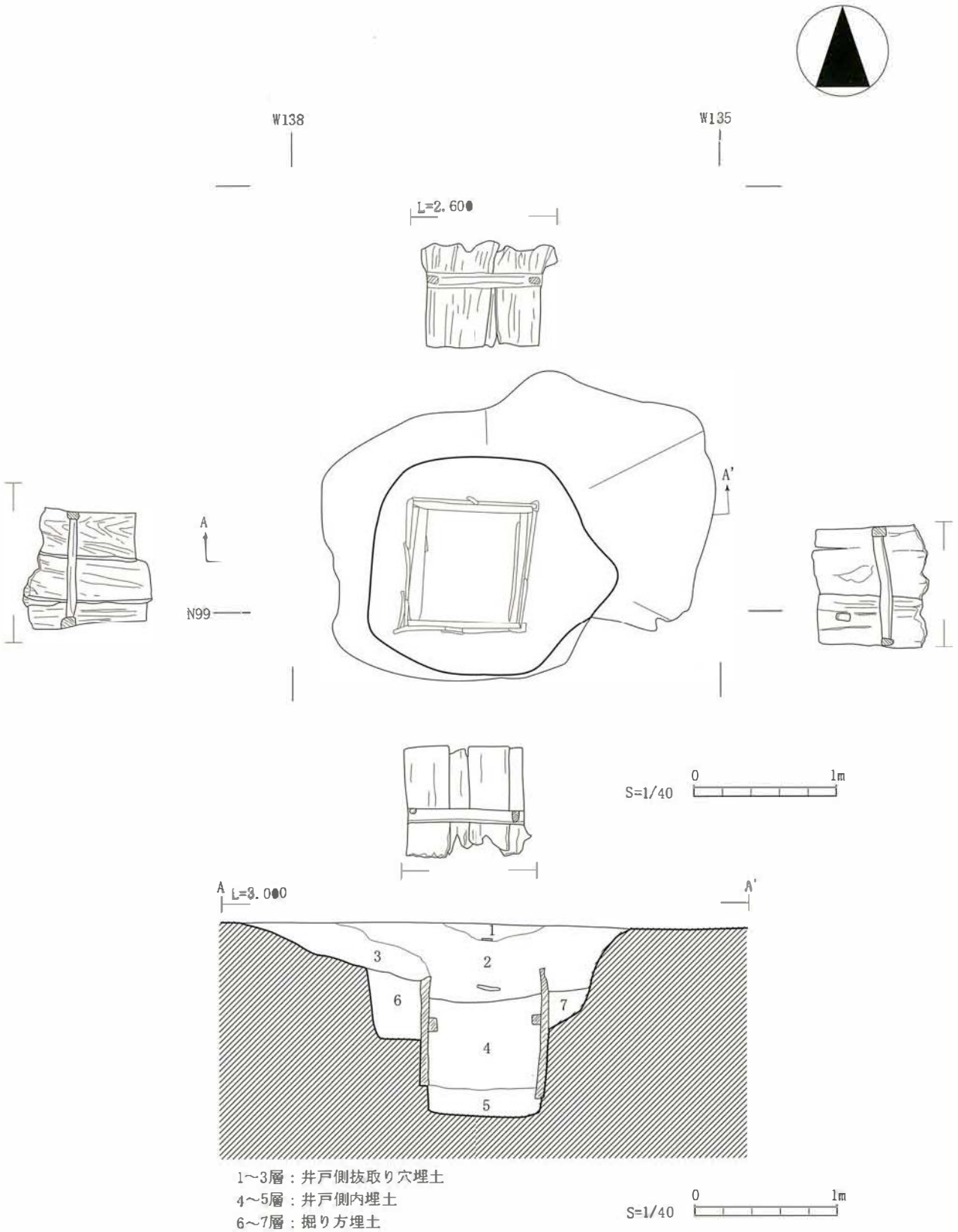
第57図　A９区SB2161平面図・断面図



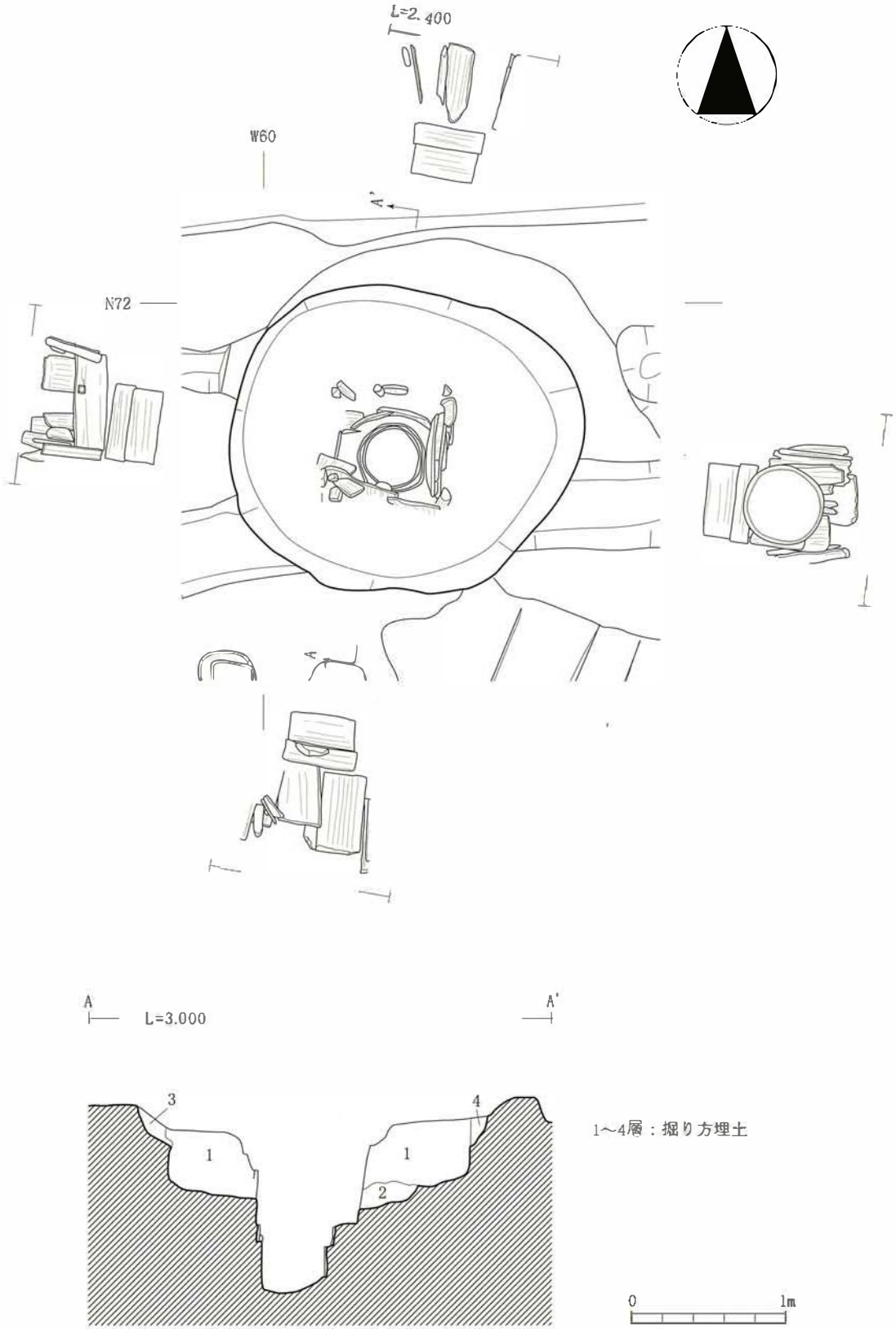
第58図　A11区SB1668平面図・断面図



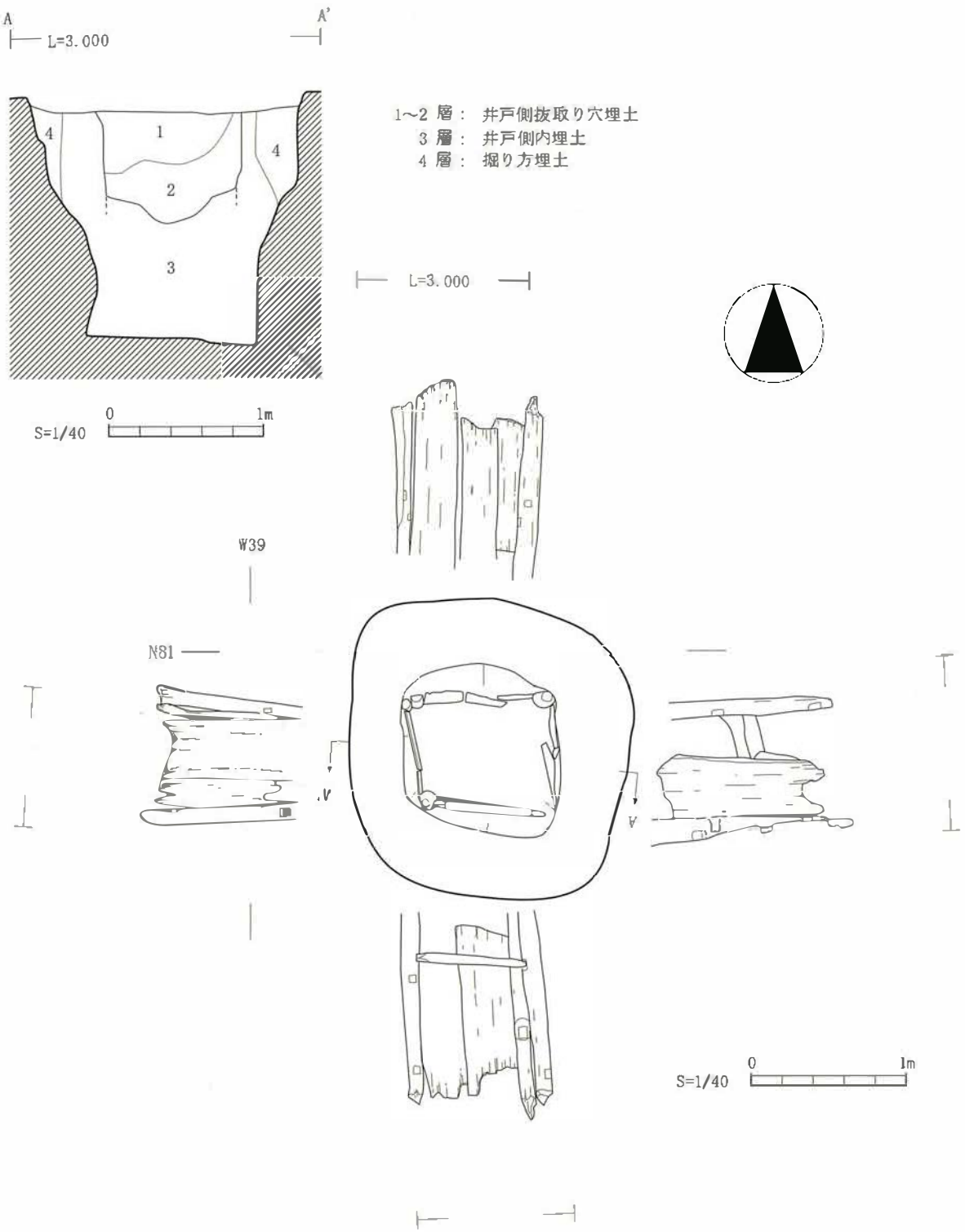
第59図　A11区SB1669・1670平面図・断面図



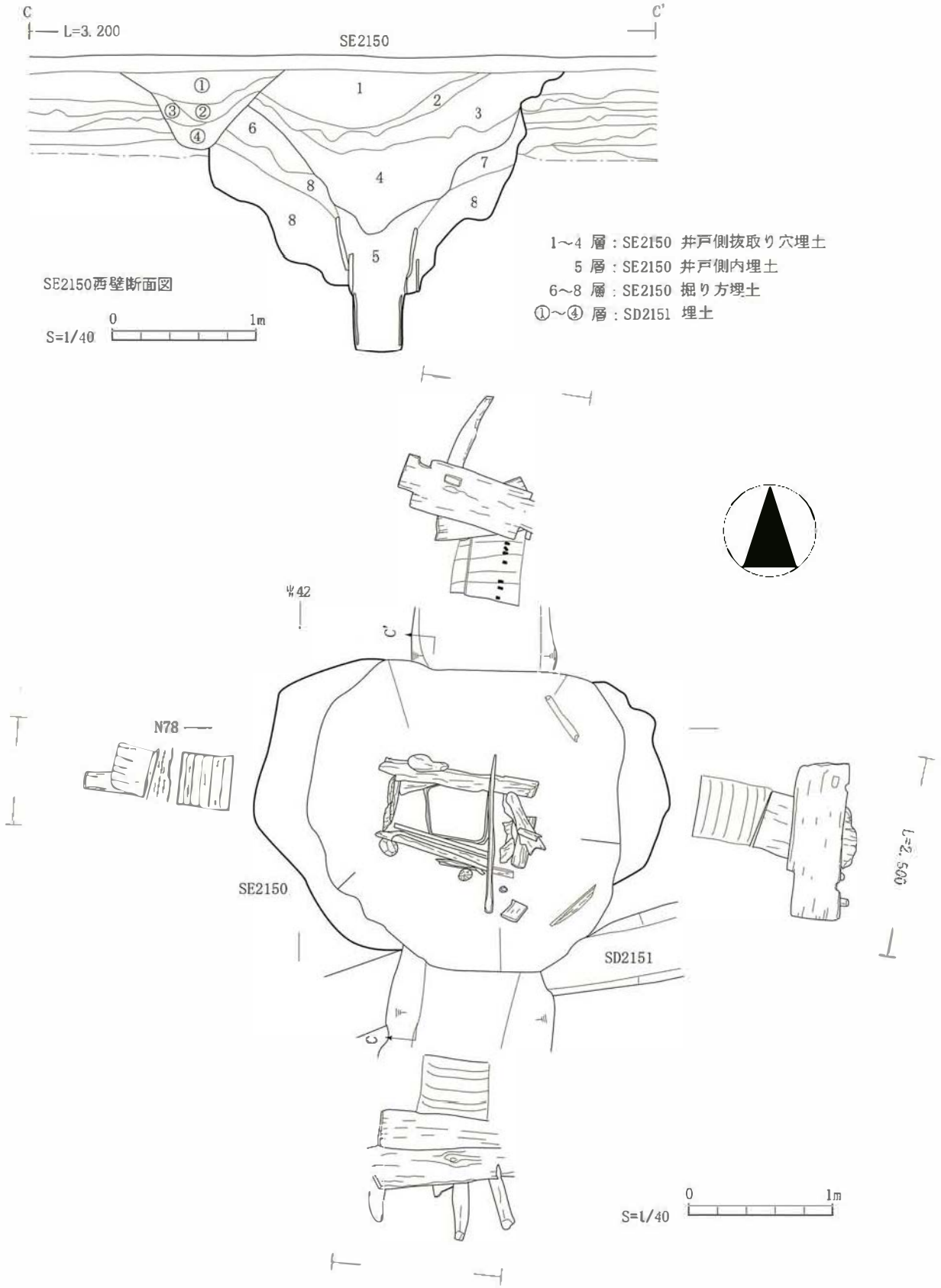
第60図　A82区SE2315平面図・立面図・断面図



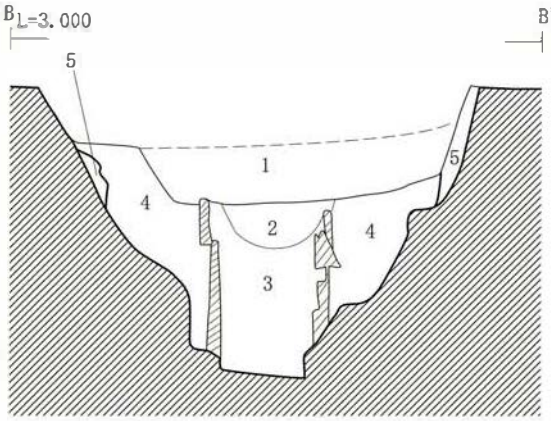
第61図　A43区SE2394平面図・立面図・断面図



第62図　A９区SE2148平面図・立面図・断面図



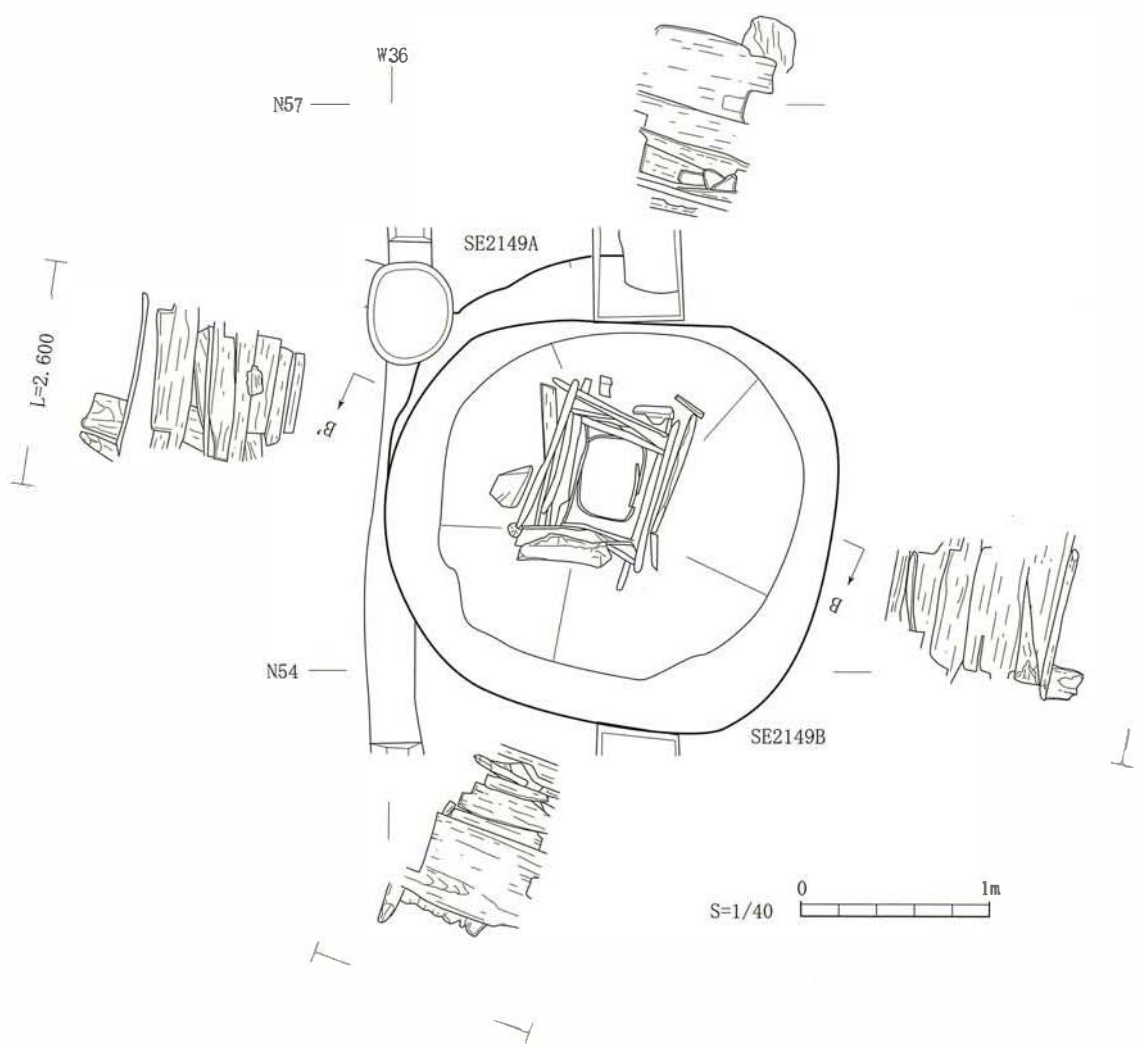
第63図　A９区SE2150平面図・立面図・断面図



SE2149A・B断面図

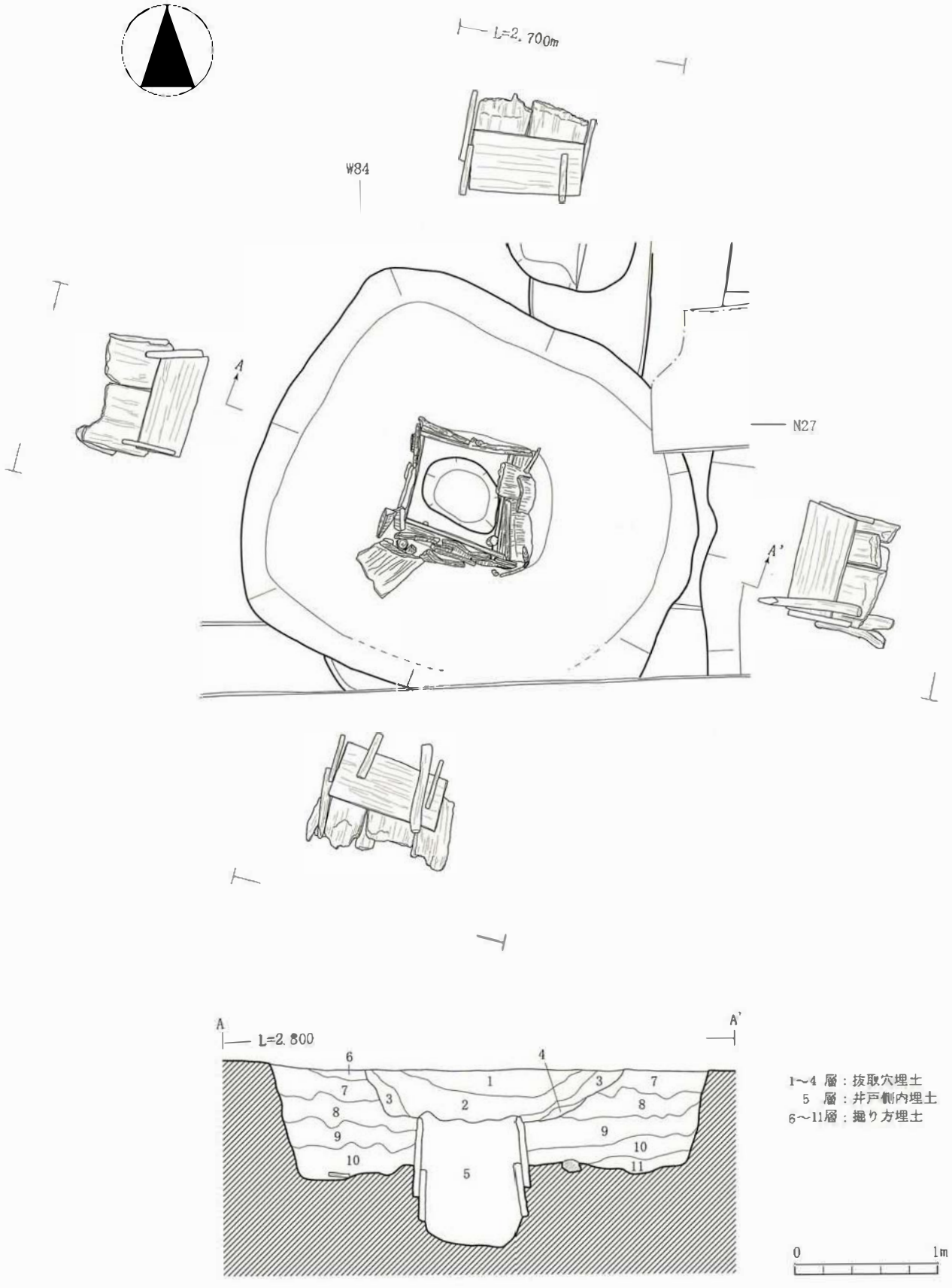
1～2 層：SE2149B 井戸側抜取り穴埋土
3 層：SE2149B 井戸側内埋土
4 層：SE2149B 掘り方埋土
5 層：SE2149A 掘り方埋土

S=1/40 0 1m

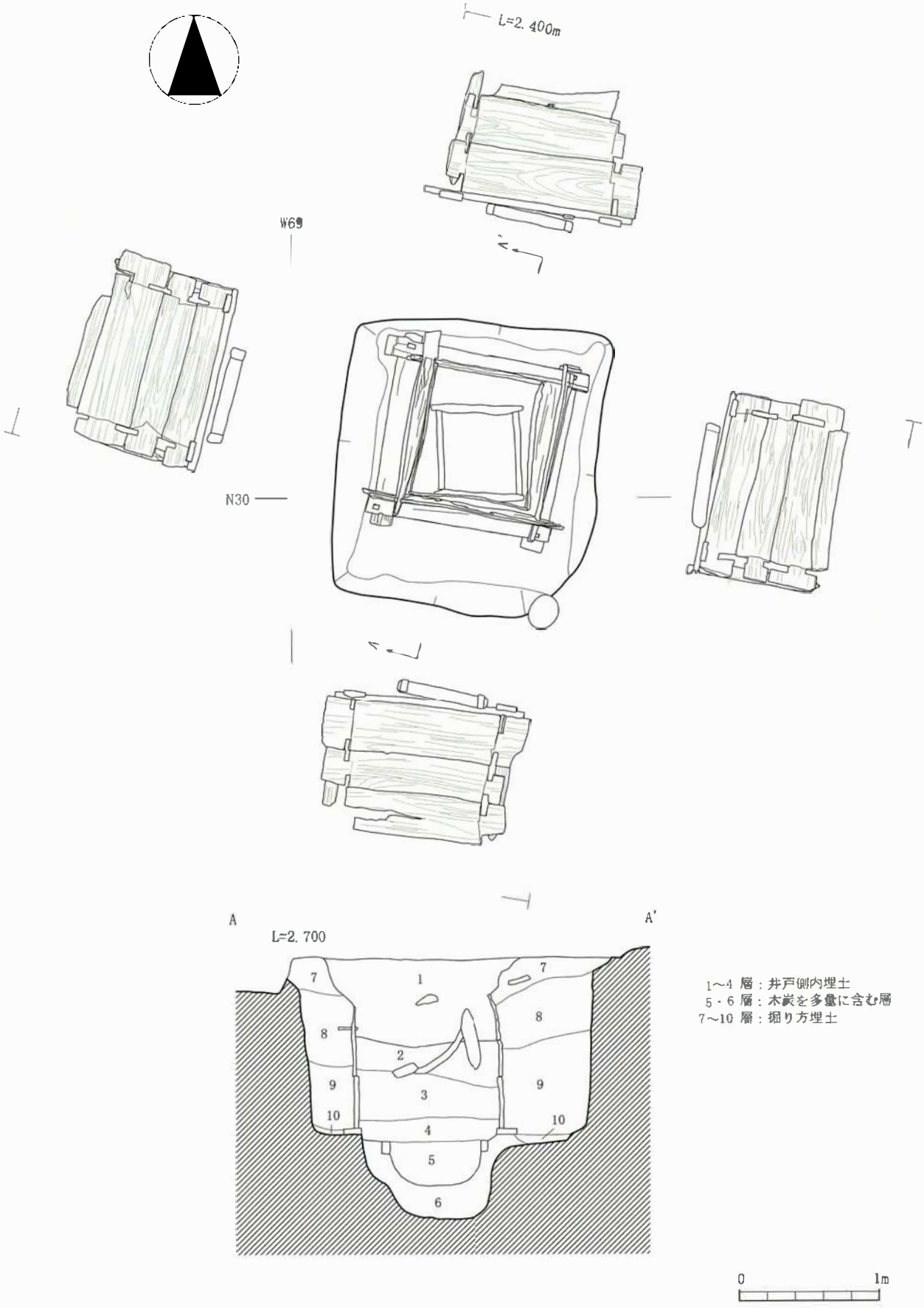


S=1/40 0 1m

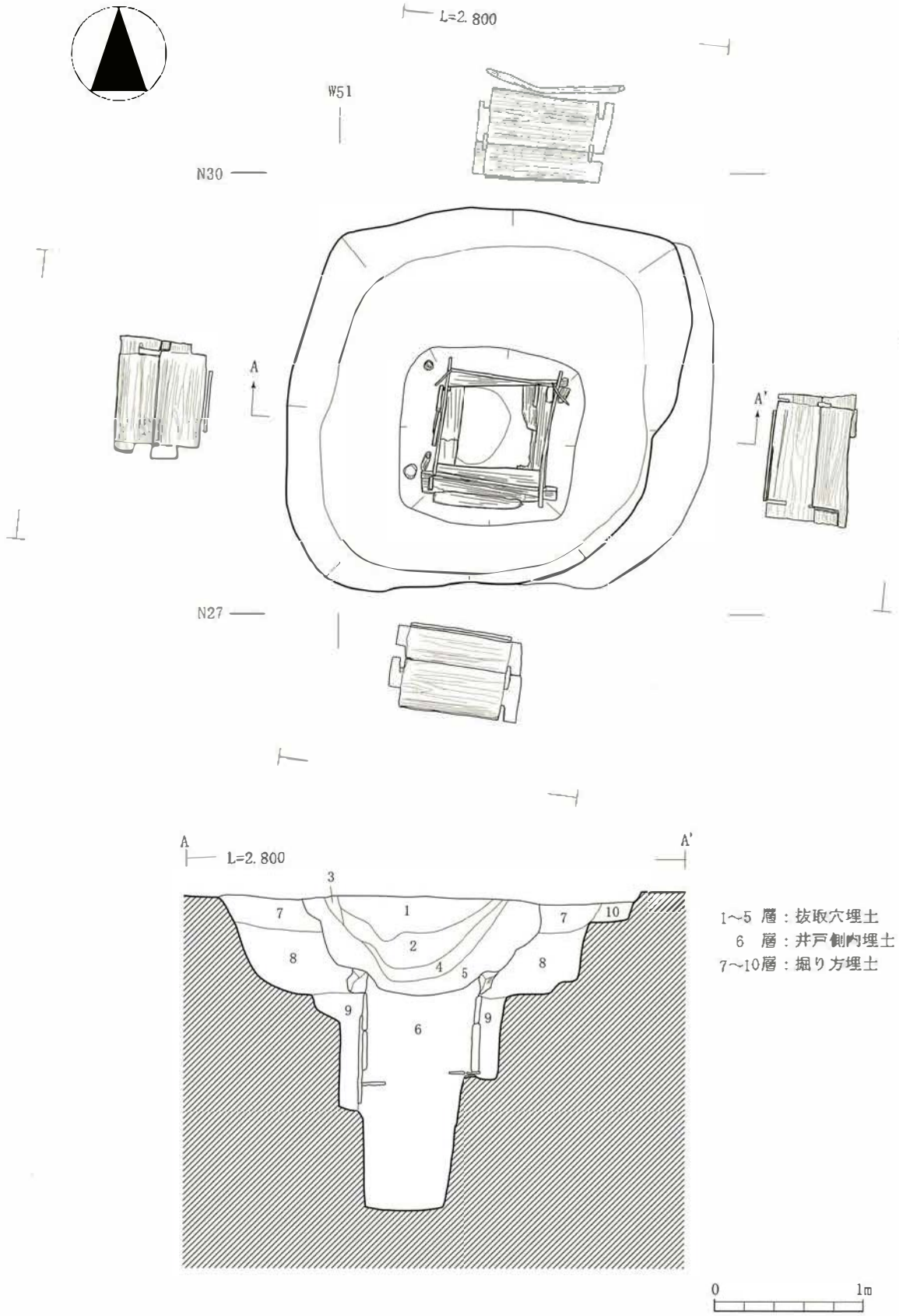
第64図　A９区SE2149平面図・立面図・断面図



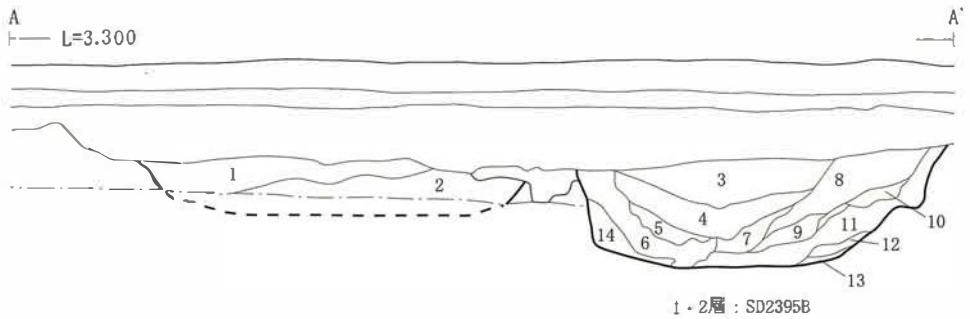
第65図　A11区SE1671平面図・立面図・断面図



第66図　A11区SE1673平面図・立面図・断面図

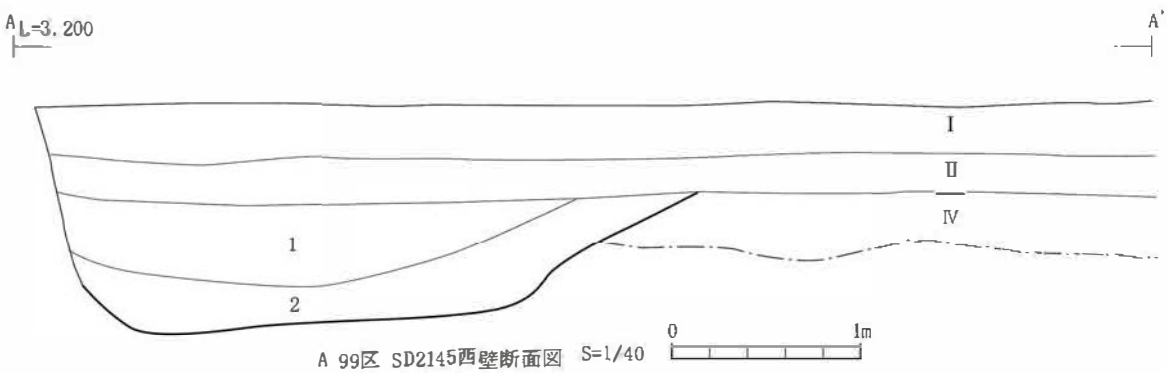


第67図　A11区SE1672平面図・立面図・断面図

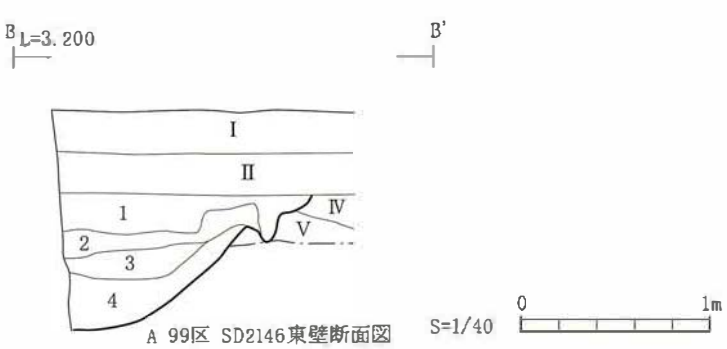


1・2層：SD2395B
3～14層：SD2395A

A 43区 S D2395 北壁断面図

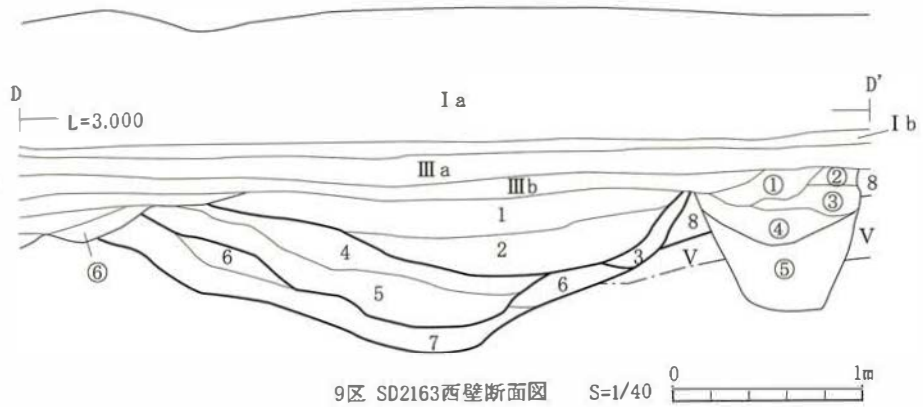


A 99区 SD2145西壁断面図 S=1/40

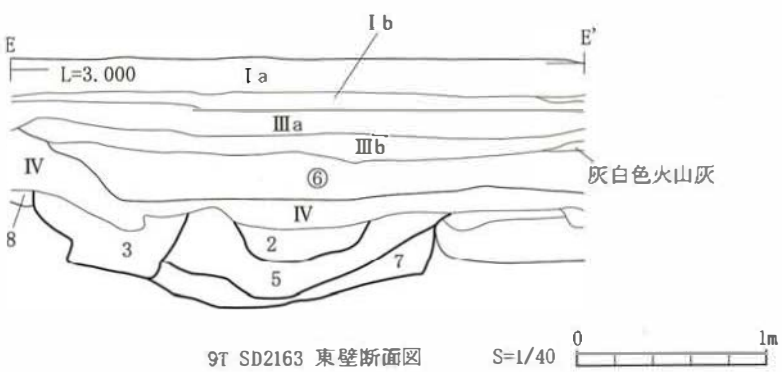


A 99区 SD2146東壁断面図 S=1/40

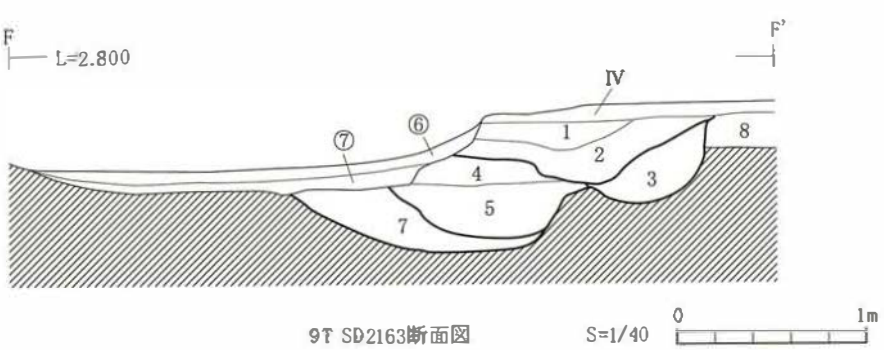
第68図 A43・99区SD2395・2145・2146断面図



9区 SD2163西壁断面図　S=1/40



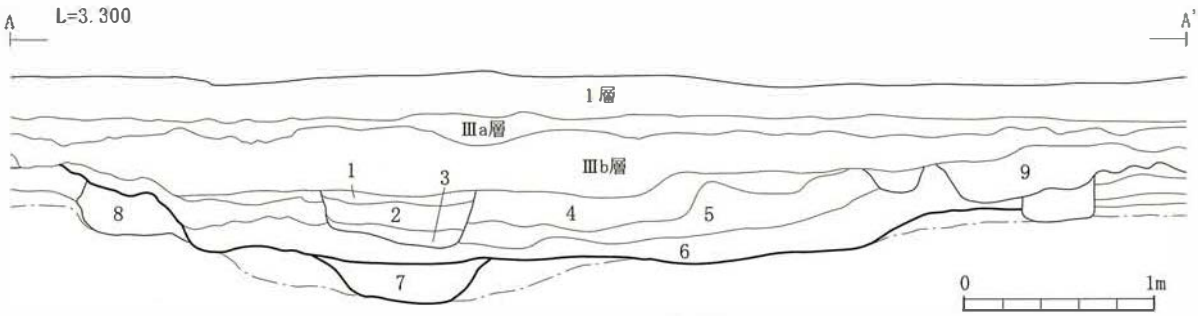
9T SD2163 東壁断面図　S=1/40



9T SD2163断面図　S=1/40

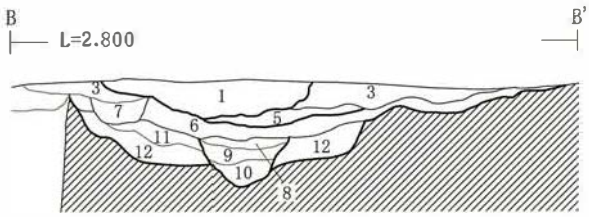
①～⑤ 層：SB2161P8埋土
⑥ 層：SK2164埋土
1～2 層：SD2163D 埋土
3 層：SD2163C 埋土
4～5 層：SD2163B 埋土
6～7 層：SD2163A 埋土
8 層：SX2162　整地層

第69図　A９区SD2163断面図



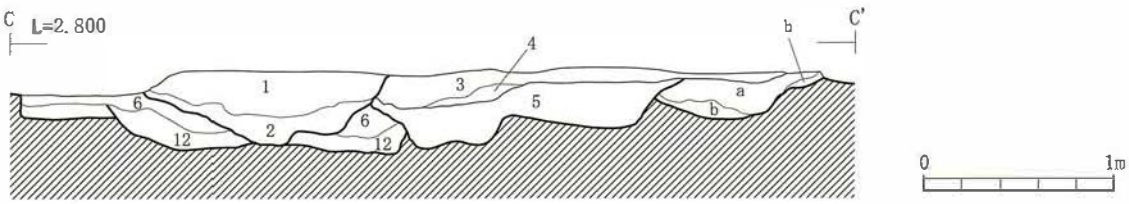
1～3 層：SK2448　7 層：SD1680
4 層：SX1715　8 層：SD1860
5・6 層：SD1679　9 層：SD1688

SD1679・1680断面図

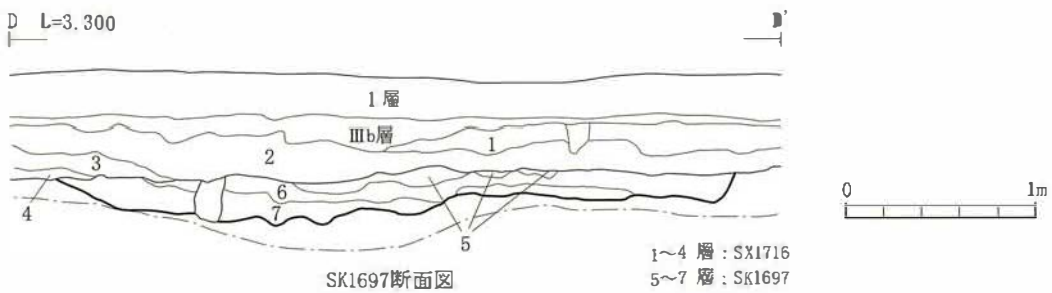


SD1678・1677・1676・1675断面図 南側ベルト断面図

1・2 層：SD1678　8～10 層：SD1676
3・4 層：SX1716　11・12 層：SD1675
5 層：SD1677　a・b 層：SX1720
6 層：SX1724



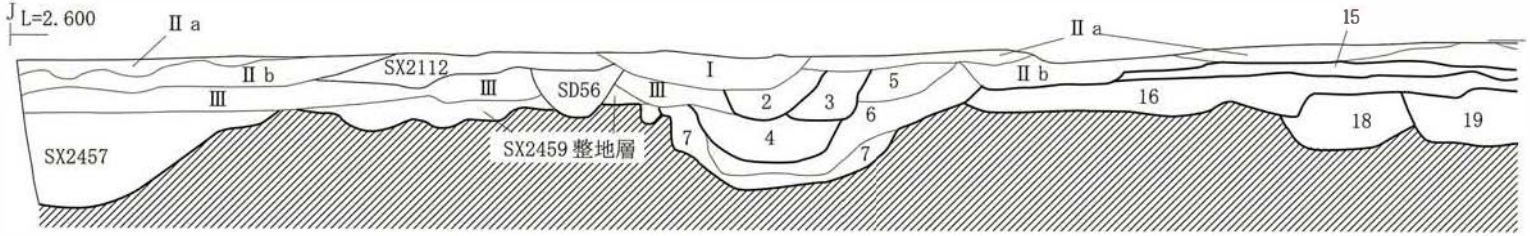
北側ベルト断面図



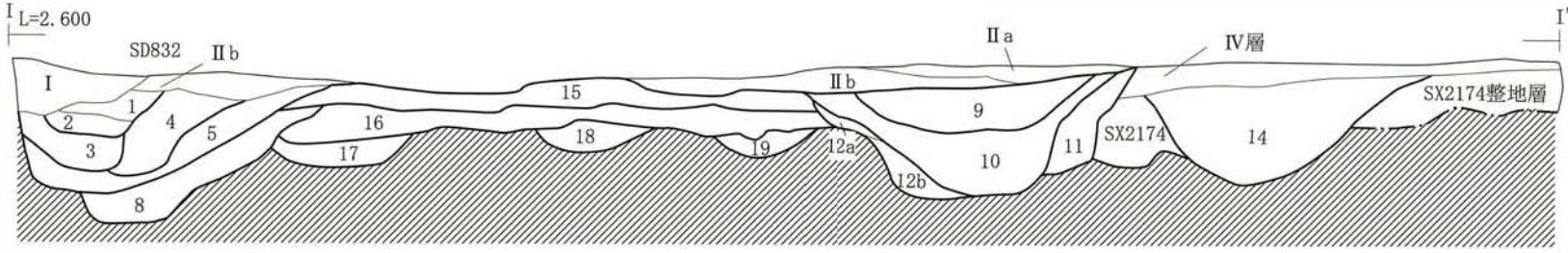
SK1697断面図

1～4 層：SX1716
5～7 層：SK1697

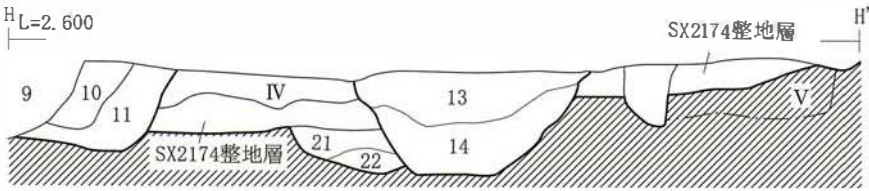
第70図　A11区SD1678ほか断面図



SX830東1道路断面図



SX830東1道路断面図

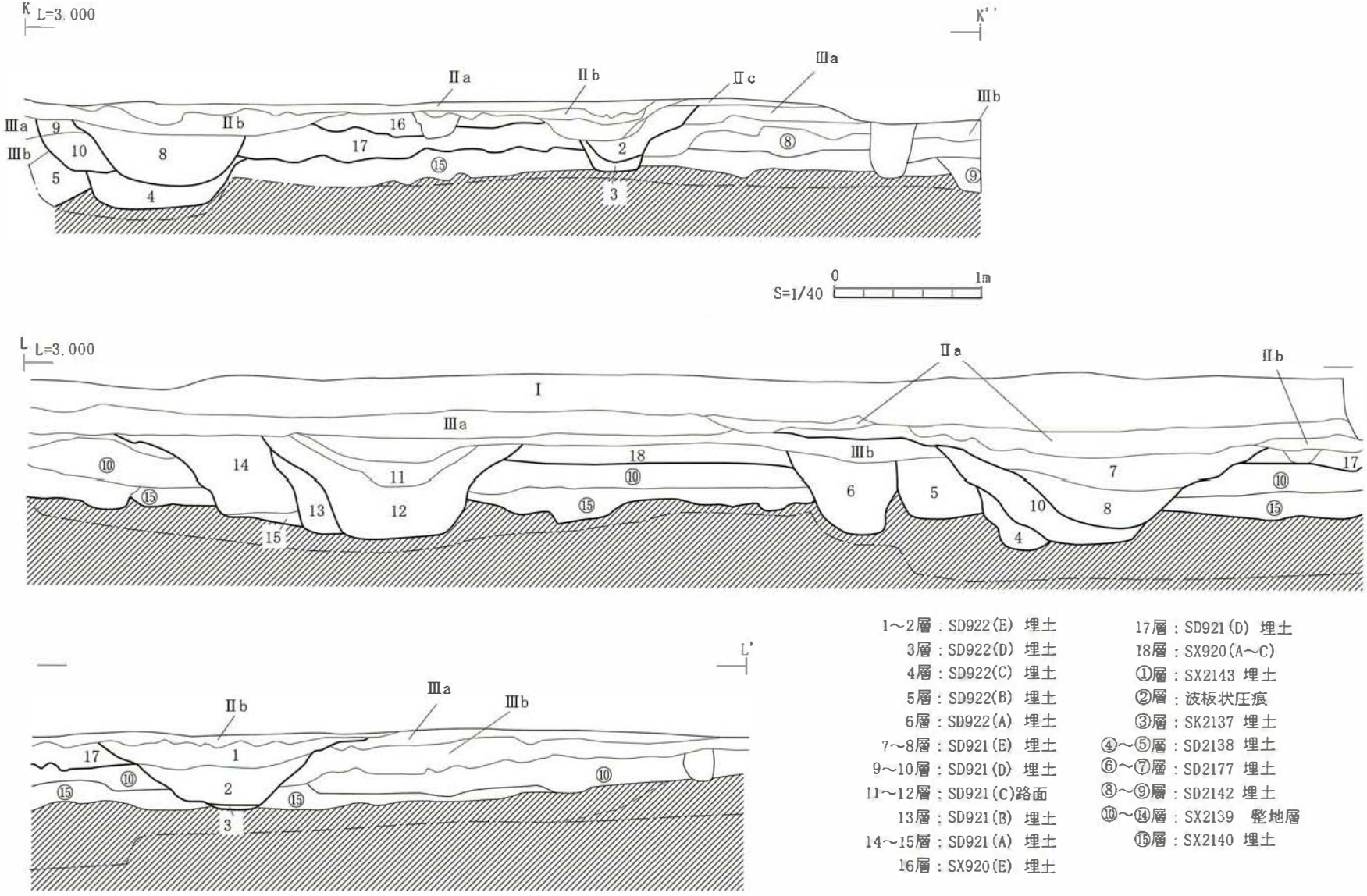


SX830東1道路断面図

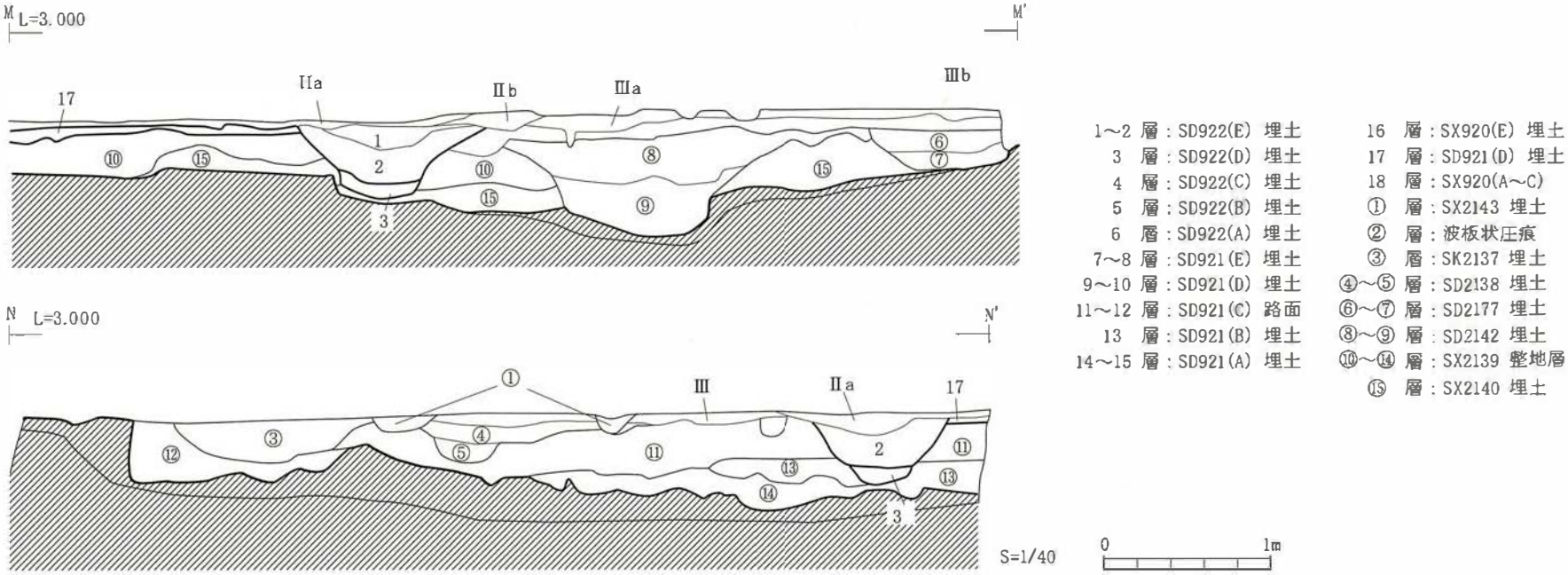
1～2層：SD832(E) 埋土
3層：SD832(D) 埋土
4層：SD832(C) 埋土
5～7層：SD832(B) 埋土
8層：SD832(A) 埋土
9層：SD831(E) 埋土
10層：SD921(D) 埋土
11層：SD831(C) 路面
12層：SD831(B) 埋土
13～14層：SD831(A) 埋土
15層：SX830(B～E)
16層：SX830(A)
17層：SD2454 埋土
18層：SD2455 埋土
19層：SD2456 埋土
20層：SX2457 埋土
21～22層：SD2458 埋土

第71図　D83区SX830東1道路断面図

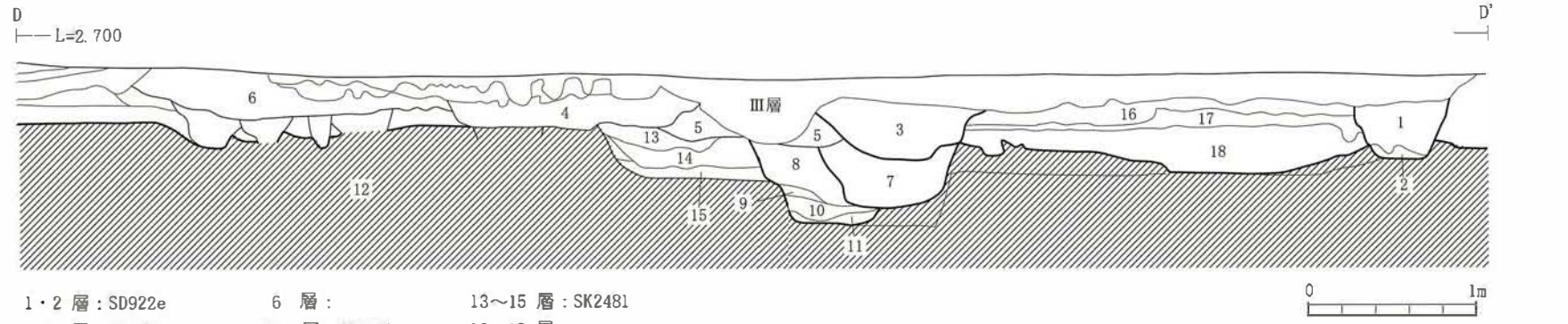
S=1/40　0　1m



第72図 102区SX920南1道路断面図(1)

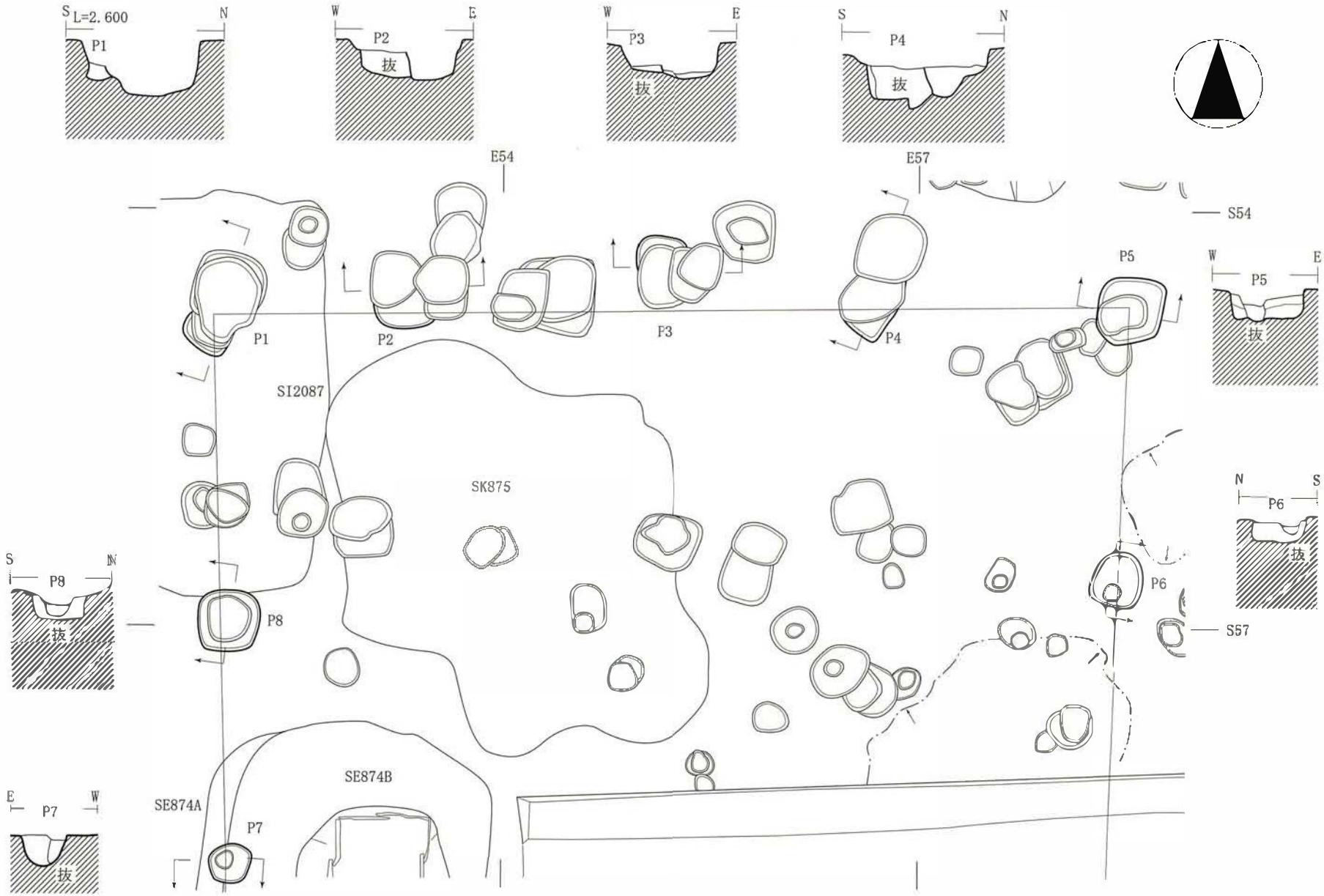


1～2 層：SD922(E) 埋土
3 層：SD922(D) 埋土
4 層：SD922(C) 埋土
5 層：SD922(B) 埋土
6 層：SD922(A) 埋土
7～8 層：SD921(E) 埋土
9～10 層：SD921(D) 埋土
11～12 層：SD921(C) 路面
13 層：SD921(B) 埋土
14～15 層：SD921(A) 埋土
16 層：SX920(E) 埋土
17 層：SD921(D) 埋土
18 層：SX920(A～C)
① 層：SX2143 埋土
② 層：波板状圧痕
③ 層：SK2137 埋土
④～⑤ 層：SD2138 埋土
⑥～⑦ 層：SD2177 埋土
⑧～⑨ 層：SD2142 埋土
⑩～⑭ 層：SX2139 整地層
⑮ 層：SX2140 埋土

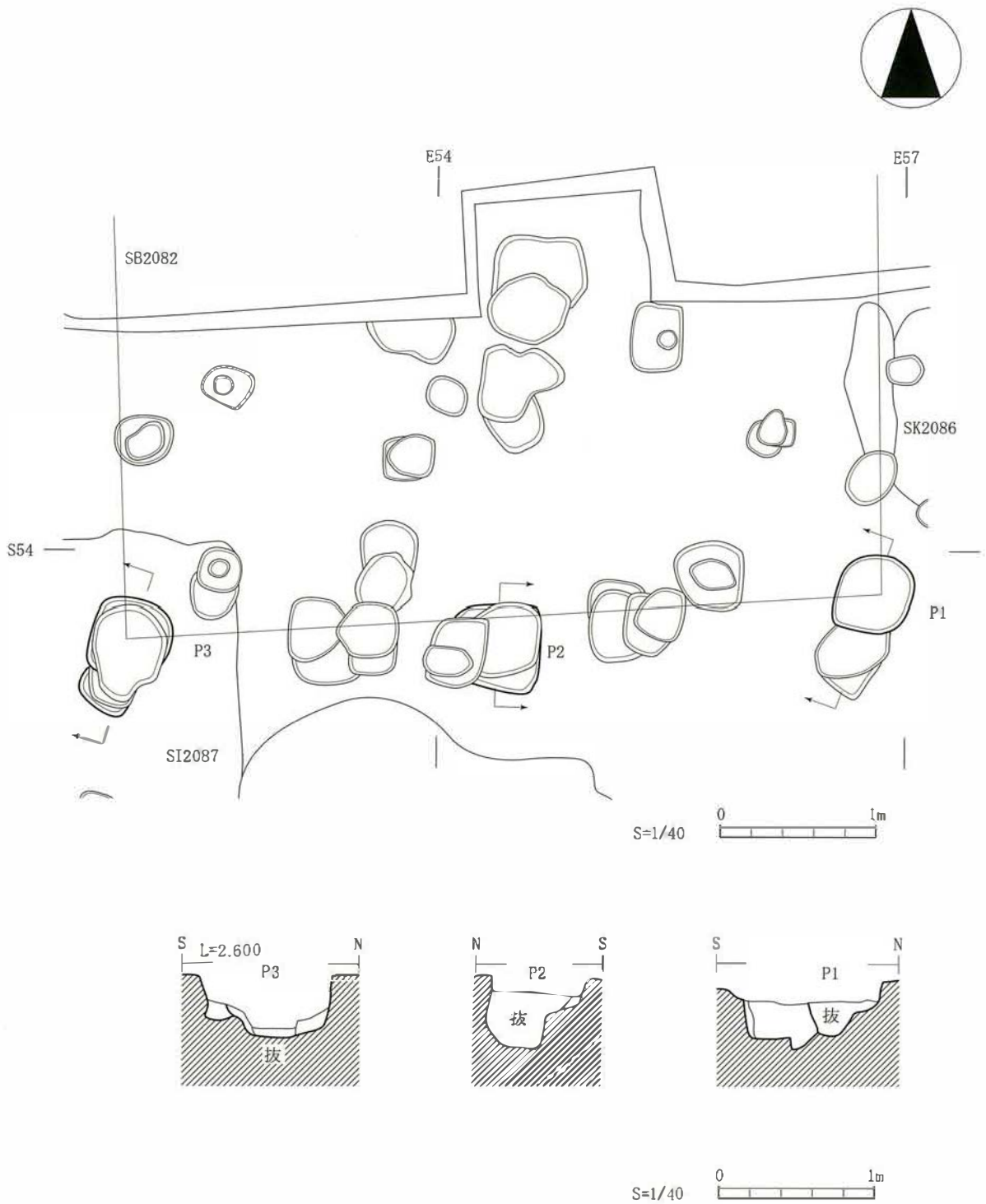


1・2 層：SD922e
3 層：SD921c
4 層：
5 層：
6 層：
7 層：SD921b
8～11 層：SD922a
12 層：SD2480
13～15 層：SK2481
16～18 層：

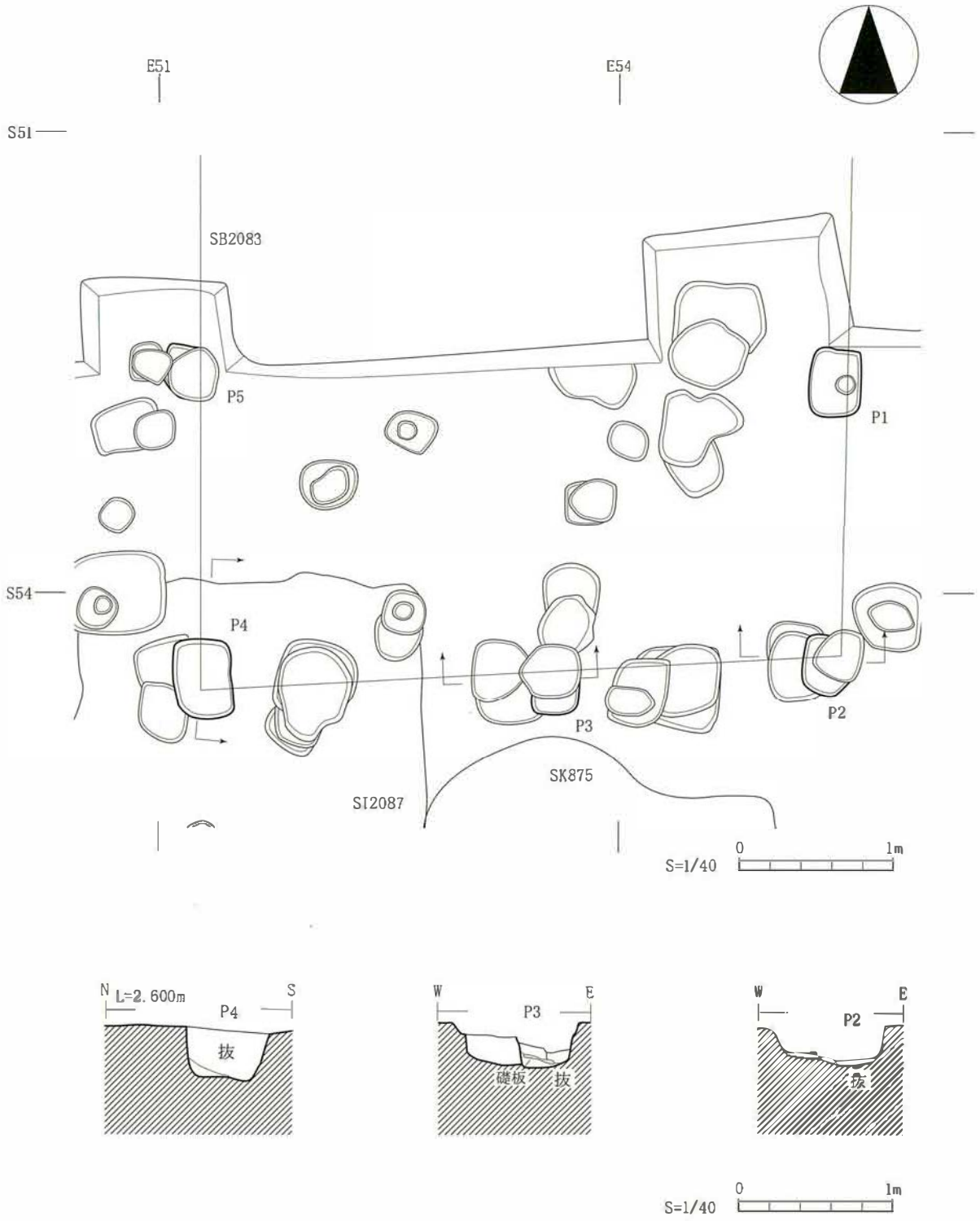
第73図　D102・105区SX920南１道路断面図(3)



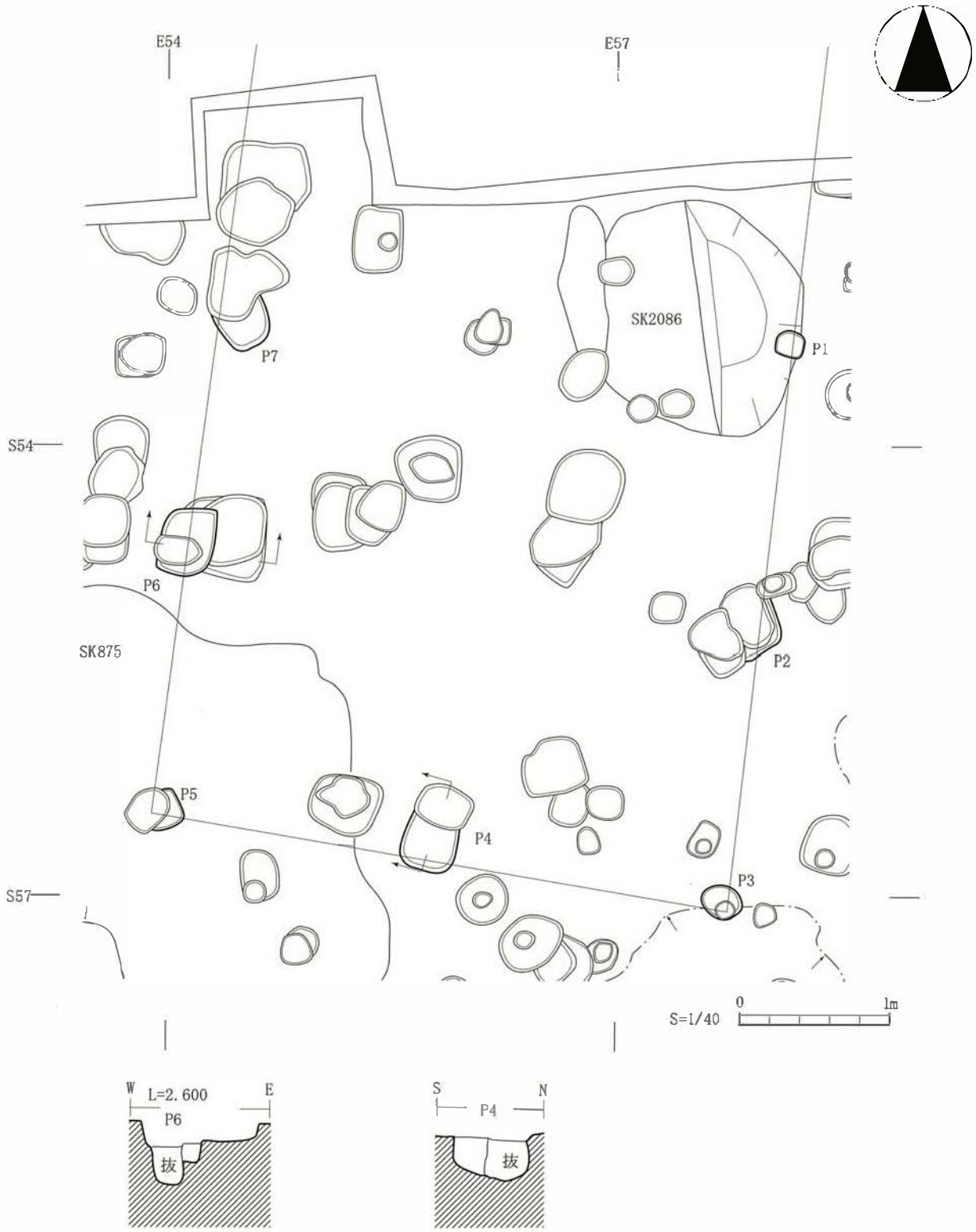
第74図　D27区SB2081平面図・断面図



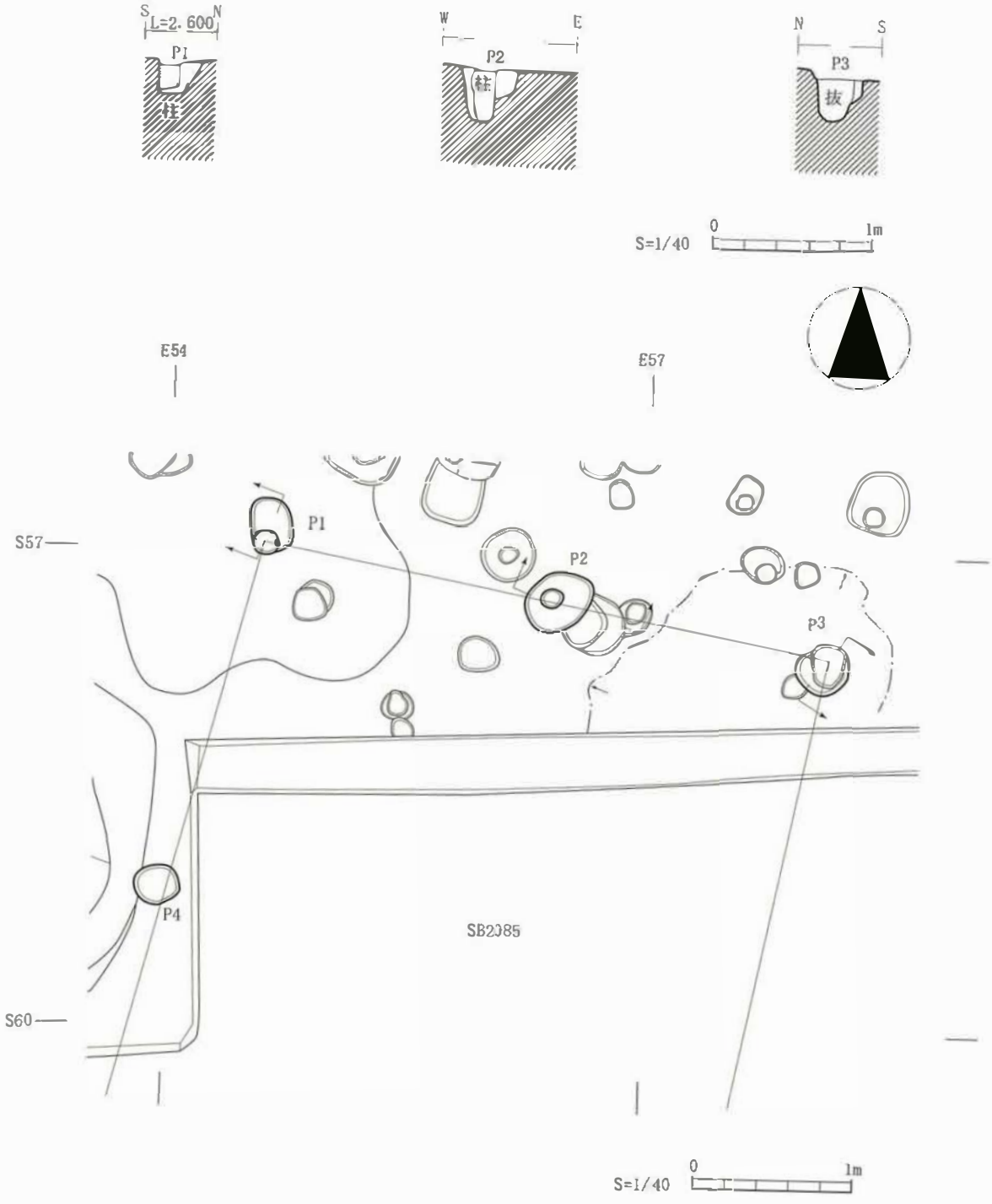
第75図　D27区SB2082平面図・断面図



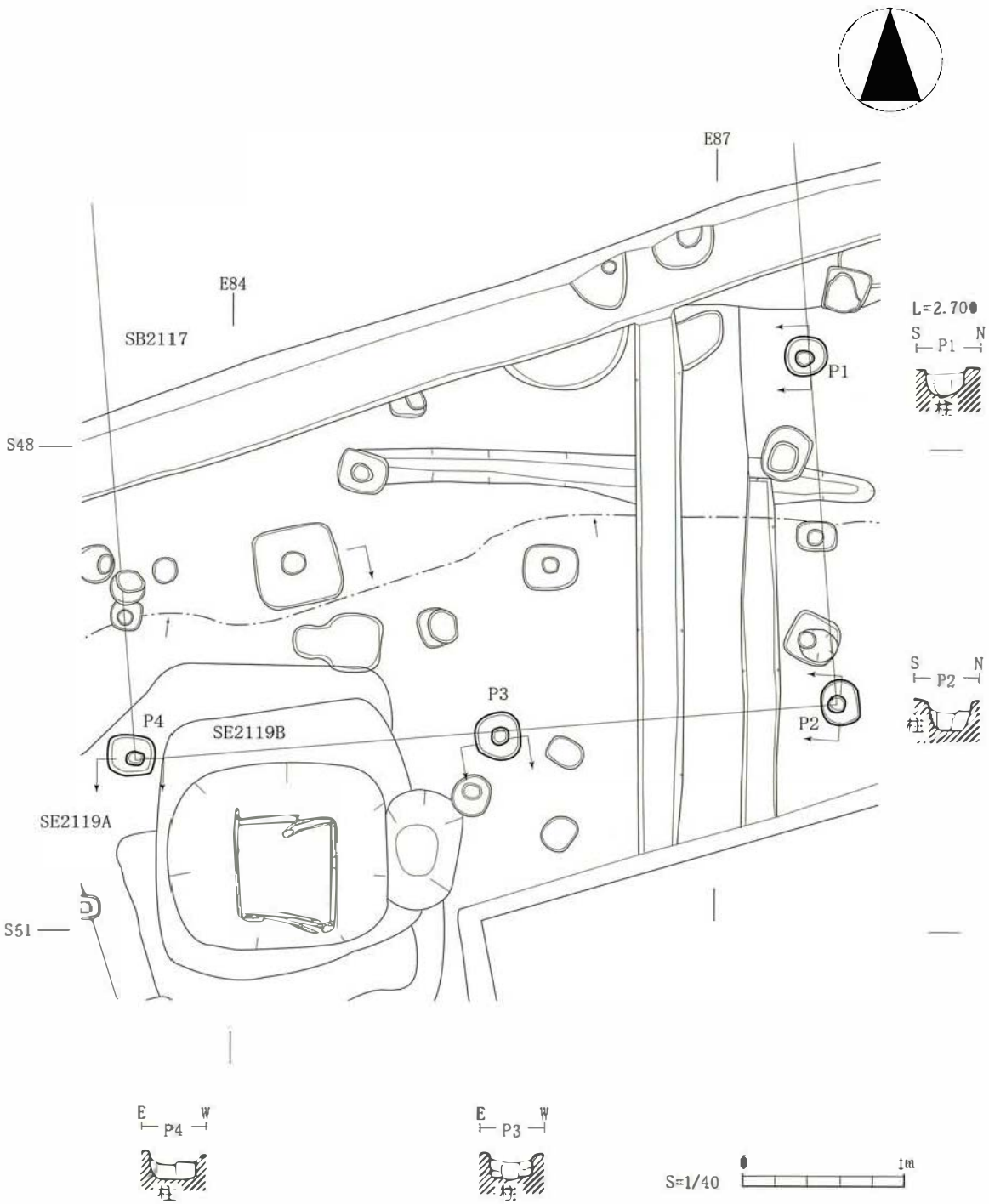
第76図　D27区SB2083平面図・断面図



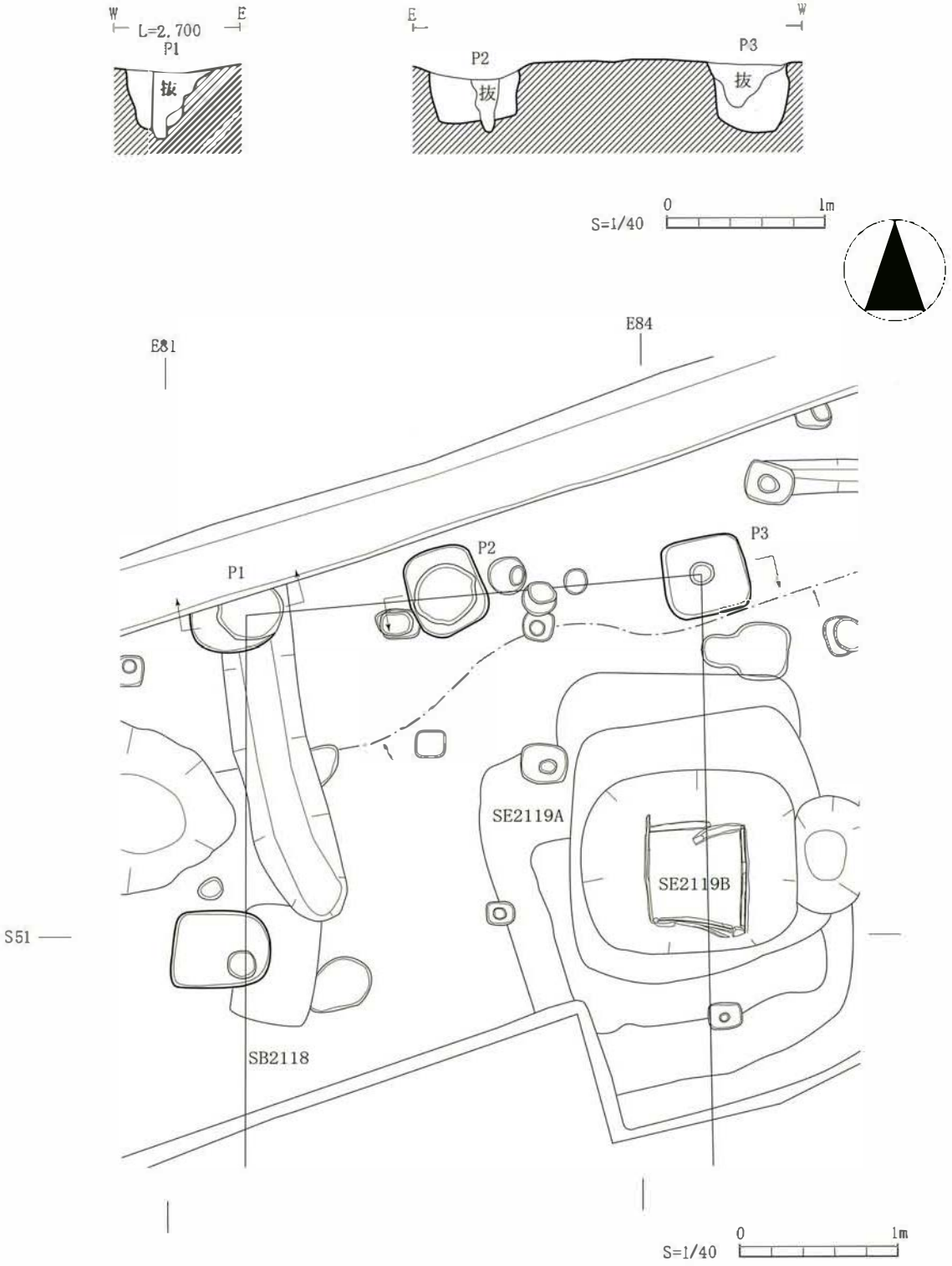
第77図　D27区SB2084平面図・断面図



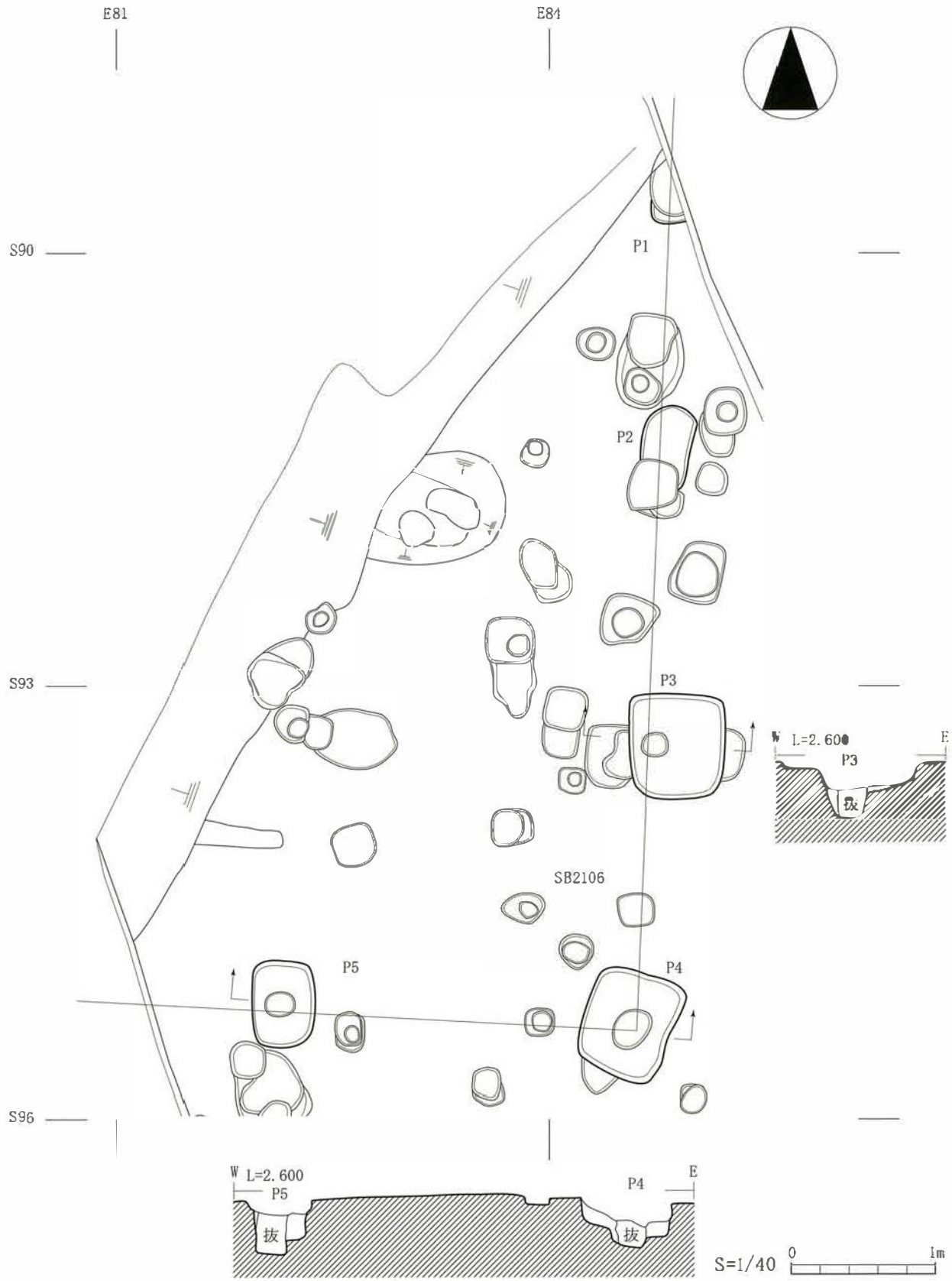
第78図　D27区SB2085平面図・断面図



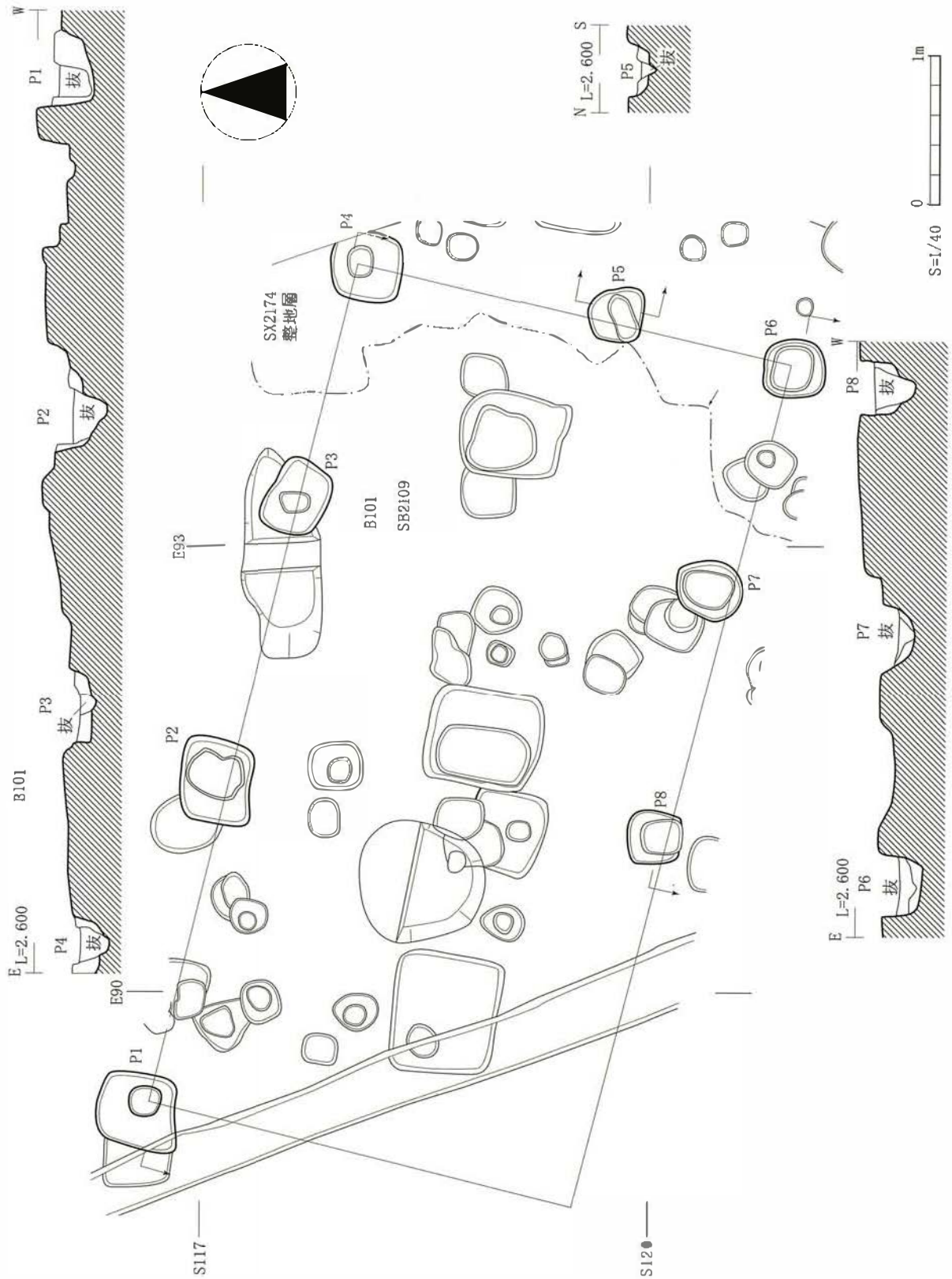
第79図　D88区SB2117平面図・断面図



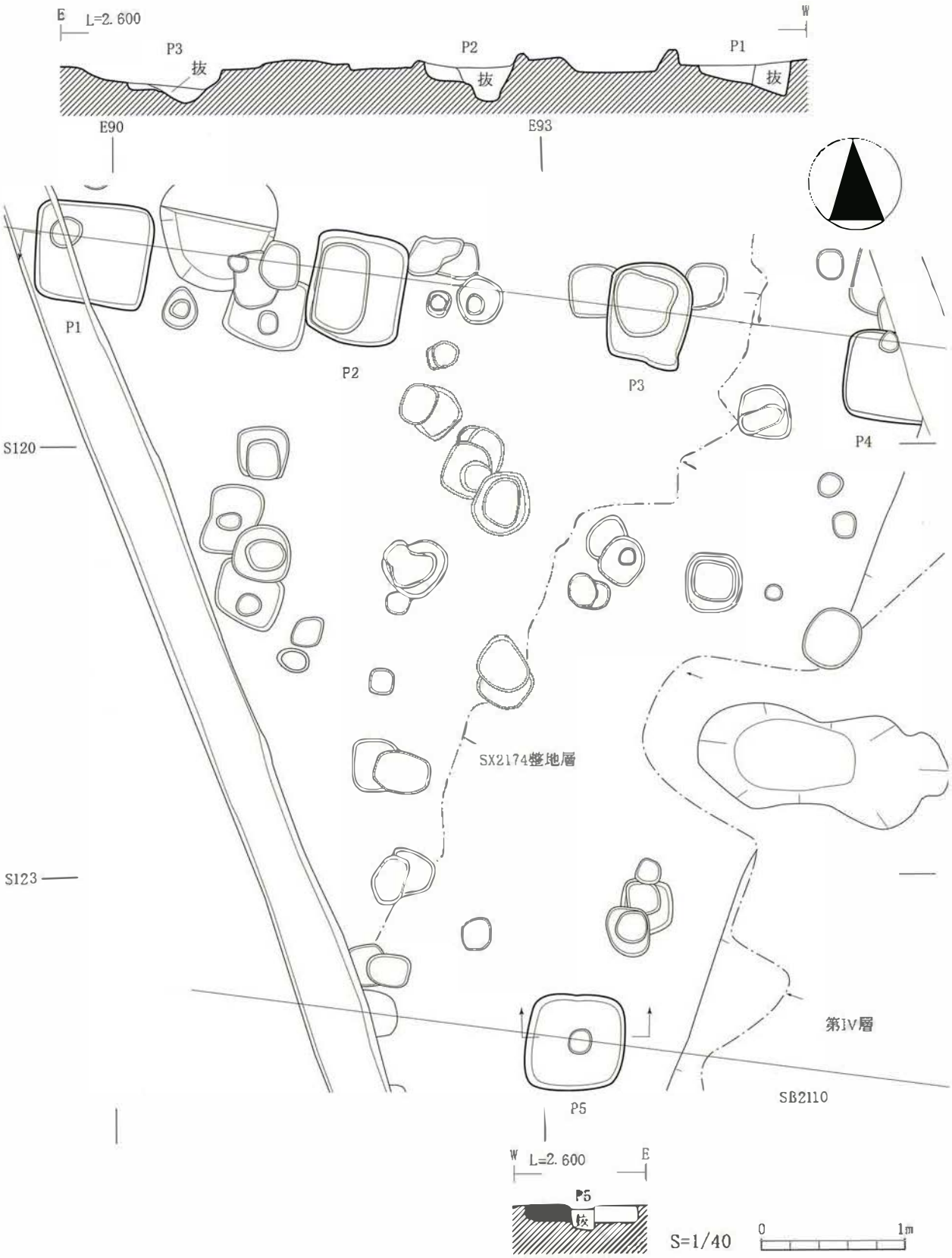
第80図　D88区SB2118平面図・断面図



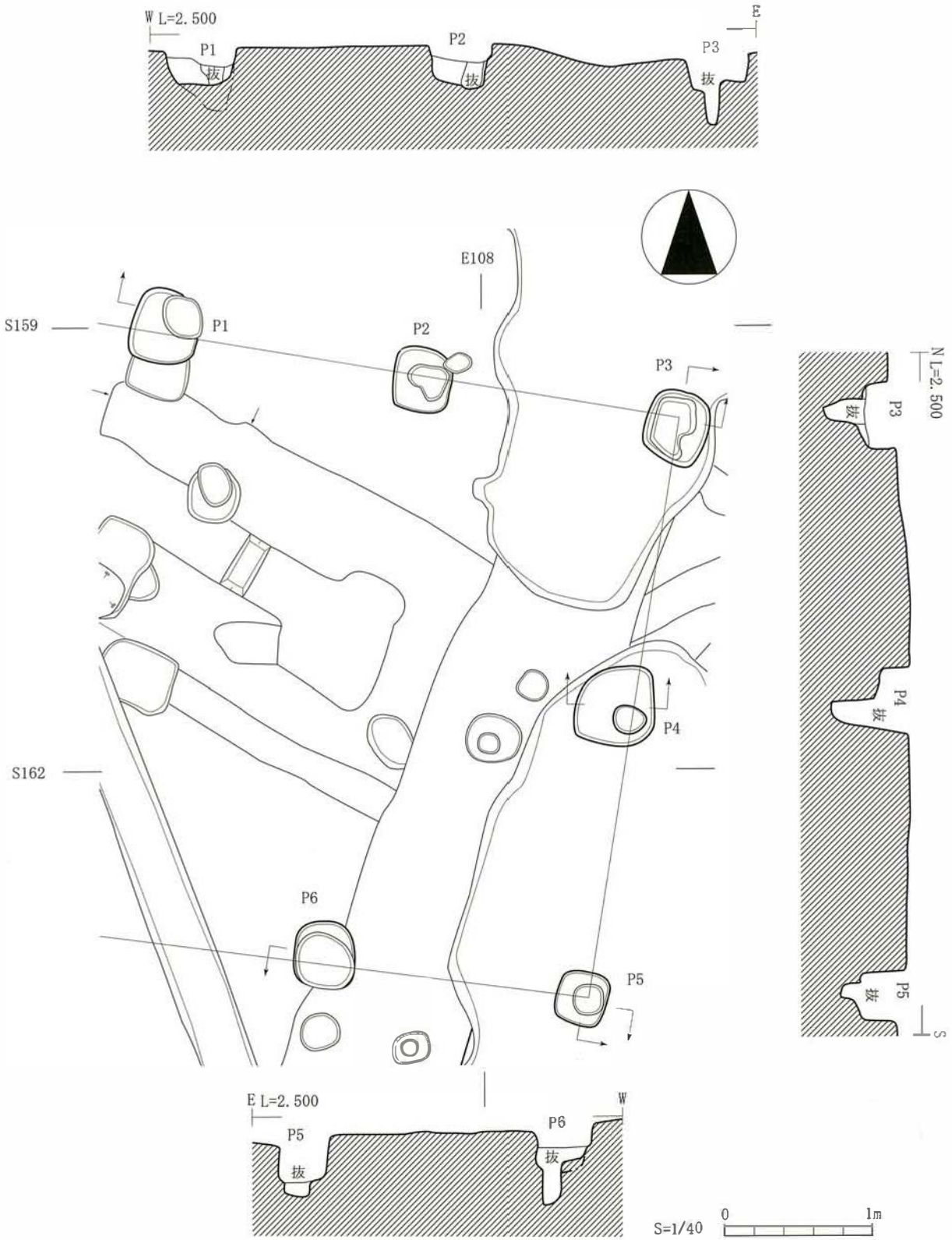
第81図　D83区SB2106平面図・断面図



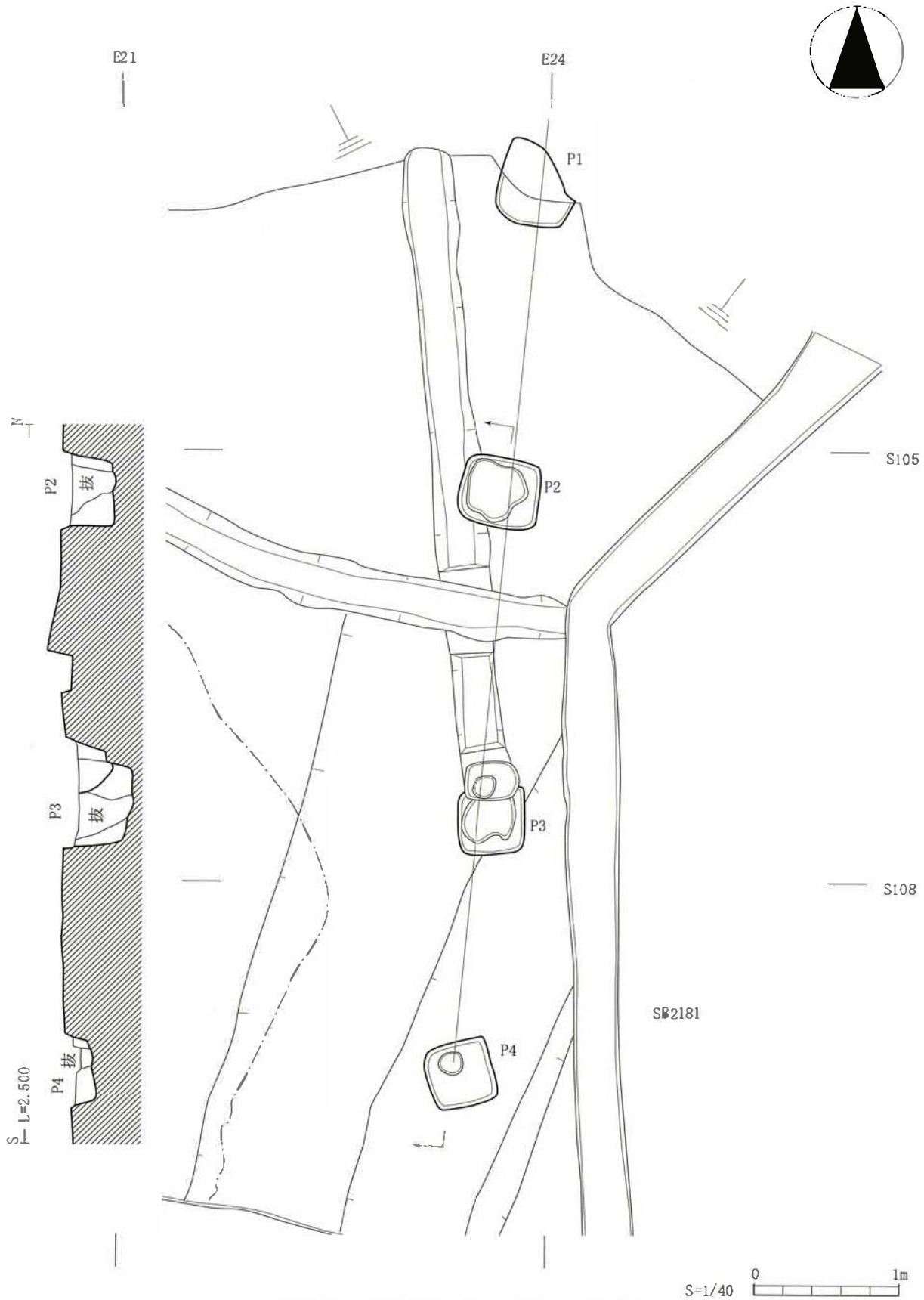
第82図　D83区SB2109平面図・断面図



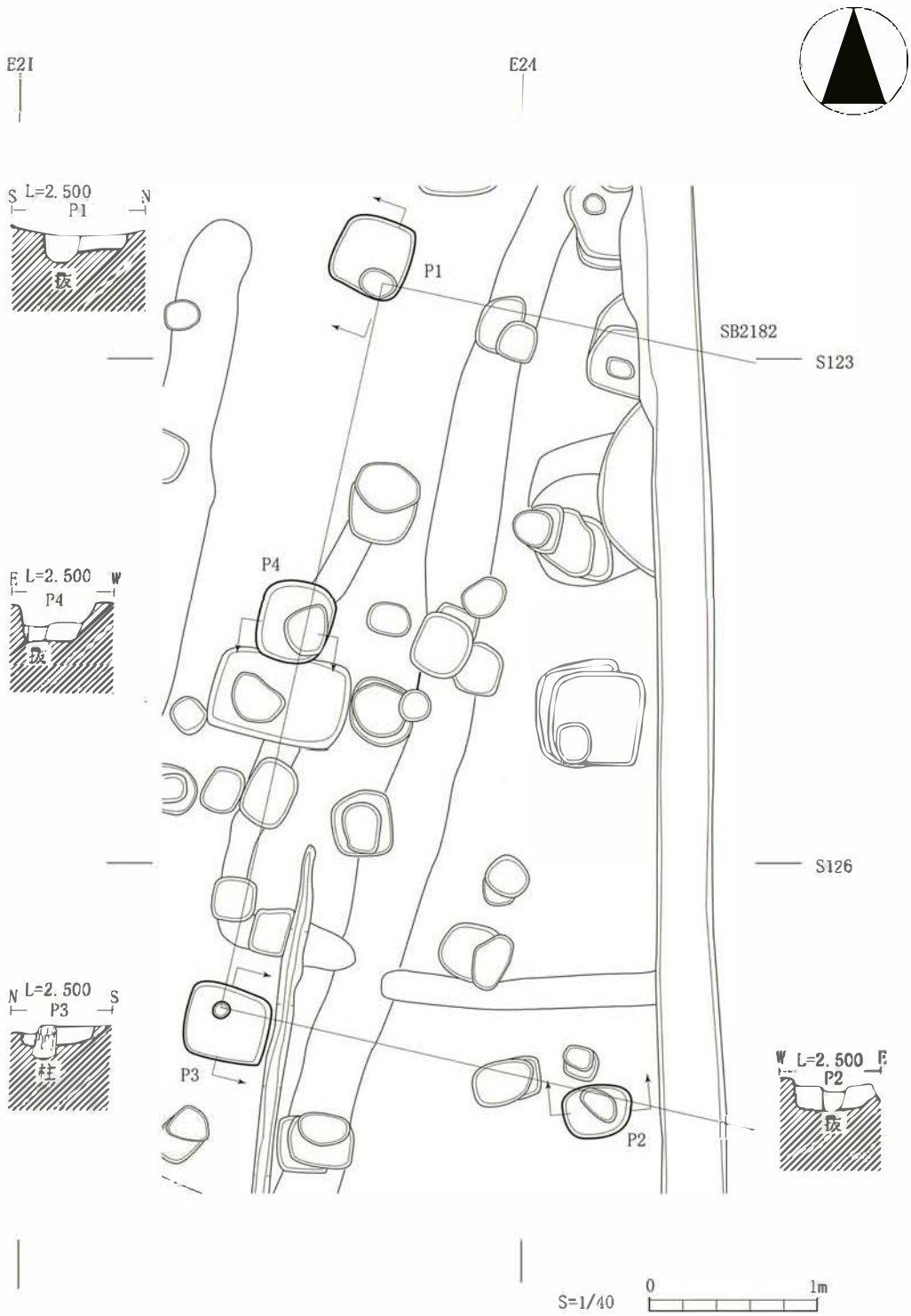
第83図　D83区SB2110平面図・断面図



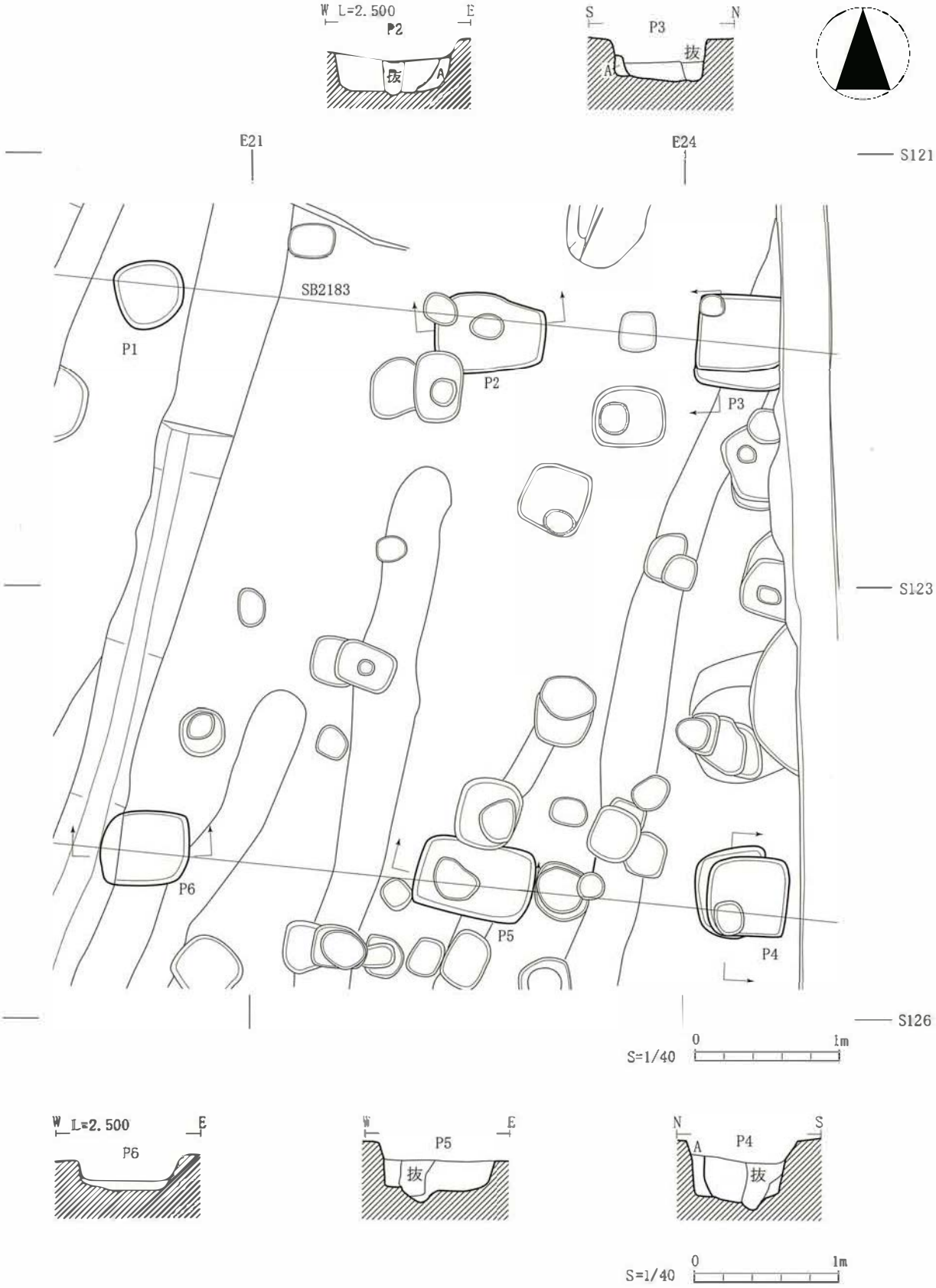
第84図　D83区SB2282平面図・断面図



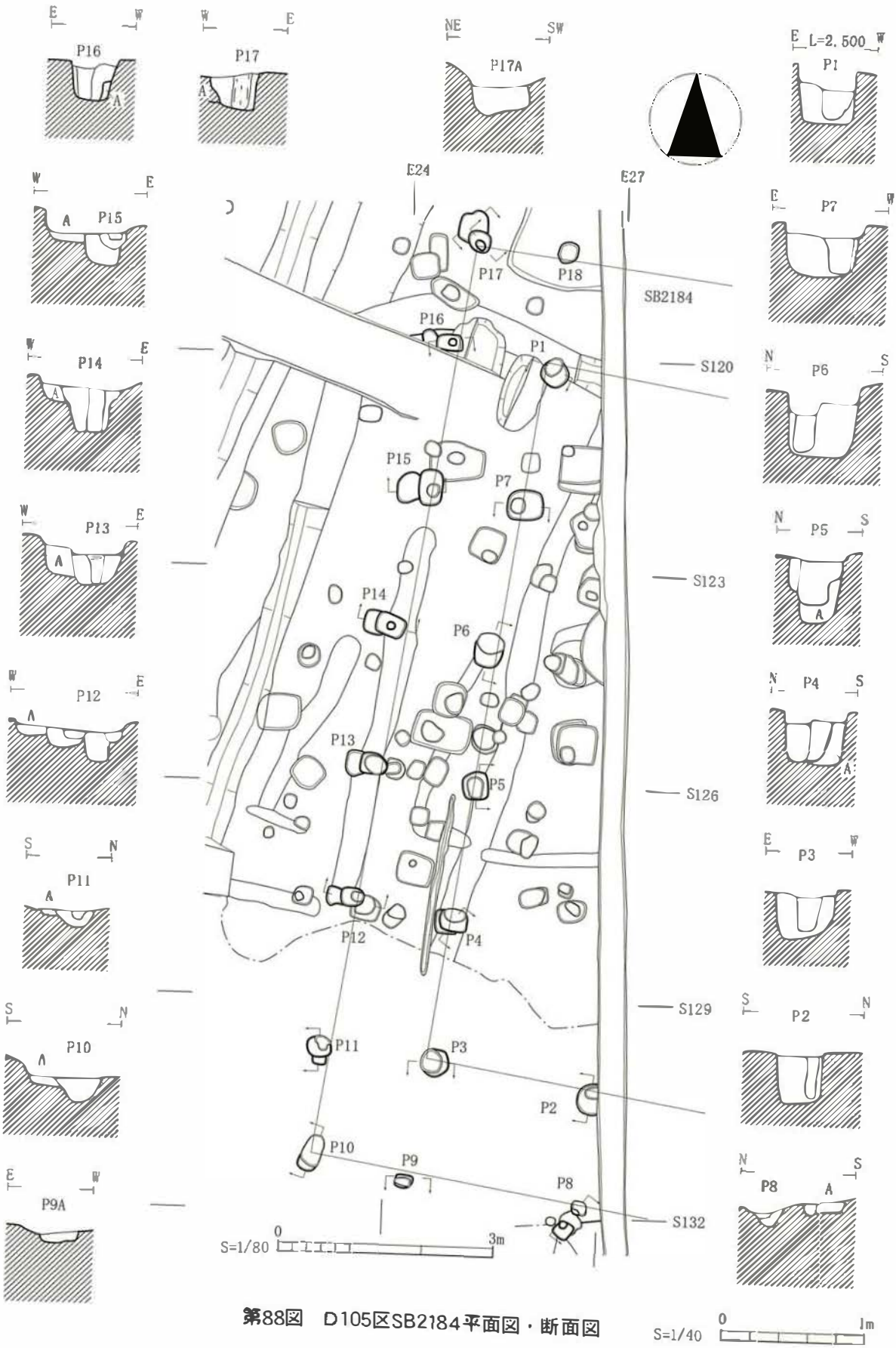
第85図　D105区SA2181平面図・断面図



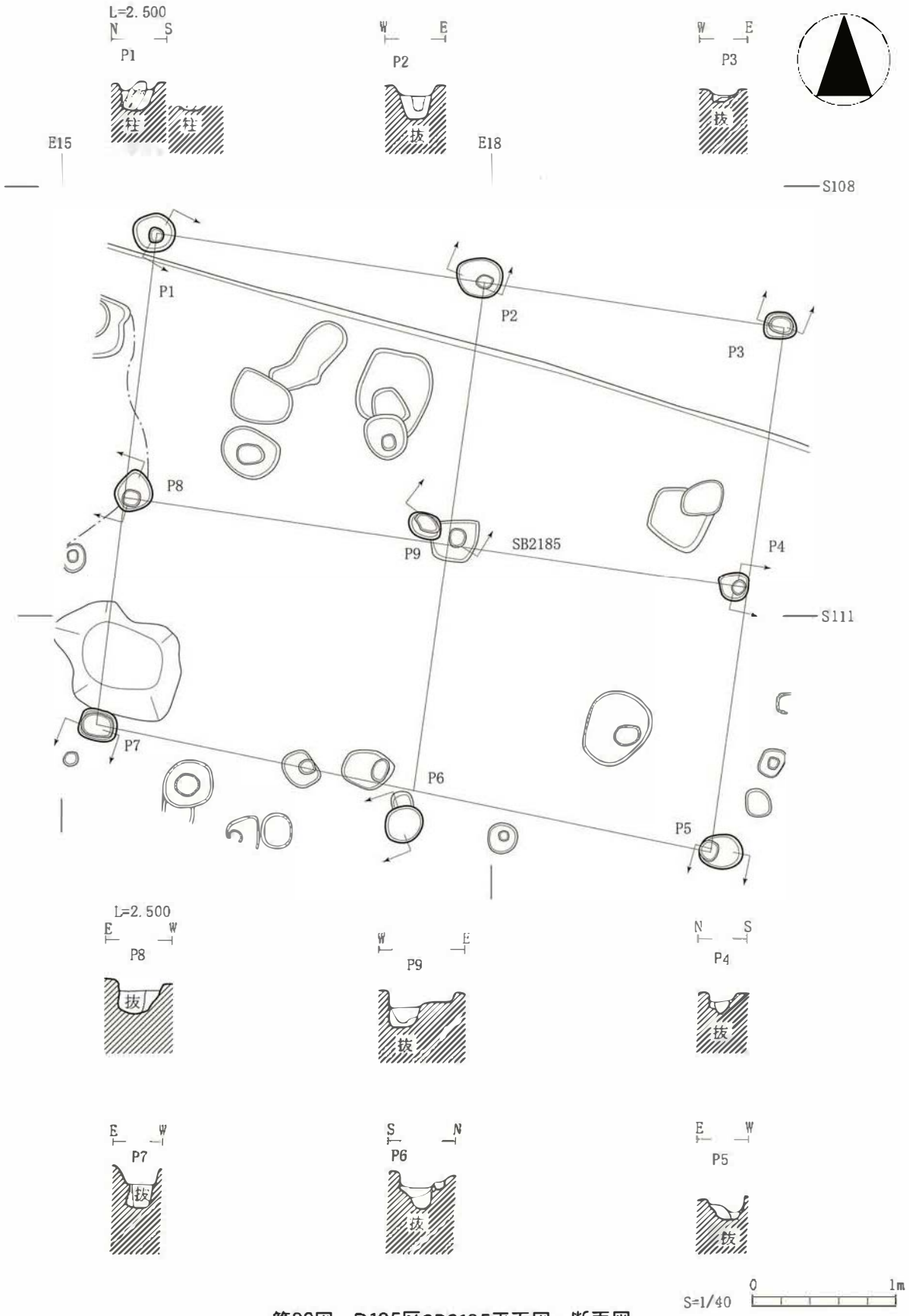
第86図　D105区SB2182平面図・断面図



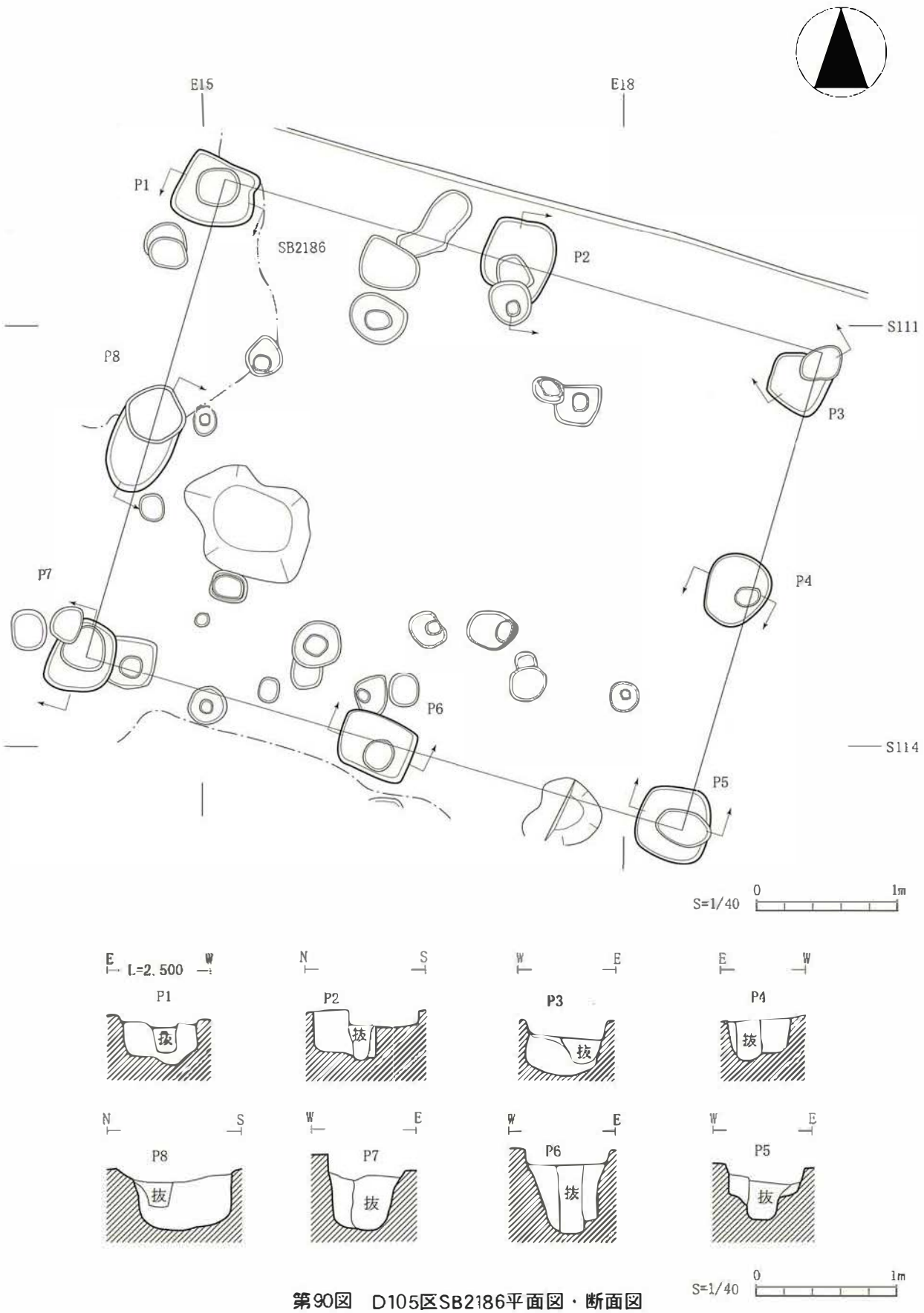
第87図　D105区SB2183平面図・断面図



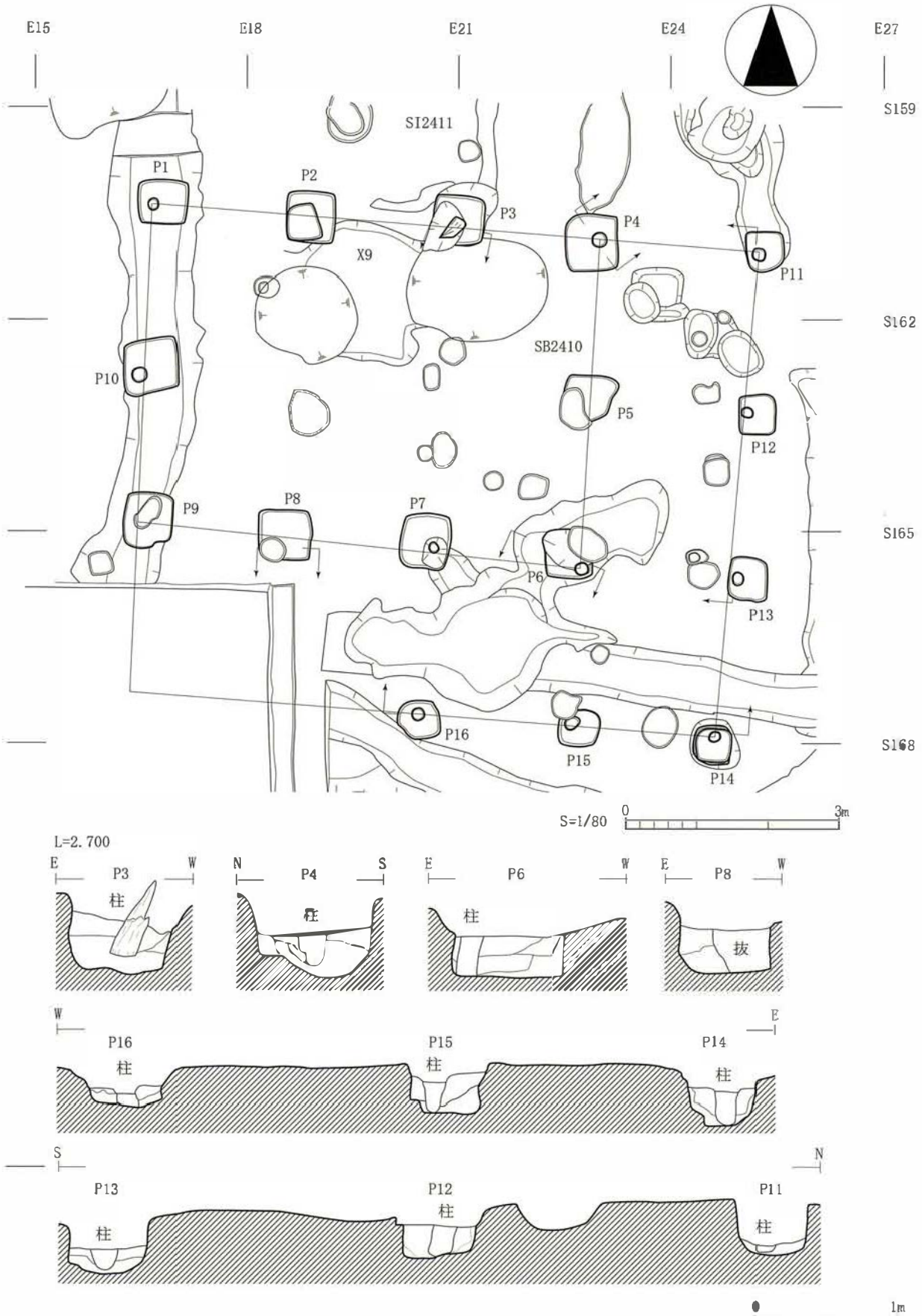
第88図　D105区SB2184平面図・断面図



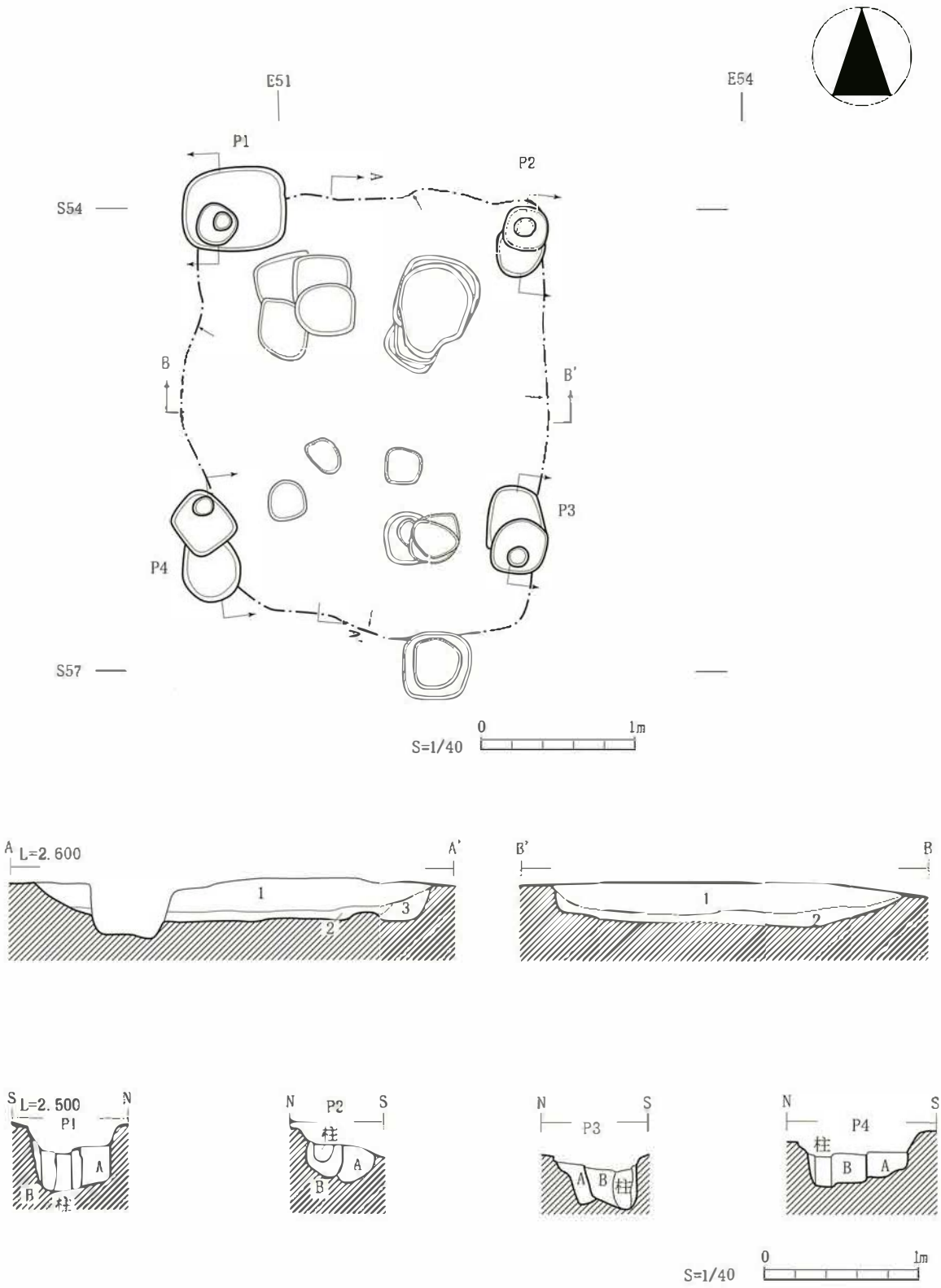
第89図　D105区SB2185平面図・断面図



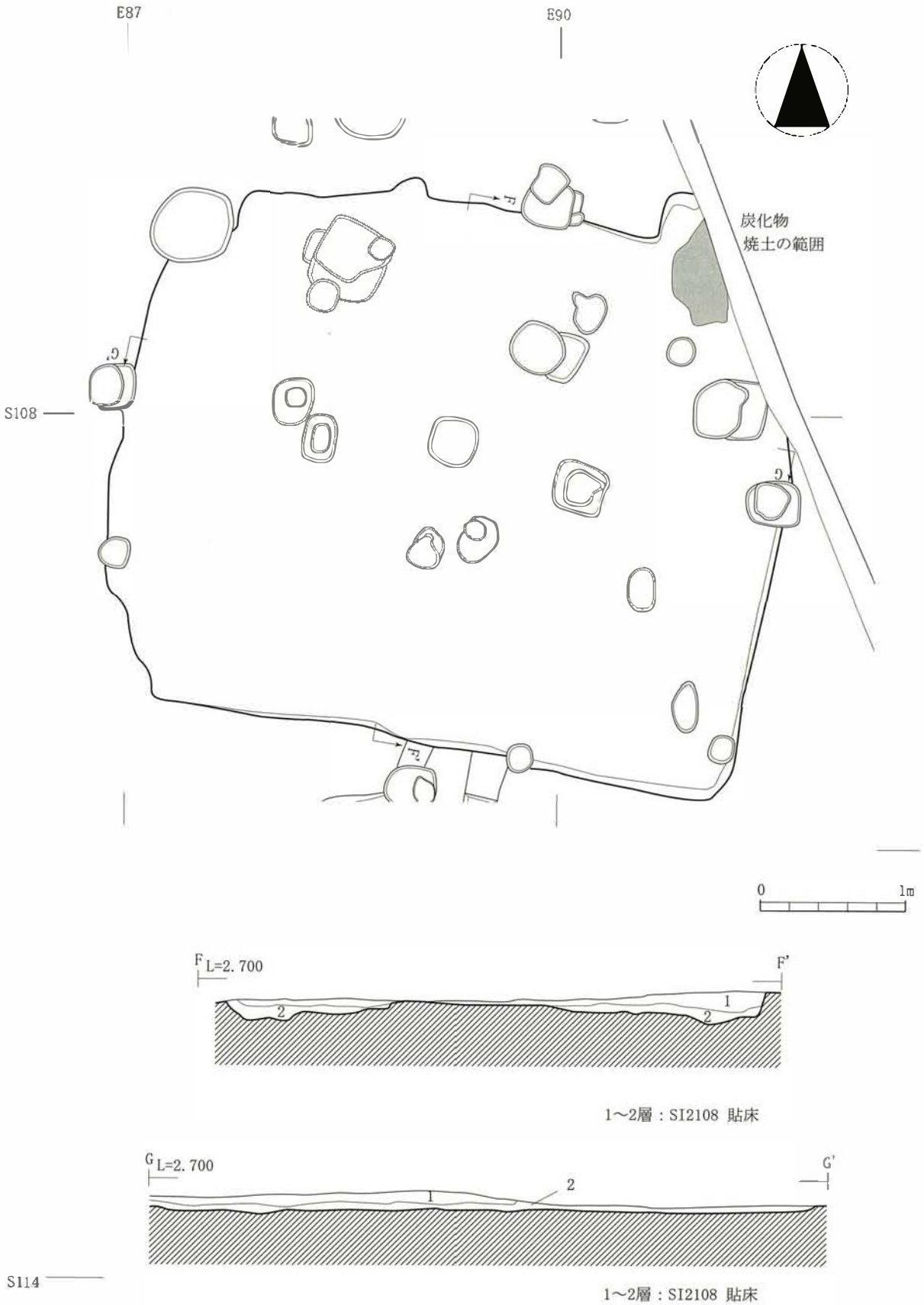
第90図　D105区SB2186平面図・断面図



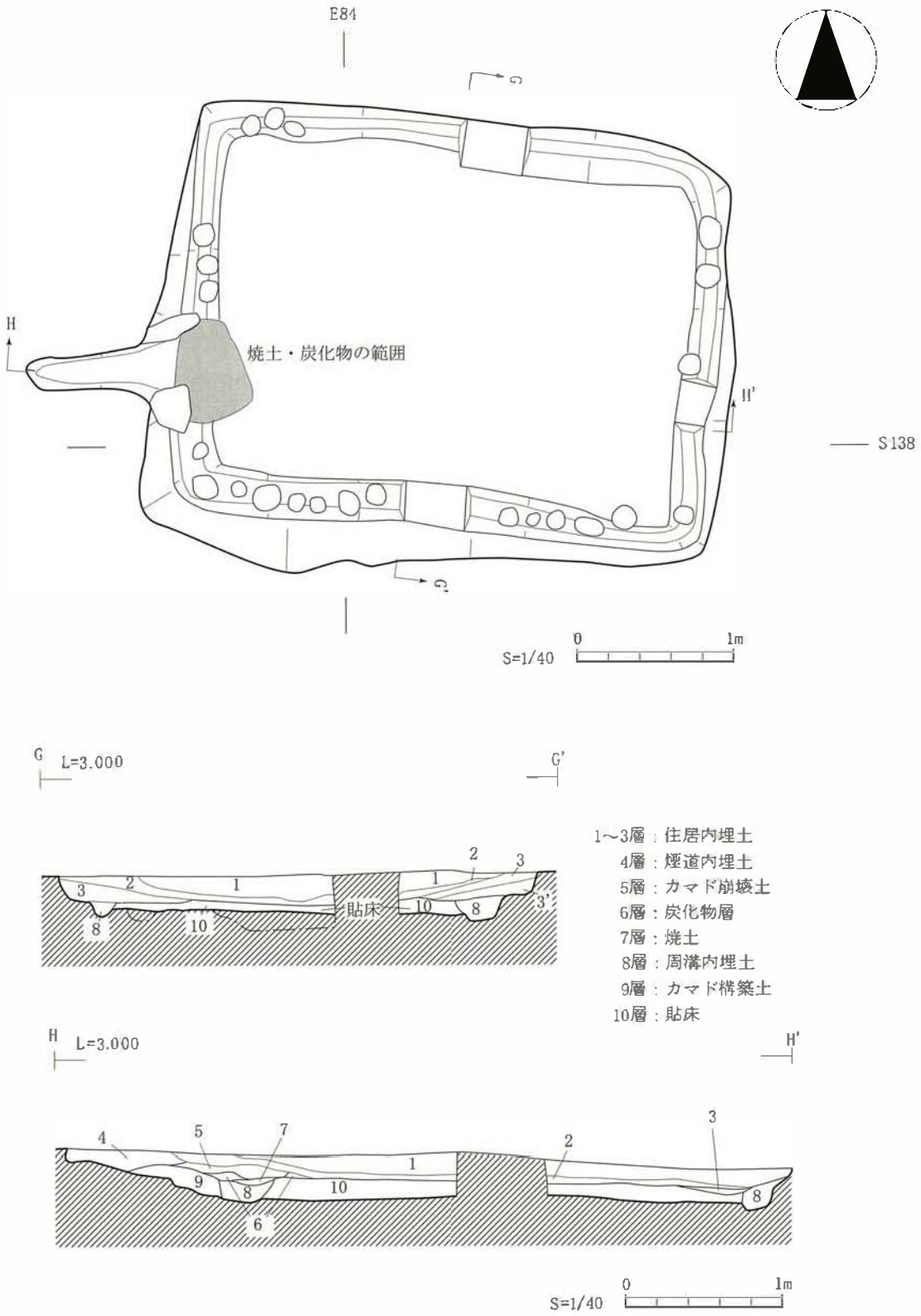
第91図　D105区SB2410平面図・断面図



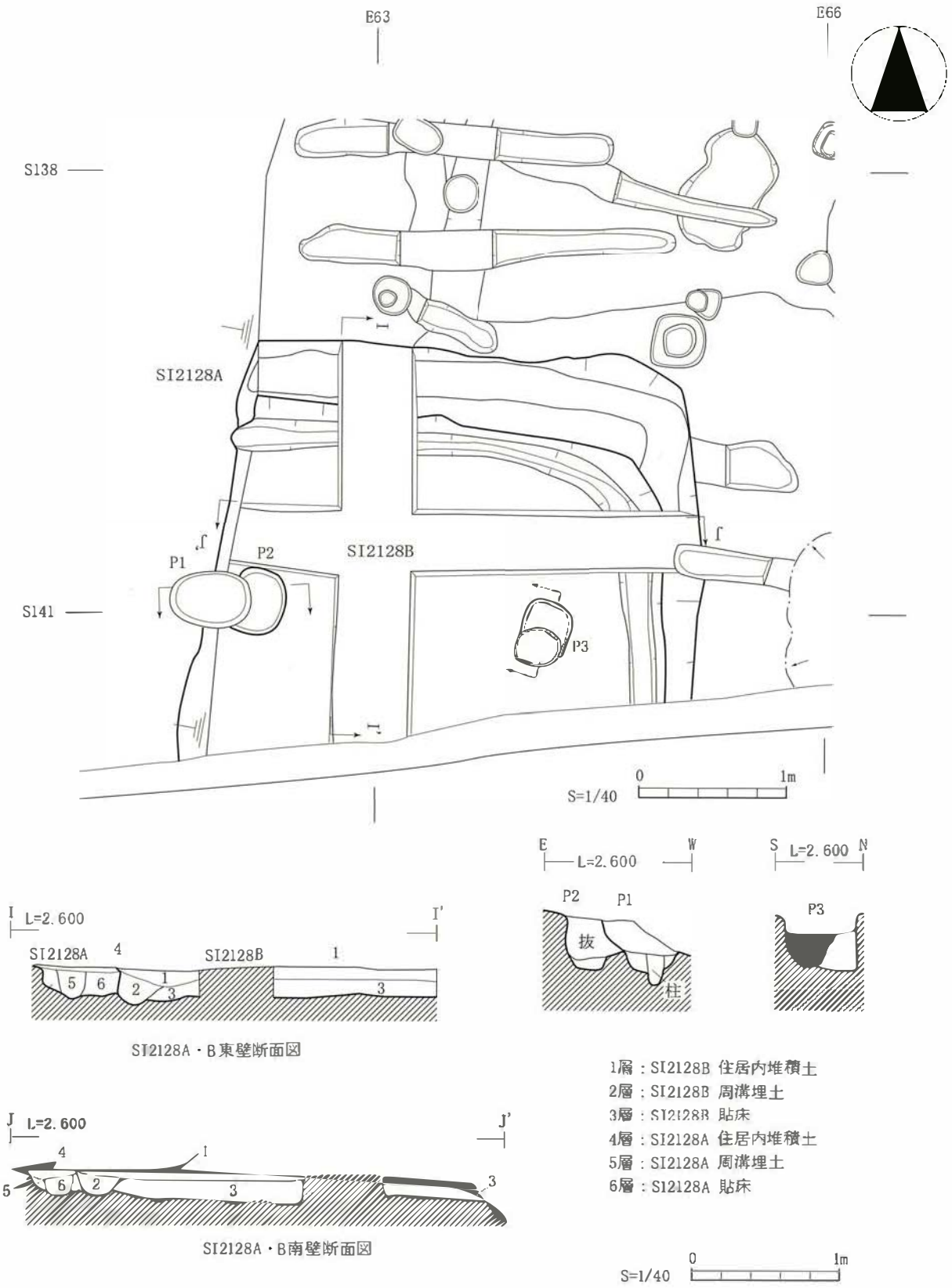
第92図　27区SI2087平面図・断面図



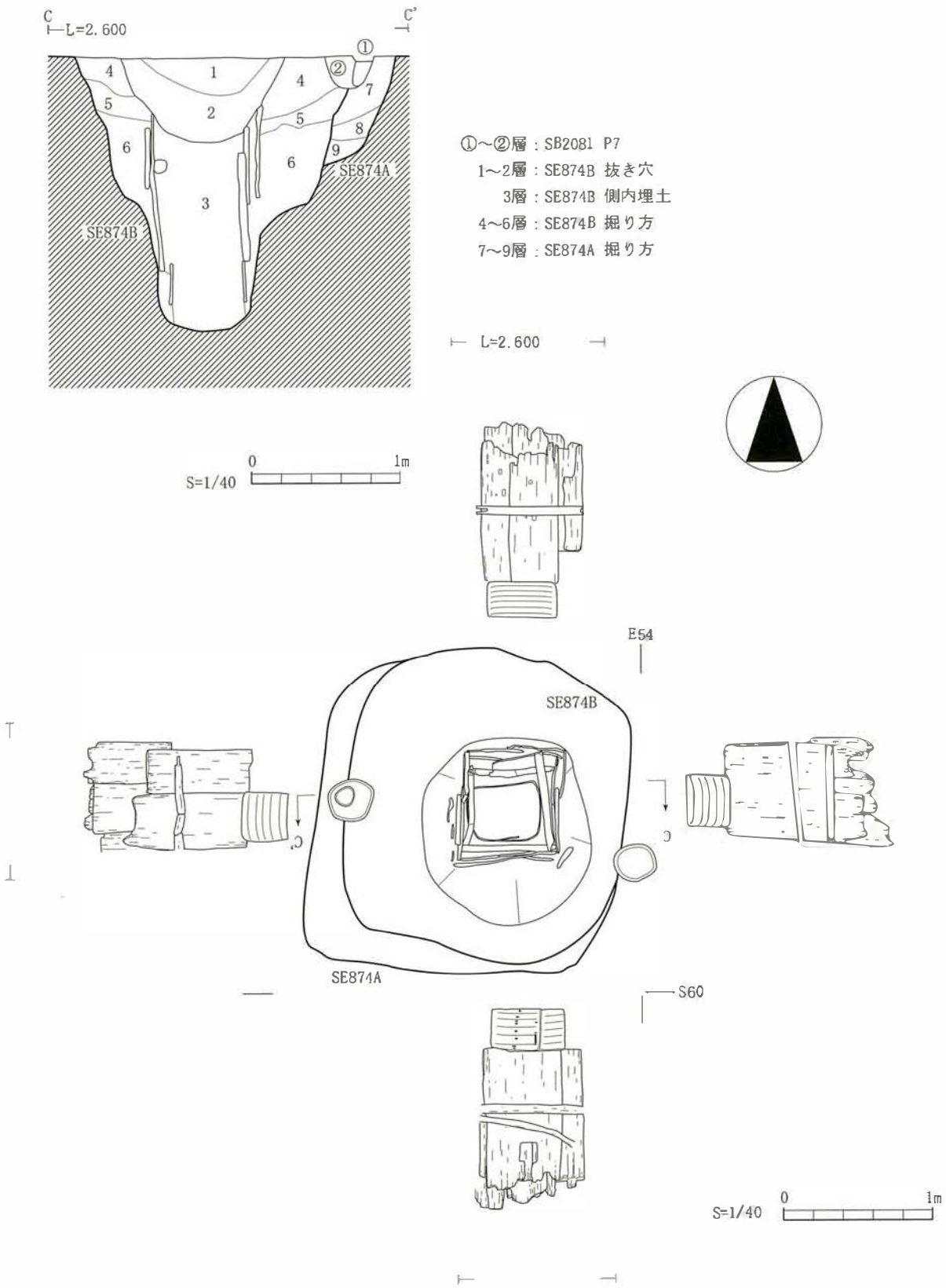
第93図　D83区SI2108遺構実測図・断面図



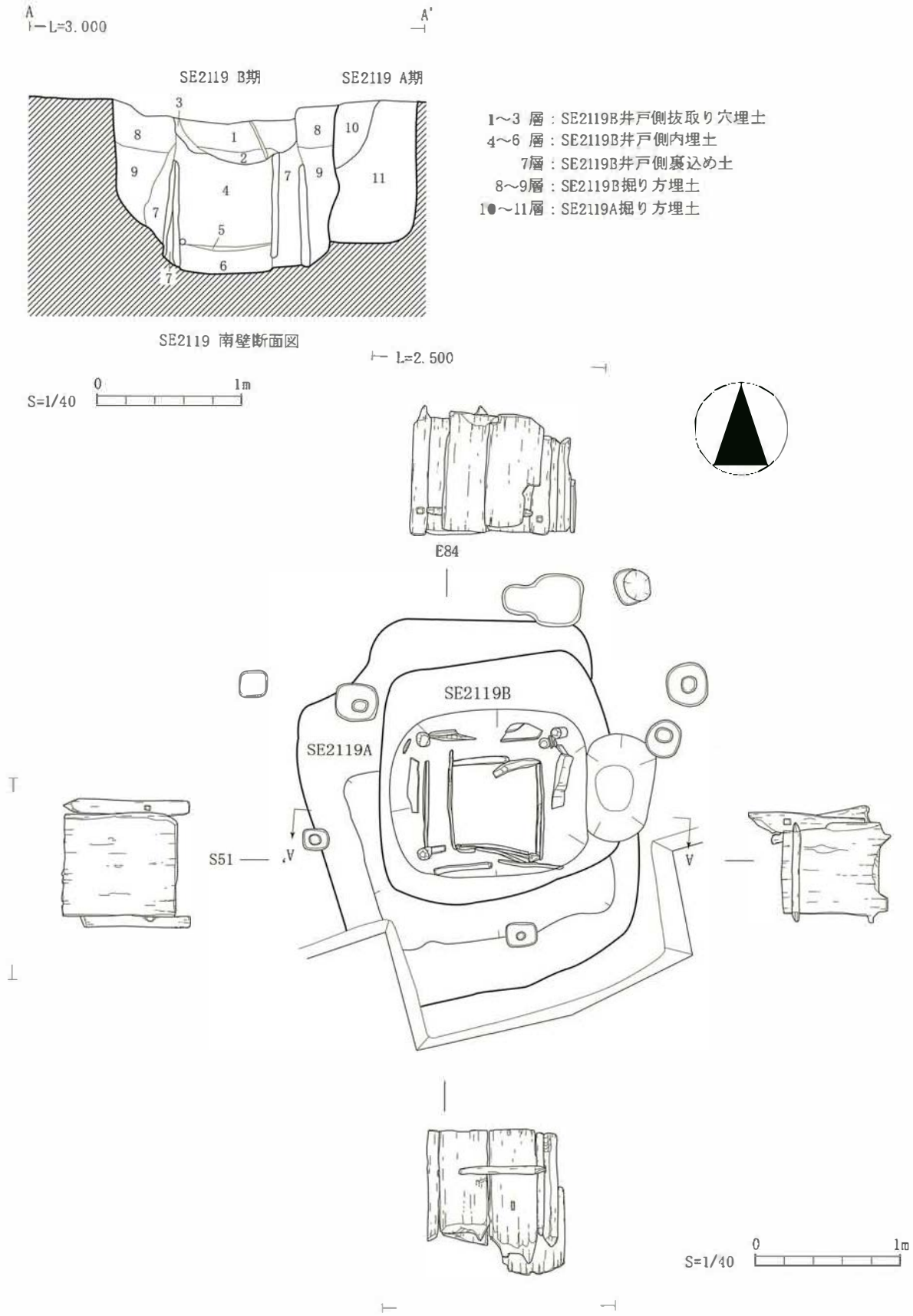
第94図　D102区SI2127平面図・断面図



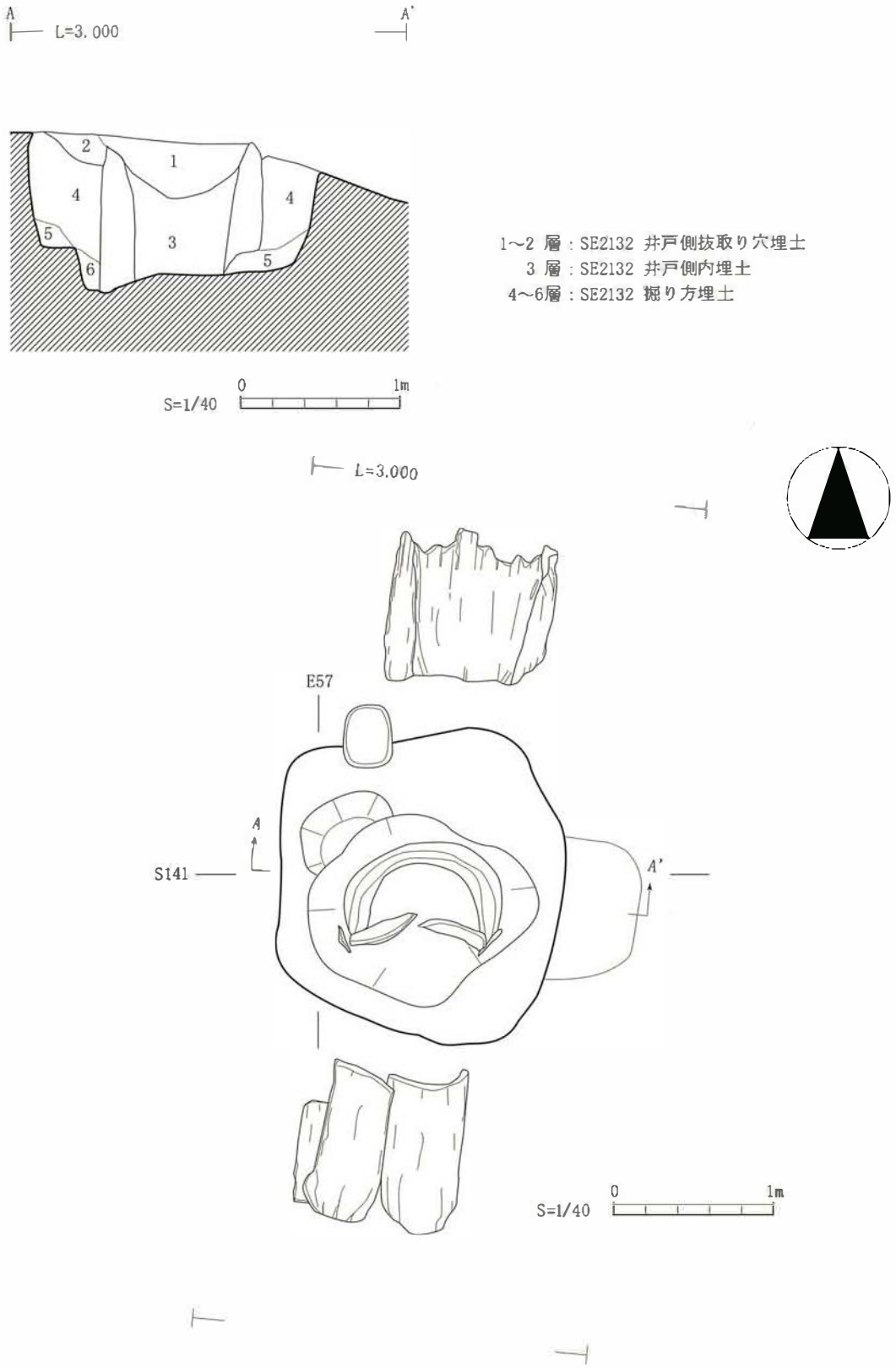
第95図　D102区 SI2128A・B平面図・断面図



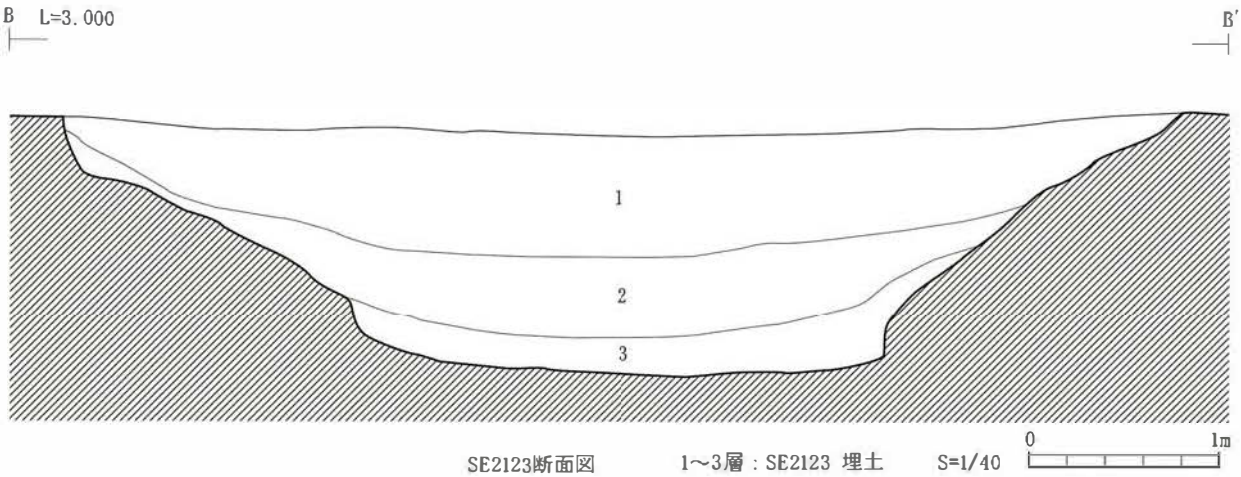
第96図　D27区SE874平面図・立面図・断面図



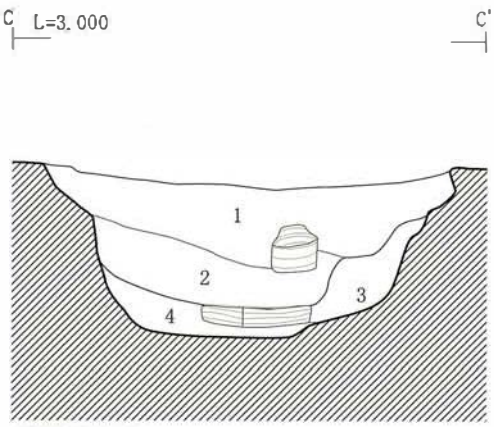
第97図　88区SE2119井戸跡平面図・立面図・断面図



第98図　D102区SE2132平面図・立面図・断面図

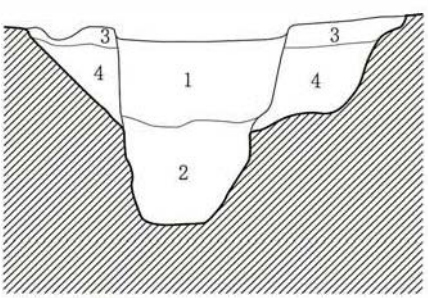


SE2123断面図　1～3層：SE2123 埋土　S=1/40　0　1m



SE2129断面図

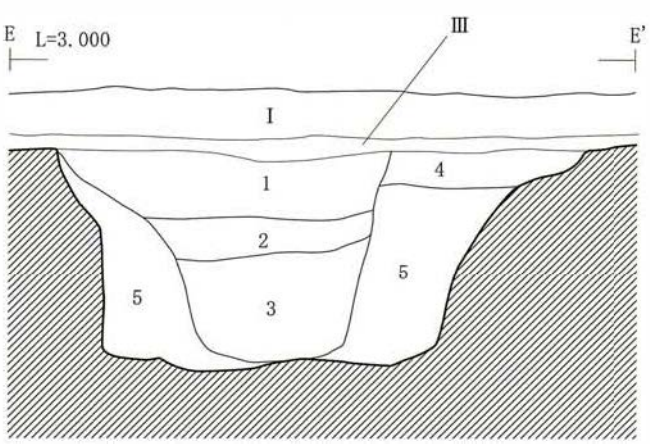
1～2層：SE2129 井戸側抜取り穴埋土
3～4層：SE2129 掘り方埋土



SE2130断面図

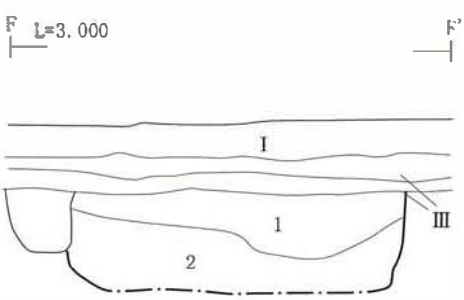
1～2層：SE2130 井戸側抜取り穴埋土
3～4層：SE2130 掘り方埋土

S=1/40　0　1m



SE2131断面図

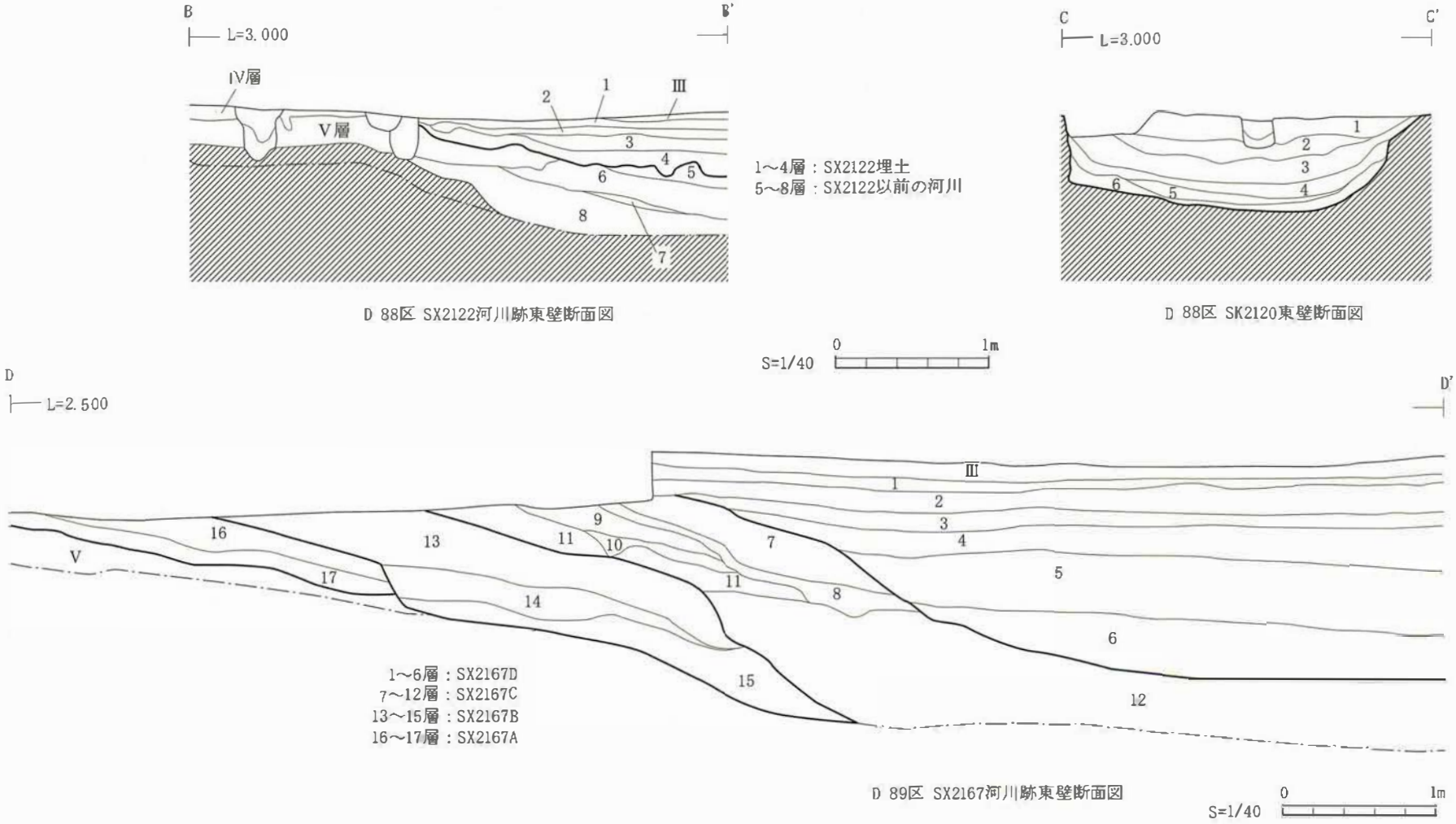
1～3層：SE2131 井戸側抜取り穴埋土
4～5層：SE2131 掘り方埋土



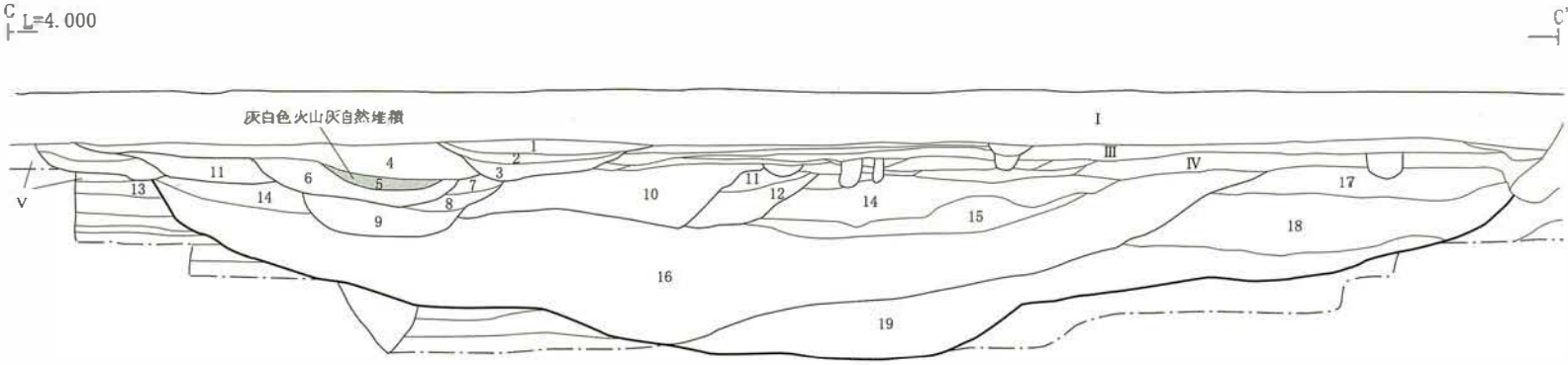
SE2133断面図　1～2層：SE2133 井戸側抜取り穴埋土

S=1/40　0　1m

第99図　D102区SE2123・2129・2130・2131・2133断面図



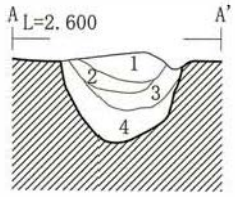
第100図　D88・89区 SK2120・SX2122・SX2167断面図



1～3層：SD2098　埋土
4～6層：SD2099　埋土
7～9層：SD2100　埋土
10層：SX2101D 埋土
11～12層：SX2101C 埋土
13層：SX2422整地層
14～16層：SX2101B 埋土
17～19層：SX2101A 埋土

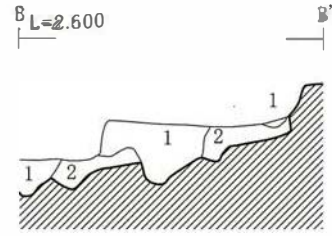
S=1/100　0　5　10m

83区 SX2101ほか西壁断面図



1～4層：SX2089 埋土

SX2089 断面図

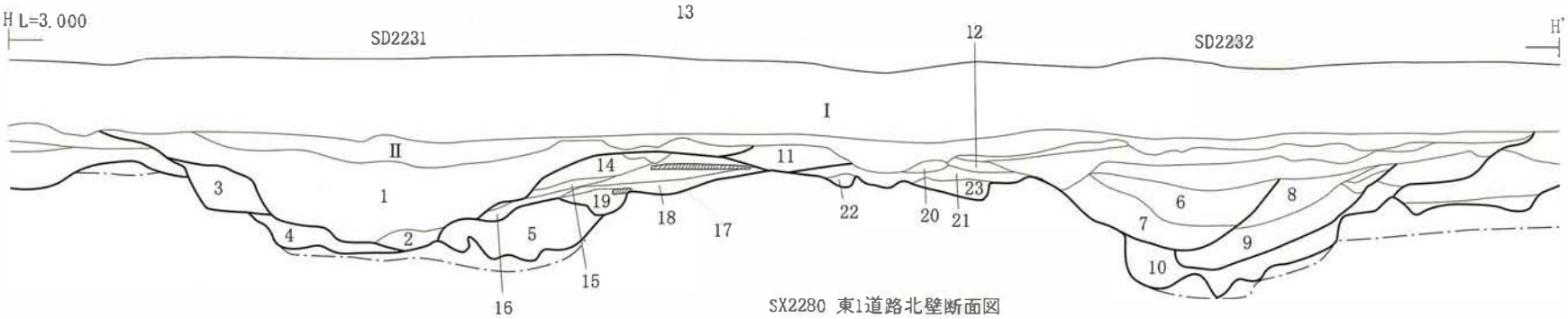


1層：SA2088 抜取り穴
2層：SA2088 掘り埋土

SA2088 断面図

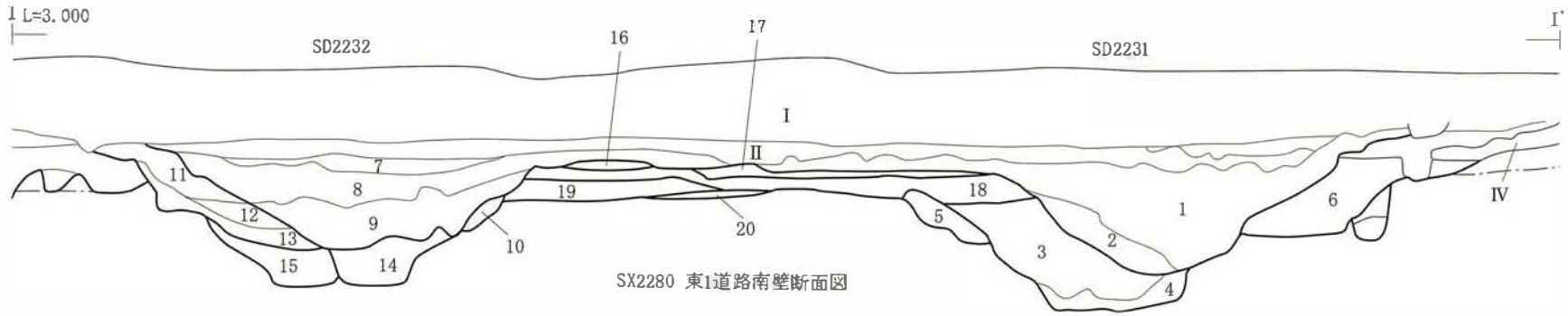
第101図　D83区SX2101・2089・SA2088ほか断面図

1m



SX2280 東1道路北壁断面図

1～2層：SD2231(e) 埋土
3層：SD2231(d) 埋土
4層：SD2231(a) 埋土
5層：SD2231(c) 埋土
6～7層：SD2232(e) 埋土
8～9層：SD2232(d) 埋土
10層：SD2232(b) 埋土
11層：SX2280(c) 路面
12～23層：SX2280(b) 埋土

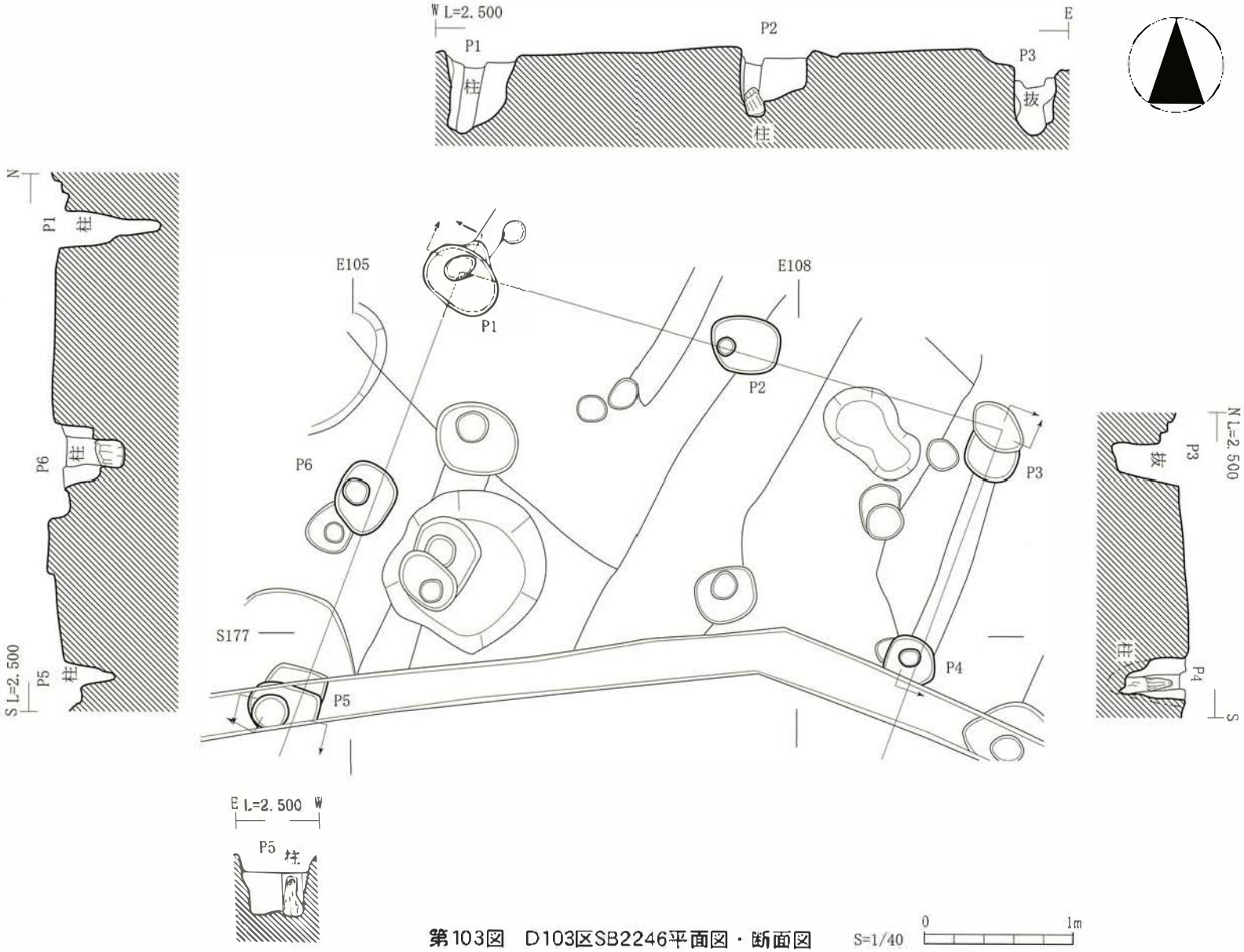


SX2280 東1道路南壁断面図

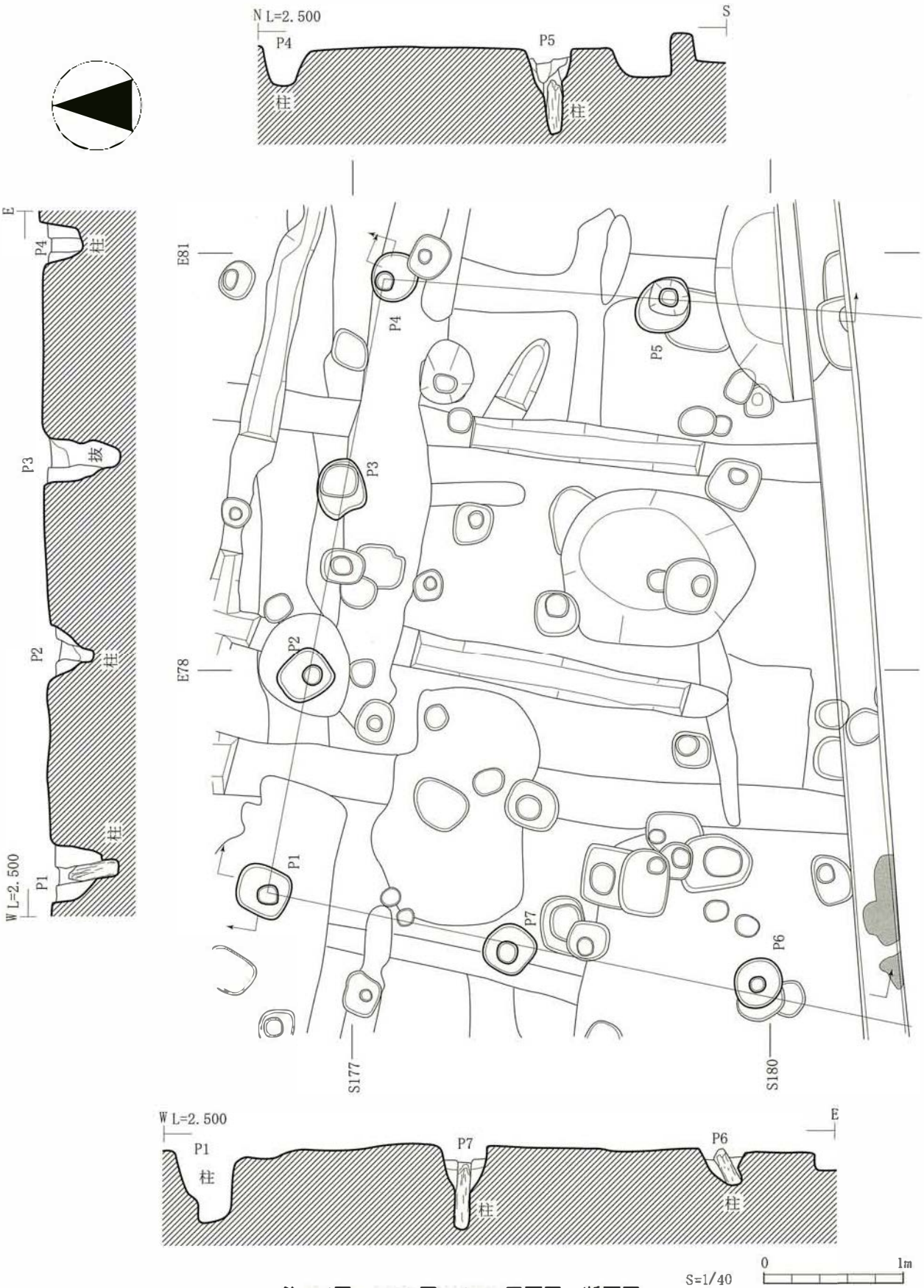
1～2層：SD2231(e) 埋土
3～4層：SD2231(c) 埋土
5層：SD2231(b) 埋土
6層：SD2231(a) 埋土
7～9層：SD2232(e) 埋土
10層：SD2232(d) 埋土
11～13層：SD2232(c) 埋土
14層：SD2232(b) 埋土
15層：SD2232(a) 埋土
16～17層：SX2280(d) 埋土
18層：SX2280(c) 埋土
19層：SX2280(b) 埋土
20層：SX2280(a) 埋土

S=1/40 0 1m

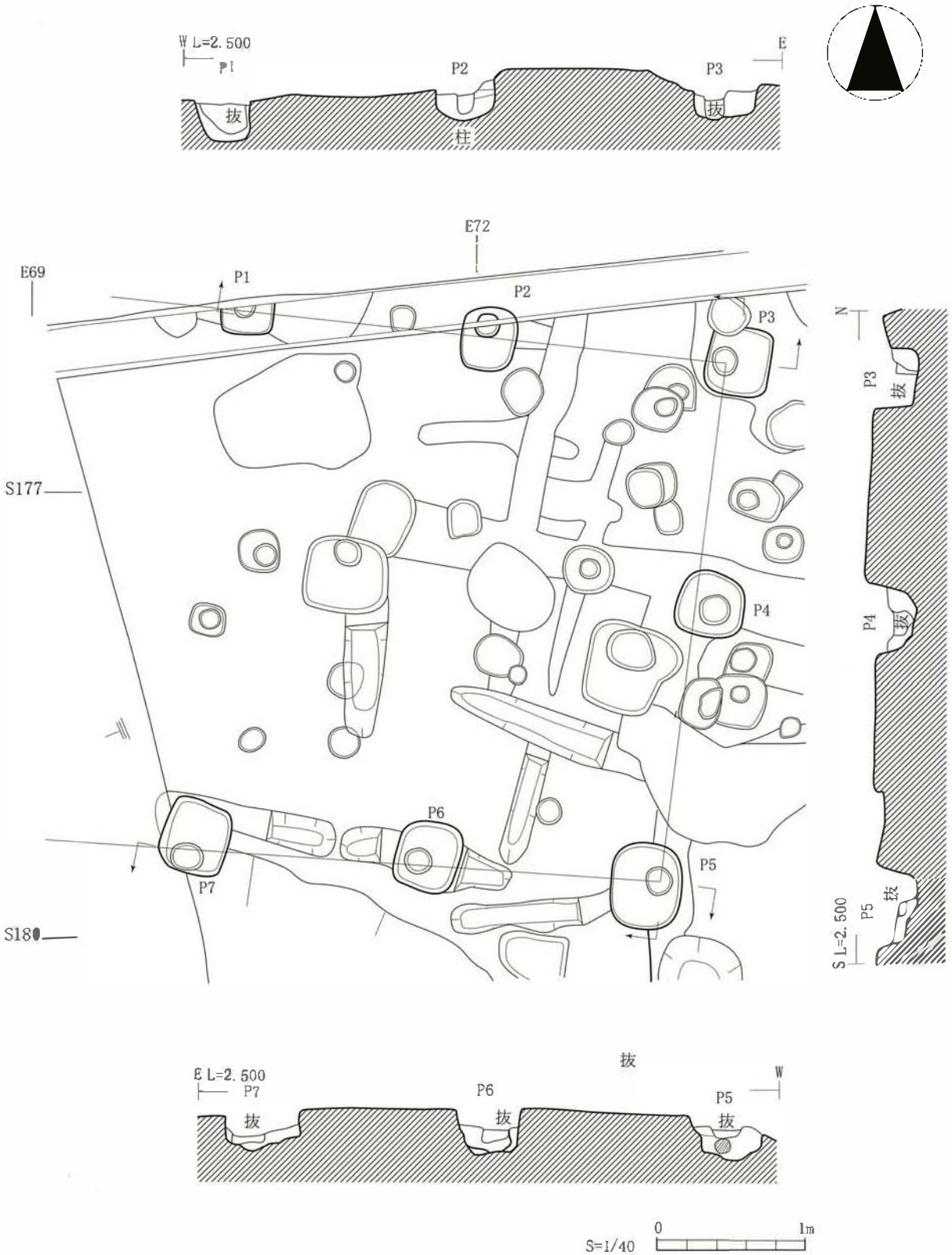
第102図 D103区SX2280東1道路断面図



第103図　D103区SB2246平面図・断面図

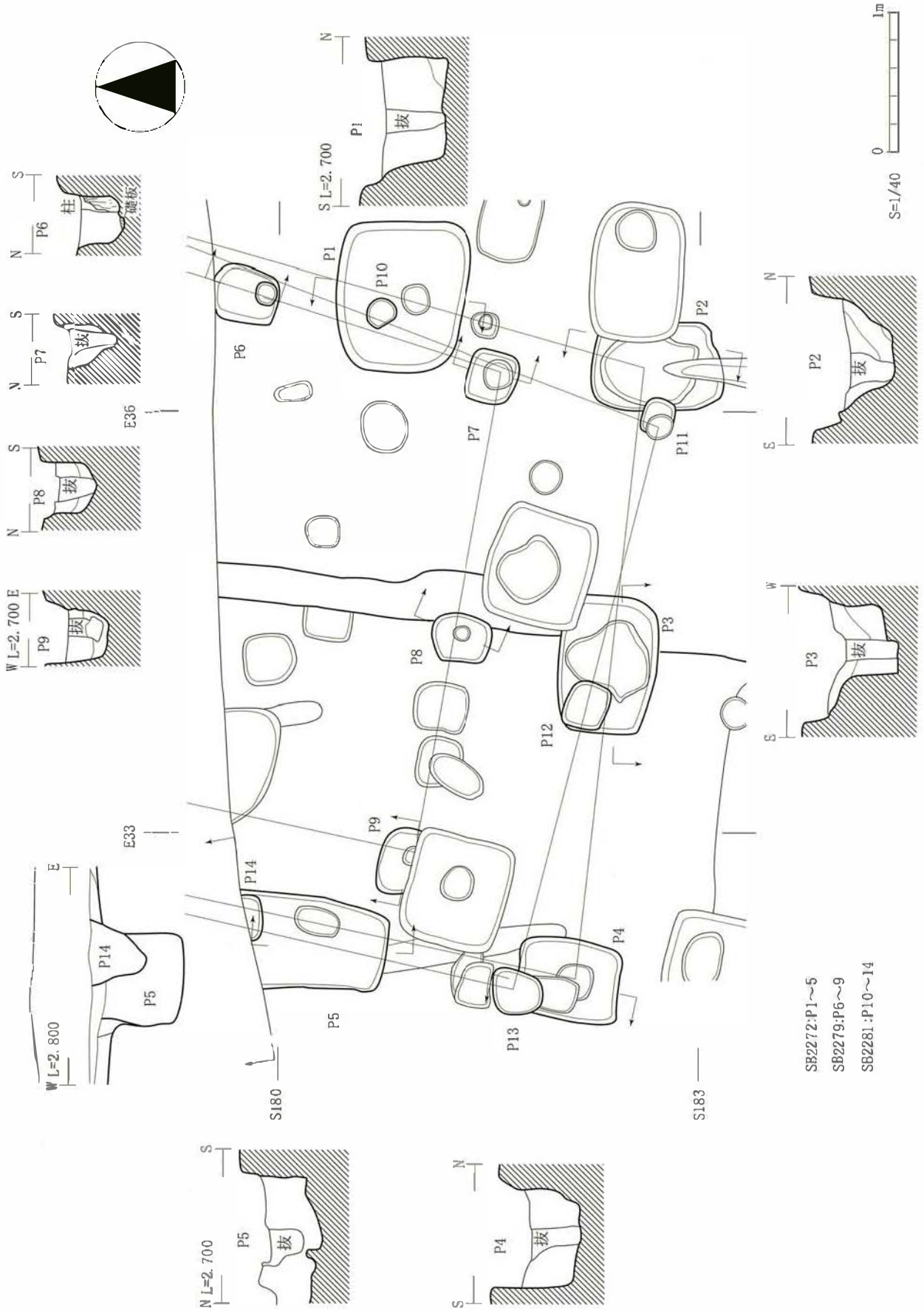


第104図　D103区SB2253平面図・断面図

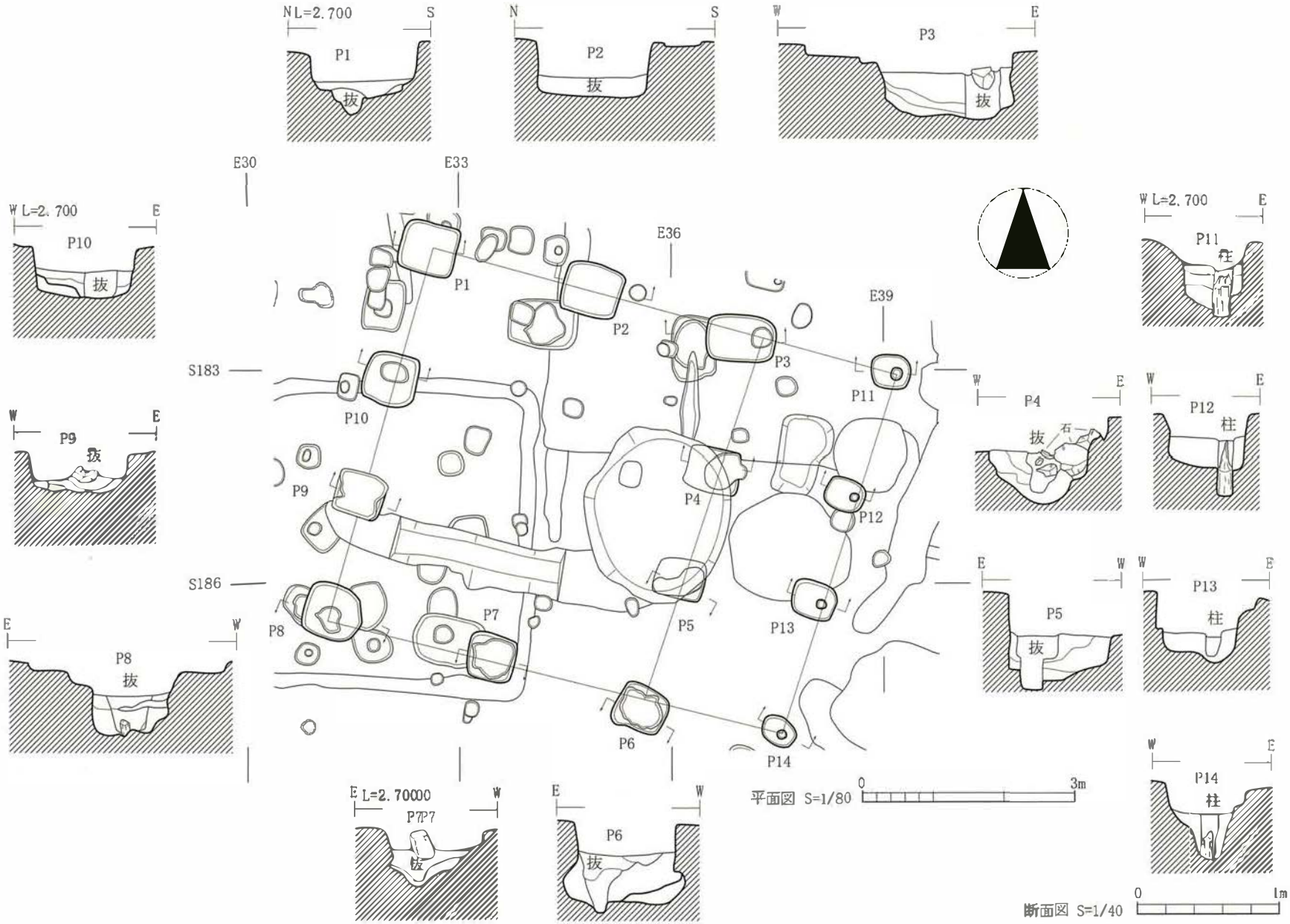


第105図　D103区SB2245平面図・断面図

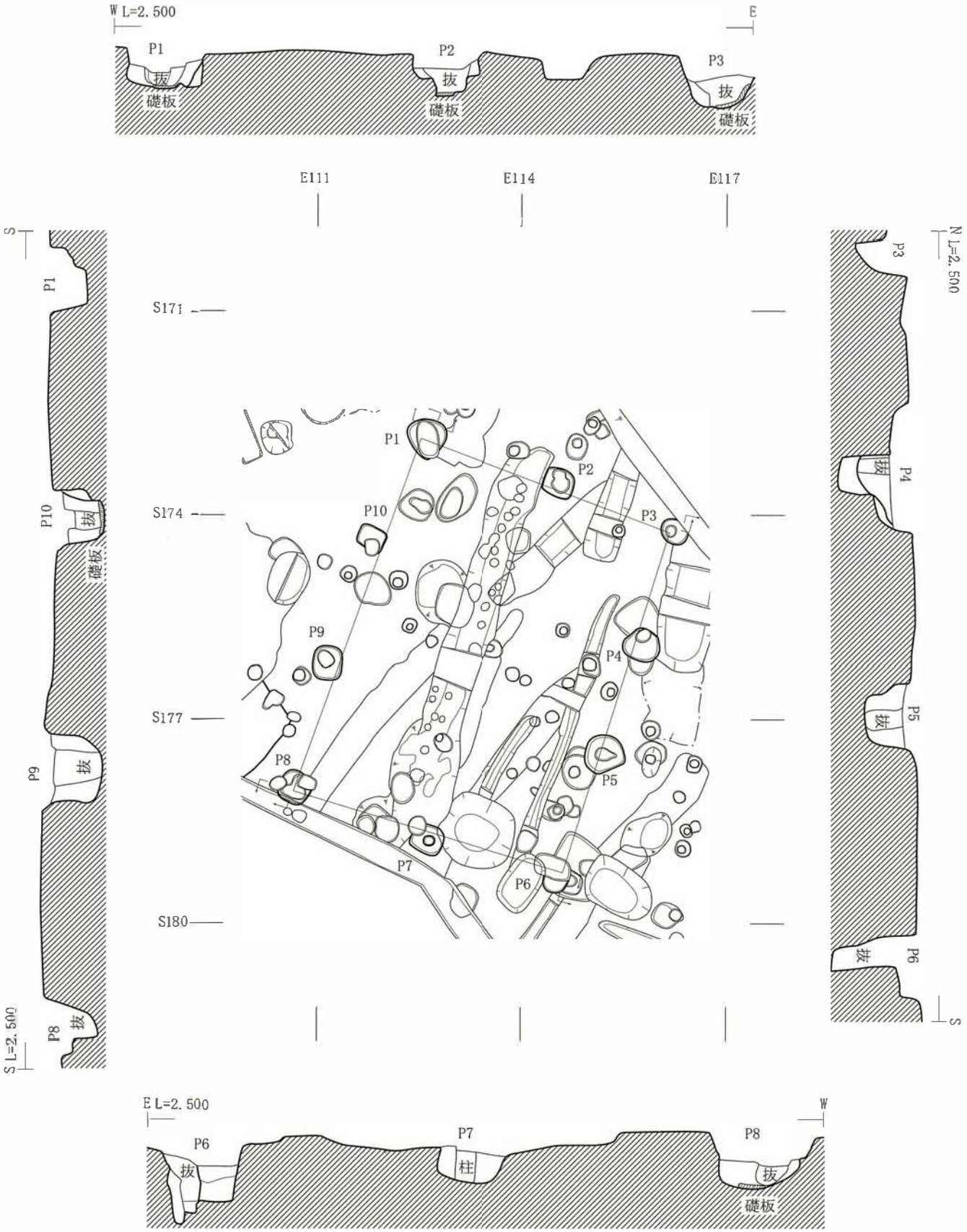
第106図　D103区SB2266平面図・断面図



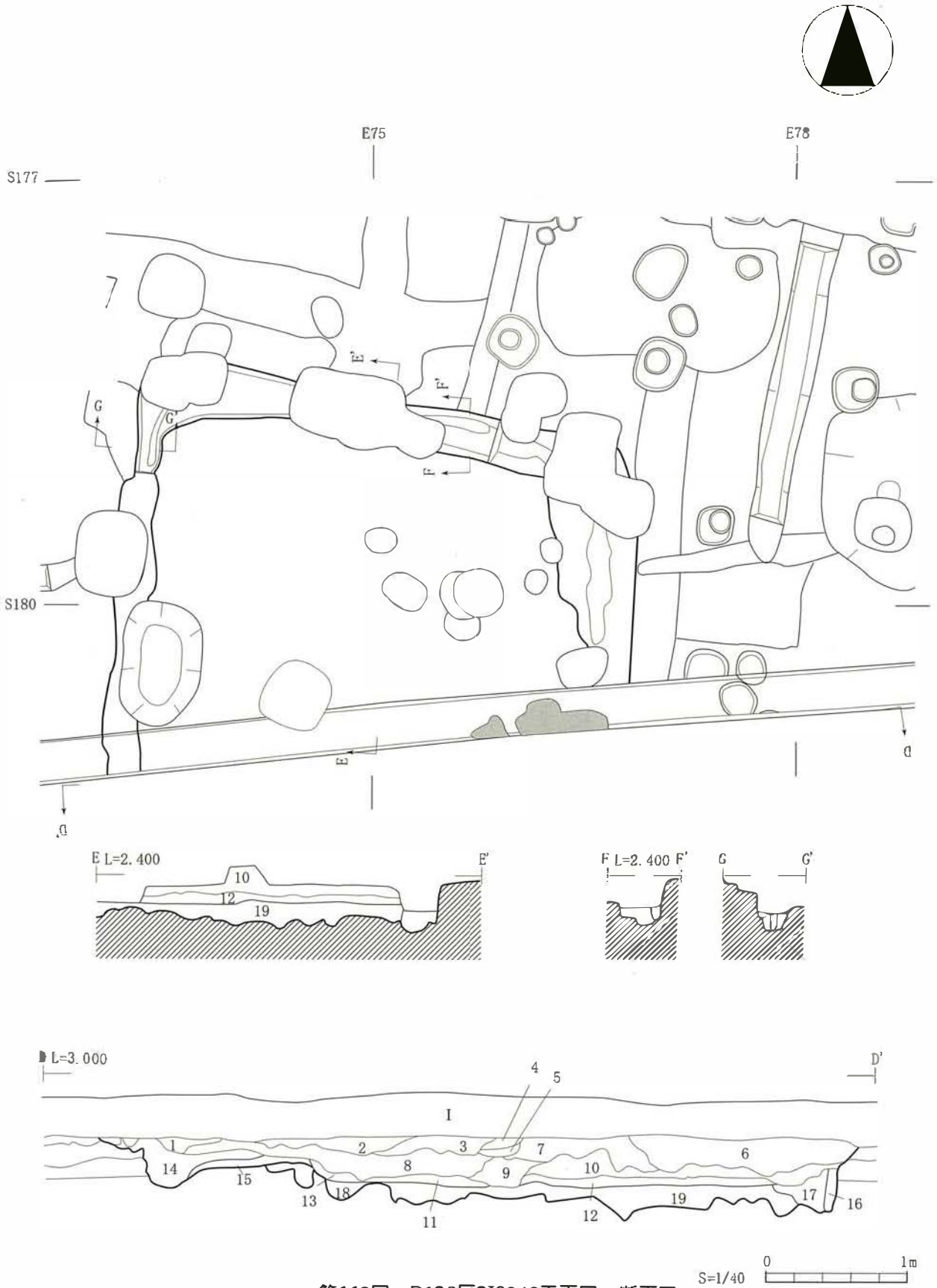
第107図　D103区SB2272・2279・2281平面図・断面図



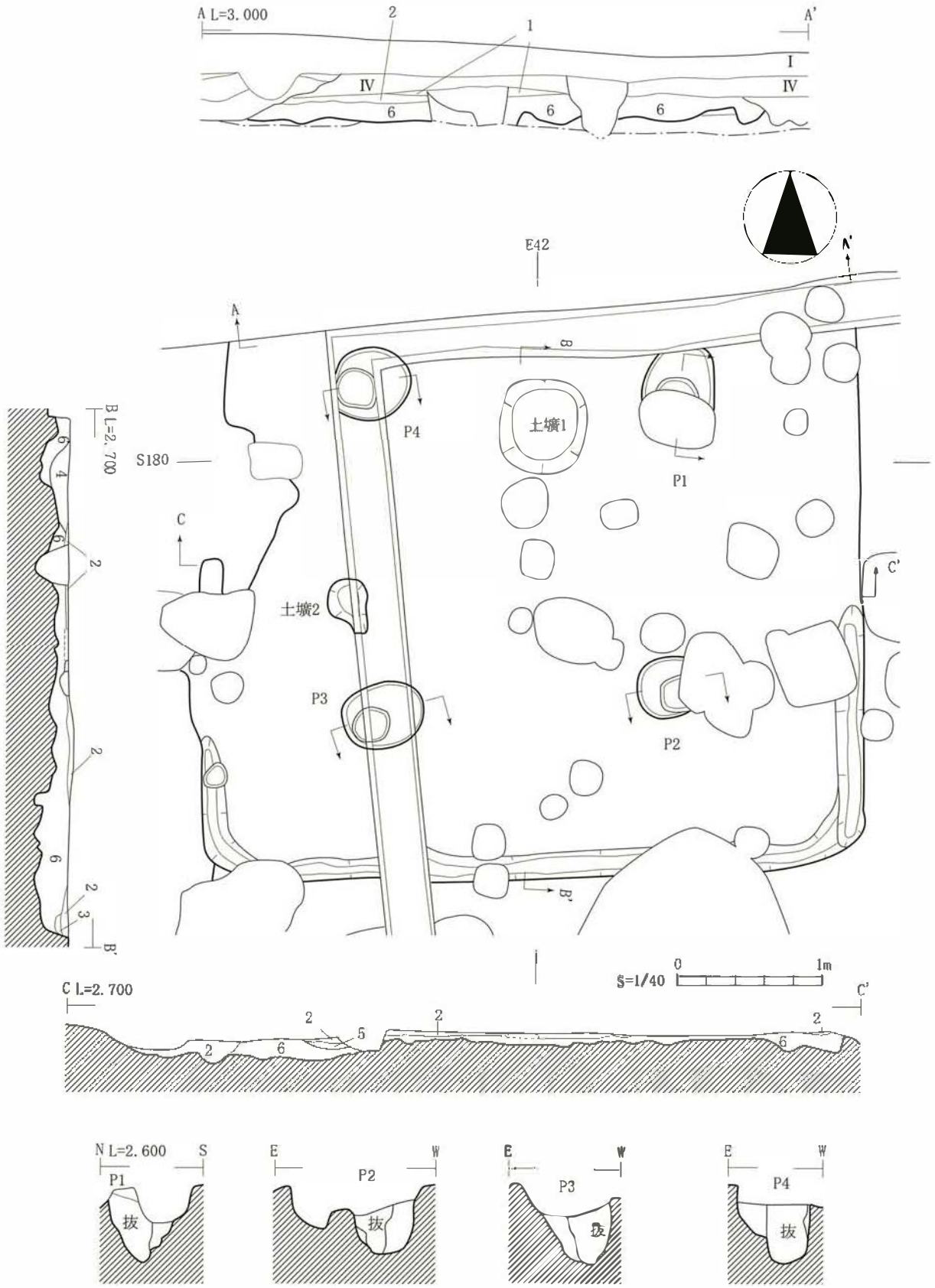
第108図 D103区SB2267平面図・断面図



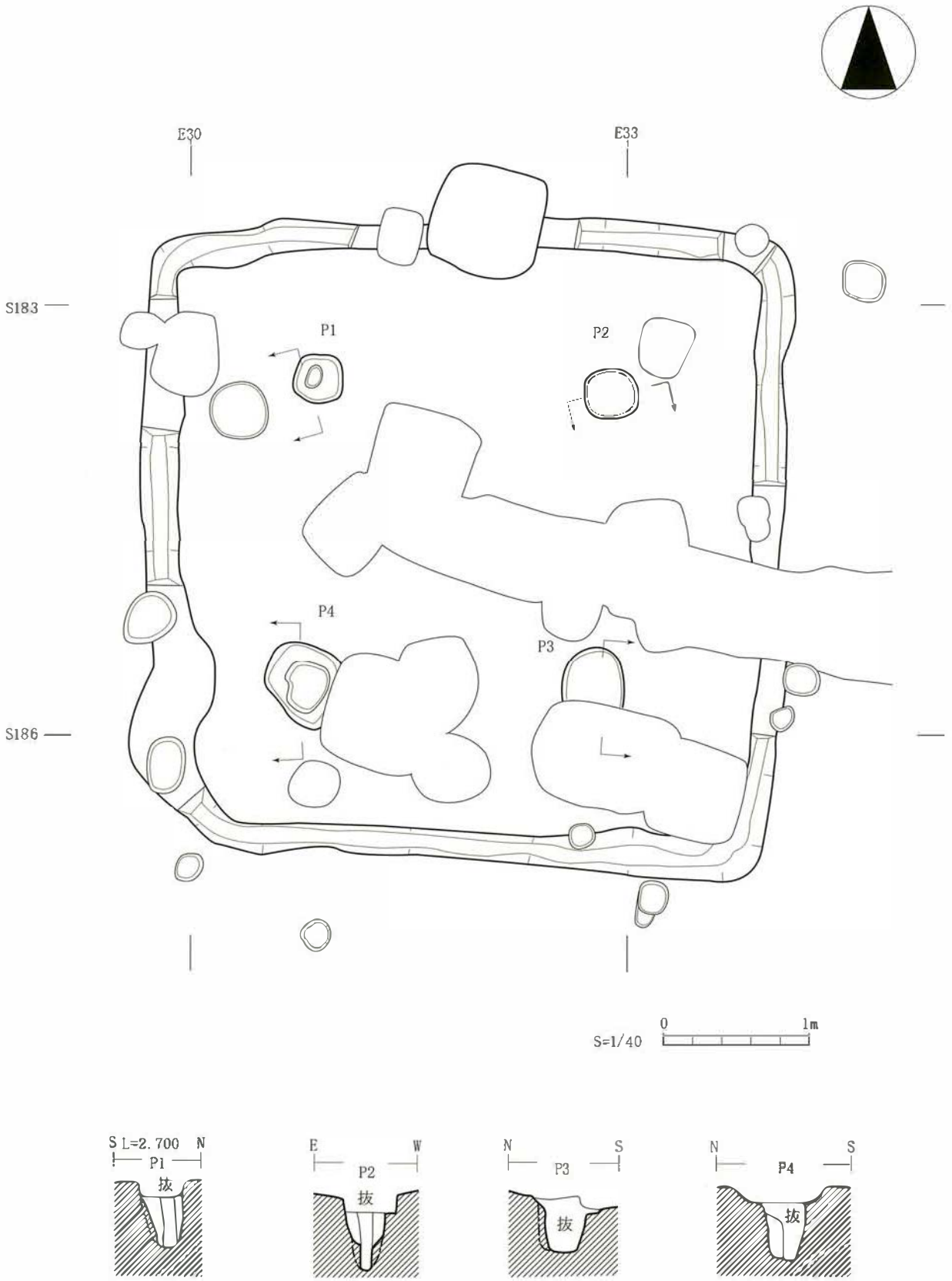
第109図　D106区SB1994平面図・断面図　S=1/40



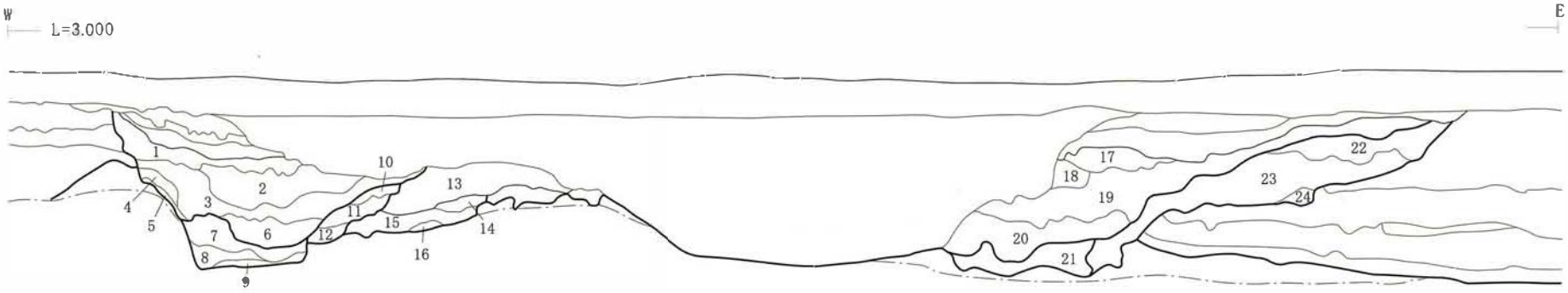
第110図　D103区SI2242平面図・断面図



第111図　D103TSI2265平面図・断面図

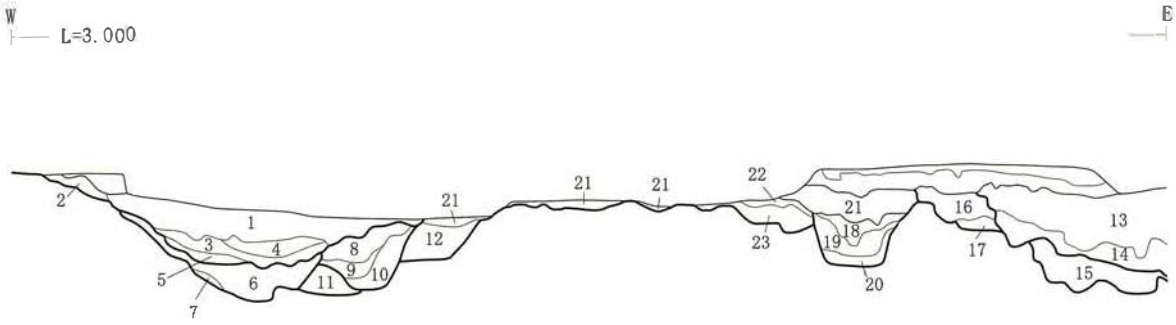


第112図　D103区SI2278平面図・断面図



1～6 層：SD1918e
7～9 層：SD1918d
10～12層：SD1918c
14～16層：SD1918a

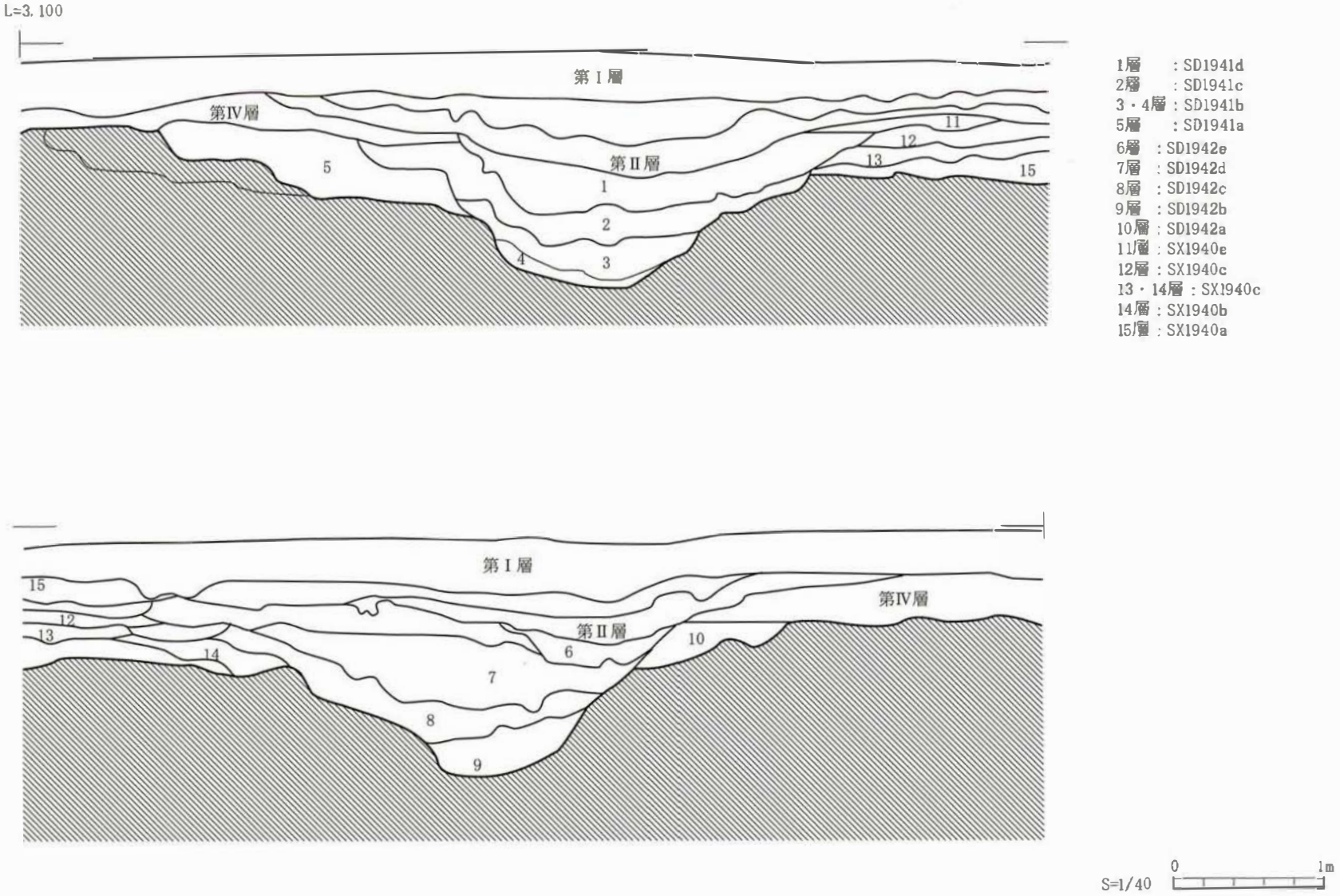
17～20層：SD1919d
21 層：SD1919c
22～24層：SD1919b



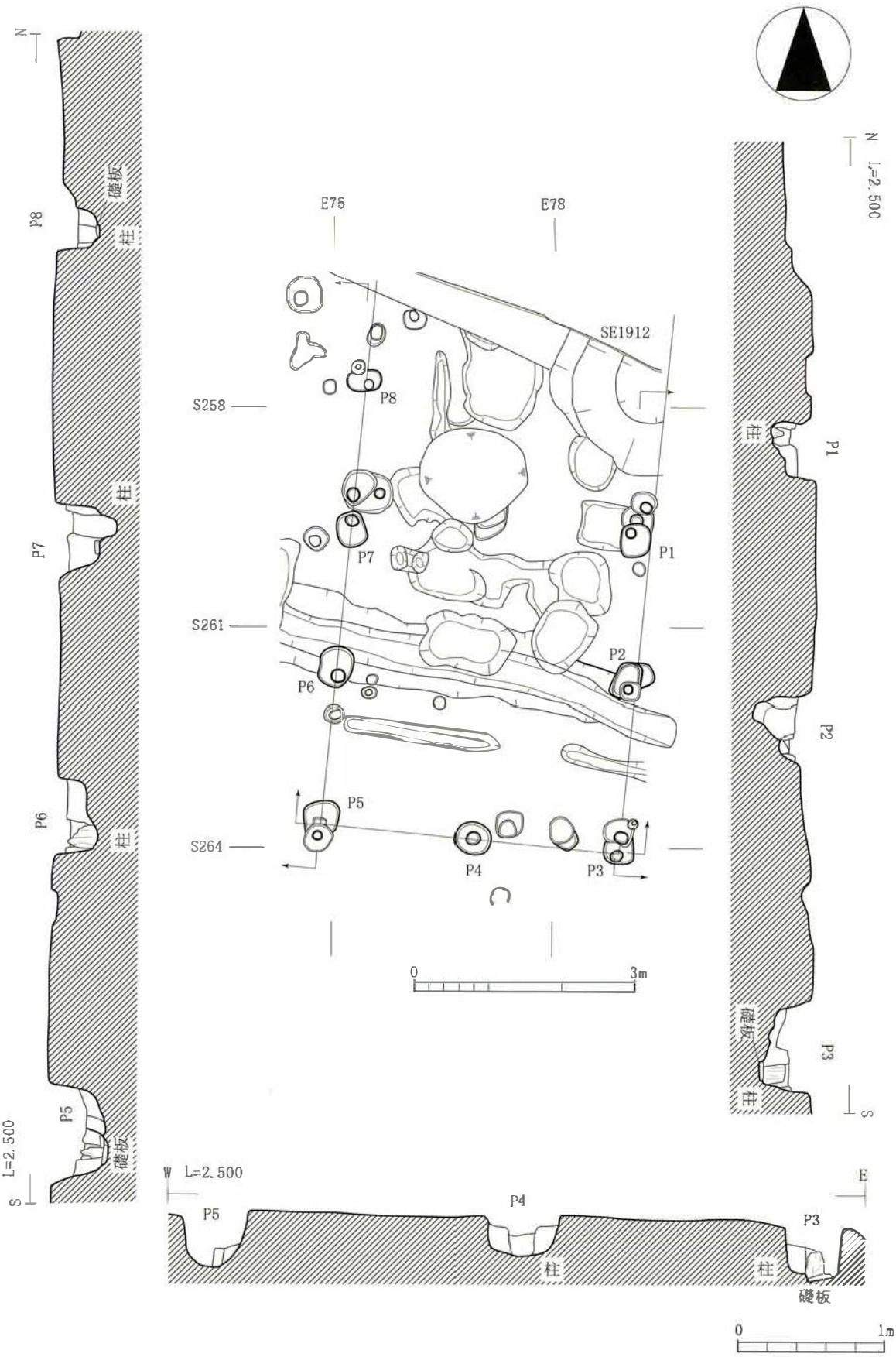
1～5 層：SD1918e
6・7 層：SD1918d
8～10層：SD1918c
11 層：SD1918b
12 層：SD1918a

13・14層：SD1919d
15 層：SD1919c
16・17層：SD1919b
18～20層：SD1919a

第113図　D30区SX1920東１道路断面図

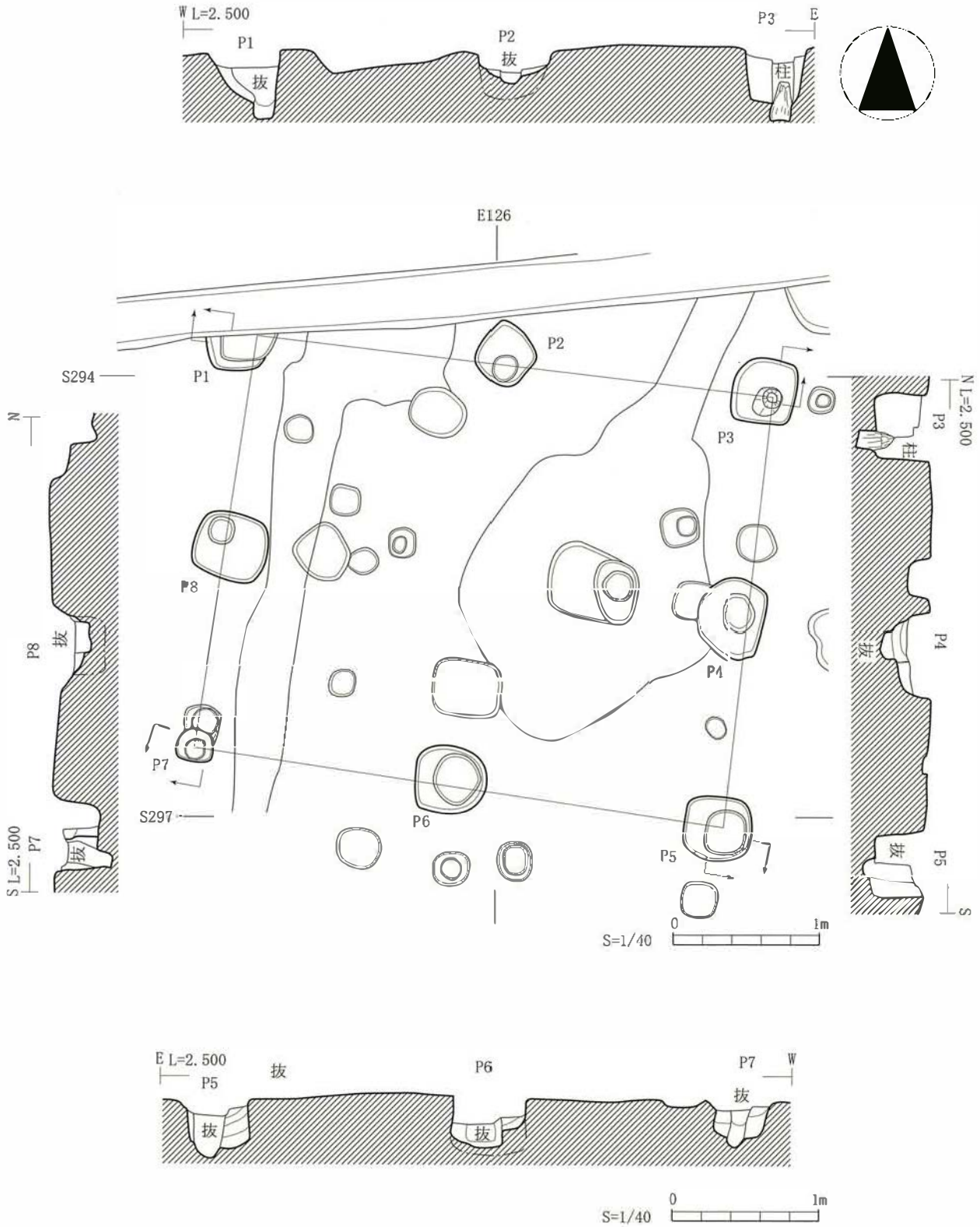


第114図　D104区SX1940東１道路断面図

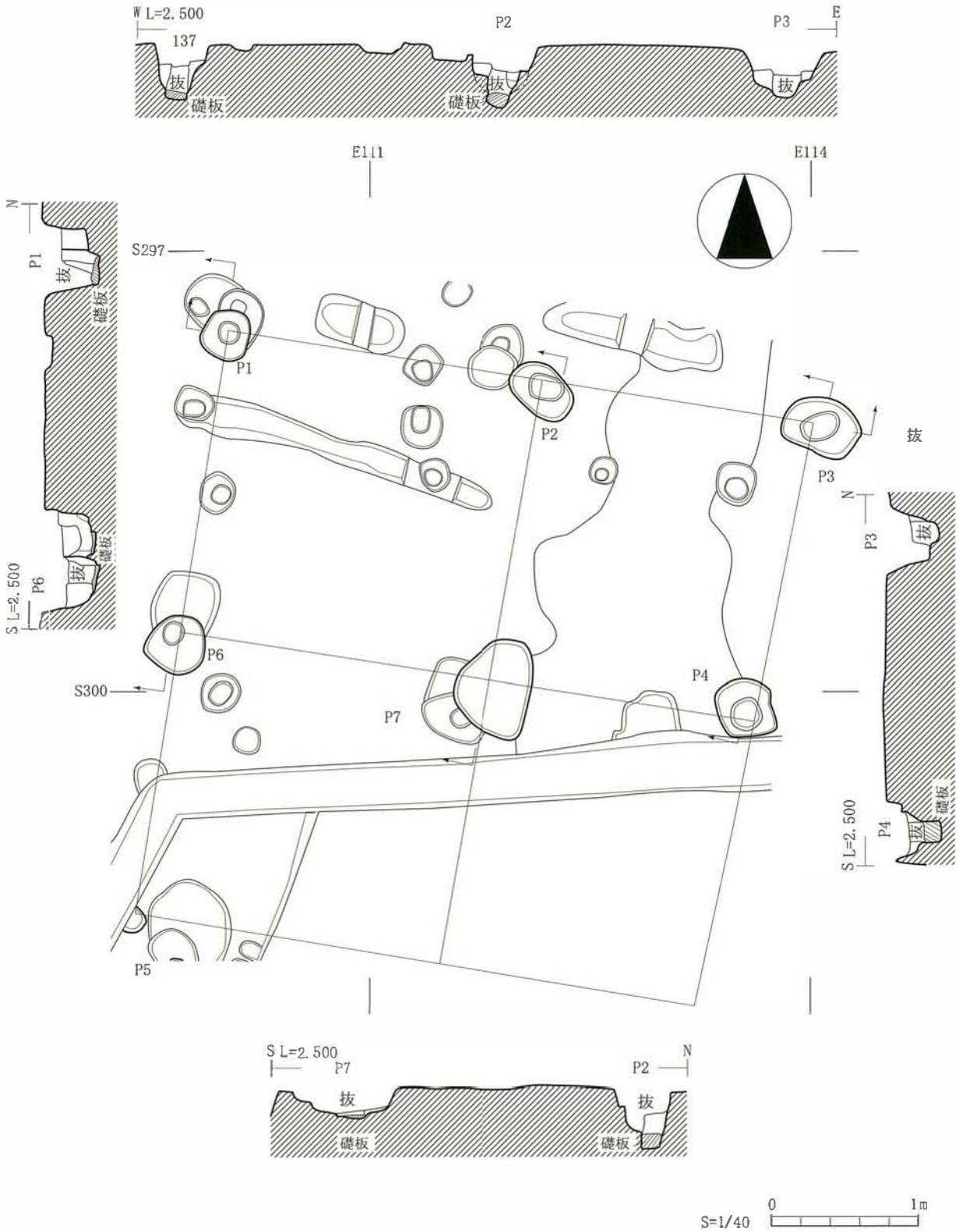


第115図　D30区SB1913平面図・断面図

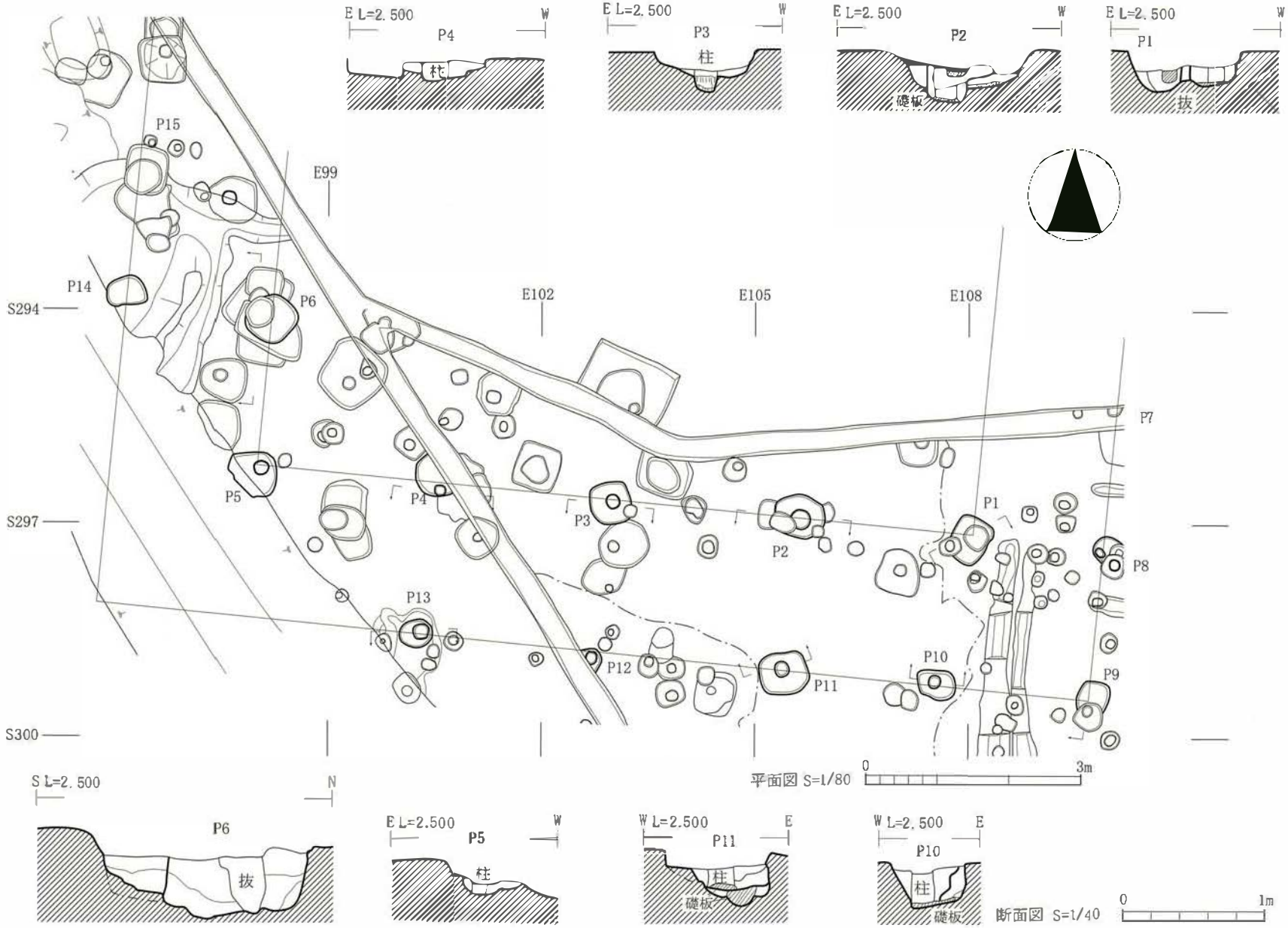
第116図　D92区SB2218平面図・断面図



第117図　D92区SB2219平面図・断面図

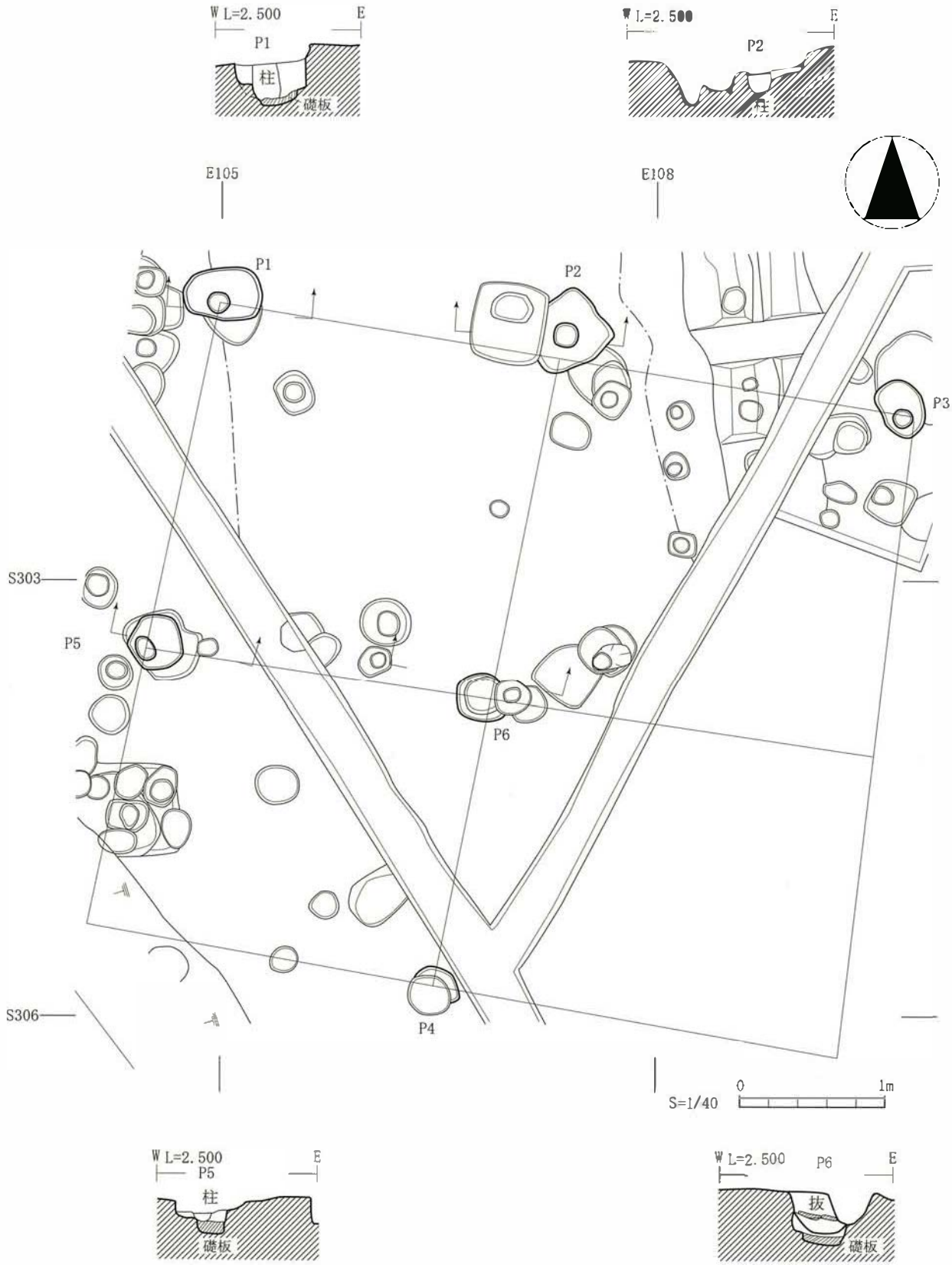


第118図　D92区SB2222平面図・断面図



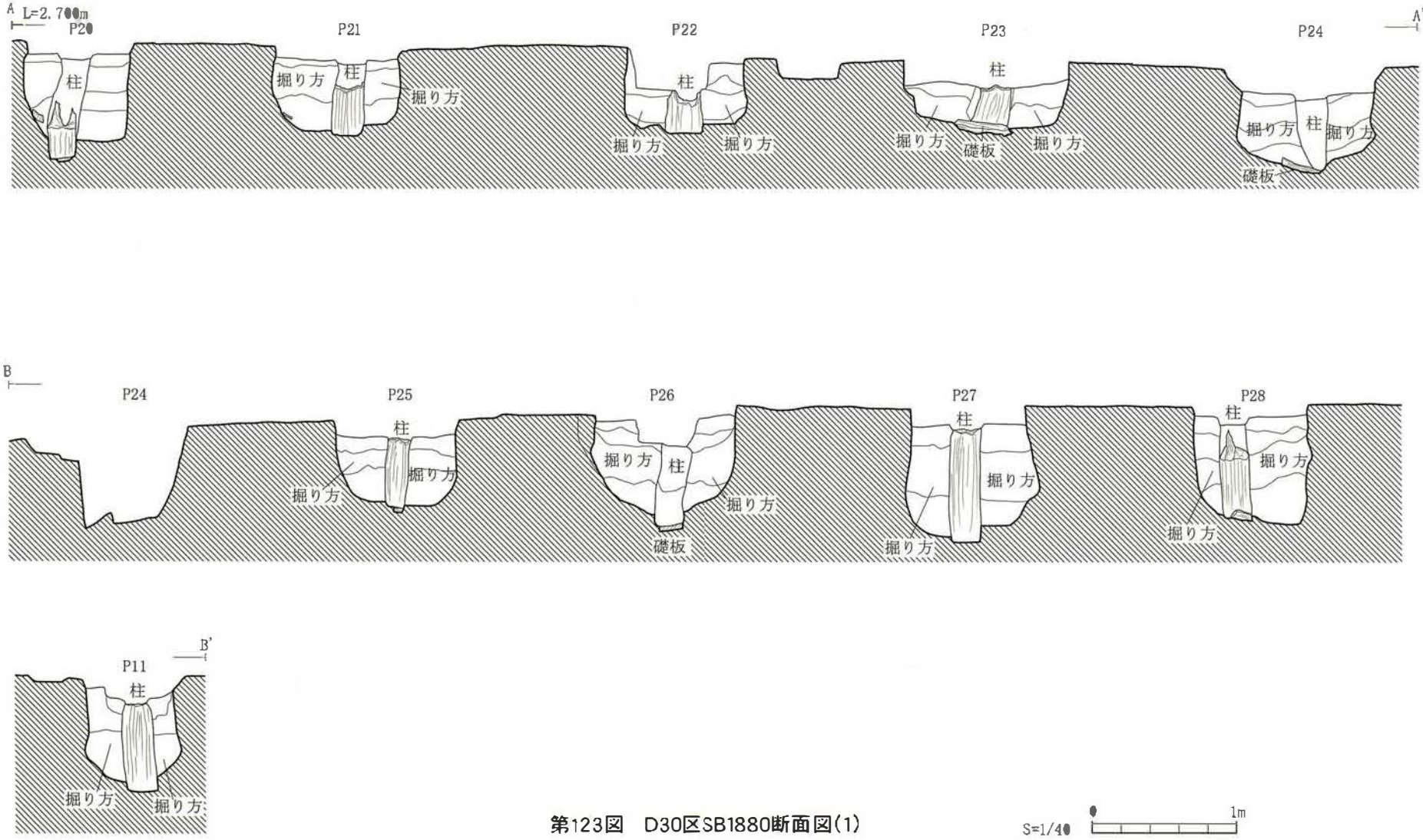
第119図　D92TSB2221平面図・断面図

第120図　D92区SB2220平面図・断面図



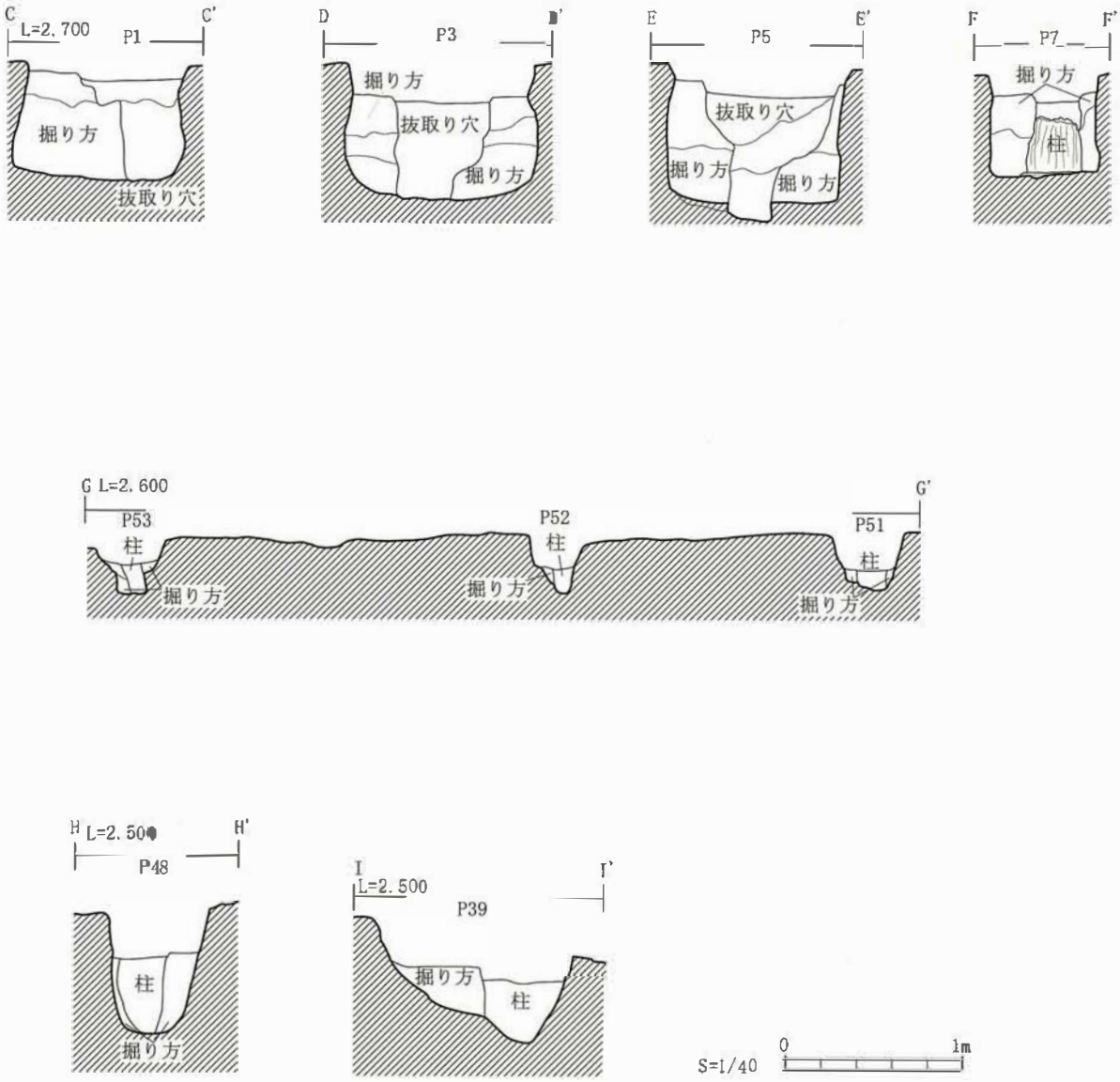
第121図　D92区SB2223平面図・断面図

第122図　D111区SB1880ほか

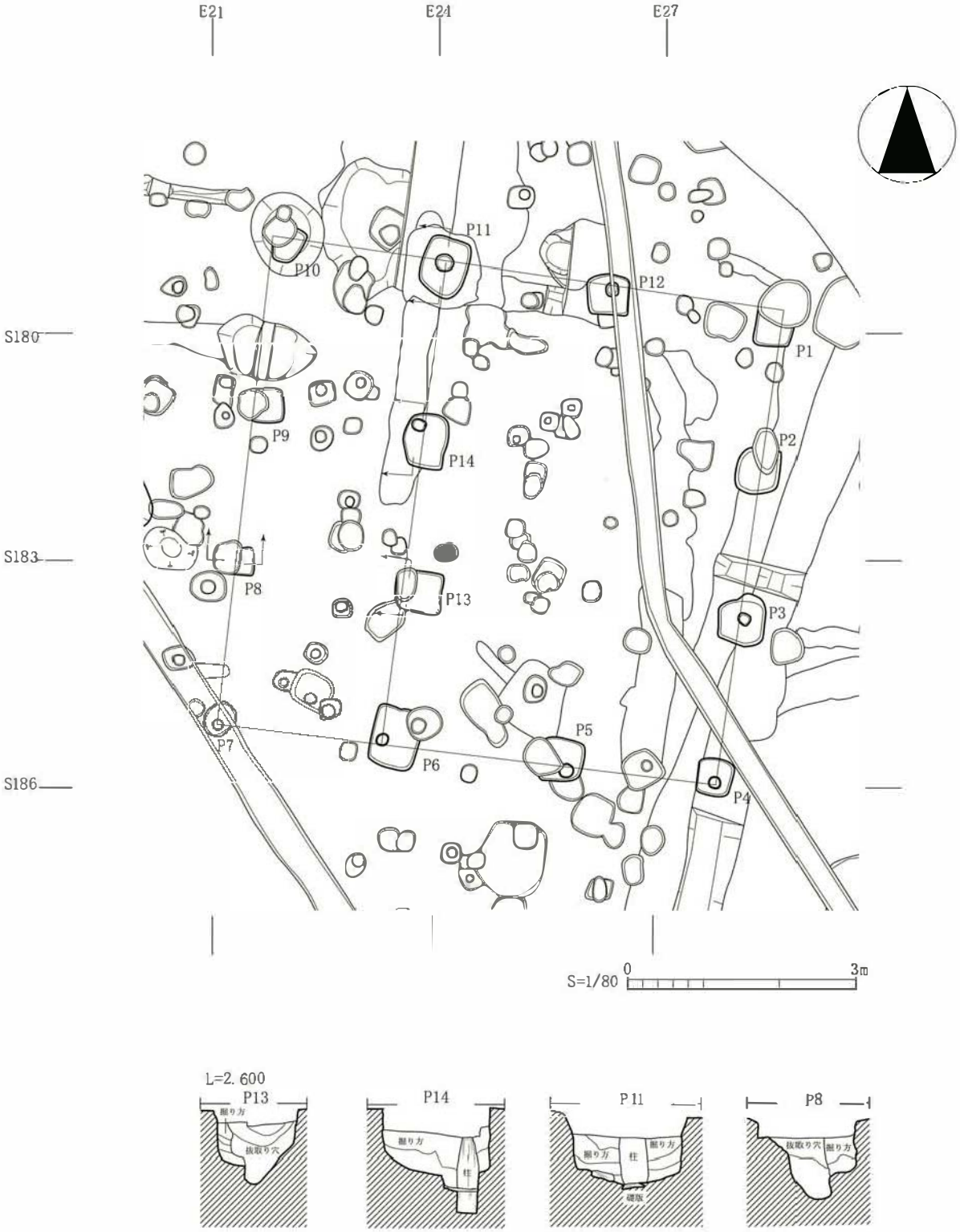


第123図　D30区SB1880断面図(1)

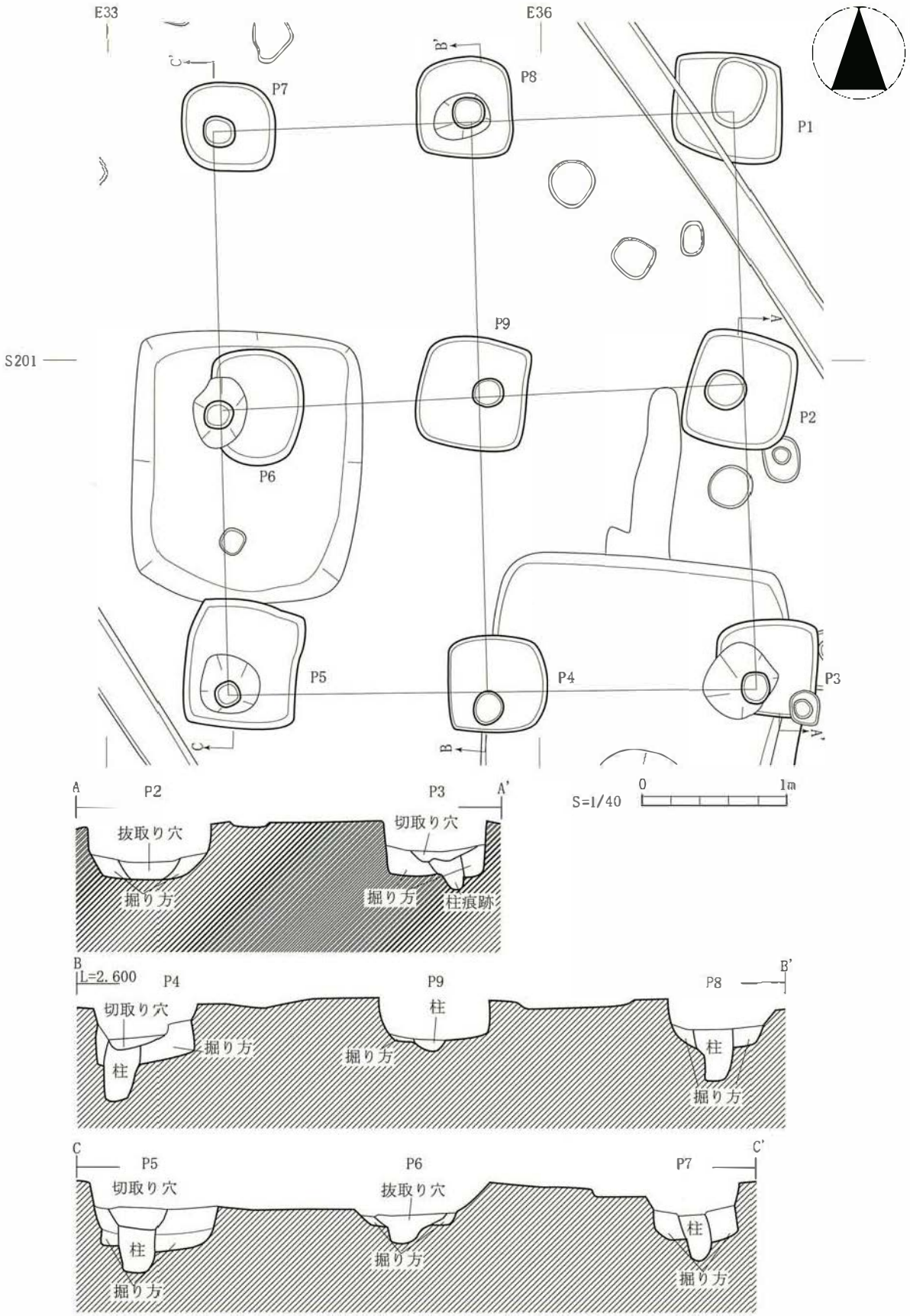
S=1/40　1m



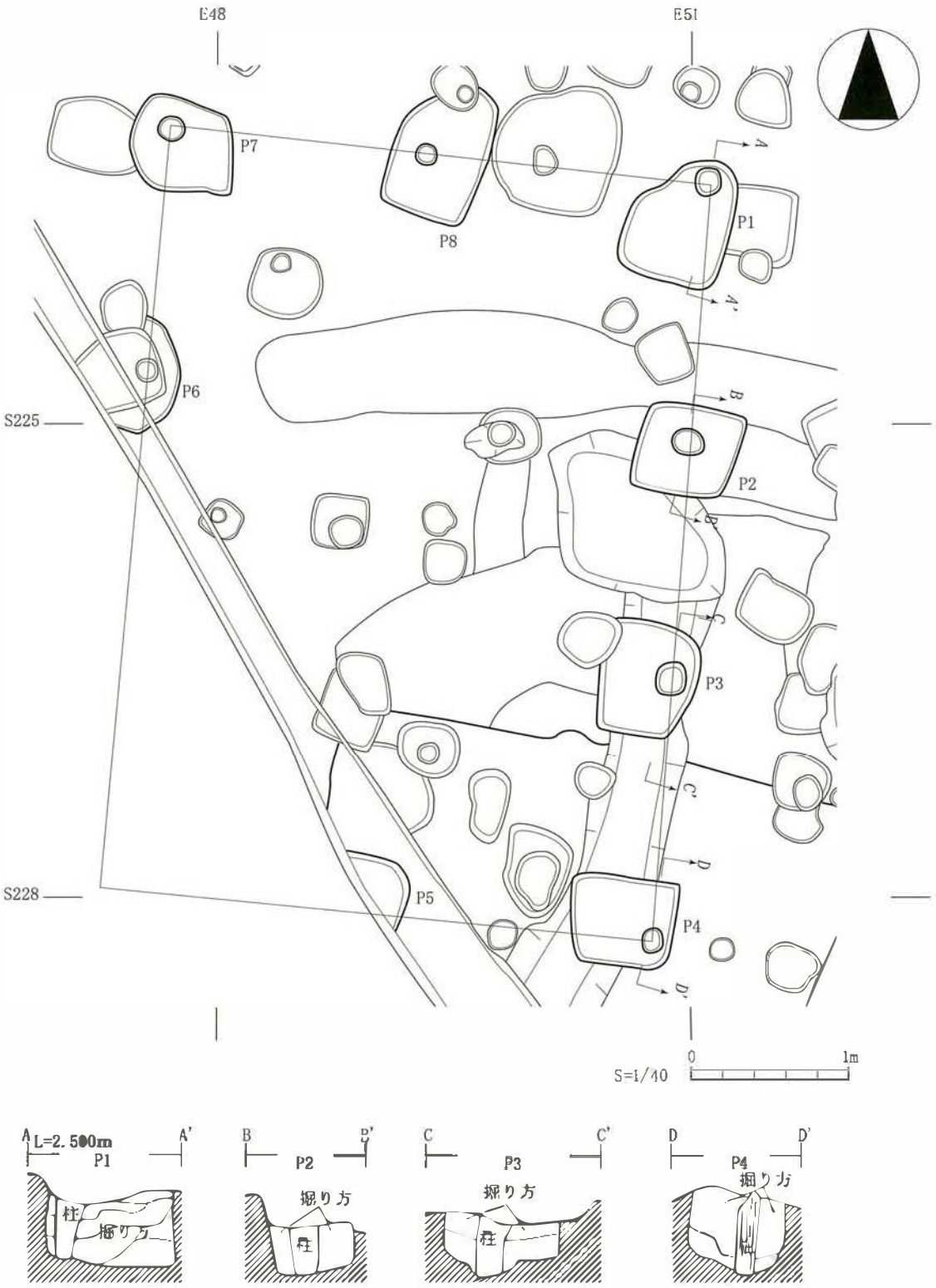
第124図　D30区SB1880(2)・1881断面図



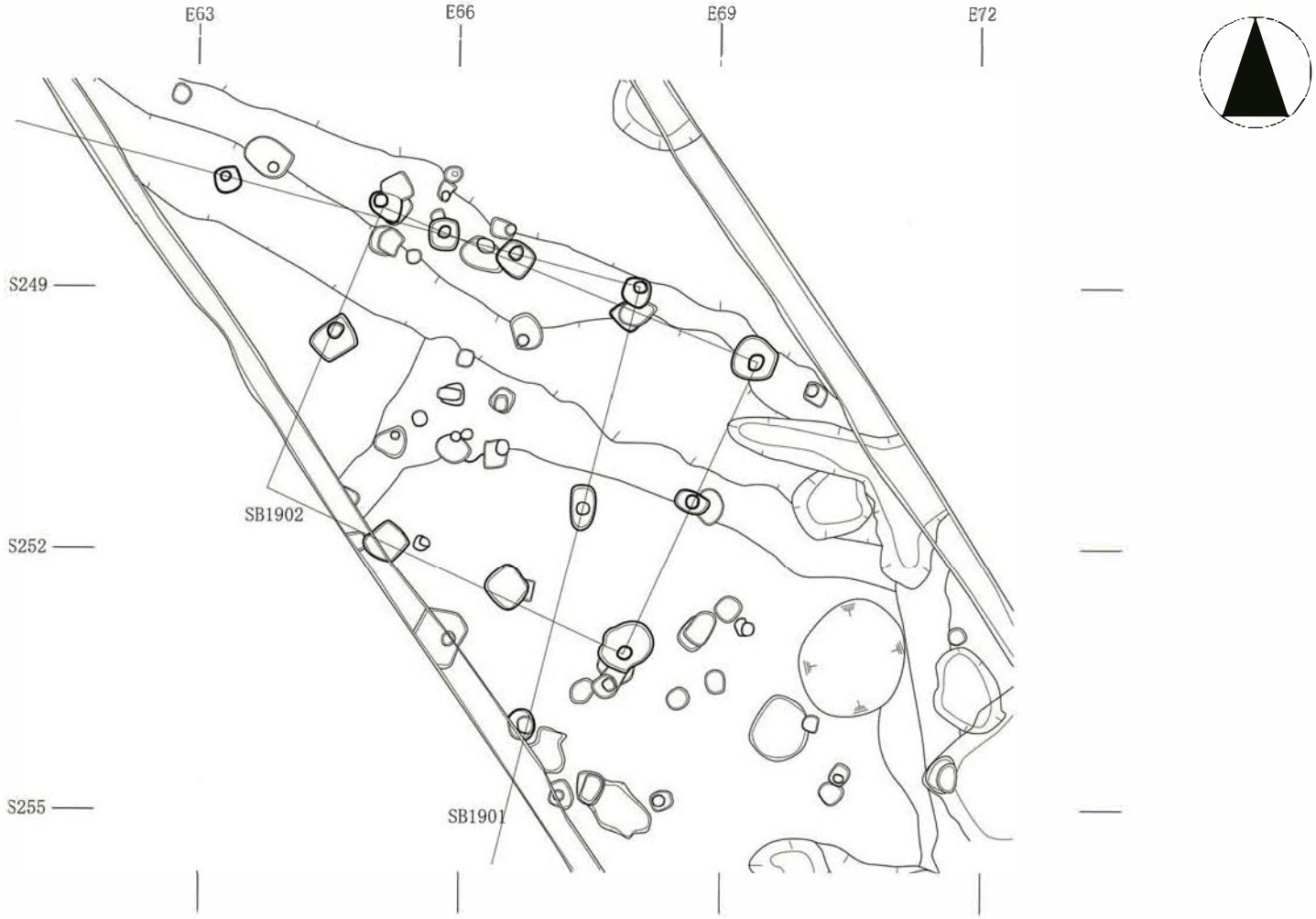
第125図　D30区SB187平面図・断面図



第126図　D30区SB1876平面図・断面図

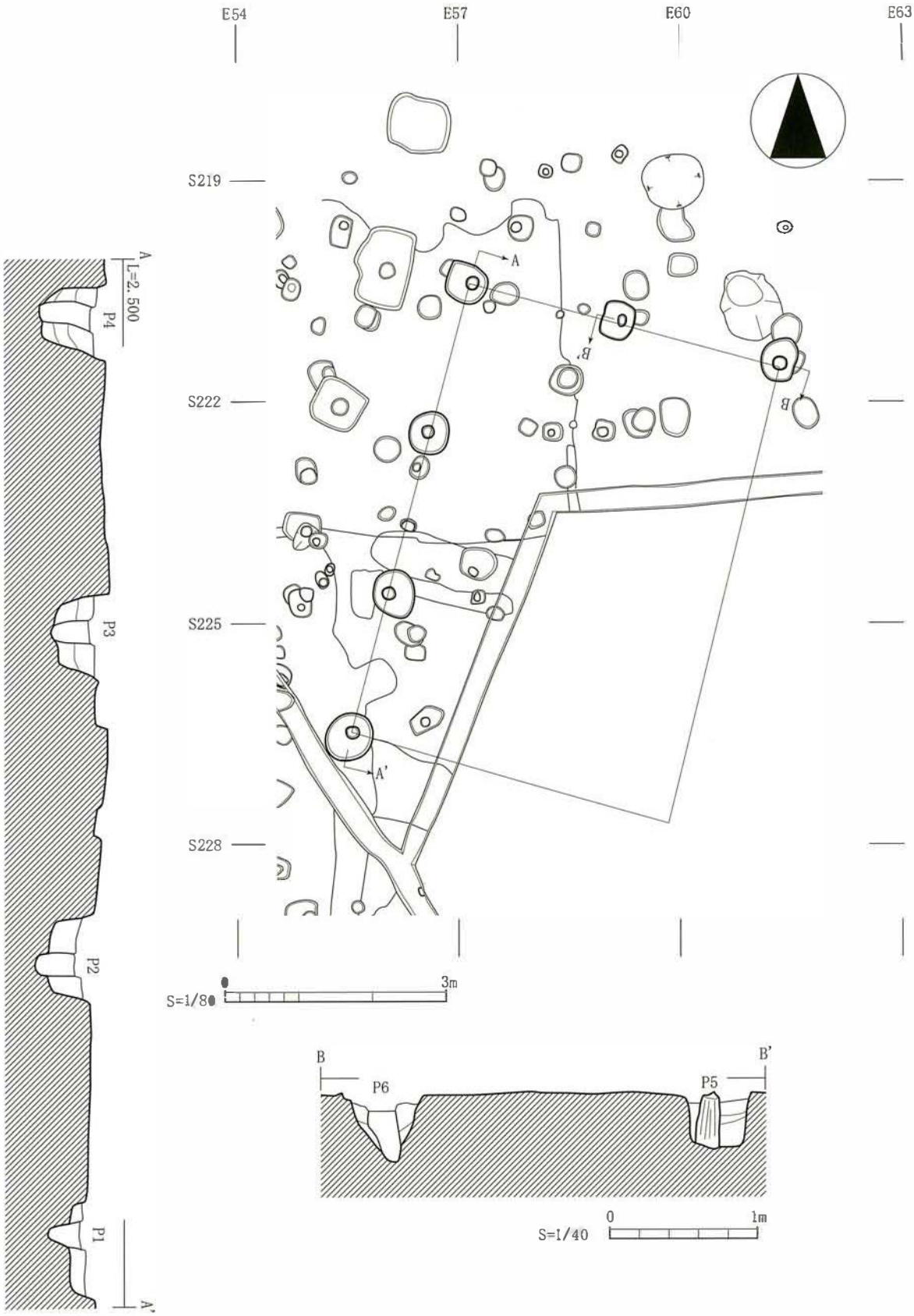


第127図　D30区SB1882平面図・断面図

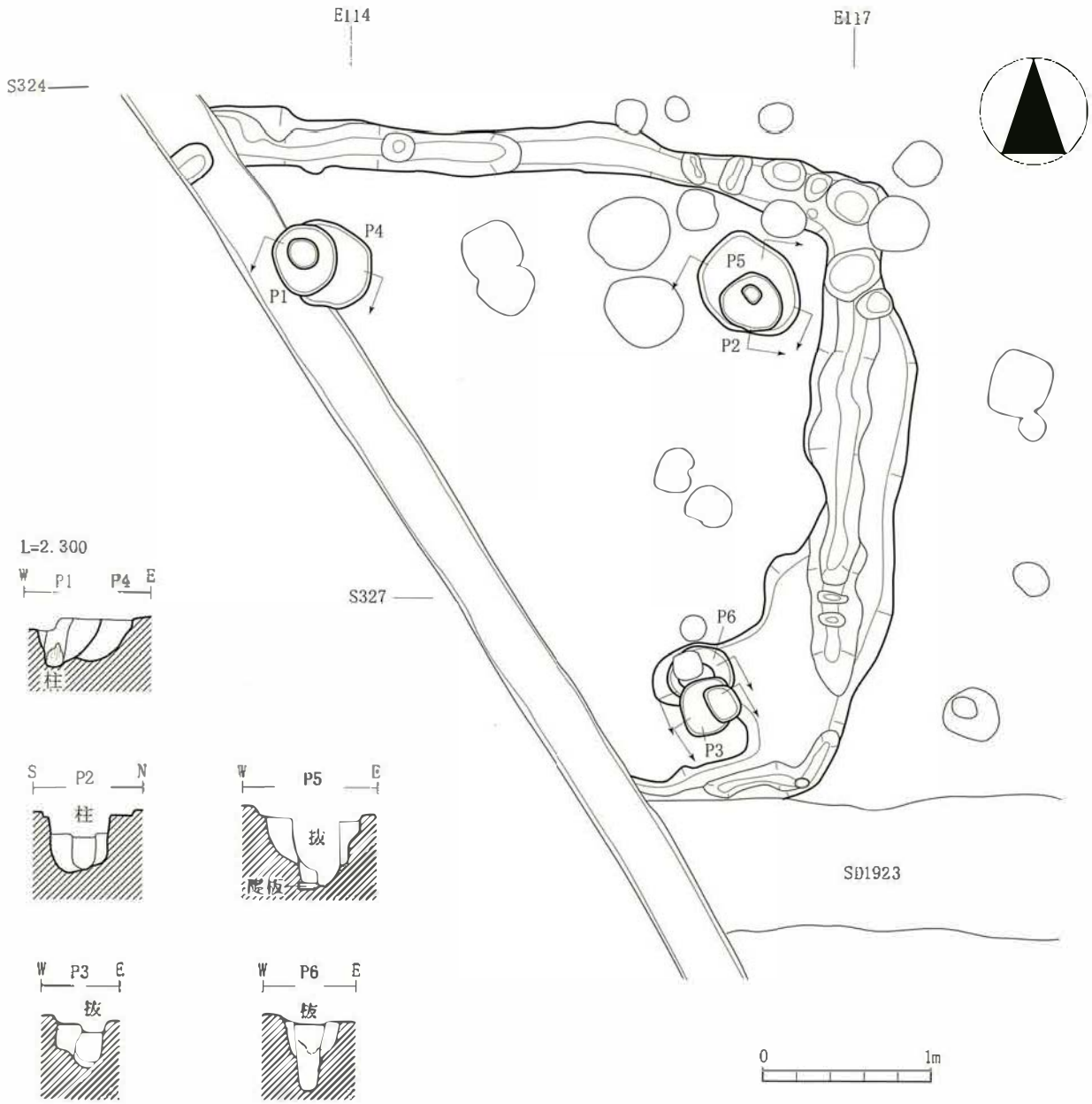


第128図　D30区SB1901・1902平面図

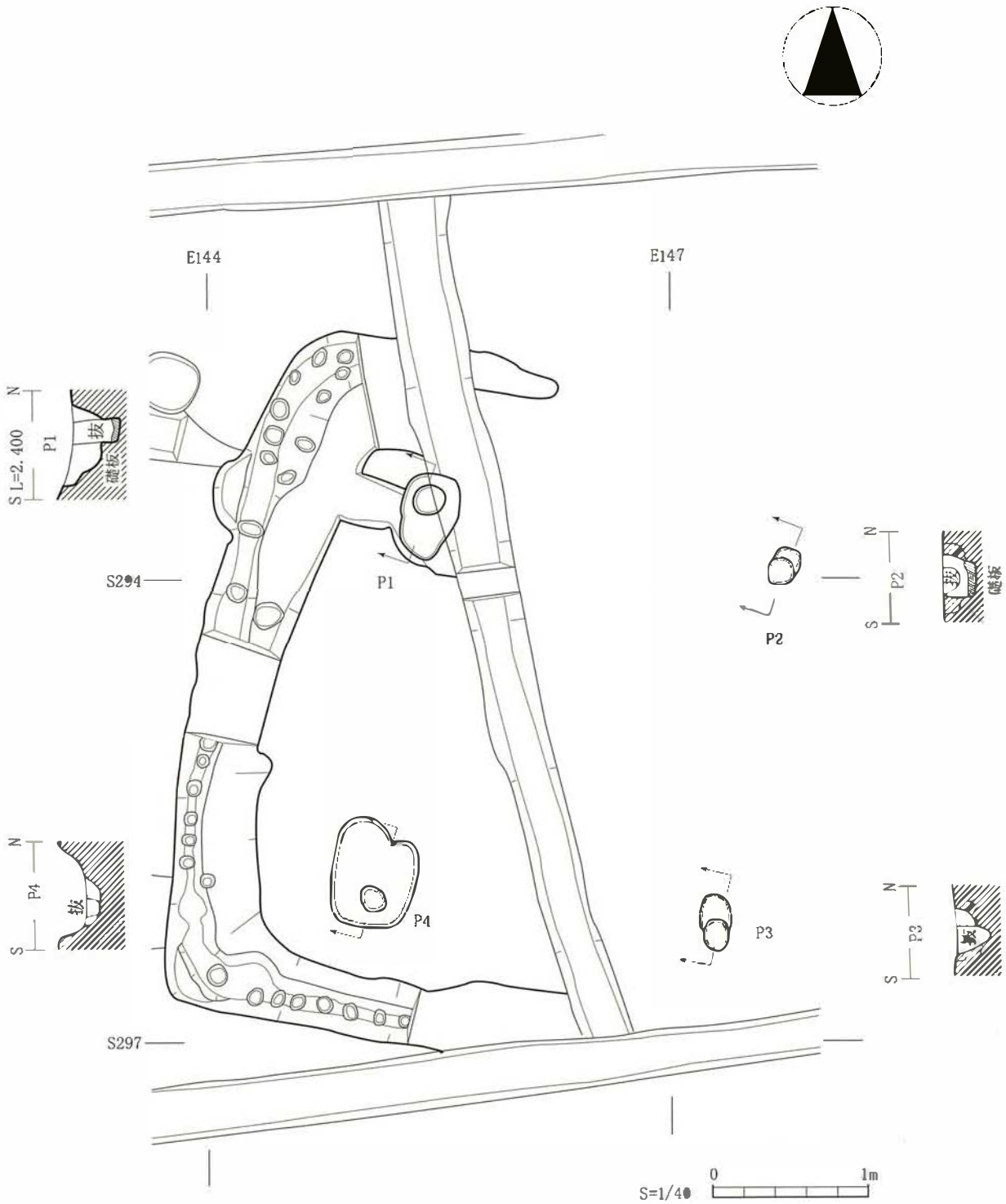
S=1/80　3m



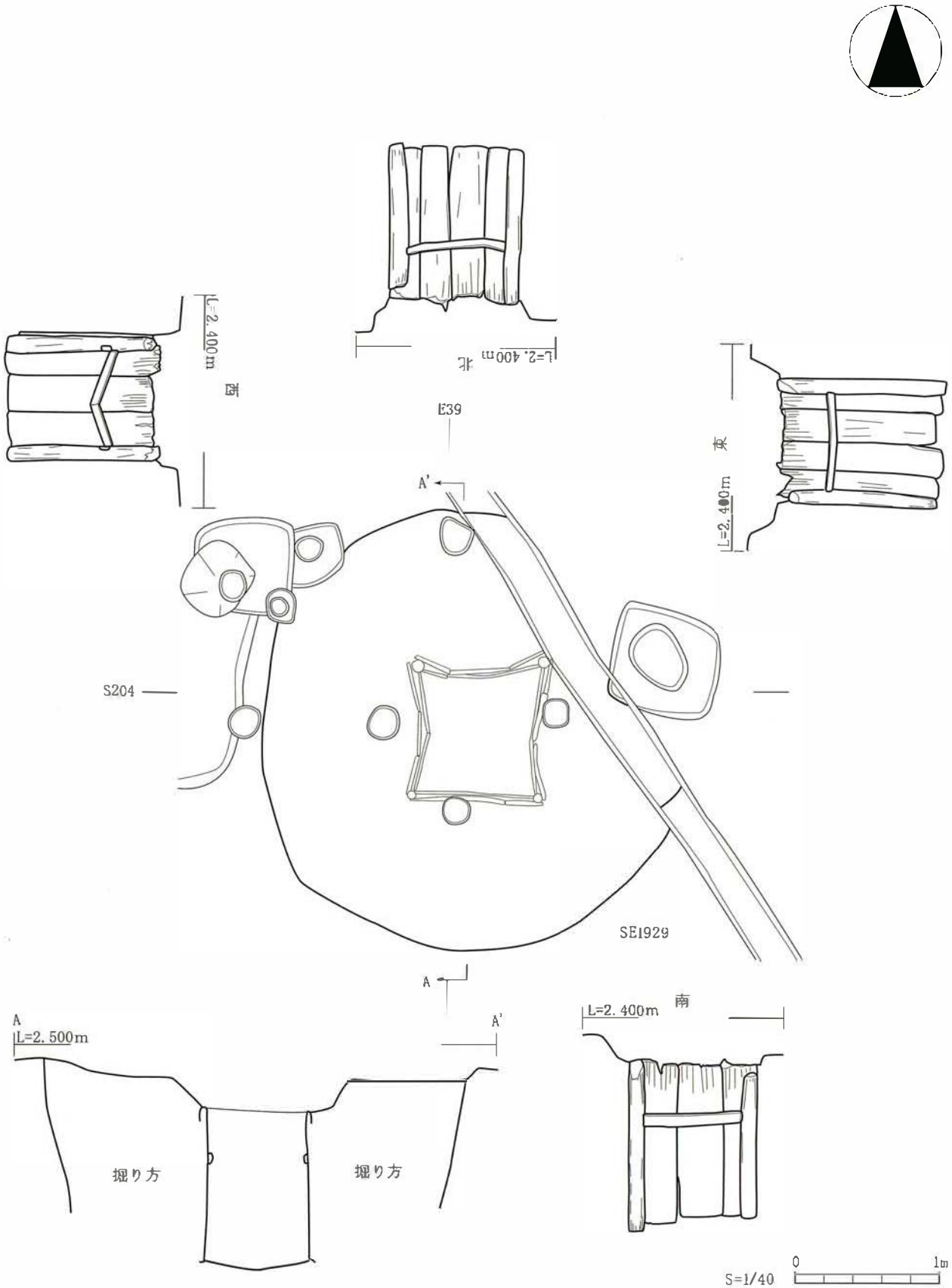
第129図　D104区SB1933平面図・断面図



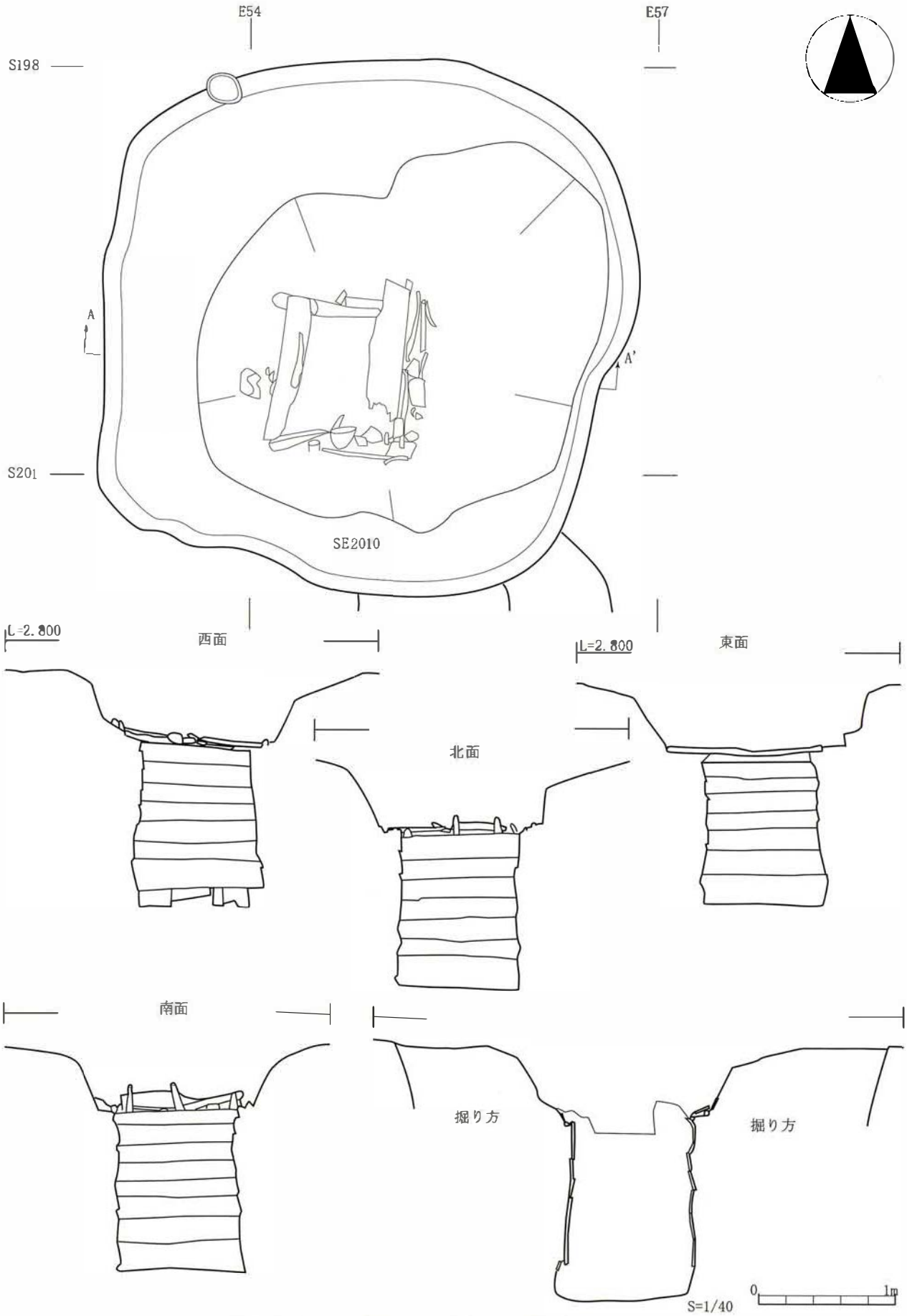
第130図　D30区SI1922平面図・断面図



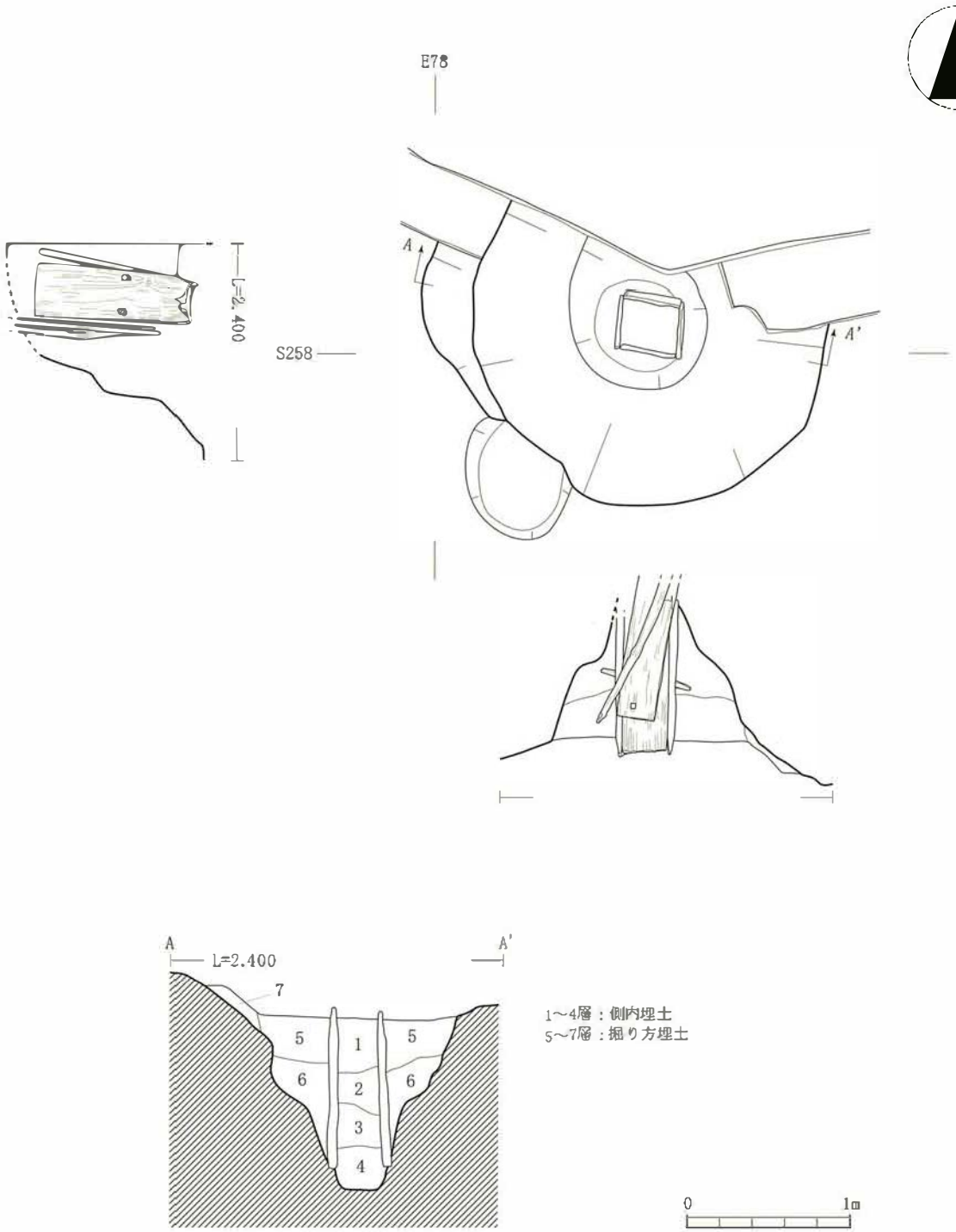
第131図　D92区SI2227平面図・断面図



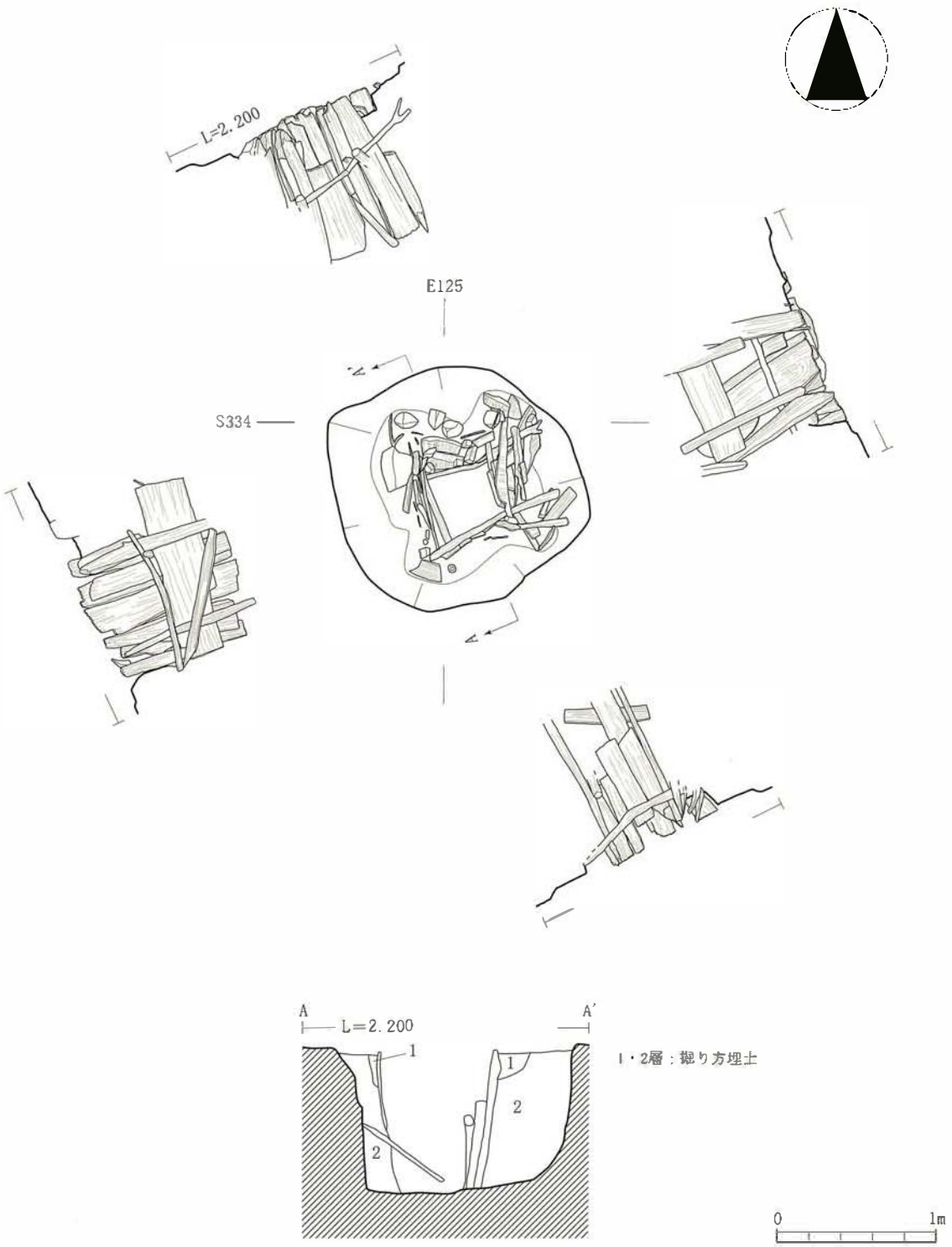
第132図　D30区SE1929平面図・断面図・立面図



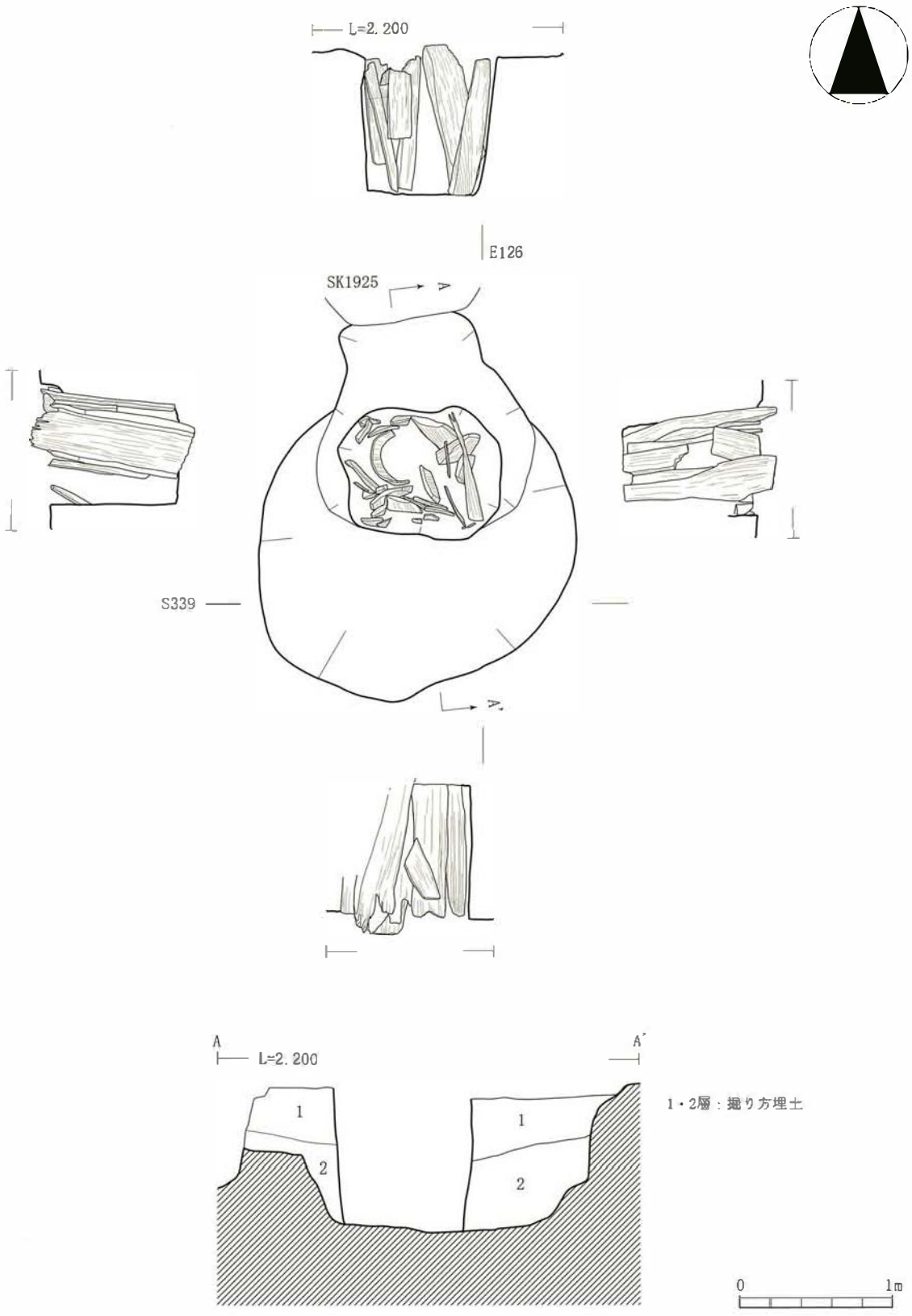
第133図　D111区SE2010平面図・断面図・立面図



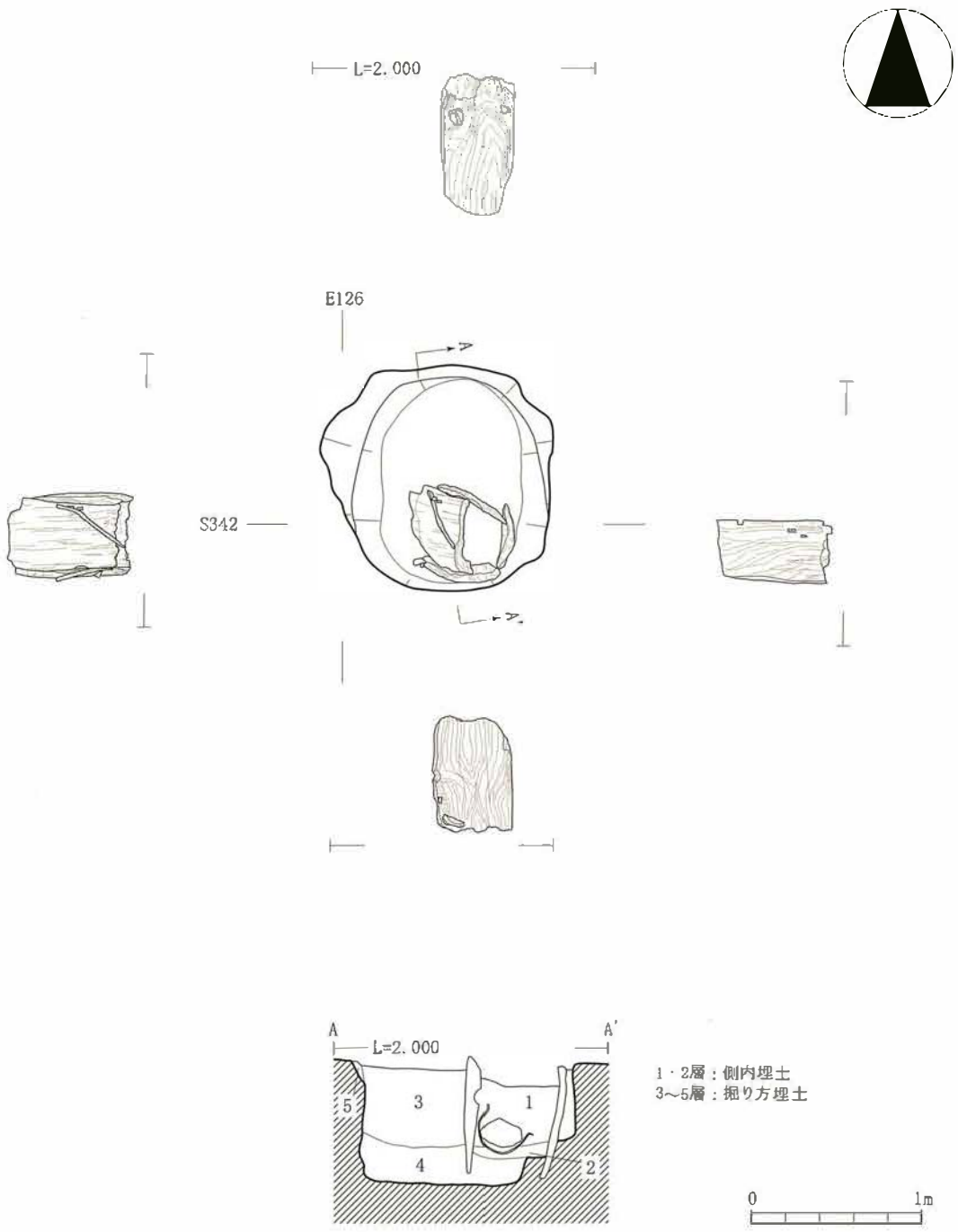
第134図　D30区SE1912平面図・立面図・断面図



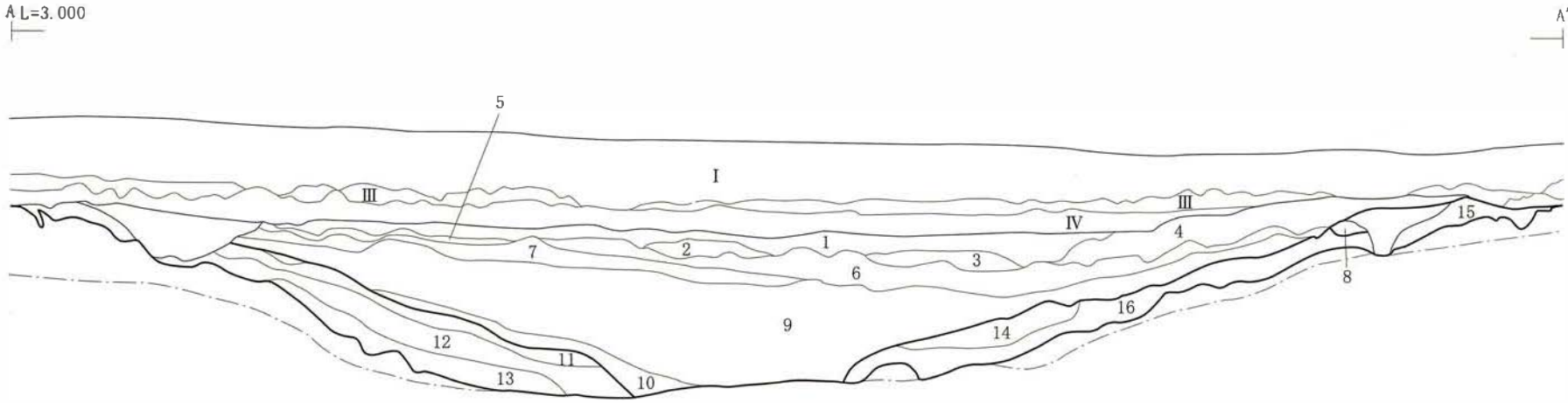
第135図　D30区SE1924平面図・立面図・断面図



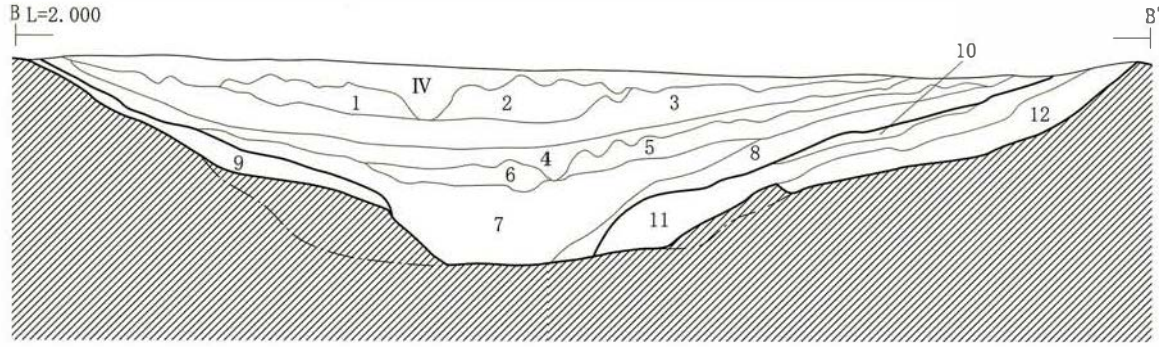
第136図　D30区SE1926平面図・立面図・断面図



第137図　D30区SE1927平面図・立面図・断面図

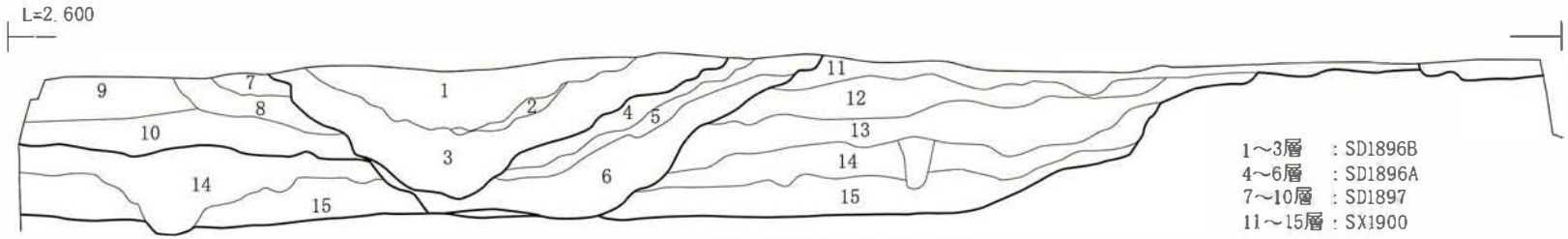


SD2214 北壁断面図　S=1/40　0　1m

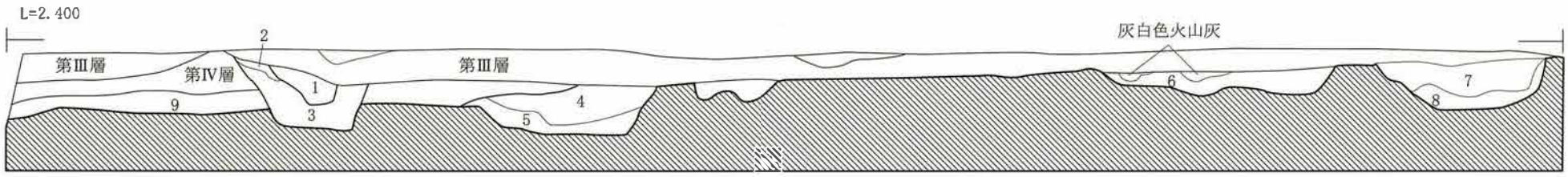


SD2214 中央ベルト北壁断面図　S=1/40　0　1m

第138図　D93区SX2214断面図



30区 SX1900・SD1896・1897

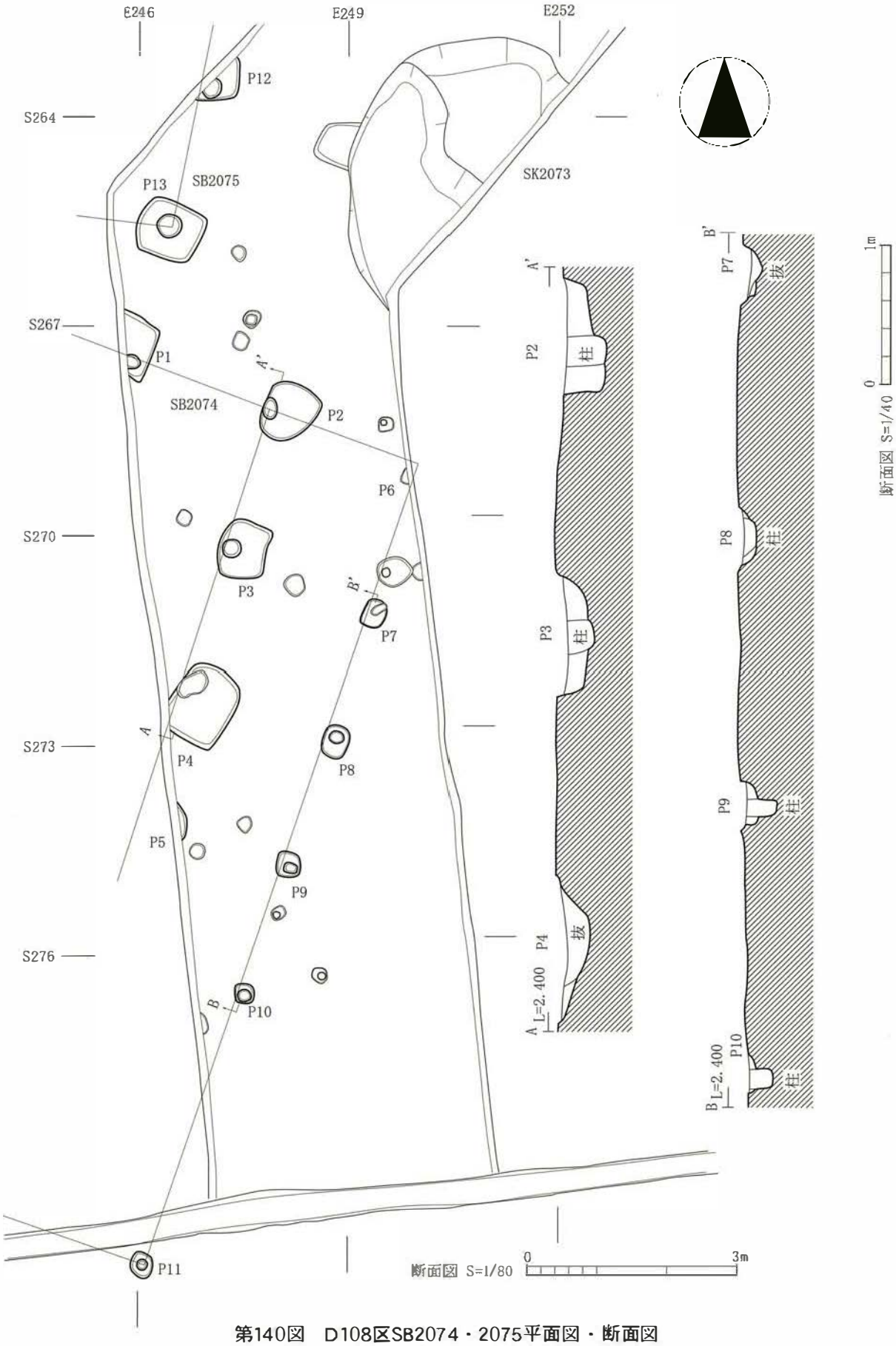


107区 SX1960

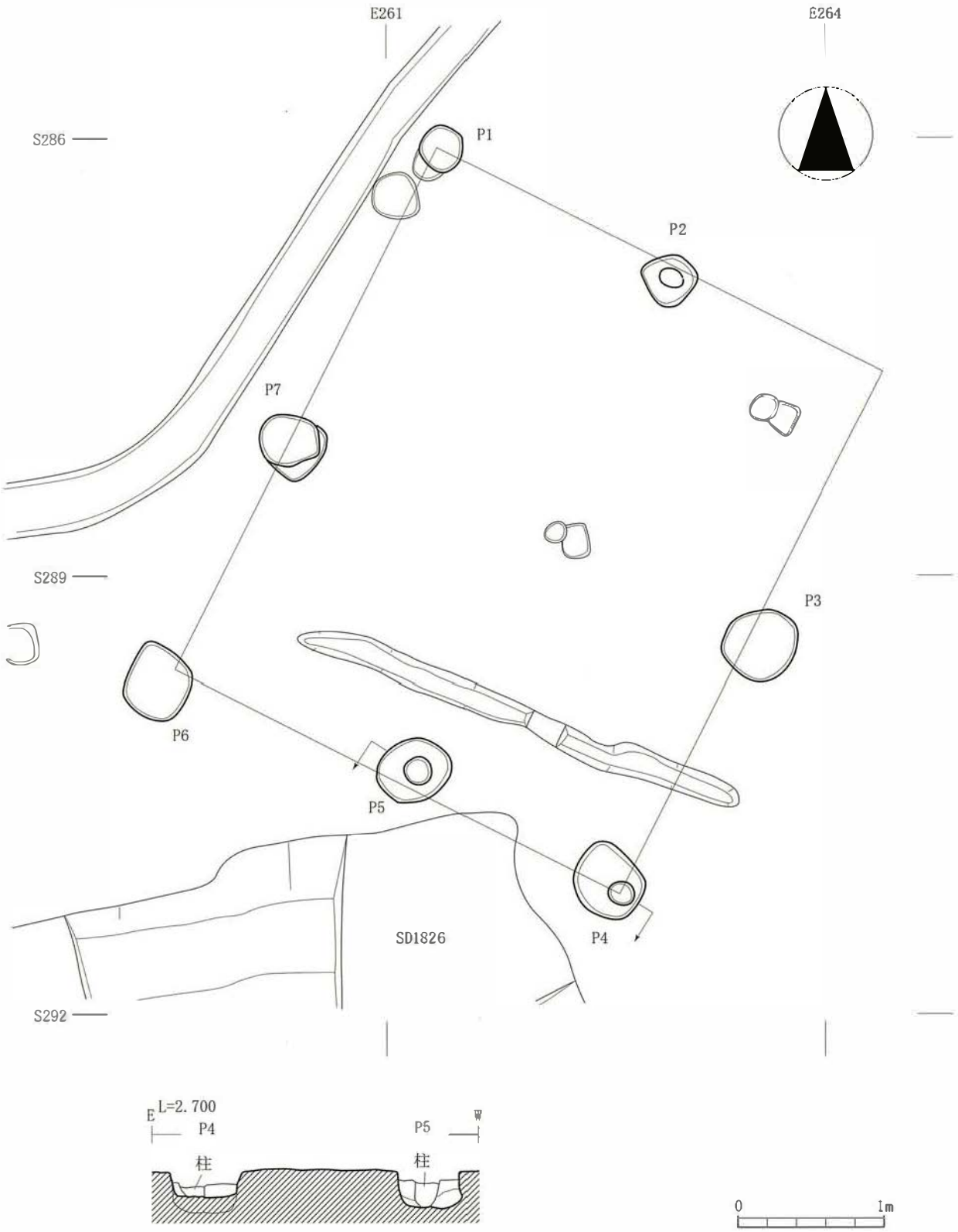
1層 : SD1962c
2・3層 : SD1962b
4・5層 : SD1962a
6層 : SD1961
7・8層 : SD2005
9層 : SX1972

S=1/40 0 1m

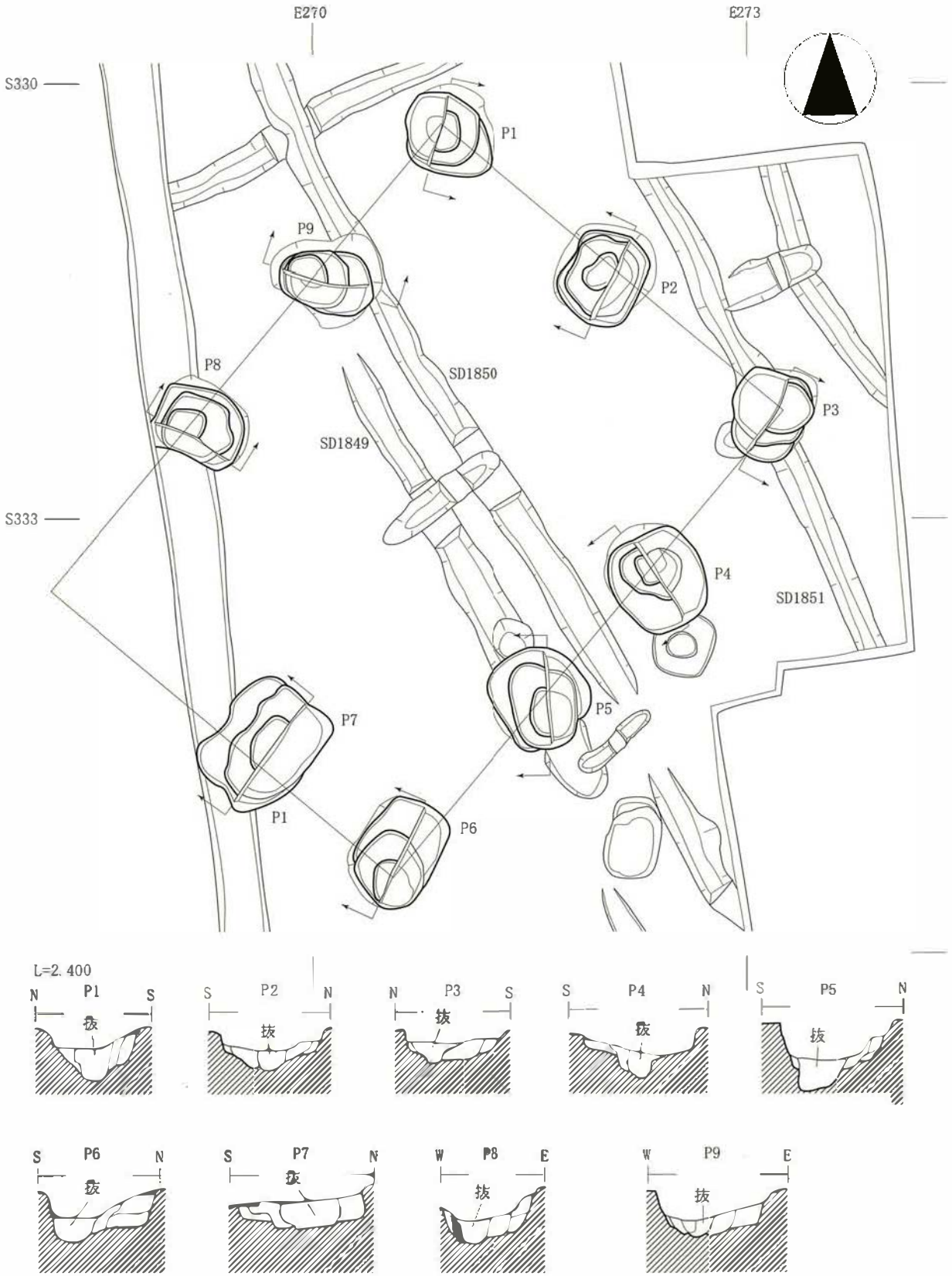
第139図 D30区SX1900ほか断面図



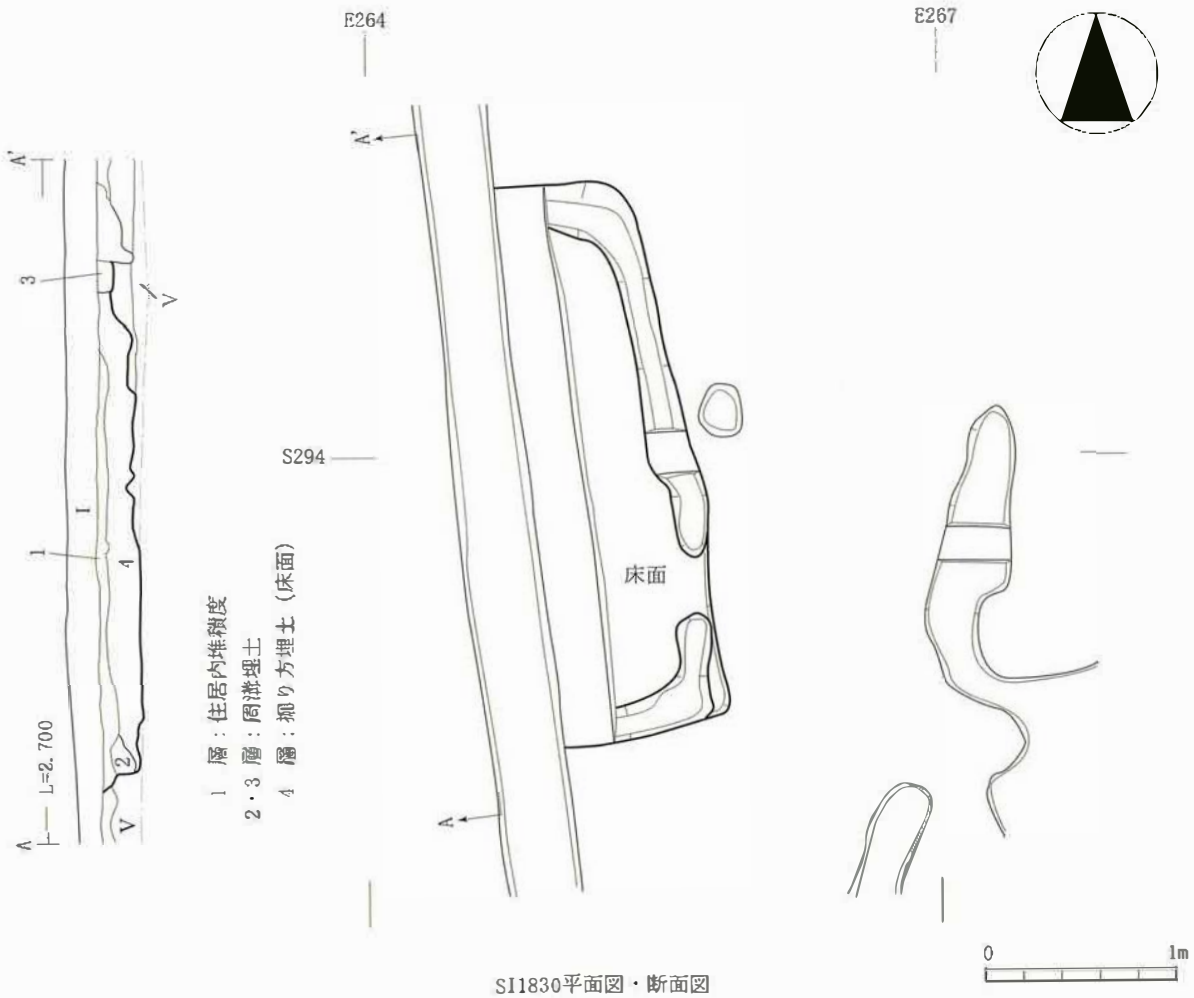
第140図　D108区SB2074・2075平面図・断面図



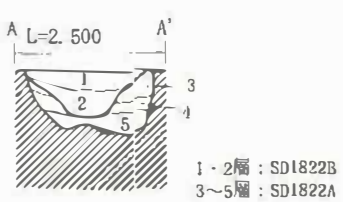
第141図　D94区SB1827平面図・断面図



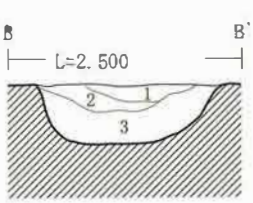
第142図　D94区SB1843平面図・断面図



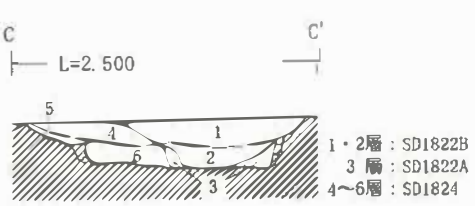
SI1830平面図・断面図



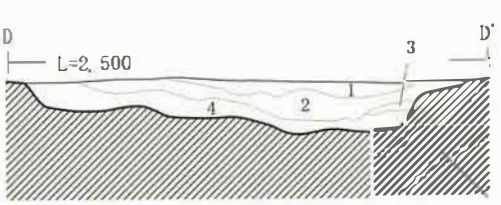
SD1822図断面



SD1824図断面

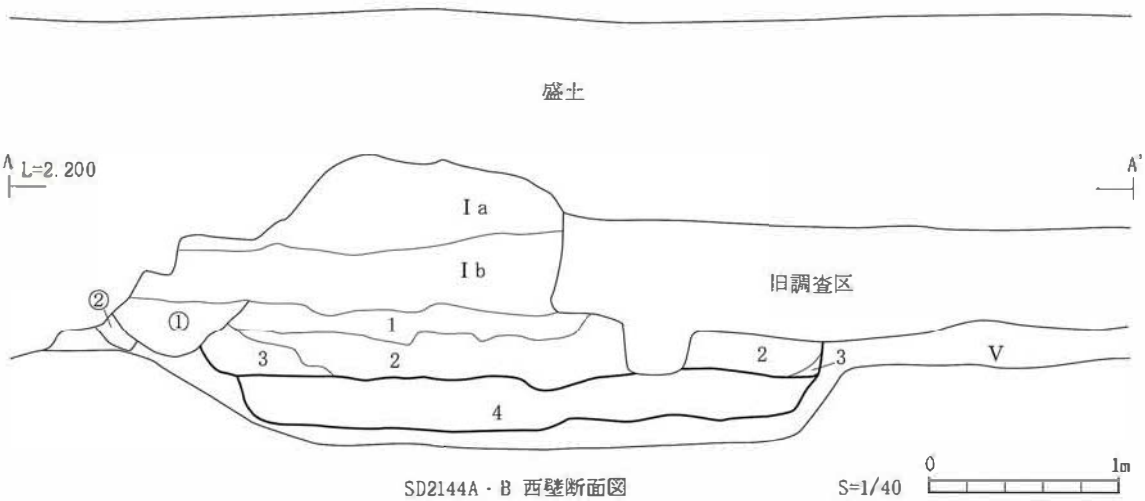


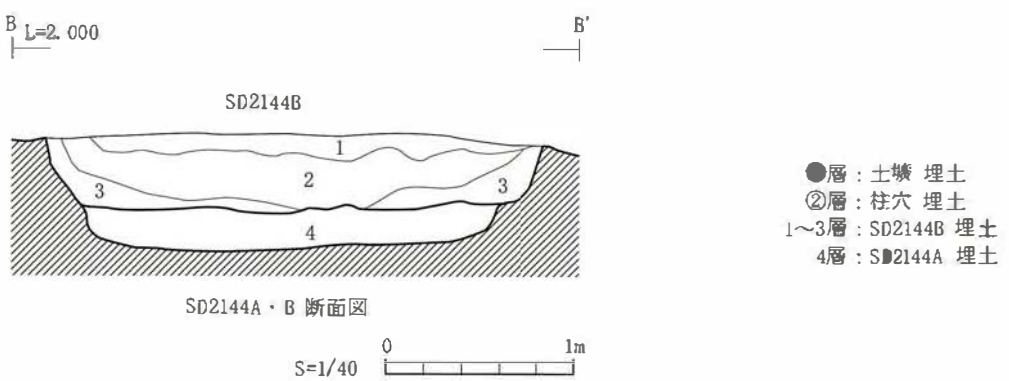
SD1822・1824図断面



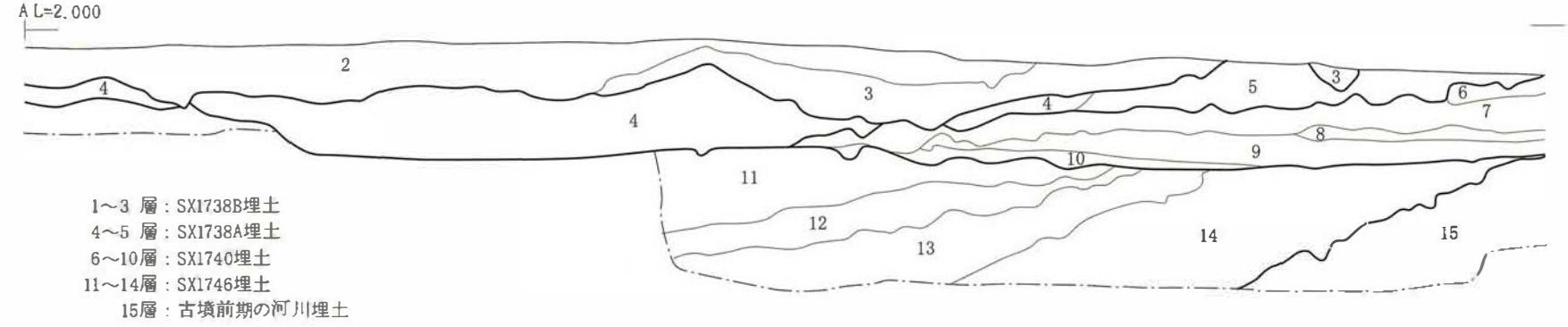
SK1825図断面

第143図　D94区SI1830平面図・断面図、D92(E)区SD1822ほか断面図

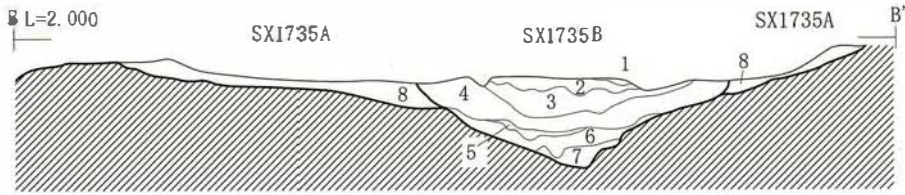




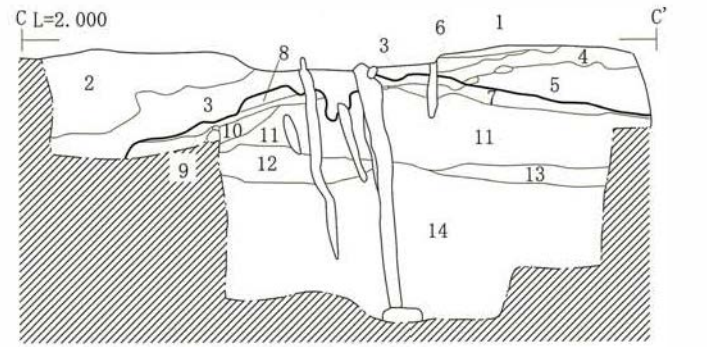
第144図　D113区SD2144A・B断面図



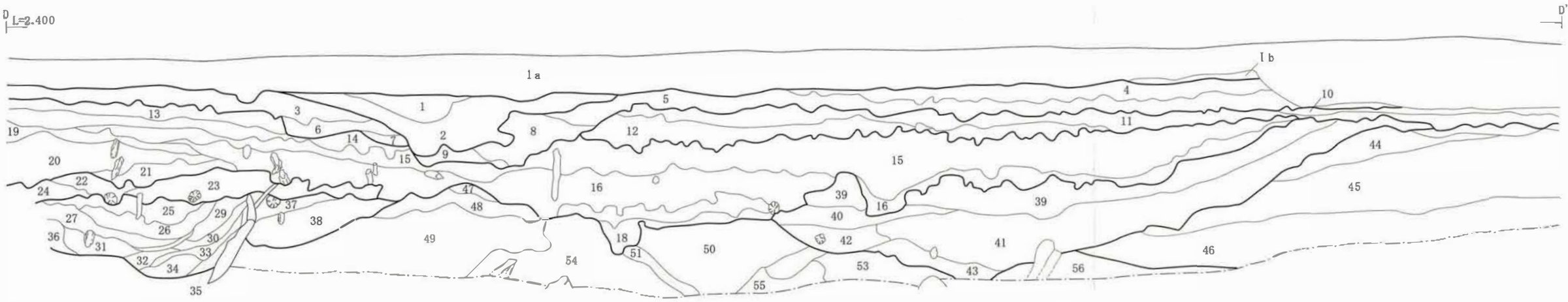
D 91区北半部中央付近断面図



SX1735A・B断面図



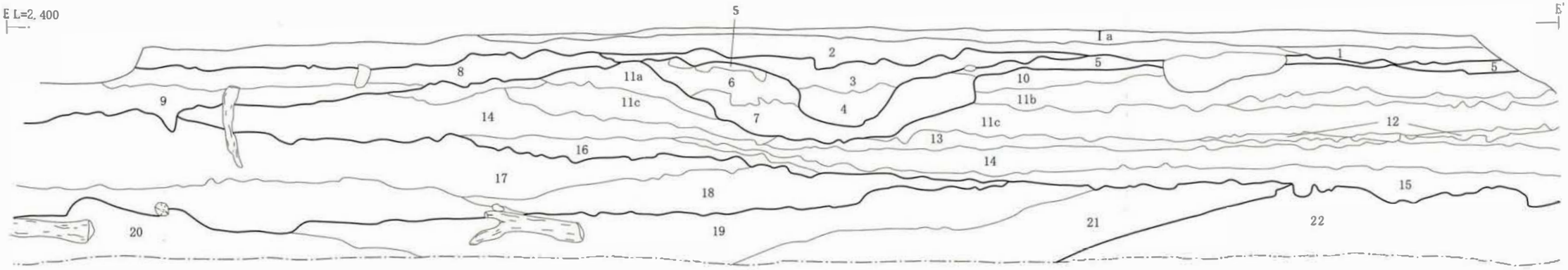
第145図　D91区北半部中央付近、SX1735A・B、SX1737他断面図



D 91区北半部南壁断面図

1～2 層：SX1735B埋土
3～9 層：SX1735A埋土
10～12層：SX1739 埋土
13～21層：SX1740 埋土
22～24層：SX1747 埋土
25～36層：SD1748 埋土
37～38層：SD1748 掘り方埋土
39～43層：SX1749 埋土
44～46層：SD1751 埋土
47～56層：SX1751 以前の河川埋土

S=1/40　0　1m

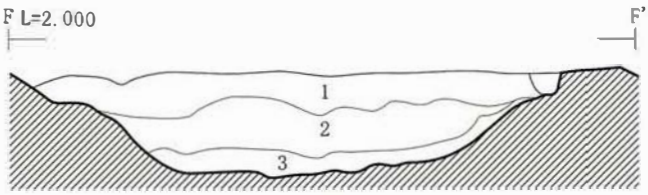


D 91区北半部西壁断面図

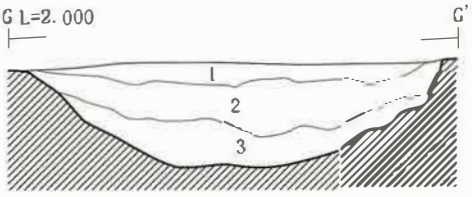
3～4 層：SX1735B埋土
5～7 層：SX1735A埋土
8～9 層：SX1739 埋土
10～16層：SX1740 埋土
17～18層：SX1749 埋土
19～21層：SD1751 埋土
22層：SX1751 以前の河川埋土

S=1/40　0　1m

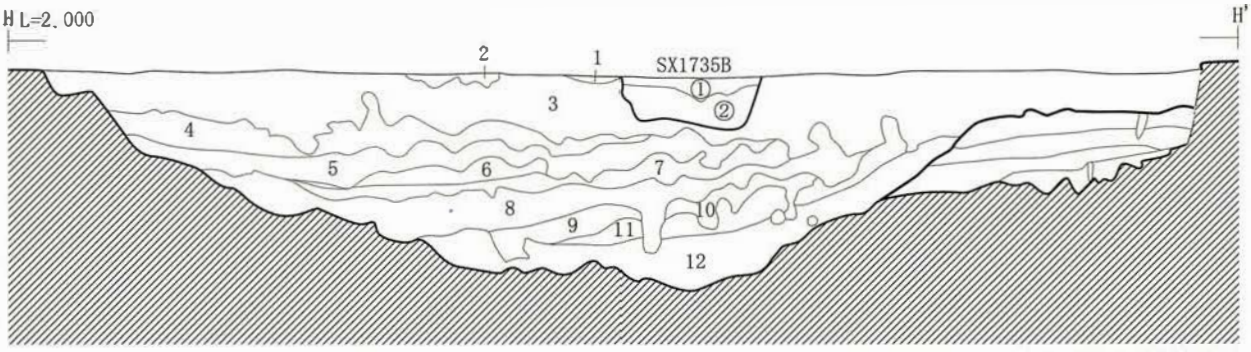
第146図　D91区北半部 西・南壁断面図



SX1741断面図



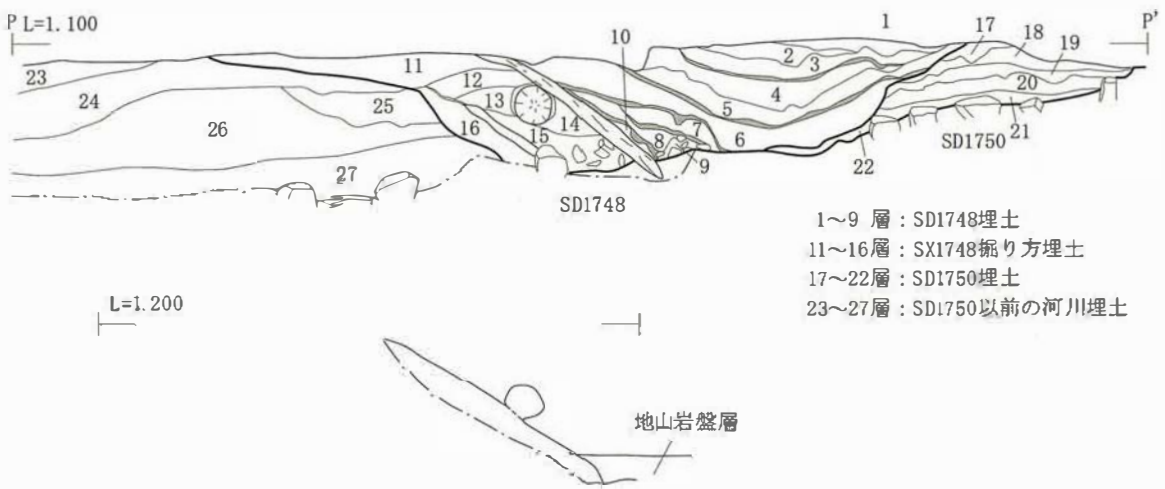
SX1741断面図



SX1739断面図

1～12 層：SX1739埋土

S=1/40 0 1m

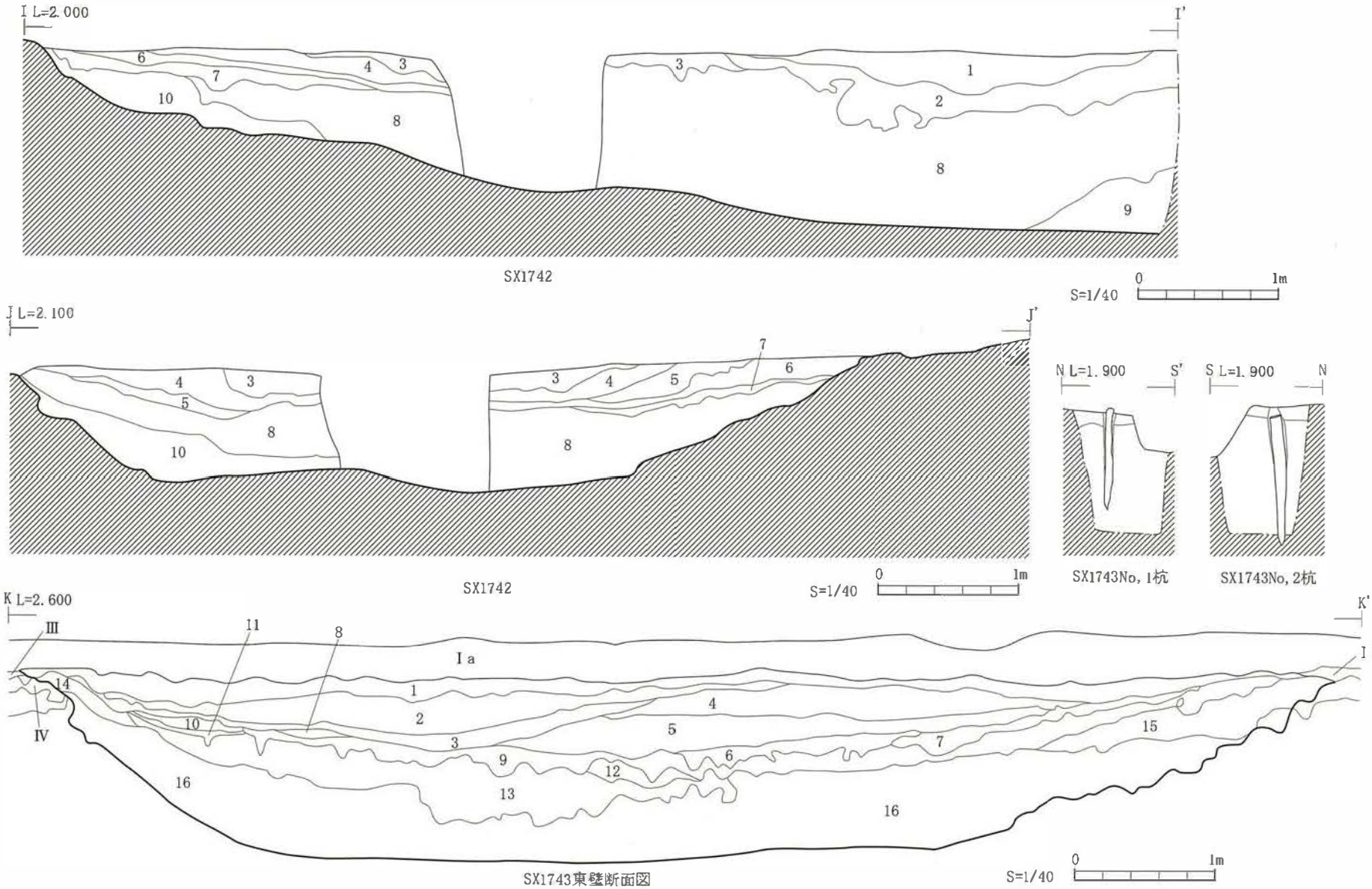


1～9 層：SD1748埋土
11～16層：SX1748掘り方埋土
17～22層：SD1750埋土
23～27層：SD1750以前の河川埋土

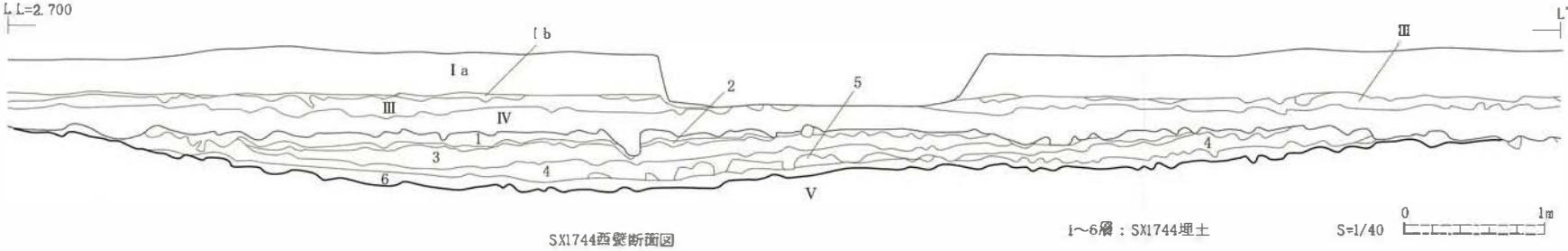
SD1748支杭エレベーション図

S=1/40 0 1m

第147図　D91区SX1739・SX1741断面図



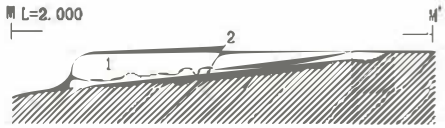
第148図　D91区SX1742・SX1743断面図



SX1744西壁断面図

1～6層：SX1744埋土

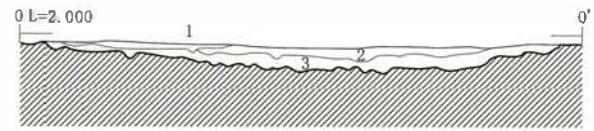
S=1/40



SX1744

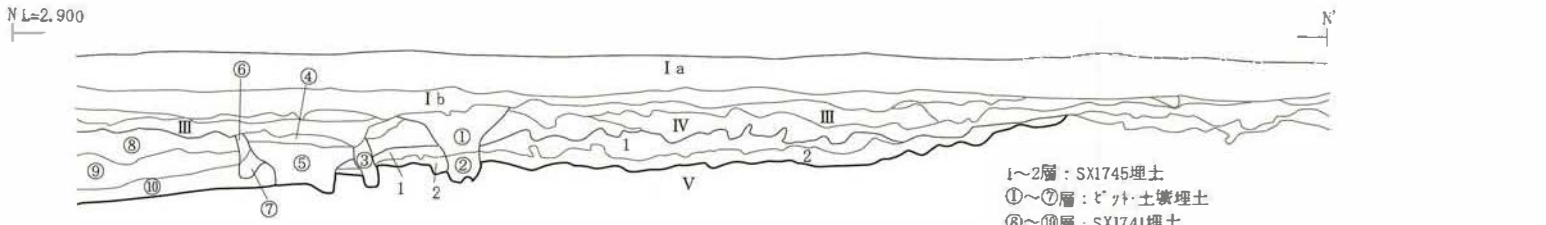
1～2層：SX1744西壁断面図5～6層対応

S=1/40



SX1745

2～3層：SX1745東壁断面図1～2層対応



SX1745東壁断面図

1～2層：SX1745埋土
①～⑦層：ﾋﾟｯﾄ･土壙埋土
⑧～⑩層：SX1741埋土

S=1/40

第149図　D91区SX1744・SX1745断面図

報告書抄録

ふりがな	いちかわばしいせき
書名	市川橋遺跡
副書名	城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅲ
シリーズ名	多賀城市文化財調査報告書
シリーズ番号	75集
編著者名	千葉孝弥、島田 敬、相澤清利、武田健市、鈴木孝行、村松 稔、菊池 豊、相澤正信、文屋 亮、廣瀬真理子
編集機関	多賀城市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒985-0873　宮城県多賀城市中央2丁目27番1号 TEL　022-368-0134
発行年月日	西暦2004年3月26日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号				
市川橋遺跡（いちかわばしいせき）	宮城県多賀城市（みやぎけんたがじょうし）市川、高崎（いちかわたかさき）、浮島（うきしま）	042009	18008	38度17分40秒	140度59分30秒	19981102～1221 19990412～20000208 20000410～20020331 20010403～1221 20020408～0530	土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
市川橋遺跡	古代都市	奈良・平安時代	道路、橋跡、掘立柱建物跡、竪穴住居住居跡、井戸跡、土壙、河川跡	土師器、須恵器、黄釉褐彩、青磁、灰釉陶器、緑釉陶器、人面墨書土器、墨書土器、製塩土器、篦形土器、土錘、木簡、漆紙文書、木製品、金属製品、骨角製品、石製品	南北大路、東西大路を広い範囲にわたって調査し、交差点を検出した。また、南北大路に架かる橋も検出した。 10世紀前葉の四面廂付建物を中心とした区画を発見した。

多賀城市文化財調査報告書第75集（第一分冊）

市川橋遺跡

— 城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅲ —

平成16年3月26日　発行
編集　多賀城市埋蔵文化財調査センター
多賀城市中央二丁目27番1号
電話（022）368－0134
発行　多賀城市教育委員会
多賀城市中央二丁目1番1号
電話（022）368－1141
印刷　株式会社ホクトコーポレーション
仙台市青葉区上愛子字堀切1番13号
電話（022）391－5661

R100 PRINTED WITH SOY INK
古紙配合率100%再生紙を使用しています
印刷には大豆インキを使用しています